

大阪府茨木市学園町所在

溝 咋 遺 跡

(その3・4)

— 茨木・学園町地区埋蔵文化財発掘調査3次・4次報告書 —

2000年3月

(財)大阪府文化財調査研究センター

和書和書

(1. 5. 5)

和書和書



(1. 5. 5)

和書和書



調査地全景



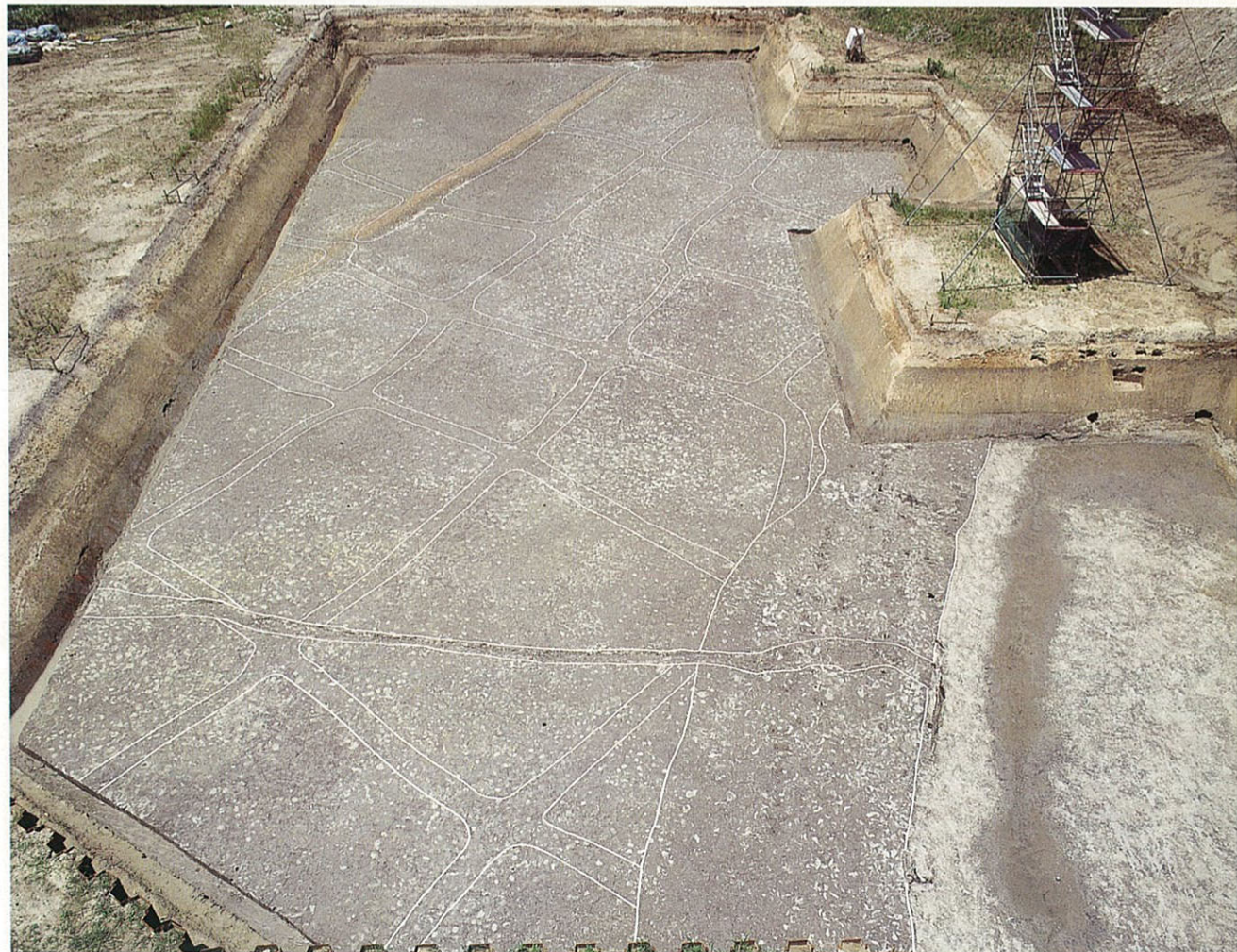
コンピュータグラフィックスによる溝柙遺跡古墳時代集落の復原

考古学は物理的証拠にもとづいて過去を復元する科学であるといわれる。ここでいう復元の意味は、たとえば古代における文化のネットワークや社会構造を推定するという高次で抽象的なレベルから、破片を集めてひとつの土器を復元してみせるという即物的なレベルまでを包含するであろう。いま、即物的な復元にかぎっていても、小はひとつの土器の復元から大は遺跡全体の復元にいたるまでのスケールのちがいがあがる。吉野ヶ里遺跡や三内丸山遺跡などは巨大スケールでの復元の事例といえようが、これがいつも可能とはかぎらない。こうした即物的な復元の代替として、昨今コンピュータグラフィックス（CG）による映像的復元が現実化してきた。技術革新によってコンピュータの機能が劇的に強化されたことがその背景になっているが、じつは即物的復元の代替役を超える新しい機能がみとめられはじめている。不可視情報の可視化（ビジュアライゼーション）である。古代遺跡の復元についても、景観をふくむ包括的な空間復元になると即物的なレベルでは不可能であって、むしろCGによる映像的復元が威力を発揮する。今後、さまざまな場面でこうした考古学的ビジュアライゼーションが応用され、その有効性がみとめられていくであろう。

（大阪電気通信大学総合情報学部 情報工学科教授 小澤一雅）



3 D区検出古墳時代中期～後期集落跡



3 F区検出古墳時代後期水田跡と溝



3 B区検出古墳時代前期竪穴住居跡



3 B区検出弥生時代中期後半の木棺墓



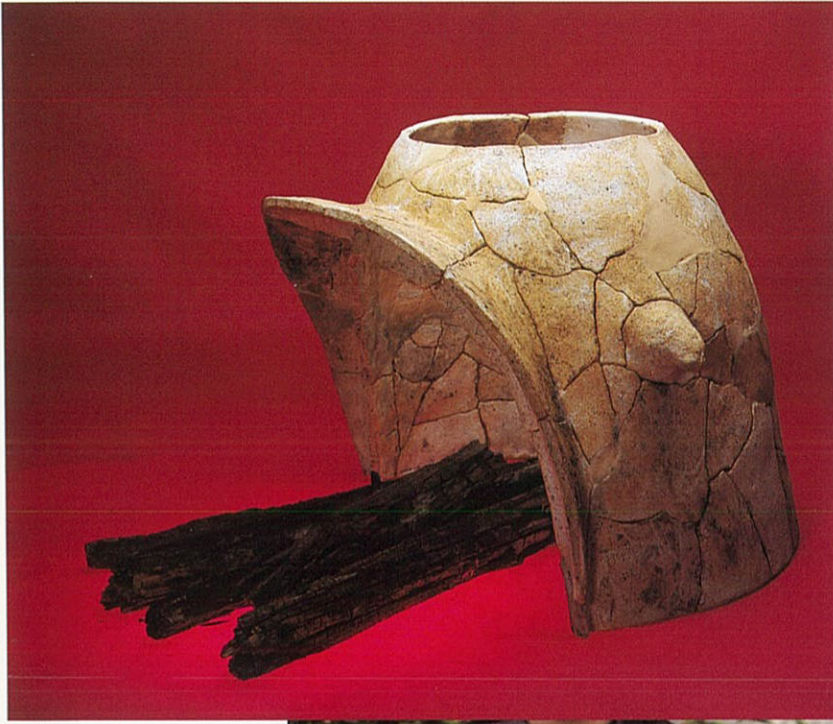
上：3 G区出土銅製耳環 下：3 D区出土韓式系軟質土器



3 D区出土製塩土器



3 B区出土弥生土器 (朱紋の無頸壺は立会調査出土)



3 D区出土竈



3 D区出土
韓式系軟式土器



3 D区出土提瓶

序 文

高校野球で名を馳せた浪商学園の跡地である茨木市学園町に集合住宅の建設が計画されたため、当センターは4次にわたって事前の発掘調査を行ってきました。その後2年にわたって行われた整理作業も終了し、ようやくここにその成果のすべてを報告できる運びとなりました。1・2次調査につきましては既に報告書を刊行しており、本書はその後の3・4次調査の成果報告書であります。

溝咋遺跡は大阪府三島平野のほぼ中央に位置する弥生時代中期から中世・近世に至る複合遺跡です。なかでも古墳時代の集落は規模が大きく、広大な水田跡も検出されております。遺跡の北方には前期古墳である紫金山古墳、將軍山古墳をはじめ、大型の前方後円墳である太田茶臼山古墳、今城塚古墳が点在するなど、それらの古墳との関係からも注目される重要な遺跡であります。古くから要衝の地として栄えた遺跡であり、特に、安威川の左岸に立地していることから、水運を生かした交易が盛んに行われたことが、出土した遺物から判明しております。また、3次調査でははじめて弥生時代中期の墓域が検出され、溝咋の地に今から約2千年も前から人々が生活していたことも明らかとなりました。遺跡から出土した膨大な量の土器は、北摂地域の古墳時代前期から後期までを網羅しており、この地域における土器の変遷を明らかにする重要な資料であります。

なお、都市基盤整備公団の企画により、学園町内に建てられた集会所内に、調査によって検出した柱穴をもとに当時の建物が復原され、また地域の自然・歴史を含めて溝咋遺跡の概要がわかりやすくパネル展示されることとなりました。当報告書以外で溝咋遺跡について知っていただける貴重な場であり、広くご活用いただくことを願っております。あわせて、本来ならば当方の側から行わねばならない文化財普及活動を、開発主体である都市基盤整備公団側から企画していただいたことに深く感謝いたします。

最後に、発掘調査および整理事業の実施にあたり、都市基盤整備公団、地元自治会、大阪府教育委員会はじめ関係各位に多大のご協力をいただきましたことを深く感謝するとともに、今後とも当センターの文化財保護事業につきましてのご理解、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

2000年3月

(財)大阪府文化財調査研究センター

理事長 坪井清足

例 言

1. 本書は、都市基盤整備公団（旧 住宅・都市整備公団）による（仮称）リバーサイド安威集合住宅建築に伴う溝咋遺跡（みぞくいいせき）発掘調査、および整理事業の報告書である。なお、溝咋遺跡は大阪府茨木市学園町、学園南町、五十鈴町にかけて所在し、今回調査を実施したのはこのうちの学園町にあたる。
2. 発掘調査およびそれに伴う整理事業は、大阪府教育委員会および財団法人大阪府文化財調査研究センターが都市基盤整備公団（旧 住宅・都市整備公団）の委託を受けて実施した。
3. 発掘調査、整理事業および本書作成は、大阪府教育委員会の指導のもとに、財団法人大阪府文化財調査研究センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成7年3月1日から平成11年1月25日にわたって（その1）～（その3）を実施し、その後追加調査を（その4）として平成11年6月21日～平成11年7月13日に実施した。発掘調査担当者は、以下の通りである。各年度の調査区等の詳細は第1章の表1を参照されたい。
北部事務所長 玉井 功（平成7～9年度）、藤田憲司（平成10・11年度）
調査第1係長 小野久隆（平成7・8年度）、西口陽一（平成9・10年度）、金光正裕（平成11年度）
技師 合田幸美（平成7～9年度）、伊藤 武（平成7・8・10・11年度）、黒須亜希子（平成9・10年度）
5. 総括的な整理事業は、平成10年4月1日から平成12年3月31日にわたって実施し、報告書の印刷は平成11年度におこなった。整理事業は平成10年度に（その1）と（その2）、平成11年度に（その3）と（その4）について実施した。本書は（その3）と（その4）に関する報告書である。整理事業担当者は、以下の通りである。
北部事務所長 藤田憲司
調査第1係長 西口陽一（平成10年度）、金光正裕（平成11年度）
主査 上野貞子（写真）
技師 合田幸美、伊藤 武、黒須亜希子
6. 各調査区の全景および遺構の写真撮影は調査担当者が行い、遺物の写真撮影は北部調査事務所調査第1係主査上野貞子が行った。なお、巻頭カラー図版の調査地全景写真は阪急航空株式会社の撮影によるものである。
7. 出土した石製品の石材鑑定は京都教育大学井本伸廣先生に、木製品の樹種鑑定は当センター山口誠治による。
8. 巻頭カラー図版のコンピュータグラフィックスによる遺跡復原は、大阪電気通信大学小澤一雅先生と学生の方々によって作成されたものである。
9. 3D区では花粉分析を、3E区ではプラントオパール分析を行ったが、その成果は前冊にまとめて報告している。
10. 発掘調査および遺物整理作業の過程では、大阪府教育委員会文化財保護課、茨木市教育委員会をはじめとする多くの諸氏ならびに諸機関にご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表する次第である（敬称略、五十音順）。

井本伸廣（京都教育大学）、小澤一雅（大阪電気通信大学）、塩山則之（寝屋川市教育委員会）、鋤柄俊夫（同志社大学）

11. 発掘調査および整理作業では、以下の方々に参加、協力していただいた。記して感謝申し上げたい（敬称略、五十音順）。

井手上佳代子・今田明子・鹿島真由美・川崎朝子・川島直之・鷺香代子・佐塚國子・高芝 稔・竹森友子・田中正子・田中由美・谷崎伊津子・津田春子・中川寿美・中田麻矢・波岸初美・二宮栄子・樋口玲子・舩山房子・前田千津子・松岡聖美・八十千里・山田久美・山本香織

12. 本調査に関わる遺物・写真・実測図等は財団法人大阪府文化財調査研究センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。なお調査の概要は、調査跡地である茨木市学園町内の集会所において、建物の復原とともに、剥ぎ取り断面、パネル展示により紹介されている。

凡 例

1. 遺構図および断面図に示した標高は、東京湾平均海水位（T.P.）からのプラス値である。
2. 遺跡発掘調査に伴う地区割りは国土座標の第 VI 座標系に基づく表記方法をとっている。なお、本書で用いた北はいずれも座標北を示す。座標の記載はすべて m 単位である。
3. 土色は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。
4. 挿図、表、写真図版番号は全体を通しての通し番号を振った。
5. 遺構名称および遺構番号は、調査時のものを踏襲しているため、本報告書においては通し番号となっていない。なお遺構番号、遺物登録番号、遺物実測番号等はそれぞれの調査区ごとに 1 から振った。
6. 遺物実測図の縮尺は、土器 1/4、木製品 1/4、石製品 1/2、土製品 1/2 金製品 1/2 銭貨原寸を基本としたが、適宜遺物に即して異なる縮尺としており、必ずしもこの限りではない。各々の縮尺率については、スケールに縮尺率を明示しているので、そちらを参照されたい。また土器の実測図のうち、弥生土器、土師器は基本的に断面を白抜きとした。ただし製塩土器については器壁が極めて薄いため、白抜きすることが困難であり黒塗りとした。弥生土器、土師器以外はすべて黒塗りとした。土器表面に漆黒色の光沢がある場合にはスクリーントーンで表現した。
7. 本文中に示した遺物番号（□-△）は、挿図番号（第□図-△）に対応する。（例：（66-27）=（第66図-27））なお、一覧表の挿図番号も同様に「第」と「図」の文字を省略した。図版番号も「図版」の文字を省略し「図版72-6」を「72-6」とのみ記した。
8. 遺物個々についての説明は、本文中では特筆すべきものなど最小限にとどめ、詳細は一覧表に記した。そちらを参照されたい。
9. 土器一覧表および写真図版内には本来土製品である竈も土器として記載している。注意されたい。
10. 遺物写真のうち、俯瞰撮影を行ったものなど縮尺率が判明するもののみ縮尺率を記した。
11. 引用文献、参考文献は各項の末尾に記した。
12. 本書の執筆分担は目次、およびそれぞれの本文末尾に記した。一覧表も基本的に各本文執筆担当者が作成したため、表現方法等に一部違いがみられる。
13. 本書の編集は、合田・黒須、ならびに非常勤職員各位の協力のもと伊藤がおこなった。

溝咋遺跡（その3・4）

序文
例言
凡例

本文目次

第1章 調査の経緯・経過と方法	
第1節 調査に至る経緯	（合田・伊藤） 1
第2節 これまでの調査の概要	（合田） 2
第3節 調査の方法	（伊藤） 6
第2章 遺跡の位置と環境	（黒須）
第1節 地理的環境	8
第2節 考古学的環境	8
第3節 文献史的環境	10
第3章 （その3）の調査成果	
第1節 基本層序	（伊藤） 13
第2節 遺構と遺物	
第1項 3A区	（伊藤） 19
第2項 3B区	（伊藤） 22
第3項 3C区	（伊藤） 43
第4項 3D区	（合田） 49
第5項 3E区	（黒須） 121
第6項 3F区	（伊藤） 127
第7項 3G区	（伊藤） 139
第4章 （その4）の調査成果	（伊藤）
第1節 調査に至る経緯	146
第2節 調査成果	
第1項 基本層序	146
第2項 遺構と遺物	146
第3節 小結	151
第5章 学園町北端部における污水管理設工事に伴う立会調査	（伊藤） 158
第6章 まとめ	（伊藤） 159

插图目次

- | | | | |
|------|--------------------|------|--------------|
| 第1図 | 調査区地区割り図 | 第36図 | 10面検出水田跡 |
| 第2図 | 溝咋遺跡周辺遺跡分布図 | 第37図 | 3 C区10層出土木製品 |
| 第3図 | 古事記・日本書紀系図 | 第38図 | 3 C区出土遺物 |
| 第4図 | 基本層序柱状図 | 第39図 | 1面検出遺構 |
| 第5図 | 3 B区土層断面図 | 第40図 | 井戸1平・断面図 |
| 第6図 | 1面検出遺構 | 第41図 | 2面検出遺構 |
| 第7図 | 8面検出水田跡 | 第42図 | 3面検出遺構 |
| 第8図 | 3 A区出土土器 | 第43図 | 3面溝38内鋤先出土状況 |
| 第9図 | 1面(中央部)検出遺構 | 第44図 | 4-1面検出遺構 |
| 第10図 | 土坑1平・断面図 | 第45図 | 建物1平・断面図 |
| 第11図 | 2面検出遺構 | 第46図 | 建物2平・断面図 |
| 第12図 | 4面検出遺構 | 第47図 | 建物3平・断面図 |
| 第13図 | 6面検出遺構 | 第48図 | 建物4平・断面図 |
| 第14図 | 溝1堰平・立面図 | 第49図 | 建物5平・断面図 |
| 第15図 | 7面検出遺構 | 第50図 | 建物6平・断面図 |
| 第16図 | 竪穴1平面図 | 第51図 | 建物7平・断面図 |
| 第17図 | 竪穴2・3及び落ち込み1・2平面図 | 第52図 | 建物8平・断面図 |
| 第18図 | 穴11・32平・立面図 | 第53図 | 建物9平・断面図 |
| 第19図 | 8面検出遺構 | 第54図 | 建物11平・断面図 |
| 第20図 | 木棺墓平・断面図 | 第55図 | 建物12平・断面図 |
| 第21図 | 土坑2平面図 | 第56図 | 建物13平・断面図 |
| 第22図 | 8面検出溝断面図 | 第57図 | 建物14平・断面図 |
| 第23図 | 3 B区出土土製品・石製品 | 第58図 | 建物15平・断面図 |
| 第24図 | 3 B区出土遺物 | 第59図 | 柵1・2平・断面図 |
| 第25図 | 3 B区7層(1)・7面出土土器 | 第60図 | 炭集中部遺物出土状況 |
| 第26図 | 3 B区7層(1・2)・7面出土土器 | 第61図 | 穴362平・断面図 |
| 第27図 | 3 B区8層出土弥生土器 | 第62図 | 穴410平面図 |
| 第28図 | 3 B区8層出土弥生土器 | 第63図 | 4-1面検出穴平・断面図 |
| 第29図 | 3 B区出土土器 | 第64図 | 4-1面検出穴平・断面図 |
| 第30図 | 3 B区出土土器 | 第65図 | 4-1面検出穴平・断面図 |
| 第31図 | 溝1断面図 | 第66図 | 4-1面検出穴平・断面図 |
| 第32図 | 3面検出遺構 | 第67図 | 4-1面検出穴平・断面図 |
| 第33図 | 4面検出遺構 | 第68図 | 4-2面検出遺構 |
| 第34図 | 6・7面検出水田跡 | 第69図 | 竪穴1~3平面図 |
| 第35図 | 8面検出水田跡 | 第70図 | 竪穴4・5平面図 |

第71図	竪穴1竈平・断面図	第109図	3D区出土製塩土器
第72図	竪穴6～10平面図	第110図	3D区出土土製品
第73図	5面検出遺構	第111図	3D区出土滑石製品及び同未製品
第74図	土坑51木製品出土状況	第112図	3D区出土石製品
第75図	3D区出土土器	第113図	3D区出土石製品・鉄製品・銭
第76図	3D区3層・3面出土遺物	第114図	3D区出土木製品
第77図	3D区出土遺物	第115図	1面検出遺構
第78図	3D区出土遺物	第116図	2面検出遺構
第79図	3D区出土遺物	第117図	6面検出水田跡
第80図	3D区5層出土土器	第118図	3E区出土土器
第81図	3D区5層出土遺物	第119図	3E区6層出土土器
第82図	3D区建物跡出土土器	第120図	3E区6面出土木製品
第83図	3D区竪穴住居跡・柵出土土器	第121図	3E区6層・6面出土木製品
第84図	3D区穴出土土器	第122図	1面検出遺構
第85図	3D区穴出土土器	第123図	3面検出遺構
第86図	3D区土坑出土遺物	第124図	4面検出遺構
第87図	3D区土坑出土土器	第125図	6・7面検出水田跡
第88図	3D区溝出土遺物	第126図	溝10南肩部検出護岸
第89図	3D区炭集中部出土土器	第127図	8面検出水田跡
第90図	3D区炭集中部出土遺物	第128図	3F区8層出土木製品
第91図	3D区河川2上層出土土器	第129図	3F区出土遺物
第92図	3D区河川2上層・中層出土遺物	第130図	3F区出土遺物
第93図	3D区河川2中層出土土器	第131図	3F区溝10出土遺物
第94図	3D区河川2中層出土土器	第132図	3F区溝10出土土器
第95図	3D区河川2中層出土土器	第133図	3F区溝10出土土器
第96図	3D区河川2中層出土土器	第134図	1・2面検出遺構
第97図	3D区河川2中層出土土器	第135図	3面検出遺構
第98図	3D区河川2中層出土土器	第136図	4面検出遺構
第99図	3D区河川2中層出土遺物	第137図	5面検出水田跡
第100図	3D区河川2下層出土土器	第138図	6・7面検出水田跡
第101図	3D区河川2下層出土土器	第139図	3G区出土遺物
第102図	3D区河川2下層出土土器	第140図	3G区出土石製品・銅製品
第103図	3D区河川2下層出土土器	第141図	3G区7層出土木製品
第104図	3D区河川2下層出土土器	第142図	基本層序柱状図
第105図	3D区河川2下層出土土器	第143図	各面検出遺構
第106図	3D区河川2下層出土土器	第144図	建物跡模式図及び柱穴断面図
第107図	3D区河川2下層出土土器	第145図	溝13断面図
第108図	3D区出土韓式柔軟質土器	第146図	溝15断面図

第147図 4次調査区出土石製品
 第148図 4次調査区周辺遺構変遷図
 第149図 4次調査区出土土器
 第150図 4次調査区出土土器

第151図 4次調査区落ち込み出土土器
 第152図 立会調査出土土器
 第153図 古墳時代遺構変遷図
 第154図 水田区画方法復原図

表 目 次

第1表 (その1)～(その4) 調査の詳細
 第2表 建物一覧表
 第3表 竪穴一覧表
 第4表 土器一覧表
 第5表 製塩土器一覧表

第6表 木製品一覧表
 第7表 石・石製品一覧表
 第8表 土製品・瓦一覧表
 第9表 金属製品・銭一覧表

写真図版目次

(図版1～28 遺構)

図版1 3A区遺構
 図版2～5 3B区遺構
 図版6・7 3C区遺構
 図版8～19 3D区遺構
 図版20・21 3E区遺構
 図版22～24 3F区遺構
 図版25・26 3G区遺構
 図版27・28 4次調査区遺構

(図版29～145 遺物)

図版29・30 3A区土器
 図版31～37 3B区土器
 図版38 3B区土器・鉄製品・土製品・銭
 図版39～46 3B区土器
 図版47 3B区土器・石製品
 図版48 3C区土器
 図版49 3C区土器・瓦
 図版50 3C区土器
 図版51 3C区土器・鉄製品
 図版52～62 3D区土器

図版63 3D区土器・土製品
 図版64～83 3D区土器
 図版84 3D区土器・土製品
 図版85～111 3D区土器
 図版112・113 3D区製塩土器
 図版114・115 3D区土製品
 図版116～118 3D区石製品
 図版119 3D区搬入礫・鉄製品・銭
 図版120～123 3E区土器
 図版124 3F区土器・瓦
 図版125～128 3F区土器
 図版129 3F区土器・石製品・製塩土器
 図版130～132 3F区土器
 図版133 3F区土器・土製品・鉄製品・銭
 図版134 3G区土器・瓦
 図版135・136 3G区土器
 図版137 3G区土器・石製品・銅製品
 図版138・139 木製品
 図版140～143 4次調査区土器
 図版144 4次調査区土器・石製品
 図版145 立会調査出土土器

第1章 調査の経緯・経過と方法

第1節 調査に至る経緯

溝昨遺跡は、大阪府茨木市学園町、学園南町、五十鈴町にわたって所在し、埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。今回の調査対象地は、このうちの遺跡北半部に位置する学園町にあたる。学園町はもとも大阪体育大学（浪商学園）が建っていた範囲であり、町名の由来もそこから来ている。学校が移転し、跡地となっていた当該地において、茨木リバーサイド倶楽部による開発が計画され、平成5年5月に茨木市教育委員会によって試掘調査が実施された。約2m×2mの試掘坑を学園町内に40箇所設定し、土層観察を行った結果、良好な遺物包含層と遺構が確認され、またコンテナ4箱分の遺物が出土した。このため開発に際しては事前の協議が必要と判断された。

その後、住宅・都市整備公団（現 都市基盤整備公団）により当該地における集合住宅建設が計画され、大阪府教育委員会および茨木市教育委員会との協議の結果、埋蔵文化財調査の実施が計画された。

埋蔵文化財調査は、大阪府教育委員会の指導により、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施することとなり、住宅・都市整備公団（現 都市基盤整備公団）と同協会との間で委託契約が締結された。現地における発掘調査は平成7年3月から実施し、組織統合のため平成7年4月からは財団法人大阪府文化財調査研究センターが引き続き実施した。

調査対象地は、道路、集合住宅など施設の建設が予定される部分であり、発掘調査はこれら対象地を分割して実施した。このうち、大阪体育大学（浪商学園）建物により遺構が残存しない可能性がある部分は、大阪府教育委員会立ち会いのもと試掘調査によって確認し、対象地より除外した。（その1）は敷地中央を縦貫する道路およびこれに付随する施設用地等の部分であり、（その2）、（その3）は集合住宅用地である。その後集合住宅建設の進捗にともない、新たに防火水槽用地の発掘調査が必要となり、（その4）として急遽調査を実施した。それぞれの詳細は下表のとおりである。

遺物整理、報告書作成は、平成10年4月から平成12年3月まで実施し、その成果は（その1）と（その2）、（その3）と（その4）の2分冊とした。本書は（その3）と（その4）の成果報告書である。

（合田・伊藤）

調査回数	調査区	調査面積	調査期間	出土遺物量
溝昨遺跡（その1）	A区・B区・C区	4330㎡	平成7年3月1日～平成8年2月29日	約200コンテナ
（その2）	2A-1区・2A-2区・2B区・2C区	7029㎡	平成8年4月1日～平成9年7月25日	約300コンテナ
（その3）	3A区	231㎡	平成9年9月1日～平成11年1月25日	約200コンテナ
	3B区	1178㎡		
	3C区	630㎡		
	3D区	1112㎡		
	3E区	1157㎡		
	3F区	1099㎡		
	3G区	1065㎡		
（その4）		92㎡	平成11年6月21日～平成11年7月13日	約15コンテナ

第1表 （その1）～（その4）調査の詳細

第2節 これまでの調査の概要

溝昨遺跡の調査は（その1）～（その4）の4次にわたり実施され、（その1・2）の調査成果は別冊として上梓した。本冊は（その3・4）の報告書であり、ここでは（その1・2）の概要を述べ、本冊の理解の一助としたい。

（その1）ではA～C区、（その2）では2A～2C区の調査をおこなっており、年代順にまとめて概要を述べる。

弥生時代前期 遺構は検出されていないが、C区西7面河川4および2A-1区3面溝123から、古段階の木葉文小形壺、新段階の甕など10数個体の弥生時代前期の遺物が出土した。すべて河川出土遺物であり、溝昨遺跡周辺にこの時期の集落が存在した可能性が指摘される。特記すべき遺物として、前期末に位置づけられる播磨の壺片が2A-1区3面溝123から出土しており、この時期から他地域との交流があったことがうかがえる。

弥生時代中期 明確な遺構は検出されていない。ただし、A区、2A-2区の9～12層で、中期後半の土器が少数出土しており、集落の周縁部となる可能性がある。A区深掘部で採取した土壌よりプラント・オパールが多数検出されており、溝昨遺跡ではこの時期より水田が営まれた可能性がある。外来系土器は備後の高杯、河内の壺、吉備の高杯がみとめられ、他地域との交流の範囲が広がる。

この時期の景観を想定すると、河川である2A-2区溝123が調査地北辺に沿ってほぼ東西方向に流れ、この南側に後に古墳時代の居住域となる微高地が形成されはじめる。

弥生時代後期 後期初頭の土器棺1～3が2A-2区6面の微高地上で、土器棺4が2C区10面古墳時代水田の大畦畔で検出された。うち、土器棺1、3の内部土壌の脂肪酸分析からは、ヒト遺体の埋葬が明らかとなった。土器棺1は中部瀬戸内もしくは阿波、土器棺3・4は河内からの外来系土器であり、土器棺2も地域の特定はできないが、在地の土器ではない。他にも、2A-2区6面溝120から、河内、瀬戸内からの外来系土器である後期初頭の大形広口壺が出土しており、土器棺の可能性が高い。土器棺に用いられる大形壺は外来系土器が多く、選択的に搬入された可能性が高い。

特異な遺物では、赤色顔料で渦文を描く大形広口壺、ビーズ形に歪んだ円環型銅釧があげられる。両者とも2A-2区6面溝120出土であり、土器棺群と近接した位置から出土していることから、土器棺およびその埋葬遺物である可能性がうかがえる。

古墳時代前期 最も多くの遺構・遺物がみられ、集落が盛期をむかえる。

景観を復元すると、調査区北辺に沿って東西方向の河川が流れ（A区、2A-1・2区溝123）、その本流ともいえる河川が調査区西辺に沿って、現在の安威川とほぼ同じ方向で流れる（C区河川4）。東西方向の河川（溝123）南側の自然堤防が発達し、その自然堤防上であるA区、2A-1・2区に居住域が広がる。生産域である水田はこれら自然堤防に挟まれた後背湿地であり、B区、C区東半部、2B区、2C区に広がる。北西に高く、南東に低い地形に則して、北西-南東方向の低い谷部がはしり、これに平行する形で基本となる大畦畔、小畦畔が設けられ、これを北東-南西方向の小畦畔で区分する。

A区、2A-1・2区に広がる居住域では、A区7・8面、2A-2区6～8面で竪穴11棟、建物15棟、塀、門、柱穴多数、溝120、土坑多数を検出した。竪穴は古墳時代前期～中期、建物は古墳時代前期～後期、溝120および土坑は古墳時代前期～後期の年代幅をもつ。

庄内式期前半には、溝123南肩部で甕をはじめとする完形土器がまとまって出土した。この時期溝120

はまだ整備されたものではなく、弥生時代後期から継続する小規模な溝である。河川（溝123）はその後しだいに埋没し、調査区内はすべて自然堤防となり、安定した居住域が形成される。

庄内式期後半～布留式期、集落は整備され、盛期を迎える。居住域には、東西方向に溝120が貫流し、その両肩部に竪穴、建物、塀、柱穴、土坑、井戸が広がる。溝120から南側の水田に向けて、地形はなだらかに下降し、水田に近づくにつれ遺構密度は低くなる。居住域と水田の境には、溝状の浅い窪みがあり、それが切れる部分で比較的大きな柱穴が2カ所確認され、門状の施設の存在が想定される。

竪穴は方形であり、一辺4～5mを測るものが多く、支柱穴は2本または無しである。竪穴1からは精良な灰白色粘土塊が出土し、珪藻分析から搬入された粘土塊である可能性が高いという結果を得た。2A-2区竪穴2～4は、3棟が重複して検出され、竪穴2→3→4の変遷が明らかである。竪穴として認定した遺構は11棟のみであるが、多数検出された小溝の多くは竪穴の周溝とみられ、多くの竪穴が重複して営まれたと考えられる。

竪穴、建物の方向は、居住域の縁辺部では居住域と水田との境界線に主軸が平行する竪穴、建物が多く、溝120近辺では主軸がこれに平行する竪穴、建物が多い。

建物の柱穴は円形で、直径30～50cm、深さ40～50cmのことが多い。低湿地性遺跡のためか、柱材が多く残存し、面取りをもつ柱材もみられた。樹種はヒノキが多い。また、底面に礎板や藁、枝をまとめて敷いて柱が沈まない工夫がなされたものが多くみられた。柱穴埋土上層から完形の小形丸底壺が出土する例が10例ほどあり、小形丸底壺の多くは口縁部または胴部に打ち欠きがみられ、建物の廃絶にあたり人為的な埋納がなされた可能性が高い。その他、柱穴出土の特異な遺物として、小形仿製鏡、人形代があげられ、これらも人為的な埋納が考えられる。

溝120の埋土は上層のシルト層と下層の砂層に大別され、上層には須恵器を含み、下層は土師器のみである。出土遺物から、溝120は古墳時代前期より機能し、古墳時代後期終末には完全に埋没したと考えられる。両肩部には盛土、杭の打設、横木による土留めがみられ、継続的に管理されていたことがうかがえる。コンテナ約150箱の土器が出土し、人面線刻土器、線刻土器、鳥形土製品、外来系土器、籠目土器、縄蓆文タタキの可能性をもつ有孔鉢など興味深い遺物が多数出土した。また、泥除未製品とみられる木製品が肩部で出土し、加工途上の保管が考えられる。

外来系土器は、総点125点中、古墳時代前期のものは103点を数え、その多くが庄内式期後半から布留式期前半に位置づけられる。関東、東海、加賀、湖東、北近畿、山陰、備後のほか播磨、阿波、吉備などの瀬戸内地方、近隣では河内からの外来系土器がみられ、非常に広範な地域との交流がうかがえ、とくに瀬戸内地方を中心とした西方との結びつきが強い。なかでも、関東の影響を示す突帯がめぐる土器は、全国でも約20数例と稀少な例であり、本例は分布の西端に位置する。本例は砂粒観察から胎土は在地のものと判定されており、関東との交流のあり方を考えるにあたり興味深い資料である。

土坑は直径1m、深さ50cm程度のもので多く、腐食物層を介在する土坑が10基程度みられる。A区土坑98は、白色の漆喰状の層が介在し、琴状弦楽器が出土した。琴状弦楽器は長岡京跡（東土川西遺跡）などで類例がみられ、馬王堆一号漢墓をはじめとする中国の諸資料より、「筑状弦楽器」と呼称すべき遺物であることが判明した。土坑108は埋土に厚い腐食物層が介在し、粉がまとまって出土し、その他、モモ核、カナムグラ、炭化米、マクワウリ、ヒョウタンの仲間など多種多様な植物遺体が出土した。こうした多様な自然遺物は土坑130においてもみられた。

土器では、赤色顔料、黒色顔料が付着または塗布されたものが注意され、赤色顔料は水銀朱とベンガ

ラを混ぜたものが多いことが判明した。また、朱の精製に用いたと考えられる石臼、石杵が出土しており、本遺跡における朱の加工が想定される。

このほか、居住域から結晶片岩材が数点出土しており、阿波からの外来系土器および朱の存在からは、阿波との強い結びつきが推定された。

水田では、B区中央部、2C区東部の低湿部において、大畦畔基部に枝、板、木器が集中してみられ、沈下を防ぐための施設と考えられた。その他、注目すべきものに、2C区で検出された棒状木製品貫通土器がある。布留形甕を、先端を加工した棒が貫通するもので、祭祀的な性格をもつ可能性が高い。

古墳時代中期 集落は継続するものの、古墳時代前期に比べ遺構・遺物量は格段に減少する。

A区、2A-1・2区に広がる居住域では、2A-2区5～6面土器群のほか、溝、土坑から初期須恵器が出土しているが、出土遺物量は古墳時代前期に比べ非常に少ない。

一方、C区西半部出土初期須恵器は、A区、2A-1・2区より点数が多く、A区、2A-1・2区からC区西半部への居住域の移動がうかがえる。

初期須恵器、瓦質高杯の存在からは、規模は縮小するものの、地域間交流の拠点としての性格は継続すると考えられる。

古墳時代後期 古墳時代中期に比べ遺構・遺物量は増加し、古墳時代前期にはおよばないまでも、集落の活力はある程度回復する。

居住域の中心はC区に移動するが、A区、2A-1・2区においても、わずかではあるが建物が営まれる。

C区西半部は、西4面建物13・14・15のほか柱穴が多数検出され、出土遺物も多く、居住域の中心として機能する。出土須恵器は中期後葉から後期末にわたり、TK23～MT15型式は少なく、MT85（TK10～43）型式が大勢を占め、TK209～TK217型式が少量出土し、これを下限とする。器種は杯、甕が多く、甕、器台を少量含む。土師器は暗文を施す杯が2点あり、古墳時代後期末～飛鳥時代初頭を下限とする。

特異な遺物として、土師質樽形甕および不明土製品があり、両者とも稀少な例である。その他、碧玉製勾玉、滑石製白玉、滑石製双孔円板、滑石製紡錘車、土錘、土製紡錘車、玉砥石が出土している。

水田は、厚い砂層に覆われ、砂層除去面では、大畦畔、小畦畔および、成人、幼児の人の足跡、偶蹄類、鳥類の足跡、鋤先を突き立てたとみられる痕跡が明瞭に検出された。耕土からは、2B区8層で下駄が出土しており、下駄としては最古段階の出土例である。砂層はTK209～TK217型式を下限とする遺物を包含し、この時期に大規模な洪水に遭い水田は耕作不可能となり、集落は破棄されたと考えられる。これは居住域出土遺物とも整合性がみとめられる。

飛鳥・奈良時代 遺構・遺物は極めて稀薄である。古墳時代後期末の洪水後、すみやかな復旧はおこなわれなかったようである。

2B区西半部の上宮跡下層にあたる地点で、平城IIIに位置づけられる土器がまとまって出土した。出土地点は古墳時代河川（7面溝14）の湾曲により形成された微高地である。やや離れた地点で、平城IIIに位置づけられる「奈粘」の墨書をもつ土器が出土しており、一群のものである可能性が高い。

平安時代 飛鳥・奈良時代に引き続き、遺構・遺物は極めて稀薄である。

明確な遺構は検出されていないが、平安時代末には、2B区西半部3面上宮跡が営まれた可能性をもつ。平安時代の遺物は、2B区西半部である程度まとまって出土する。緑釉陶器椀、須恵器壺、土師器

杯、高杯、羽釜の他、平安時代末から鎌倉時代初頭に位置づけられる巴文軒丸瓦、剣当文軒平瓦が出土しており、上宮の創建を考えるにあたり重要な資料である。

その他、年代を明確にし難いが、平安時代に帰属する可能性が高い遺物に銅鈴がある。

中世 12～13世紀以降、上宮を除く全域に乾田化した条里制水田が広がり、この景観は浪商学園建設直前の近代までつづく。中世前半には、C区西半部に居住域が短期間形成される。

C区西半部の居住域は建物1棟、塀1列からなり、建物の柱穴からは瓦器碗5枚が重なって出土した。居住域は、12世紀末から13世紀にかけて存続し、その後水田となる。

上宮跡は、平安時代末から中世前半には柱穴が検出されるのみでその様相は不明であるが、中世後半には建築物の様相が明らかとなる。

中世後半の上宮は、方形にめぐる柱列1を中心に、前面（南面）には柱列が2列平行し、これに平行および直交する建物2棟からなる。周辺には空地がひろがり、建物と空地を含む上宮は四辺を溝で囲まれ（B区1面溝2・3、C区1面溝35、2B区0・1面溝2）、条里制の土地区画にのっとったものである。B区4面柱1・2（W44・45）は上宮の西面にあたる箇所検出されており、鳥居状の施設が想定される。遺物は巴文軒丸瓦、唐草文軒平瓦をはじめとする瓦のほか土師器、須恵器、陶器が出土した。

特記すべき遺物には、C区東1面河川1の堰に引っかかった状態で出土した卒塔婆があり、中世溝杭庄を考える一資料となる。

近世 景観は、中世以降大きくは変わらず、2B区西半部に上宮が存続するほかは、全域に条里制水田がひろがる。

上宮跡は、中央の建築物は二度建て替えられるものの、周辺に空地が広がり、四辺を溝で囲まれるといった様相に変化はみられない。

中央の建築物は、断面コ字形の方形溝に囲まれた1×1間の建物（2B区1面上宮跡）から、断面浅いU字形の方形溝に囲まれた2×1間の建物（2B区0面上宮跡）へと変化する。前者に伴う遺物は無く、後者の溝から16世紀末以降の鬼瓦をはじめとする遺物が出土しており、先述した室町時代の可能性をもつ建築物の廃絶後、16世紀末以降明治42年までに二度の建て替えがあったと考えられる。

上宮跡は、遺構はおおきく4段階の変遷がおえ、出土遺物からは、平安時代末～鎌倉時代に1段階、室町時代に1段階、慶長年間以降に2段階の変遷が考えられる。上宮関連の文献資料から、11世紀中葉に溝杭大夫と称した源資兼が、15世紀後葉以降の室町時代に溝咋兵庫介質信とその後裔が、16世紀末以降に長谷川式部少輔が、寛保二（1742）年には永井日向守と小堀仁左衛門が、宝暦十三（1763）年には土井大炊頭がこの地を領していたことが明らかであり、検出された遺構、遺物の変遷とほぼ整合性をもつ点が興味深い。

その他、坪境溝であるB区1面河川1から人の頭蓋骨が出土しており、刃物による切断痕がみられる。

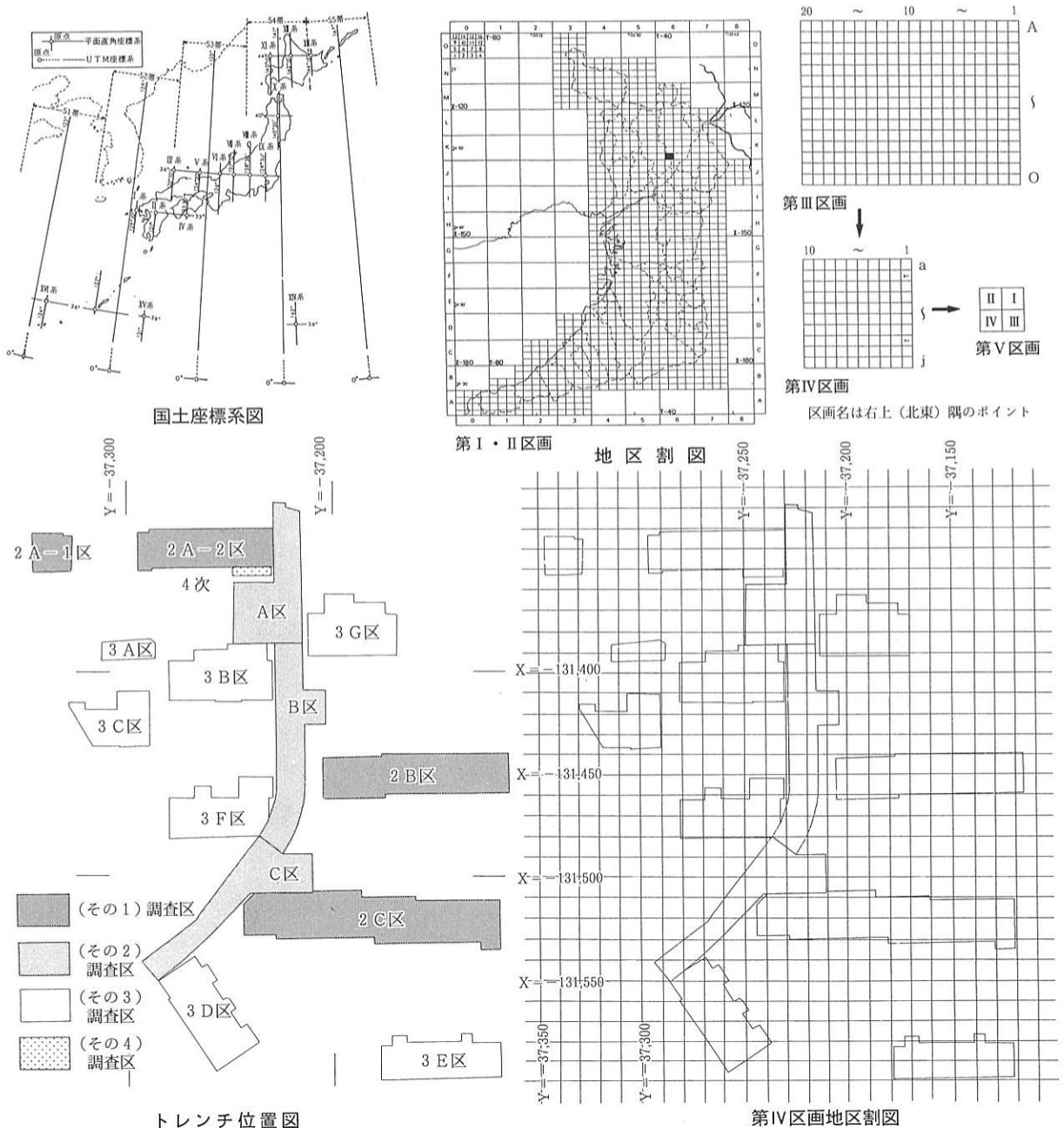
近代 明治42年の廃仏毀釈により上宮は現在の溝咋神社に合祀され、跡地は竹藪となる。水田では、水田区画にのっとった長方形土坑がみられる。長方形土坑は、粘土採掘坑、災害復旧坑などである可能性が考えられるが、断定には至らない。

以上が、溝咋遺跡（その1・2）の概要である。詳細については、（財）大阪府文化財調査研究センター2000『溝咋遺跡（その1・2）』の第7章総括を参照されたい。（合田）

第3節 調査の方法

溝作遺跡の調査は、基本的に当センターの前身の1つである(財)大阪文化財センターが定めた「遺跡調査基本マニュアル」¹⁾を基準とし、国土座標軸に則った基準線を遺物の取り上げ、遺構図面作成に用いた。

地区割りは国土座標軸(第VI座標系)を基準とし、I~VIの大小6段階の区画を設定した。これは大阪府内全域に共通する地区割りである。第I区画は1万分の1地形図を利用したもので、1区画は南北6km、東西8kmとなる。第II区画は2500分の1の地形図を利用する。第I区画を東西、南北各4分割の、計16区画に分けたもので、1区画は縦1.5km、横2.0kmとなる。第III区画は第II区画を東西20分割、南北15分割する一辺100mの区画となる。第IV区画は第III区画をさらに東西、南北ともに10分割した一



第1図 調査区地区割り図

辺10mの区画となる。第V区画は第IV区画を5m単位で4分割したものである。第VI区画は第V区画内を東北端を基準に任意で細分するものである。遺物の取り上げは、基本的に第IV区画である一辺10mを基準に行い、遺物、遺構が密な場合は第V区画である一辺5mの区画を使用した。単独の遺物を取り上げる際には第VI区画を使用した。

方位は座標北を使用し、水準はすべて東京湾平均海水位（T.P.）を用いた。

遺構の平面測量はクレーンによる写真測量を行った。各調査区ごとに3回ずつの写真測量を基本としたが、遺構の検出状況により、3E区は2回、3D区は4回となった。基本的には1/20の図面を作成したが、遺構が希薄な場合には1/50の図化とした。写真測量を行わない遺構面の測量は、遺構の検出状況に合わせて平板測量等により1/50、1/100の縮尺で随時行った。その他遺物の出土状況や遺構断面等は、基準線からの距離をスケール等を用いて計測し、1/20、1/10の図面を作成した。

（その3）の調査においては、遺構番号は各調査区の遺構ごとに1から付した。したがって同じ遺構名、例えば「溝1」は、別の調査区でも使用した。また、遺構ごとに1から番号を付しているため、同じ調査区内に「溝1」も「土坑1」も存在する。なお遺物登録番号も、各調査区ごとに1からの通し番号を振った。整理作業の段階で行なう遺物への注記は、例えば3D区から出土した登録番号72番の土器には「ミゾクイ3D-72」と記し、3F区から出土した同じく登録番号72番の土器には「ミゾクイ3F-72」と記している。注記中に調査区名を記入することで混乱を避けた。

（その3）の調査区は、集合住宅建設予定地にあたる7箇所である。各調査区にA～Gのアルファベット番号を任意に付した。3次調査であることから、これまでの調査との混乱を避けるため、アルファベットの前に3を付け、3A～3Gとした。実際の調査は、アルファベット順とは関係なく、建設工事との調整の結果、3E区から開始し、つづいて3D区を行った。次の3A・3C・3F区は3箇所同時進行で調査し、3B区、3G区の順で終了した。なお、3A区の西北部は近代の溜池を埋め立てた部分であり、大阪府教育委員会の立ち会いによって調査不要と判断されたため、調査区を縮小することとなった。

調査方法は、重機による盛土および近代耕土の掘削後、人力による掘削、精査をおこなった。掘削深度は2.5～2.8mにおよぶため、調査区法面に1：1の安全勾配を設けて掘削を進めた。したがって調査面積は下層にいくにしたがって狭くなる。第1節の第1表に示した調査面積とは、各調査区とも最終遺構面の面積である。これまでの調査区と接する部分、あるいは近隣の建物に近接する場合など、鋼矢板を打設し、安全確保を行なった上で調査を実施した。

（その3）の調査は3E・3D区と3A・3C・3F区の上層までを合田と黒須が、3A・3C・3F区の下層と3B区を伊藤と黒須が、G区の上層を黒須、下層を伊藤がそれぞれ担当した。（その4）の調査は伊藤が担当した。（伊藤）

註

- 1）（財）大阪文化財センター 1988『遺跡調査基本マニュアル』

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

茨木市は、北摂山地を背にして平野部を望む、北西部に高く南東部に低い地形を呈す。古生代の丹波層群に構成される北の山地と、大阪層群に構成される東の丘陵から流れる出る幾筋かの水脈によって、富田台地をはじめとする低位段丘が派生し、その下位に沖積地が形成された。平野部は檜尾川、芥川、安威川、茨木川などによって潤されている。

溝咋遺跡は、茨木市のほぼ中央を南下する安威川の下流域に立地する。安威川は京都亀岡市山中に源を発する一級河川で、堤防脇にひろがる後背湿地は早くから水田耕作地帯として利用されてきた。

北摂山地に連なる天王山と独立丘陵男山を南北にひかえる狭隘なこの地は、大水脈淀川が大阪湾へと流下する走路でもある。京都盆地と河内平野をつなぐ最短ルートとして、淀川とその河岸は古来より水路・陸路ともに多大な交通量を担ってきた。現在も国道・高速道路・新幹線その他在来線数本が密接して東西に併走し、沿線は賑わいをみせている。高度成長期には都市郊外の常として国道沿いに工業地帯化が進み、これと同時に都市圏への移動の容易さがベッドタウンとしての人気を博した。近年その需要はますます増加し、山地裾野の扇状地はもとより山地斜面においても大規模な住宅地の造成がすすめられている。

第2節 考古学的環境

この地域を含む、高槻市から吹田市、箕面市の一部の範囲（富田丘陵）は、総じて「三嶋」と呼称されてきた。南向きの山地斜面や豊富な水源、農耕に適した湿潤低地から得られる豊富な食糧は、定住地として適しており、今日、多くの集落遺跡が確認されている。

旧石器時代 丘陵部から低位段丘にわたって旧石器の散布地が点在する。特に残存状況が良好な遺跡として芥川流域の「郡家今城遺跡C地点・A地点」が挙げられる。両地点ともに多数の国府型ナイフ形石器が出土した。また、C地点ではキャンプサイトの実態が明らかにされている。

縄文時代 早期～中期の遺跡は稀薄であるが、中期後葉の北白川C式以降、後期・晩期と時期がくだるにしたがい遺跡数は増加する。「芥川遺跡」では北白川C式中～後期のまとまった土器の出土がみられ安定した集落の発展がうかがえる。

晩期には、その中葉段階である滋賀里IV式期に「^{みのほら}耳原遺跡」「^{ぐんげ}郡家川西遺跡」があり、その後、檜尾川流域の「^{あま}安満遺跡」、安威川流域の「^{むれ}牟礼遺跡」、茨木川流域の「東奈良遺跡」といった船橋～長原式期を経て弥生時代へと継続する集落が出現する。

弥生時代 前期の遺跡は三島地域において16ヶ所が報告されている。「安満遺跡」と「東奈良遺跡」は環濠をめぐらせた拠点集落であり、この二大集落を核として三島地域の弥生集落は安定した発展をみせる。明確な遺構こそ確認できないが「溝咋遺跡」の初現もこのころだと推定される。

中期には遺跡数が飛躍的に増加し、灌漑水路を備えた水田を伴う集落が各所にみられ、各々繁栄をみせるようになる。また、これらの弥生集落が単に生産と消費を繰り返していたにとどまらず、淀川を基幹とした物流の基地としても機能していたことが「安満遺跡」の石包丁や「東奈良遺跡」の銅鐸鑄型、



- | | | | | | | | |
|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|--------------|---------------|
| 1. 溝咋遺跡 | 16. 東上東遺跡 | 31. ニヶ谷古墳群 | 46. ツゲノ古墳群 | 61. 石塚古墳 | 76. 熊ノ谷古墳 | 91. 中河原遺跡 | 106. 茨木城跡 |
| 2. 奥天神町遺跡 | 17. 芥川遺跡 | 32. 墓谷古墳群 | 47. 宮田遺跡 | 62. 主保山古墳 | 77. 福井城跡 | 92. 郡遺跡 | 107. 新庄遺跡 |
| 3. 天神山遺跡 | 18. 上田部遺跡 | 33. 殿岡神社古墳 | 48. 關鷄野古墳 | 63. 二子山古墳 | 78. 真龍寺古墳群 | 93. 郡山遺跡 | 108. 中条小学校遺跡 |
| 4. 伊勢寺古墳 | 19. 高槻城跡 | 34. 弁天山古墳群 | 49. 關鷄山古墳 | 64. 石山古墳 | 79. 將軍山古墳群 | 94. 郡神社古墳 | 109. 東奈良遺跡 |
| 5. 中將軍古墳 | 20. 芝生遺跡 | 35. 弁天山C1号墳 | 50. 新池遺跡 | 65. 太田茶白山古墳 | 80. 將軍塚古墳 | 95. 郡児童公園遺跡 | 110. 玉櫛遺跡 |
| 6. 宿彌塚古墳 | 21. 大塚遺跡 | 36. 弁天山古墳 | 51. 上土室遺跡 | 66. 太田廃寺 | 81. 將軍山古墳 | 96. 郡山古墳群 | 111. 三宅城跡 |
| 7. 昼塚車塚古墳 | 22. 淀川河底遺跡 | 37. 岡本山古墳 | 52. 番山古墳 | 67. 太田遺跡 | 82. 牟礼遺跡 | 97. 上穂積山古墳 | 112. 蔵垣内遺跡 |
| 8. 慈願寺山遺跡 | 23. 柱本南遺跡 | 38. 岡本山東古墳 | 53. 塚原古墳群 | 68. 太田城跡 | 83. 西福井遺跡 | 98. 上穂積山遺跡 | 113. ゴルフ場内窠跡 |
| 9. 真上古墳 | 24. 真上遺跡 | 39. 岡本火葬墓群 | 54. 阿武山古墳 | 69. 總持寺遺跡 | 84. 新屋古墳群 | 99. 上穂積神社西古墳 | 114. 地蔵池南遺跡 |
| 10. 慈願寺山1号墳 | 25. 大蔵司遺跡 | 40. 上野遺跡 | 55. 桑原古墳群 | 70. 東五百住遺跡 | 85. 紫金山古墳 | 100. 穂積院寺 | 115. 八丁池北遺跡 |
| 11. 慈願寺山2号墳 | 26. 郡家川西遺跡 | 41. 御坊山古墳 | 56. 塚原遺跡 | 71. 富田遺跡 | 86. 青松古墳 | 101. 弁天山遺跡 | 116. 青葉丘遺跡 |
| 12. 慈願寺山6号墳 | 27. 芥川廃寺跡 | 42. 郡家車塚古墳 | 57. 安威古墳群 | 72. 中城遺跡 | 87. 南塚古墳 | 102. 倍賀遺跡 | 117. 松下センター古墳 |
| 13. 安祥古墳 | 28. 川西古墳群 | 43. 前塚古墳 | 58. 長ノ淵古墳 | 73. 鮎川遺跡 | 88. 群山古墳 | 103. 春日遺跡 | 118. 新芦屋古墳 |
| 14. 真上1号墳 | 29. 郡家今城遺跡 | 44. 今城塚古墳 | 59. 安威寺跡 | 74. 目垣遺跡 | 89. 馬塚古墳 | 104. 上中条遺跡 | 119. 新芦屋遺跡 |
| 15. 真上2号墳 | 30. 津之江南遺跡 | 45. 水室塚古墳跡 | 60. 初田1号墳 | 75. 初田古墳 | 90. 茶臼塚古墳 | 105. 駅前遺跡 | 120. 新芦屋瓦窯跡 |

第2図 溝咋遺跡周辺遺跡分布図

「芝生遺跡」のアメリカ式石鏃などの出土からも窺える。

後期には「東奈良遺跡」はその命脈を絶ち、「安満遺跡」は「古曾部遺跡」「芝谷遺跡」「紅茸山遺跡」と連動する動きをみせる。これに反して芥川流域の「郡家川西遺跡」が、弥生後期後半～古墳時代初頭にかけて隆盛を極めるようになる。

古墳時代 前期～中期前半の芥川水系には、「郡家川西遺跡」を母体として「弁天山古墳群A1・B1・C1号墳」「郡家車塚古墳」「前塚古墳」といった首長墓が築かれる。檜尾川では「安満遺跡」を母体とする「安満宮山古墳」が、安威川では「安威1号墳」が、茨木川では「紫金山古墳」「將軍山古墳」が築かれる。「安満宮山古墳」は三角縁神獣鏡を副葬する前期古墳で、鏡を媒体として各地域との繋がりが注目を集めるようになった。

中期にはいると、安威川沿いの土室地区で「石山古墳」「土保山古墳」「番山古墳」など小規模な前方後円墳が築かれるなか、突如として複数の倍冢をもつ巨大な「太田茶臼山古墳」があらわれる。その背景には、三島在地域を超越する造営主体の出現があったことが考えられる。

後期には継体天皇陵と想定される「今城塚古墳」が芥川流域に築かれ「昼神車塚」「南塚古墳」が前後して築かれる。群集墳としては「安満山古墳群」「塚脇古墳群」「塚原古墳群」などが知られている。また特徴的なものとして、竜山石・二上山凝灰岩製石棺を埋納する「耳原古墳」、緑泥片岩製石棺をもつ「海北塚古墳」がある。

終末期には、中臣鎌足墓として検討される「阿武山古墳」が安威川水系を見おろす尾根上に築かれる。また芥川東岸の真上丘陵においては、「石川年足墓誌銘」が文政3年(1820)に発見された。

律令時代 各地方から畿内への主要物流ルートにあたるこの地域では、官衙や律令色の濃い遺跡が数多く検出されている。「郡家川西遺跡」「総持寺遺跡」「郡遺跡」等は、流通によって経済的に発展したばかりではなく、それぞれが郡衙の候補地として目される遺跡である。

また、三島地域には、延喜式内社が他地域にくらべて稠密に存在する。そのひとつである溝咋神社は安威川をはさんで調査区と相対する位置にあり、集落および遺跡名の由来となるものである。昭和初期頃までは上宮と下宮とに分祀されていたが、後に上宮は廃止されて下宮に合祀された(次節に詳述)。

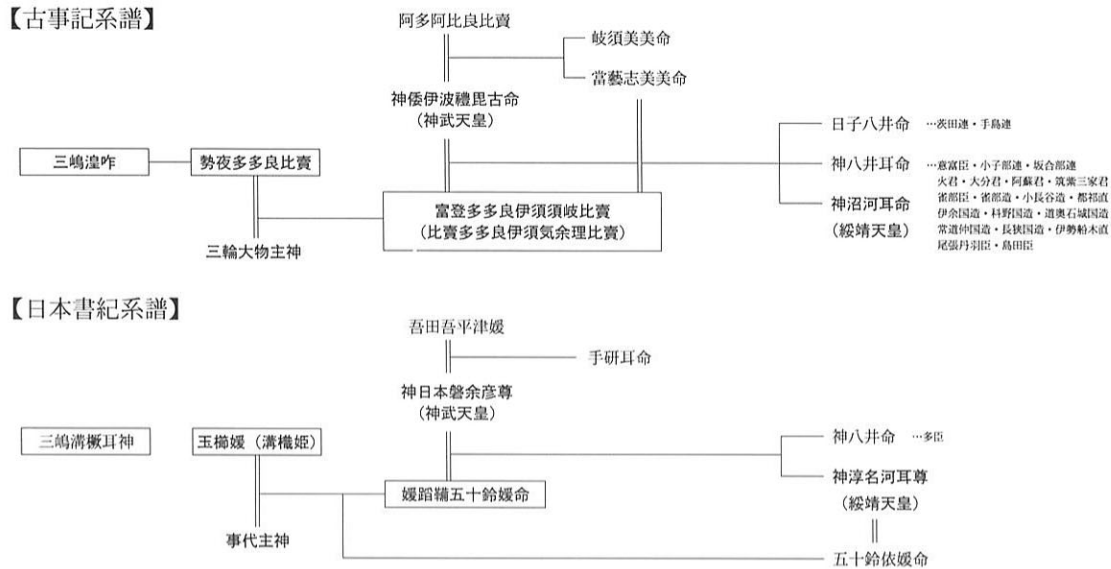
昨年度の溝咋遺跡(その2)の調査では、調査区内で上宮の遺構が検出した。その初建は平安期とみられるが、遺物の出土によって社の前身が奈良時代にまで遡ることを報告している。

第3節 文献史学的環境

次にこの地域に関連する文献史料を手懸かりとして、上述した溝咋神社の歴史を主軸に据えて考察を加えたい。

上古代・溝咋神社と神武皇后説話 現在、文字資料における「摂津三嶋」および「ミゾクヒ」という文字の初見は、8世紀に編集された『古事記』『日本書紀』にまで遡ることができる。(以後『記』・『紀』と省略。『記』では「湟咋」、『紀』では「溝槪」)

『紀』神武天皇即位前紀に、磐余彦尊(のちの初代神武天皇)が正妃を求める段があり、ここに「事代主神、三嶋溝槪耳神の女・玉櫛媛に共して生める兒、號て媛踏鞴五十鈴媛命」が登場する。五十鈴媛はこの翌月に入内し、翌正月の神武天皇即位時に初代皇后として立后した。上古代において、天皇の即位と皇后の立后は不可分のものであり、その有資格者は「華胄」つまり皇族もしくは有力豪族に限られていた。



第3図 古事記・日本書紀系図

しかし、この『紀』述をもって摂津三嶋地域にミゾクヒミノ神を筆頭としたミゾクヒ氏なる皇后輩出に適うほどの大豪族が存在したとするのは誤りである。五十鈴媛が皇后に選任されたのは、神の子という血脈に拠るところが大きい、これ即ち、この説話が神話の域を出ないことを端的に示すものにほかならない。つまり神武天皇の存在が架空であると同様に五十鈴姫もまた然りでなのである。

昨今、この『紀』述が上代において溝咋の地と大和朝廷との何らかの特殊な関係（婚姻・提携・朝貢など）をモチーフに創造されたものではないかと推測する論がある。が、これもまた空論にすぎない。前述のとおり、確かに摂津三島の地は交通の要所であり早くから発展を見せた地域であったと考えられるが、『紀』の「ミシマ」「ミゾクヒ」という表現だけで大豪族の存在ならびに朝廷との密接な関係までもを唱えるのは暴論である。以下簡略ながらその論拠を示しておきたい。

まず、『記』『紀』両者の記載内容の相違を指摘したい。『記』神武巻には『紀』と同じく神武皇后について独自の説話を載せている。これによると五十鈴姫（『記』では比賣^{ひめ}多多良^{たたら}伊須須^{いすす}岐^き比賣^{ひめ}）の出身地は大和国城上郡（現・奈良県桜井市）であり、その家は「狭井河（現・巻向川に比定）の上」にあったとしている。さらに父を「美和の大物主神」とし、その出生譚はいわゆる「三輪式伝説」と称される独特の形態を備えており、この点でも差異を見せている。つまり『記』は、神武皇后の出身地を大和三輪に求めているのである。このことの意味は大きい。

次に「ミゾクヒミノ神率いるミゾクヒ氏」が三嶋地域の雄族であったことを傍証するものとして、式内社「溝咋神社」の存在を掲げる言がある。この神社は安威川をはさんで調査地点と相対し、主殿に五十鈴姫の母である玉櫛媛を、相殿に五十鈴媛と母方の祖父である三嶋溝咋耳神、『先代旧事本紀』に兄とする天日方奇日方神、そして、素盞鳴命、天兒屋根命の五柱を祭っている。しかし、『延喜式』神名帳には祭神一柱を祭る小社として記載されている。

『溝杭信幸讓状（石清水文書）』に拠ると、嘉吉元年（1441）当時、溝咋神社は上ノ宮と下ノ宮に分社されていたとある。両宮は明治期に合併されたが、その時の祭神は上ノ宮に溝咋耳神・五十鈴媛・奇日方神の三柱、下ノ宮（現溝咋神社）に玉櫛媛一柱であり、その社位は前者は無格、後者は村社（戦前には合併して府社に昇格）であった。つまり、溝咋神社祭神六柱の中で、もっとも重きを置かれているのは三嶋溝咋耳神ではなく玉櫛媛である。このことは、玉櫛媛一柱こそが元来の祭神であったことを物

語る。

『日本後紀』天長元年(814)条によれば、淳和天皇が早魃の際に雨乞いを溝咋神社に祈願し、これが見事成就したとある。その功を讃えて青銅製二神二獸鏡(漢鏡)に「溝咋大神」と筆したものを社に下賜した。社は神宝「暁の鏡」として現在まで銅鏡一枚を伝世しているが、この逸話では社の祭神は「玉櫛媛」ではなく「溝咋大神」となっている。灌漑水利の守護神としての性格が強調されたこの神は、この時点では「玉櫛媛」なる固有名詞を冠していたわけではなく、古来この地の産土神として祀られてきた土着神であったと類推される。後に玉櫛媛とオーバーラップすることからも、女性像をイメージさせる農耕神であったと考えられる(日本神話では山神・農耕神・食物神など生産に関する神は女神として人格化されたケースが多い)。このことから、おそらく『紀』『記』の説話をモチーフに三嶋溝咋神社として皇室ゆかりの社伝を持つ現在のスタイルが定着したのは『延喜式』の完成以降ではなかったかと思われる。

因みにここで人名として扱っている「ミシマミゾクヒミミ」「タマクシ」とは、祭祀に関連する普通名詞であることが明らかにされている。「ミシマ」とは事代主神と関係する語で、全国に三嶋神社と称する古社の存在がある。「クヒ」は、^{つのくひ}角杙神・^{いくくひ}活杙神・^{やまぐひ}山咋神など神名の表記にあり、神格化をとまなう古語ではないかと思われる。「ミミ」は魏志倭人伝にも高名な尊称「美弥」である。「タマ・クシ」はともに神事に関連する「玉・串(奇)」であり、『紀』『記』神話にも「豊玉姫」「玉依媛」「活玉依姫」「奇稲田姫」など諸例がある。つまり、五十鈴媛をめぐる系図の人名表記は実体性に乏しく、実際のところ固有名詞として扱うのが難しいのである。

以上、溝咋神社の存在が五十鈴媛や三嶋溝咋耳神・玉櫛媛等の人物の实在を肯定しうるものではないことを明らかにした。すなわち「ミゾクヒ氏」なる氏族もその具現性を失うことになる。

中近世・溝杭庄とその統治者 『溝杭信幸讓状(石清水文書)』(1441年・嘉吉1)は、溝杭神社周辺地域において治水事業や灌漑工事等を手がけ、また宗教掌握権を保持していた溝杭氏が、子息への相続のために記した文書である。これによると、この地域は広大な農業地を有してはいたが、度々水害に悩まされたこと、また各種の所領が混在していたことなどがわかる。大規模な洪水の来襲は、田畑を埋没させるだけではなく、溝咋神社の本殿も幾度となく倒壊の憂き目を見ている。文禄年間(1592~1596)には領主長谷川式部少輔の再建事業が展開されたがこれも長存するに及ばず、現存の社殿は寛保2年(1742)建営のものである。神社の建築者=統治者とはい言いがた(下宮である現在の社殿は、大阪の豪商殿村平右衛門と石崎喜兵衛の寄進によるものである)、中世期の民衆支配には宗教上の掌握権が必要不可欠であり、溝咋神社の盛衰も時代の趨勢とともにあったようである。

享保20年(1735)の『撰河泉石高調』によると当時溝咋の地には寺領と神領があり、溝咋神社域内に真言宗密教山不動院長蓮寺が神宮寺としてあったことがわかる。この時の社僧は三島氏であったが、同時に溝咋神社の神職も兼ねていた。明治元年(1868)発布の神仏分離令で長蓮寺は廃寺となり、これに伴って社僧三島氏は還俗して神主職を継承し、今日に至っている。(黒須)

参考文献

- 茨木市・茨木市教育委員会 1968 『茨木市史』
茨木市・茨木市教育委員会 1988 『わがまち茨木 ―地名編―』
倉野憲司・武田祐吉校注 1984 『日本古典文学大系1 古事記 祝詞』
坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野 晋校注 1990 『日本古典文学大系67 日本書紀 上』
天坊幸彦 1929 「撰津三島郡の条里」『歴史地理』54-3

第3章 (その3) の調査成果

第1節 基本層序

調査地である浪商学園跡地は、現地盤、各遺構面とも西北部がもっとも高く、東、あるいは南に向かって緩やかに下がっていく。調査区でいえば、A区がもっとも高く、G・E区に向かって下がっていくことになる。

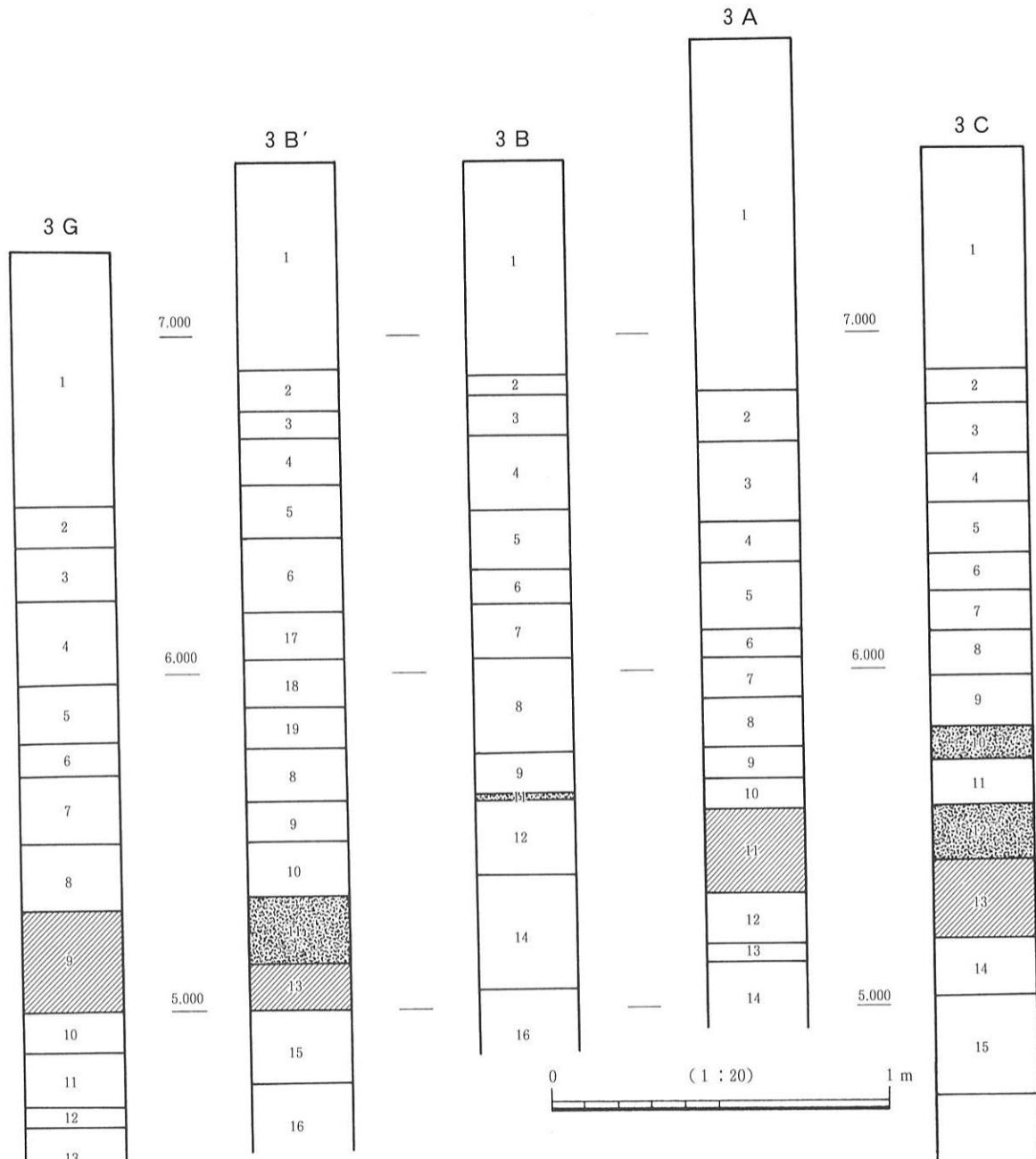
調査地は昭和30年代末から40年代はじめにかけて浪商学園建設に伴う大規模な造成が行われている。その際、それまで水田であったところに碎石等によって厚さ約60cm～1mの盛土が施され、校舎やグラウンドが整備された。調査に際しては、それらの盛土、水田耕土層、その下のオリーブ灰色砂質土層、にぶい黄色シルト層等を機械掘削で除去し、それ以下を人力で掘削・精査した。

機械掘削後に遺構面を平坦にし、遺構検出できる程度にまで整形するが、そのときの掘削層を各調査区とも1層とした。なお、各調査区とも1層掘削後の面を1面、2層掘削後の面を2面、以下同様に各遺構検出面を呼ぶこととした。

【3A区】現地盤から約2.85m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約105cmである。1層から4層は基本的には同色・同質の明黄褐色シルトである。各層の上面にマンガンが沈着するため、4層に分層した。1層は中世から近世の遺物を、2・3層は主に13Cから14Cの遺物を包含する。4層が包含する遺物は12Cから13Cが中心であるが、つづく5層から13～14Cの土器が出土しており、4層の下限はそれ以降であることがわかる。それぞれ12cm、20cm、8cm、12cmずつ堆積する。5層はややにぶい黄色シルトで15cm堆積する。14Cを下限とする遺物を包含する。6層はにぶい黄橙色シルト、7層は青灰色砂質土で、それぞれ9cmずつ堆積する。両層とも古墳時代の遺物を中心に包含するが、つづく8層から7C初頭の遺物が出土していることから、実際にはそれ以降の堆積であったことがわかる。8層は水田耕土層である。赤灰色粘土が25cm堆積する。6C末～7C初の土師器坏を下限とする。なお、以下の各調査区で報告する古墳時代末の洪水砂は、7層と8層の間に堆積するはずであるが、当調査区では検出しなかった。9層は暗青灰色砂質土が15cm堆積する。古墳時代前期の遺物を包含する。9層以下には暗青灰色砂、暗青灰色シルトがそれぞれ5cm、14cmずつ堆積する。

【3B区】現地盤から約2.8m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から60～65cmである。調査区内に広がる集落域と水田域とでは堆積状況が異なるため、以下個別に報告する。

＜集落域＞1層から4層は微妙な違いはあるものの、基本的には同じにぶい黄橙色シルトである。1層は中世から近世の遺物を、2層は16Cを下限とする遺物を包含する。3層は主に13Cの遺物を中心に包含し、4層は11C後半から12Cの遺物を中心に包含する。それぞれ18cm、10cm、16cm、28cmずつ堆積する。5層は灰白色粘土で、12cm堆積する。7Cから8Cの遺物を中心に11Cまでの遺物を包含する。6層は古墳時代末の洪水砂層である。集落面には数cm程度に薄く堆積する。7層は炭化物を含む黒褐色シルトで、この上面に古墳時代後期の集落が形成される。7層のうち集落域の黒褐色シルト層を「7層(1)」とした。古墳時代前期の遺物が中心であるが、わずかに6C後半の須恵器が含まれている。8層は弥生時代中期後半の遺物包含層である。集落域は明黄褐色シルトで、この上面に古墳時代前期の集落が形成される。8層のうち集落域の明黄褐色シルト層を「8層(1)」とした。下面は弥生時代中期後



3 G 区

1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 10Y5/2 オリーブ灰色砂質土
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土<1層>
5. 10YR5/6 黄褐色粘質土<2層>
6. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘質土<3層>
7. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土<4層>
8. 10BG6/1 青灰色粘土<5層>
9. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土<6層>
10. 2.5YR4/1 赤灰色粘土<7層>
- (以下、下層確認のための深掘り)
11. 10Y4/1 灰色シルト
12. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
13. 10Y4/1 灰色粘質土
14. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質土
(薄く砂入る)
15. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土
16. 粗砂

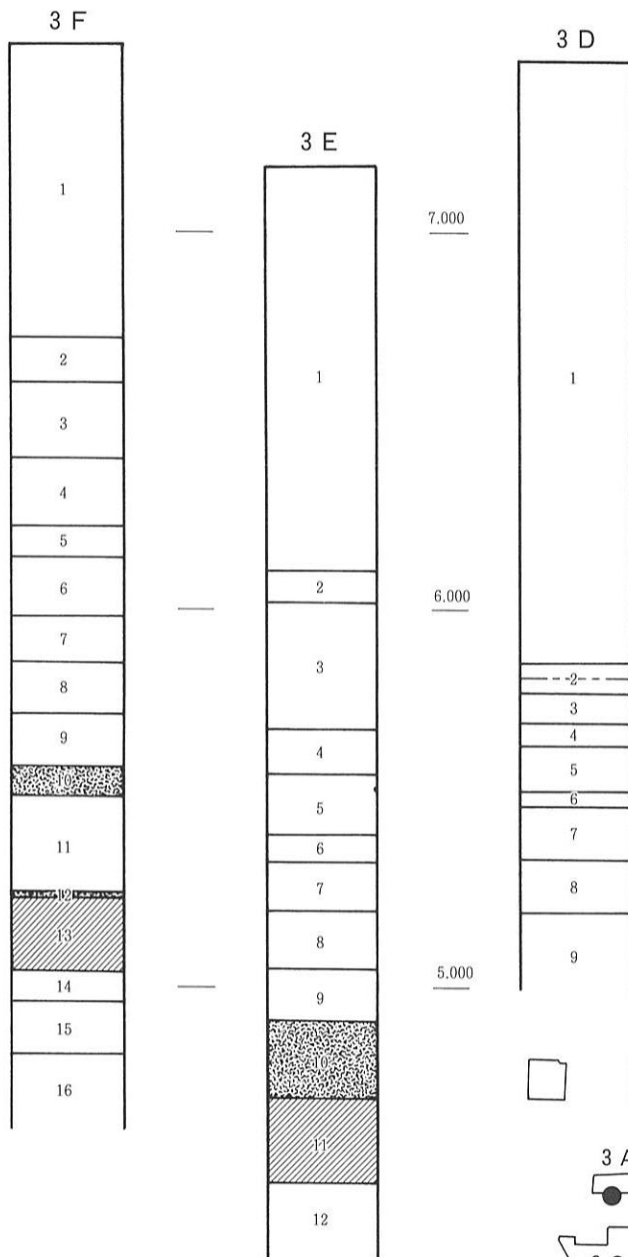
3 B 区

1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 7.5GY6/1 緑灰色砂質土
4. 5GY6/1 オリーブ灰色砂質土
5. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト<1層>
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト<2層>
7. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト<3層>
8. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト<4層>
9. 10YR7/1 灰白色粘土<5層>
10. 10BG4/1 暗青灰色砂質土<5層(2)>
11. 5Y4/2 灰オリーブ色粗砂<6層>
12. 7.5YR3/1 黒褐色シルト(炭化物含む)
<7層(1)>
13. 2.5YR3/1 暗赤灰色粘土<7層(2)>
14. 10YR6/6 明黄褐色シルト<8層(1)>
15. 5B5/1 青灰色粘質土<8層(2)>
16. 10GY5/1 緑灰色砂質土<9層>
17. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
<落ち込み1層>
18. 2.5Y6/2 灰黄色微砂<落ち込み2層>
19. 10BG5/1 青灰色砂質土<落ち込み3層>

3 A 区

1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
- 4~7. 10YR6/6 明黄褐色シルト(各層の上
面にマンガン沈着)<1~4層>
8. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト(やや粘質)
<5層>
9. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト<6層>
10. 10BG5/1 青灰色砂質土(砂多量)
<7層>
11. 2.5YR4/1 赤灰色粘土<8層>
12. 10BG4/1 暗青灰色砂質土<9層>
13. 10BG4/1 暗青灰色砂
14. 5B4/1 暗青灰色シルト

第 4 図 基本層序柱状図



3 F 区

1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 10Y6/2 オリーブ灰色砂質土
4. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
- 5～8. 10YR6/6 明黄褐色シルト (各層の上面にマンガン沈着) <1～4層>
9. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト<5層>
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂<6層>
11. 10BG5/1 青灰色砂質土 (砂多量) <7層>
12. 10YR6/1 褐灰色中～粗砂<7層 (下)>
13. 2.5YR4/1 赤灰色粘土 } <8層>
14. 10YR5/1 褐灰色粘土 }
15. 2.5YR4/1 赤灰色粘土 (有機物混じる)
16. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土

3 E 区

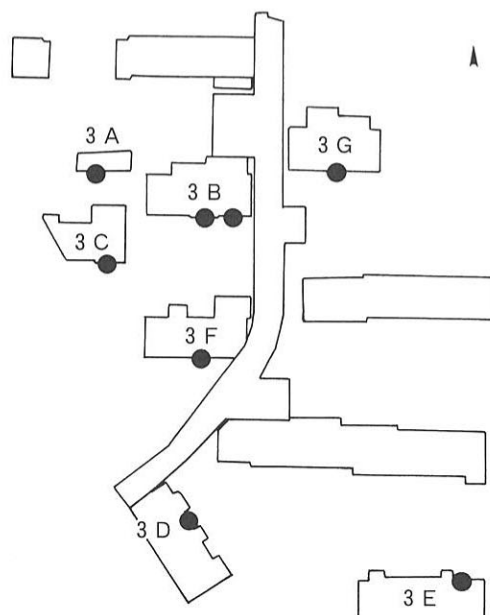
1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 10Y5/2 オリーブ灰色砂質土
4. 10YR6/4～6/6 にぶい黄褐色～明黄褐色シルト <1層>
5. 10YR6/2 しまった灰黄褐色シルト (酸化鉄・マンガン沈着) <2層>
6. 10YR6/1～7/1 褐灰色～灰白色シルト～粘土 (酸化鉄・マンガン沈着) <3層>
7. 10YR6/1 褐灰色 (やや粘質) シルト (酸化鉄多く沈着し10YR5/6 黄褐色を呈す) <4-1層>
8. 5 B6/1 青灰色粘土<4-2層>
9. 10YR6/1～5/1 褐灰色粘土<5層>
10. 10YR6/1 褐灰色中～粗砂<6層>
11. 10YR4/1 褐灰色粘土 (上面に炭化物の薄層) <7層>
12. 10YR6/1～7/1 褐灰色～灰白色粘土<8層>

3 D 区

1. 盛土
2. 10YR7/6 明黄褐色シルト<1・2層>
3. 10YR7/1 灰白色しまったシルト～粘土<3層>
4. 10YR7/1 灰白色しまったシルト～粘土 (φ0.5cmの酸化鉄多く沈着) <3-2層>
5. 10YR6/1～5/1 褐灰色シルト (10YR7/6明黄褐色シルトブロック多く含む) <4-1層>
6. 5 + 7 <4-2層>
7. 10YR7/6 明黄褐色微砂混じりシルト (10YR6/1～5/1 褐灰色シルトブロック含む) <5-1層>
8. 2.5Y7/4 浅黄色微砂混じりシルト (10YR6/1～5/1 褐灰色シルトブロック含む) <5-2層>
9. N7/0 灰白色粘土<6層>

3 C 区

1. 盛土
2. 5 PB3/1 暗青灰色シルト
3. 10Y6/2 オリーブ灰色砂質土
4. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
- 5～8. 10YR6/6 明黄褐色シルト (各層の上面にマンガン沈着) <1～4層>
9. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (やや粘質) <5層>
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗砂<6層>
11. 10BG5/1 青灰色砂質土 (砂多量) <7層>
12. 10YR6/1 褐灰色中～粗砂<7層 (下)>
13. 2.5YR4/1 赤灰色粘土<8層>
14. 10BG4/1 暗青灰色砂質土<9層>
15. 5B4/1 暗青灰色シルト<10層>



半の墓域である。34cm堆積する。

〈水田域〉1層から5層までは基本的に集落域の層序と同じである。それぞれの厚みは1層から16cm、22cm、23cm、33cmである。つづく6層との間に水田域のみ暗青灰色砂質土が16cm堆積する。5層(2)とした。6層は古墳時代末の洪水砂層である。集落域よりも厚く20cm堆積する。7層は水田耕土層である。集落域の黒褐色シルトと分けるため、「7層(2)」とした。暗赤灰色粘土で、14cm堆積する。7層(1)と同じく古墳時代前期の遺物を中心に包含するが、6C後半の須恵器がわずかに含まれている。8層は弥生時代中期後半の遺物包含層である。水田域は青灰色粘質土で、この上面に古墳時代前期の水田が形成される。8層のうち水田域の青灰色粘質土層を「8層(2)」とした。下面は弥生時代中期後半の墓域である。22cm堆積する。

8層以下は集落域・水田域とも緑灰色砂質土層となる。

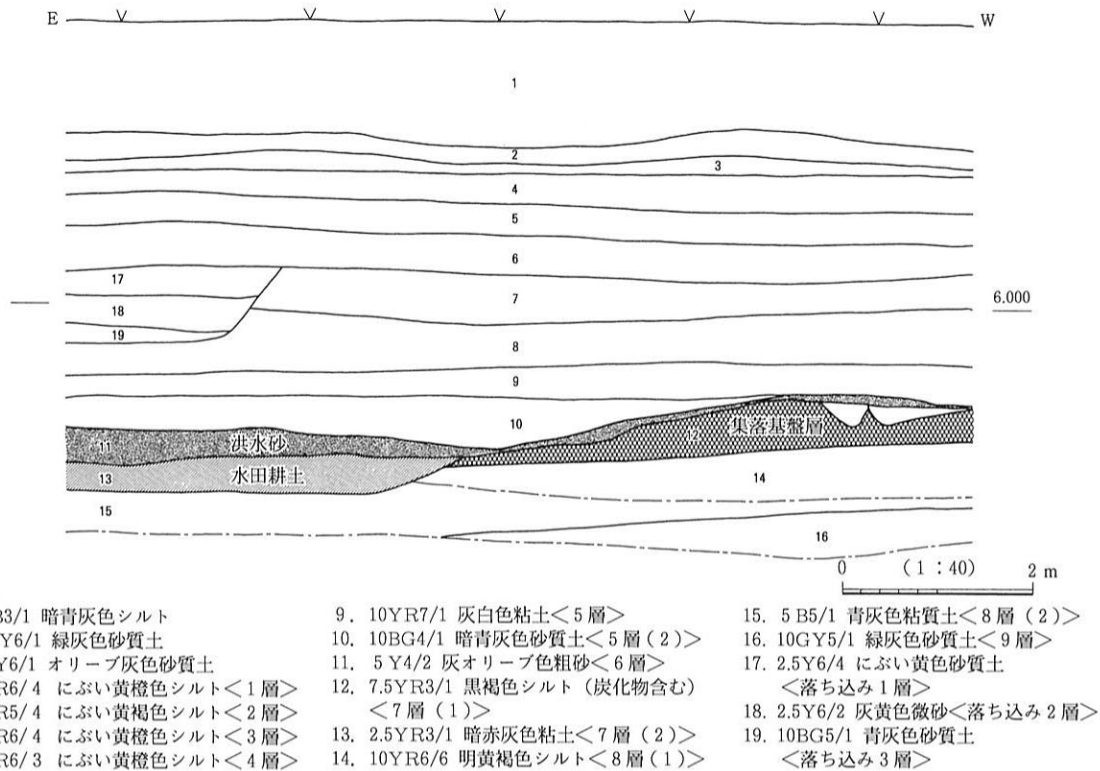
これまでの調査では、古墳時代の集落と水田耕土層との切り合い関係を平面的に確認しただけで、断面による確認ができていなかった。そのため集落と水田との対応関係があまり明確ではなかった。今回の3B区の調査によって、古墳時代の集落と水田耕土層との切り合い関係を、はじめて断面で確認することができた(第5図)。両者の対応関係は、古墳時代後期の集落が形成される黒褐色シルト(7層(1))上に、水田耕土である暗赤灰色粘土(7層(2))がわずかにかぶり、その両層の上面を古墳時代末の洪水砂(6層)が覆う。これにより、黒褐色シルト(7層(1))上に形成された集落は、暗赤灰色粘土(7層(2))を水田耕土として水田耕作を営んでいた。また集落も水田も、古墳時代末の洪水によって廃棄されたことが明確となった。

【3C区】現地盤から約2.8m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約65cmである。

1層から4層は基本的には同色・同質の明黄褐色シルトである。各層の上面にマンガンが沈着するため、4層に分層した。1層は中世から近世の遺物を包含する。2層は11Cから14Cの遺物を包含するが、つづく3層に14C初頭までの遺物が含まれていることから、2層の下限はそれ以降であることがわかる。3層は14Cを下限とする遺物を包含する。4層は11C後半から12C前半におさまる遺物を中心に包含する。それぞれ15cm、11cm、12cm、13cmずつ堆積する。つづく5層はやや粘質のにぶい黄色シルトで、15cm堆積する。奈良時代の遺物を若干含むが、下限は11C初頭である。6層は6C後半の須恵器までを包含する粗砂である。10cm堆積する。7層は砂を多量に含んだ青灰色砂質土で、13cm堆積する。この上面から水田跡を検出している。出土した遺物はわずかに3点であり、時期を判断することはできないが、つづく8層に古墳時代後期までの遺物が含まれていることから、7層はそれ以降であることがわかる。なお、7層と8層との間に粗砂が16cm堆積する(7層(下))。3B区6層に対応する古墳時代末の洪水砂である。8層は古墳時代後期の水田耕土層である。赤灰色粘土で、23cm堆積する。9層は暗青灰色砂質土で17cm、10層は古墳時代前期の遺物包含層である。暗青灰色シルトが30cm堆積する。

【3D区】現地盤から約2.4m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約1.6mである。

1層・2層はやや分層が難しい明黄褐色シルトである。両層合わせて8cm堆積する。1層は中世から近世の遺物を、2層は15Cを下限とする遺物を包含する。3層は上下2層に分層した。上層(3層)は灰白色のしまったシルト～粘土で、下層(3-2層)は直径5mm程度の酸化鉄が多く沈着する灰白色のしまったシルト～粘土である。それぞれ8cm、6cmずつ堆積する。3層は古墳時代の遺物を多く包含するが、確実に12Cから13Cの遺物が含まれる。3-2層はつづく4-1層といっしょに掘削したため、3-2層～4-1層で遺物が上がっている。4-1層は明黄褐色シルトをブロックで含む褐灰色シルト



第5図 3B区土層断面図

である。12cm堆積する。3-2層~4-1層は7C初頭を下限とする遺物を多量に包含する。土師器は古墳時代中期から後期のものが中心で、須恵器はTK23からMT85を中心に、TK217の段階までを含む。4-1層除去後の面で掘立柱建物を主体とする集落跡を検出した。4-2層は4-1層と次の5-1層が混合されたような土色・土質である。4cm堆積する。古墳時代中期後半から後期前半を中心とする遺物を包含する。4-2層除去後の面で竪穴住居を主体とする集落跡を検出した。5層は上下2層に分層した。上層(5-1層)は褐灰色シルトをブロックで含む明黄褐色微砂混じりシルトで、下層(5-2層)は褐灰色シルトをブロックで含む浅黄色微砂混じりシルトである。それぞれ14cmずつ堆積する。両層は古墳時代中期から後期の遺物を包含する。この下層に灰白色粘土の6層が堆積する。

【3E区】現地盤から約2.85m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約110cmである。1層はにぶい黄橙色~明黄褐色のシルトで、12cm堆積する。中世から近世の遺物を包含する。2層は酸化鉄やマンガンが沈着したしまった灰黄褐色シルトで、16cm堆積する。17Cを下限とする遺物を包含する。3層は酸化鉄やマンガンが沈着した褐灰色~灰白色のシルトから粘土で、7cm堆積する。4層は上下2層に分層した。上層(4-1層)は酸化鉄が多く沈着するやや粘質の褐灰色シルトである。13cm堆積する。下層(4-2層)は青灰色粘土で、15cm堆積する。3層と4層には古墳時代の遺物も若干混じるが、12Cを中心に13Cまでの遺物を包含する。5層は褐灰色粘土で、14cm堆積する。下位には粗砂が混じっており、部分的に5-2層とした。6C末から7C初頭の遺物をわずかながら包含する。6層は古墳時代末の洪水砂である。21cm堆積する。6C代の須恵器のほか、小型丸底壺が比較的多く出土している。7層は古墳時代後期の水田耕土層である。褐灰色粘土で、22cm堆積する。上面に炭化物が薄く広がる。木製品が多数出土している。この下層に褐灰色~灰白色の粘土(8層)が堆積する。

【3F区】現地盤から約2.8m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約80cmである。

1層から4層は基本的には同色・同質の明黄褐色シルトである。各層の上面にマンガンが沈着するた

め、4層に分層した。1層は中世から近世の遺物を、2層は中世前半期の遺物を中心に包含する。3層は14Cを下限とする土器を包含するが、1423年初鋳の「朝鮮通寶」が1点出土している。4層は11C後半から13C前半におさまる遺物を中心に包含する。それぞれ8cm、15cm、12cm、14cmずつ堆積する。つづく5層はにぶい黄橙色シルトで、14cm堆積する。古墳時代の遺物を若干含むが、下限は12C後半である。6層は3C区6層と同じく6C後半の須恵器までを包含する粗砂である。8cm堆積する。7層も3C区7層と同じく砂を多量に含んだ青灰色砂質土で、25cm堆積する。6層と同じく古墳時代前期から6C後半の須恵器までを包含する。7層の上面から水田跡を検出している。なお、7層と8層との間に粗砂が薄く堆積する(7層(下))。古墳時代末の洪水砂である。8層は古墳時代後期の水田耕土層である。赤灰色粘土で、19cm堆積する。なお3F区ではつづく9層目の褐灰色粘土も8層として同時に掘削した。水田の床土ともいべき水田基盤層である。この水田基盤層の下に再び有機物が混じった赤灰色粘土が堆積する。古墳時代前期の水田耕土層である。水田耕土層の下には同様に暗オリーブ灰色粘質土の水田基盤層がつづく。

【3G区】現地盤から約2.4m下層まで調査を実施した。機械での掘削層は現地盤から約75cmである。

1層は中世から近世の遺物を包含するにぶい黄褐色粘質土で、25cm堆積する。2層は黄褐色粘質土で、17cm堆積する。同じく中世から近世の遺物を包含する。3層はにぶい黄橙色粘質土で、9cm堆積する。15Cを下限とする遺物を包含する。4層はにぶい黄橙色砂質土で、19cm堆積する。12Cから13Cを中心とする遺物を包含する。5層は青灰色粘土で、20cm堆積する。遺物の出土量は少ないが、確実に土師皿が出土していることから、下限は中世前半期であることがわかる。6・7層は共に古墳時代後期の水田耕土層である。6層は暗赤灰色粘土で、7層は赤灰色粘土である。それぞれ30cm、12cmずつ堆積する。これまで各調査区で報告した古墳時代末の洪水砂は、3G区では5層と6層の間に堆積するはずであるが、検出できなかった。3A区と同じく洪水砂がおよばなかったことが判明する。

なお、7面の調査終了後、下層確認のための深掘り坑を設定して土層観察を行った。その結果、7面から70cm下層に粗砂が16cm堆積していることが判明し、その粗砂除去後の面で足跡状の凹凸を検出した。深掘り坑内のオリーブ黒色粘質土層から弥生時代中期の石庖丁が出土している。

各調査区は接することなく、ある程度の距離をあけるため、若干の土色・土質の違いはみられるが、各調査区の基本層序の対応関係は、基本的には以下のとおりである。

3A区の8層、3B区の7層(2)、3C区の8層、3E区の7層、3F区の8層、3G区の6層が古墳時代後期の水田耕土層としてそれぞれ対応する。

3B区の6層、3C区の7層(下)、3E区の6層、3F区の7層(下)が古墳時代末の洪水砂としてそれぞれ対応する。

(伊藤)

第2節 遺構と遺物

第1項 3A区

2次調査2A区の調査時に、調査地北西隅部に位置する近代溜池の存在が明らかとなり、調査地が2A-1区と2A-2区に分割されたことは前冊で先述したとおりである。昭和20年代に撮影された航空写真によって、この近代溜池が当初設定された3A区にもおよぶことが明らかであったため、大阪府教育委員会の立ち会いのもと、機械により試掘をおこない、近代溜池の範囲を確認したうえで、これの及ばない範囲を新しく3A区として設定した。したがって当初の設計よりもかなり狭い調査区となった。

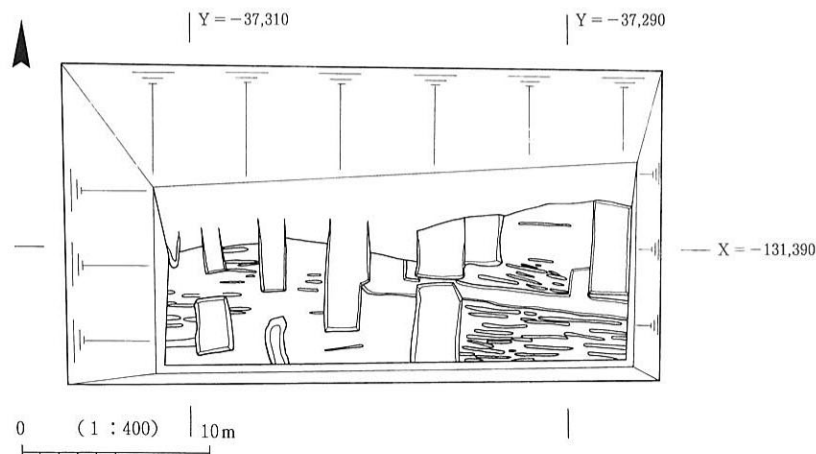
【1面】長方形土坑と鋤溝を検出した（第6図、図版1-1）。

長方形土坑は当調査地内のどこを掘っても検出される遺構である。これまでの調査でもすべての調査区で検出している。この土坑は、①浪商学園が造成される直前の水田耕土直下から掘り込まれている。②幅約1~2m、長さ約10~11mの長方形、あるいは方形の平面形で、深さは浅いものから1.5m前後におよぶものがある。③土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。④土坑の1つ1つは不規則に掘られているわけではなく、上面の水田区画ごとに向きを揃えて掘られている。基本的には1次調査区で検出した坪境の溝（河川1）の東側では東西方向に、西側では南北方向に向く。という特徴をもつことがわかっている。土坑の性格については一般的に「粘土採掘坑」、あるいは「洪水復旧坑」とする説があるが、これまでの調査によって浪商学園が造成される直前まで営まれていた水田耕作と密接な関係をもつ遺構であることが判明している。

当調査区内では南北方向の長方形土坑を数基と、東西方向の土坑を1基検出した。幅は約1mから2.5mのものまでまちまちで、深さは南北方向の土坑が約1.7m、東西方向の土坑が約1mである。土坑の両端を検出していないため、全長は不明。土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10~20cm程度の浅い溝である。溝の向きはすべて東西方向である。〈遺物〉1層からは中世から近世までの土器が出土した（第8図-1~7）。

(8-4)は初期須恵器の高坏蓋である。天井部に刺突紋を配す。混入品である。(8-5)は伊賀丸柱産と思われる急須の口である。(8-6)は13~14Cにおさまる瓦質鍋である。口縁部は受け口状



第6図 1面検出遺構

を呈し、端部を上方へつまみ上げる。内面に横位のハケ目を施す。

【2・3面】鋤溝を検出した。

鋤溝は調査区の全面で検出した。1面検出の鋤溝と同じく、幅10～20cmの浅い溝である。溝の向きも同じく東西方向のみである。

〈遺物〉2・3層からは主に13Cから14Cにかけての土器が出土した（第8図-8～13）。土師皿、瓦器碗、東播系の捏鉢などがある。

【4面】特に顕著な遺構は検出できなかった。東方で溝1条を検出し、実測・写真撮影を行ったが、後に上層で検出した長方形土坑の最下部であったことが判明した（図版1-2）。ちょうどこの面で調査担当者が交代したために生じたミスである。

〈遺物〉4層からは12Cから13Cを中心とした土器が出土した（第8図-14～18）。土師皿、瓦器碗・小皿などがある。ただし、つづく5層から13Cから14Cにあたる瓦質鍋が出土していることから、4層の下限はそれ以降であることが判明する。

【5・6面】特に顕著な遺構は検出できなかった。

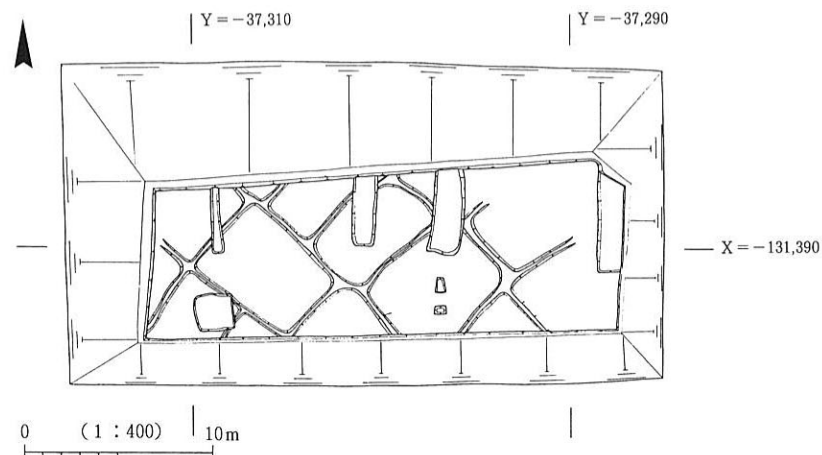
〈遺物〉5層からは14Cを下限とする土器が出土した（第8図-19～21）。瓦質鍋、白磁碗、須恵器坏のほか、図示した以外にも土師皿、瓦器碗などがある。

（8-19）は5層の下限を示す瓦質鍋である。磨滅が著しく角が丸くなっているが、口縁形態は1層出土の瓦質鍋とほとんど変わらない。13～14Cにあたることは先述したとおりである。（8-20）は口縁を玉縁にする白磁碗IV類（青磁・白磁の分類は横田・森田の分類による²⁾。以下省略）。（8-21）は奈良時代の須恵器坏である。なお、6層およびつづく7層からは古墳時代の土師器・須恵器がわずかに出土したが、すべて小片のため図化できなかった。

【7面】他の調査区、およびこれまでの調査でも水田跡を検出している面であるが、当調査区内では明確な水田畦畔は検出できなかった（図版1-3）。

【8面】水田跡を検出した（第7図、図版1-4）。

水田跡は調査区の全面で検出した。小畦畔によって区画された水田跡である。小畦畔は東南から西北方向に通るものと、それらとほぼ直角に交わるものがある。水田の平面形は長方形で、水田1区画の大きさは20～30㎡である。畦畔の幅は30～40cmで、盛り上がりはほとんどない。土色の変化で認識できた。足跡は検出していない。



第7図 8面検出水田跡

<遺物> 8層からは古墳時代前期から7C初頭までの土器が出土した(第8図-22~24)。

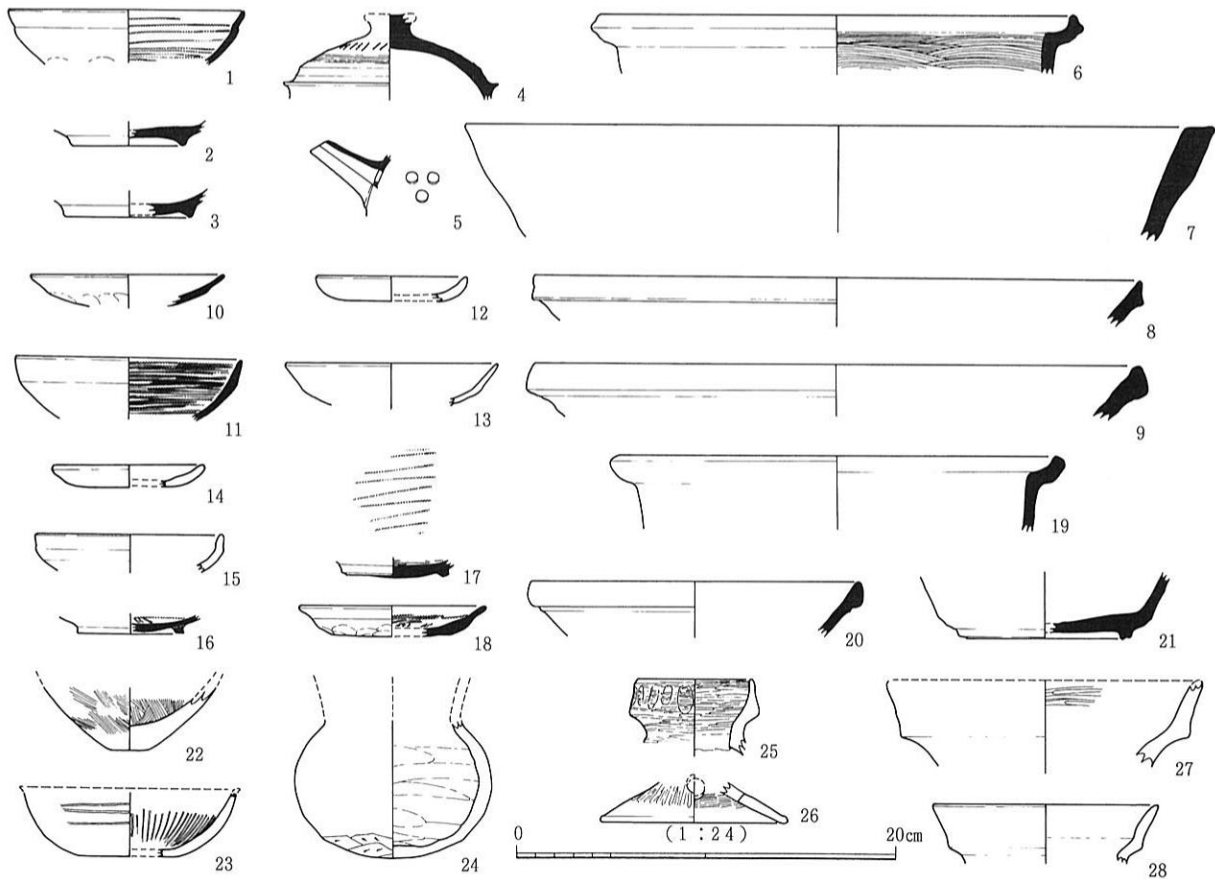
(8-23)は土師器環で、内面には放射状の暗紋が施される。口縁端部は欠損する。6C末~7C初頭にあたる。

【9面】特に顕著な遺構は検出できなかった。

<遺物> 9層からは古墳時代前期を中心とする土師器が出土した(第8図-25~28)。 (伊藤)

註

- 1) 江浦 洋・長原 亘 1995 「近世水田面にみる災害復旧」『大阪文化財研究』第8号 (財)大阪文化財センター、長原 亘 1995 「水田における水災害の対応痕跡について」『大阪文化財研究』第9号 (財)大阪府文化財調査研究センター
- 2) 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4



第8図 3A区出土土器

(1~7:1層、8・9:2層、10~13:3層、14~18:4層、19~21:5層、22~24:8層、25~28:9層)

第2項 3B区

【1面】長方形土坑と鋤溝を検出した。

長方形土坑は調査区の全面で検出した。浪商学園が造成される直前の水田耕土直下から掘り込まれた遺構である。長方形土坑はこれまでの調査によって、1次調査区で検出した坪境の溝（河川1）より西側では主に南北方向に並ぶことがわかっている。河川1よりも西側にあたる当調査区で検出した長方形土坑も、これまでの成果と同じく、やはり南北方向に並んでいることが確かめられた。幅は1～1.5m、長さは7～11mで、深さは深いもので約1.5mを測る。土坑の11mという長さは1坪（1町）の10分の1にあたり、これは上層の水田区画と密接に関係するものであることがわかっている。調査区内は、国土座標 $X = -131,394$ 、 $X = -131,402$ 、 $X = -131,414$ を境として、南北4列に区画され、その区画内に南北に長い土坑が東西に並ぶ。もっとも北の区画と南の2区画内は土坑が密に配されている。土坑と土坑の間隔は狭い部分で約20cmの箇所もある。これに対し、やや南北幅の狭い中央の区画内は、土坑と土坑の間隔が広く、4～5m程度の間隔をあける。土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10～20cm程度の浅い溝で、溝の向きはすべて東西方向である。鋤溝はもっとも北の区画と南の2区画内では、隙間がないほど密に並ぶが、中央の区画内では、約1.5mの間隔をあけて平行して並ぶ溝を7条検出した（第9図、図版2-1）。

〈遺物〉1層からは中世から近世までの土器が出土した（第24図-1）。図示した東播系捏鉢のほか、土師皿、瓦器椀、陶器などがある。

東播系捏鉢（24-1）は11C末～12C前半に位置する。

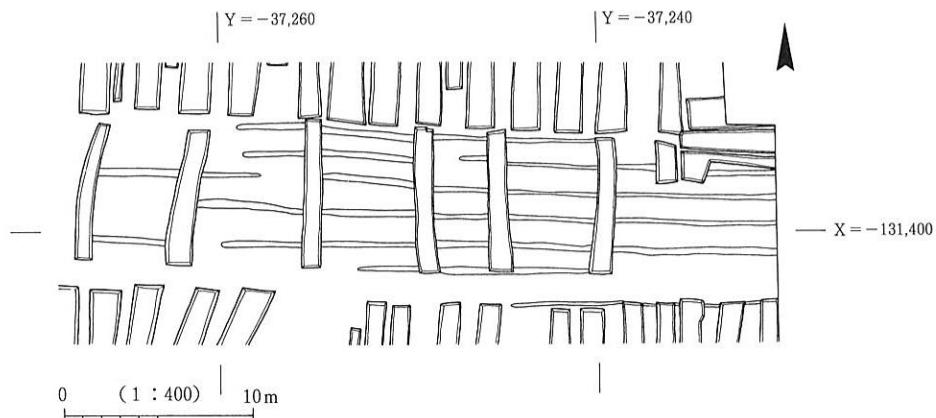
【2面】落ち込みと鋤溝を検出した（第11図）。

落ち込みは調査区の東半部で検出した。東方に向けて落ち込む落ち込みで、西の肩は国土座標 $Y = -37,245$ から $Y = -37,250$ のライン間を南北に蛇行する。落ち込み内は3層に堆積する。上から2.5Y 6/4にぶい黄色砂質土（1層）、2.5Y 6/2 灰黄色微砂（2層）、10BG 5/1 青灰色砂質土（3層）である。落ち込み2・3層の西肩は、落ち込み1層の西肩よりも東に4～14mほどズレた位置を蛇行する（図版2-2）。

落ち込みの1面と3面では、落ち込み内の全面から牛馬の足跡を多数検出した（図版2-2・3）。

落ち込み2面では、土坑1基（土坑1）と穴を多数検出した（第10図、図版2-5・6）。

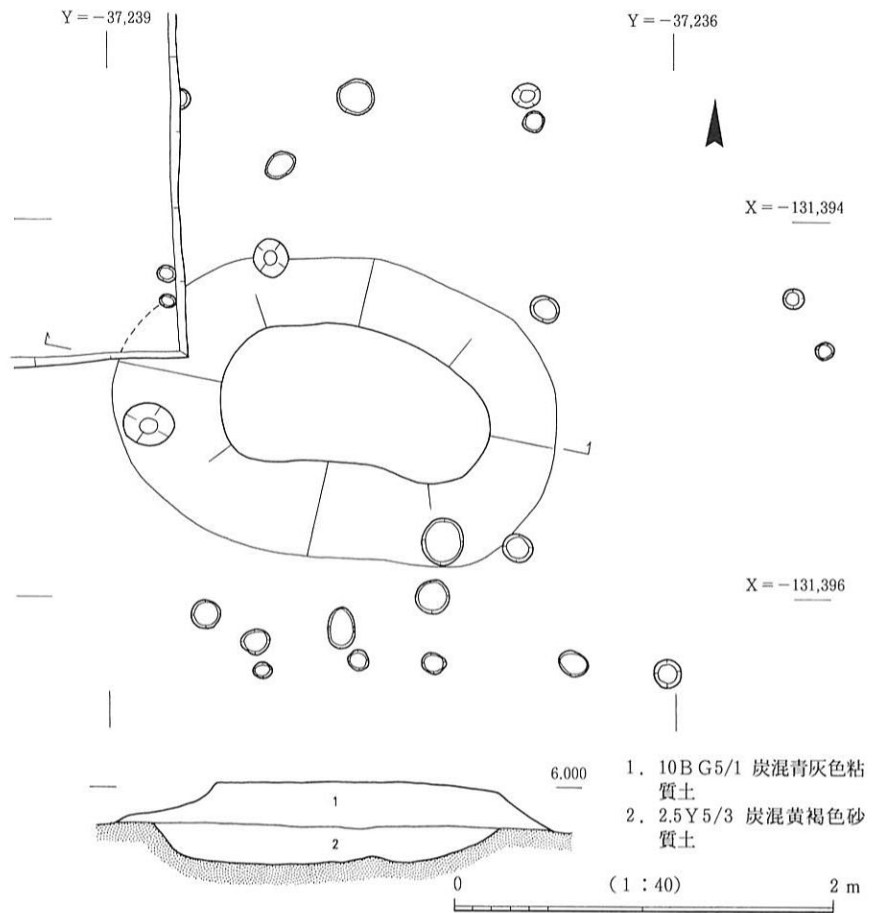
土坑1は、浅い土坑の上にマウンド状に土を盛り上げた遺構である。下部の土坑は平面形が長径1.86



第9図 1面（中央部）検出遺構

m、短径1.29mの楕円形で、深さは20cmである。土坑内は炭が混じった黄褐色砂質土である。上部のマウンドは平面形が長径2.35m、短径1.63mの楕円形で、炭混じりの青灰色粘質土が22cmの高さに盛りあがる。

落ち込み2層掘削後に、土坑の輪郭が明瞭に検出できたため、南半を通常の遺構と同様に掘削を始めたが、土坑の壁は外へ外へと広がっていった。断面の観察により、マウンド状の遺構であることが判明したため、北半では、はじめに周囲の落ち込み3層を除去し、マウンド状の遺構として検出することができた。



第10図 土坑1平・断面図

穴は土坑1の周辺でまとまって22基を検出した。直径10~25cm、深3~20cmの小穴である。土坑1のマウンド部分を切る小穴があることから、土坑1→小穴群という先後関係が判明する。ただし小穴は土坑1の周辺以外では検出していないことから、土坑1に伴う遺構であると思われる、また、時期差も何年という単位ではなく、何時間・何日という程度であったと思われる。

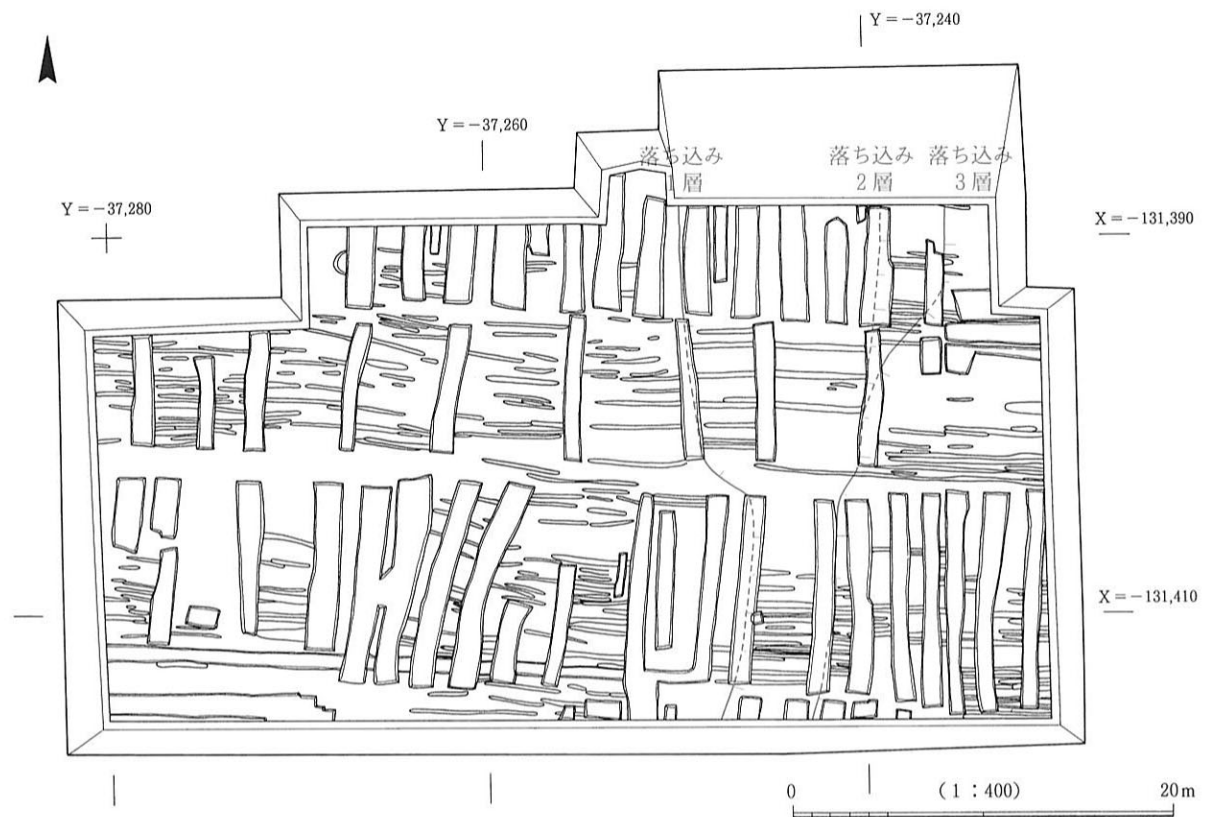
鋤溝は調査区の全面で検出した。上記落ち込みの上面からも検出していることから、落ち込みが埋まった後に掘削された遺構であることが判明する。幅10~20cm程度の浅い溝で、溝の向きはすべて東西方向である。

<遺物> 2層からは10Cから16Cにわたる土器が出土した(第24図-2~8)。2層の下限は16C代である。土師皿、瓦質羽釜、東播系捏鉢のほか、特異なものとして古瀬戸の茶入れ、灰釉陶器碗、瓦質鉢などがある。

(24-4)は2層の下限を示す古瀬戸の茶入れである。頸部が短く、口縁端部のひねり返しが強い。肩の屈曲が明瞭である。胴部は破片下端が内側に屈曲しはじめていることから、扁平な胴部であったことがわかる。鉄釉が内外面に施される。茶入れとしては古い段階の16C前半にあたる。(24-5)は10Cの灰釉陶器碗の底部片である。(24-7)は瓦質鉢で、13C後半に位置する。瓦質羽釜(24-8)は14~15Cにあたる。

東方落ち込みの各層からは11Cから15Cにおよぶ遺物が出土した(第24図-9~16)。土師皿、瓦器碗、東播系捏鉢、瓦質鍋などがある。

(24-10)は落ち込みの下限を示す瓦質鍋である。口縁部はほぼ水平に横に張り出し、端部は低く尖



第11図 2面検出遺構（赤は落ち込み）

る。口縁部上面には浅いU字状の溝ができる。14C末～15C前半に位置する。

なお、落ち込み1層から「元豊通寶」(24-16)が1枚出土した。

土坑1からは瓦器碗と東播系捏鉢が出土した(第29図1-2)。瓦器碗(29-2)は14C、東播系捏鉢(29-1)は12C末～13C初頭に位置する。

【3面】鋤溝を検出した(図版2-4)。

鋤溝は調査区の全面で検出した。2面と同様に、東西方向の細溝である。

<遺物>3層からは13Cを中心として、14Cまでの土器が出土した(第24図-17~23)。土師皿、瓦器碗、東播系捏鉢などがある。

瓦器碗(24-19~23)は13C前半から14C初頭にかけての各段階のものがある。下限は14C初頭である。

【4面】溝1条(溝22)と足跡を検出した(第12図、図版2-7)。

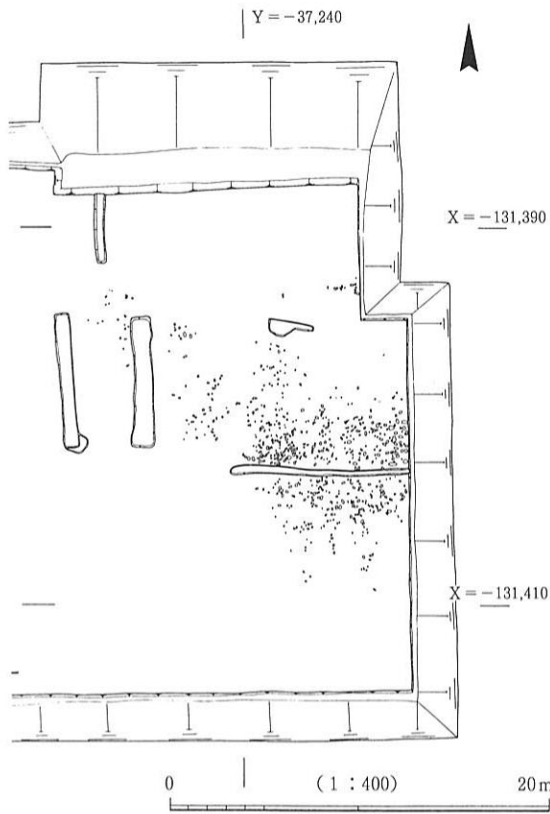
溝22は調査区の東端で検出した。幅約40cm、深さ約5cmの東西溝である。

足跡は調査区の東端、溝22の周辺で検出した。牛馬の足跡である。

西半部では顕著な遺構は検出できなかった。

<遺物>4層からは12Cを中心とした土器が出土した(第24図-24~38)。土師皿、瓦器碗・小皿、黒色土器碗、東播系捏鉢などがある。

瓦器碗のほとんどは12C前半におさまるものであるが、(24-26・37)は13C前半に下る。土師皿のいくつか(24-34・35)は11C末～12C初頭に位置する「ての字状口縁」皿である。(24-32)はこの「ての字状口縁」皿とまったく同じ形態を示す瓦器小皿である。土師皿と同時期と思われる。(24-29)は10Cに位置する黒色土器碗である。高台は細くハの字状に開く。A類である。東播系捏鉢(24-38)



第12図 4面検出遺構

て東の1/3が水田跡である。溝はそれらの集落域と水田域、あるいは集落と集落とを区画するものである。

集落跡は東と西の両水田跡に挟まれた調査区の中央部1/3が範囲である。この範囲には水田耕土層が及ばず、黒褐色を呈する。建物跡等の集落跡と断定できる遺構は検出していないが、当調査区の北側に接する1次調査A区、及び2次調査2A区、4次調査区では、対応する黒褐色土層上面で6世紀後半の建物跡を検出していることから、当調査区の黒褐色部も集落跡の一部であったことは明らかである。

なおこの集落域からは、落ち込み2基(落ち込み1・2)と溝1条(溝3)を検出したが、それらはすべて下層の遺構の影響をうけたものであることが確認されている。

落ち込み1・2は集落域の北方で検出した。落ち込み1は長径7m、落ち込み2は長径5mの不整形な平面形を呈し、約20cm程度落ち込む。両者は下層の7面で検出した竪穴住居跡3・2とそれぞれ重なっていることから、竪穴住居跡の上層にできた窪地であったことが判明した。

溝3は落ち込み1の東辺に重なる溝であるが、これは落ち込み1を若干掘りすぎたために現われた竪穴住居跡3の周溝であることが、これもつづく7面の調査によって判明した。

溝2は中央集落域の西限を区画する南北溝で、この溝より西側を水田域とする。調査区の北壁から南壁までつづき、調査区外へと延びる。溝の幅は北壁付近では3.5mであるが、中央部では1.3mに狭まる。次に報告する溝1が分岐する箇所から南は、再び幅を広げ6mとなる。深さは約10cmである。溝の両側から杭列を検出した。護岸のための杭である。杭列間は約4.5mあり、これが本来の溝2の幅であったことが判明する。東側の杭列は途中から検出できていないが、西側の杭列は溝2に沿って調査区の南端から北端まで検出できた。国土座標Y = -37,265のライン上を一直線に通る。

溝1は中央集落域を北と南とに分ける区画溝である。溝2から分岐し、東南方向に延びる。北方の集

も11C末～12C前半におさまる。

土器以外に石製品が1点出土した(第23図-3)。扁平な円形の叩き石である。古墳時代の混入品と思われる。

4面からは馬鍬の鉄歯が2本出土した(第24図-39・40)。(24-39)は長さ19.8cm、(24-40)は21.1cmである。

【5面】砂層の上面にあたるため、特に顕著な遺構は検出できなかった。

<遺物>5層からは7Cから8Cを中心に11Cまでの土器が出土した(第24図-41～45)。

(24-42)は5層の下限を示す黒色土器碗である。内面のミガキ、外面の分割ミガキとも隙間なく密に施す。11C代に位置する。(24-44・45)は奈良時代の須恵器壺で、(24-41・43)はそれらより若干古い須恵器摺鉢と提瓶である。

【6面】集落跡と水田跡、および溝2条(溝1・2)を検出した(第13図、図版3-1)。大まかな遺構の広がり、西の1/3が水田跡、中央部1/3が集落跡、そして

東の1/3が水田跡である。溝はそれらの集落域と水田域、あるいは集落と集落とを区画するものである。

集落跡は東と西の両水田跡に挟まれた調査区の中央部1/3が範囲である。この範囲には水田耕土層が及ばず、黒褐色を呈する。建物跡等の集落跡と断定できる遺構は検出していないが、当調査区の北側に接する1次調査A区、及び2次調査2A区、4次調査区では、対応する黒褐色土層上面で6世紀後半の建物跡を検出していることから、当調査区の黒褐色部も集落跡の一部であったことは明らかである。

なおこの集落域からは、落ち込み2基(落ち込み1・2)と溝1条(溝3)を検出したが、それらはすべて下層の遺構の影響をうけたものであることが確認されている。

落ち込み1・2は集落域の北方で検出した。落ち込み1は長径7m、落ち込み2は長径5mの不整形な平面形を呈し、約20cm程度落ち込む。両者は下層の7面で検出した竪穴住居跡3・2とそれぞれ重なっていることから、竪穴住居跡の上層にできた窪地であったことが判明した。

溝3は落ち込み1の東辺に重なる溝であるが、これは落ち込み1を若干掘りすぎたために現われた竪穴住居跡3の周溝であることが、これもつづく7面の調査によって判明した。

溝2は中央集落域の西限を区画する南北溝で、この溝より西側を水田域とする。調査区の北壁から南壁までつづき、調査区外へと延びる。溝の幅は北壁付近では3.5mであるが、中央部では1.3mに狭まる。次に報告する溝1が分岐する箇所から南は、再び幅を広げ6mとなる。深さは約10cmである。溝の両側から杭列を検出した。護岸のための杭である。杭列間は約4.5mあり、これが本来の溝2の幅であったことが判明する。東側の杭列は途中から検出できていないが、西側の杭列は溝2に沿って調査区の南端から北端まで検出できた。国土座標Y = -37,265のライン上を一直線に通る。

溝1は中央集落域を北と南とに分ける区画溝である。溝2から分岐し、東南方向に延びる。北方の集

落にとっては南限の、南方の集落にとっては北限の溝ということになる。これにより、これまでの1次調査A区、2次調査2A区で検出した集落跡の南限が確定したことになる。なお、調査区東側に接する1次調査B区では、その延長上に同規模の溝を検出していないことから、溝1は途中で南に向きを変えて、南北方向の溝となっていたことが推定できる。つまり溝1は、集落域を2分する区画溝であったのと同時に、調査区の南方では集落域の東限の溝として、溝2と同じく水田域との境の役目も果たしていたことが推定できる。溝の幅は溝2と接する箇所では約7mを測るが、それ以外の箇所では2.5m前後である。深さは5～10cmであるが、南方の集落跡と溝底との高低差は20～40cmとなる。溝内はすべて粗砂である。調査区東方で検出した水田大畦畔とちょうど接する部分から、堰状の施設を検出した(第14図、図版3-4)。溝中に木杭を打ち、それに縦木・横木を渡したものである。水口の施設であったと思われる。部材には加工痕を残すものもあり、何らかの転用材が使われていたことがわかる。

水田跡は調査区の西と東とに分かれる。

西方の水田跡は溝2より西側を範囲とする。この範囲のうちの東南部から水田小畦畔を検出した。西南から東北方向に向けて直線的に伸びる畦畔と、それとほぼ直角に交わる畦畔とによって水田が区画される。幅は40～70cmで、わずかな盛り上がりがある。この畦畔の周辺からは、ヒト・牛馬の足跡が密集して検出された。これに対し、水田域の西北部は足跡が希薄であり、水田畦畔も検出できなかった。

東方の水田跡は集落域との境が明瞭ではなく、境に溝等の施設を設けた痕跡もない。緩やかな傾斜の途中から水田域がはじまっている。調査区の東1/3をその範囲とする。大畦畔と小畦畔によって区画された水田跡である。大畦畔は東側水田域の北端と南端で検出した。北の大畦畔は東西方向に伸び、西端は集落域に達する。幅は約1.5mで、約5cm程度の盛り上がりをもつ。南の大畦畔は調査区の東壁から西南方向へまっすぐ伸び、溝1に接する。この溝1と接する箇所に堰を設けていることは先述したとおりである。畦畔の幅は1.4～1.9mで、約10cm程度に盛り上がる。

両者とも畦畔上面が酸化しており、橙色を呈す。

小畦畔は、主に北の大畦畔より南側で検出した。北側にも1条の小畦畔の痕跡を検出したが、明瞭ではない。2条の大畦畔に挟まれた範囲内では、小畦畔は北の大畦畔に規制され、基本的に東西・南北に伸びる。ただし溝1に沿った1条は斜行するため、水田の平面形は長方形や不整形なものとなる。水田1区画の大きさも、20㎡程度のものから40㎡のものまでまちまちである。南の大畦畔より南側では、小畦畔は南の大畦畔に規制されて、東南から西北方向に斜行するものと、それとほぼ直角に交わるものに変わる。小畦畔の幅は約40～60cmで、わずかに盛り上がりを残すものもある。

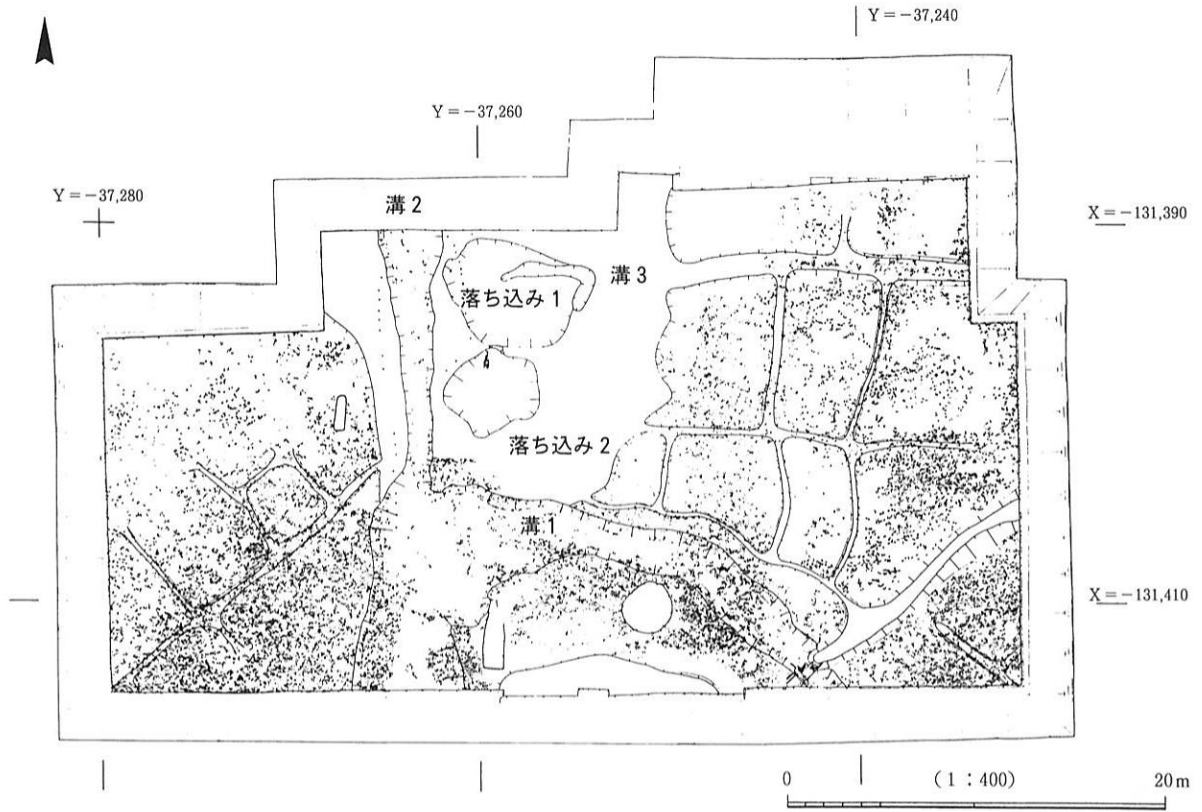
北の大畦畔より南側では、密集するヒト・牛馬の足跡を検出した。北側は希薄である。

調査区南壁で計測したところ、集落と東西水田域との高低差は約30mであった。

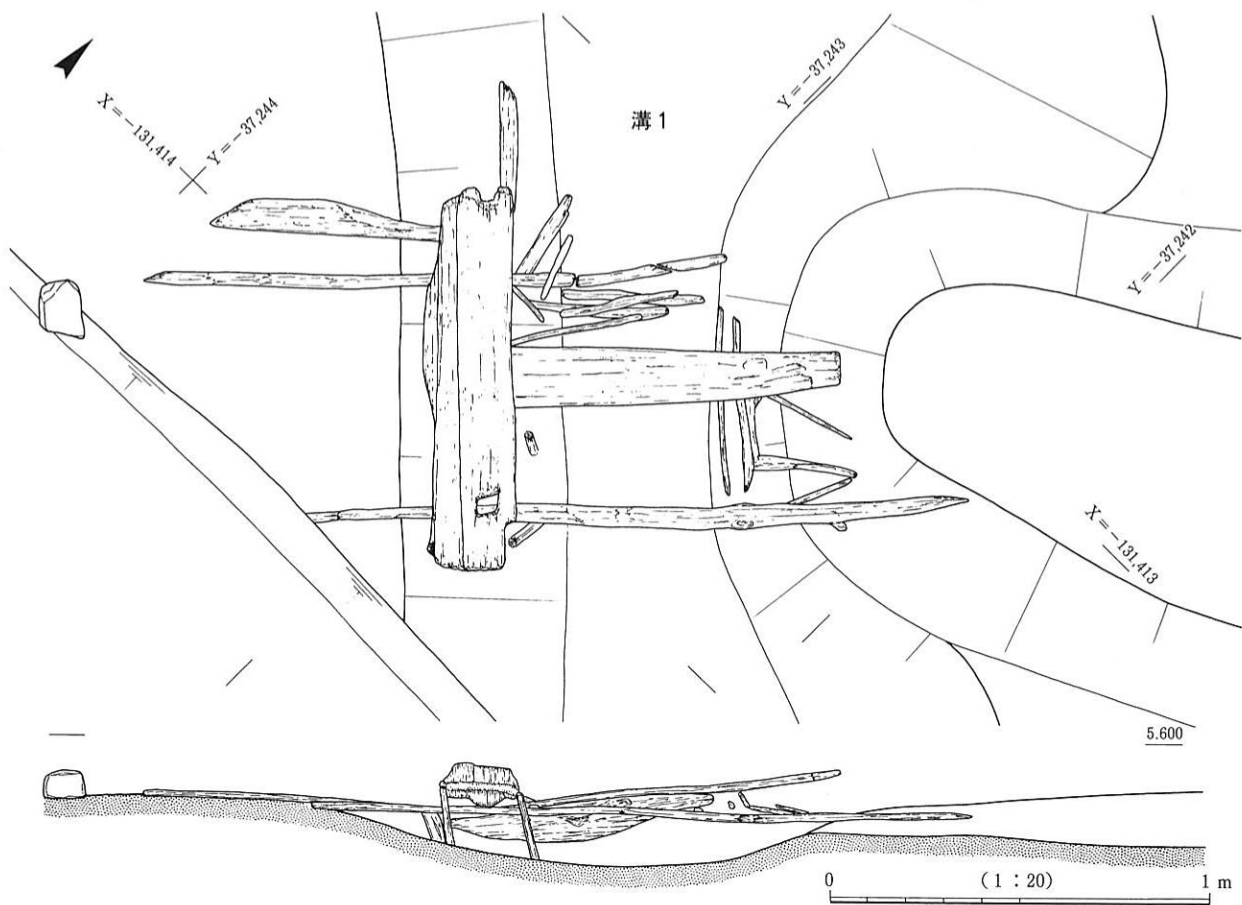
<遺物> 6層からは古墳時代前期から後期におよぶ土師器、須恵器が出土した(第24図-46～59)。土師器は古墳時代中期から後期のものはわずかで、前期、特に庄内式期のものが大半を占める。出土量はごく僅かであるが、6C後半の須恵器が確実に含まれる。土師器には甕、壺、小型丸底壺鉢、高坏などが、須恵器には坏身がある。

(24-46)は東部瀬戸内系の庄内式期二重口縁壺である。(24-51)は口縁端部を内側に把厚させる布留式期の特徴を残す甕である。頸部のナデが明瞭で、雑な作りである。(24-58)は庄内式期の甕である。外面のタタキ目が通常とは異なり左上がりである。(24-50)は6C後半の須恵器坏身である。

土器以外に、土錘(23-1)が1点出土した。



第13図 6面検出遺構



第14図 溝1 堰平・立面図

溝1からは古墳時代前期から後期におよぶ土師器、須恵器のほか、弥生土器が出土した(第29図-3~30)。6層の出土状況と同じく、土師器は古墳時代中期から後期のものはわずかで、庄内式期のものが大半を占める。須恵器は溝の上層から少量出土した。土師器には甕、壺、鉢、小型丸底壺、小型器台、高坏、甗などが、須恵器には坏身、甕がある。

(29-6)は庄内式期の甕である。体部内面は粗いハケ状のナデで、外面はタタキの後に細かいハケ目調整が施される。口縁内外面も細かいハケ目である。端部はやや尖り気味に丸くおさめる。(29-11)は庄内式期の高坏脚部である。内面の調整は行われず成形時の痕跡を残す。外面には縦位のミガキを施す。(29-12)は古墳時代中期~後期の甗把手である。明らかに前期を下るものは、土師器ではこの1点だけである。弥生土器高坏(29-7)、壺片(29-23・24)はすべて弥生時代中期後半におさまる。

土器以外に石製品が5点出土した(第23図-5~9)。

(23-5)は砂岩製の石杵、(23-9)は玢岩製の台石である。前者の先端面は台石と磨り合ったために平滑となり、やや赤味を帯びる。両者がセットとなり、朱の加工に用いられたものと思われる。(23-8)は砥石である。

溝2からは庄内式期の土師器が出土した。甕、壺、小型器台、高坏などがある(第29図37~58)。

(29-39)は内面にケズリを施す河内の庄内甕である。高坏(29-47)は外面の縦位ミガキの下に、かすかに縦位のハケ目が観察できる。(29-48)は東部瀬戸内系の二重口縁壺。有孔鉢(29-57)は底面に木葉痕が残る。(29-58)は弥生時代後期の鉢に付く耳状把手である。

落ち込み1からは弥生土器と庄内式期の土師器のほか、砥石が1点出土した(第29図-31~36)。

(29-31)は弥生時代中期後半の高坏、(29-32)も同時期の壺である。砥石(23-4)は細い板状を呈す。

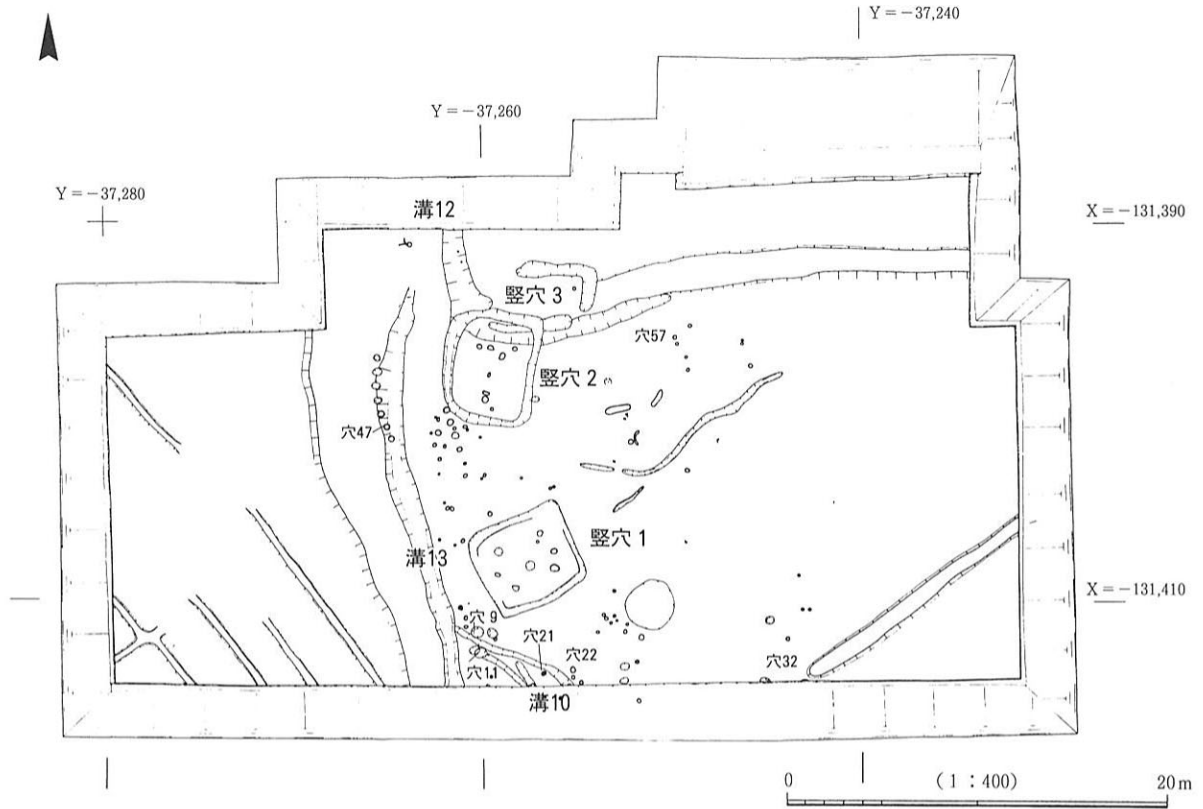
【7面】集落跡と水田跡を検出した(第15図、図版4-5)。

集落跡は6面検出の集落跡と同じく、調査区の中央部で検出した。集落跡からは竪穴住居跡3基(竪穴1~3)のほか、溝数条(溝10・12・13ほか)、小穴多数(穴11・21・32ほか)を検出した。

竪穴1は集落域の南半で検出した竪穴住居跡である(第16図、図版5-2)。周溝と支柱穴4つ、棟持柱穴2つを検出した。周溝は非常に浅く、内側の溝肩が検出できない箇所もある。幅は30~40cmである。住居跡の平面形は東西にやや長い長方形で、東西幅5.35m、南北幅4.94mを測る。向きは北で西に約25度振れる。支柱穴は直径30~40cm程度の円形、ないしは楕円形で、深さは約20cmを測る。柱間は東西が2.4m、南北が2.1mである。棟持柱穴は南北の支柱穴間を結んだラインから約40cm外側で、東西に1つずつを検出した。東西の中軸線上にちょうど重なる。これにより、当竪穴住居跡の棟が東西方向であったことが判明する。なお住居跡内の中央やや南よりで、直径50cm、深さ9cmの浅い土坑を検出した。

竪穴2は集落域の北半で検出した竪穴住居跡である(第17図、図版5-3)。周溝と支柱穴2つを検出した。北辺を除く3辺の周溝は残りが良好で、溝の壁がほぼ垂直のU字状を呈す。深さは約20cmを測る。幅は40~70cmである。住居跡の平面形は南北にやや長い長方形で、東西幅4.85m、南北幅6.15mを測る。向きは北で東にわずかに振れる。支柱穴は北辺の2つを検出した。直径37cmの円形で、非常に浅い。柱間は東西1.9mを測る。次に報告する竪穴3と重複する。周溝の切りあい関係から、竪穴2が竪穴3を切っていたことが判明する。この竪穴住居跡上にできた落ち込みが、6面検出の落ち込み2である。

竪穴3は竪穴2の北側で検出した竪穴住居跡である(第17図、図版5-3)。西辺を除く3辺の周溝



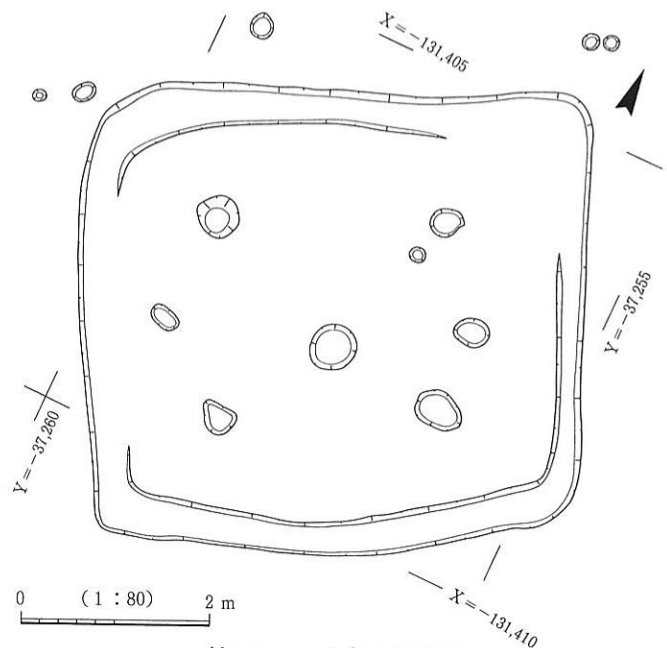
第15図 7面検出遺構

のみを検出した。東辺と北辺の周溝は、6面検出の落ち込み1を若干掘りすぎたために、既に溝3として検出されていた溝である。住居跡の平面形は東西にやや長い長方形で、向きはほぼ国土方位にのる。南北幅は3.9mを測るが、西辺の周溝を検出していないため東西幅は不明。南辺の周溝は竪穴2と重複し、竪穴2に切られる。周溝の幅は約70cmで、深さは約10cmを測る。この竪穴住居跡上にできた落ち込みが、6面検出の落ち込み1である。

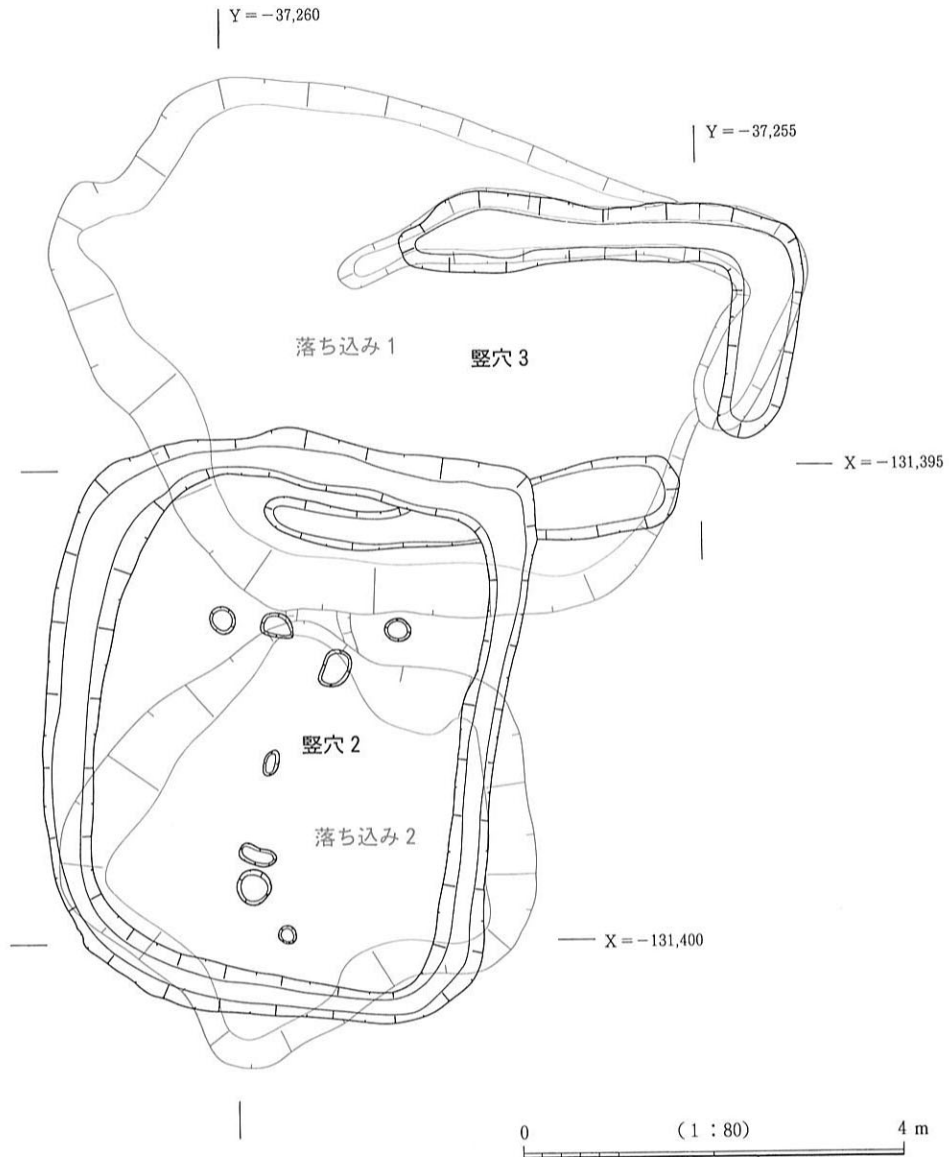
溝13は竪穴1～3のすぐ西側で検出した。6面検出の溝2とはほぼ重なる南北溝である。この溝より西側に幅2～4m程度の遺構空白地を設け、それ以西を水田域とする。集落域の西限を区画する役割を果たしていたことが窺える。幅0.8～1.4m、深さ約10cmで、わずかに蛇行しながら南の調査区外へとつづく。溝の北端部は浅くなり、検出できなくなった。

溝12は調査区北壁からL字状に蛇行する溝である。竪穴2・3と重複し、両者に切られる。幅0.9～1.4mで、深さは北壁際で約35cmを測る

溝10は集落域南端で検出した細溝である。東南から西北方向に斜行する。幅30cm、深さ10cmである。溝10周辺から同規模の細溝を3条検出した。なお同規模の細溝は、当調査区



第16図 竪穴1平面図



第17図 竪穴 2・3 及び落ち込み 1・2 平面図 (赤は落ち込み)

の北側に接する 1 次調査 A 区、及び 2 次調査 2 A 区、4 次調査区でも多数検出している。穴 11 と重複し、穴 11 に切られる。

小穴は集落域のほぼ全面で検出した。特に調査区南端部でまとまって検出した。建物跡としてまとまるものはないが、建物の柱穴であった可能性があるものもある。

穴 11 は調査区南端部で検出した (第 18 図、図版 4 - 2)。平面形は長辺 60 cm、短辺 47 cm の隅丸の長方形を呈し、深さは 35 cm を測る。溝 10 と重複し、溝 10 を切る。これまでの調査、および 4 次調査で検出した 6 C 後半の柱穴と同規模であるが、出土した遺物からはそこまでは下らず、他の柱穴よりも若干新しい布留式期の遺構であることが判明する。

完形の小型丸底壺など、庄内から布留式期にかけての土師器が出土している。

穴 21 も調査区南端部で検出した (図版 3 - 5)。平面形は長径 32 cm、短径 20 cm の楕円形を呈し、深さは 11 cm を測る。底面には小礫を敷きつめる。この特徴を示す小穴はこれまでの調査でも多数検出している。礫は柱の礎石としていた可能性がある。

穴 32 は東方の水田大畦畔のすぐ北側で検出した (第 18 図、図版 4 - 1)。直径約 24 cm の円形を呈し、

深さは14cmを測る。布留式期の高環が出土した。

水田跡は6面と同様に、調査区中央部の集落跡を挟んで東と西に分かれる。

東方の水田跡では調査区東南隅に大畦畔1条を検出した。6面で検出した大畦畔から南に約50cmほど平行にズレた位置にあたる。幅は0.8~1.2mで、約10cm程度の盛り上がりをもつ。大畦畔の北側には水田耕土層は及ばず、畦畔のすぐ北側まで小穴が広がっている。おそらくこの大畦畔が集落域と水田域との境を成していたと考えられる。したがって、大畦畔の南側が水田域ということになるが、小畦畔は検出できなかった。

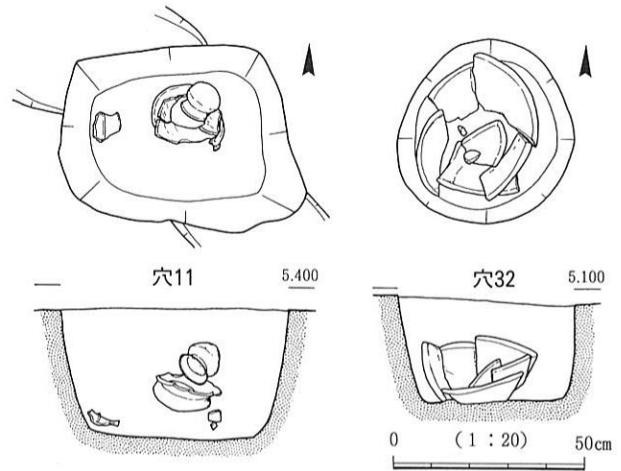
なお調査区の東北部でも、6面検出の大畦畔と同じ位置に畦畔を検出した。6面検出の大畦畔とはほぼ同規模の畦畔である。ただし、この周辺からは水田小畦畔や水田耕土、あるいは足跡など水田跡と断定できる痕跡は検出しておらず、水田畦畔であったとするには疑問が残る。畦畔の性格は不明。

西方の水田跡は6面検出の水田跡とほぼ同じ範囲である。小畦畔によって区画された水田跡である。小畦畔は東南から西北方向に向かって通るものと、それらとほぼ直交するものがある。前者の畦畔はそれぞれ2.5~3mの間隔をあけてほぼ等間隔に平行して並ぶ。4条を検出した。後者の畦畔がそれら平行して並ぶ畦畔間をつなぐことによって水田1つ1つが区画されるのであるが、畦畔の盛り上がりはほとんど残っておらず、土色の変化を手がかりに検出したため、検出し切れなかった畦畔が多い。後者の畦畔は1条を検出したにとどまった。畦畔の幅は約50cmである。足跡は検出できなかった。

<遺物>7層は集落域の黒褐色土部を7層(1)、水田域の水田耕土を7層(2)と分け、遺物を取り上げた。なお、一覧表の「7面」とは7層(1)除去後の面である。両層からは古墳時代前期から後期におよぶ土師器、須恵器のほか、弥生土器が出土した(7層(1)および7面:第25図・第26図-1~7、7層(2):第26図-8~14)。

土師器はすべて古墳時代前期におさまるものである。庄内式期を主とする。(25-15)は外面にタタキを施す庄内式期の甕であるが、外面のタタキ目が通常とは異なり左上がりである。底面に2枚葉の木葉痕が残る。(25-22)は庄内式期の二重口縁壺としたが、実際には広口壺の口縁部外面に三角形の凸帯を貼り付け、二重口縁壺のような外観としたものである。(25-24)は布留式期の直口壺である。外面肩部に横ハケ、内面にケズリを施す。(25-25)は布留式期の小型丸底壺である。体部外面下半に縦位、上半に横位のミガキを施す。内面はナデである。(25-27)は手づくねの小壺である。(25-28)は平底の鉢、あるいは壺である。全体像がつかめず詳細は不明。外面にタタキを施す。(25-29)は庄内式期の壺である。外面下端部にわずかにタタキの痕跡が残る。有孔鉢には外面にタタキがあるもの(25-36~39)とないもの(25-34・35)の2種がある。(25-45)はおそらく有段の器台である。高環状の長い脚柱部をもち、孔が貫通する。脚柱部のミガキはハケ目の上に施される。(25-46)は脚部が大きく広がる椀形の高環である。(26-14)は東部瀬戸内系の二重口縁壺である。いずれも庄内式期に位置する。

須恵器は7層(1)と7層(2)の両層から数点ずつが出土している。蓋環(25-1、26-8)、甕



第18図 穴11・32平・立面図

(25-2)、高坏(26-9)がある。いずれも6C後半に位置する。

弥生土器はすべて弥生時代中期後半におさまるものである(第26図-1~7)。壺、甕、高坏などがある。壺(26-4)の肩部には2本線で斜格子紋が描かれている。

土器以外に土玉(第23図-2)が1点出土した。

竪穴住居跡1の周溝から庄内式期の壺小片が出土した(第30図-4)。内面に横位のミガキを施す口縁部片である。口径が小さいことから、二重口縁壺と思われる。

穴11からは庄内式期から布留式期の土師器が出土した(第30図-10~15)。出土した土器は時期幅もつが、下限は布留式期の後葉である。甕、小型丸底壺、二重口縁壺がある。

(30-10)は布留式期の小型壺である。体部外面下半はケズリで仕上げ、上半から口縁部内外面にかけて粗い横位のミガキを施す。(30-11)は外面タタキの庄内式期の甕、(30-12~14)は布留式期の甕、(30-15)は布留式期の二重口縁壺である。

そのほか、穴32・47からは布留式期の高坏(30-8・9)、穴22・9からは庄内式期の甕(30-5・6)、穴57からは弥生時代中期後半の甕(30-7)が出土した

溝13からは古墳時代前期の土師器とわずかに弥生土器が出土した(30-19~40)。土師器には甕、壺、鉢小型器台のほか、特異なものとして鼓形器台がある。

(30-24)は庄内式期の甕である。外面のタタキ目がナデ消され、かすかに観察できる程度となる。口縁端部はわずかに上方につまみ上げる。(30-28)は山陰系の鼓形器台である。(その3)の調査ではこの1点のみ出土した。(30-35)は口縁部外面にヘラ描きの鋸歯紋を刻む二重口縁壺で、内面は光沢をもつ漆黒色を呈す。(30-36)は東部瀬戸内系の二重口縁壺である。いずれも庄内式器に位置する。(30-32)は庄内式期の有孔鉢である。丸底で、底部に小円孔を穿つ。外面はナデ調整で仕上げる。(30-38)は布留式期の丸底の鉢である。内外面にハケ目を施す。なお、図示できなかったが、河内の庄内甕が1点出土している。

溝10・12からは、それぞれ弥生時代中期後半の壺(30-16)、高坏(30-17)が出土した。

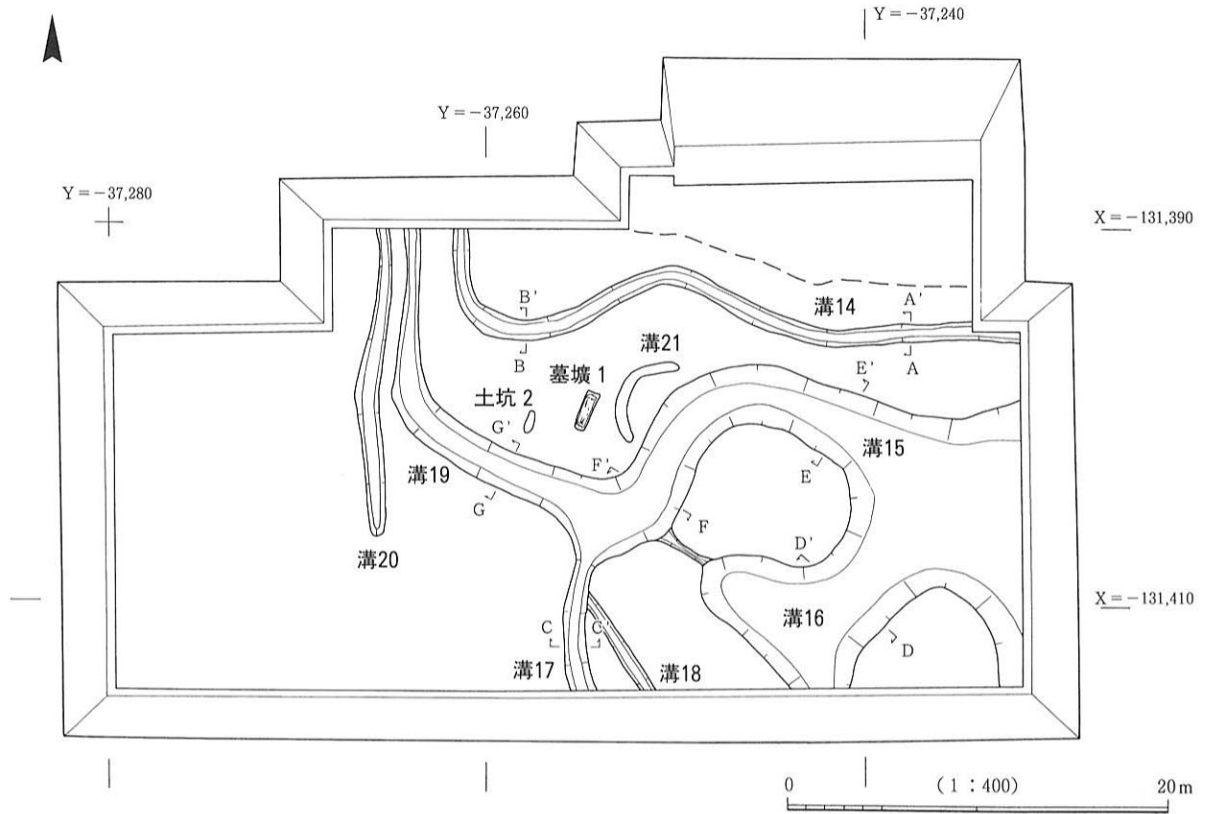
【8面】木棺墓1基(墓壙1)、土坑1基(土坑2)、溝8条(溝14~21)を検出した(第19図、図版5-5)。これらは、当調査地内ではじめて検出した弥生時代中期後半の遺構である。

墓壙1は木棺墓である(第20図、図版5-4)。調査区のほぼ中央で検出した。長辺2.25m、短辺65cmの長方形の掘方に、長辺1.93m、幅53cm、厚さ8cmの木棺の底板が納められていた。底板の樹種は高野槇である。底板の木口側両端には、上面に20~25cmの長さにわたって側板をのせるための段が設けられている。側板は残存しない。

土坑2は調査区中央部、墓壙1のやや西で検出した(第21図、図版2-8)。平面形は長さ1.0m、幅35~50cmの歪んだ楕円形で、深さは7cmの浅い土坑である。鋤の身部が出土した。鋤は身と柄を一木から作りだす一木鋤である。柄部と刃部を欠損する。身は角肩で、幅12cm、長さは31cmまでが残存する。柄は直径2.5cmで、身から20cmまでが残存する。鋤は腐食が著しく、取り上げることができなかった。

溝14~21は調査区の東2/3で検出した。西方には及ばない。各々は蛇行し、合流、あるいは分岐しながら広がる。

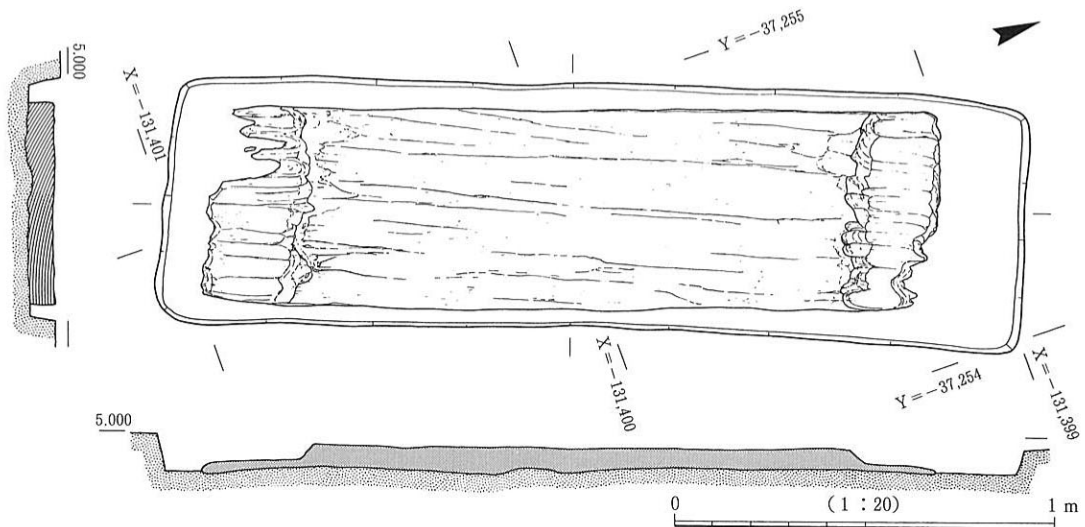
溝14は調査区の北壁から東壁に向かってL字状に蛇行する溝である。幅約1m、深さ25~35cmで、溝内は2層に堆積する。上層が暗灰色シルト、下層が暗灰色シルトが混じる暗オリーブ灰色シルトである。



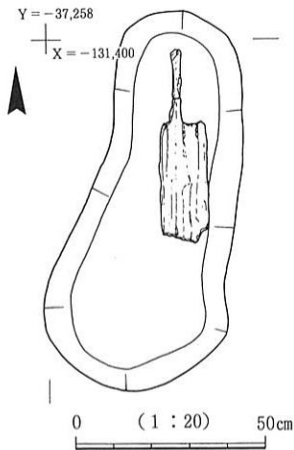
第19図 8面検出遺構

溝15は溝19と一連の溝であるが、遺物取り上げ等、調査の都合上便宜的に東半を溝15、西半を溝19とした。溝14と同様に、調査区の北壁から東に向かって蛇行しながら延び（溝19）、調査区中央付近で大きく北に流れを変えて東壁へとつづく（溝15）。溝の幅は北壁付近では70cm程度であるが、途中で2.5～3.2mへと広がり、東壁際では幅9m以上にもなる。溝19の段階では深さ32cmを測るが、溝15になると深さ15～20cmと若干浅くなる。溝内は2層に堆積する。上層が暗オリーブ灰色粗砂、下層が暗オリーブ灰色シルトである。上層の暗オリーブ灰色粗砂は平面的にも明瞭に検出できた。

溝16は、溝15とつながる溝である。溝15が東端で広がっている部分、および溝19が北へと屈曲し溝15となる部分で合流し、南へと延びる。後者の合流部は極端に溝幅が狭い。溝同士が2箇所合流するため、



第20図 木棺墓平・断面図



第21図 土坑2平面図

両者に挟まれた部分は島状に残る。深さは約16cmと浅く、暗オリーブ灰色粘質土が堆積する。

溝17は、溝19が大きく北へと流れを変える屈曲部から分岐する溝で、南へと延びる。幅1.2m、深さ22cmで、溝15・19と同様の堆積状況である。

溝18は溝17から分かれて東南方向へ延びる溝である。幅約80cmで非常に浅い。

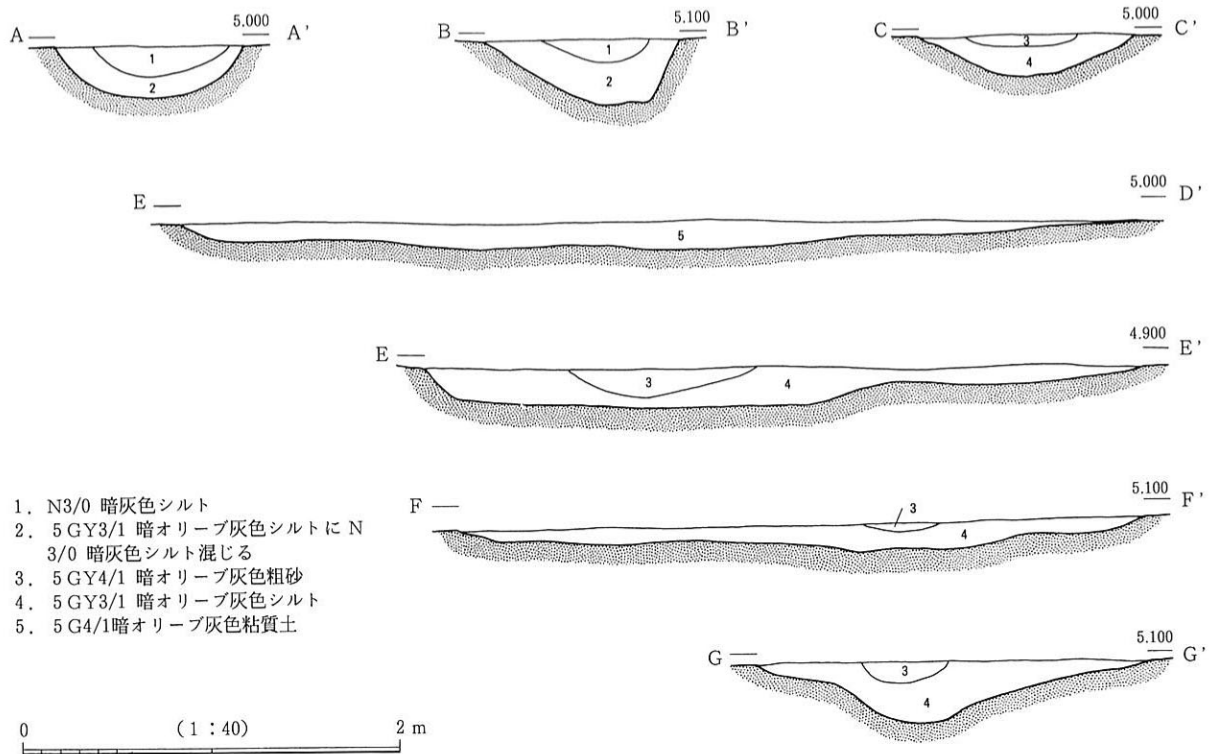
溝20は、溝19の西側の溝である。調査区北壁からほぼまっすぐに南へと延び、途中でなくなる。幅0.6~1.1mで浅い。

溝21は墓壇1のすぐ東側の浅い溝である。全長約6m、幅60cmで、弧を描く。他の溝とは交わらない。

以上8条の溝は、溝の一部が検出された当初は、木棺墓の周りをめぐる周溝となるであろうと予想された。しかし溝の流れが明らかになるにつれて、木棺墓とは関係なく、不規則に蛇行する溝であることが判明した。溝は木棺墓と切り合っていないが、木棺墓を囲んでもいない。調査区東南部の溝15と16とによって囲まれ島状に残された部分は、あるいは周溝墓であった可能性もあるが、墓壇は検出していない。これら8条の溝は遺構の検出状況からは木棺墓の周溝であるとはいえない。

<遺物> 8層は集落域を8層(1)、水田域を8層(2)と分層したが、基本的に同質・同時期の堆積であるため、まとめて8層とした。8層からは弥生時代中期後半の土器が出土した(第27・28図)。壺、甕、高坏、器台がある。

高坏(27-1)と甕(27-2)は8層の上面から出土した。後者は古墳時代の攪乱により半面を欠損するが、甕棺として使われていた可能性がある。(27-6)は8層から出土した弥生土器の中ではもっ



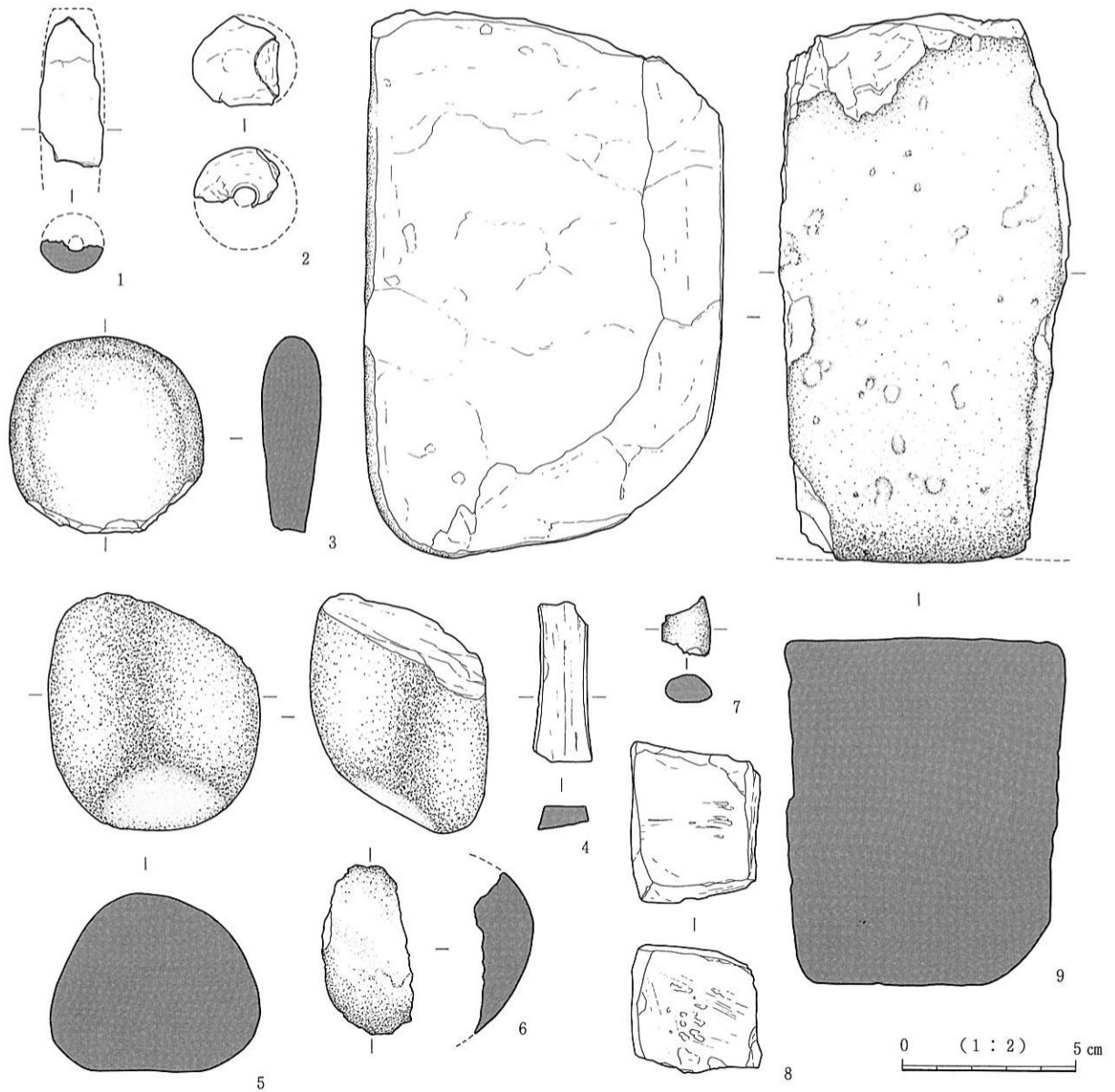
1. N3/0 暗灰色シルト
2. 5GY3/1 暗オリーブ灰色シルトにN3/0 暗灰色シルト混じる
3. 5GY4/1 暗オリーブ灰色粗砂
4. 5GY3/1 暗オリーブ灰色シルト
5. 5G4/1暗オリーブ灰色粘質土

第22図 8面検出溝断面図

とも古いⅡ様式に属する壺である。口縁端部以外に横位のミガキを施す。これに対し、壺(27-4、5)は若干時代が下る。(27-4)は弥生時代後期前半、(27-5)は中期末に位置する。後者は生駒西麓の胎土で、廉状紋、波状紋、刺突紋、円形浮紋等で飾る。中期後半から外れるものはこの3点のみである。(28-3、5)は体部下半にミガキ、上半にはハケ目の上に櫛描直線紋、あるいは波状紋、口縁部に凹線紋などを施す。(28-5)に描かれた櫛描波状紋は、乱れずに丁寧である。(28-6・7)は同一個体である。受け口状の口縁を呈する壺である。体部上半に描かれた櫛描直線紋の単位は、上の2条が幅が広い特徴をもつ。

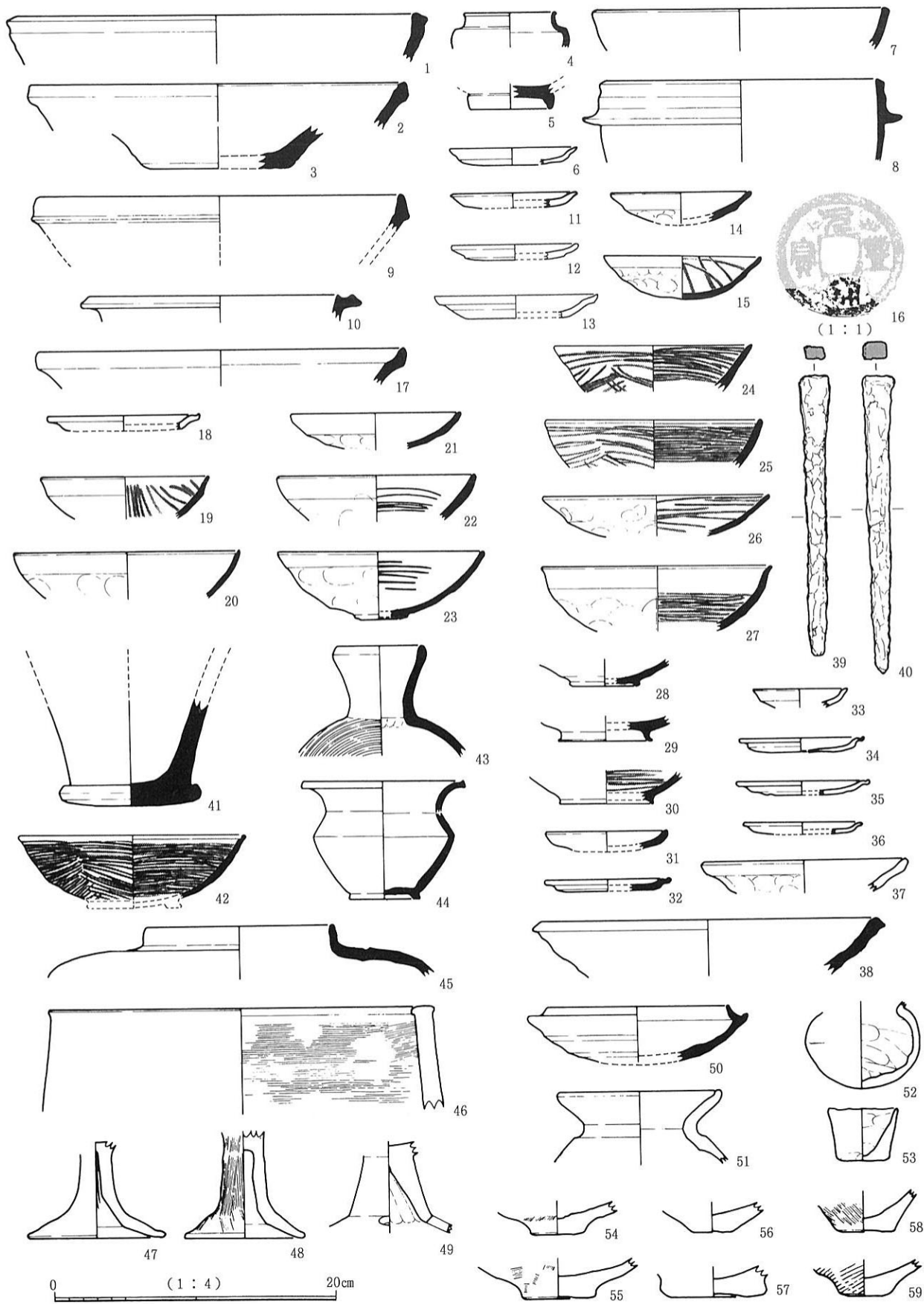
溝19からも弥生時代中期後半の高坏(30-18)が出土している。

(伊藤)



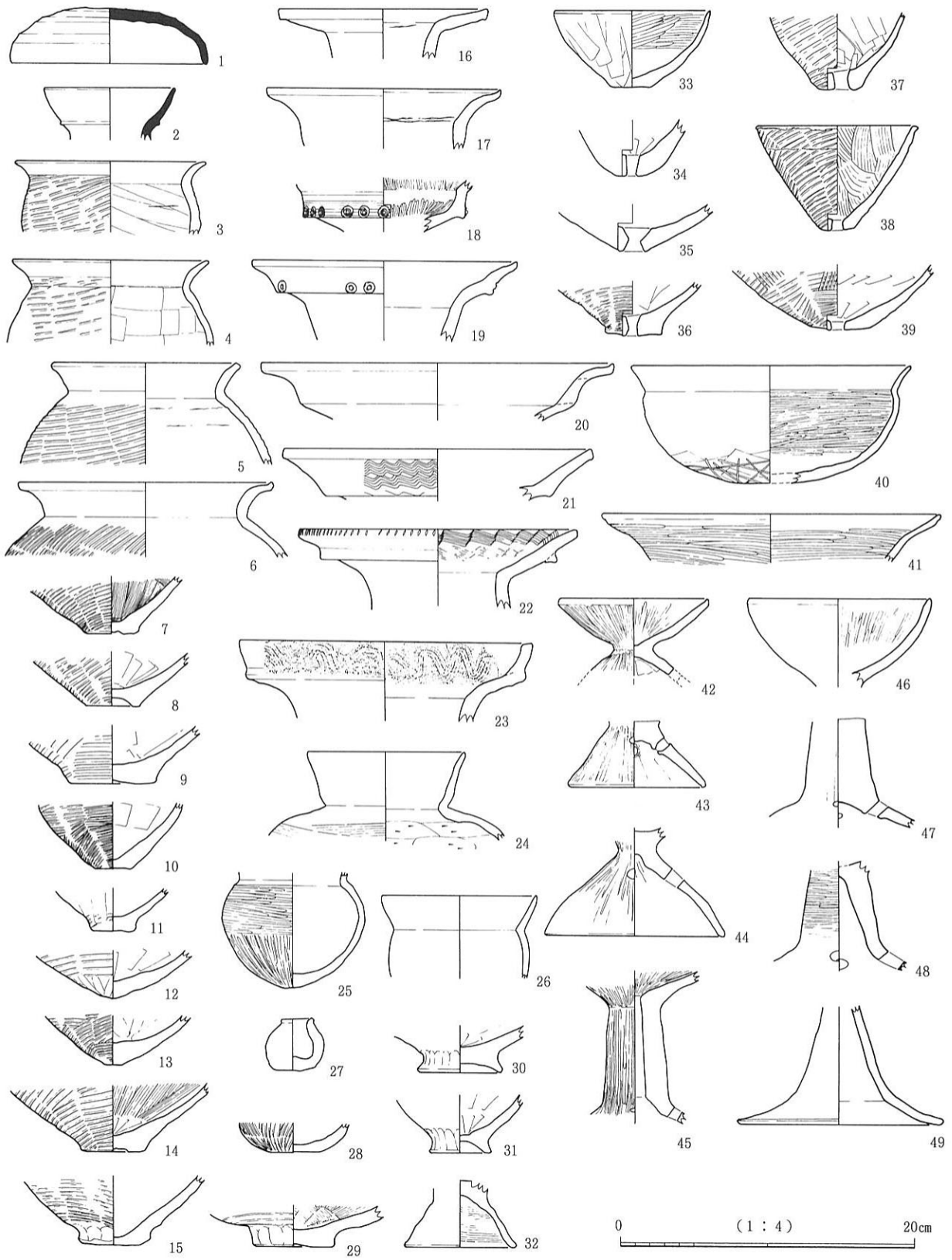
第23図 3B区出土土製品・石製品

(1:6層、2:7層(1)、3:4層、4:落ち込み1、5・7~9:溝1下層、6:溝1)

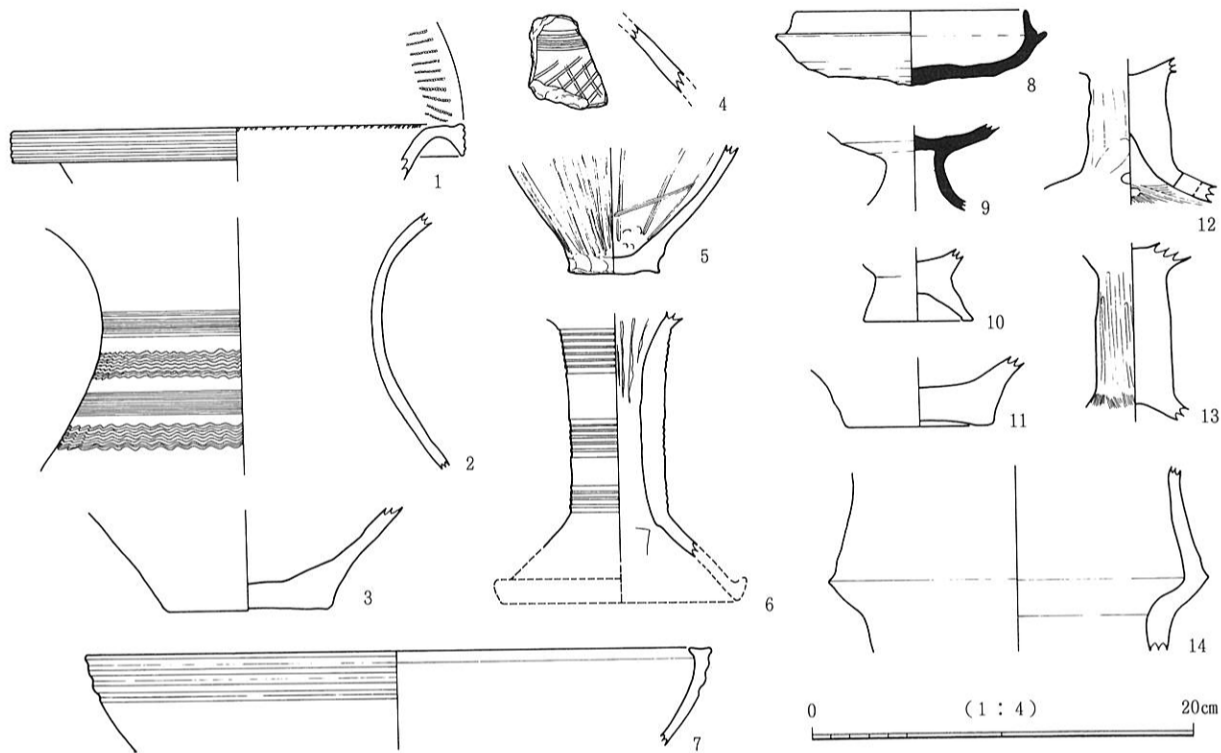


第24図 3B区出土遺物 (銭1:1、鉄製品・土器1:4)

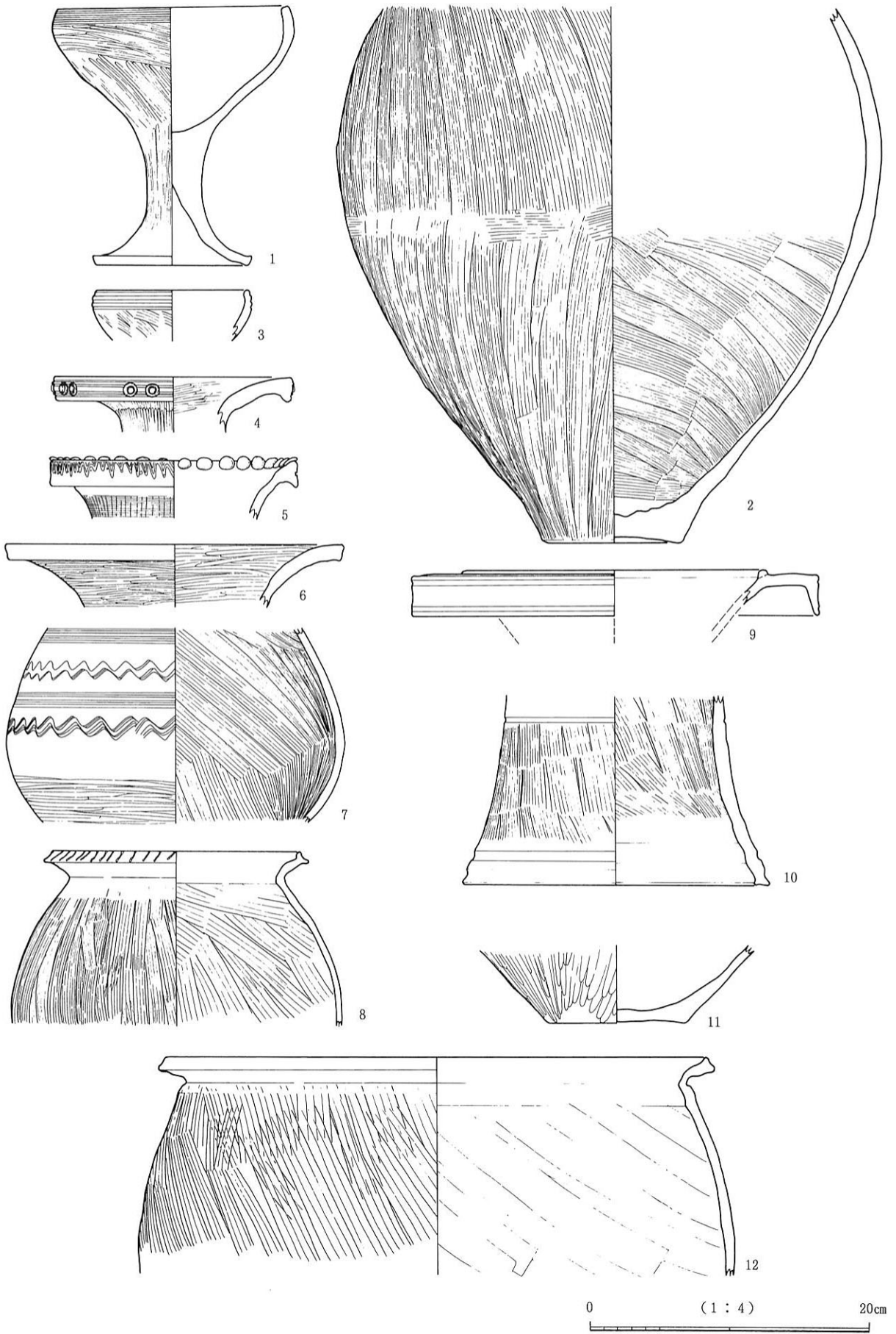
(1:1層、2~8:2層、9~16:東方落ち込み1層~3層、17~23:3層、24~40:4層・4面、41~45:5層、46~59:6層)



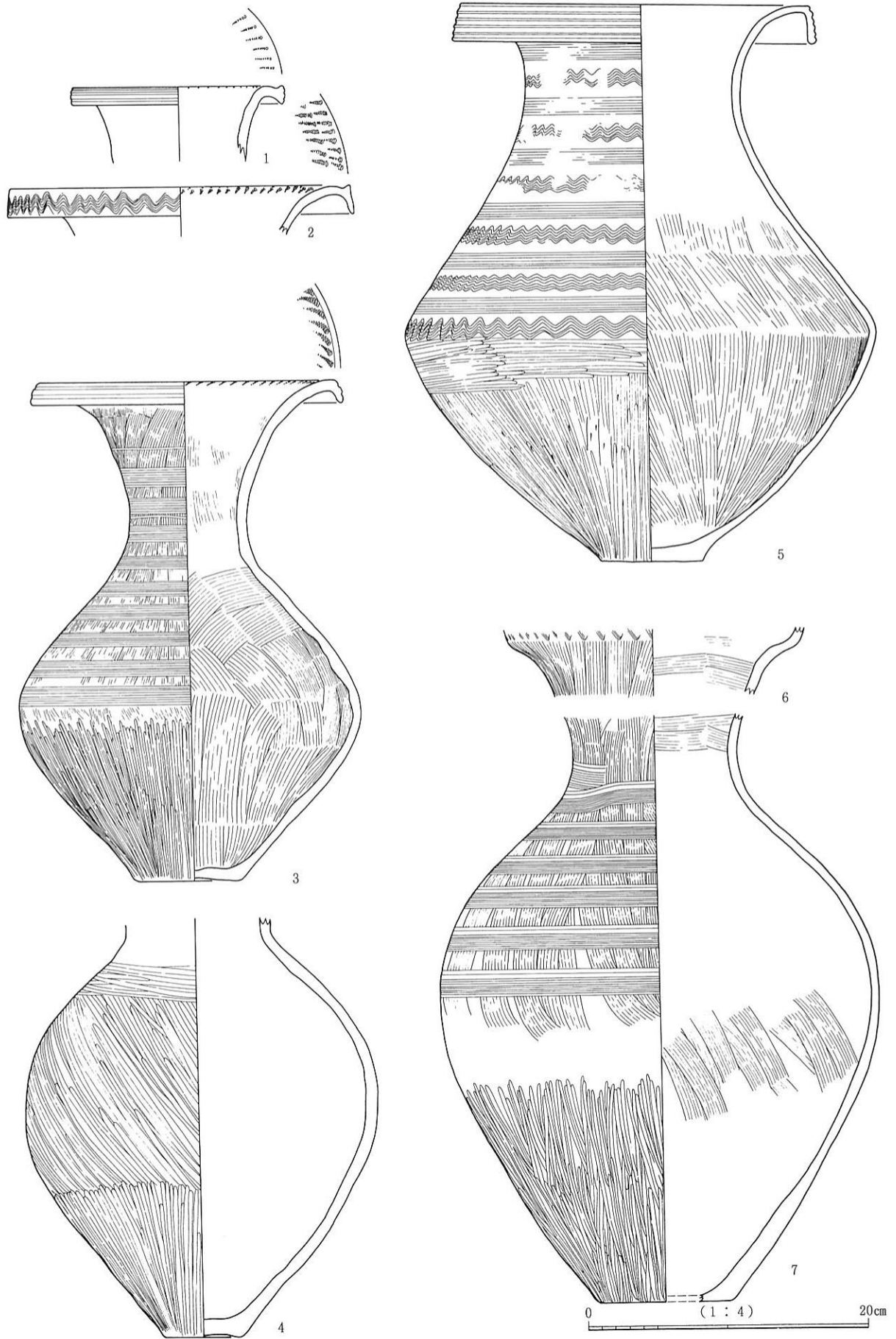
第25図 3 B区7層(1)・7面出土土器



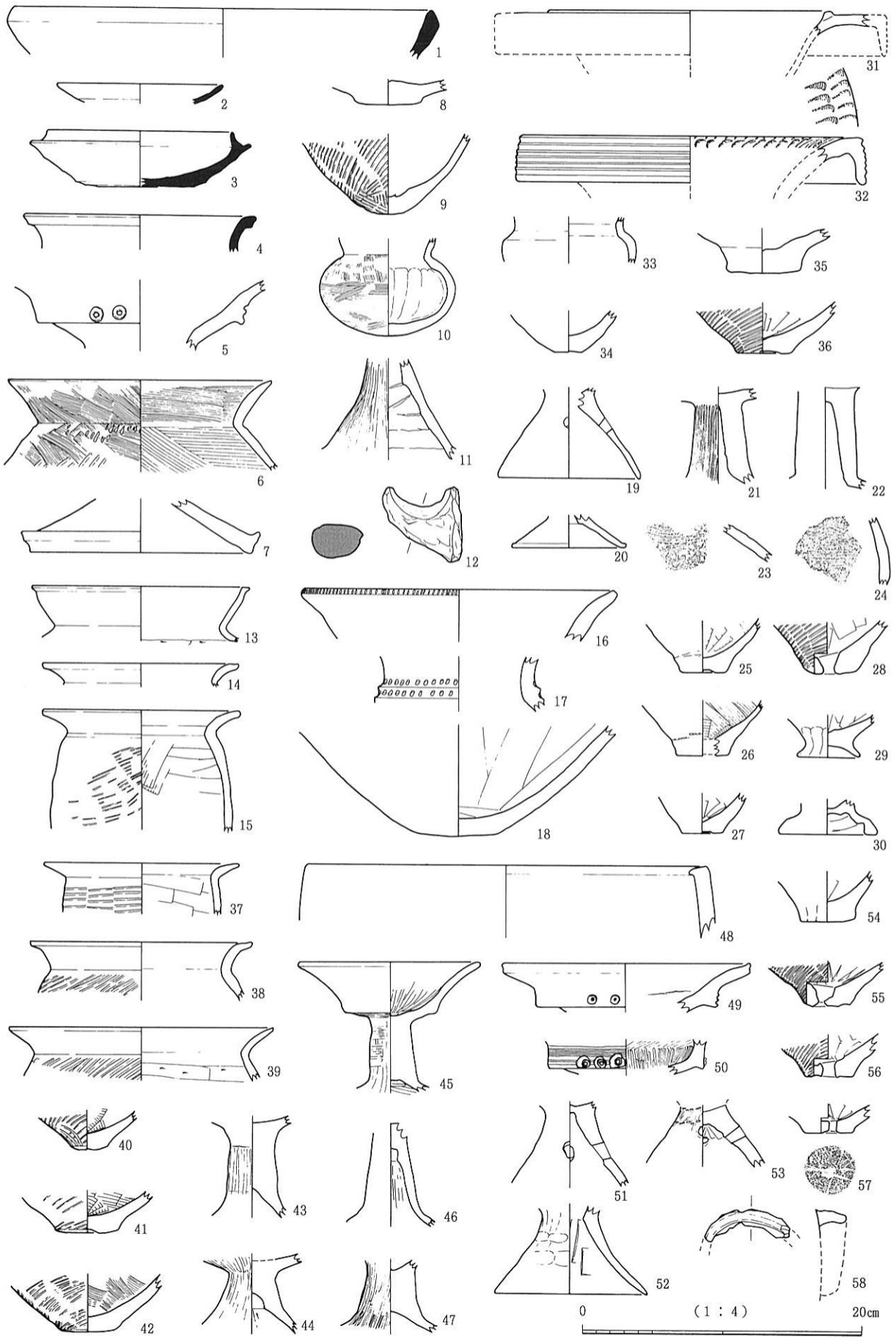
第26图 3 B区7層(1·2)·7面出土土器
 (1~7: 7層(1)·7面、8~14: 7層(2))



第27図 3B区8層出土弥生土器

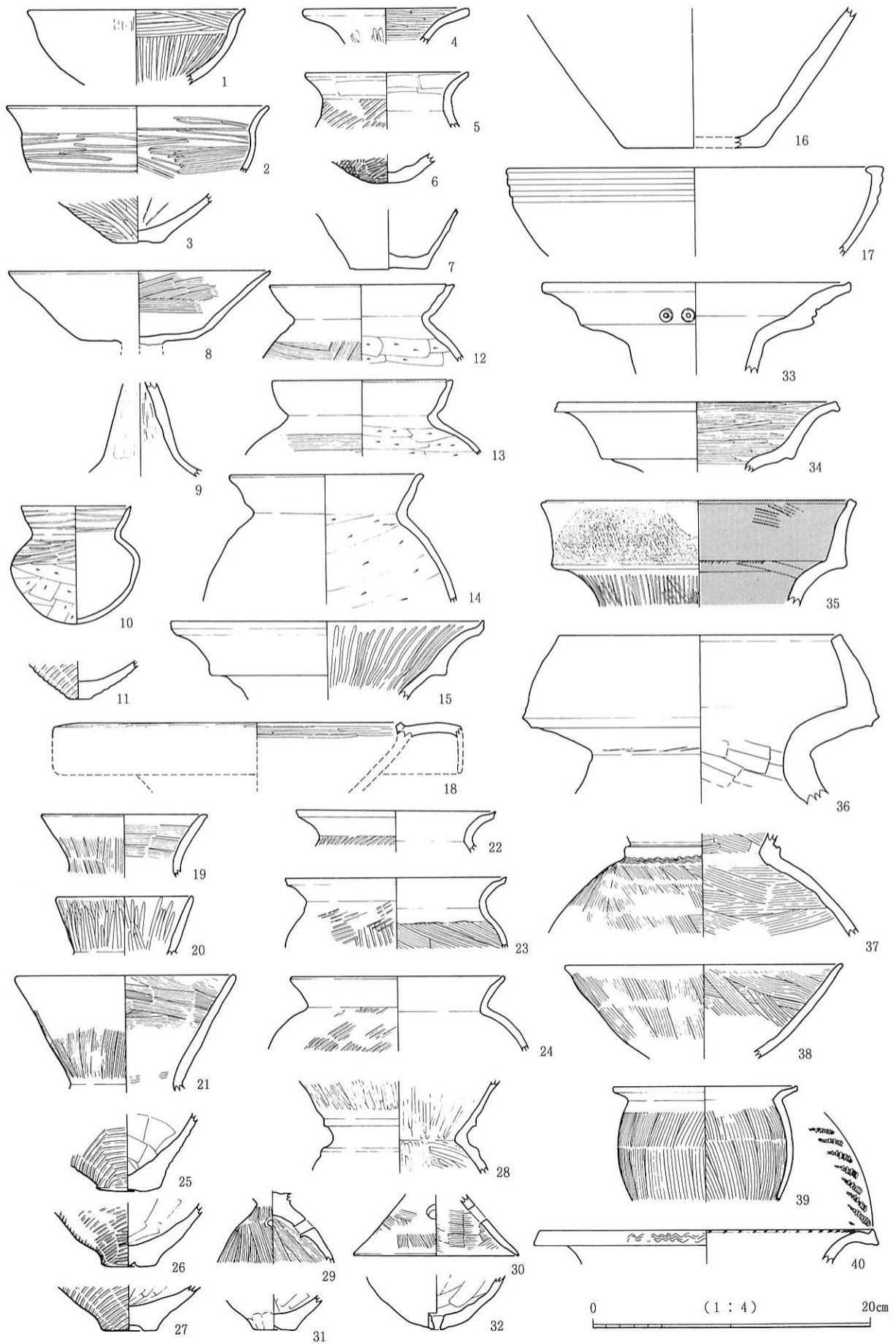


第28图 3 B区 8层出土弥生土器



第29図 3 B区出土土器

(1・2 : 土坑1、3~12 : 溝1、13~30 : 溝1下層、31~36 : 落ち込み1、37~58 : 溝2)



第30图 3 B区出土土器 (1~3: 溝2、4: 竖穴1周溝、5: 穴22、6: 穴9、7: 穴57、8: 穴32、9: 穴47、10~15: 穴11、16: 溝10、17: 溝12、18: 溝19、19~40: 溝13)

第3項 3C区

【1面】長方形土坑と鋤溝を検出した。

長方形土坑は調査区の北半部で検出した。東側に近接する3B区では、南北方向の土坑が密集して検出されたが、当調査区内で検出した土坑は、わずかに5基であった。調査区中央に東西に長い土坑が1基と、その北側に南北に長い土坑が4基である。東西の土坑はほぼ国土座標 $X = -131,427$ のライン上に位置するが、わずかに西で北に振れる。幅0.8~1.4mで、深さは約1.5mである。これまでの調査で検出した長方形土坑は、11m前後の長さを基本としていたが、この東西に長い土坑の長さは29m以上となる。この土坑の北側で検出した南北の長方形土坑は、幅約80cm、長さ1.6mのものから、幅約80cm長さ9.6mのものまでまちまちである。土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10~20cm程度の浅い溝である。溝の向きはすべて東西方向である。〈遺物〉1層からは中世から近世までの遺物が出土した(第38図1~6)。土師皿、黒色土器碗などのほか、図示した以外にも瓦器碗、陶磁器類がある。

(38-6)は15~16Cの青花皿である。内面見込みに玉取獅子が描かれている。

なお、1面から鉄釘(38-7)が1点出土した。

【2面】鋤溝を検出した(図版6-1)。

鋤溝は調査区の全面で検出した。1面検出の鋤溝と同じく、幅10~20cm程度の浅い溝で、溝の向きもすべて東西方向である。

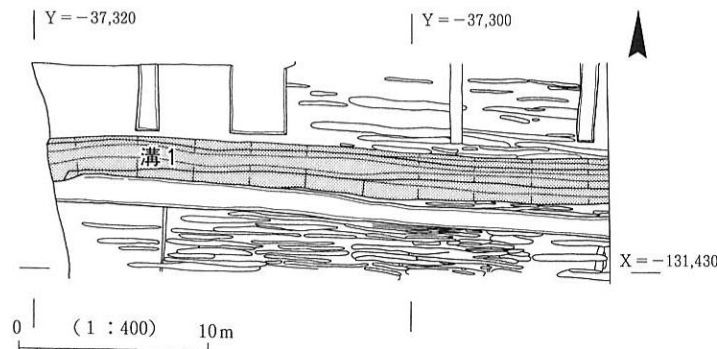
その他顕著な遺構は検出できなかった。

〈遺物〉2層からは11Cから14Cまでの土器が出土した(第38図-8~24)。土師皿、瓦器碗、白磁碗、青白磁合子などがある。

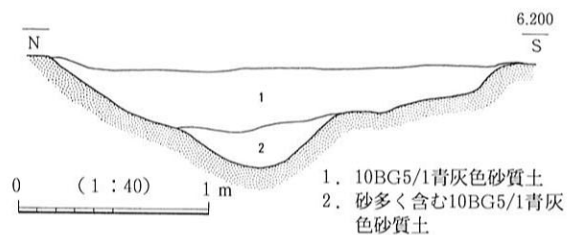
土師皿には11C後半に位置する「ての字状口縁」皿(38-11~14)が多く含まれるが、13~14C代の皿も同量ある。瓦器碗も同様の状況である。つづく3層から14C初頭の瓦器碗が出土していることから、2層の下限はそれ以降とすることができる。(38-23)は青白磁の合子身である。

【3面】溝1条(溝1)と鋤溝を検出した(第32図、図版6-2)。

溝1は調査区の中央で検出した坪境の溝である。ほぼ国土座標 $X = -131,425$ のライン上に位置する東西溝である。幅約2.5m、深さ約50cmを測り、わずかに西で北に振れる。溝は2段に掘られており、



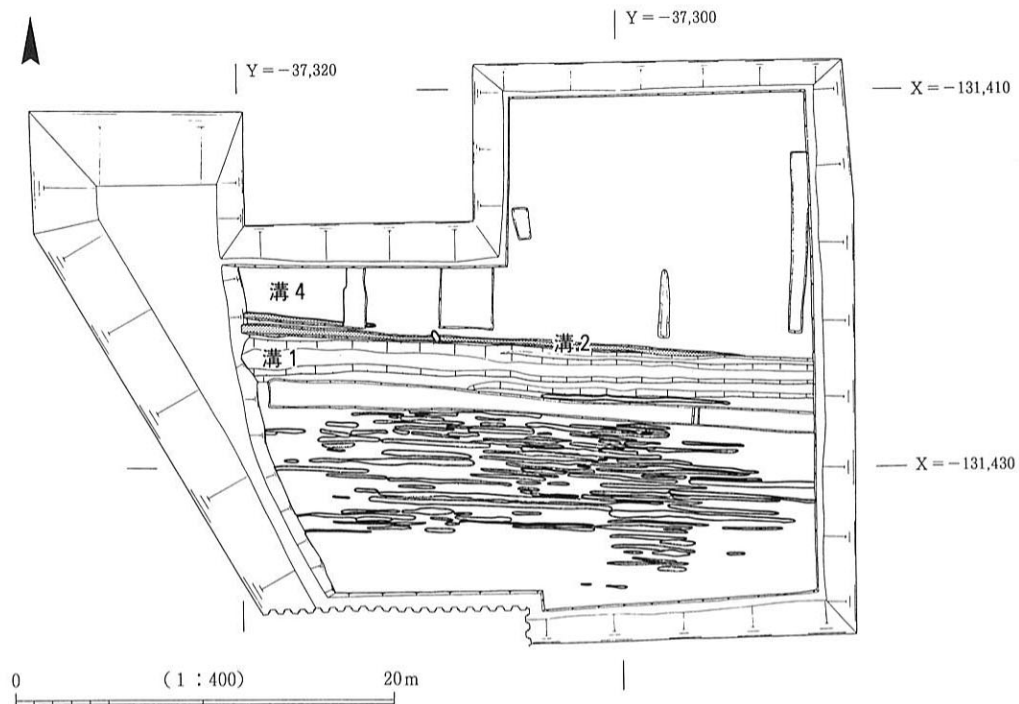
第32図 3面検出遺構



第31図 溝1断面図

埋土の堆積も上下2層に分かれる(第31図)。上層が青灰色砂質土、下層が砂を多く含む青灰色砂質土である。1次調査C区(西)で検出した坪境の東西溝(河川3)との南北距離は112mであり、これは1坪の1辺の長さ(1町)に符合する値である。

鋤溝は調査区の全面で検出した。1・2面検出の鋤溝と同じく、幅10~20cm程度の浅い溝である。この面ではじめて南北方向



第33図 4面検出遺構

の溝を数条検出したが、基本的には東西方向が主である。

<遺物> 3層からは12Cから13Cを中心とした遺物が出土した(第38図-25~35)。ただし前述したとおり、14C初頭の瓦器皿(38-32)が出土していることから、3層の下限は14C代とすべきである。土師皿、瓦器碗、白磁皿、瓦などがある。

(38-30・31・33)は内面にミガキを密に施す12C中葉の瓦器碗である。3者とも樟葉型である。(38-35)は12C代の白磁皿である。底部にわずかな高台状の削り出しがある。(38-36)は平安時代末の平瓦である。

溝1からは12C中葉の樟葉型瓦器碗(38-68)、10C後半~11C初頭の土師質羽釜(38-69)が出土した。須恵器坏蓋(38-67)は混入品である。

【4面】溝2条(溝2・4)と鋤溝を検出した(第33図、図版6-5)。

溝2は3面で検出した溝1の北側に接する東西溝である。東方は溝1に切られるため残存しない。幅約50cm、深さ10~30cmを測る。溝1と同じく西で北にわずかに振れる(図版6-6)。

溝4は溝2の西端部で検出した。溝2の北側に約15cmの間隔をあけて平行する。幅約40cm、深さ約20cmを測る。

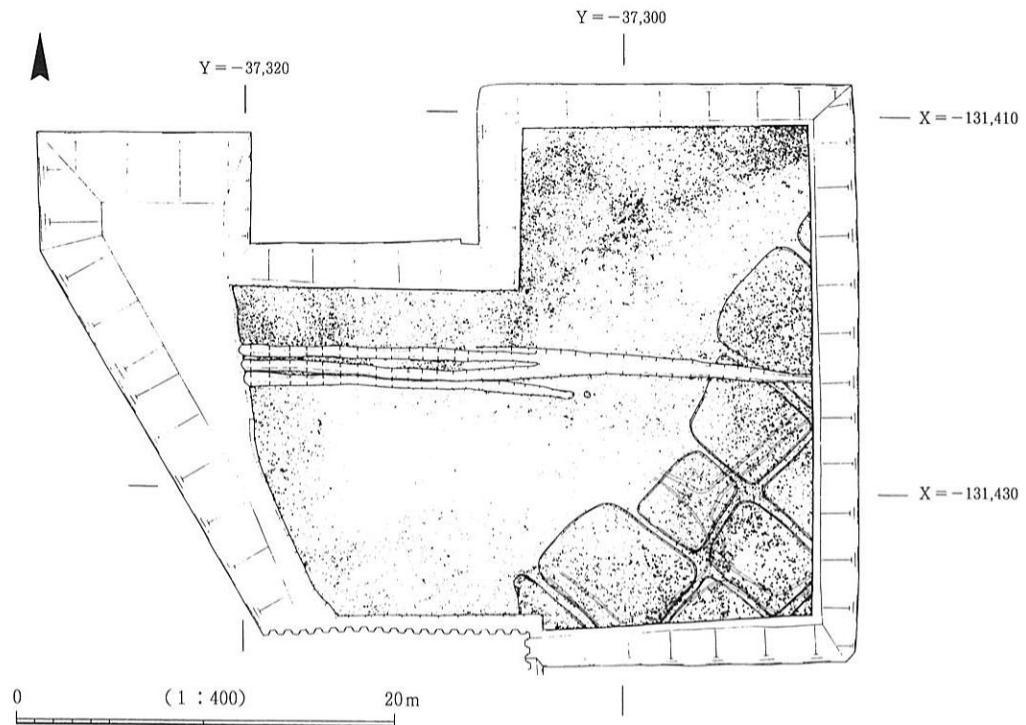
鋤溝は溝2の南方で検出した。1~3面検出の鋤溝と同様の細溝である。溝の向きはすべて東西方向である。溝2の北方には鋤溝はない。

<遺物> 4層および4面からは11C後半から12C前半を中心とする遺物が出土した(第38図37・40~42・44~50)。土師皿、瓦器碗・小皿、黒色土器碗などがある。

黒色土器は若干古く、10C末から11C初頭に位置付けられる。(38-45)はB類、(38-46)はA類である。

土器以外に鉄釘(38-50)が1点出土した。

4面鋤溝からも11C後半から12C前半の土器が出土した(第38図-38・39・43)。



第34図 6・7面検出水田跡 (赤は6面検出水田跡)

土師皿 (38-39) は11C後半の「ての字状口縁」皿である。完形の状態出土した。

【5面】砂層の上面にあたるため、特に顕著な遺構は検出できなかった。

〈遺物〉5層からは11C初頭を下限とする土器が出土した (第38図-51~57)。須恵器蓋坏・壺、土師質羽釜などがある。

(38-56・57) は5層の下限を示す土師質羽釜である。10C後半~11C初頭に位置する。須恵器は7C後半の坏蓋 (38-51)、奈良時代の坏 (38-55)、9C後半~10C前半の壺 (38-52・53) など時期幅をもつ。

【6面】水田跡を検出した (第34図赤、図版6-3)。

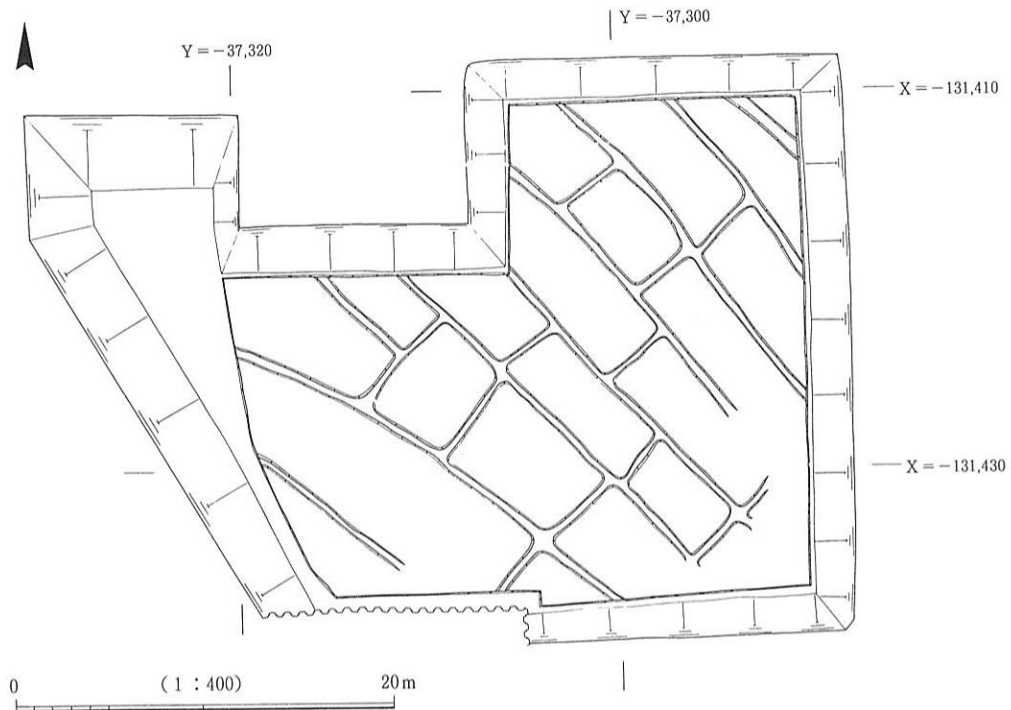
水田跡は後述する3F区6面検出の水田面に対応する。これまでの調査で検出した古墳時代後期の水田面よりも、さらに1面上層の水田跡である。調査区の東南隅で水田畦畔を検出した。小畦畔によって区画された水田跡である。小畦畔は東南から西北方向に向くものと、それらとほぼ直角に交わるものがある。畦畔の幅は70~80cmで、わずかな盛り上がりをもつ。水田1区画の大きさは、推定で約40㎡である。畦畔はつづく7面で検出した水田畦畔と重なる部分が多い。水田面にはヒト・牛馬の足跡が明瞭に残っていた (図版6-7)。

〈遺物〉6層から下層は極端に遺物の出土量が減る。6層からは古墳時代前期から後期にわたる土師器、須恵器がわずかに出土した (第38図-58)。

(38-58) は6C後半の須恵器甗である。

【7面】水田跡を検出した (第34図、図版6-4)。

水田跡は調査区の東南部で検出した。小畦畔によって区画された水田跡である。小畦畔は東南から西北方向に通るものと、それらとほぼ直交するものがある。前者の畦畔が10~12mの間隔をあけて平行して延び、後者の畦畔がそれらの畦畔間を碁盤目状につなぐことにより、水田が区画される。ただし後者の畦畔は直線的に通らず、それぞれわずかにズレる。畦畔の幅は50~70cmで、わずかな盛り上がりをもつ。

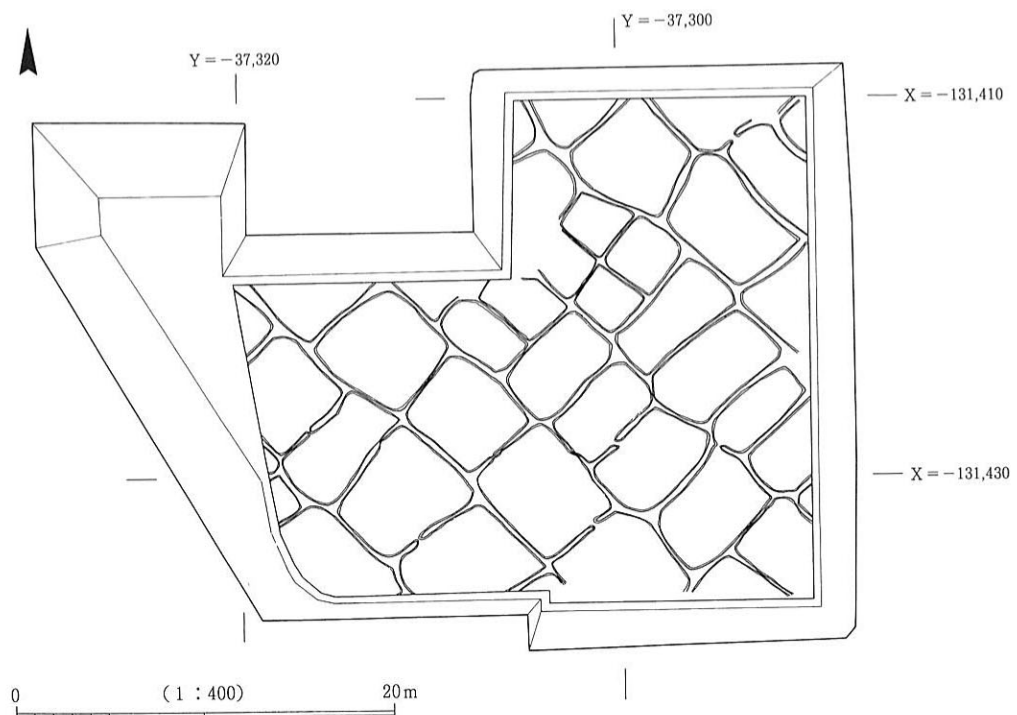


第35図 8面検出水田跡

もつものもある。水田1区画の大きさは、約20㎡前後のものから約40㎡のものまで様々である。水田面にはヒト・牛馬の足跡が明瞭に残っていた（図版6-8）。

調査区西北部からは水田畦畔を検出することができなかった。水田跡であったのかは不明である。この検出状況は3B区6面検出の西方水田跡でも同じであった。

<遺物>7層および7面からは古墳時代の土師器、須恵器が出土した（第38図-59）。わずかに3点出土しただけで、実測できたのはそのうちの1点だけである。



第36図 10面検出水田跡

(38-59) は土師器高坏である。おそらく古墳時代中期ころのものと思われるが、小片のため詳細は不明。脚部内面はケズリである。このほか須恵器甕の体部片が出土している。

【8面】水田跡を検出した(第35図、図版7-1)

水田跡は調査区の全面で検出した。小畦畔によって区画された水田跡である。小畦畔は東南から西北方向に通るものと、それらとほぼ直角に交わるものがある。前者の畦畔はそれぞれ4 m前後の間隔をあけてほぼ等間隔に平行して並ぶ。西北隅部では、その間隔が7 m以上に広がっている部分が1箇所あるが、この場合は畦畔と畦畔の間に、ほぼ平行する畦畔をもう1条設け、畦畔間の広がり方を修正している。それら平行して並ぶ畦畔間に、ほぼ直角に交わるように畦畔を設けることによって水田1つ1つが区画される。したがって水田区画はきれいな長方形となる。畦畔の幅は約50cmで、盛り上がりはほとんど残っていない。土色の変化を手がかりとしたため、検出しきれなかった畦畔が多い。水田1区画の大きさは15~25㎡である。足跡は検出できなかった。

<遺物>8層からは古墳時代前期から後期にわたる土師器が出土した(第38図-60~61)。須恵器は含まれない。

(38-61) は古墳時代中期~後期の竈の口縁部と思われる破片である。底が剥がれた痕跡がある。

【9面】特に顕著な遺構は検出できなかった。

【10面】水田跡を検出した(第36図、図版7-2)。

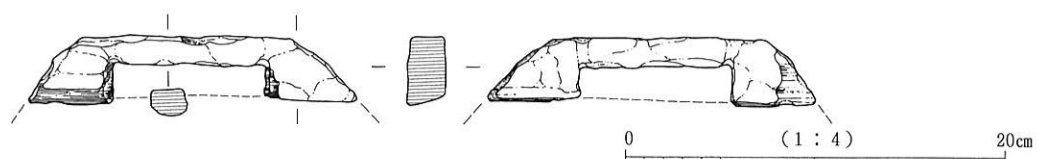
水田跡は調査区の全面で検出した。小畦畔によって区画された水田跡である。これまでの調査で検出した古墳時代前期の水田面よりも、さらに1面下層の水田跡である。当調査区ではじめて検出した。小畦畔は8面検出の畦畔と同じく、東南から西北方向に通るものと、それらとほぼ直角に交わるものがある。前者の畦畔はそれぞれ5~6 mの間隔をあけてほぼ等間隔に平行して並ぶ。それら平行して並ぶ畦畔間に、ほぼ直角に交わるように畦畔を設けることによって水田1つ1つが区画される。畦畔の幅は約30~50cmで、盛り上がりはほとんど残っていない。土色の変化によって認識できた。水田の平面形は方形や長方形で、1区画の大きさは15㎡程度のものから30㎡強のものまでまちまちである。中には上記のように区画された水田区画を、さらに田の字状に4つに細分するものもある。その1区画は10㎡以下となる。畦畔同士が完全につながらず、わずかな隙間をあける部分が数箇所ある。水口であったと思われる。足跡は検出できなかった。

<遺物>10層からは古墳時代前期を中心とした遺物が出土した(第38図-62~66)。甕、鉢、高坏などがある。

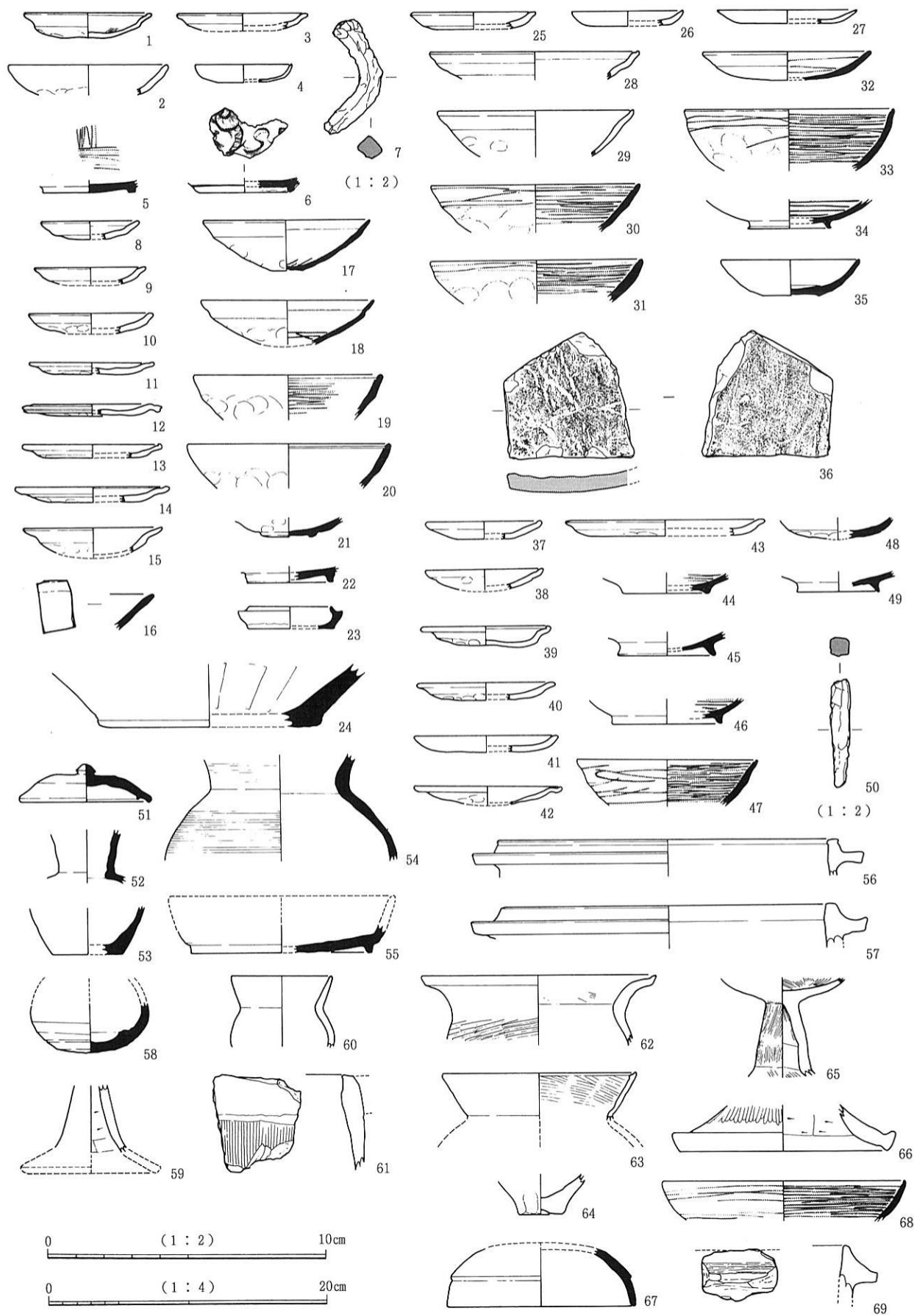
(38-62) は外面にタタキをもつ庄内式期の甕、(38-63) は口縁端部を内側に把厚させる布留式期の甕である。(38-66) は弥生時代中期後半の高坏である。

土器以外に、木製品が1点出土した。大脚の杵材(37-1)である。下半部を欠損する。

(伊藤)



第37図 3C区10層出土木製品



第38図 3C区出土遺物（鉄製品1：2、土器・瓦1：4）

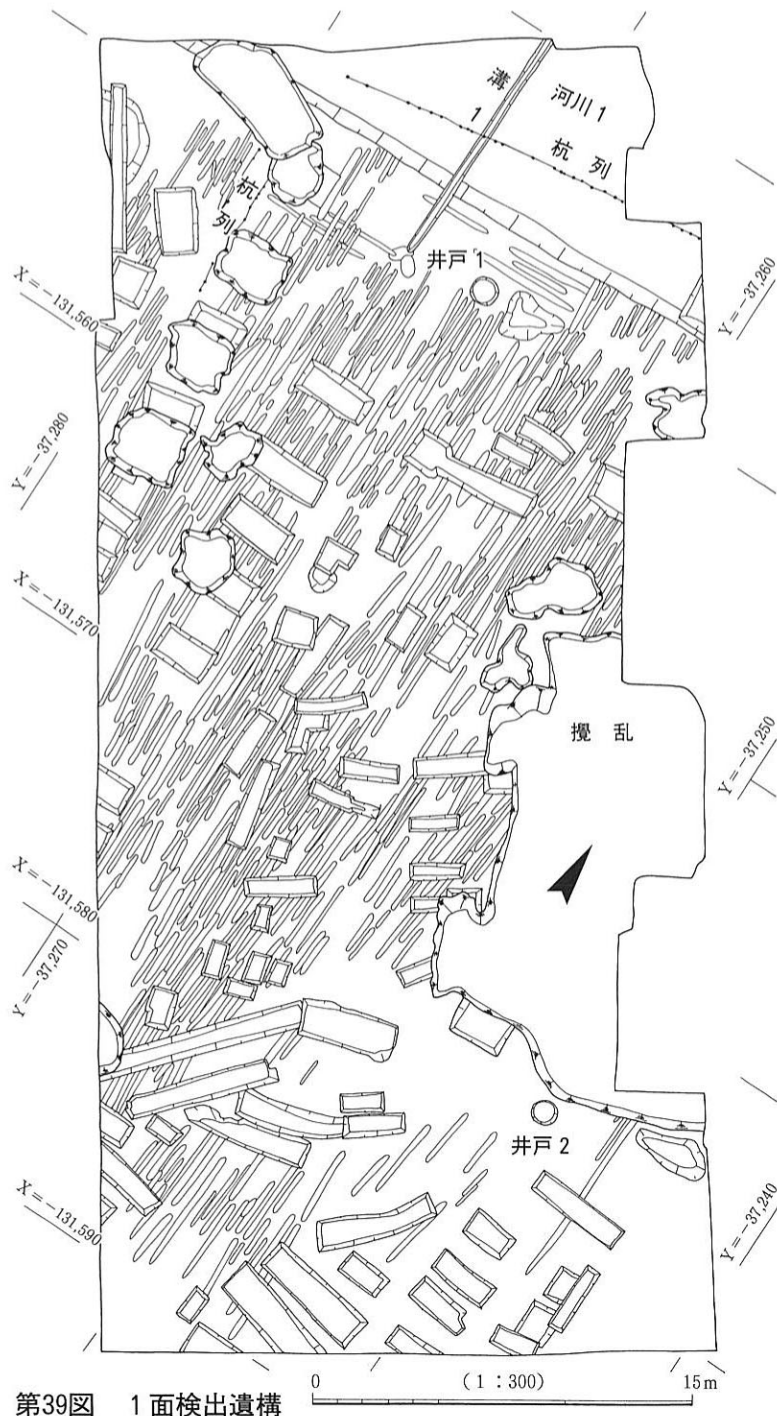
(1~6：1層、7：1面、8~24：2層、25~36：3層、37・40~42・44~50：4層・4面、
38・39・43：4面鋤溝、51~57：5層、58：6層、59：7面、60・61：8層、62~66：10層、67~69：溝1)

第4項 3D区

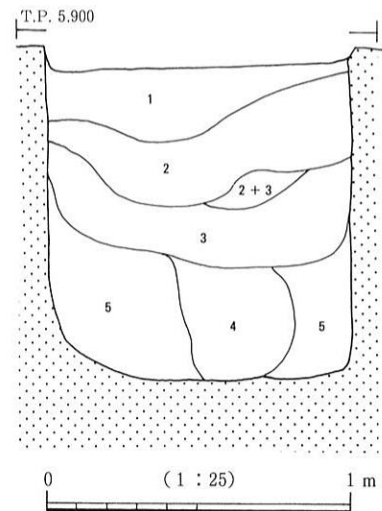
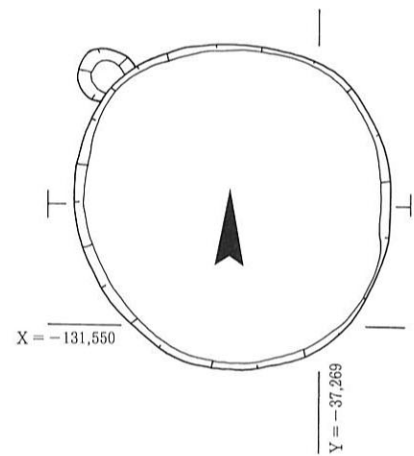
【1面】近世水田面である。河川1、杭列、鋤溝、溝1、井戸1・2を検出した(第39図、図版8-1・2)。

河川1は調査区北端で東西方向に検出した。溝作遺跡(その1)C区西1面河川3に連続する坪境溝である。ただし流心は本面においては調査区外にあり、本面では流心にむかって南から北に落ちる、比高差20cmの段落ちが東西方向に検出されたのみである。

杭列は河川1の段落ちにほぼ平行する形で、長さ24mにわたり検出した。先端を尖らせた直径10~13cmの杭が21本、1~3.5mの間隔をもって直線上に並ぶ。



第39図 1面検出遺構



1. 10YR6/1褐灰色シルトに5. 粘土ブロック状に混入 マンガン斑・管状酸化鉄多く含む
2. 1. よりも5. 粘土ブロック状に多く混入
3. 1.シルトに5. 粘土・粗砂混入
4. 3. よりも粗砂多く混入
5. 5GY6/1オリーブ灰色粘土に粗砂やや混入

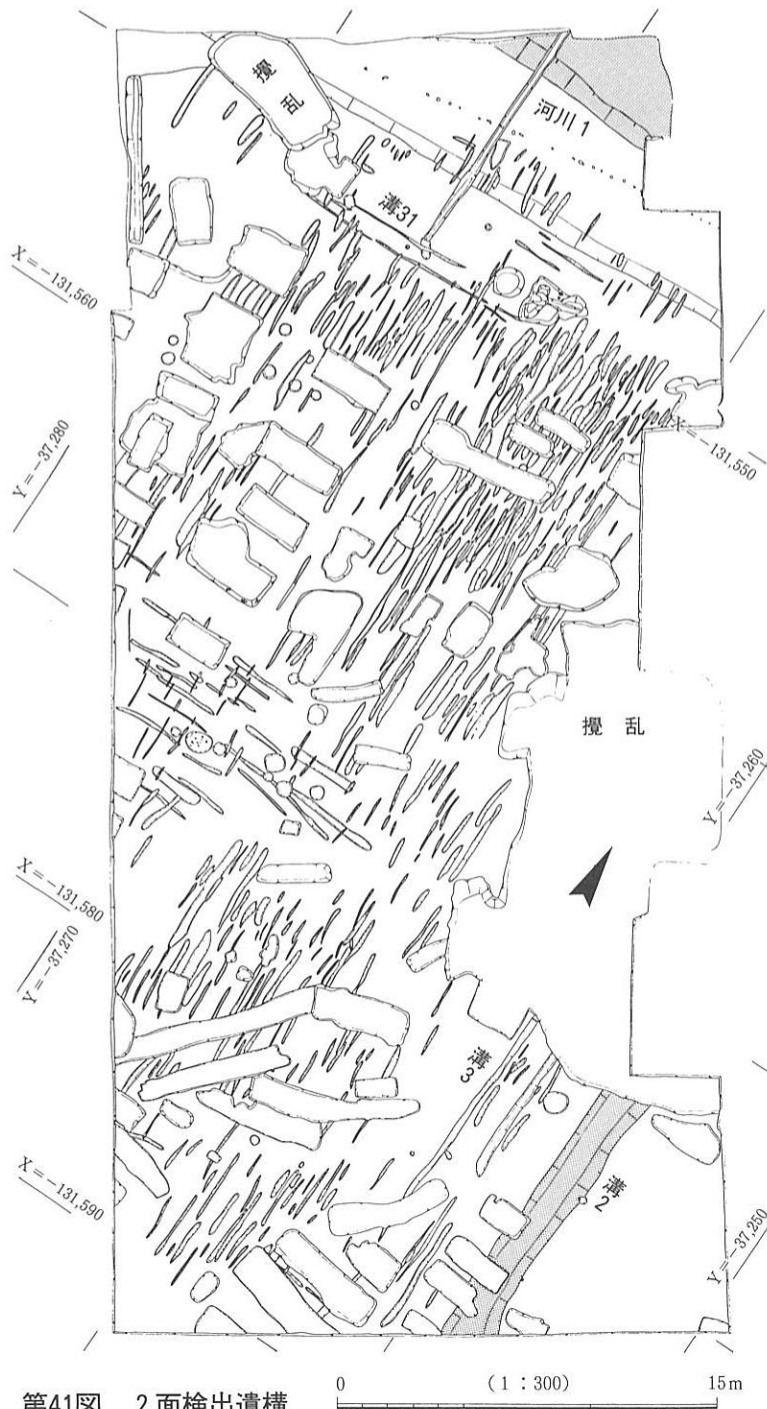
第40図 井戸1平・断面図

鋤溝は北端の河川1以南の調査区全体で検出した。河川1南側で一部東西方向の鋤溝がみられるほかは、すべて南北方向の鋤溝であり、南北長80m以上の長地型水田であったと考えられる。調査区南東隅部はやや低く、鋤溝が希薄であり、 $Y=-37,255$ 付近を境に水田区画が異なる可能性がある。

溝1は調査区北端で検出した南北方向の溝である。幅30cm、深さ8cmであり、埋土は他の鋤溝と変わらない。水田が段落ち以北まで広がっていた時期の、深い鋤溝の痕跡であろう。

井戸1は調査区北部、河川1の南側で検出した(第40図)。円形の素掘りの井戸であり、直径2.1m、深さ2.5mである。底部は5面河川2の粗砂層に至り、調査中も湧水がみられた。

井戸2は調査区南東部の鋤溝が希薄な部分で検出した(図版8-3)。円形の素掘りの井戸であり、直径2.0m、深さ80cmである。底部は5面河川2の粗砂層に至り、調査中も湧水がみられた。



第41図 2面検出遺構

鋤溝の多寡から調査区南東隅部は水田区画が異なる可能性を指摘したが、井戸1・2の検出箇所もこれを検証するものといえる。また、溝作遺跡(その1・その2)においてみられた近代の長方形土坑が多数検出されており、これらも $Y=-37,255$ 付近でいったん不規則な並びとなることから、1面でみられる水田区画は近代まで踏襲された可能性が高い。

〈遺物〉1層・1面からは12~14Cから近世の遺物が出土した(第75図1~10)。土師皿、瓦器碗、東播系捏鉢、青磁碗、天目茶碗のほか、土玉、銭がある。土器類は、12~14Cの遺物が多い。

銭(113-9)は「朝鮮通寶」であり、1423年に初鑄された銭貨である。

【2面】中世後半の水田面である。河川1、鋤溝、溝2を検出した(第41図、図版8-4)。

河川1は調査区北端隅部で東西方向にはしる河川の流心部分を検出した。C区西2面河川3に連続する坪境溝である。埋土は粗砂、礫である。

鋤溝は北端の河川1以南、南東隅部の溝2以西のほぼ調査区全体で検出した。河川1南側および $X=131,570$ 付近で一部東西方向の鋤溝がみられるほ

かは、すべて南北方向の鋤溝であり、 $X=131,570$ 付近を境に同じ高さで2つの区画の水田があった可能性がある。調査区南東隅部はやや低く、溝2を境に水田は一段下がり、水田区画が異なると考えられる。

溝2は調査区南東隅部で検出した南北方向の溝である。幅3.5m、深さ23cmであり、埋土は細砂～シルトである。水田の段落ちに伴う下端の溝と考えられる。

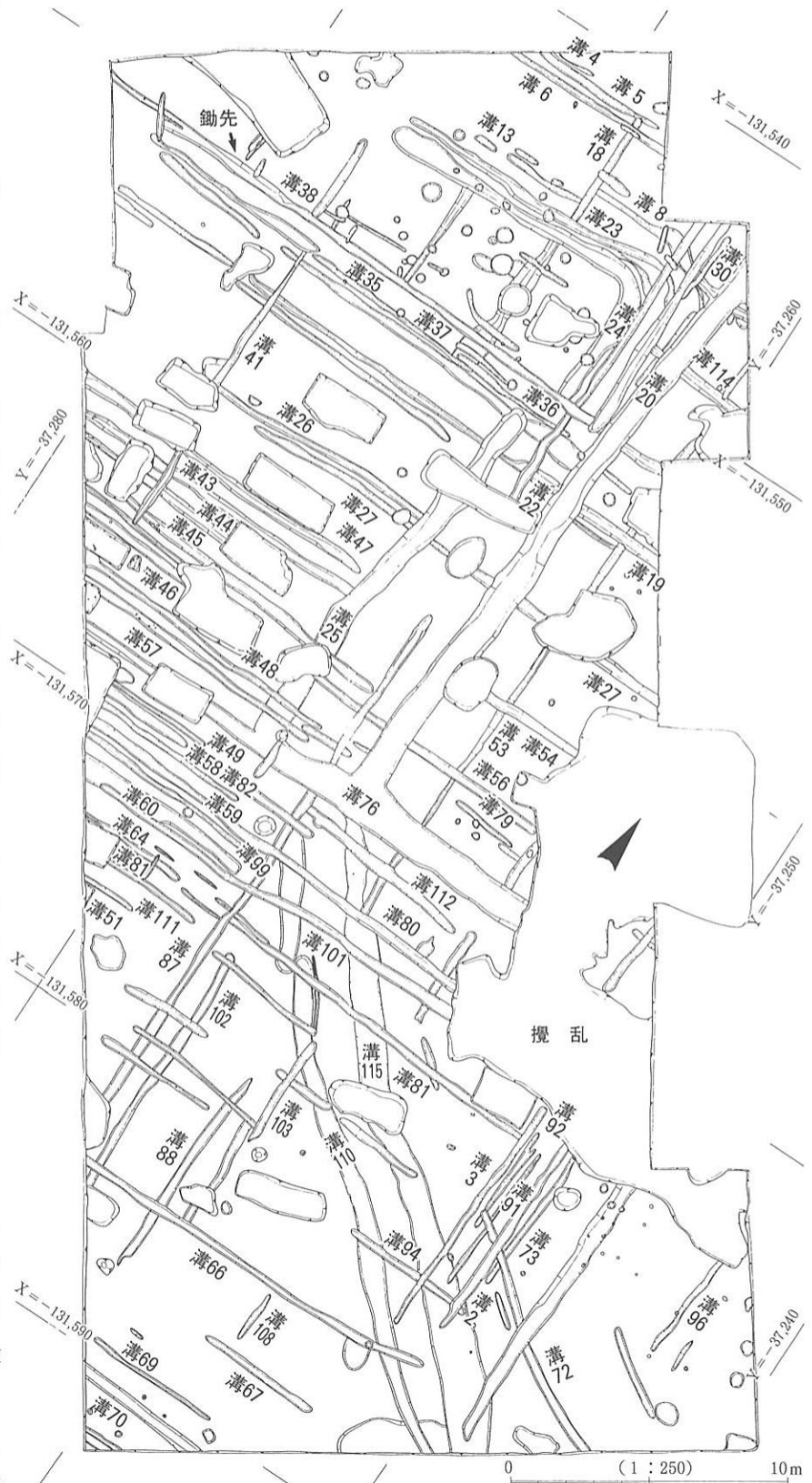
〈遺物〉2層・2面からは7C～中世(15C)の遺物が出土した(第75図-11～24)。土師皿、瓦器皿・椀、東播系捏鉢、青磁・白磁碗、須恵器坏蓋があり、12～14Cの遺物が中心となる。(75-21)は陶器插鉢で、15Cに位置づけられ、2層・2面出土遺物の下限となる。

【3面】中世前半の水田面である。溝を多数検出した(第42図、図版9-1・2)。

溝は東西南北方向にはしるものがほとんどであり、その他調査区南半で調査区を縦方向にはしる北西-南東方向の溝110・115を検出した。東西南北方向の溝はすべて溝110・115を切る状態で検出され、溝110・115より新しい。

溝110・115は幅1.2～3.5m、深さ20～30cm、埋土は細砂～粗砂であり、4-1面以下の面でみられる河川2の埋土最上層にあたる。

東西南北方向にはしる溝は、幅2.0m、深さ20～30cmの溝20・76・24・25と、幅30～50



第42図 3面検出遺構

cm、深さ10～15cmのその他多くの溝がある。

溝20・76は埋土が灰褐色粘土であり、切り合い関係がみとめられないことから両溝は併存したものと考えられる(図版9-3)。水田区画に伴う溝とみられ、2面でみられたX=131,570付近の東西方向鋤溝は溝76を踏襲したものであろう。

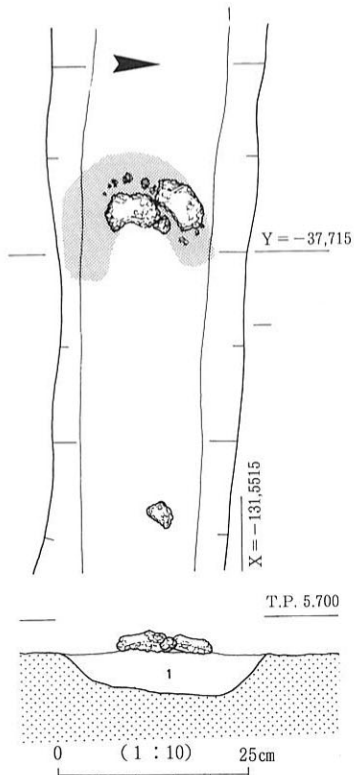
溝24・25は溝20に平行し、溝20の前段階の区画溝とみられる(図版9-4)。溝24の段階では、その北端がX=131,550付近で西に屈曲し、ほぼ1・2面河川1の段落ちにあたるこの箇所水田が区画されていたが、その後溝20の段階ではこの区画がなくなり、より大区画の水田になったと考えられる。

東西南北方向にはしるその他多くの溝は、埋土はすべて3層である灰白色粘土である。うち、調査区北部の溝38からはU字形鋤先が埋土上面で出土した(第43図、図版9-5)。1・2面の鋤溝が南北方向主体であったのに対し、本面では東西方向の溝が主体であり、中世前半から中世後半にかけて、溝の方向性が東西方向から南北方向へと大きく転換したといえる。

本面は、4層の古墳時代包含層を基盤とし、溝昨遺跡(その1)A区6面鋤溝と同様の検出状況を示すものである。切り合いのみられたA区6面鋤溝のうち最新のものは、本面同様中世前半に位置づけられる可能性がある。

本面では坪境溝である河川1は調査区内では検出されず、1・2面に比べ、3面における坪境溝は幅が狭いものであった可能性が考えられる。坪境溝である河川1は中世から近世にかけて、肩部の崩落により幅が漸次広がった可能性が考えられる。

<遺物>3層・3面からは古墳時代中～後期から中世(12～13C)を下限とする遺物が出土した(第75図-25～70、第76図-1～30)。



1. 10YR7/1 灰白色しまった粘土～シルト

第43図 3面溝38内鋤先出土状況

土師皿、黒色土器椀、瓦器皿・椀、白磁碗、須恵器坏蓋・坏身・壺・甕・提瓶・甗・高坏・鉢・器台・甑、土師器壺・竈、円筒埴輪のほか、製塩土器、土錘、滑石製有孔円板・管玉、砥石、叩き石、二次加工のあるサヌカイト剥片、鉄釘が出土し、古墳時代中～後期の遺物が中心となる。耕作のため、下層の古墳時代包含層の遺物が多く混入したとみられる。

(76-29)はタガがみられ円筒埴輪としたが、移動式竈の体部片の可能性もある。

【4-1面】古墳時代中期～7C初頭の掘立柱建物を主体とする集落である。河川2、建物15棟、柵2列、炭集中部のほか、穴362、穴410をはじめとする多数の穴を検出した(第44図、図版10-1)。

本面は、中世耕土層である3層の下層から古墳時代包含層である4層上層が中世の耕作に伴い攪乱されており、これを3-2層～4-1層として除去した後の面である。本面において一旦遺構を検出し航空写真を撮影後、遺構掘削はおこなわずに、古墳時代包含層である4層除去後の4-2面で、再度遺構を検出し、この時点ですべての遺構掘削をおこなった。4-2面で検出した掘立柱建物の柱穴は、すべて4-1面で確認されていたことから、これを4-1面として4-2面と区別した。また、穴についても、多くが本面に含まれるため、本面でまとめて報告する。

<遺物>3-2層～4-1層・4-1面からは、古墳時代前期～7C初

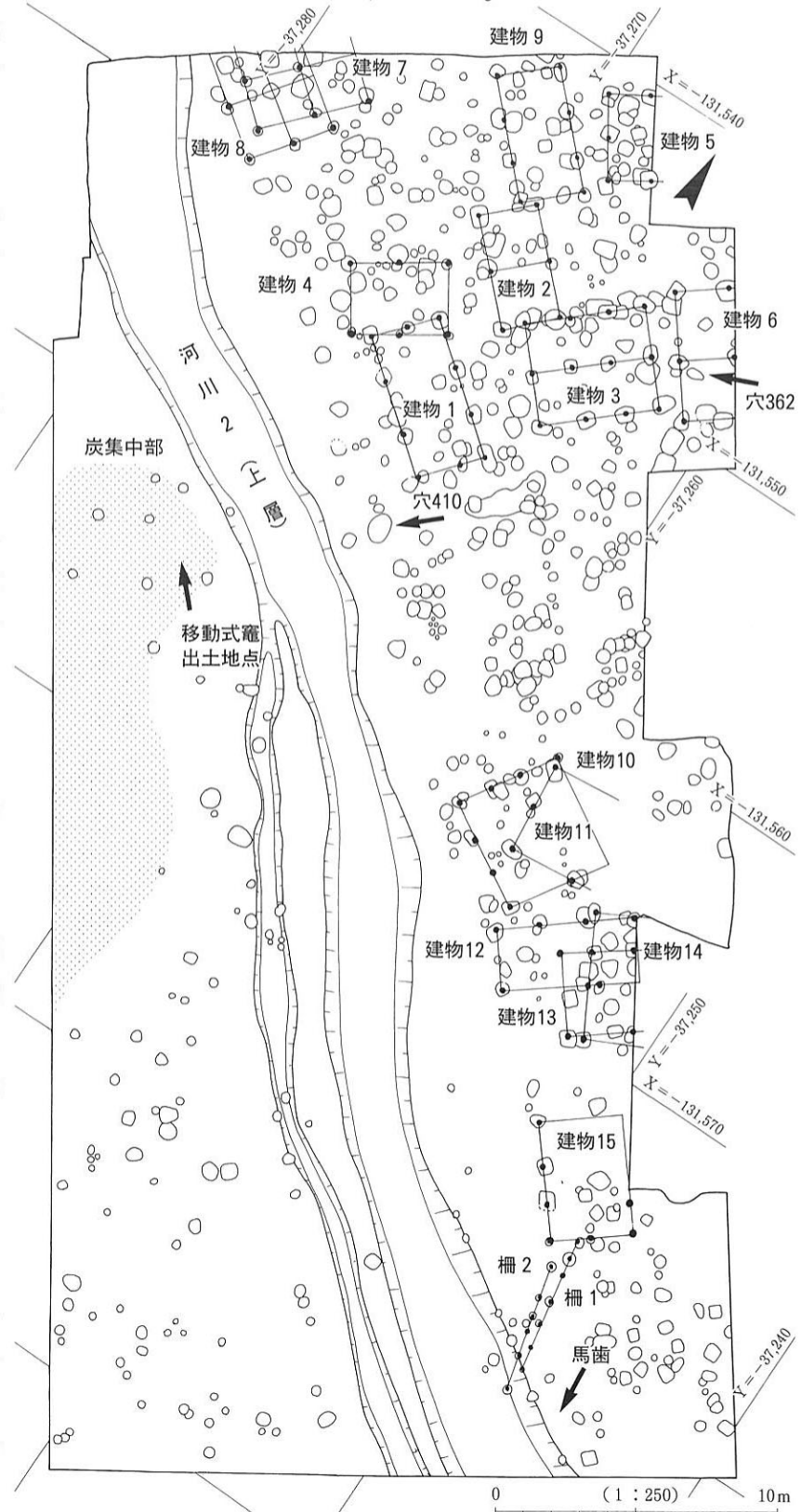
頭の遺物が出土した(第77図-1~42、第78図1~16)。須恵器坏蓋・坏身・壺・甕・提瓶・横瓶・甕・高坏・甗、土師器坏・壺・羽釜・竈、韓式軟質土器のほか、製塩土器、土錘、剣形模造品、滑石製有孔円板・同未製品、不明鉄器が出土し、古墳時代中~後期の遺物が中心となる。須恵器では、初期須恵器およびTK217型式の遺物を少数含み、TK23型式~MT85型式が中心となる。

(113-7)は、鉄板の端部が湾曲するもので鉄斧となる可能性があるが小片のため断定できない。年代は古墳時代後期の可能性が高いが、上層の中世耕土からの混入の可能性も捨てがたく特定できない。

河川2は、古墳時代包含層である4層上面(4-1面)で検出された。横断するトレンチを設け、断面を観察したところ、基盤層である4層から5層にかけて、幾層もの介在する砂の薄層がみられるものの、各面に対する明確な肩部を形成することなく埋積し、継続して機能した河川である。埋土は大きく上・中・下層に分層され、出土遺物からは、上層が4-1面、中・下層が4-2面~5面にほぼともなうことがわかった。下層掘削終了時点で掘削限界に至り底面は検出していない。したがって河川2は、5面以前から継続する河川であり、出土遺物からは弥生時代中期~後期以前から機能した河川とみられる。

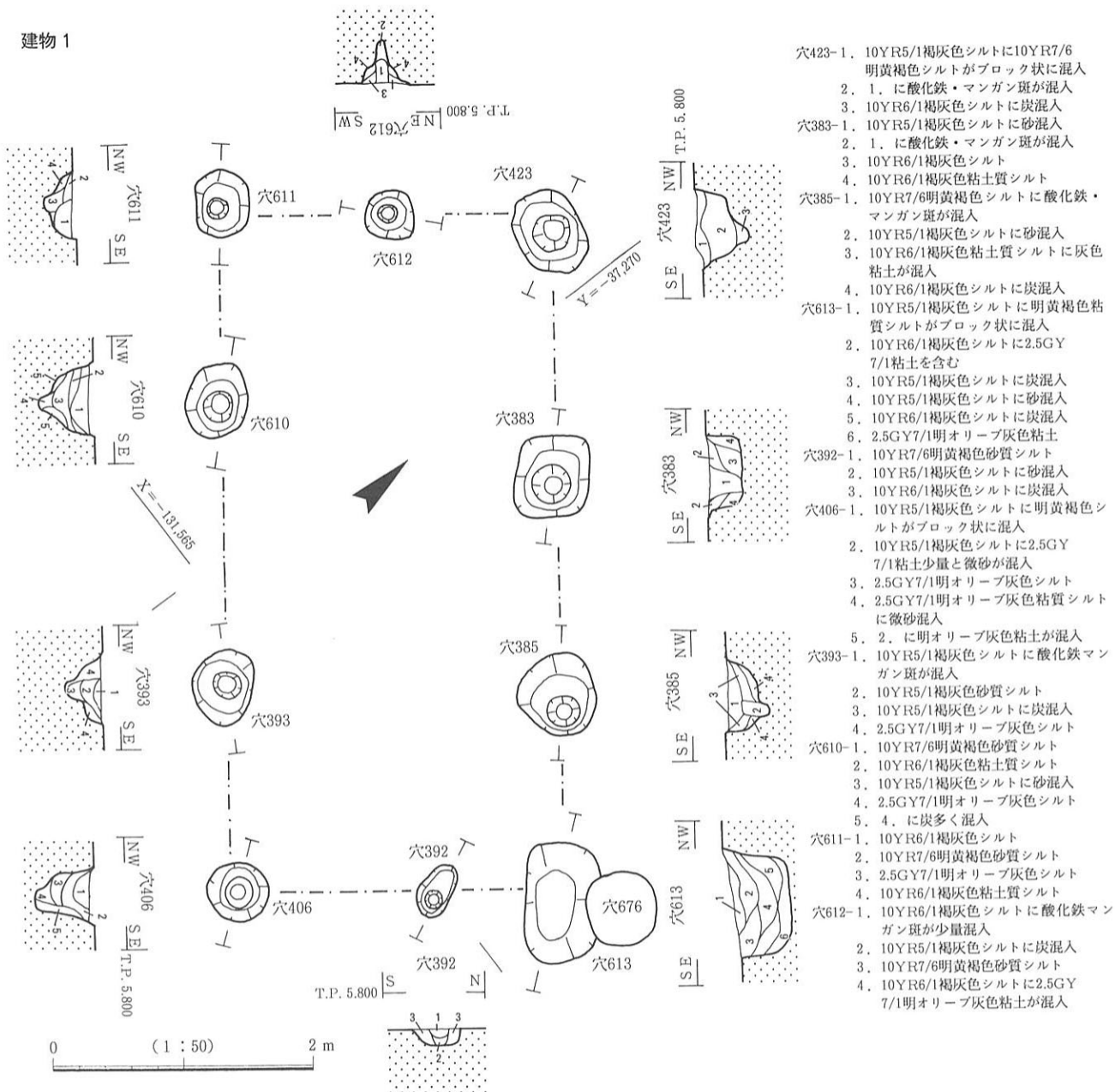
以上より、河川2は上層を4-1面、中層・下層を4-2面~5面にともなうものとして報告する。

河川2(上層)は調査区北西隅部から南東部にかけて貫流し、調査区の中央よりやや北側で2



第44図 4-1面検出遺構

建物 1



第45図 建物 1 平・断面図

条に分流する。幅 3 m、深さ 30~40cm、断面 U 字形の浅い河川であり、埋土は細砂~粗砂である。この上層とした細砂~粗砂層は 3 D 区集落が廃絶する要因となった古墳時代後期末~7 C 初頭の洪水砂と考えられる。

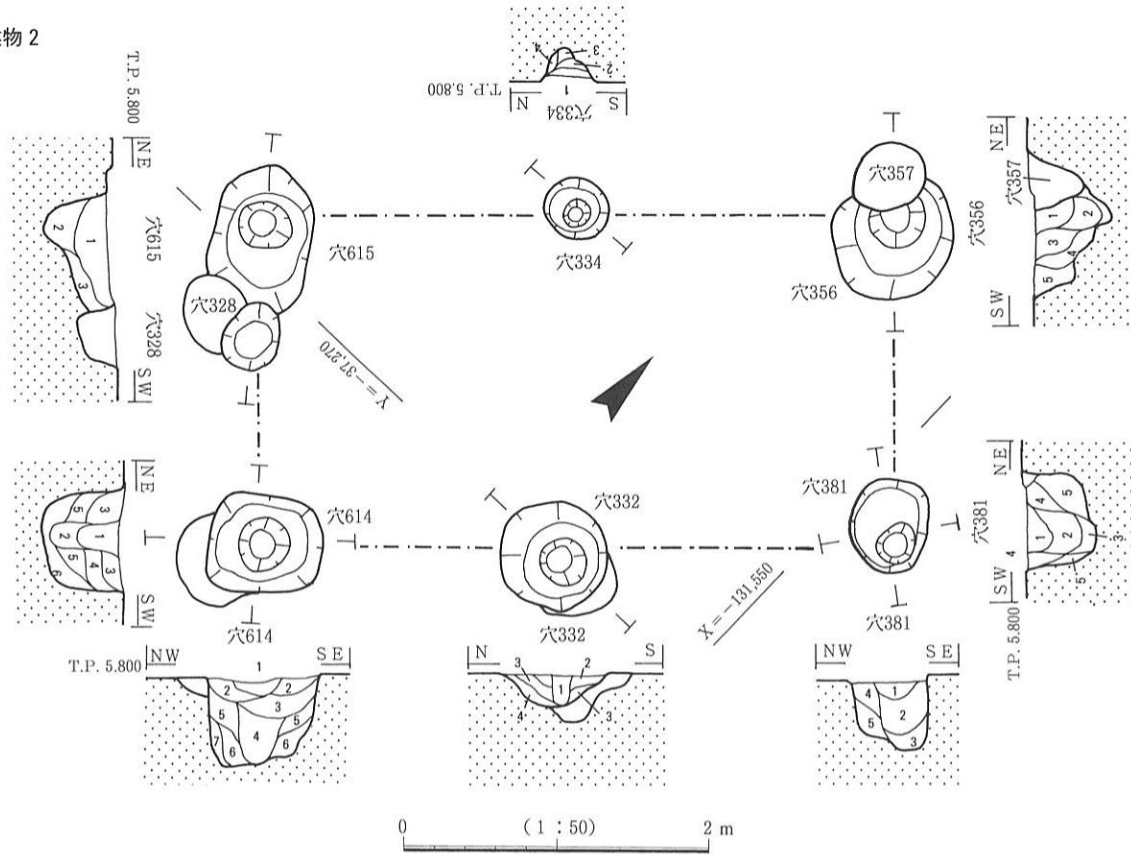
<遺物>河川 2 上層からは、古墳時代前期~7 C 初頭の遺物が出土した(第91図-1~26、第92図-1~5)。須恵器坏蓋・坏身・甕・壺・高坏・器台、土師器鉢・壺・有孔鉢・高坏・甕・竈のほか、製塩土器、滑石製白玉がある。須恵器は、MT85~TK217型式に位置づけられる。

建物 1~15 はすべて河川 2 の東岸で検出した(第45~58図、図版13-5~8・14-1~8・15-1~8・16-1~6)。河川 2 東岸には古墳時代包含層が均一に残存するのに対し、西岸は古墳時代包含層が希薄でシルト~砂層が主体であり、東岸の方が微高地の形成が顕著であったためと考えられる。建物の詳細は第 2 表にゆずり、ここでは注意された点のみ記述する。

建物の主軸は建物 9・2・3・6・12・13・15 の一群と、建物 7・1 の一群がほぼ同軸であるほかは

- 穴423-1. 10YR5/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入
- 2. 1. に酸化鉄・マンガン斑が混入
- 3. 10YR6/1褐灰色シルトに炭混入
- 穴383-1. 10YR5/1褐灰色シルトに砂混入
- 2. 1. に酸化鉄・マンガン斑が混入
- 3. 10YR6/1褐灰色シルト
- 4. 10YR6/1褐灰色粘土質シルト
- 穴385-1. 10YR7/6明黄褐色シルトに酸化鉄・マンガン斑が混入
- 2. 10YR5/1褐灰色シルトに砂混入
- 3. 10YR6/1褐灰色粘土質シルトに灰色粘土が混入
- 4. 10YR6/1褐灰色シルトに炭混入
- 穴613-1. 10YR5/1褐灰色シルトに明黄褐色粘土質シルトがブロック状に混入
- 2. 10YR6/1褐灰色シルトに2.5GY7/1粘土を含む
- 3. 10YR5/1褐灰色シルトに炭混入
- 4. 10YR5/1褐灰色シルトに砂混入
- 5. 10YR6/1褐灰色シルトに炭混入
- 6. 2.5GY7/1明オリブ灰色粘土
- 穴392-1. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト
- 2. 10YR5/1褐灰色シルトに砂混入
- 3. 10YR6/1褐灰色シルトに炭混入
- 穴406-1. 10YR5/1褐灰色シルトに明黄褐色シルトがブロック状に混入
- 2. 10YR5/1褐灰色シルトに2.5GY7/1粘土少量と微砂が混入
- 3. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルト
- 4. 2.5GY7/1明オリブ灰色粘土質シルトに微砂混入
- 5. 2. に明オリブ灰色粘土が混入
- 穴393-1. 10YR5/1褐灰色シルトに酸化鉄・マンガン斑が混入
- 2. 10YR5/1褐灰色砂質シルト
- 3. 10YR5/1褐灰色シルトに炭混入
- 4. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルト
- 穴610-1. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト
- 2. 10YR6/1褐灰色粘土質シルト
- 3. 10YR5/1褐灰色シルトに砂混入
- 4. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルト
- 5. 4. に炭多く混入
- 穴611-1. 10YR6/1褐灰色シルト
- 2. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト
- 3. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルト
- 4. 10YR6/1褐灰色粘土質シルト
- 穴612-1. 10YR6/1褐灰色シルトに酸化鉄・マンガン斑が少量混入
- 2. 10YR5/1褐灰色シルトに炭混入
- 3. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト
- 4. 10YR6/1褐灰色シルトに2.5GY7/1明オリブ灰色粘土が混入

建物2



- | | |
|---|---|
| <p>穴615-1. 10YR6/1褐灰色シルトに炭化物混入
 2. 1. に2.5GY7/1明オリーブ灰色シルトが混入
 3. 10YR6/1褐灰色粘土質シルト灰色粘土が混入</p> <p>穴334-1. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色砂質シルトが混入
 2. 10YR7/6明黄褐色砂質シルトに炭化物多く混入
 3. 10YR5/1褐灰色シルトに炭化物多く混入
 4. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色微砂が混入</p> <p>穴356-1. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色砂質シルトが混入
 2. 10YR5/1褐灰色シルトに灰色粘土が混入
 3. 10YR5/1褐灰色シルトに炭・土師器片僅かに混入
 4. 2. 炭化物多く混入
 5. 1. に微砂混入</p> <p>穴381-1. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色砂質シルトが混入
 2. 10YR6/1褐灰色砂質シルトに2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土が混入
 3. 2. よりも灰色粘土が多く混入
 4. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入
 5. 4. よりも粘性が強く締まる</p> | <p>穴332-1. 10YR6/1褐灰色シルトに明オリーブ灰色粘土が混入
 2. 10YR6/1褐灰色シルトに炭化物ラミナ状に混入
 3. 10YR6/1褐灰色シルトに炭・土師器片混入
 4. 2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルト</p> <p>穴614-1. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色砂質シルトが混入
 2. 1. に炭化物・マンガ班・酸化鉄少量混入
 3. 10YR6/1褐灰色シルトに炭・土師器片混入
 4. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入
 5. 4. に炭化物多く混入
 6. 10YR6/1褐灰色シルトに2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土がブロック状に混入
 7. 2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルト</p> |
|---|---|

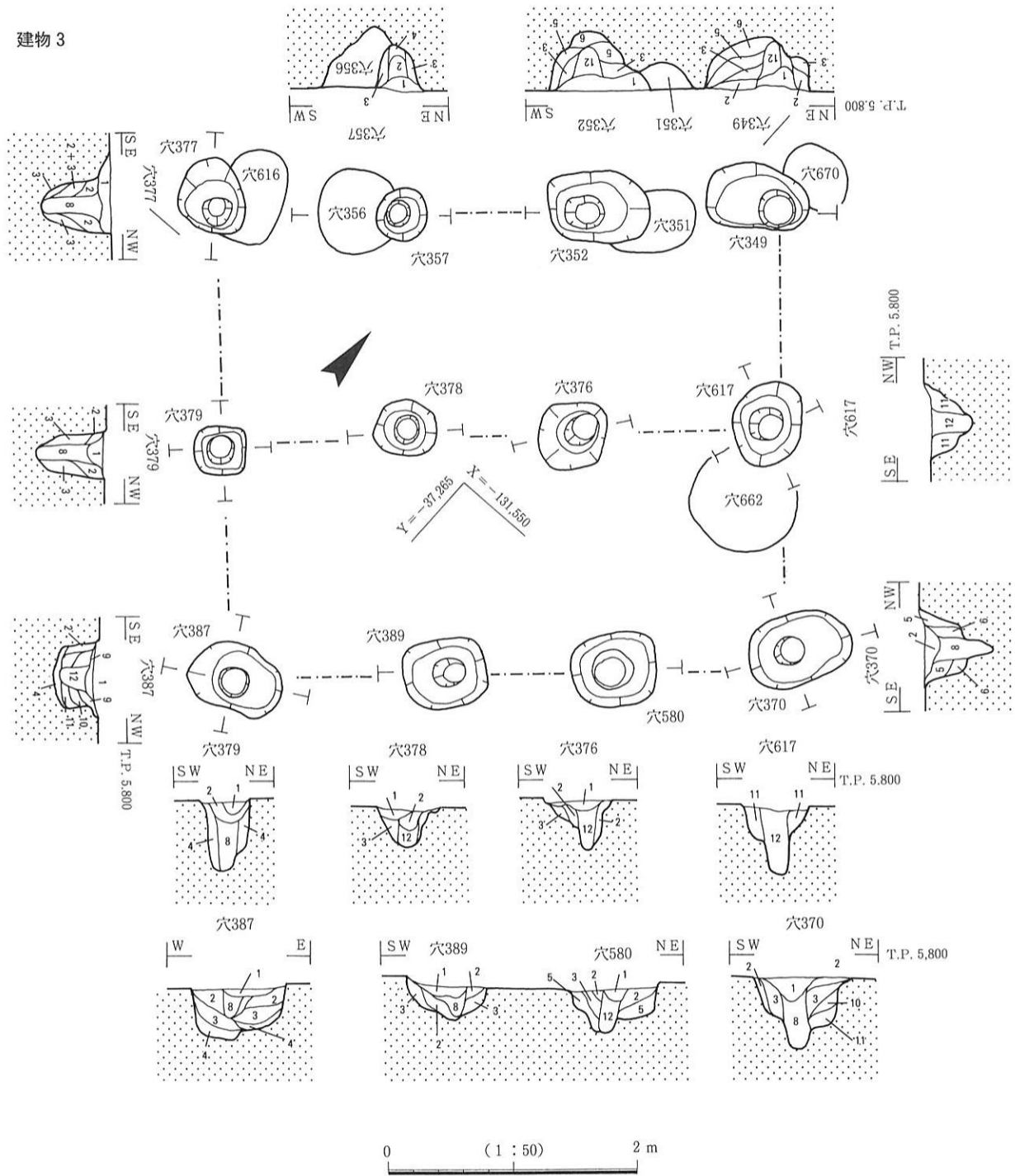
第46図 建物2 平・断面図

とくに規則性がみとめられないが、いずれも河川2に対して柱列がほぼ平行であり、建物の方向性は河川2を基準とした微地形に即したものと考えられる。

建物の柱列は直線上に並ぶものもあるが、柱の太さである直径約10cm前後のずれが多くみられ、また柱間も不均等なものが多い。溝昨遺跡のような一般的な古墳時代後期集落における掘立柱建物は、建築に際し、事前に厳密な設計をもつことはなく、用意できた桁材、梁材によって柔軟に建物を構築したと考えられる。

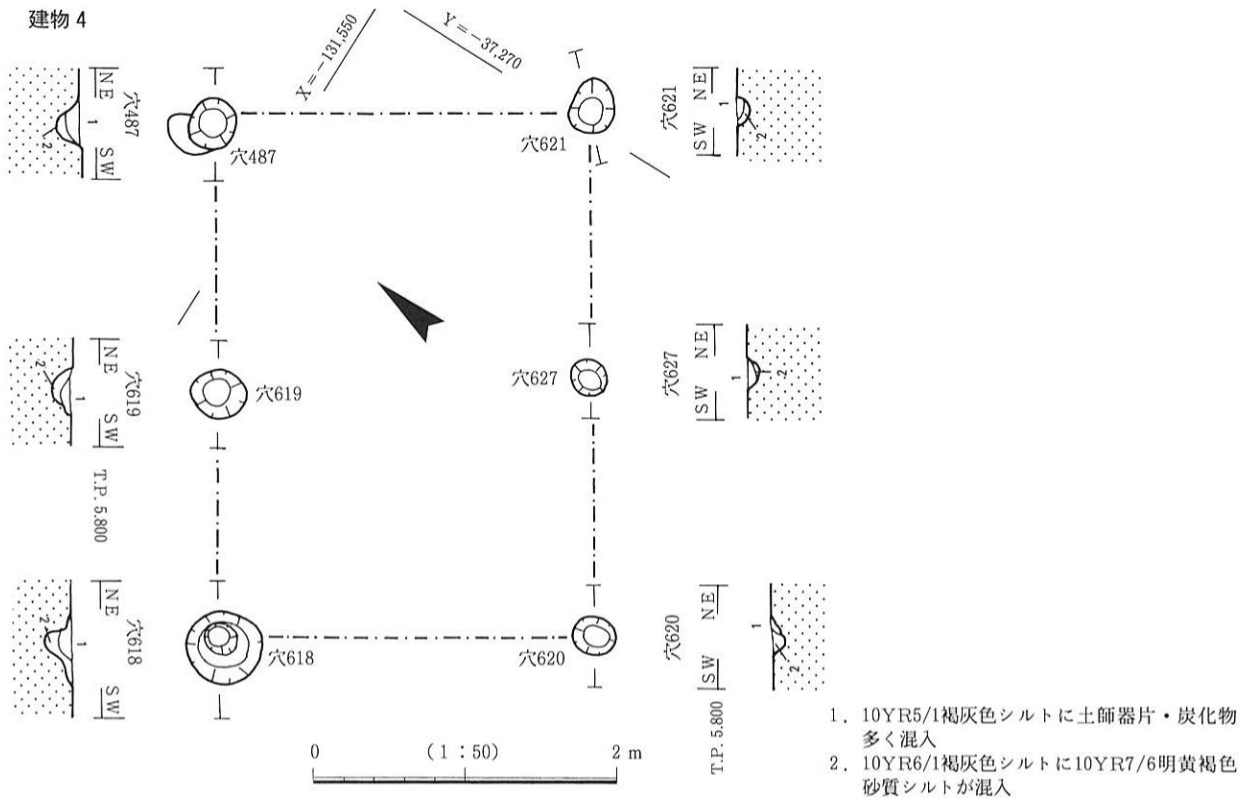
建物3は、北側桁行の柱穴の重複が顕著であり、ほぼ同じ箇所でも2～3回柱穴を掘削する点に注意された(第47図、図版14-1～4)。建物3は検出された掘立柱建物のなかでも大形の総柱建物で、比較的整然と柱穴が並ぶことから、他の建物に比べやや特殊な性格をもつ可能性が考えられる。柱穴の重複は、こうした建物の性格に拠るとも考えられるが、柱穴全体ではなく北側柱列のみが重複する点が特異

建物 3

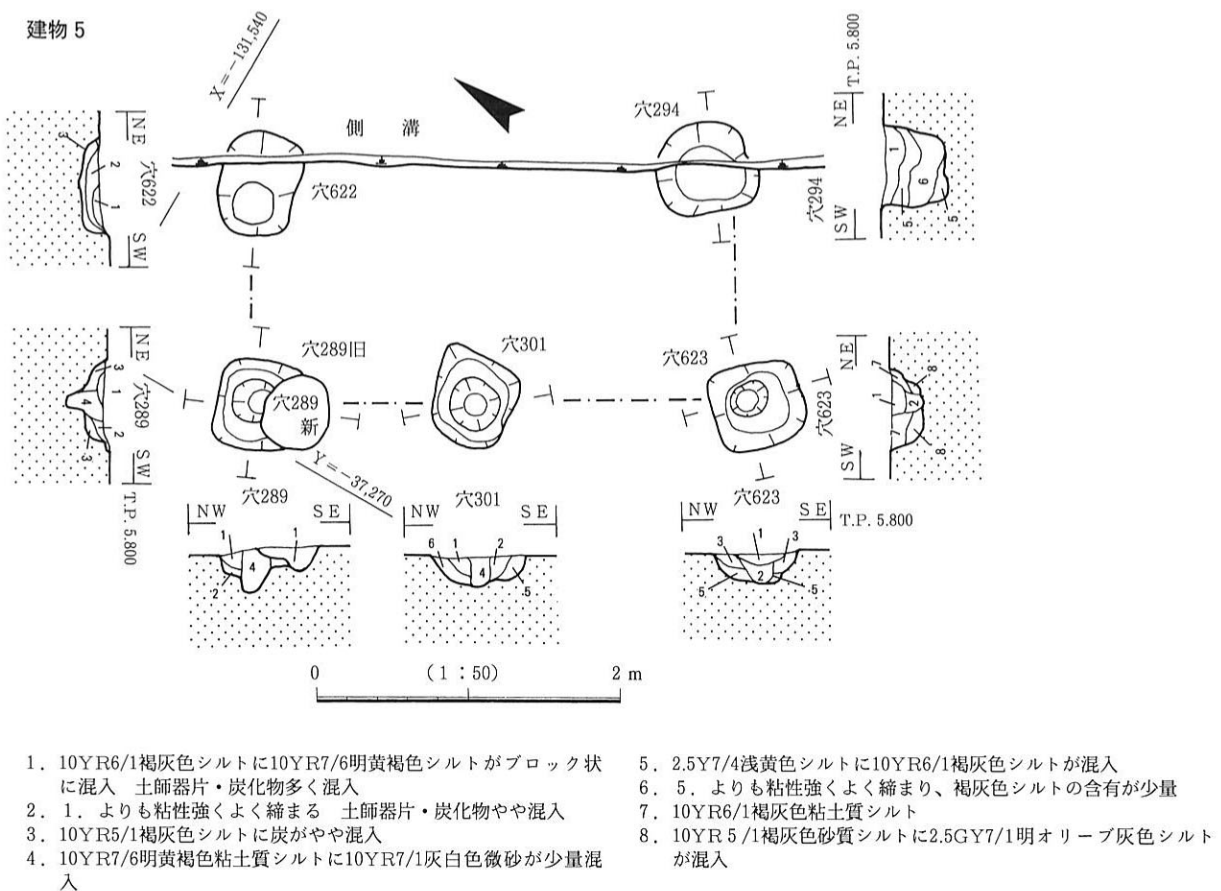


1. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトがブロック状に混入 炭化物多量に混入
2. 10YR5/1 褐灰色シルトに土師器片・炭化物多く混入 マンガン斑の沈着あり
3. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトに土師器片・炭化物多く混入
4. 10YR5/1 褐灰色砂質シルトに10YR7/1 灰白色微砂がラミナ状に混入
5. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトが混入
6. 10YR5/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトがブロック状に混入
7. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1 明オリーブ色シルトがブロック状に混入 炭化物少量混入
8. 10YR7/6 明黄褐色粘土質シルトに10YR7/1 灰白色微砂が少量混入 炭化物わずかに混入
9. 2.5GY7/1 浅黄色シルトに10YR6/1 褐灰色シルトが混入 管状酸化鉄混入
10. 2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルトに10YR6/1 褐灰色シルトが混入 酸化鉄色素沈着
11. 2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルトに10YR7/1 灰白色微砂が混入
12. 粘土に10YR7/1 灰白色微砂がわずかに混入

第47図 建物 3 平・断面図

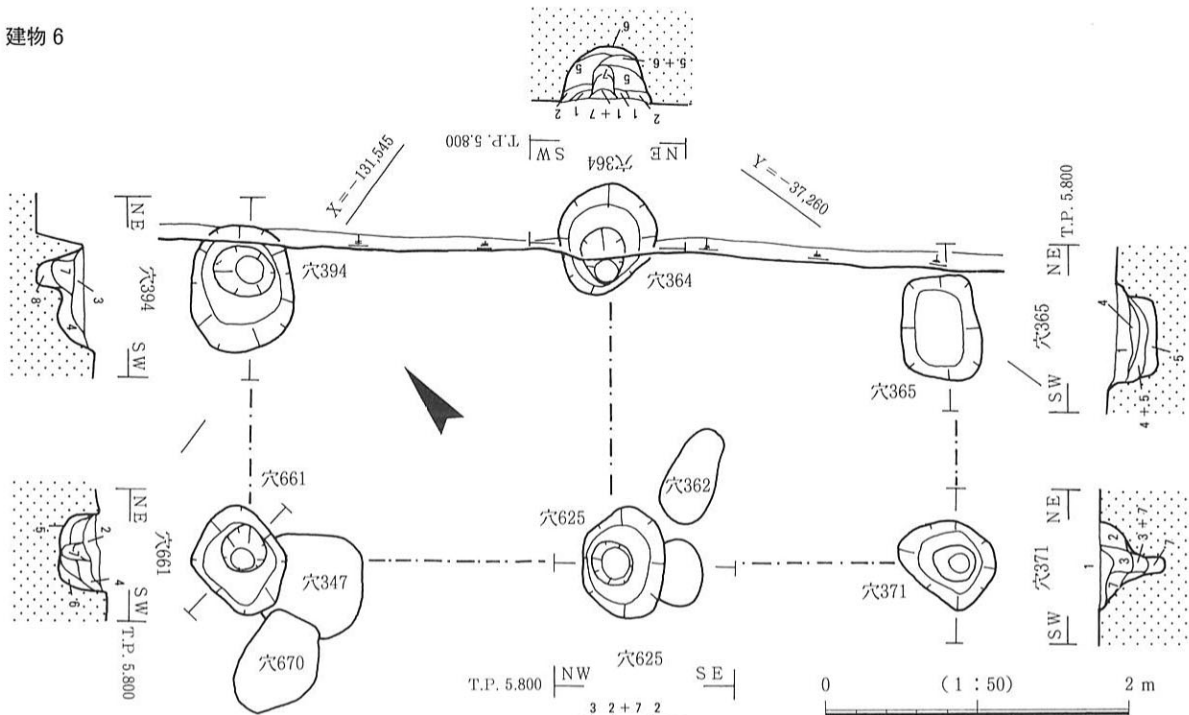


第48図 建物 4 平・断面図



第49図 建物 5 平・断面図

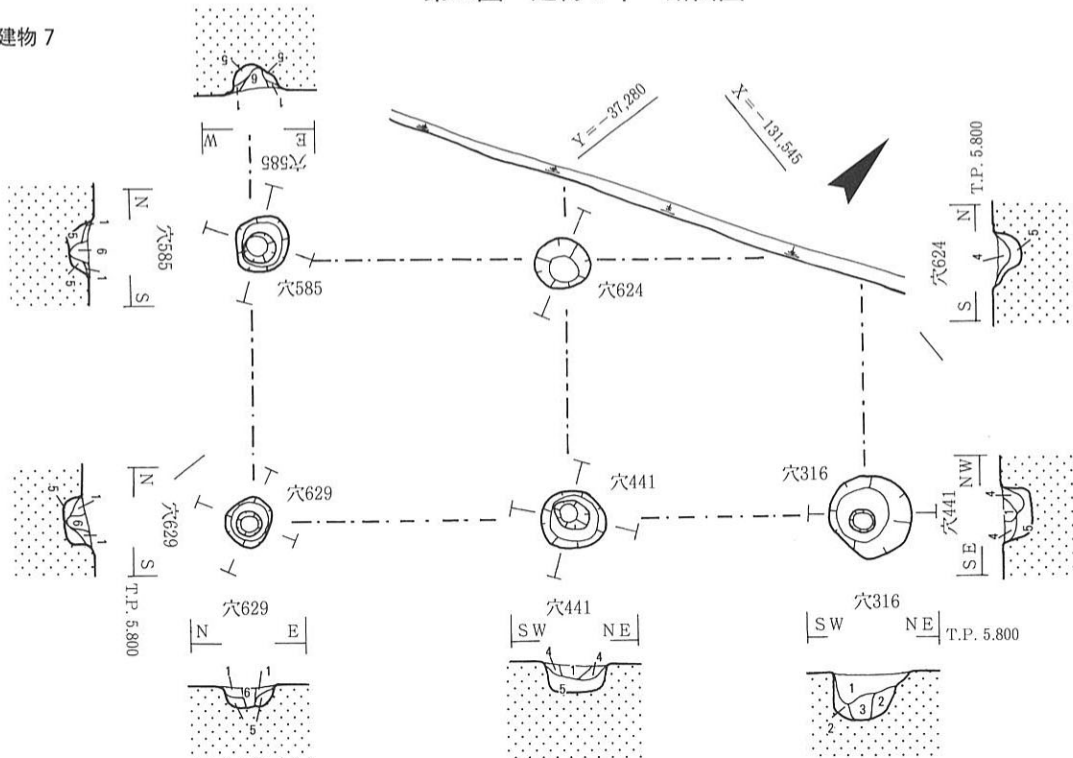
建物 6



1. 10YR7/6明黄褐色シルトに10YR6/1褐灰色シルトが混入
土師器片・炭化物多く混入
2. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入
3. 2. に土師器片・炭化物多く混入
4. 3. に管状酸化鉄・マンガン斑が多量に混入
5. 2.5Y7/4浅黄色シルトブロックに10YR7/1灰白色微砂が混入
6. 10YR6/1褐灰色シルトに2.5Y7/4浅黄色シルトがブロック状に混入
7. 10YR6/1褐灰色粘土質シルト
8. 10YR5/1褐灰色シルトに2.5GY7/1明オリブ灰色シルトが混入

第50図 建物 6 平・断面図

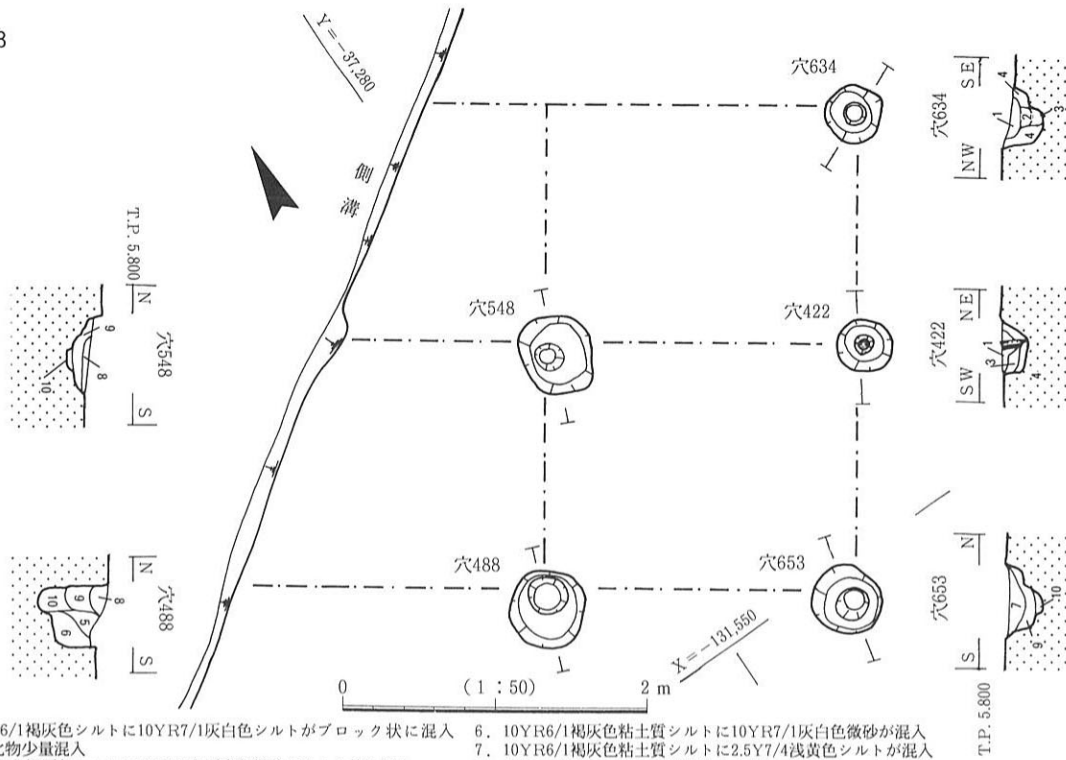
建物 7



1. 10YR6/1褐灰色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入 炭化物多量に混入
2. 10YR7/6明黄褐色シルトに10YR5/1褐灰色シルトが混入 炭化物少量混入
3. 10YR5/1褐灰粘土質シルトに土師器片・炭化物やや混入
4. 10YR5/1褐灰色砂質シルトに10YR7/1灰白色微砂が混入
5. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルトに10YR7/1灰白色微砂がラミナ状に混入
6. 10YR7/1灰白色粘土質シルトに粘土・炭化物やや混入

第51図 建物 7 平・断面図

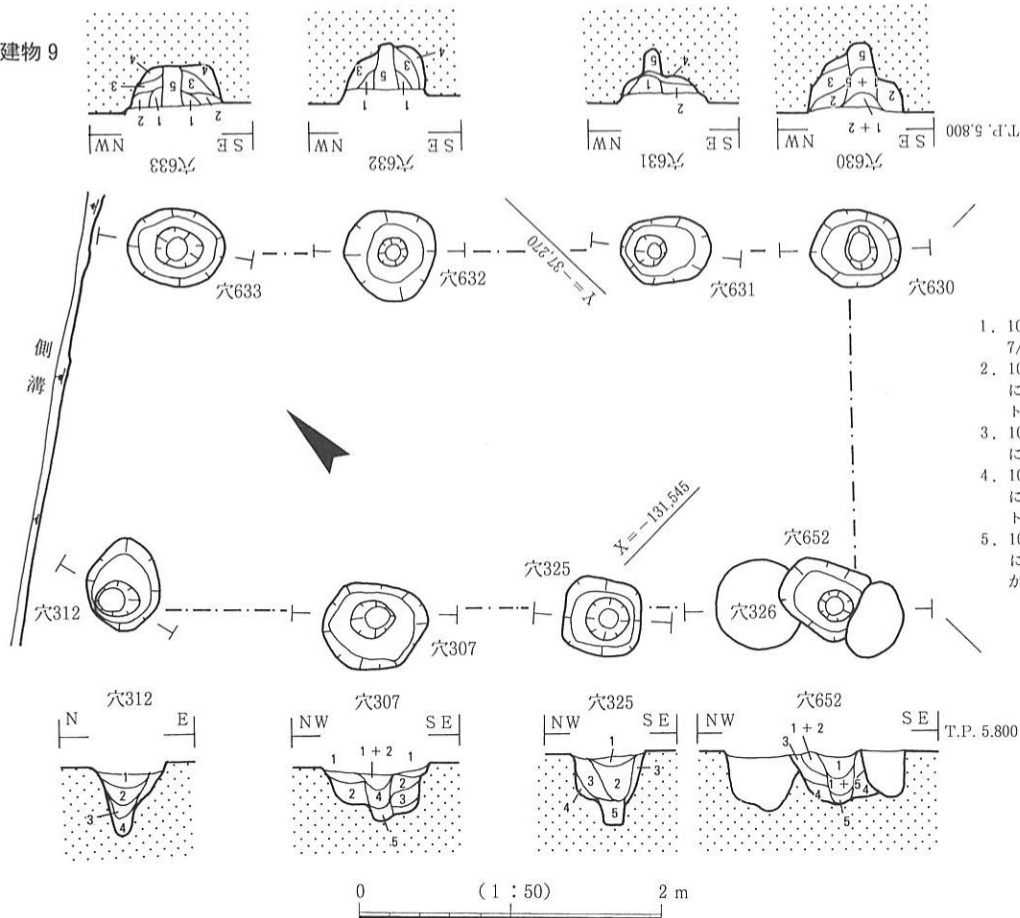
建物 8



1. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/1 灰白色シルトがブロック状に混入
炭化物少量混入
2. 10YR5/1 褐灰色シルトに10YR7/1 灰白色微砂がナミナ状に混入
3. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1 明オリーブ色シルトが混入
土師器片・炭化物多く混入
4. 1. よりも粘性強く締まる
5. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルトに微砂混入
6. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルトに10YR7/1 灰白色微砂が混入
7. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルトに2.5Y7/4 浅黄色シルトが混入
8. 10YR6/1 灰色シルトに炭化物やや混入
9. 10YR6/1 灰色シルトに炭化物・土師器片やや混入
10. 10YR6/1 褐灰色シルトが混入

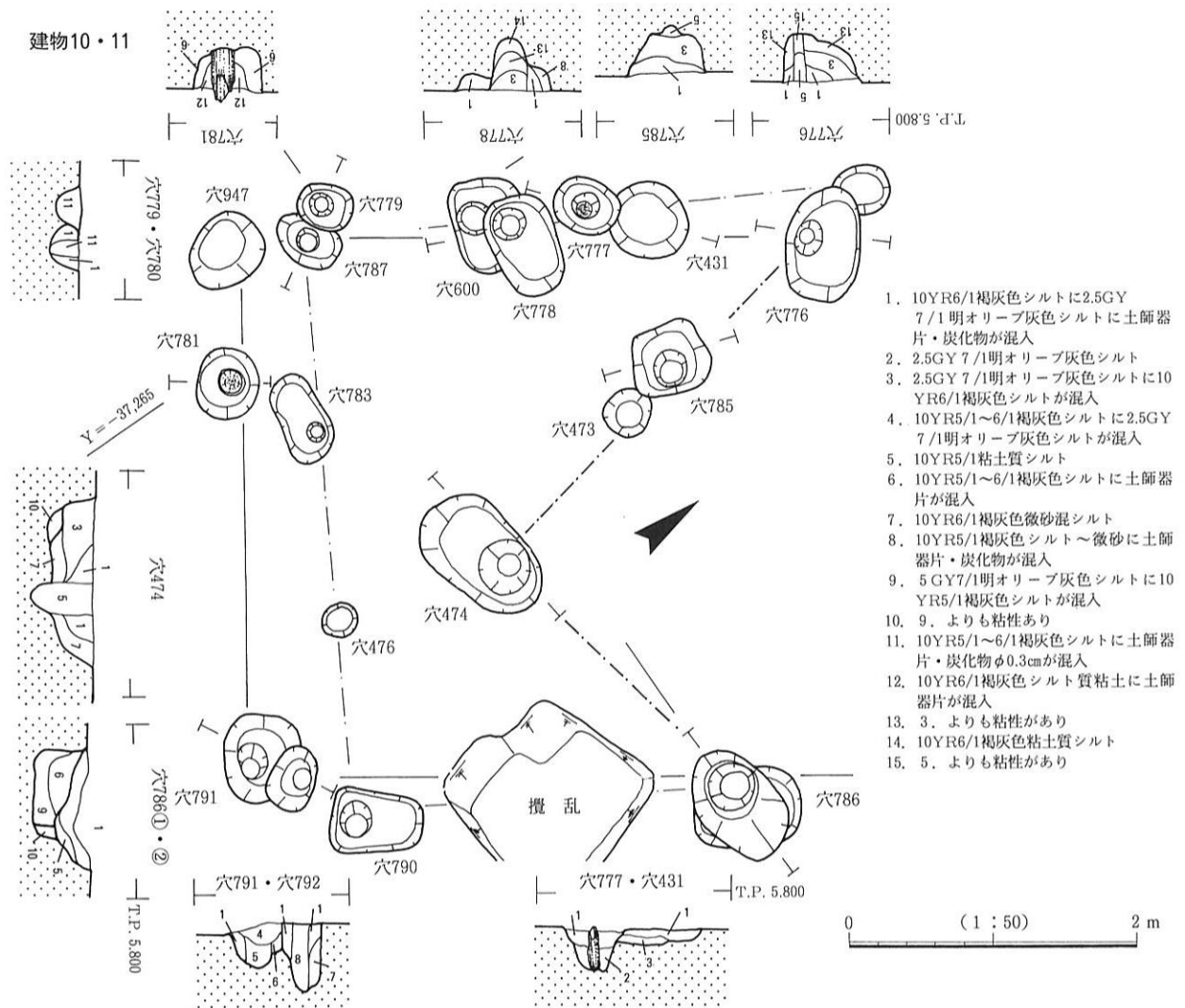
第52図 建物 8 平・断面図

建物 9



1. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトが混入
2. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1 明オリーブ色シルトが混入
3. 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトに土師器片・炭化物多く混入
4. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1 明オリーブ色シルトがブロック状に混入
5. 10YR6/1 褐灰色粘土質シルトに10YR7/1 灰白色微砂がわずかに混入

第53図 建物 9 平・断面図



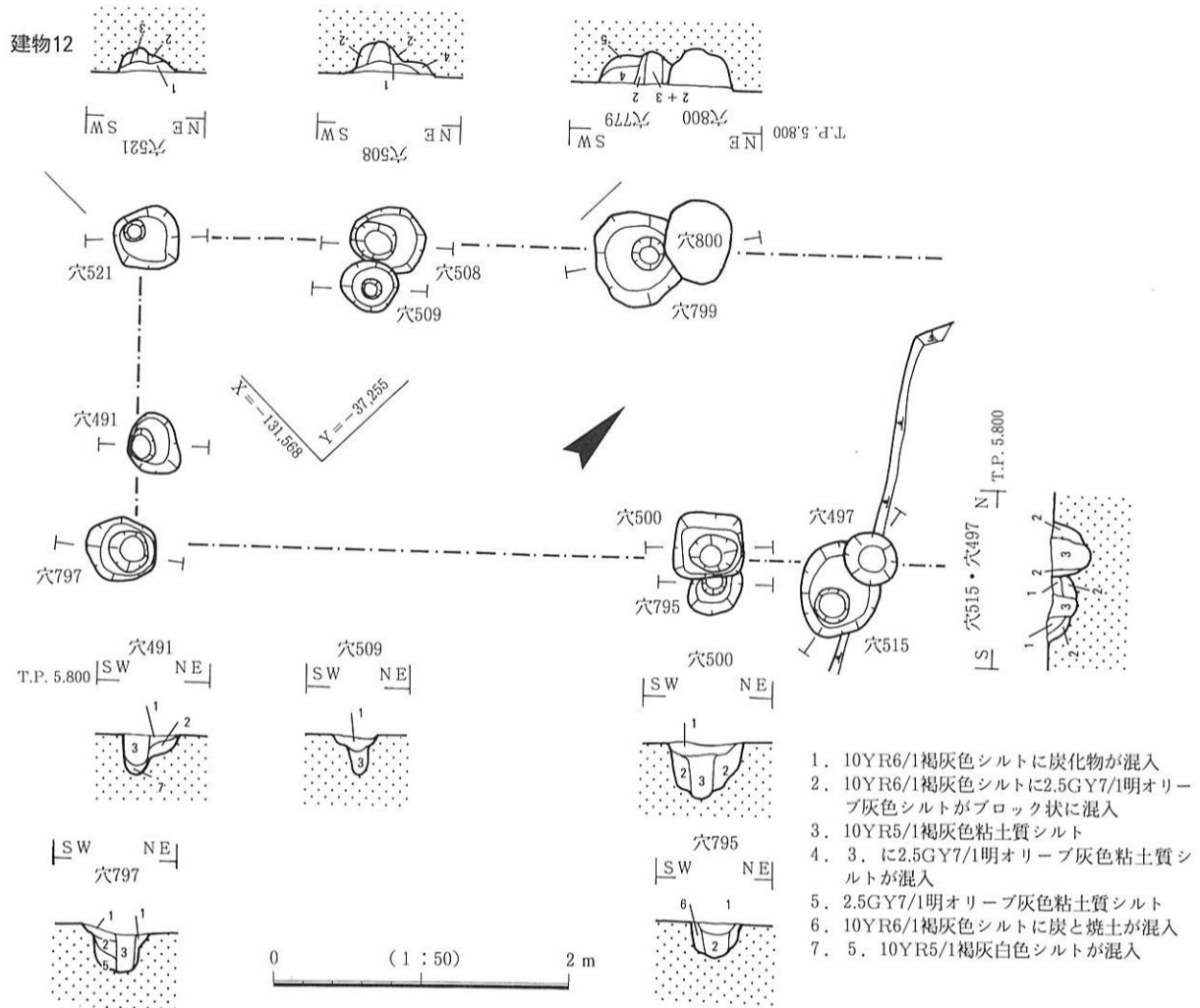
であり、推論の域をでない。

<遺物>建物からは、古墳時代前期~後期の遺物が出土した(第82図-1~46)。須恵器坏蓋・坏身・甕・壺・高坏・甌・器台・甗、土師器壺・鉢・甌・高坏・甕・羽釜・手づくねのほか、製塩土器がある。須恵器は、TK23型式~MT85型式のものが多くみられることから、掘立柱建物を主体とする集落の盛期はこの年代にあるといえる。

柵1・2は、調査区南東隅部でほぼ南北方向に検出した(第59図、図版16-7・8)。柵1・2とも柱間距離は70cm~2mの幅をもち、不均等である。柱穴の直径は30~50cm、深さ25~40cmである。柵1・2の柱穴埋土は建物柱穴埋土と同じく4層古墳時代包含層に類似する茶灰色シルトであり、柱穴の規模等も他の多くの穴と類似する。しかし、柵1・2の方向は建物とは異なり微地形に即するものではないため、3面の中世前半の水田面に伴う遺構である可能性を残す。

<遺物>柵1・2からは古墳時代中期~後期の遺物が出土した(第83図-26~29)。須恵器坏身、土師器高坏・壺・小形丸底壺がある。須恵器は、MT85型式に位置づけられる。

炭集中部は、河川2西岸中央部で検出された(第60図、図版10-2・3)。南北16m、東西6mの範囲に炭化物がひろがり、遺物が多く出土した。深さ10~20cmの浅い落ち込みであり、埋土は灰白色シルト~微砂である。炭化物および遺物は上面のみでみられた。移動式カマドの底部分がまとめて検出さ



第55図 建物12平・断面図

れたほか、完形の須恵器甕が倒位で、完形の須恵器坏がまとまって出土しており、そのほか土師器羽釜・甕・高坏、須恵器甗・高坏・甕・提瓶・捏鉢が出土した。出土土器の器種からはとくに祭祀的な性格はうかがえず、生活にともなう土器が廃棄されたものと考えられる。

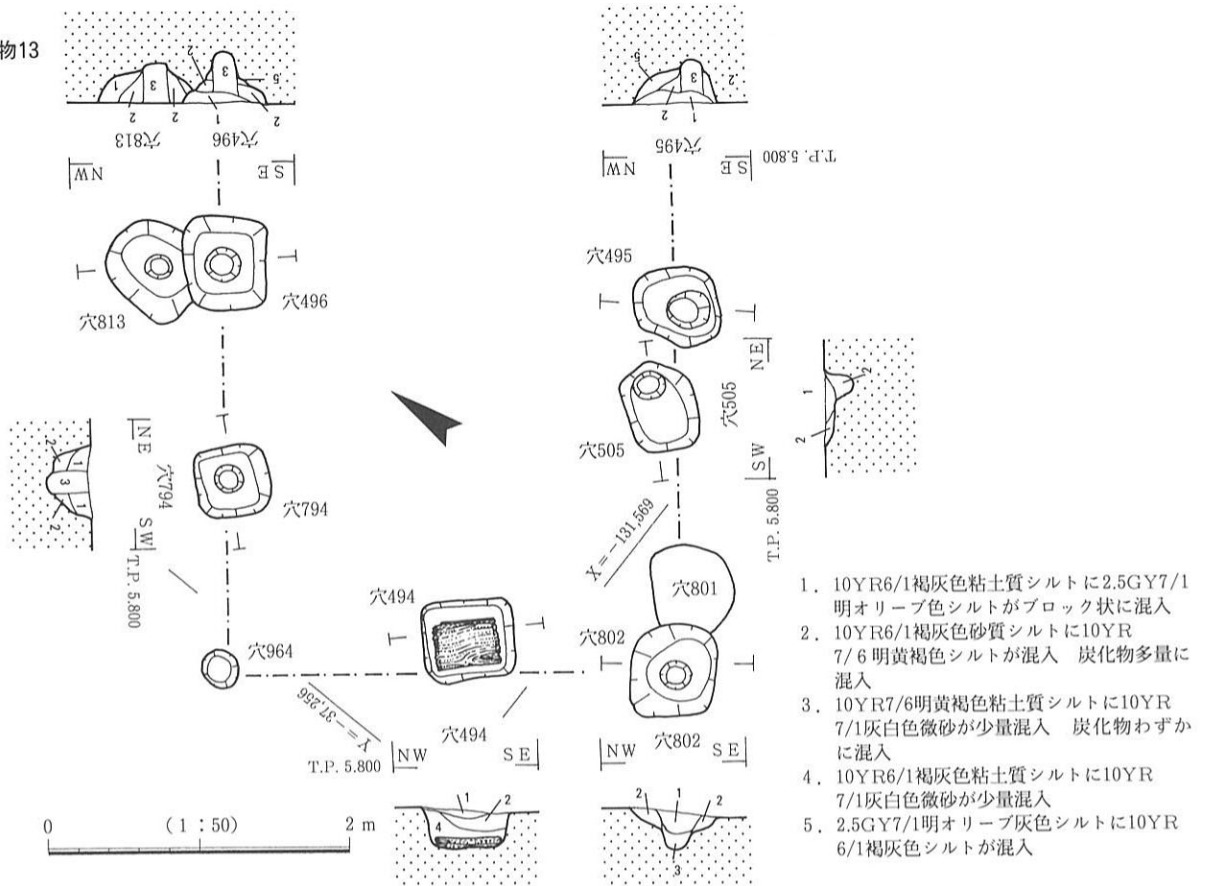
炭集中部は5面河川2の上面にあたるため浅い落ち込み状であり、本来ひろがっていた4-1面が、中世水田造成にともなう削平をまぬがれ、部分的に残存した可能性がある。

<遺物>炭集中部からは、古墳時代中期後葉～後期の遺物が出土した(第89図-1~42、第90図-1~26)。須恵器は、TK47~TK43型式に位置づけられる。

穴362は、調査区北東部、建物3東側で検出された(第61図、図版17-5・6)。楕円形であり、長径1.3m、短径65cm、深さ18cmである。埋土は、4層古墳時代包含層に類似する茶灰色シルトであり、上層から製塩土器が20個体弱出土した。穴の壁面は焼成を受けておらず、炭化物もとくに多くはみられないことから、穴362は土器または塩の焼成に伴うものではないと考えられる。製塩土器は完形品が10個体程度あり、斜位、横位で間隙なく出土しており、他の遺物を含まないことから、選択的、人為的に埋納された可能性が高い。

<遺物>穴362からは、古墳時代中期後葉～後期中頃の製塩土器が出土した(第109図-24~41)。製塩土器はすべて丸底であり、脚台付きはみられない。形態、調整から、A-口径より器高が大きい蛸壺形で、外面にタタキを施すもの、B-口径より器高が大きい蛸壺形で、外面をナデで仕上げるもの、C-

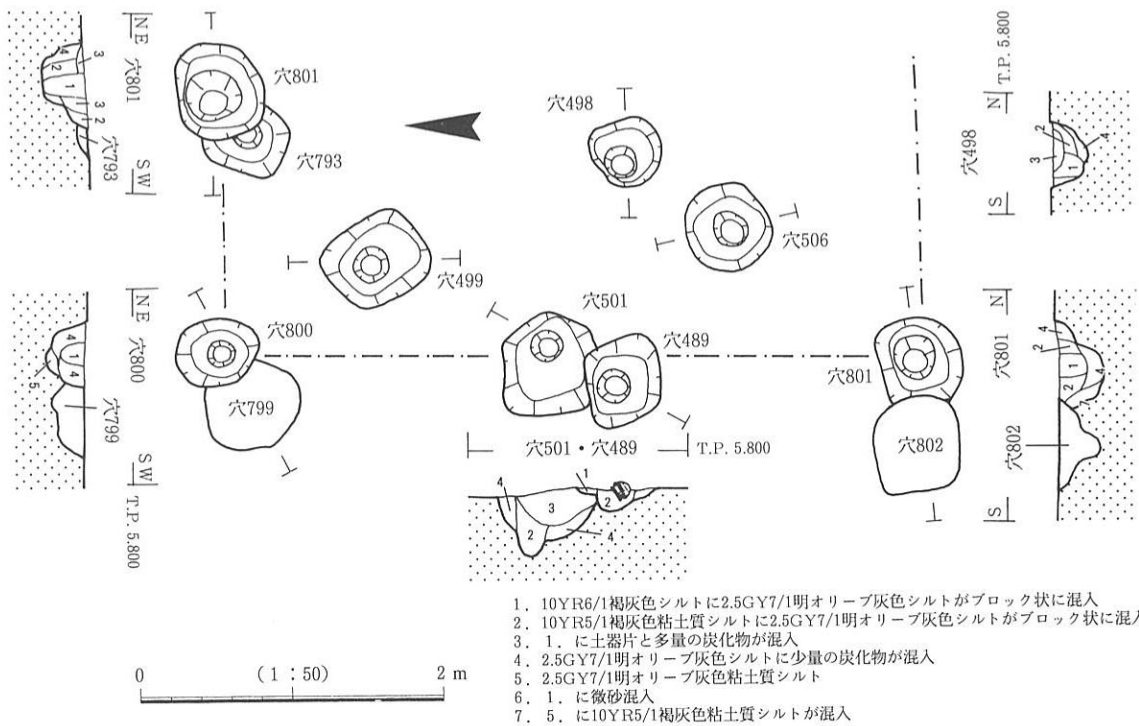
建物13



1. 10YR6/1褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1明オリブ色シルトがブロック状に混入
2. 10YR6/1褐灰色砂質シルトに10YR7/6明黄褐色シルトが混入 炭化物多量に混入
3. 10YR7/6明黄褐色粘土質シルトに10YR7/1灰白色微砂が少量混入 炭化物わずかに混入
4. 10YR6/1褐灰色粘土質シルトに10YR7/1灰白色微砂が少量混入
5. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルトに10YR6/1褐灰色シルトが混入

第56図 建物13平・断面図

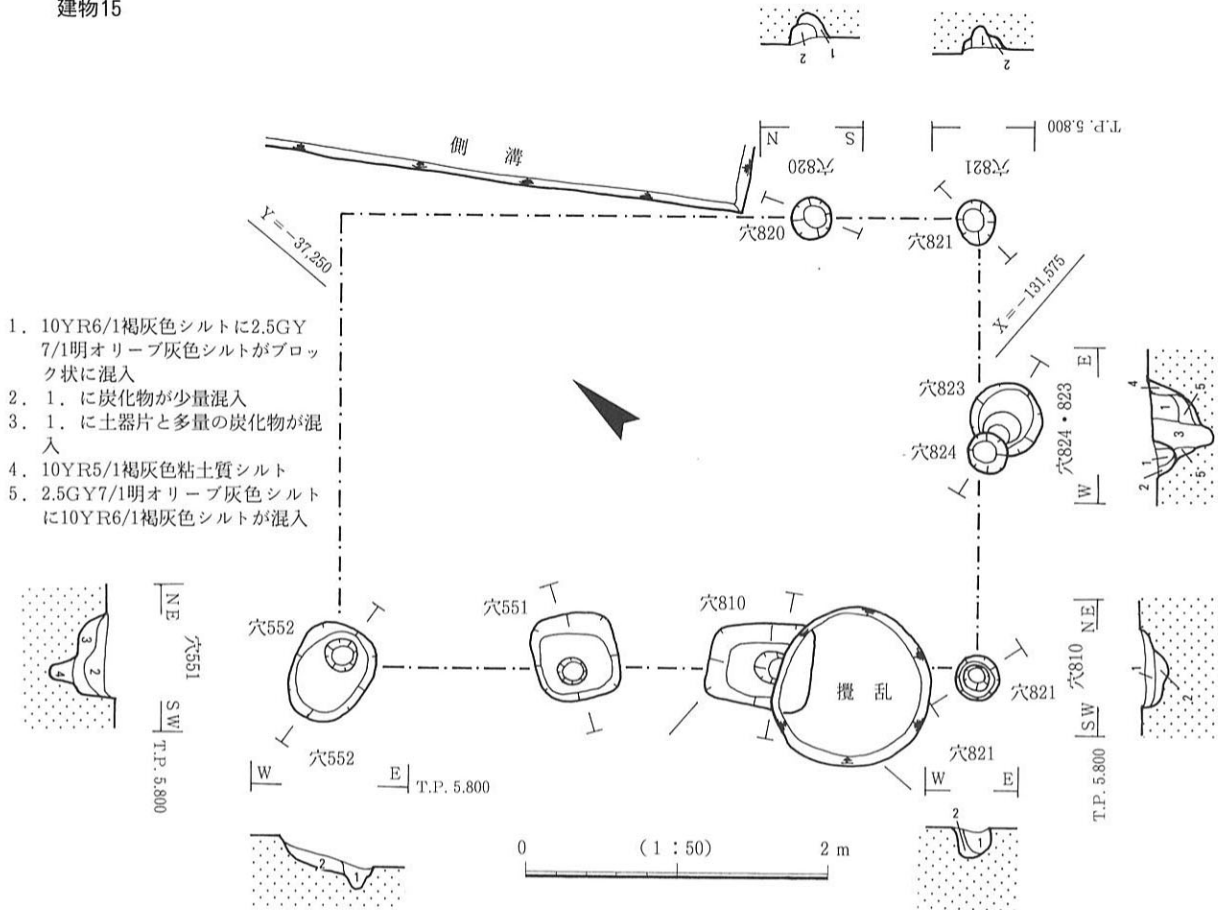
建物14



1. 10YR6/1褐灰色シルトに2.5GY7/1明オリブ灰色シルトがブロック状に混入
2. 10YR5/1褐灰色粘土質シルトに2.5GY7/1明オリブ灰色シルトがブロック状に混入
3. 1. に土器片と多量の炭化物が混入
4. 2.5GY7/1明オリブ灰色シルトに少量の炭化物が混入
5. 2.5GY7/1明オリブ灰色粘土質シルト
6. 1. に微砂混入
7. 5. に10YR5/1褐灰色粘土質シルトが混入

第57図 建物14平・断面図

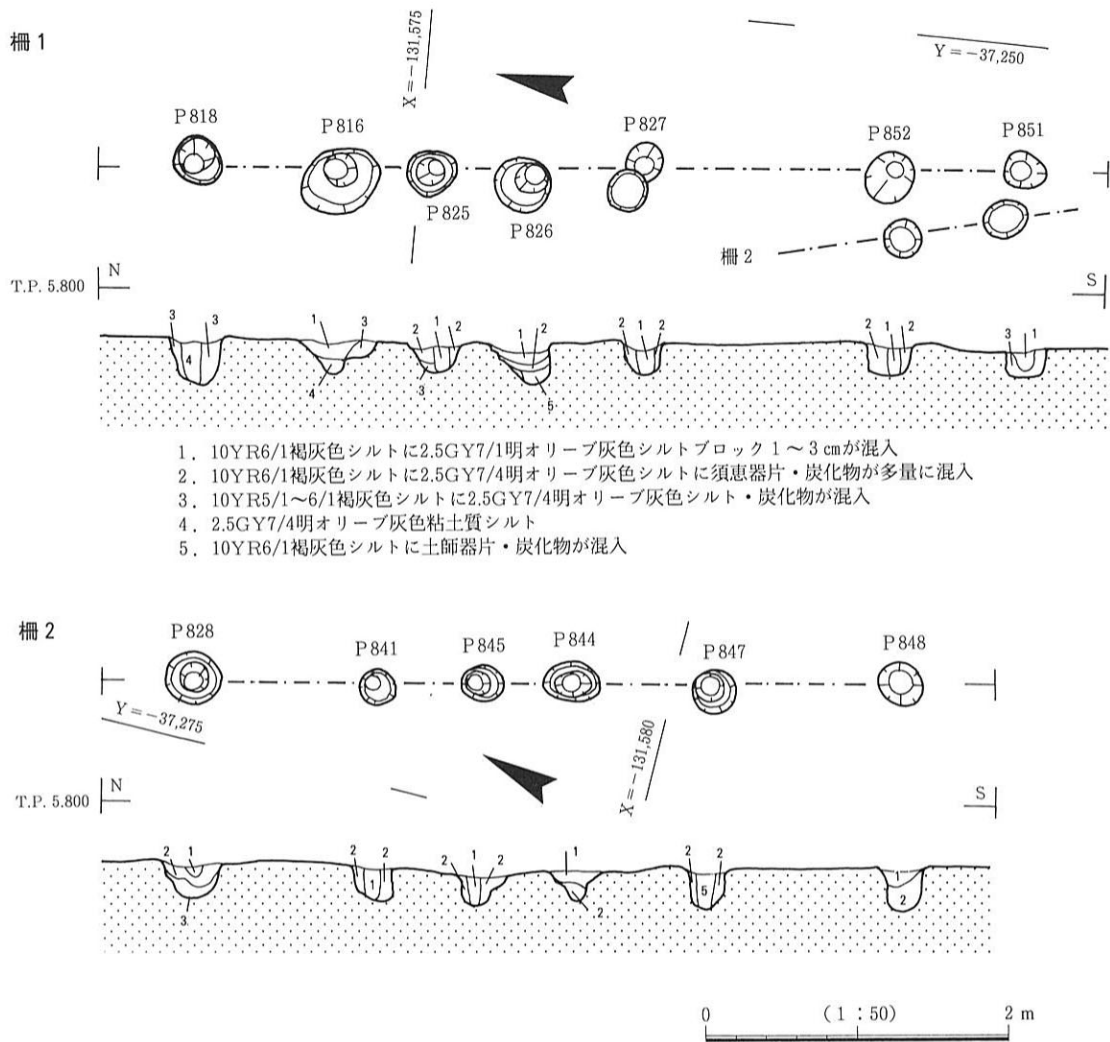
建物15



第58図 建物15平・断面図

	桁間 (m)	梁間 (m)	柱間平均	柱間平均	挿図遺物番号	出土遺物の年代	須恵器の型式
			桁間 (m)	梁間 (m)			
建物1	3間 : 5.3	2間 : 2.5	1.8	1.3	第82図-1~6	古墳時代中期~後期	TK23~TK47型式からMT85型式
建物2	2間 : 4.2	1間 : 2.2	2.1	2.2	第82図-7・10	古墳時代中期~後期	MT15型式からMT85型式
建物3	3間 : 4.5	2間 : 3.8	1.5	1.9	第82図-8・9・11・13	古墳時代中期~後期	TK23~TK47型式からMT85型式
建物4	2間 : 3.5	1間 : 2.5	1.7	2.5	第82図-12・14~16	古墳時代前期~中期	
建物5	1間~ : 1.5~	2間 : 3.2	1.5	1.6	第82図-17・18	古墳時代中期~後期	
建物6	1間~ : 1.9~	2間 : 4.7	1.9	2.4	第82図-19~21	古墳時代中期~後期	TK208型式からTK47型式
建物7	1間~ : 1.8~	2間 : 4.0	1.7	2.0	第82図-22	古墳時代後期初頭	TK47型式
建物8	1間~ : 2.0~	2間 : 3.2	2.0	1.6	第82図-23~29	古墳時代前期~後期	
建物9	3間~ : 4.8~	1間 : 2.4	1.6	2.4	第82図-30	古墳時代中期前半	初期須恵器
建物10	1間~ : 2.3~	2間 : 3.2	2.3	1.6	第82図-31・34	古墳時代中期~後期	TK23~TK47型式
建物11	3間 : 4.1	3間 : 3.8	1.35	1.3	第82図-32・35	古墳時代中期~後期	TK23~MT15型式
建物12	2間~ : 3.5~	1間? : 2.1	1.7	2.1	第82図-36・37	古墳時代後期	
建物13	2間~ : 2.6~	1間 : 3.0	1.3	3.0	第82図-38~41	古墳時代前期~後期	
建物14	2間 : 4.6	1間~ : 1.6~	2.3	1.6	第82図-42~44	古墳時代中期~後期	TK23~TK47型式
建物15	3間 : 4.2	2間 : 3.0	1.4	1.5	第82図-45~46	古墳時代後期	MT15~TK10型式

第2表 建物一覧表



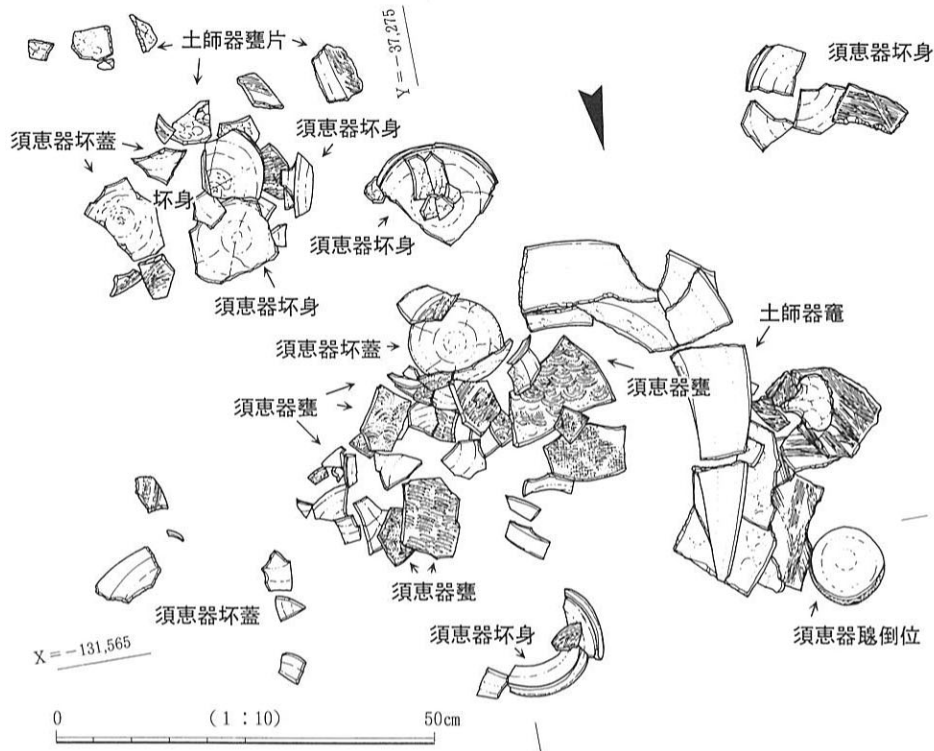
第59図 柵1・2平・断面図

口径より器高が小さい鉢形で、外面をナデで仕上げるもの、に3分類され、一覧表(第5表)に記した。A、Bは、広瀬分類の丸底1式、Cは丸底2式に対応する。

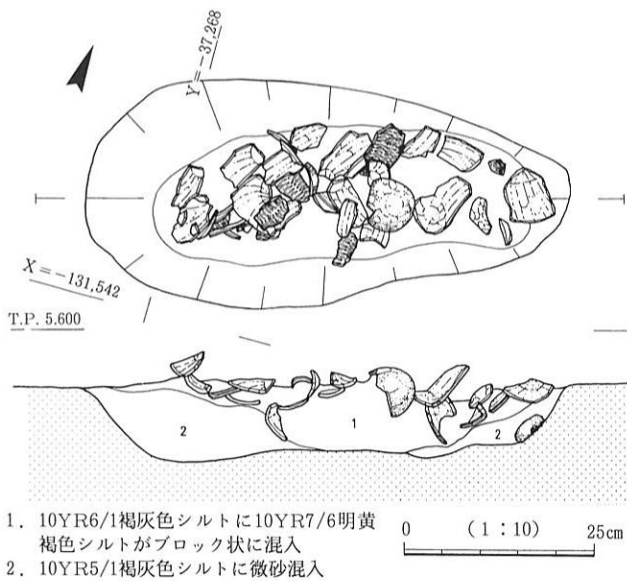
穴410は、調査区中央よりやや南側で検出された(第62図、図版17-7・8)。楕円形であり、長径75m、短径50cm、深さ35cmである。埋土は、4層古墳時代包含層に類似する茶灰色シルトであり、韓式系軟質土器とみられる大形鉢が出土した。鉢は横位で、上半が破碎した状態であった。遺物は他に含まれず、土器棺の可能性も考えられる。

<遺物>穴410からは韓式系軟質土器とみられる大形鉢が出土した(第85図-19)。口縁部が短く外反する深い大形鉢で、外面は格子目タタキが施され、沈線が3条めぐることから韓式系軟質土器とみられる。底部は円形に剥落し、炭化物が付着する。稀少な遺物であり、類例は、大阪府伏尾遺跡出土脚台付鉢³⁾、奈良県南郷遺跡出土鉢⁴⁾を知るのみである。後者は本例と同じく底部が円形に剥落する。本例の底部にみられる剥離痕からは、伏尾遺跡出土例と同じく脚台があった可能性が考えられる。伏尾遺跡例は古墳時代中期に、南郷遺跡例は古墳時代後期に位置づけられている。本例も古墳時代中期～後期に位置づけられると考えるが、本例が出土した地点の傍らを通る河川2は古墳時代後期遺物(MT85型式)を主体とすることから、古墳時代後期に位置づけられる可能性が高い。

穴は河川2両岸にひろがるが、建物と同じく東岸における密度が高い(第63～67図)。穴は、円形、



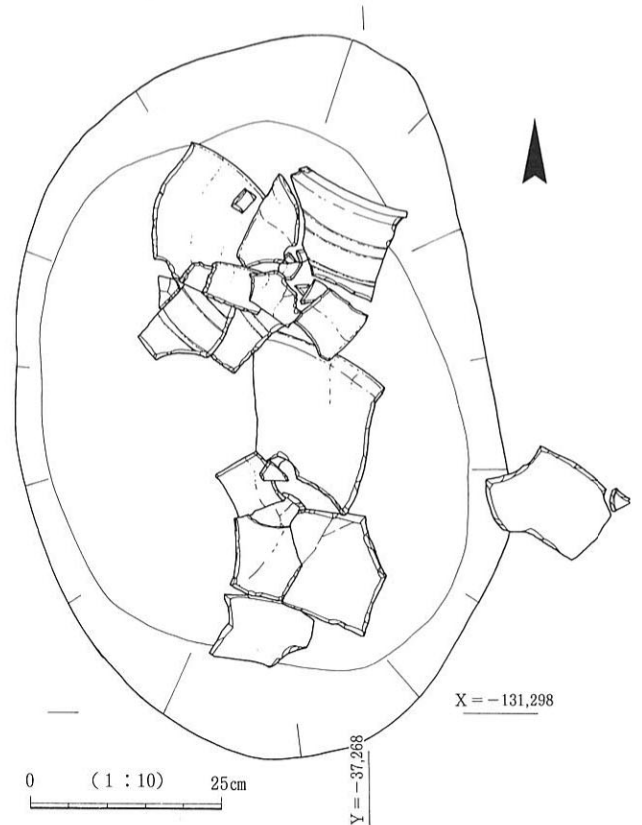
第60図 炭集中部遺物出土状況



1. 10YR6/1褐色シルトに10YR7/6明黄褐色シルトがブロック状に混入
2. 10YR5/1褐色シルトに微砂混入

第61図 穴362平・断面図

方形があり、円形は直径20~30cm、方形は一辺40cm前後のものも多く、円形に比べ方形の穴のほうが大きい傾向がある。深さは両者とも、20~50cmであり、方形の穴のほうが掘形が明瞭で深い傾向がある。ただし、方形とはいっても矩形でありやや不定形なものも多く、



第62図 穴410平面図

厳密な規格の存在はうかがえない。埋土は両者とも、4層古墳時代包含層に類似する茶灰色シルトが主体であり、これに基盤層である5層のブロック土が混じる。柱痕とみられる部分は黒褐色シルト、その周辺は灰白色粘土が薄くみられる。柱材の根元が残る穴も多く、柱材は直径10cm前後の丸太材が主で、

幅5cm程度の面取りを施すものも少数ある。礎板は建物13穴494（第18図）など少数でみられるのみで、2A区古墳時代建物・穴に伴う礎板に比べ少ない。

<遺物>穴からは、古墳時代前期～後期の遺物が出土した（第84図-1～51、第85図-1～18）。須恵器坏蓋・坏身・壺・高坏・甕・鉢・器台・甗・台付壺、土師器鉢・高坏・甕・小形丸底壺・壺・甗があり、古墳時代中期後半～後期前半が中心となる。須恵器は、TK208～TK47型式に位置づけられ、MT15型式前後のものが多い。

【4-2面】古墳時代中期～後期の竪穴を主体とする集落である。河川2（中層・下層）、竪穴住居10棟を検出した（第68図、図版11-1・2）。

<遺物>4-2層～4-2面からは古墳時代中期～後期の遺物が出土した（第78図-17～35、第79図2～22）。須恵器坏蓋・坏身・壺・高坏、土師器高坏・甕・羽釜・鍋・甗・手づくねのほか、製塩土器、滑石製白玉、有孔円板未製品がある。須恵器は初期須恵器を少数含み、TK23型式～MT85型式が中心となる。

(79-1)はL字形に屈曲する土師質の土製品で1点は湾曲し、1点は直線的な部分が残存する。胎土からは同一個体とみられる。一部ハケメがみられるほかはナデ調整である。類似する遺物が隣接する調査区であるC区から出土している（遺物番号886）。類例などの詳細は溝咋遺跡（その1・2）報告書を参照願いたい。⁵⁾

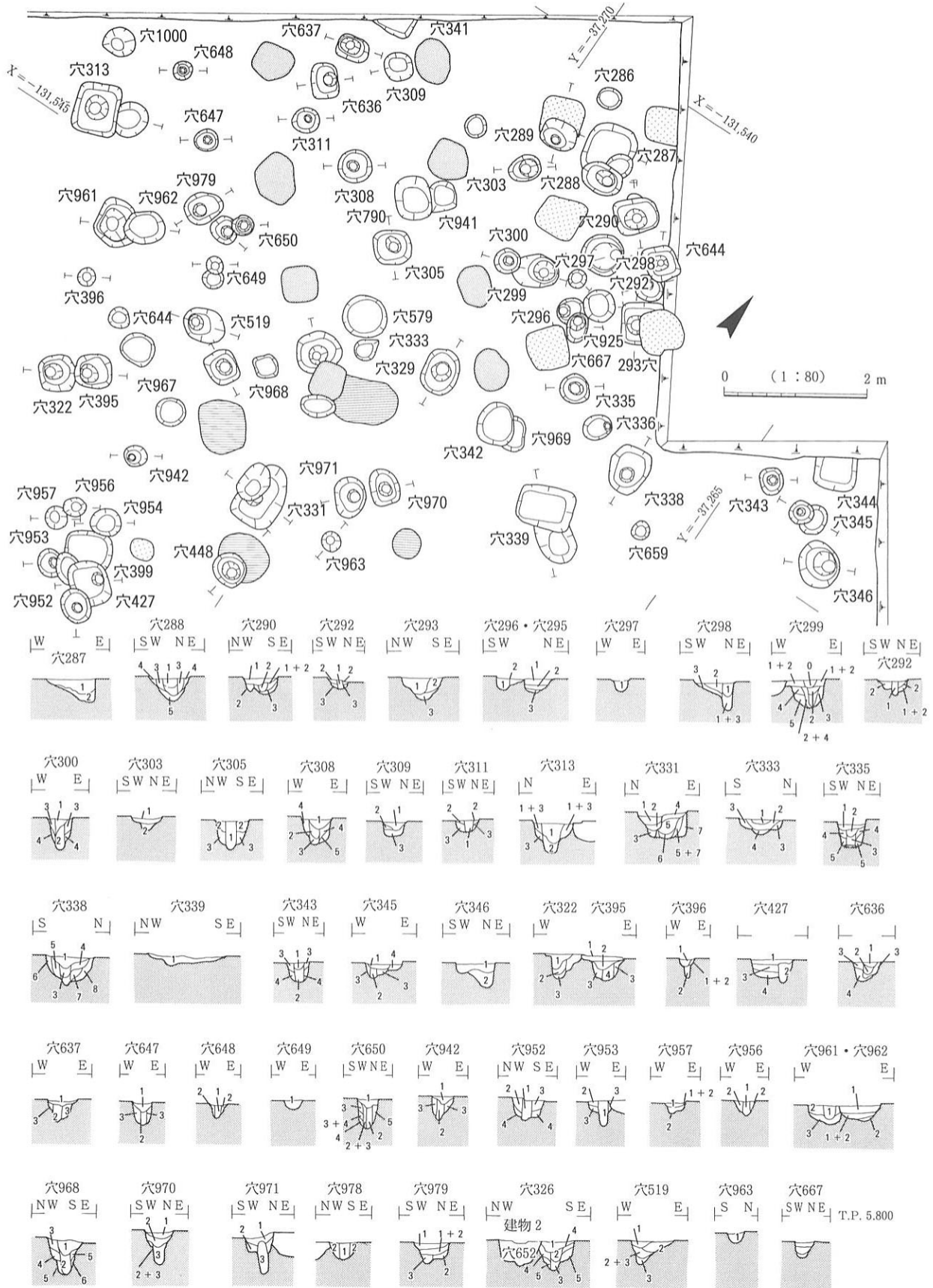
河川2（中層・下層）は調査区北西部から南東部にかけて貫流する。幅5～12m、深さ80cm～1m、断面U字形の河川であり、埋土は中層が粗砂、下層が粗砂～礫である。

<遺物>河川2中層からは、弥生時代中期～後期から古墳時代後期の遺物が出土した（第92図-6～40、第93図-1～37、第94図-1～28、第95図-1～12、第96図-1～14、第97図-1～17、第98図-1～39、第99図-1～19）。須恵器坏蓋・坏身・高坏・器台・提瓶・甕・壺・甗・甗、土師器高坏・甕・壺・鉢・竈、弥生土器甕・鉢・壺のほか、製塩土器、不明土製品、滑石製白玉・管玉、砥石、台石、鉄斧がある。古墳時代後期が中心となる。須恵器は、初期須恵器からMT85型式が出土しており、MT15～TK10型式が多い。

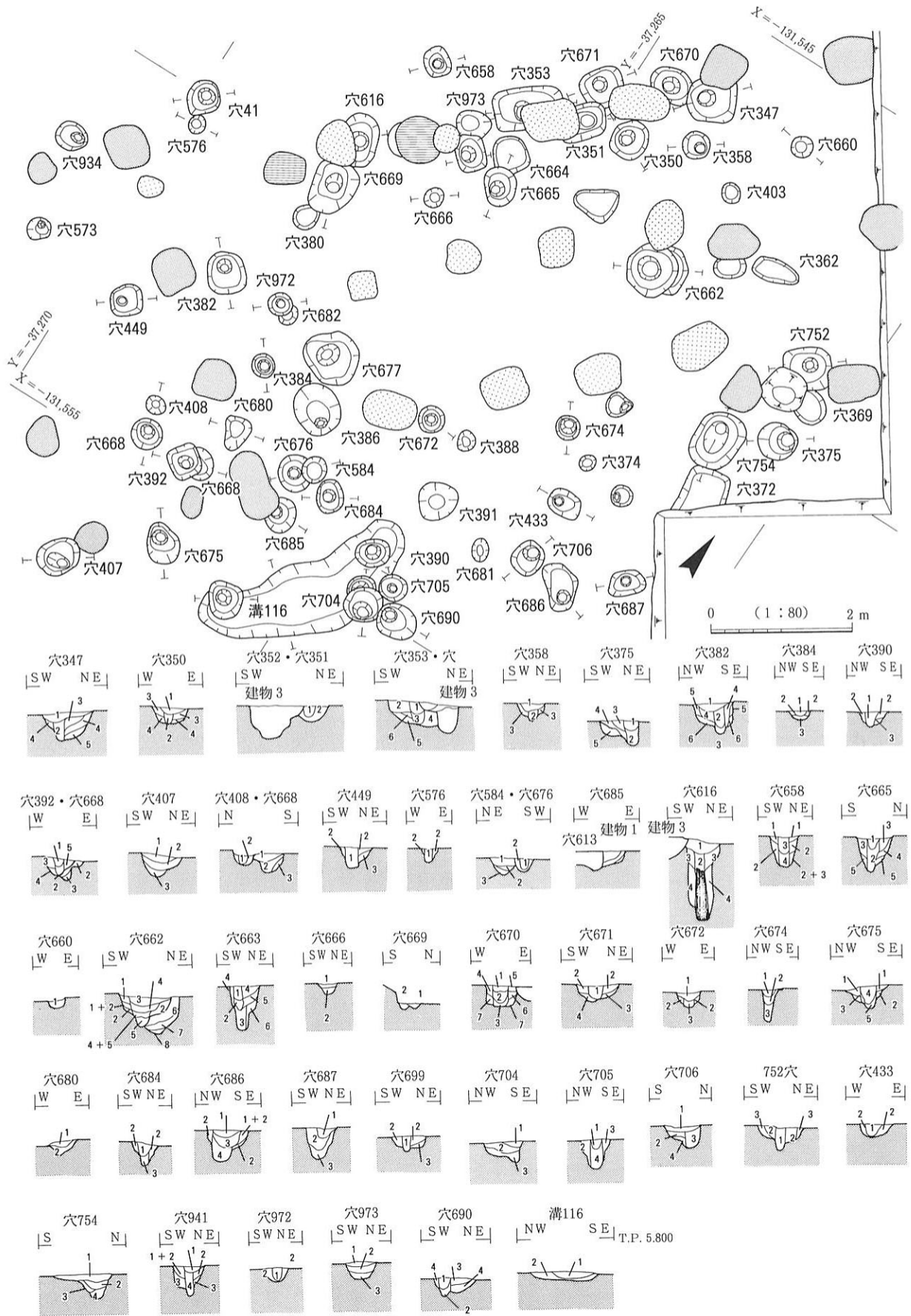
(110-1)は、瓦質焼成の不明土製品である。周囲はほとんど欠損するが、湾曲する端面がわずかにみられることから円板形になる可能性がある。表裏不明であるが、片面は黒灰色で陰刻が施され、片面は灰白色で刺突が残ることから、刺突面は焼成の際外気にふれず、接合面である可能性が高い。陰刻は、断面V字状に両側から粘土を刻み文様を描くシャープなものであり、文様は線対称になる可能性がある。刺突痕は大小2種類あり、大きい刺突痕の間隙を小さな刺突痕でうめる。使用痕はみとめられない。詳細は別稿があり、それを参照されたい。⁶⁾古墳時代の陰刻をもつ土製品は寝屋川市楠遺跡、⁷⁾和泉市鶴田池東遺跡⁸⁾でみられるが、性格等は不明である。ほかに類例とするには逡巡するが、奈良県桜井市纏向遺跡⁹⁾出土組帯文石の文様が部分的に類似するようにもみえる。いずれにしても稀少な例であり、今後の類例の蓄積をまちたい。

(113-6)は、鉄斧とみられる。断面紡錘形であり、袋状になる可能性があるが、銹化が著しく断定できない。

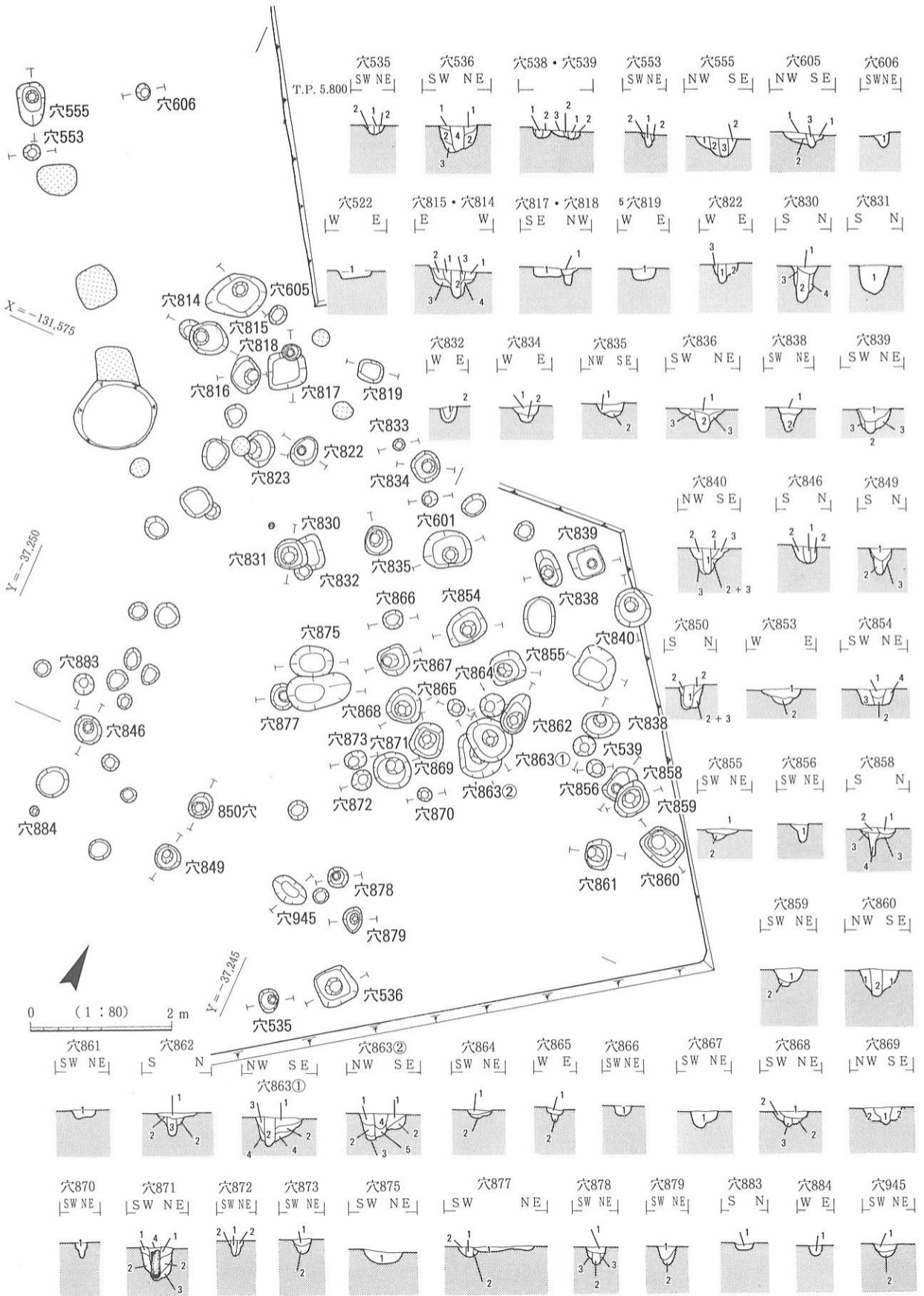
河川2下層からは、弥生時代中期～後期から古墳時代後期の遺物が出土した（第100図-1～40、第101図-1～16、第102図-1～22、第103図-1～15、第104図-1～38、第105図-1～31、第106図-1～40、第107図-1～21、第108図-1～8、第114図-2～3）。須恵器坏蓋・坏身・高坏・器台・横



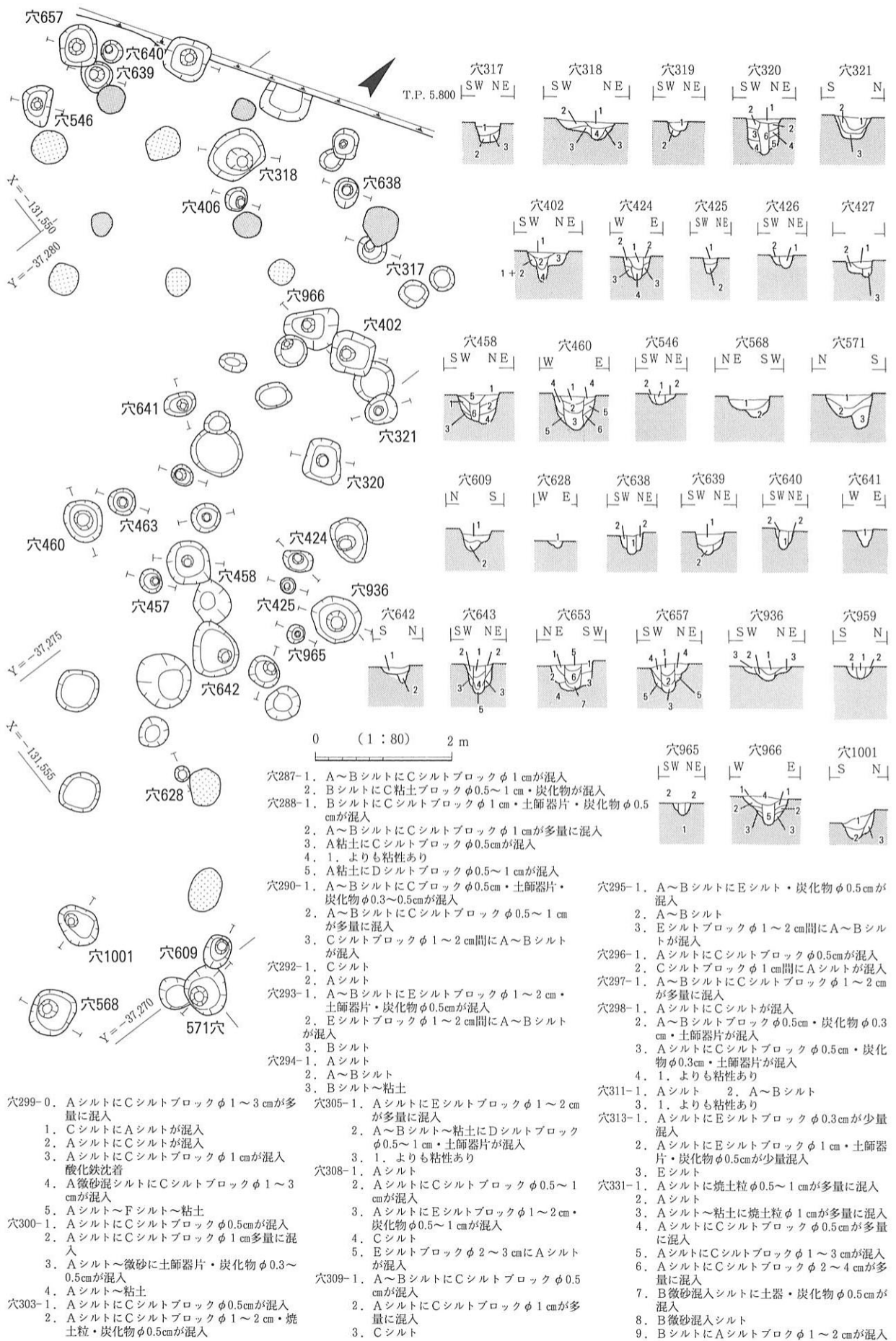
第63図 4-1面検出穴平・断面図



第64図 4-1面検出穴平・断面図



第66图 4-1面検出穴平・断面图



第67図 4-1面検出穴平・断面図

4 - 1 面検出穴埋土(1)

- 穴322-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
 2. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
 4. Cシルトブロックφ3～10cm間にA～Bシルトが混入
- 穴326-1. C～2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックφ3～5cm間にAシルトが混入
 2. A～Bシルト 5. Aシルト～粘土
 3. A～BシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
 4. A～Bシルトの下部にEシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴331-1. 10YR6/1 褐灰色シルトに焼土粒φ0.5～1cmが混入
 2. 10YR6/1 褐灰色シルト 7. 10YR5/1 褐灰色微砂
 3. 10YR6/1 褐灰色シルト～粘土に焼土粒φ1cmが混入
 4. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトブロックφ0.5cmが混入
 5. 10YR7/6 明黄褐色シルト
 6. 10YR6/1 褐灰色シルトに10YR7/6 明黄褐色シルトブロックφ2～4cmが混入
- 穴333-1. Aシルトに炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・焼土粒・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ0～1～2cm・炭化物φ0.5～1cmが混入
 4. Aシルト～粘土に土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴335-1. C～2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックφ3～5cm間にAシルトが混入
 2. A～Bシルト 4. Aシルト～粘土
 3. 2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックφ3～5cm間にAシルトが混入
 5. 4.に土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
- 穴338-1. A～BシルトにDシルトブロックφ1～3cm・土師器片・炭化物φ0.2cmが混入
 2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. A～BシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
 4. A～Bシルトの下部にEシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5cmが混入
 5. Aシルト～粘土 6. 1.より粘性あり
 7. 2.より粘性あり 8. 3.より粘性あり
- 穴339-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片が混入
- 穴343-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5～1cmが多量に混入
 2. Bシルト
 3. AシルトにDシルトブロックφ0.3～0.5cmが多量に混入
 4. A～Bシルト～粘土に焼土・土師器片・炭化物φ1～2cmが混入
- 穴345-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. Aシルトに焼土φ0.5～1cmが混入
 3. A～Bシルト
 4. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴346-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルト～Eシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴395-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
 2. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
 4. Cシルトブロックφ3～10cm間にA～Bシルトが混入
- 穴396-1. Cシルトブロックφ2cm間にAシルトが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ2～3cmが多量に混入
- 穴427-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. Aシルトに微砂混入
 3. A～Bシルトの下部にEシルトブロックφ0.5cmが混入
 4. AシルトにEシルトブロックφ0.5～2cmが多量に混入
- 穴519-1. A～Bシルトに焼土粒・炭化物φ0.5cmが多量に混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 3. Bシルト
- 穴636-1. Cシルトブロックφ2cm間にAシルトが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ2～3cmが多量に混入
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 4. Dシルトブロックφ2～3cm間にAシルト～粘土が混入
- 穴637-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
 3. 2.よりCシルトブロックの混入が少なく粘性あり
- 穴647-1. AシルトにCシルトが僅かに混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
 3. Aシルト～粘土の上位にCシルトブロックφ1cmが混入
- 穴648-1. Aシルトに土師器片が混入
 2. Aシルトの上位にCシルトブロックφ1cmが混入
- 穴649-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴650-1. AシルトにCシルトが多量に混入
 2. 1.にCシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.3cmが混入
 3. Aシルト～粘土 5. A粘土
 4. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
- 穴667-1. A～BシルトにCシルトが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cmが多量に混入
- 穴942-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
 3. Cシルト～粘土
- 穴952-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
 2. Cシルトブロックφ0.5cm間にAシルトが混入
 3. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
 4. BシルトにEシルトブロックφ1cmが混入
- 穴953-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 2. AシルトにCシルトブロックが混入
 3. Cシルトブロックφ1～2cm間にAシルトが混入
- 穴956-1. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
 2. Cシルトブロックφ2～3cm間にAシルトが混入
- 穴957-1. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
 2. Cシルトブロックφ2～3cm間にAシルトが混入
- 穴961-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物が混入
 2. Cシルトブロックφ3cm間にAシルトが混入
 3. AシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
- 穴962-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 2. Cシルト
- 穴968-1. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
 2. Aシルト 3. A粘土質シルト
 4. 1.よりも粘性あり 5. 2.よりも粘性あり
 6. 3.よりも粘性あり
- 穴970-1. AシルトにCシルト・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 3. Aシルト～粘土に土師器片が混入
- 穴971-1. AシルトにCシルト・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Aシルト～粘土
- 穴978-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
 2. Cシルトブロックφ3～5cm間にAシルトが混入
- 穴979-1. CシルトにAシルトが混入
 2. Aシルトに炭化物φ0.2cmが混入
 3. CシルトにB粘土ブロックφ1cmが混入
- 穴347-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
 2. A～Bシルトに焼土・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 3. A～BシルトにEシルトブロックφ1～3cm・焼土・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
 4. AシルトにEシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
 5. Eシルトブロックφ3cm間にAシルトが混入
- 穴350-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
 2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Aシルト～粘土
 4. 1.よりブロックが多量に混入
- 穴351-1. AシルトにCシルト・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5～2cmが混入
- 穴353-1. Cシルトブロックφ1～2cm間にAシルトが混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 3. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 4. 1.よりも粘性あり 5. 2.よりも粘性あり
 6. 3.よりも粘性あり
- 穴358-1. A～Bシルトに炭化物φ0.2～0.3cmが混入
 2. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Aシルトに2.5GY6/2 灰黄色シルトが混入
- 穴375-1. AシルトにCシルトブロックφ1～3cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Eシルトブロックφ1cm間にAシルトが混入
 4. B粘土質シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 5. B粘土
- 穴382-1. Aシルトに炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～Bシルト
 3. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 4. A～B微砂混シルトにDシルトブロックφ1～2cmが混入
 5. Bシルト～粘土 6. A～Bシルト～粘土
- 穴384-1. Aシルト 酸化鉄沈着 3. A～Bシルト～粘土
 2. A～BシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴390-1. A～Bシルト 酸化鉄沈着
 2. A～BシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
 3. A～BシルトにEシルトブロックφ2～3cmが混入
- 穴392-1. A～Bシルトに炭化物φ0.5cmが混入 酸化鉄沈着
 2. Bシルト～Eシルトブロックφ0.5～1cmが混入
 3. Bシルト～粘土 5. 1.よりも粘性あり
 4. Aシルト～粘土にCシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴407-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ1cmが混入
 2. A微砂混シルトにDシルトブロックφ1～3cm・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Dシルト～微砂にAシルトが混入
- 穴408-1. 10YR7/1 灰白シルト 酸化鉄沈着 3. Aシルト～F微砂シルト
 2. Aシルト～粘土
- 穴433-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. Cシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
- 穴449-1. Aシルト～Fシルト質粘土にCシルトが混入
 2. Aシルトに炭化物φ0.3～0.5cmが混入
 3. A微砂混シルト 4-1.よりも粘性あり
- 穴576-1. Aシルト 酸化鉄沈着
 2. Eシルト Aシルトブロックφ1cmが混入
- 穴584-1. A～BシルトにEシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにEシルトブロックφ1～3cmが混入
 3. A微砂混シルト
- 穴616-1. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが少量混入
 3. 2.よりも粘性あり 4. Bシルト～粘土
- 穴658-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 3. Aシルト～粘土
 4. Bシルト～粘土にCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴660-1. Cシルト～2.5Y7/4 浅黄色シルトにAシルトブロックφ1～2cmが混入
- 穴662-1. Aシルトに炭化物φ0.5cmが混入
 2. Aシルトに焼土φ0.5cmが混入 酸化鉄沈着
 3. AシルトにEシルトブロックφ3～7cmが多量に混入
 4. Aシルト粘土 5. B粘土
 6. AシルトにYR7/6 明黄褐色シルトブロックφ1～2cm炭化物φ0.5cmが混入
 7. Aシルトに焼土φ0.5cmが混入 酸化鉄沈着
 8. A粘土にEシルトブロックφ1～2cm・炭化物φ0.3～1cmが混入
- 穴663-1. Aシルトに焼土・炭化物φ1～2cmが多量に混入
 2. A微砂混シルトに焼土・炭化物φ1～2cmが混入
 3. A～F粘土 5. A～Fシルト
 4. A～FシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
 6. Cシルトブロックφ1～2cm間にA微砂混シルトが混入
- 穴665-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
 2. Aシルト 4. A～Bシルト
 3. AシルトにCシルトブロックφ1～5cmが多量に混入
 5. A微砂混シルトにCシルトブロックφ1～2cmが多量に混入
- 穴668-1. Aシルト～Eシルトブロックφ0.5～1cmが混入
 2. BシルトにE粘土ブロックφ0.5～1cmが混入
 3. Eシルトブロックφ1～3cmの間にAシルトが混入
- 穴676-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5～1cmが混入
 2. A～BシルトにEシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴685-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 3. Aシルトに土師器片が混入
- 穴666-1. AシルトにEシルトブロックφ1cmが混入 酸化鉄沈着
 2. Aシルト 酸化鉄沈着
- 穴669-1. AシルトにEシルトブロックφ1～2cmが混入
 2. Aシルト
- 穴670-1. A～BシルトにCシルトブロックφ3～5cmが混入
 2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが少量混入
 3. AシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
 4. A～BシルトにCシルトが混入
 5. A～Bシルトに炭化物φ0.5cmが混入
 6. AシルトにCシルトブロックφ1～2cmが混入
 7. Aシルト～F微砂混シルト
- 穴671-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ0～1cmが混入
 3. A～Bシルト 酸化鉄沈着
 4. B粘質シルトに土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
- 穴672-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
 2. AシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが混入
 3. Aシルト
- 穴674-1. B粘土質シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 2. A微砂が混入シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
 3. B粘土
- 穴675-1. Aシルト～Eシルトブロックφ1cmが多量に混入
 2. A～Bシルトに浅黄色シルトブロックφ1cm・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Aシルト～Eシルトが混入 4. 1.よりも粘性あり
 5. 2.よりも粘性あり
- 穴680-1. Cシルトブロック間にAシルト入る
 2. Aシルト～FシルトにCシルトφ3cmが混入
- 穴684-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
 2. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
 3. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが僅かに混入
- 穴686-1. Aシルト
 2. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5cmが混入
 3. Aシルトブロックφ1～10cm間にCシルトが混入
 4. Cシルトに炭化物φ0.5cmが混入

4-1 面検出穴埋土(2)

- 穴687-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Eシルトブロックφ3～4cm間にAシルトが混入
- 穴690-1. AシルトにFシルト～粘土ブロックφ3cmが多量に混入
2. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
4. A～FシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
- 穴699-1. A～Fシルト～微砂 2. A～Fシルト
3. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5～1cmが混入
- 穴704-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルト
3. AシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
- 穴705-1. Aシルト 3. A微砂が混入シルト
2. AシルトにEシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが多量に混入
4. A微砂混じりシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
- 穴706-1. BシルトにCシルトブロックφ1～5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Aシルトに土師器片が混入 3. Aシルト～粘土
4. A粘土質シルトにEシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴752-1. Aシルト
2. Aシルトの下位にEシルトブロックφ2～3cmが混入
3. A～Fシルトに土師器片が混入
- 穴754-1. A～Bシルト～粘土にCシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物0.5cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ1～2cm・炭化物φ0.5cmが多量に混入
3. Eシルトブロックφ0.5～1cm間にAシルトが混入
4. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴941-1. AシルトにCシルト・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
3. A～Bシルトに土師器片が混入
4. AシルトにEシルト～微砂が混入
- 穴972-1. A～BシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ2～3cmが多量に混入
- 穴973-1. Cシルトに炭化物φ0.5cmが混入
2. Cシルトブロックφ0.5～1cm間にAシルトが混入
3. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 溝116-1. Aシルトに土師器片・炭化物が混入
2. A～BシルトにEシルトブロックφ0.1～0.4cm・焼土・炭化物φ0.1cmが多量に混入
- 穴414-1. A微砂混シルトに土師器片・炭化物φ1cmが混入
2. A微砂混シルト
- 穴417-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
2. A～Bシルトに 焼土・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
3. A～BシルトにEシルトブロックφ1～3cm・焼土・炭化物0.3～0.5cmが多量に混入
4. AシルトにEシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
- 穴419-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cmが多量に混入
- 穴421-1. AシルトにDシルトブロックφ1～3cm多量に混入
2. A～Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1～3cm・炭化物φ1～2cmが混入
3. Dシルトブロックφ1～3cm間にAシルトが混入
- 穴428-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. A～Bシルトの下位にDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
4. A粘土
- 穴429-1. Aシルトに炭化物φ0.2cmが混入
2. Dシルトに炭化物φ0.2cmが混入
3. Bシルト
- 穴434-1. AシルトにCシルトブロックφ1～3cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. Eシルトブロックφ1cm間にAシルトが混入
4. B粘土質シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
5. B粘土 6. A微砂混入シルト
- 穴440-1. A～Bシルト
2. A微砂混シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴450-1. Bシルト
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴490-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ3cmが混入
3. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
4. BシルトにDシルトブロックφ2～3cmが混入
5. Bシルト
- 穴586-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが多量に混入
3. AシルトにEシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
4. 2.よりも明黄褐色シルトブロックの混入が少量
- 穴587-1. Aシルト～Eシルトブロックφ1cmが混入
2. A微砂混シルト
- 穴597-1. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ2～3cmが混入
3. A～B微砂混じりシルト
- 穴599-1. A～BシルトにEシルトブロックφ1cmが混入
2. A～BシルトにDシルトブロックφ1～3cmが混入
3. A～Bシルトの上位にEシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
4. Bシルト～粘土
- 穴691-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルト
- 穴692-1. AシルトにFシルト～粘土ブロックφ3cmが多量に混入
2. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
4. A～FシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
- 穴693-1. A～BシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
2. AシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴694-1. AシルトにCシルトブロックφ3cmが混入
2. AシルトにEシルトブロックφ1～2cmが多量に混入
- 穴700-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. A～Bシルト 酸化鉄沈着 3. Aシルト～粘土
- 穴701-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. Aシルト～粘土に土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. Aシルト～粘土
- 穴702-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルト 3. Aシルト～粘土
- 穴703-1. Aシルト
2. AシルトにEシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが多量に混入
3. A微砂混じりシルト
- 穴707-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが下位に多量に混入
3. Cシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴708-1. Aシルトに焼土・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴709-1. Aシルトに焼土・炭化物φ0.5cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.3～1cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
- 穴710-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ1cmが混入
2. Cシルト
- 穴711-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片が混入
2. A～Bシルト
3. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴712-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片が混入
2. A～BシルトにCシルトブロックが混入
3. A褐灰シルトにCシルトブロックφ0.3cmが混入
- 穴713-1. AシルトにCシルトブロックφ1～2cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトが僅かに混入
- 穴714-1. Bシルト～粘土に炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルト
3. B粘土質シルトに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
- 穴715-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Cシルトブロックφ2～3cm間にA～Bシルト・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴716-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm～1cmが多量に混入
2. A～Bシルトに焼土・炭化物φ0.5cmが混入
3. AシルトにEシルトブロックφ3～4cmが多量に混入
- 穴719-1. AシルトにEシルトブロックφ1cm・炭化物0.5～1cmが混入
2. BシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Eシルトブロックφ1～2cm間にBシルトが混入
- 穴720-1. BシルトにEシルトブロックφ2～3cm・土師器片・炭化物φ0.5～1cmが混入
2. A～BシルトにEシルトブロックφ2cmが混入
- 穴721-1. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Eシルトブロック間にAシルトが混入
- 穴724-1. Bシルト～粘土
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. AシルトにD微砂混じりシルトブロックφ1～3cm多量に混入
4. 2.よりDシルトブロックが少量混入
- 穴725-1. Bシルト～粘土
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
- 穴726-1. A～BシルトにD微砂混シルトブロックφ1～3cmが混入
2. A微砂混シルト
- 穴728-1. A微砂混シルトに土師器片・炭化物φ1cmが混入
2. A微砂混シルト
3. Aシルト
- 穴729-1. A微砂混シルトに土師器片・炭化物φ1cmが混入
2. A微砂混シルト 3. Aシルト
- 穴730-1. BシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.5～1cmが多量に混入
2. BシルトにDシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴731-1. DシルトにAシルトが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴732-1. Aシルトの上位に酸化鉄沈着
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
3. A微砂混シルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
4. BシルトにDシルトブロックφ1cmが混入
- 穴735-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.5cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm下位に多量に混入
- 穴736-1. A砂混シルトにEシルトブロックφ2～3cmが多量に混入
2. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが僅かに混入
- 穴737-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. AシルトにEシルトブロックφ1cmが混入
3. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
4. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが少量混入
5. 2.よりも粘性あり 6. Bシルト～粘土
- 穴738-1. AシルトにEシルトブロックφ3cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. A～Bシルト～F砂質シルトにEシルトブロックφ1～3cmが混入
3. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
4. Aシルト～F砂質シルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
- 穴742-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
2. A～Bシルト
3. A～BシルトにCシルトブロックφ2～3cm多量に混入
- 穴744-1. AシルトにCシルトブロックφ2～3cmが混入
2. A～Fシルトの下位にCシルトブロックφ1～2cmが混入
- 穴746-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.2cmが混入
2. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ2～3cmが混入
3. AシルトにEシルトブロックが混入
- 穴751-1. AシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
2. A～BシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
3. A微砂混シルトに2.5GY7/4 浅黄色シルトブロックφ0.5～1cmが混入
4. BシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
5. 1.よりも粘性あり
- 穴755-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.2～0.5cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ2～3・炭化物φ0.5cmが多量に混入
- 穴758-1. Aシルトの下位に粘質土あり
2. A～Bシルトに土師器片が混入
3. AシルトにEシルトブロックφ1cmが多量に混入
- 穴759-1. Aシルト
2. EシルトにAシルトが混入
3. AシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが混入
- 穴761-1. AシルトにCシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが多量に混入
- 穴762-1. Aシルトに土師器片が混入
2. AシルトにEシルトブロックφ2cmが混入
- 穴763-1. AシルトにEシルトブロックφ0.5～2cm・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
2. Aシルトに焼土・炭化物φ0.5cmが混入
3. AシルトにEシルトブロックφ1～2cmが混入
4. AシルトにDシルトが混入
5. BシルトにEシルトブロックφ2～3cmが混入
6. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
7. Cシルトブロックφ1～2cm間にAシルトが混入
- 穴764-1. A～BシルトにEシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Eシルトブロックφ1～2cm間にAシルトが混入
- 穴765-1. A～BシルトにEシルトブロックφ3～5cmが混入
2. Eシルトブロックφ3～7cm間にAシルトが混入
- 穴767-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
3. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
4. 2.よりも粘性あり
- 穴768-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.2cmが混入
2. Cシルト
- 穴769-1. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. Bシルト～粘土にEシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
3. Bシルト～粘土
- 穴770-1. AシルトにE～Cシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
2. A～BシルトにEシルトブロックφ1cmが混入
3. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが混入
4. A～BシルトにEシルトブロックφ2～3cmが混入
5. A～B微砂混シルトにEシルトブロックφ1cmが混入
- 穴771-1. A～BシルトにEシルトブロックφ0.5cmに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. AシルトにEシルトブロックφ3～5cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが多量に混入

4 - 1 面検出穴埋土(3)

- 穴772-1. Aシルトに炭化物φ0.3cmが混入
2. AシルトにEシルトブロックφ1cm・土師器片が混入
- 穴773-1. BシルトにEシルトブロックφ0.5cmが混入
2. A～Bシルトに土師器片が混入
3. BシルトにEシルトブロックφ0.5～1cmが混入
- 穴774-1. Aシルト
2. Dシルトブロックφ3～5cmにAシルトが混入
- 穴775-1. Aシルト
2. Dシルトブロックφ3～5cmにAシルトが混入
- 穴982-1. AシルトにDシルトが混入
2. A～Bシルトに炭化物φ0.5cmが混入
- 穴535-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴536-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
3. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが僅かに混入
4. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが多量に混入
- 穴538-1. Bシルト
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴539-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
3. Aシルトに土師器片が混入
- 穴553-1. Aシルト 酸化鉄沈着
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴555-1. AシルトにDシルトブロックφ5～10cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.3～1cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
3. A～FシルトにC粘土ブロックφ0.5cmが混入
- 穴605-1. AシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・焼土・炭化物φ0.5cmが混入
2. Dシルトブロックに焼土・炭化物φ0.5～1cmが混入
3. C粘土質シルト
- 穴606-1. AシルトにDシルトブロックφ1cmが混入
- 穴522-1. Dシルト
- 穴814-1. AシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.2cmが多量に混入
2. A～Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1～2cmが混入
3. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが僅かに混入
4. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが多量に混入
- 穴815-1. Aシルトに土師器片が混入
2. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. AシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴817-1. Aシルトに炭化物φ1～2cmが混入
- 穴818-1. AシルトにDシルトブロックφ0.1cmが混入
2. Dシルト 酸化鉄沈着
- 穴819-1. AシルトにDシルトブロックφ5～10cmが混入
- 穴822-1. BシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Dシルトブロックφ1～2cm間にBシルトが混入
3. Bシルトが混入
- 穴830-1. AシルトにDシルトが混入 3. A～B粘土
2. Dシルトブロックφ2～3cm間にBシルトが混入
4. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴831-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴832-1. AシルトにDシルトが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.3～1cmが混入
- 穴834-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
2. Gシルト～微砂にAシルトブロックφ1cmが混入
- 穴835-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. Dシルト～微砂にAシルトφ1cmが混入
- 穴836-1. Dシルトブロックφ3cmにBシルト・炭化物が混入
2. Dシルトブロックφ1～3cm間にCシルトが混入
3. Dシルトブロックに微砂が混入
- 穴838-1. AシルトにDシルトブロックφ1～2cmが混入
2. Bシルト
- 穴839-1. AシルトにDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
2. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ1～2cmが混入
3. A～BシルトにDシルトブロックφ1cm・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴840-1. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物が混入
3. B粘土
4. A～Bシルトに土師器片が混入
- 穴846-1. A～Fシルト～粘土にDシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. DシルトにA～Fシルトが混入
- 穴849-1. AシルトにGシルトブロックφ0.5～1cm・須恵器片・炭化物φ0.2cmが多量に混入
2. A～BシルトにGシルトブロックφ1～2cm・炭化物φ0.2cmが混入
3. Gシルトブロックφ1～2cm間にAシルト・炭化物φ0.2cmが混入
- 穴850-1. A～Fシルト
2. DシルトにA～Fシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Dシルト～粘土にAシルトブロックφ2～3cm・炭化物φ0.3cmが混入
4.2.よりも粘性あり 5.3.よりも粘性あり
- 穴853-1. Aシルトの上位にGシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. Gシルトブロックφ1～2cm間にAシルトが混入
- 穴854-1. Aシルト
2. BシルトにDシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3.1.に微砂が混入 4.2.に微砂が混入
- 穴855-1. Aシルト
2. Dシルト～微砂にAシルトが混入
- 穴856-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴858-1. A～BシルトにDシルトブロックφ3cmが混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.3～1cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
3. A～FシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
4. Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1cmが混入
- 穴859-1. A～BシルトにDシルトブロックφ3cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ1cmが混入
- 穴860-1. A～B粘土質シルトに土師器片が混入
2. Bシルト
- 穴861-1. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
- 穴862-1. AシルトにDシルトが混入 3. Bシルト～粘土
2. A～Bシルトに炭化物φ0.5cmが混入
- 穴863-1. AシルトにDシルトブロックφ3cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. Bシルトに炭化物φ0.5～1cmが混入
3. AシルトにDシルトブロックφ0.5～5cm・土師器片・炭化物0.3cmが混入
4. Bシルト～粘土に土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
- 穴863-1. AシルトにBシルトブロックφ3cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Bシルトに炭化物・土師器片φ1cmが混入
3. AシルトにDシルトブロックφ0.5～5cm・炭化物0.3cmが混入
4.1.に微砂が混入 5.2.に微砂が混入
- 穴864-1. AシルトにDシルトブロックφ1～3cmが混入
2. Dシルト～微砂にAシルトが混入
- 穴865-1. Aシルト 2. A～F微砂混じりシルト
- 穴866-1. Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1～4cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
- 穴867-2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴868-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. Aシルトブロックφ3cm間にDシルト～微砂が混入
3. AシルトにD微砂が混入
- 穴869-1. AシルトにDシルトブロックφ1～2cmが混入
2. Dシルトブロックφ1～3cm間にAシルト・土師器片・炭化物0.3～0.5cmが混入
- 穴870-1. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ1～3cm・土師器片・炭化物多量に混入
- 穴871-1. CシルトにAシルトが混入 4. A粘土質シルト
2. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴872-1. DシルトにAシルトブロックφ0.3～0.5cmが混入
2. CシルトにAシルトが混入
- 穴873-1. CシルトにAシルトが混入
2. DシルトにAシルトブロックφ0.3～0.5cmが混入
- 穴875-1. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ1～3cm・土師器片・炭化物が多量に混入
- 穴877-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. DシルトにAシルトブロックφ1cm・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
- 穴878-1. AシルトにDシルトブロックφ1～5cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ0.1～1cmが混入
3. Aシルトに焼土・炭化物が混入
- 穴879-1. A～BシルトにDシルトブロックφ1～5cm・炭化物φ0.5cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
- 穴883-1. DシルトにAシルトブロックφ1cmが混入
- 穴884-1. AシルトにDシルトブロックφ0.5cm・土師器片が混入
- 穴945-1. Dシルト～粘土ブロックφ1～3cm間にBシルトが混入
2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.2cmが混入
- 穴317-1. A～Bシルトに焼土・炭化物φ1～2cmが多量に混入
2. AシルトにE～Dシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5～1cmが混入
3. Dシルトブロックφ1cm間にAシルトが混入
- 穴318-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. Bシルト～粘土
4. Dシルトブロックφ0.5cm間にBシルト～粘土が混入
- 穴319-1. 2.5Y6/2 灰黄色粘土 酸化鉄沈着
2. Bシルト
4. Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1cmが混入
5. A～Bシルト～粘土のDシルトにEシルトブロックφ1cmが混入
- 穴320-1. Aシルトに焼土・炭化物φ1～2cmが多量に混入
2. 微砂混シルトに焼土・炭化物φ1～2cmが混入
3. A～F粘土質シルト 4.1.よりも粘性あり
5.2.よりも粘性あり 6. F粘土質シルトに微砂が混入
- 穴321-1. AシルトにCシルト・土師器片・炭化物φ0.3～0.5cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物0.5～2cmが混入
3. Aシルト～粘土
- 穴402-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ0.1～1cm・炭化物が混入
3. Aシルトに焼土・炭化物が混入 4. Aシルト～粘土
- 穴424-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
2. Aシルト～粘土にDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
3. A～BシルトのDシルト下にDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
4. A粘土
- 穴425-1. A～Bシルト 2. A～Bシルト～粘土
- 穴426-1. Aシルトに土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
- 穴427-1. A～Bシルトに焼土・炭化物φ1～2cmが多量に混入
2. AシルトにE～Dシルトブロックφ0.5～1cm・炭化物φ0.5～1cmが混入
3. Dシルトブロックφ1cm間にAシルトが混入
- 穴458-1. A～Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入 酸化鉄沈着
2. BシルトにDシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. A～B微砂混シルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
4. A～BシルトにDシルトブロックφ2～3cmが混入
5. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
6. A～Bシルト～粘土
- 穴460-1. AシルトにCシルト～Eシルトブロックφ0.3cmが多量に混入
2.1.よりも粘性あり 3. A粘土質シルトに微砂が混入
4. A～BシルトにCシルト～Eシルトブロックφ1～3cm・炭化物φ0.5cmが混入
5. Bシルト～粘土に炭化物φ0.5cmが混入
6. A～Bシルト～粘土にDシルトブロックφ1～3cmが混入
- 穴546-1. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cmが混入
2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
- 穴568-1. Aシルトに炭化物φ0.3cmが混入
2. Bシルト～粘土に土師器片・炭化物φ0.5cmが混入
3. BシルトにDシルトブロックφ1cm炭化物φ0.3～0.5cmが混入
- 穴571-1. A～BシルトにC～Eシルトブロックφ2～3cmが混入
2. A～BシルトにC～Eシルトブロックφ1cm・炭化物・土師器片が混入
3. B粘土にDシルトブロックφ3cmが混入
- 穴609-1. Bシルト
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5cmが混入
- 穴628-1. Aシルト
- 穴638-1. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.3cmが混入
2. Bシルト
3. AシルトにDシルトブロックφ2～3cmが多量に混入
- 穴639-1. Dシルトブロックφ3～5cm間にAシルト・炭化物φ0.5cmが混入
2. A粘土にDシルト～粘土ブロックφ1cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
3. Aシルトに炭化物φ0.5cmが混入
- 穴640-1. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
2. AシルトにDシルトブロックφ1～2cm・炭化物φ0.3～0.5cmが多量に混入
- 穴641-1. A～Bシルトに炭化物φ0.3～1cmが混入 酸化鉄沈着
- 穴642-1. A～BシルトにCシルトブロックφ1～3cmが混入
2. A～BシルトにCシルトブロックφ0.5～1cmが多量に混入
- 穴643-1. AシルトにCシルトブロックφ1～3cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5～1cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが少量混入
3.2.よりも粘性あり 4.1.よりも粘性あり
5. Bシルト～粘土
- 穴653-1. AシルトにCシルトブロックφ0.5cm・土師器片・炭化物φ0.5cmが多量に混入
2. AシルトにCシルトブロックφ1～3cm・炭化物が混入
3. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが僅かに混入
4. Aシルト～粘土にEシルトブロックφ1cmが多量に混入
5. AシルトにCシルトブロックφ0.3cm・炭化物が混入
6.5.よりも粘性あり 7. A砂質シルト
- 穴657-1. Aシルト 4. A～Bシルトに土師器片が混入
2. AシルトにCシルトブロックφ0.5cmが多量に混入
3. BシルトのD下にCシルトブロックφ0.5cmが混入
5. Bシルト～微砂に土師器片・炭化物が混入
- 穴936-1. AシルトにCシルトブロックφ1cmが混入
2. Cシルトブロックφ3cm間にAシルトが混入
3. AシルトにCシルトブロックが混入
- 穴959-1. A～Fシルト 2. A微砂が混入シルト
- 穴965-1. Dシルト～粘土ブロックφ1～3cm間にBシルトが混入
2. Bシルトに土師器片・炭化物φ0.2cmが混入
- 穴966-1. Aシルトに2.5Y7/4浅黄色シルトブロックφ1～2cmが混入
2. Aシルト 4. Bシルトに土師器片が混入
3. Eシルトブロックφ1～3cm間にAシルトが混入
5. Bシルトに2.5Y7/4浅黄色シルトブロックφ1cmが混入
- 穴1001-1. A～BシルトにDシルトブロックφ0.5～1cmが混入
2. AシルトにDシルトブロックφ1～2cm・土師器片・炭化物が混入
3. B粘土

瓶・甕・壺・甗・把手付鉢、土師器高坏・甕・壺・小形丸底壺・鉢・甗・手づくね、弥生土器壺のほか、製塩土器、叩き石、二次加工のあるサヌカイト剥片、木器では砧、櫓がある。古墳時代前期および後期が中心となる。中層に比べ古墳時代前期土師器の出土量が多い点特徴的である。須恵器は、初期須恵器からMT85型式が出土しており、MT15~MT85型式が多い。

(101-16) は、角状把手をもつ須恵器鉢である。ナデでしあげられ、残存部からは浅い鉢形になるとみられる。

(102-21・22) は、二重口縁を持つ土師器壺で、古墳時代前期(布留式期)に位置づけられる。頸部から口縁部にかけてやや外湾し、山陰から北近畿にかけての地域の影響がみられるが、胎土は在地のものであり、在地化した外来系土器と考えられる。

(107-19) は、平底で、ハソウに似た形態をもつ土師器である。体部に穿孔があり、体部はナデ、底部周辺はケズリでしあげる。

(108-8) は、口縁部が短く外反する深い大形の土師器鉢である。外面は格子目タキが施される。底部は円形に剥落し、炭化物が付着する。(85-19)

に類似し、同じく脚台があった可能性が考えられる。本例も共伴遺物は古墳時代中期~後期の年代幅をもつが、共伴遺物の主体はMT15~MT85型式であり、古墳時代後期前半から中頃に位置づけられる可能性が大きいと考える。



第68図 4-2面検出遺構

(114-2)は権であり、肩部に焼成痕がみられる。

竪穴1～10は河川2東岸北側と西岸南側で検出した(図69～72、図版12-1～8・13-1～4)。すべて方形の竪穴である。壁溝のみの検出が多く、壁高も5cm前後であり、残存状態は良くない。竪穴の詳細は第3表にゆずり、ここでは注意された点のみ記述する。

竪穴の主軸は竪穴2・3・4・10の一群と、竪穴1・5・6・7・8・9の一群がほぼ同軸であるほかはとくに規則性がみとめられない。4-1面建物同様、いずれも方位を指向するものではなく、河川2を基準とした微地形に即したものと考えられる。

柱穴は、床面を精査したが、規則的に並ぶ明確なものは無く、無支柱の竪穴が多い。竪穴は一辺3～5mのものが多く、この規模までならば、掘立柱でなくとも、上屋が構築できるのであろうか。

壁溝は、竪穴2・3・8では検出されたが、他はみとめられない。一辺4m以下の竪穴ではみとめられず、壁溝と竪穴の規模との関連が注意された。

竪穴1は、北東辺の一部とこれに作り付けられた竈が検出された(第71図、図版12-1)。竈は馬蹄形で、長さ95cm、幅65cmである。燃焼部は浅く船底状にくぼみ、焼土、炭化物の堆積上に土師器高坏坏部が伏せた状態で出土した。坏部外面にはとくに二次的焼成の痕跡はみとめられない。坏部内側には焼土塊、炭化物を多く含む茶褐色シルトが詰まることから、この高坏は竈設置当初より支脚として置かれたのではないようである。竈使用の途上で支脚として置かれたか、もしくは坏部の焚き口側に炭化物を含まない黄色シルト・焼土主体の埋積(第71図3層)がみられることから、これを天井部の崩落とすれば、竈廃棄時に置かれた可能性が高いと考える。同様の例が豊中市蛭池東遺跡でもみられ、竈廃棄時の行為の可能性が考えられる。他に竪穴3においても北西壁中央に焼土がみとめられ、竈と考えられるが構造は不明である。

竪穴の年代は第3表に示したとおり、古墳時代前期末～後期におよび、古墳時代中期後葉～後期前半(TK23型式～MT15型式)のものが多くみられることから、竪穴を主体とする集落の盛期はこの年代にあるといえる。

【5面】河川2(中層・下層)、土坑を検出した(第73図、図版19-7)。河川2(中層・下層)は先述したとおり5面以前から継続し、4-2面へとつづくものであり、4-2面で報告した。

<遺物>5層からは古墳時代中期～後期の遺物が出土した(第80図-1～32、第81図1～20、第114図1)。須恵器坏蓋・坏身・高坏・鉢・甕・壺・甕、土師器甕・小型丸底壺・羽釜・鉢・高坏・竈のほか木器の大脚横枠が出土した。

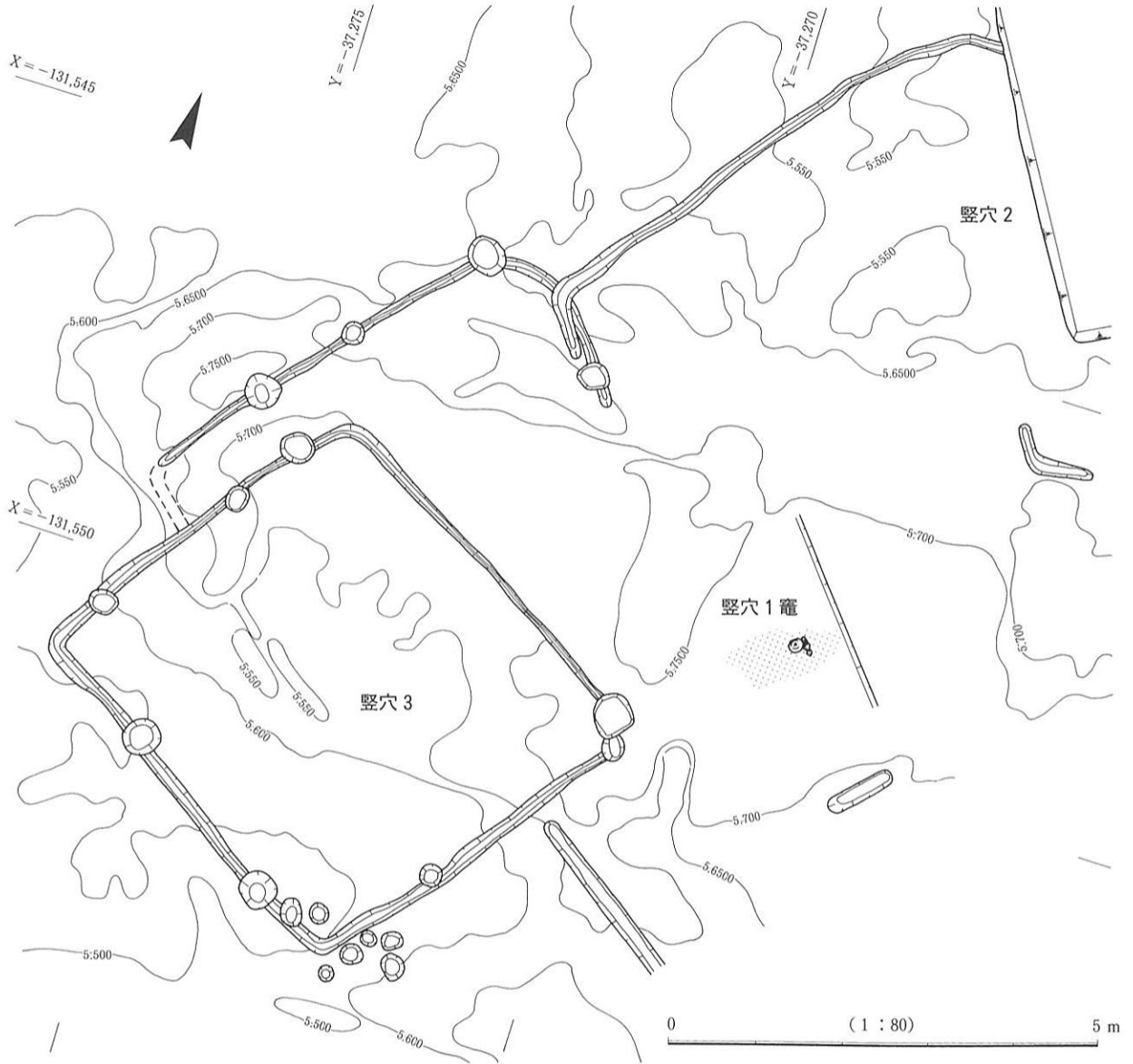
(81-5)は、外面叩きであり、甕の可能性が高いが、残存部に穿孔がみとめられず断定できない。

(114-1)は、大脚横枠である。片面に方形の未貫通孔がみられる。

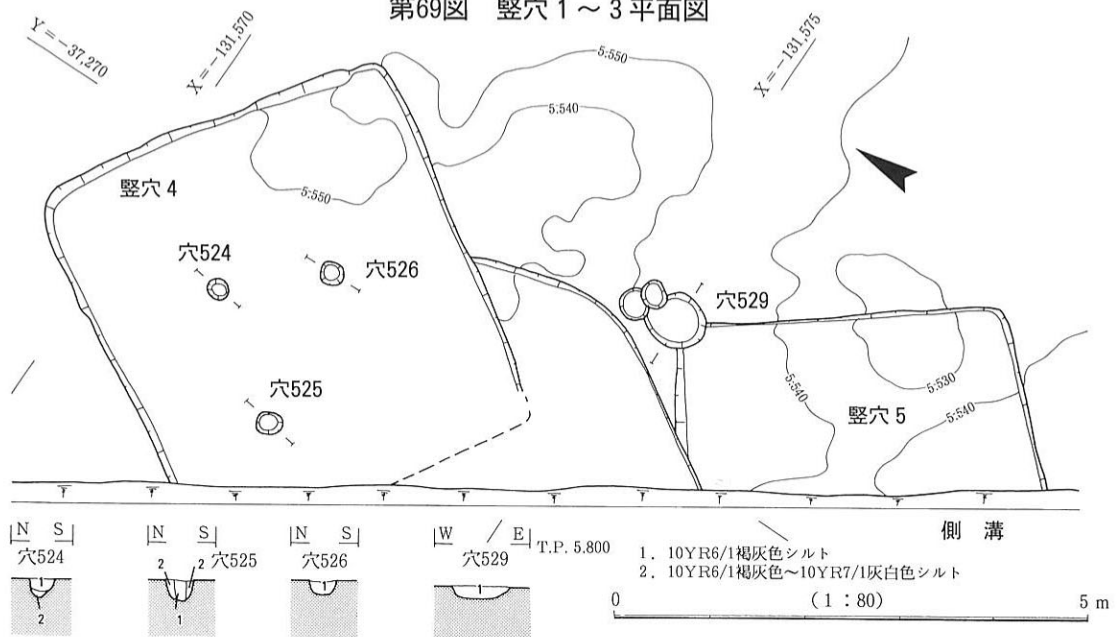
須恵器は、初期須恵器を少数含み、MT85型式が中心となる。土師器は古墳時代中期後半の遺物が主体とみられる。

土坑は調査区全体で検出され、すべて不定形な円形である。長径2～3m、短径1～2m、深さ30～40cmで、埋土は炭化物を多く含む茶黒色シルトである。

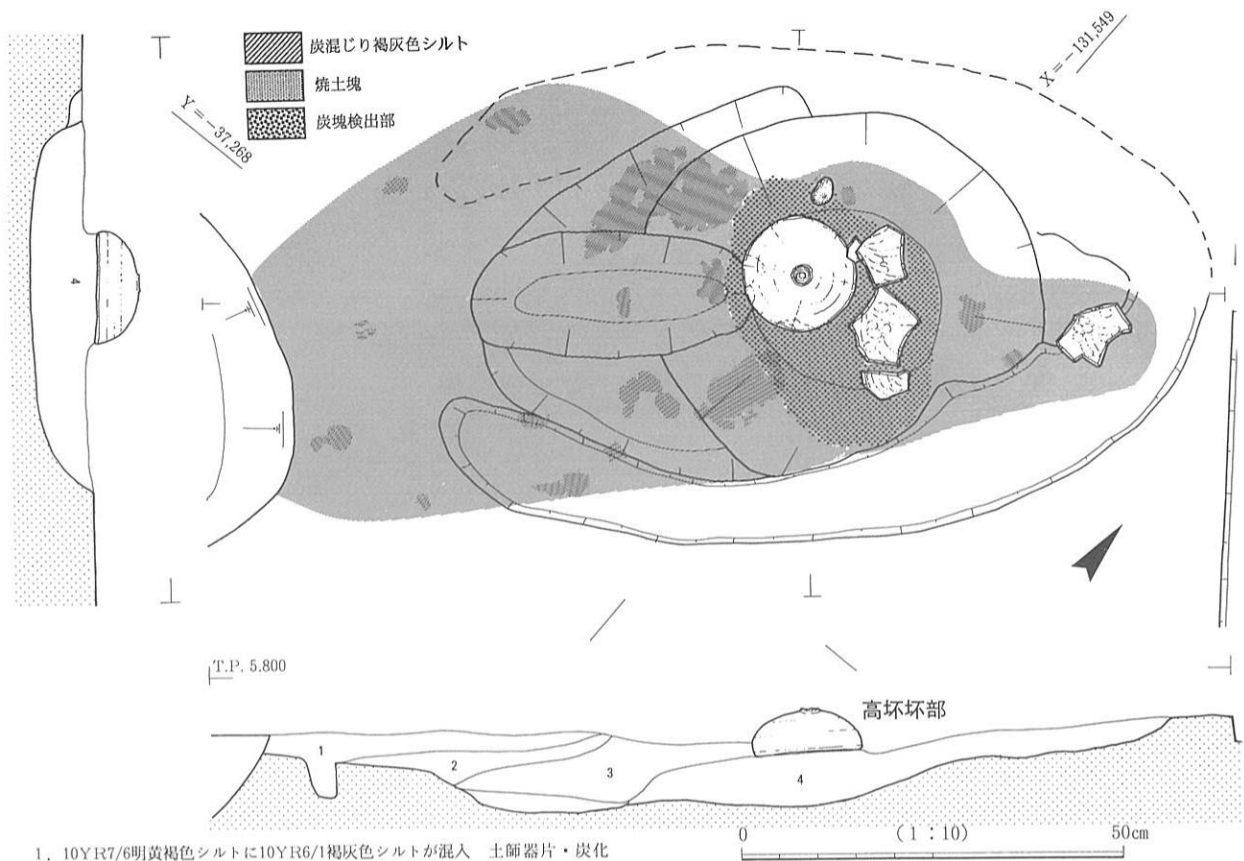
<遺物>土坑からは古墳時代前期～後期初頭の遺物が出土した(第86図-2～7・9～30、第87図-1～21)。須恵器坏蓋・坏身・高坏・壺・提瓶・鉢、土師器甕・鉢・甕・羽釜・高坏・壺のほか、土錘、滑石製有孔円板が出土しており、古墳時代中期後半から後期初頭が中心となる。須恵器は、TK23～TK47型式に位置づけられるものが多い。



第69図 竪穴1～3平面図



第70図 竪穴4・5平面図

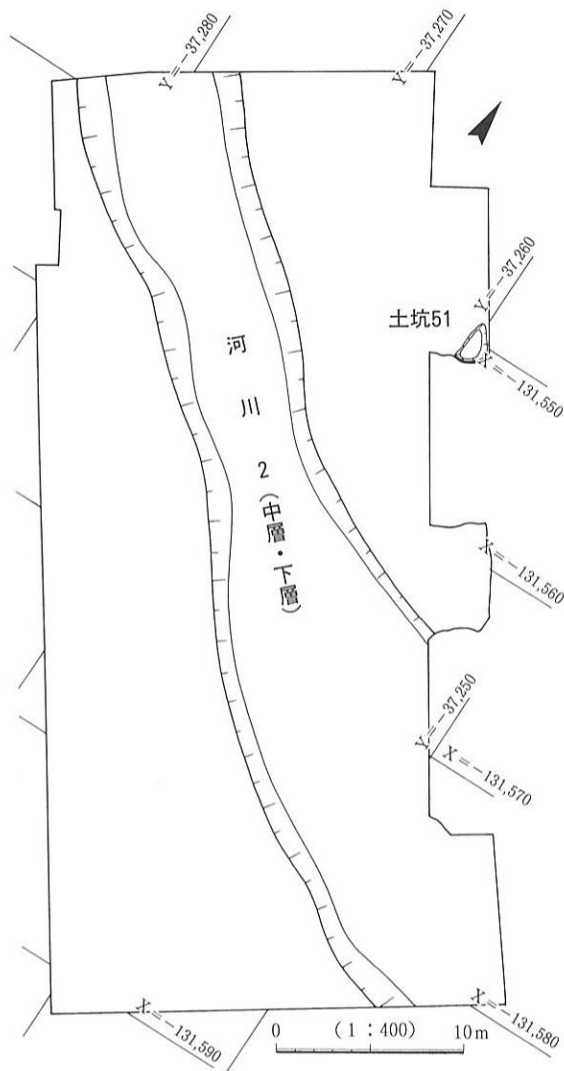


1. 10YR7/6明黄褐色シルトに10YR6/1褐灰色シルトが混入 土師器片・炭化物多量に混入（住居埋土）
2. 1. に焼土が混入（住居埋土）
3. 10YR7/6明黄褐色シルトに焼土が多量に混入
4. 10YR6/1褐灰色粘土質シルトに焼土塊・炭化物多量に混入（燃焼部）

第71図 竪穴1 竈平・断面図

	北西辺 (m)	北東辺 (m)	遺物図版番号	出土遺物の年代	須恵器の型式	備考
竪穴1		2.4～	第83図-1～2	古墳時代中期後半	TK23型式	北東辺に竈
竪穴2	5.9	0.9～	第83図-3～12	古墳時代中期	初期須恵器～TK23型式	
竪穴3	4.2	4.9	第83図-13～15	古墳時代中期後半	TK23型式	北西辺中央に焼土（竈？）
竪穴4	3.8～	3.9	第83図-16～20	古墳時代中期～後期	TK23～TK47型式	
竪穴5	1.9～	3.6				
竪穴6	3.2	3.6	第83図-31	古墳時代前期末～中期前半		北東辺中央に焼土
竪穴7	3.6～	5.3	第83図-32・33	古墳時代中期後半		北辺は竪穴6に切られる
竪穴8	4.4～	不明	第83図-30	古墳時代後期前半	TK47～MT15型式	竪穴中央に炭集中部
竪穴9	3.4	1.1～	第83図-21～25	古墳時代後期前半	TK47～MT15型式	東辺は調査区外へ延びる
竪穴10	3.0～	3.8	第83図-34～37	古墳時代前期末～中期前半	初期須恵器	北辺は調査区外へ延びる

第3表 竪穴一覧表



第73図 5面検出遺構

埋土は炭化物を多く含む黒褐色シルトで、ほぞ穴をもつ建築材のほか土師器甕・高坏・壺・鉢、須恵器坏・壺が出土した。

<遺物>土坑51からは古墳時代中期の遺物が出土した(第86図-5・6・16・27、第87図-7~10・12・13・16~21)。須恵器坏身・壺、土師器甕・高坏・鉢・壺が出土し、須恵器は、TK47型式に位置づけられる。

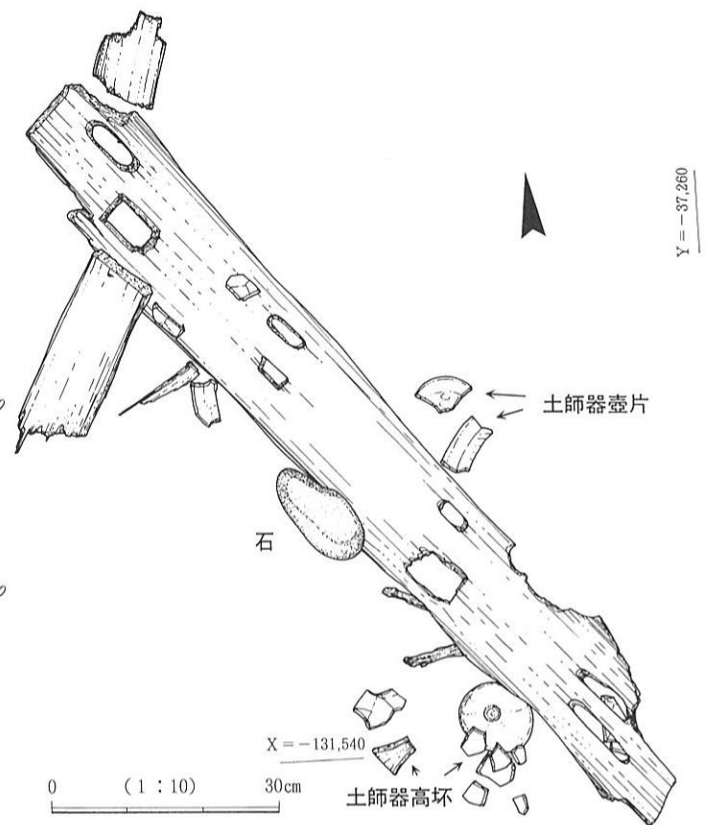
小 結

3D区では以下のことが判明した。3D区は溝咋(その1)C区に連続する調査区であり、C区との関連を含めまとめとする。

○中世~近世には坪境溝である河川1以南で水田が営まれ、中世の水田区画はほぼ近世まで継続する。C区西半部では12~13Cの掘立柱建物、柵からなる居住域が検出されており、3D区3面ではこれに対応する水田が検出される。

○中世鋤溝である3面溝38から鋤先が出土した。

○古墳時代中期後半から後期中頃(TK23型式~MT85型式)に盛期をもつ集落が検出された。C区から連続する集落である。



第74図 土坑51木製品出土状況

4-1面・4-2面の古墳時代後期集落が後期後葉まで存続することを考えると、土坑は集落形成の前半の段階にともなうといえる。

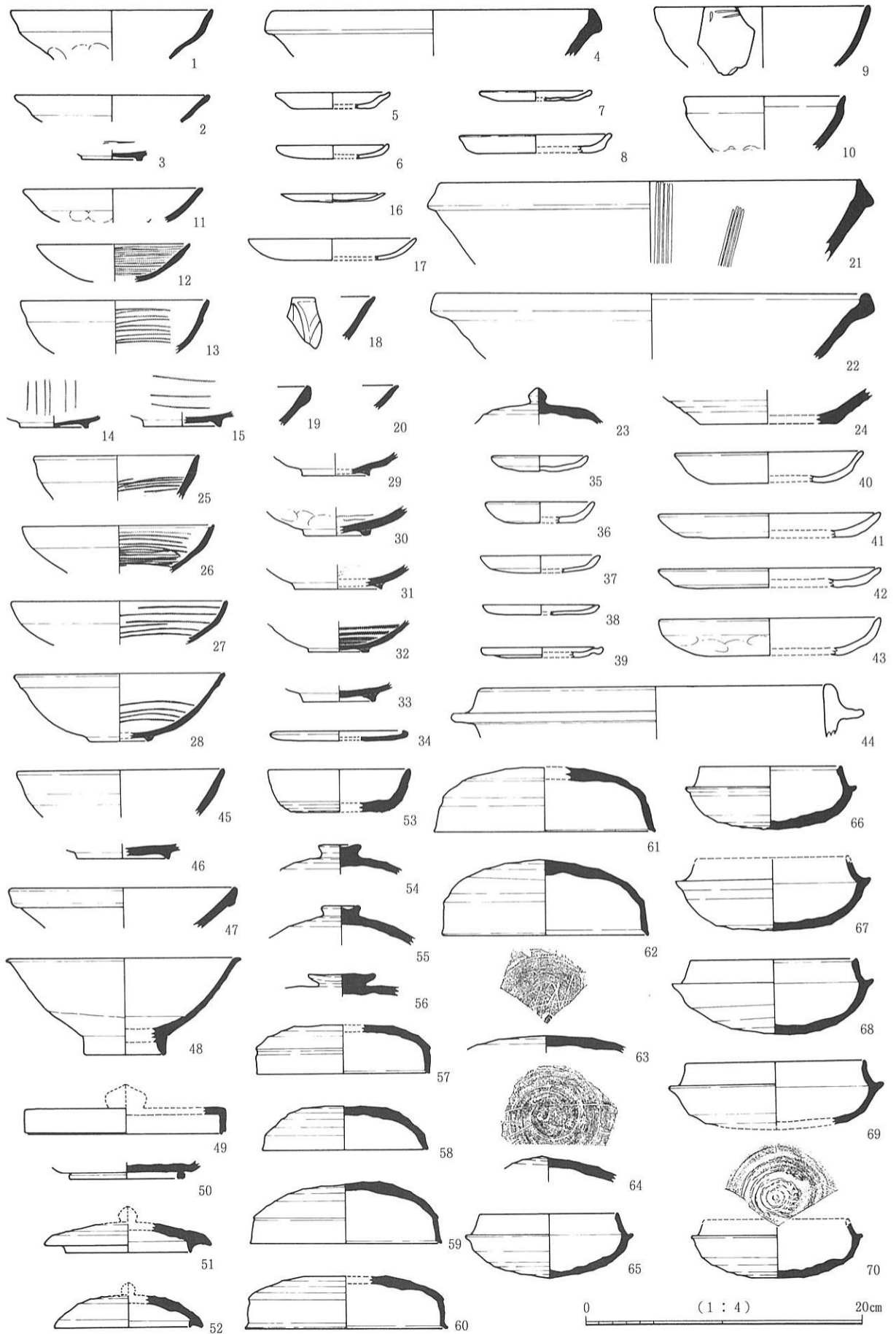
土坑51は調査区北東部突出部の隅でその一画を検出した。不定形な円形であり、長径3m、深さ40cmである。

- 古墳時代集落は大きく竪穴を主体とする集落（TK23型式～MT15型式）から掘立柱建物を主体とする集落（TK23型式～MT85型式）へと移行する。
- 竪穴、掘立柱建物とも、その主軸は調査区中央を縦断する河川2の方向性に規定される。
- 竪穴1では作り付け竈が検出され、竈中央で出土した高坏は竈廃棄時に据えられた可能性がある。
- 建物3の北側桁の柱穴は2～3回の掘り直しがみとめられ、同一箇所における建物の建て替えを考える際に有用な資料として注意された。
- 古墳時代後期の特異な出土遺物には、韓式系軟質土器鉢（85-19）、不明土製品（79-1、110-2・3）、瓦質焼成の不明土製品（110-1）がある。いずれも稀少な例であり、今後の類例の蓄積がまつれる。
- 穴362から古墳時代中期後半から後期中頃の製塩土器がまとまって出土した。
- 馬の歯・骨が比較的多く出土した。製塩土器との関連が示唆される。
- 3D区古墳時代後期集落の様相は、河内湖対岸にあたる寝屋川市域での古墳時代後期集落と類似する。すなわち滑石製品、馬の歯、製塩土器、不明土製品、陰刻のある土製品が共通する遺物としてみられ、竈をもつ竪穴、掘立柱建物が検出される点で共通する。これより古墳時代後期、淀川、河内湖沿岸では生活文化がかなり共通していたと考えられ、これは頻繁な水上交通による可能性が高い。
- 溝咋遺跡（その1・2）の古墳時代後期集落では、玉砥石をはじめとする砥石は出土するものの滑石製品の未製品は確認されていなかった。今回、未製品が3D区で出土したことから、本集落における滑石製品の生産が明らかとなった。

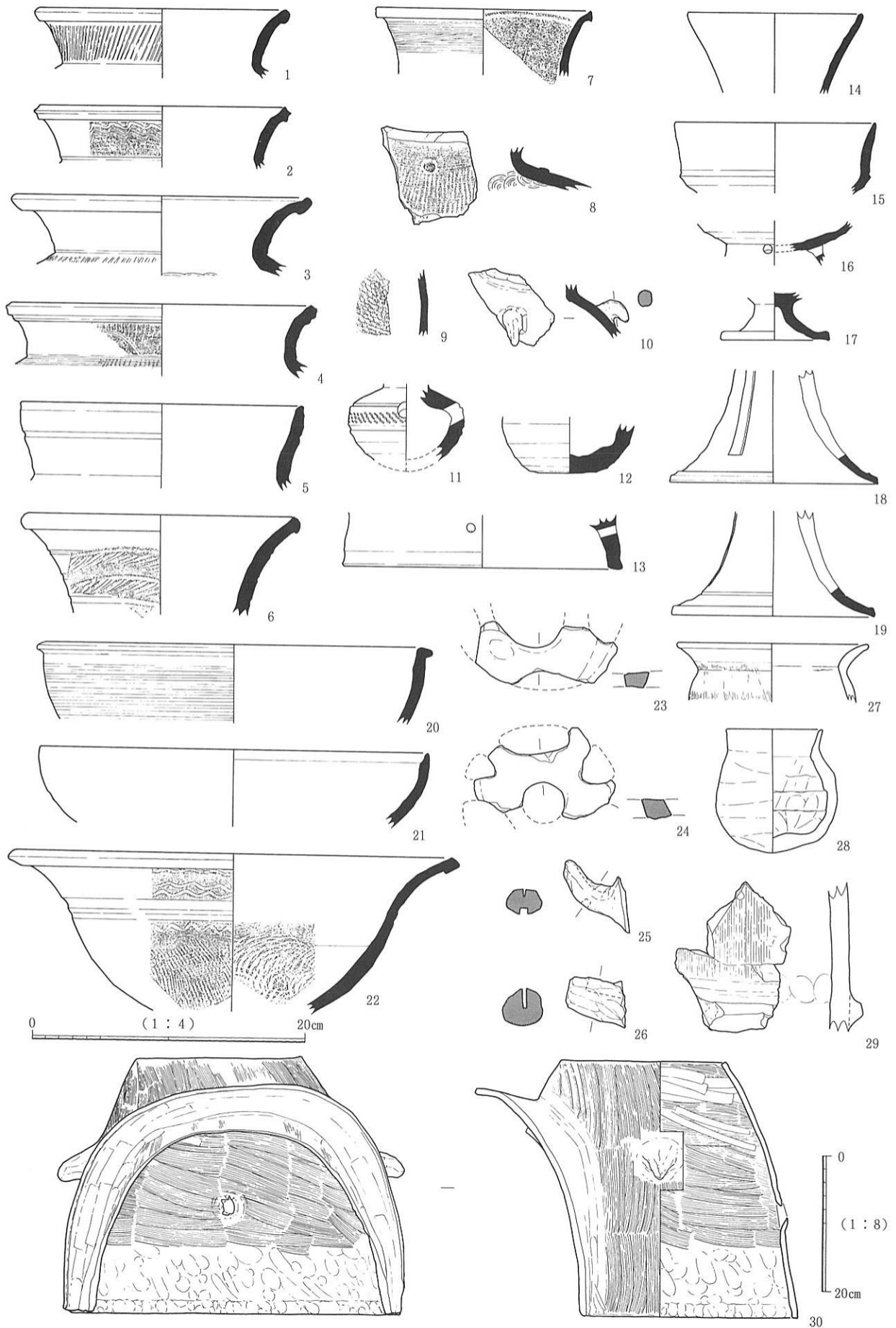
（合田）

註

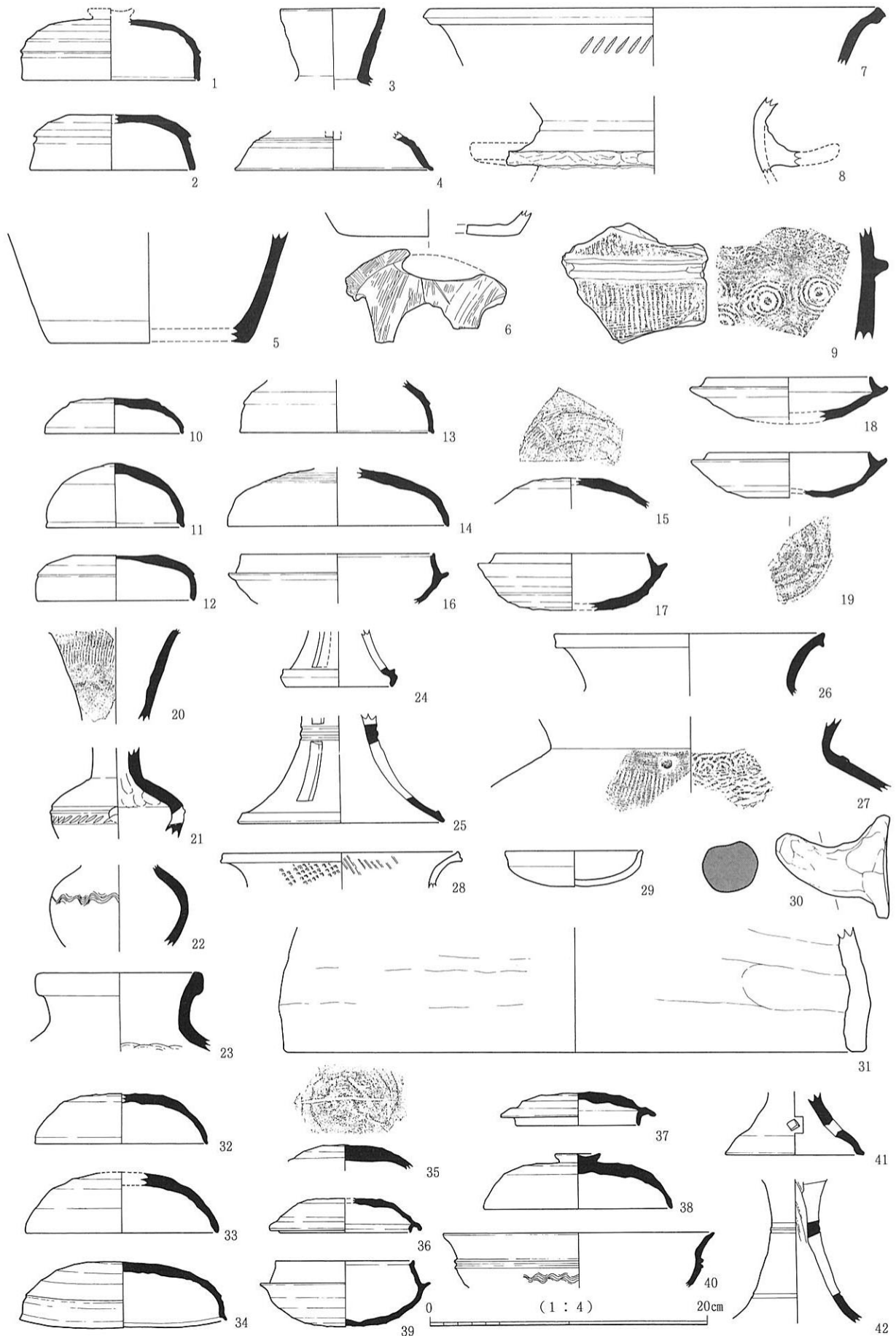
- 1) 遺物の年代等については下記の文献を参照した。
橋本久和 1992 『中世土器研究序論』
田辺昭三 1981 『須恵器大成』
辻 美紀 1999 「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学 — 大阪大学考古学研究室10周年記念論集』
- 2) 広瀬和雄 1988 「近畿地方における土器製塩 — 大阪湾周辺を中心として —」『考古学ジャーナル』298
- 3) 財大阪府埋蔵文化財協会 1995 『陶邑・大庭寺遺跡IV』
- 4) 奈良県立橿原考古学研究所 1996 『南郷遺跡群I』
- 5) 財大阪府文化財調査研究センター 2000 『溝咋遺跡（その1・2）』
- 6) 合田幸美 1998 「溝咋遺跡出土 陰刻、刺突のある瓦質土製品について」『大阪文化財研究』第15号
- 7) 寝屋川市教育委員会 塩山則之氏にご教示頂いた。共伴遺物は古墳時代中期～後期の年代幅をもつ。
- 8) 大阪府教育委員会 芝野圭之介氏にご教示頂いた。谷出土遺物のため、共伴遺物は古墳時代後期末～平安時代の年代幅をもつ。
大阪府教育委員会 1980 『西浦橋・鶴田池東遺跡発掘調査概要』図版26
- 9) 奈良県立橿原考古学研究所 1999 『纏向 第5版 補遺篇』
- 10) 財大阪文化財センター 1994 『宮の前遺跡・蛍池東遺跡・蛍池遺跡・蛍池西遺跡1992・1993年度発掘調査報告』



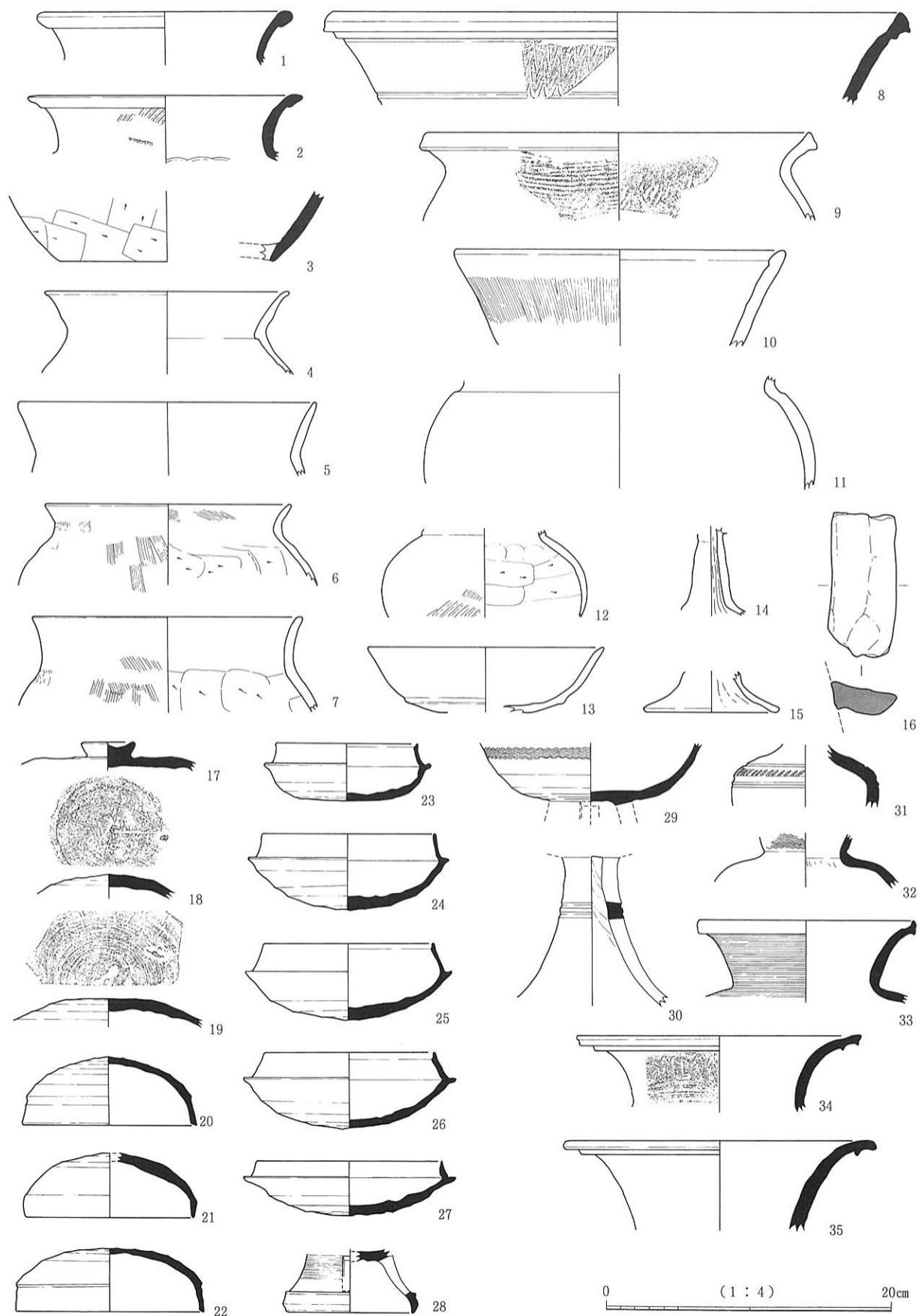
第75图 3 D区出土土器 (1~10: 1層・1面、11~24: 2層・2面、25~70: 3層・3面)



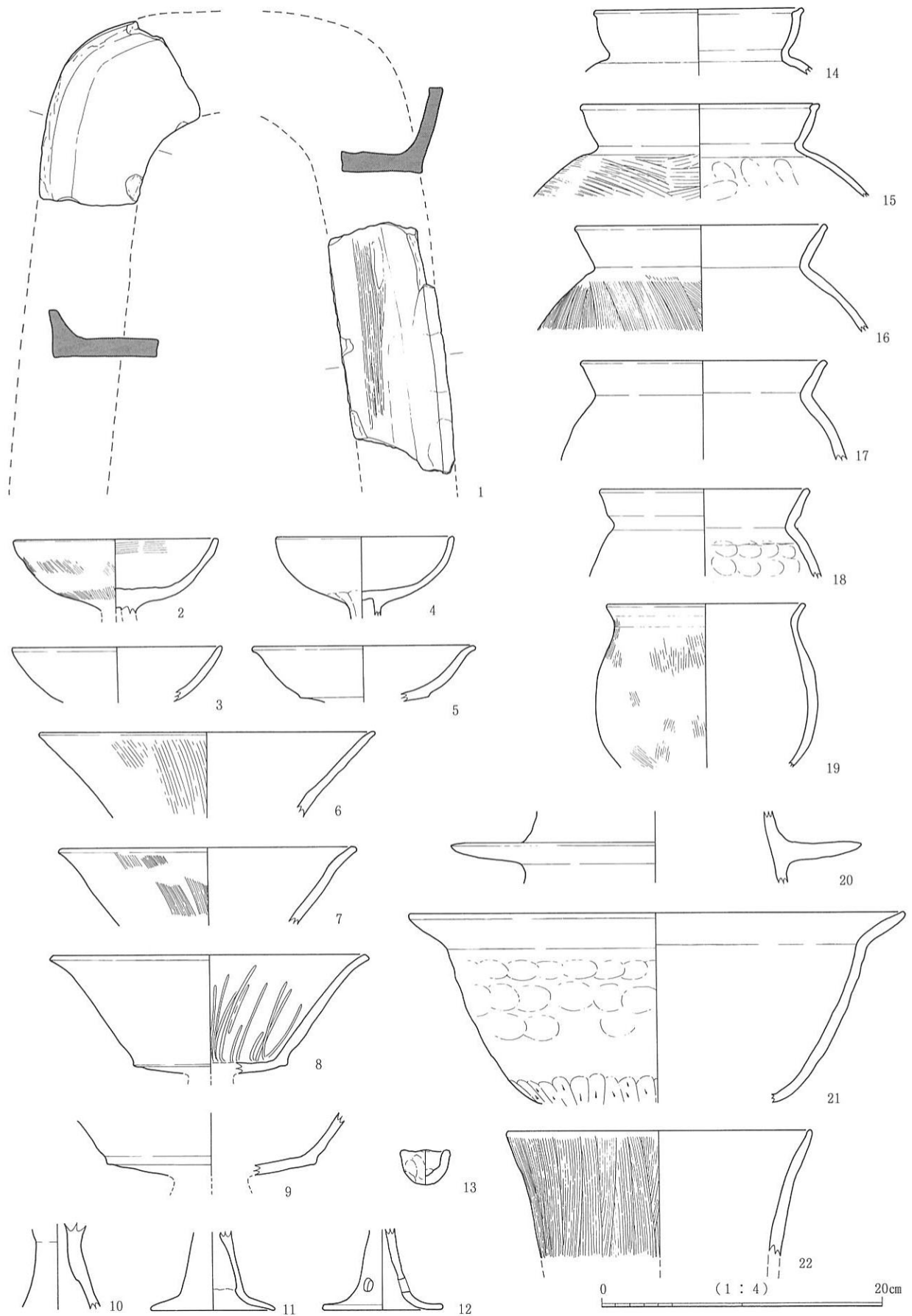
第76図 3 D区 3層・3面出土遺物 (竈のみ 1 : 8、他 1 : 4)



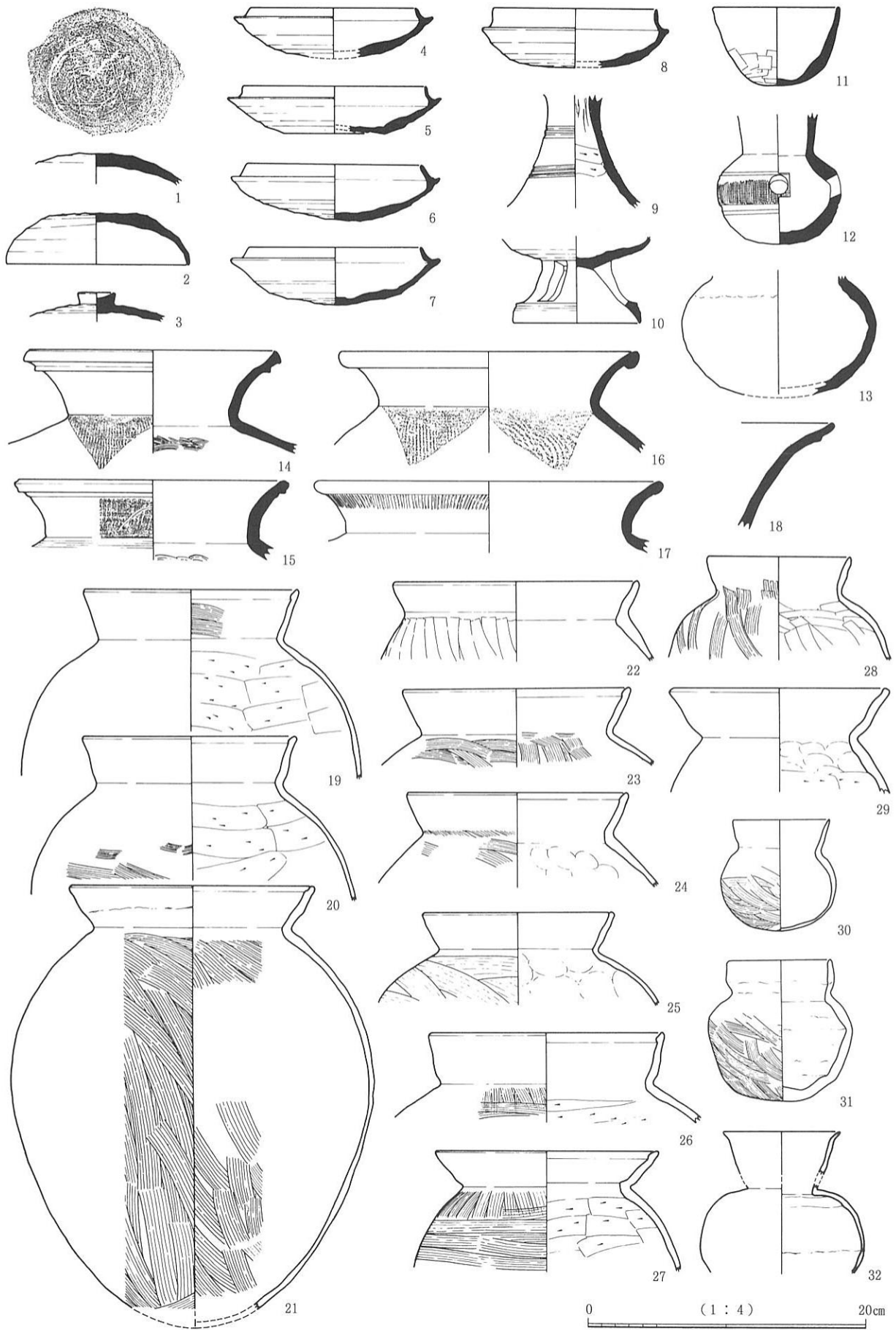
第77图 3 D区出土遺物 (1~9: 3-2層、10~31: 3-2層~4-1層、32~42: 4-1面)



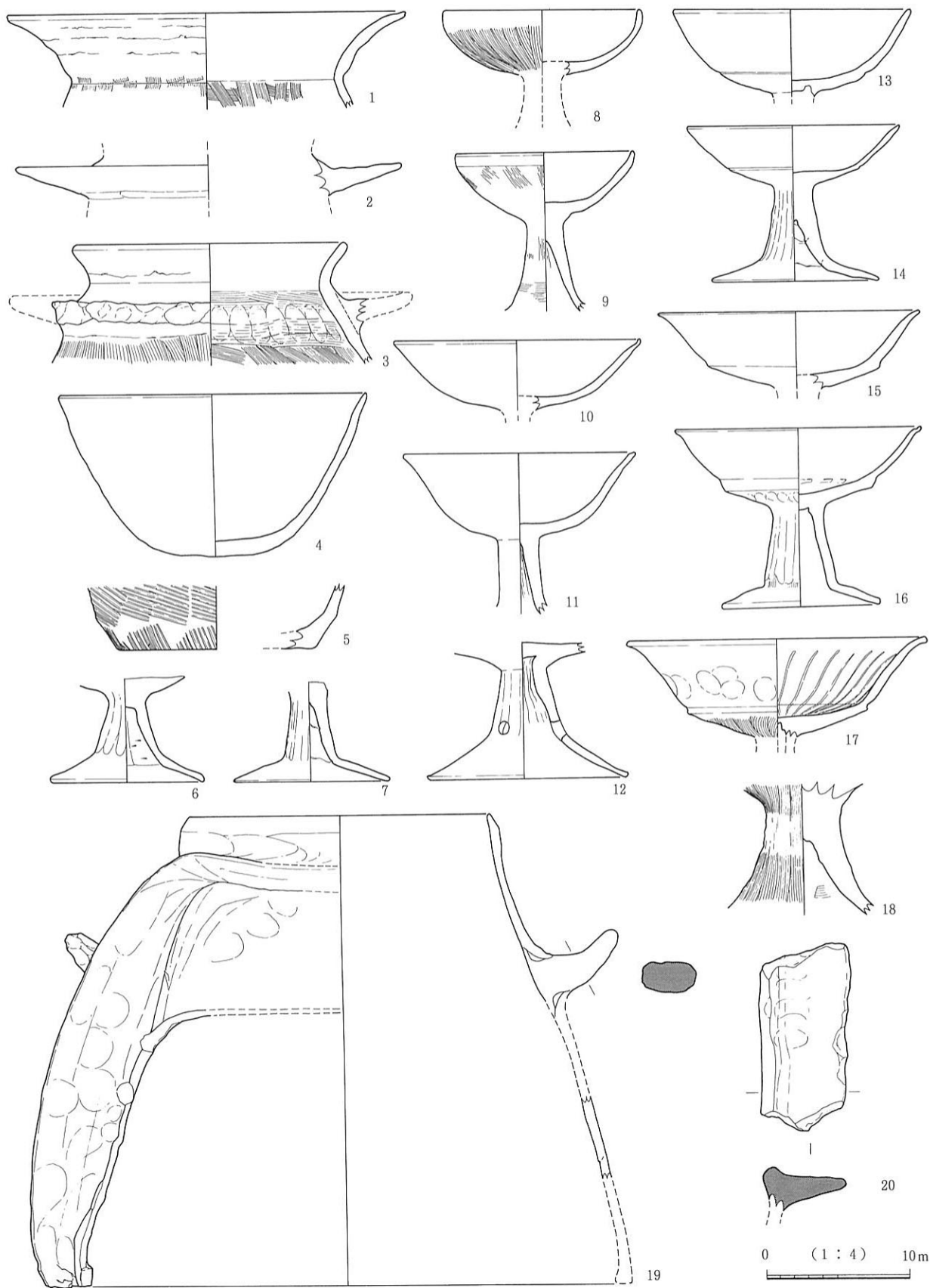
第78図 3D区出土遺物 (1~16: 4-1面、17~35: 4-2層・4-2面)



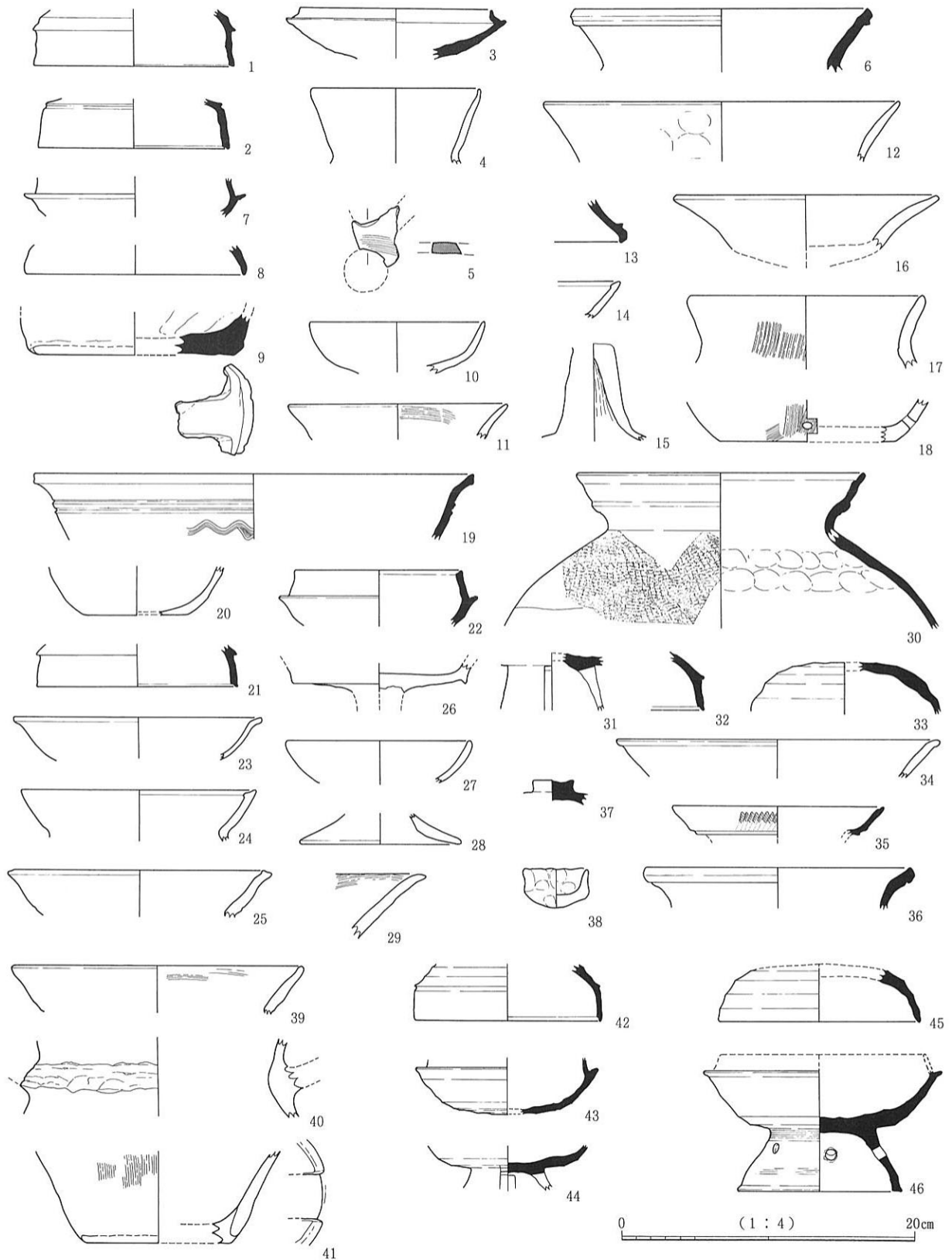
第79图 3 D区出土遺物 (1:河川2中層、2~22:4-2層・4-2面)



第80図 3 D区 5層出土土器

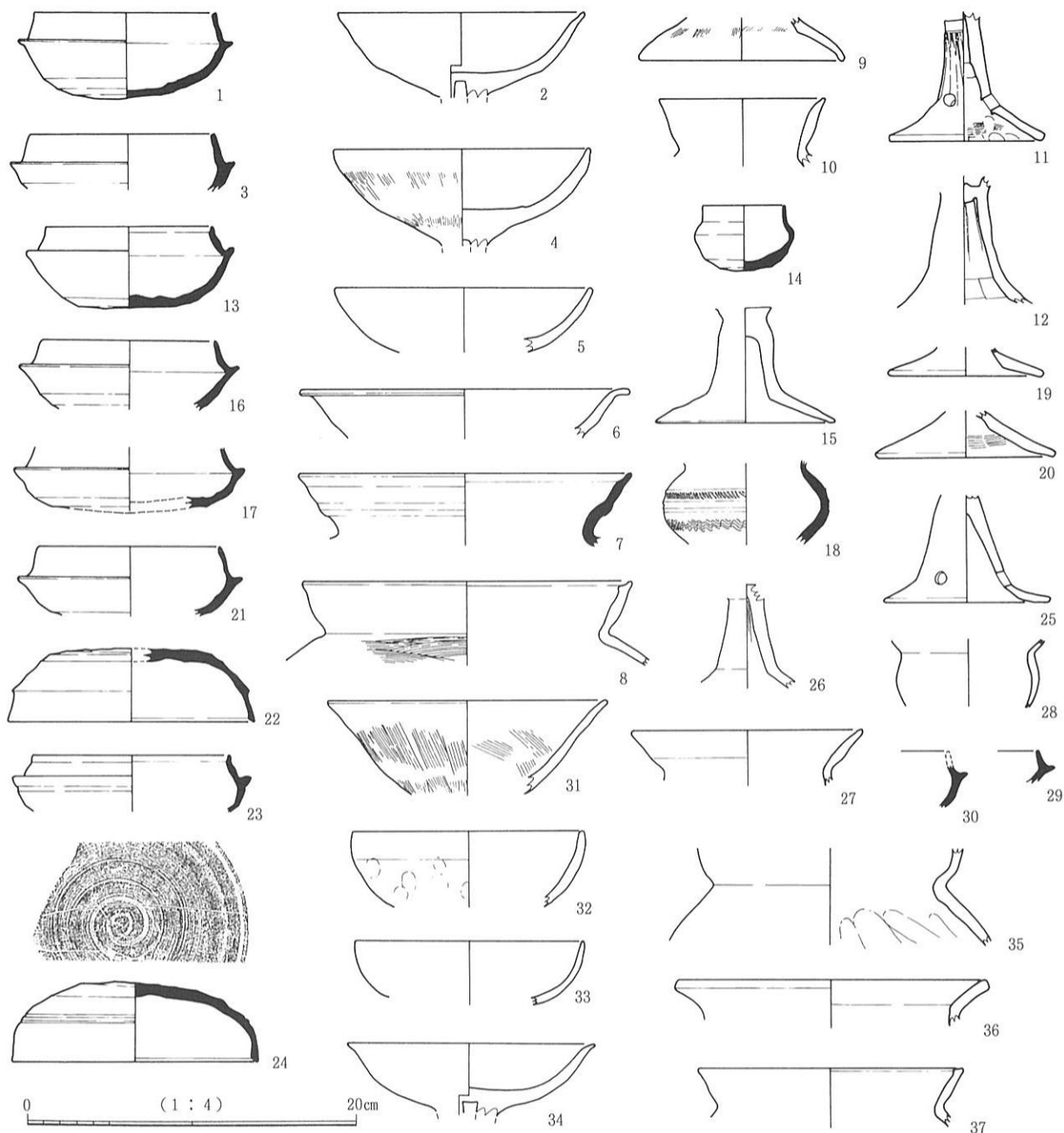


第81图 3 D区 5层出土遗物



第82図 3D区建物跡出土土器

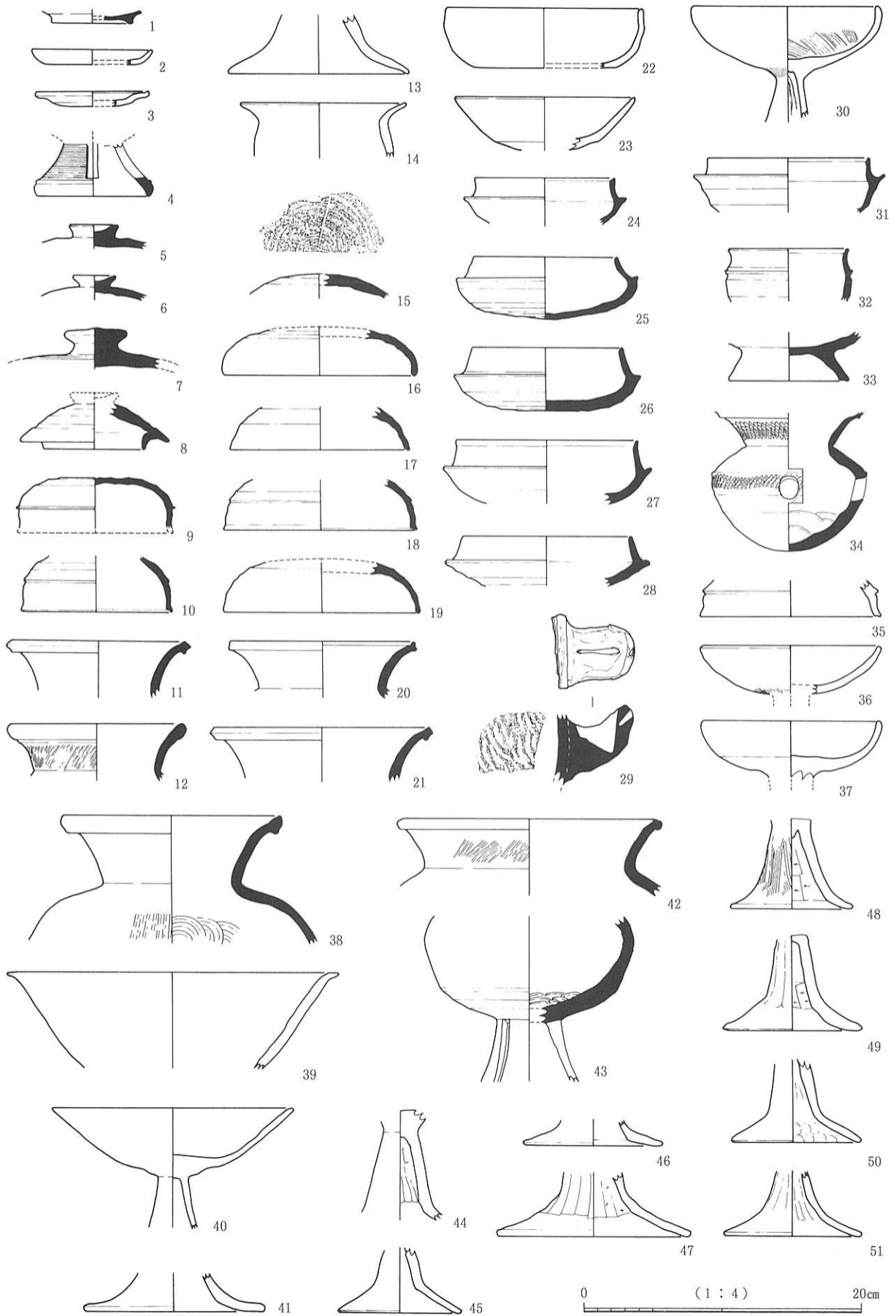
(1～6：建物1、7・10：建物2、8・9・11・13：建物3、12・14～16：建物4、17・18：建物5、19～21：建物6、
22：建物7、23～29：建物8、30：建物9、31・34：建物10、32・35：建物11、33・36・37：建物12、38～41：建物13、
42～44：建物14、45・46：建物15)



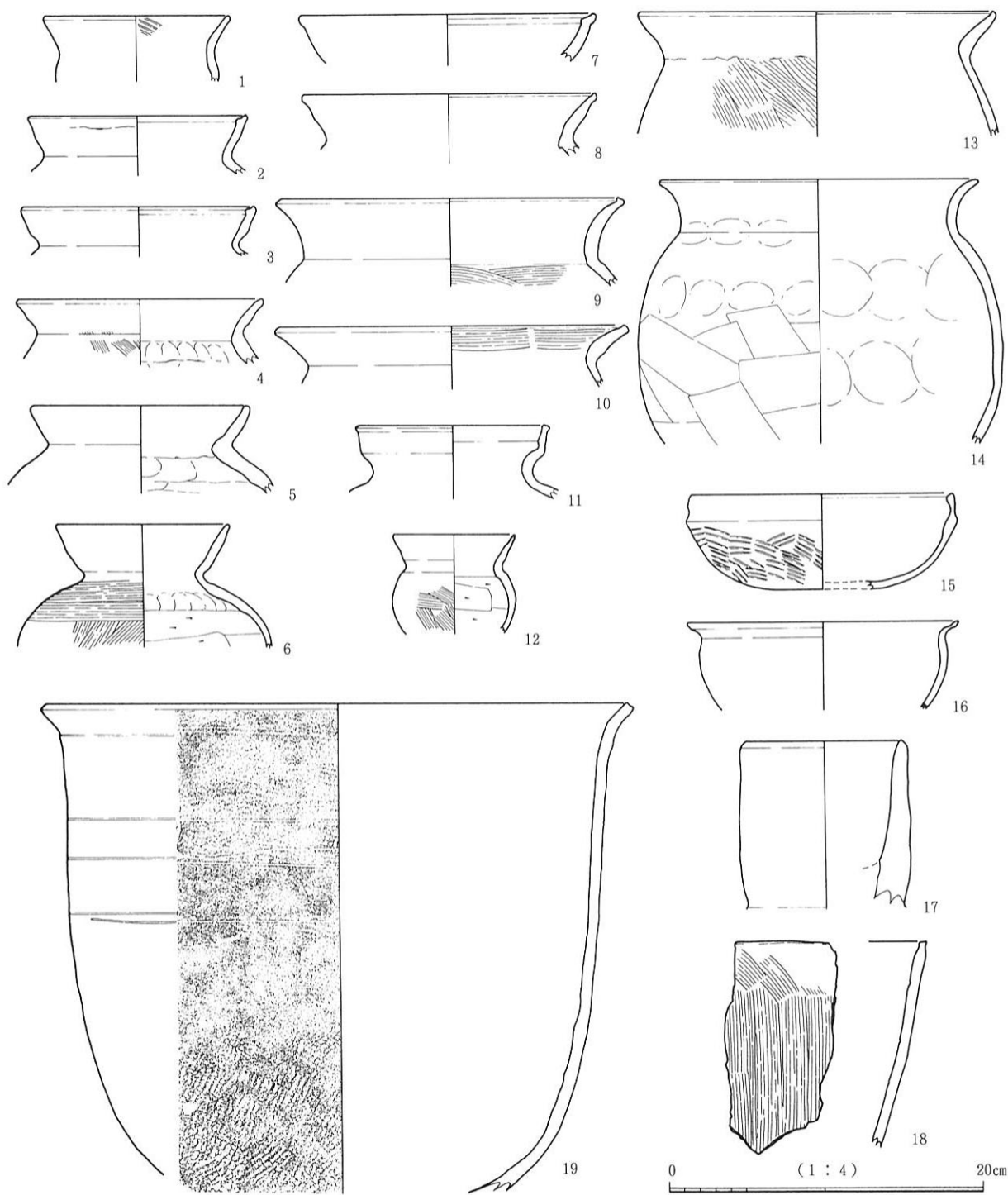
第83图 3 D区竖穴・柵出土土器

(1・2: 竖穴1、3~12: 竖穴2、13~15: 竖穴3、16~20: 竖穴4、21~25: 竖穴9、26・27: 柵2、28・29: 柵1、30: 竖穴8、31: 竖穴6、32・33: 竖穴7、34~37: 竖穴10)

91頁 第84图 (1: 穴8、2: 穴15、3: 穴28、4: 穴103、5: 穴298、6: 穴299、7: 穴445・446、8: 穴249、9: 穴507
 10: 穴738、11・16: 穴944、12: 穴571、13: 穴52、14: 穴158、15: 穴830、17: 穴854、18: 穴803
 19: 穴761、20: 穴880、21: 穴863、22: 穴296、23: 穴168、24: 穴608、25: 穴583、26: 穴478
 27: 穴599、28: 穴536、29: 穴952、30: 穴292、31: 穴941、32: 穴514、33: 穴984、34: 穴489
 35: 穴970、36: 穴657、37: 穴959、38: 穴524、39: 穴939、40: 穴881、41: 穴684、42: 穴946
 43: 穴846、44: 穴732、45: 穴575、46: 穴309、47: 穴986、48: 穴704、49: 穴539、50: 穴339
 51: 穴290)

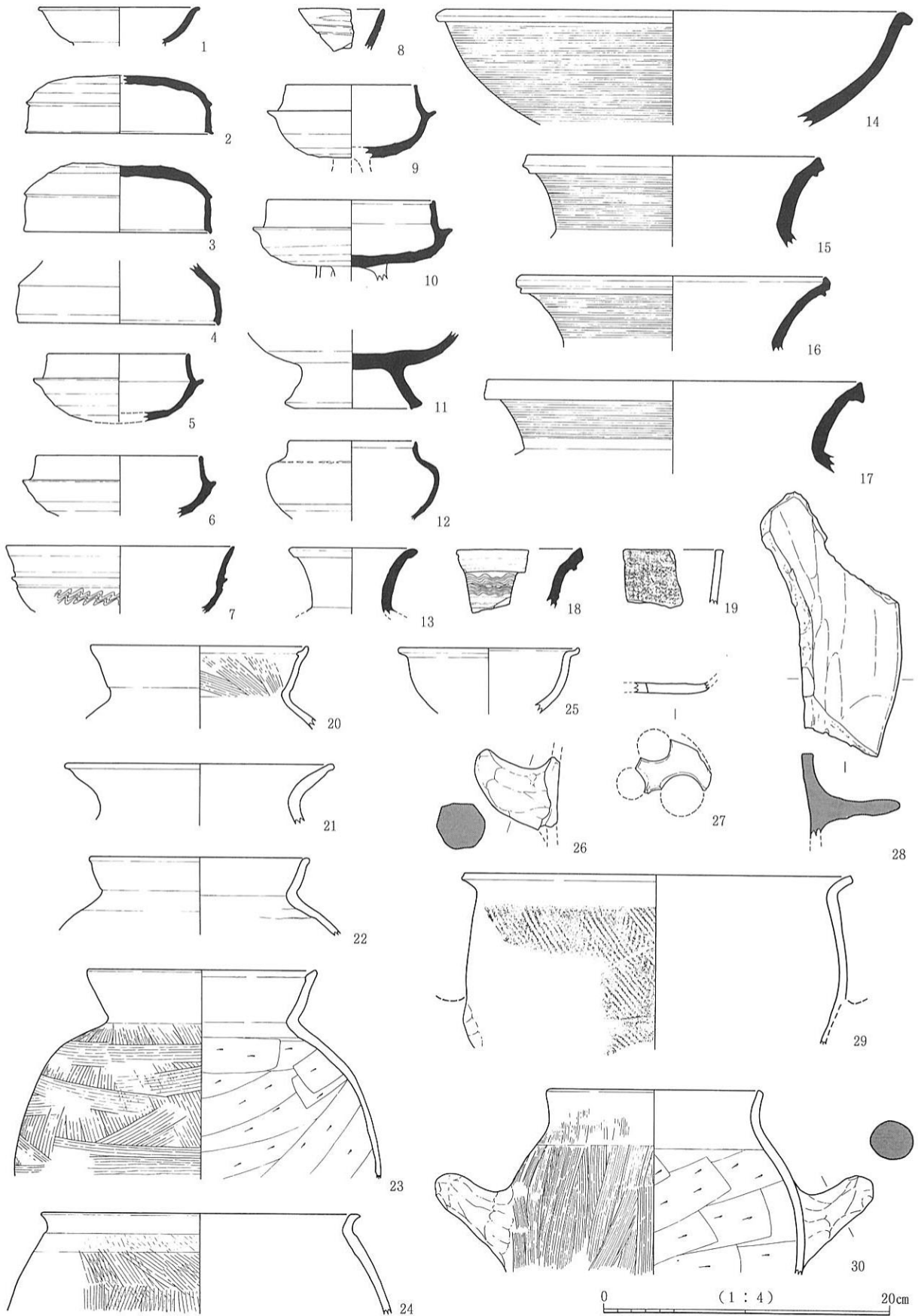


第84図 3D区穴出土土器



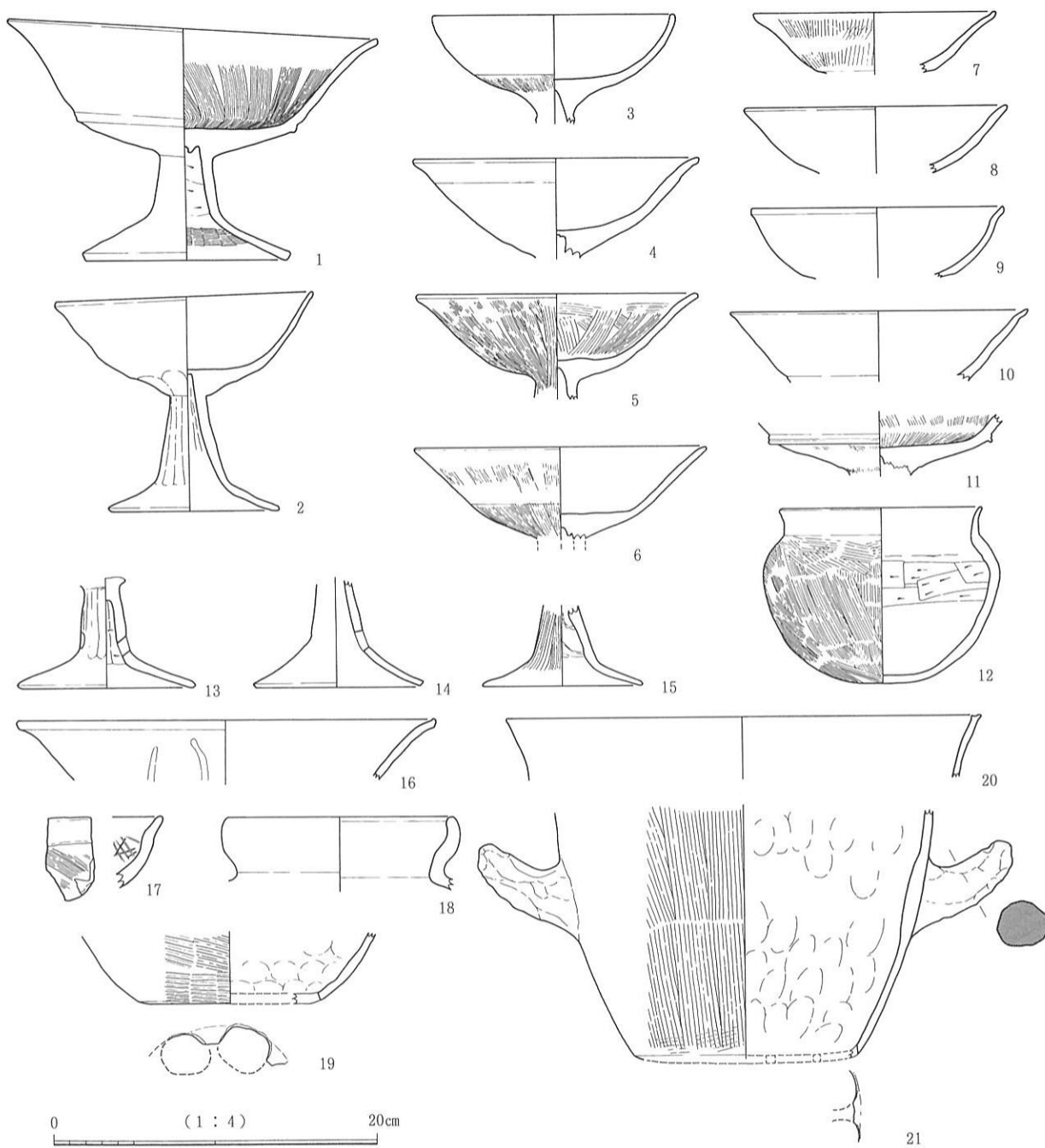
第85图 3 D区穴出土土器

(1 : 穴926、2 : 穴587、3 : 穴470、4 : 穴313、5 : 穴990、6 : 穴495、7 : 穴759、8 : 穴947、9 : 穴391、10 : 穴946、11 : 穴983、12 : 穴86、13 : 穴636、14 : 穴290、15 : 穴339、16 : 穴532、17 : 穴764、18 : 穴752、19 : 穴410)



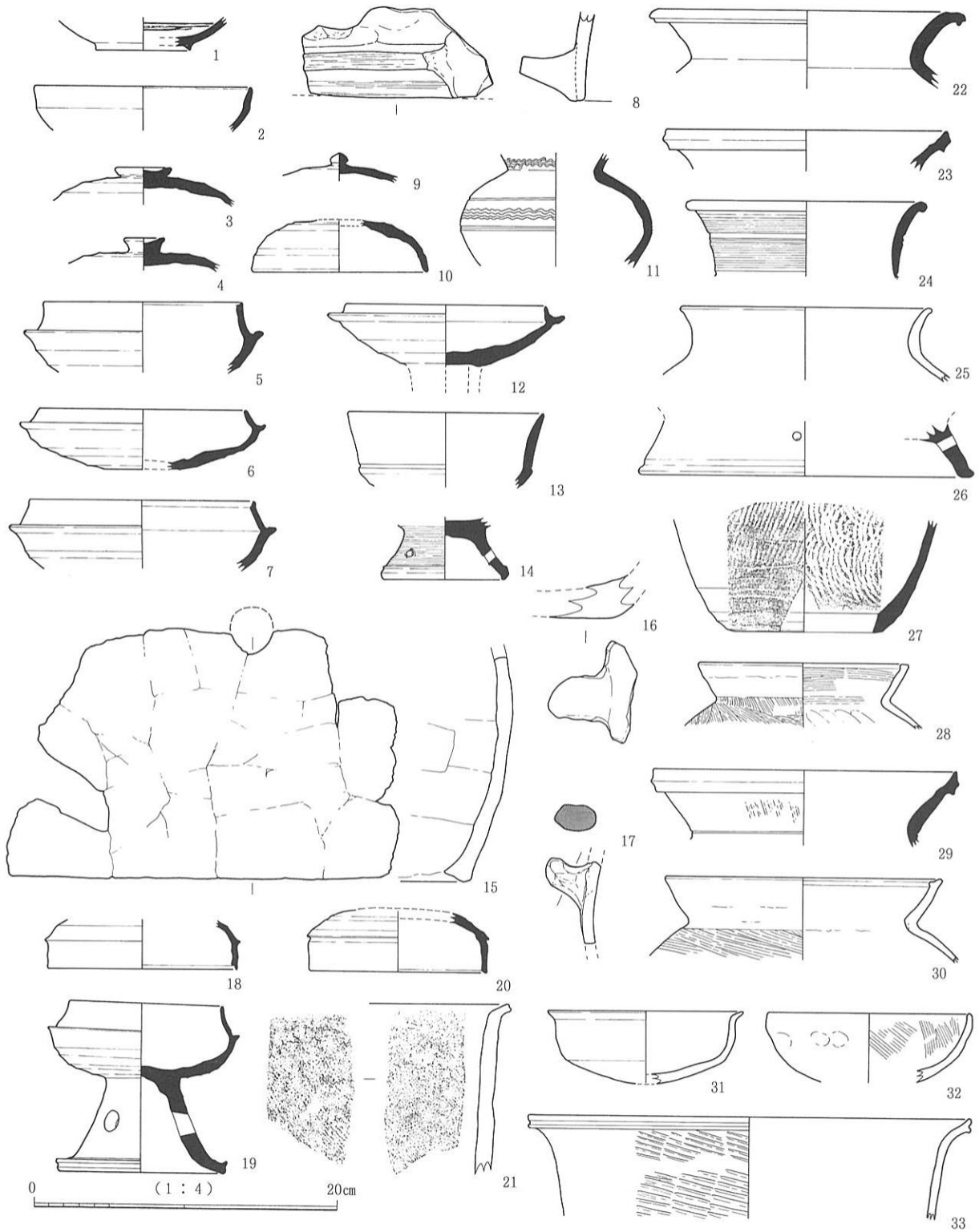
第86図 3 D区土坑出土遺物

(1 : 土坑17、2・9・10・19・29・30 : 土坑66、3・4・11・12 : 土坑60、5・6・16・27 : 土坑51、7・20 : 土坑53、
8 : 土坑23、13 : 土坑64、14 : 土坑43、15 : 土坑56、17・24 : 土坑65、18・21・28 : 土坑59、22・23 : 土坑62、25 : 土坑55、
26 : 土坑57)



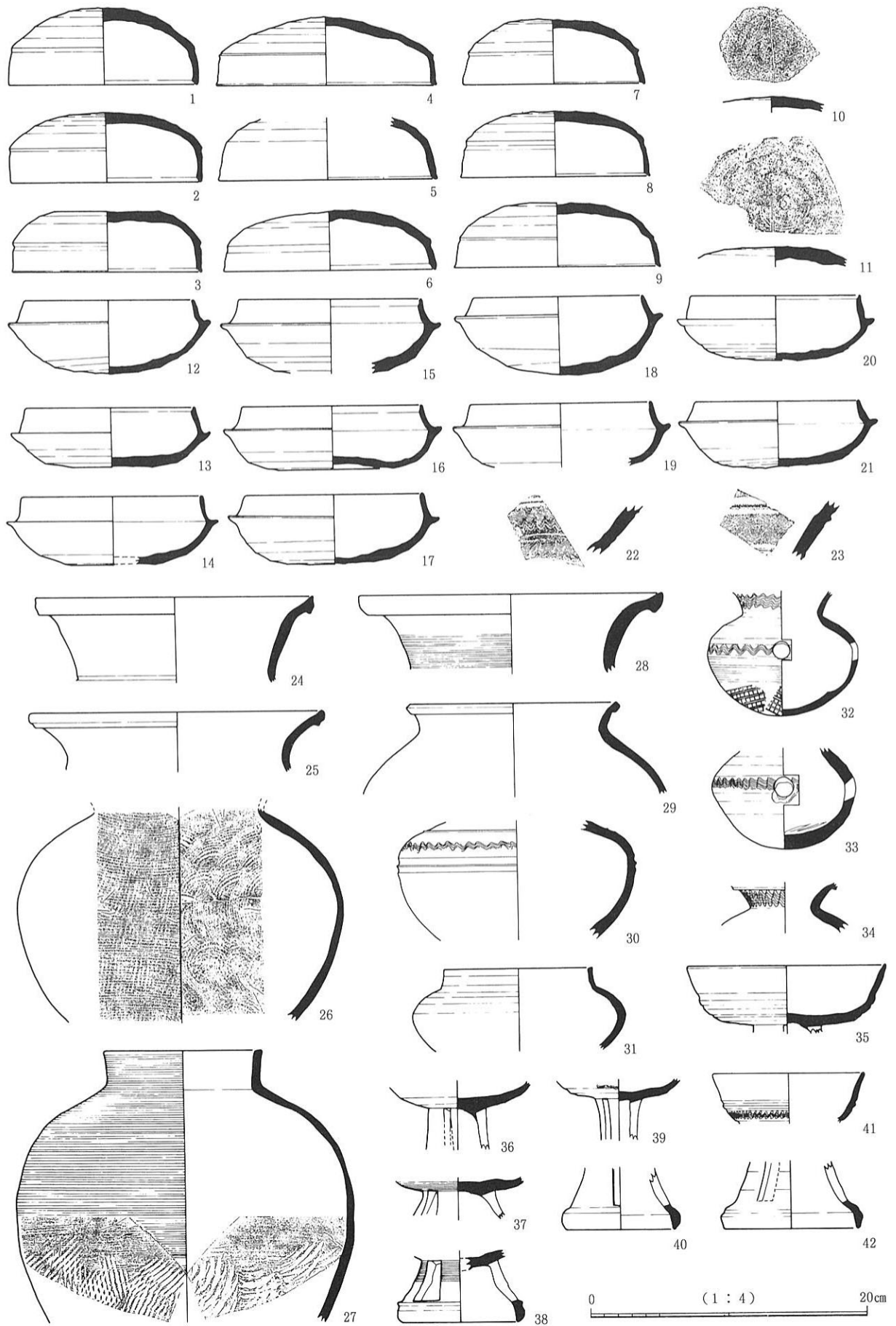
第87图 3 D区土坑出土土器

(1·4~6:土坑66、2·14:土坑62、3:土坑61、7~10·12·13·16~21:土坑51、11:土坑64、15:土坑53)

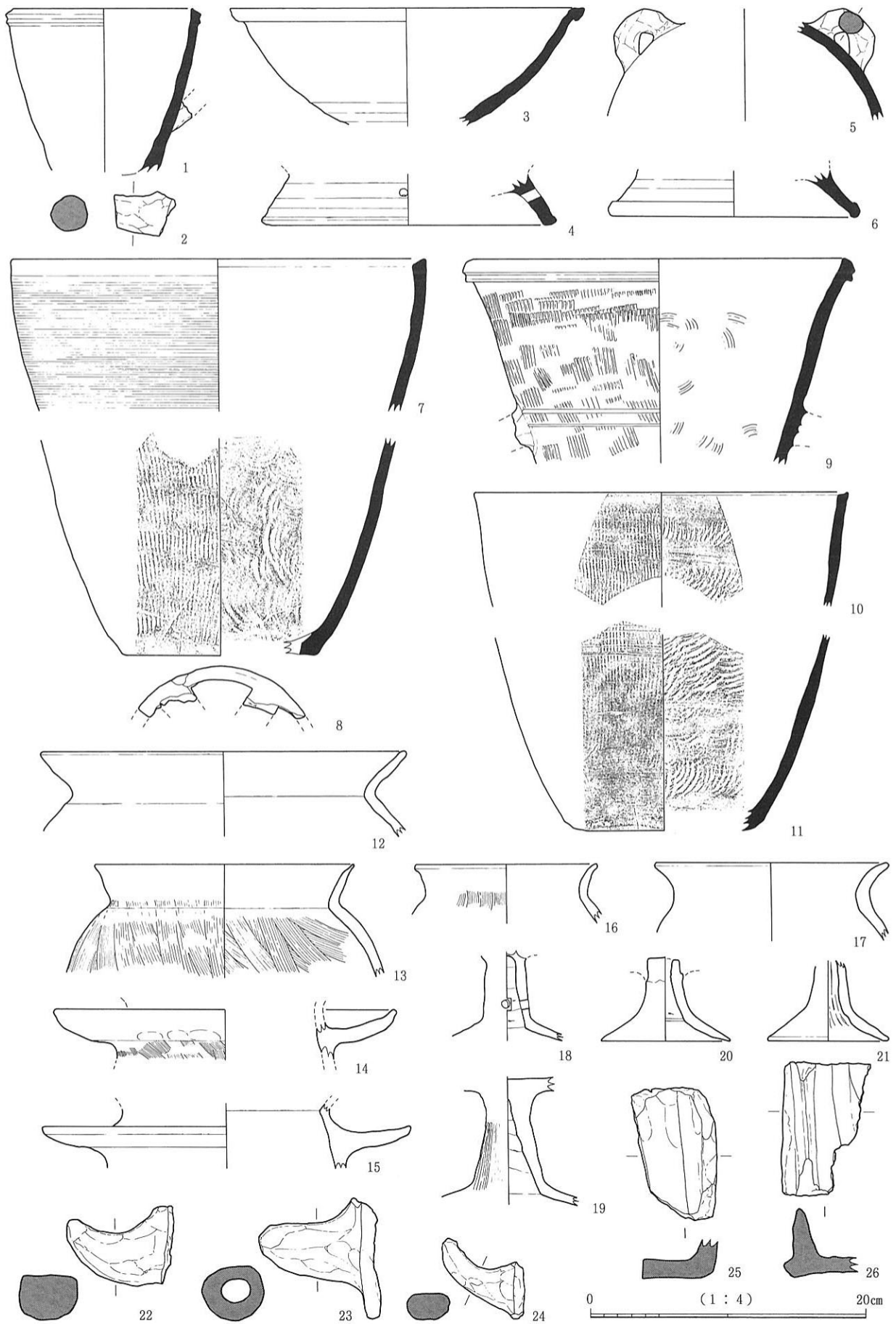


第88図 3 D区溝出土遺物

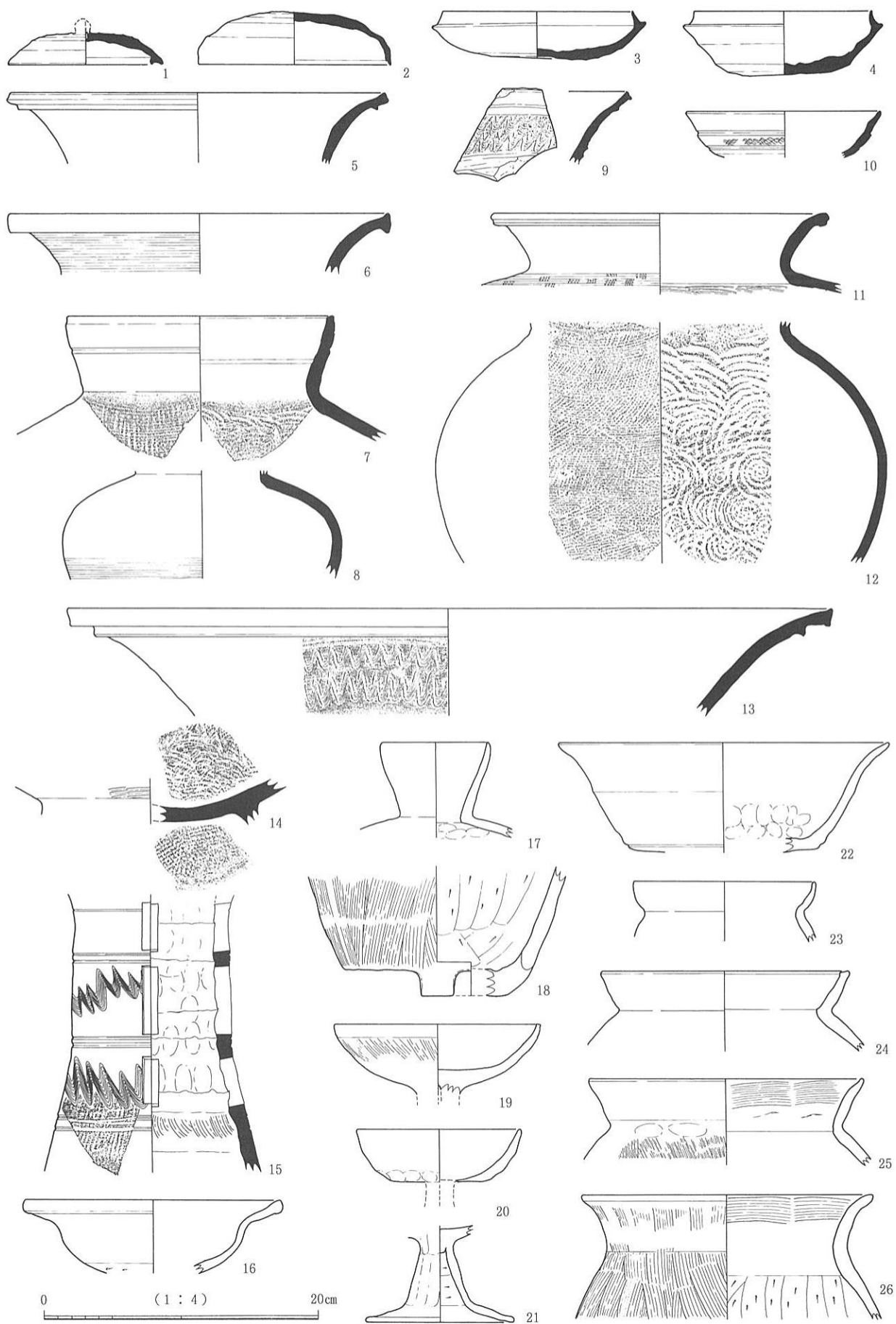
(1 : 溝1、2 : 溝23、3 : 溝43、4 : 溝25、5 : 溝42、6・9~11 : 溝76、7 : 溝45、8 : 溝3、12 : 溝56、13 : 溝71、14 : 溝38、15 : 溝68、16・22・24 : 溝50、17 : 溝122、18 : 溝123、19・30~32 : 溝116、20・33 : 溝127、21 : 溝124、23 : 溝60、25・26・28 : 溝20、27 : 溝99、29 : 溝118)



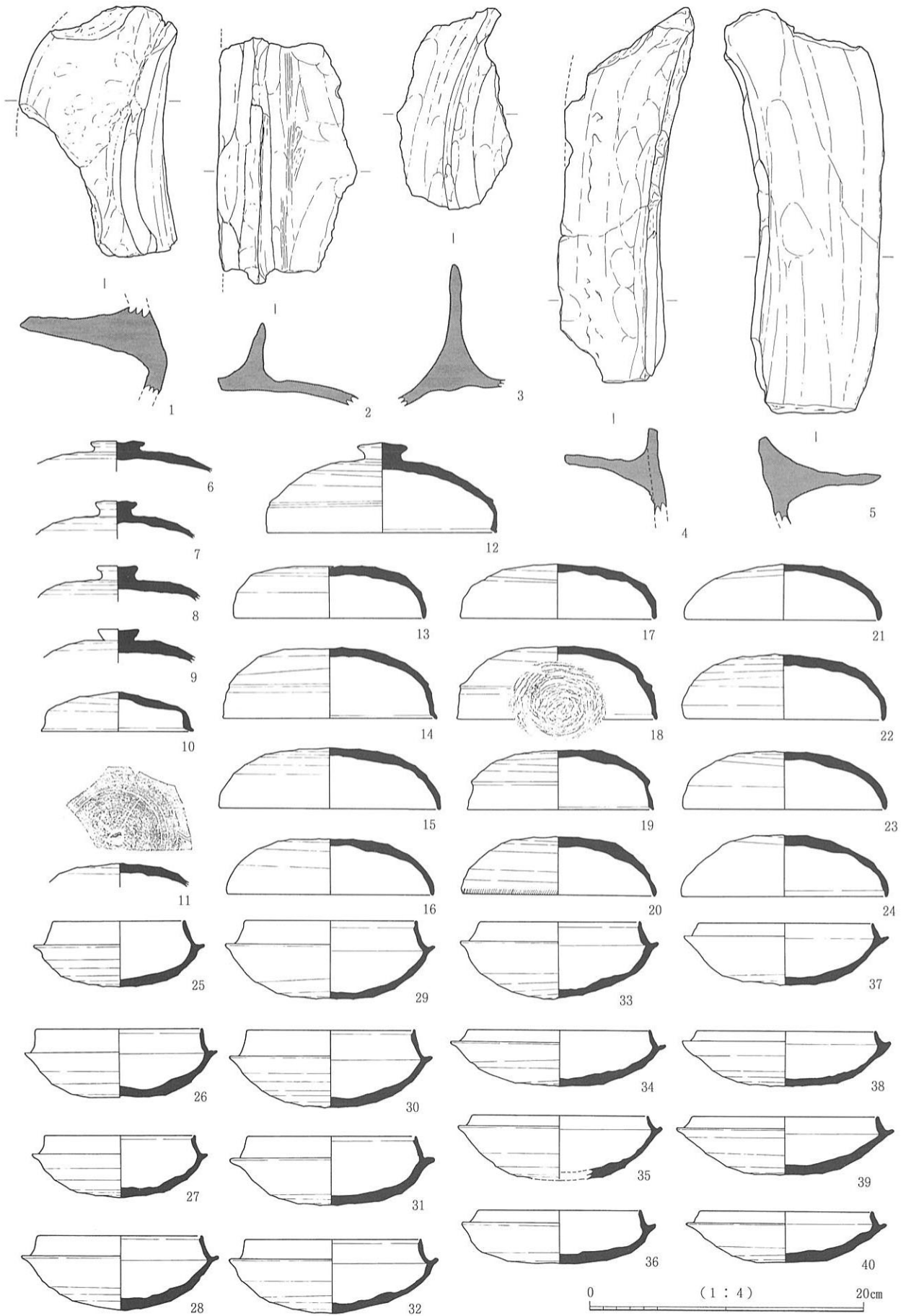
第89图 3 D区炭集中部出土土器



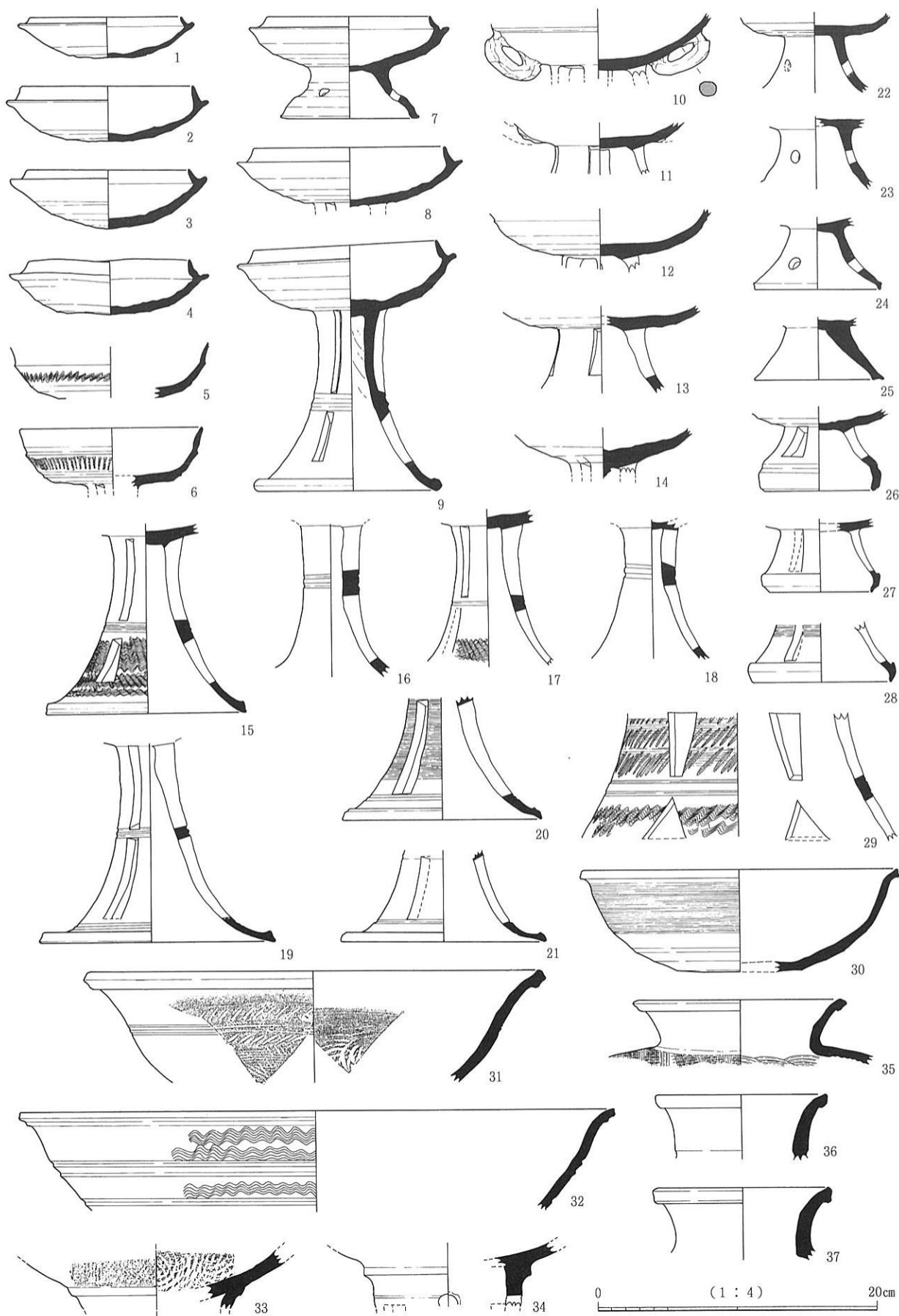
第90図 3 D区炭集中部出土遺物



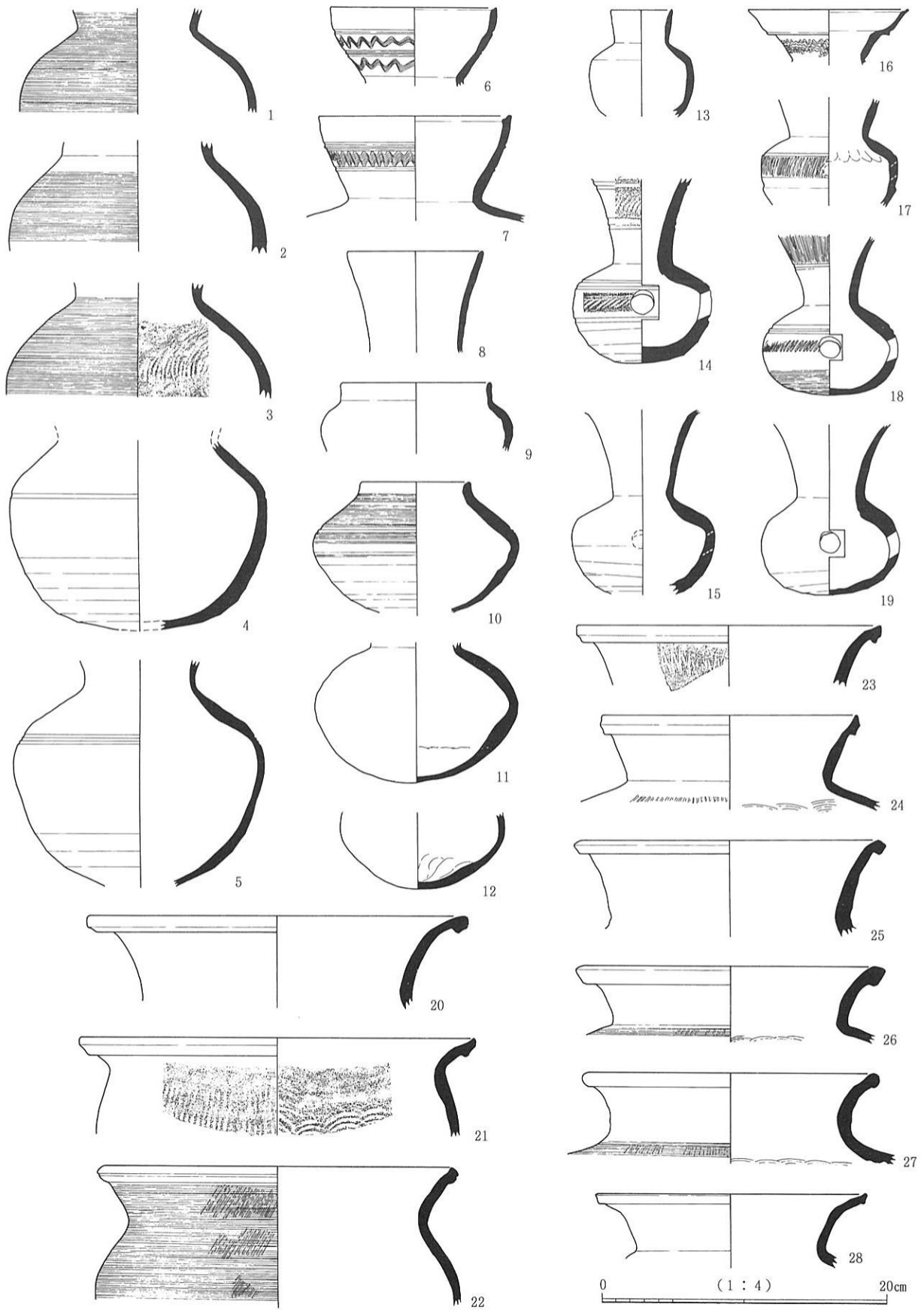
第91图 3 D区河川2上層出土土器



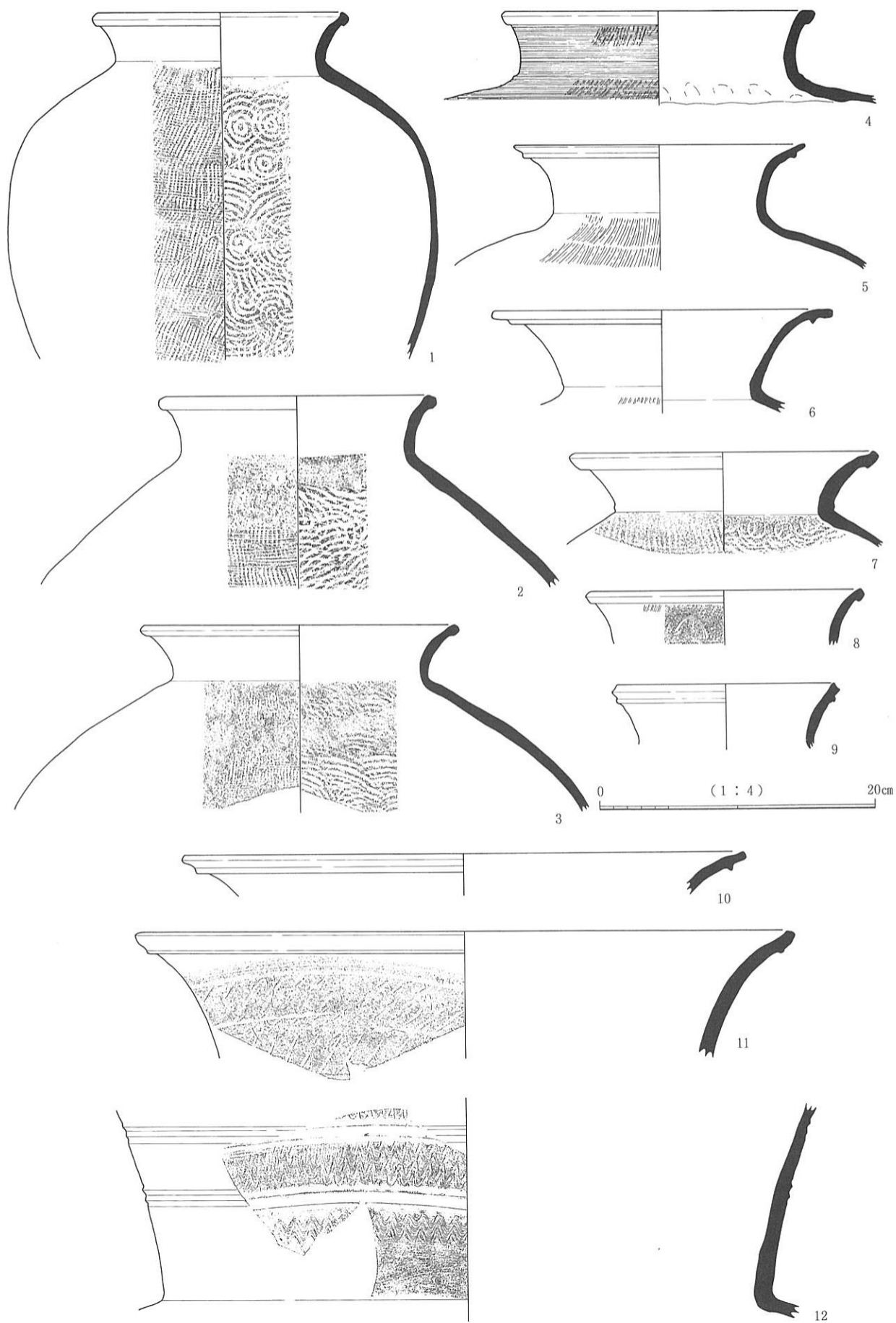
第92図 3 D区河川2上層・中層出土遺物 (1~5: 河川2上層、6~40: 河川2中層)



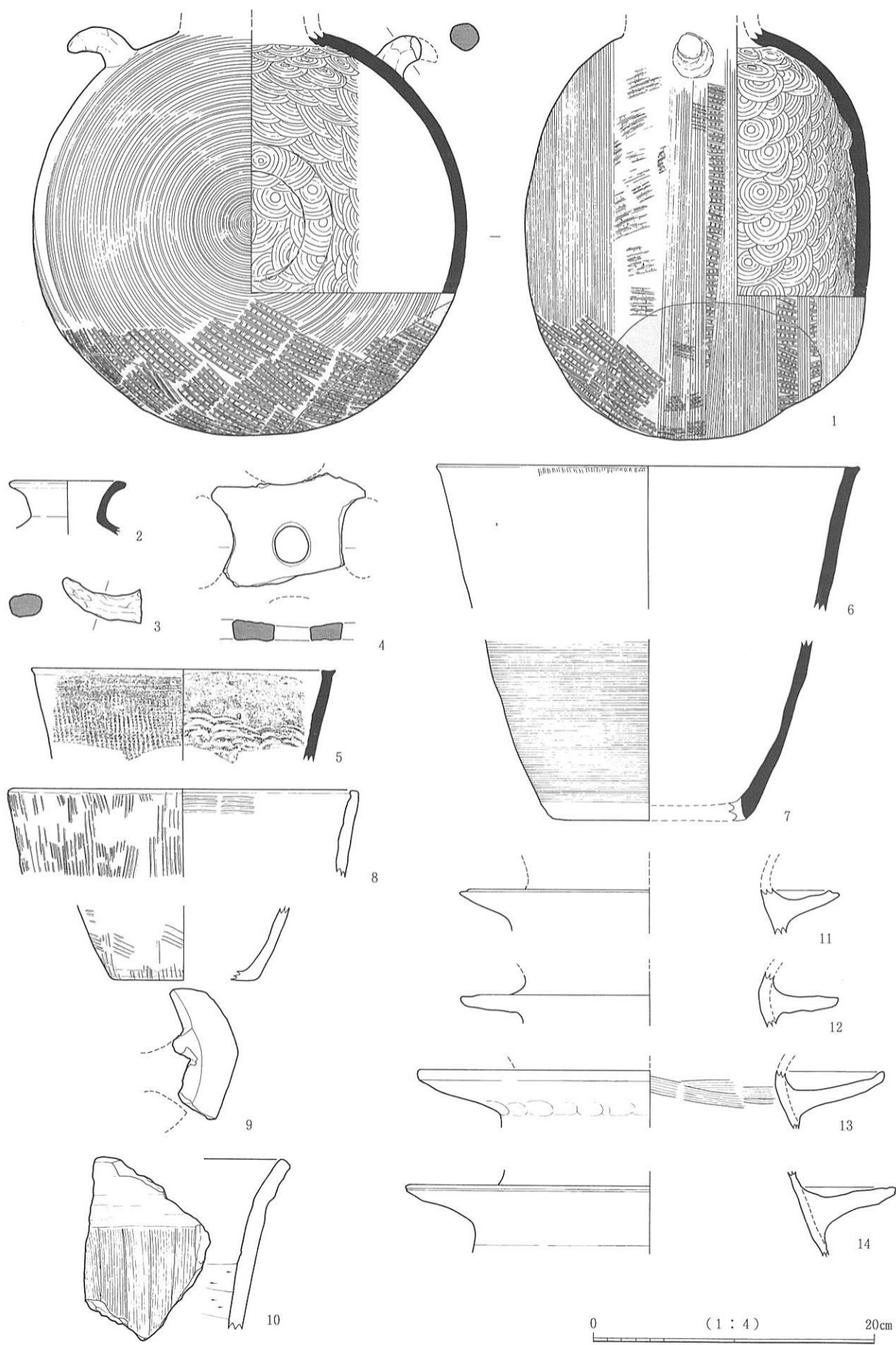
第93图 3 D区河川2中層出土土器



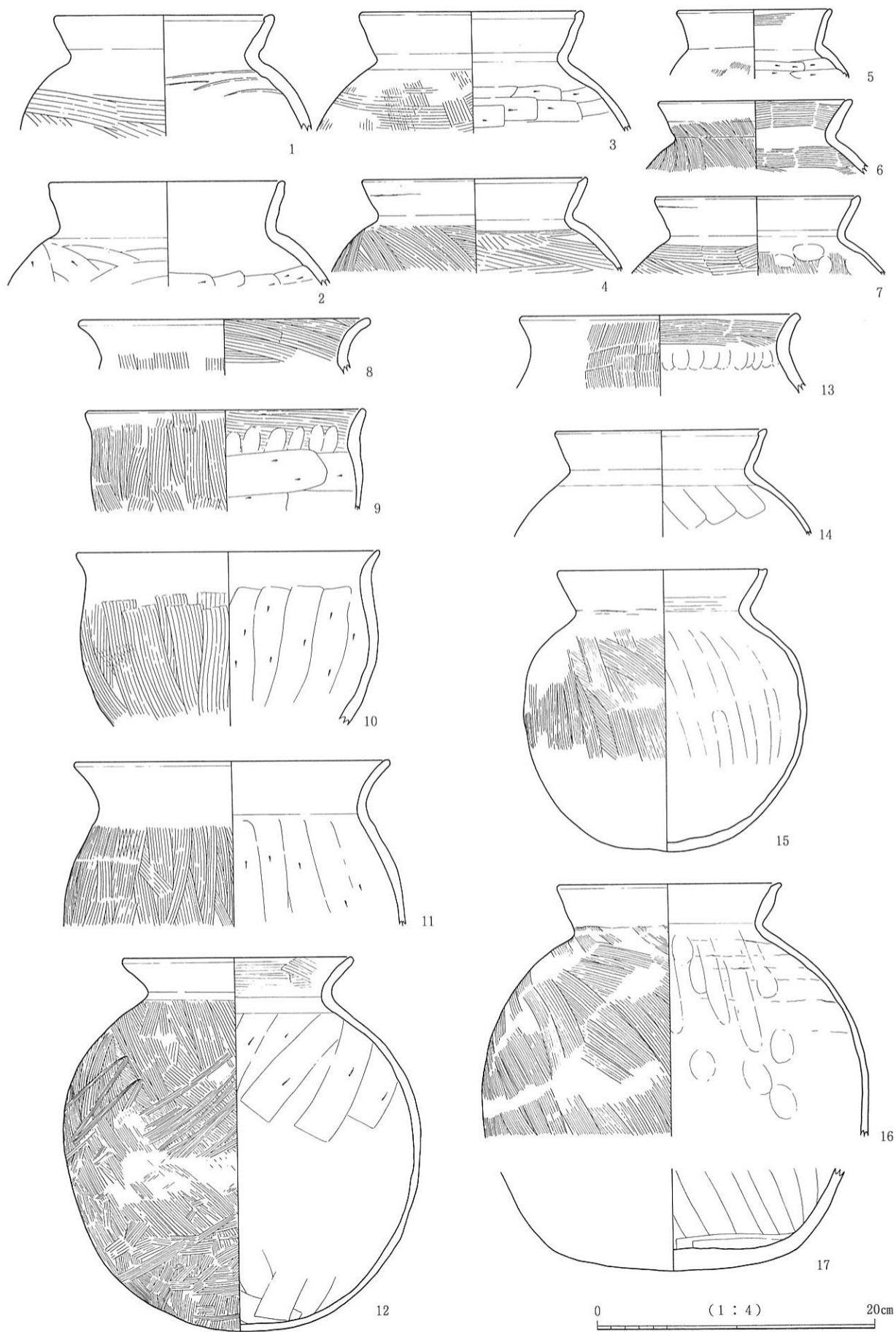
第94図 3D区河川2中層出土土器



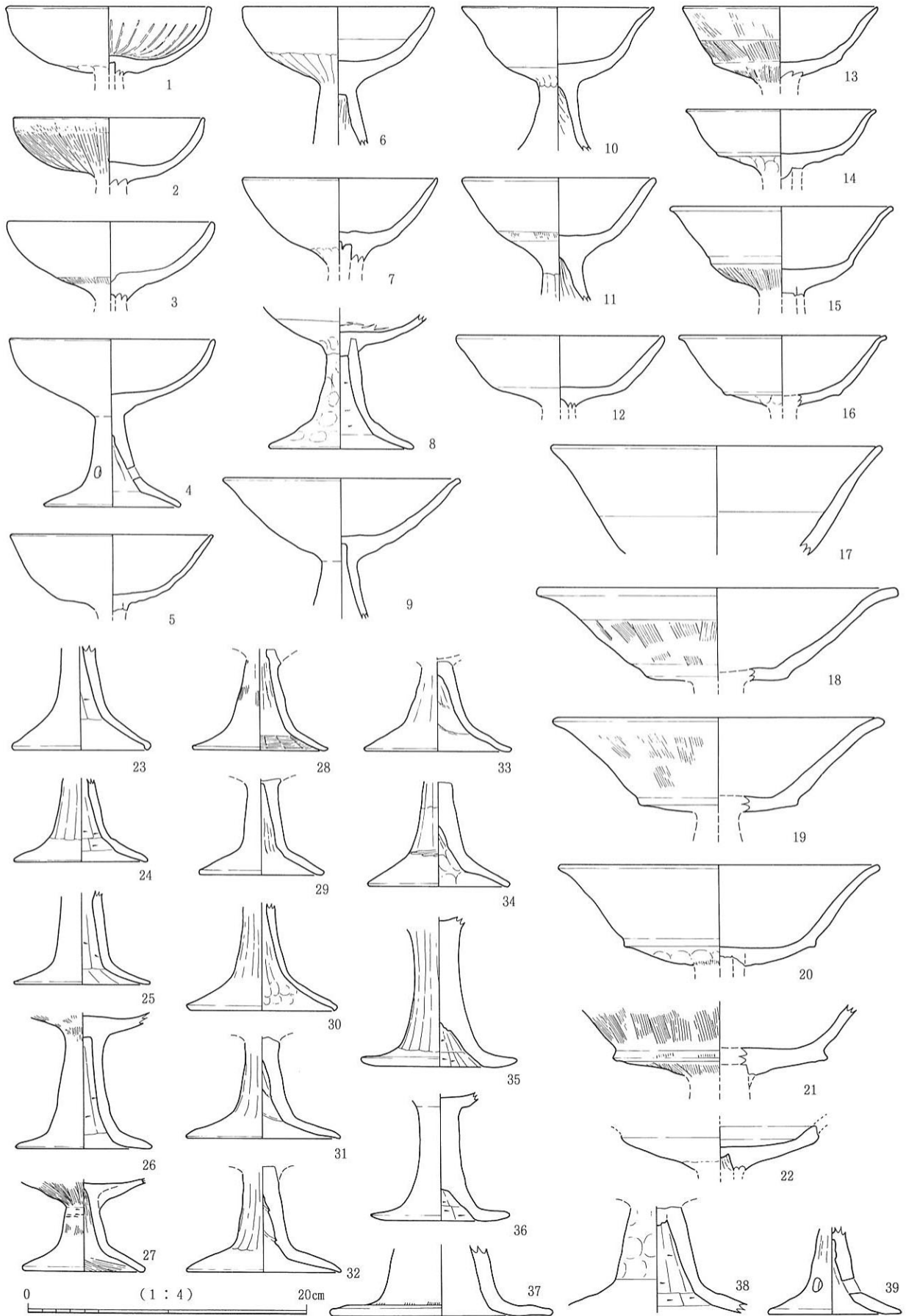
第95图 3 D区河川2中層出土土器



第96図 3 D区河川2中層出土土器



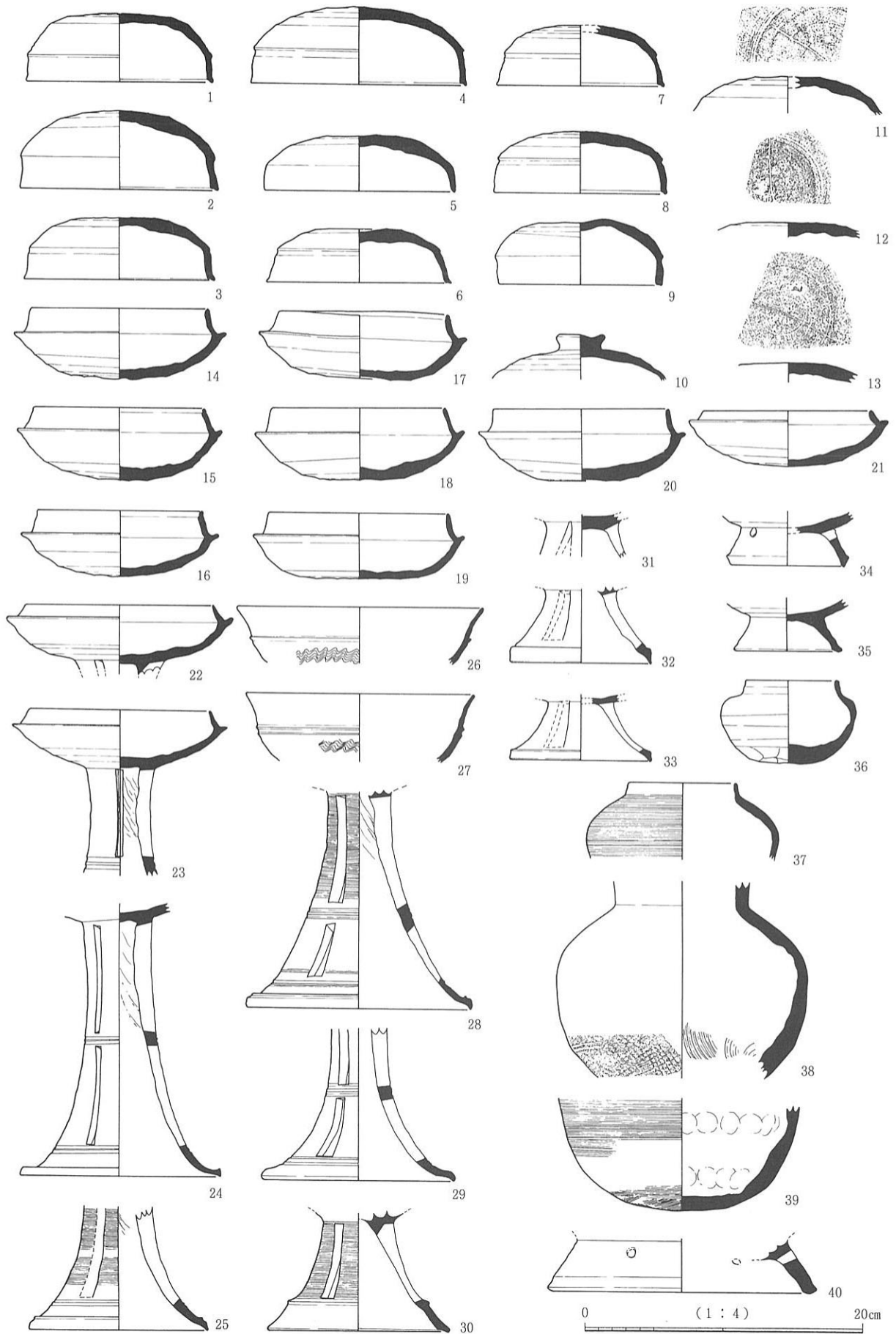
第97图 3 D区河川2 中層出土土器



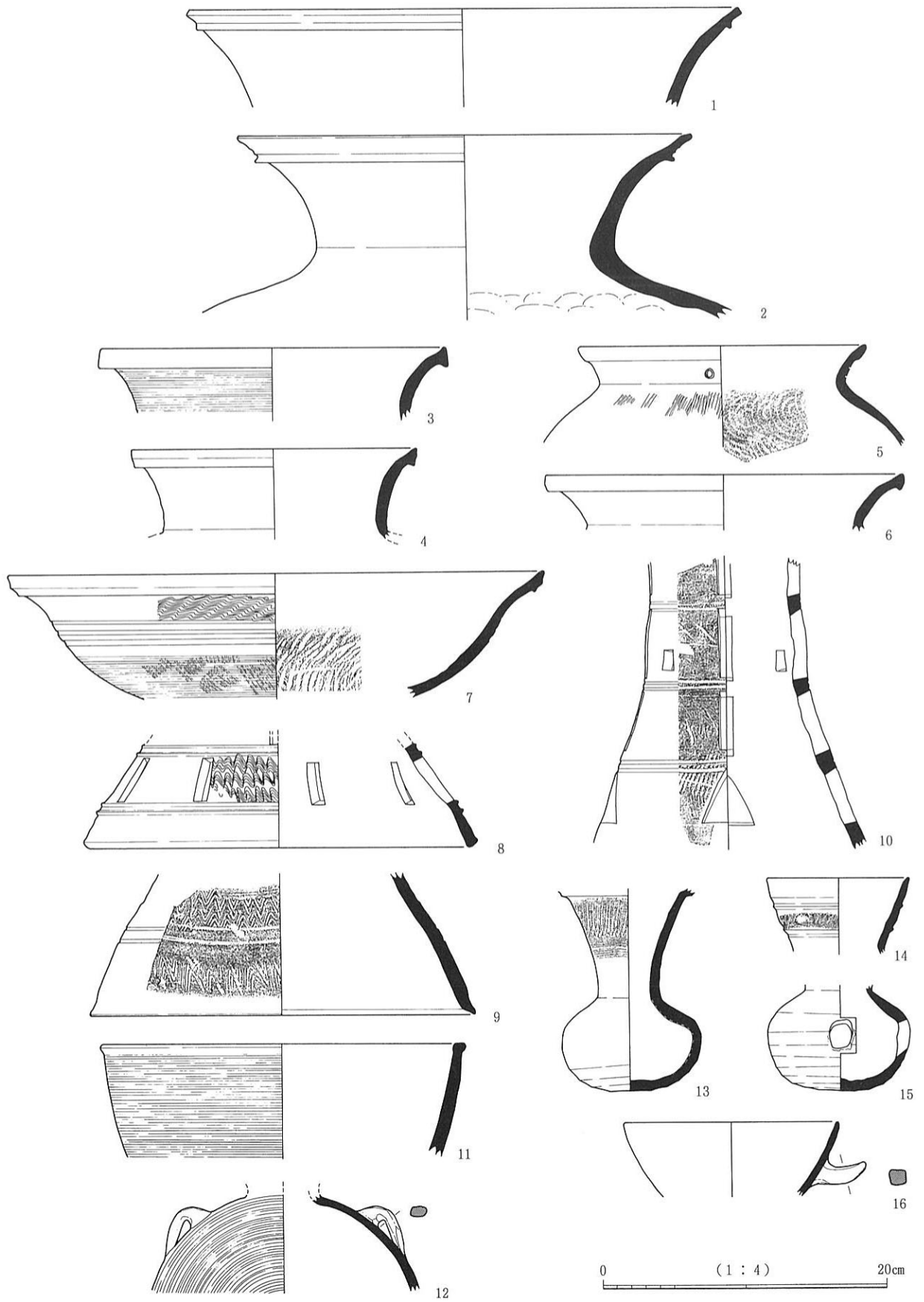
第98図 3 D区河川2中層出土土器



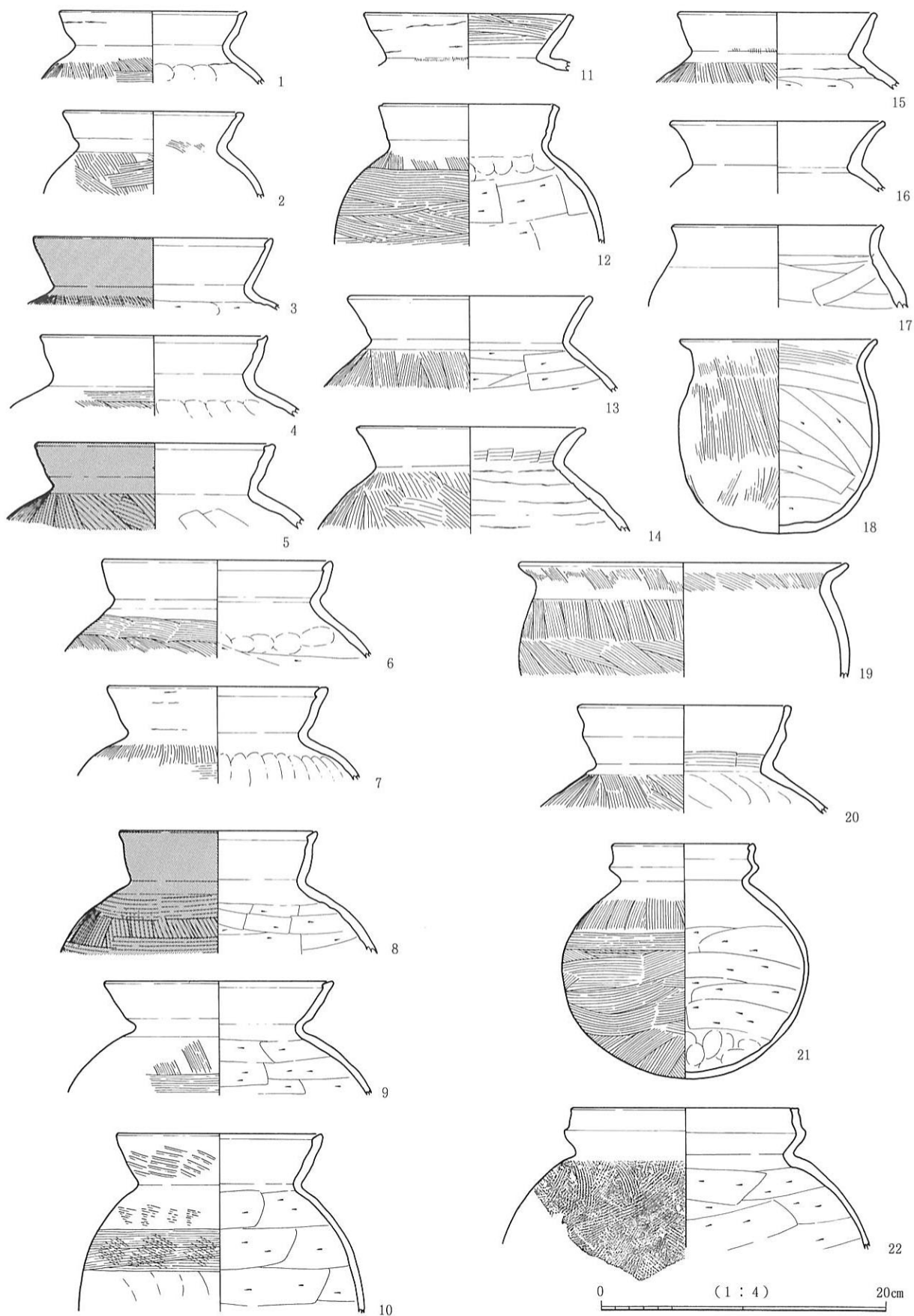
第99图 3 D区河川2中層出土遺物



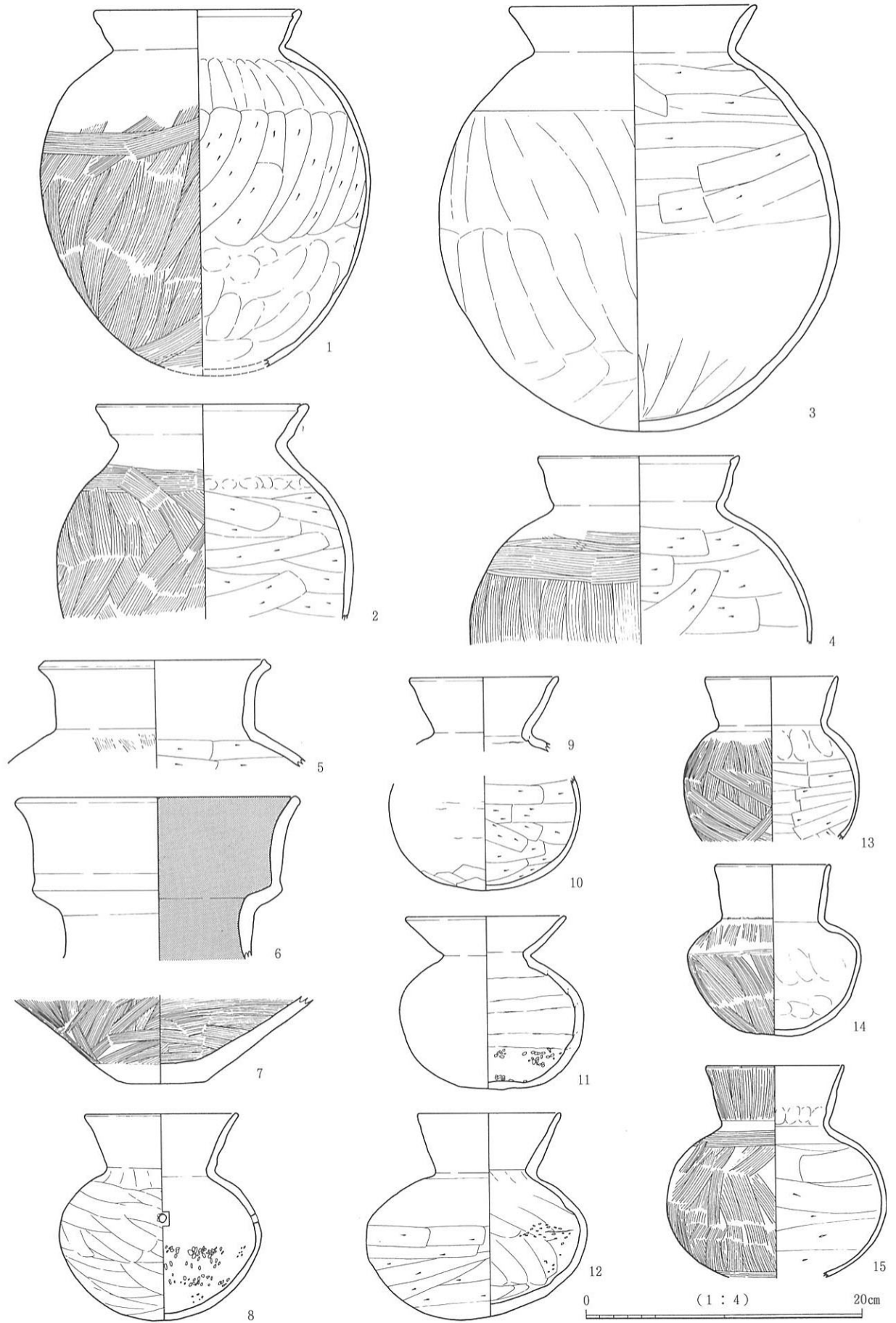
第100図 3 D区河川2下層出土土器



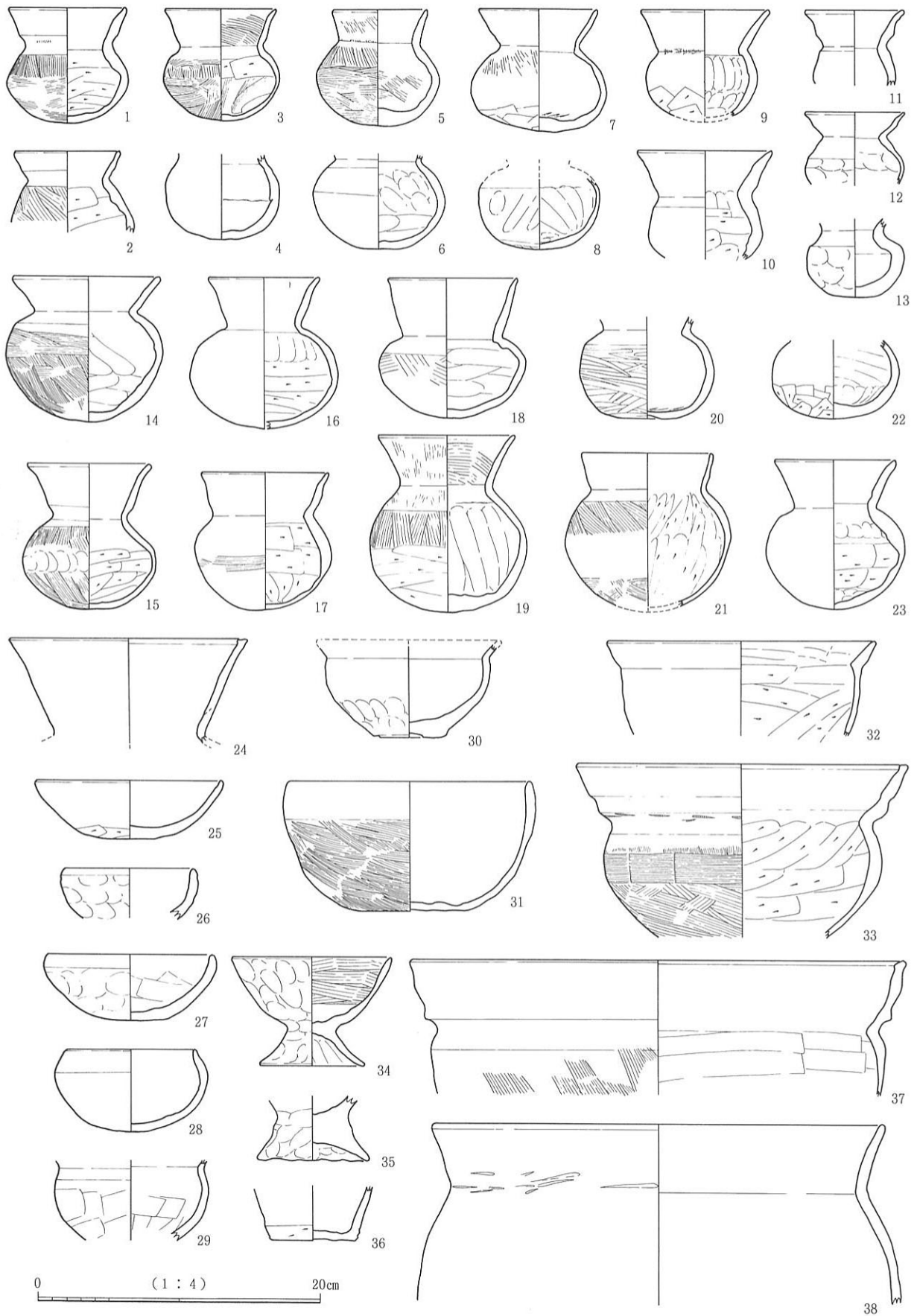
第101图 3 D区河川 2 下層出土土器



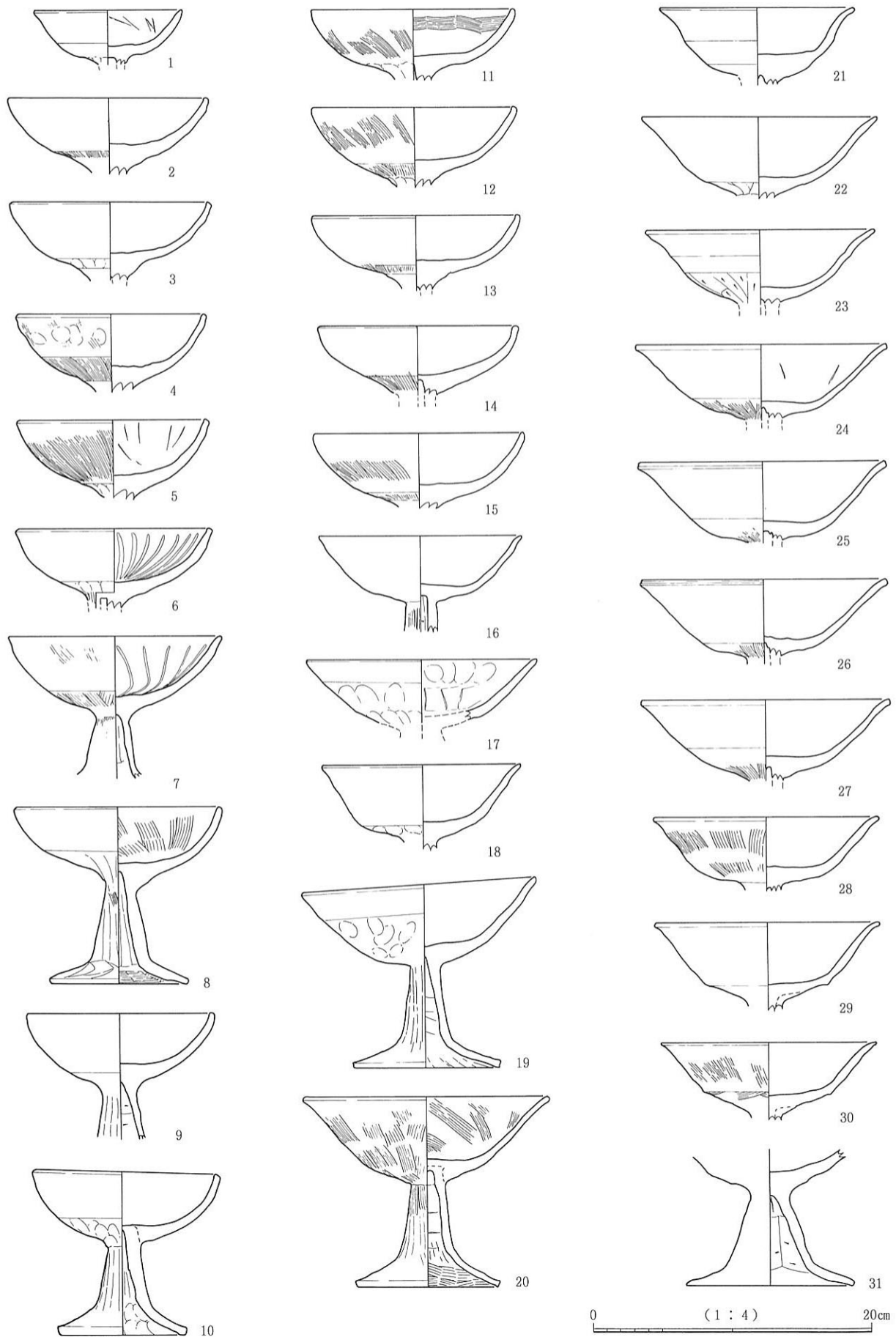
第102図 3D区河川2下層出土土器



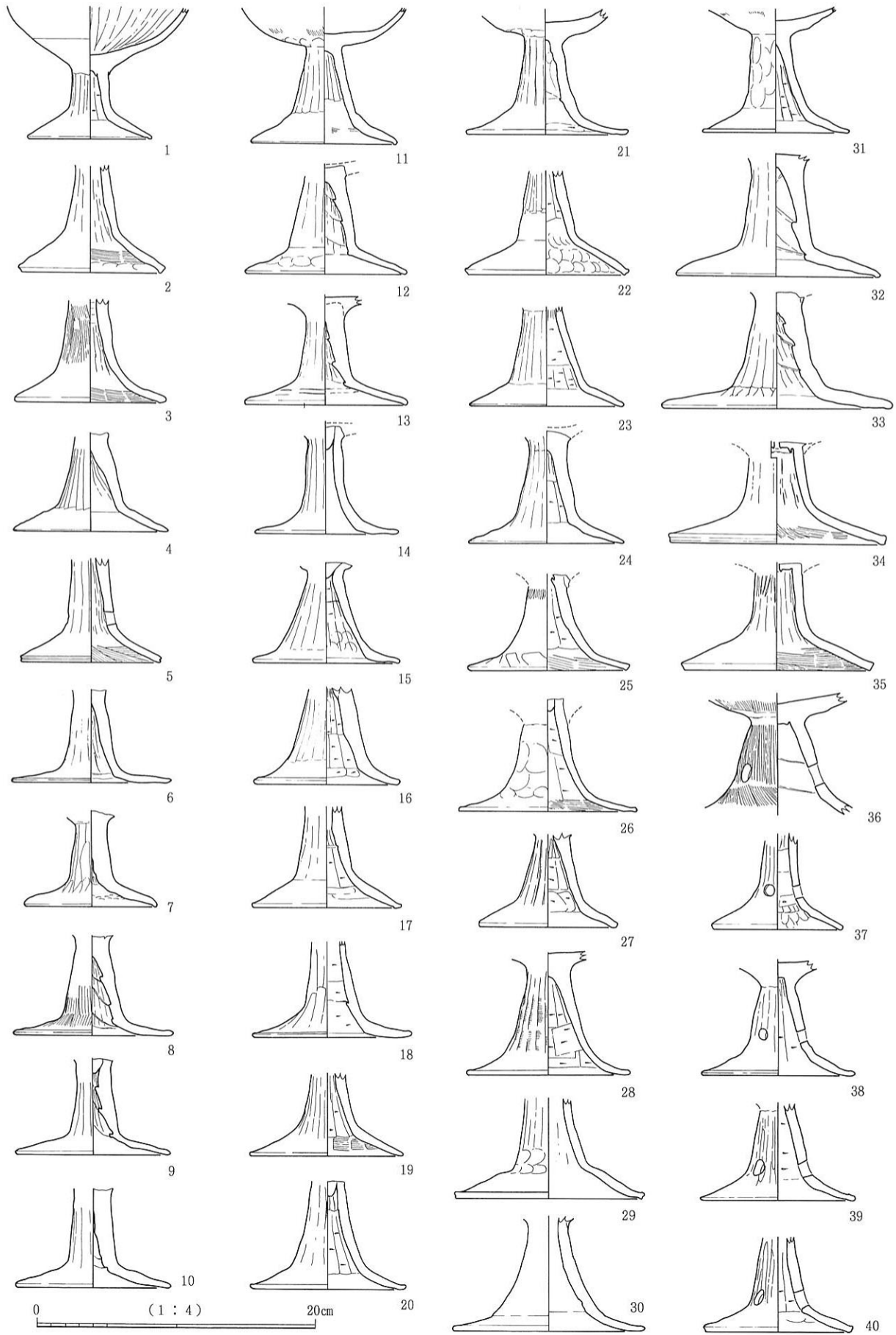
第103图 3 D区河川 2 下層出土土器



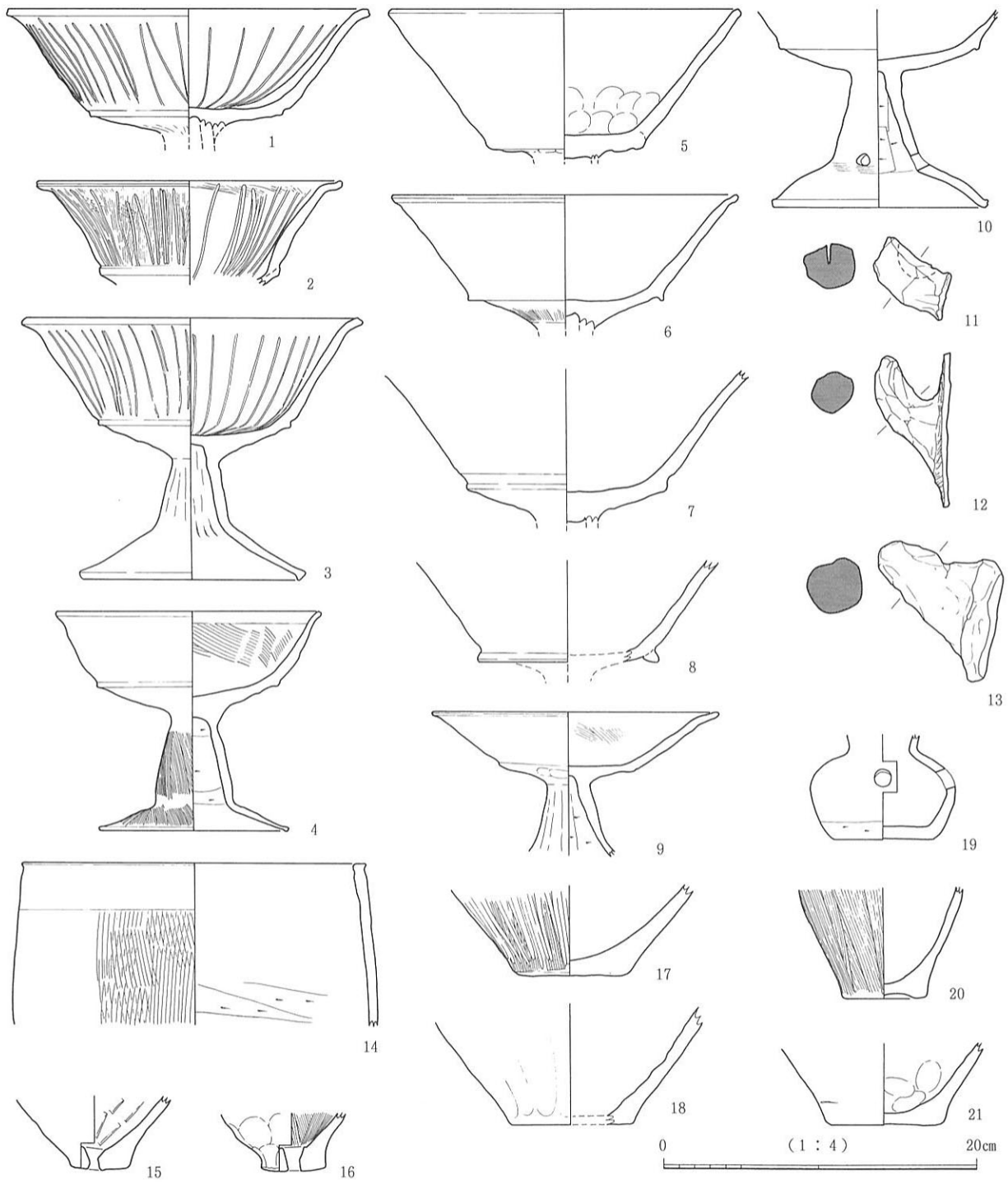
第104図 3D区河川2下層出土土器



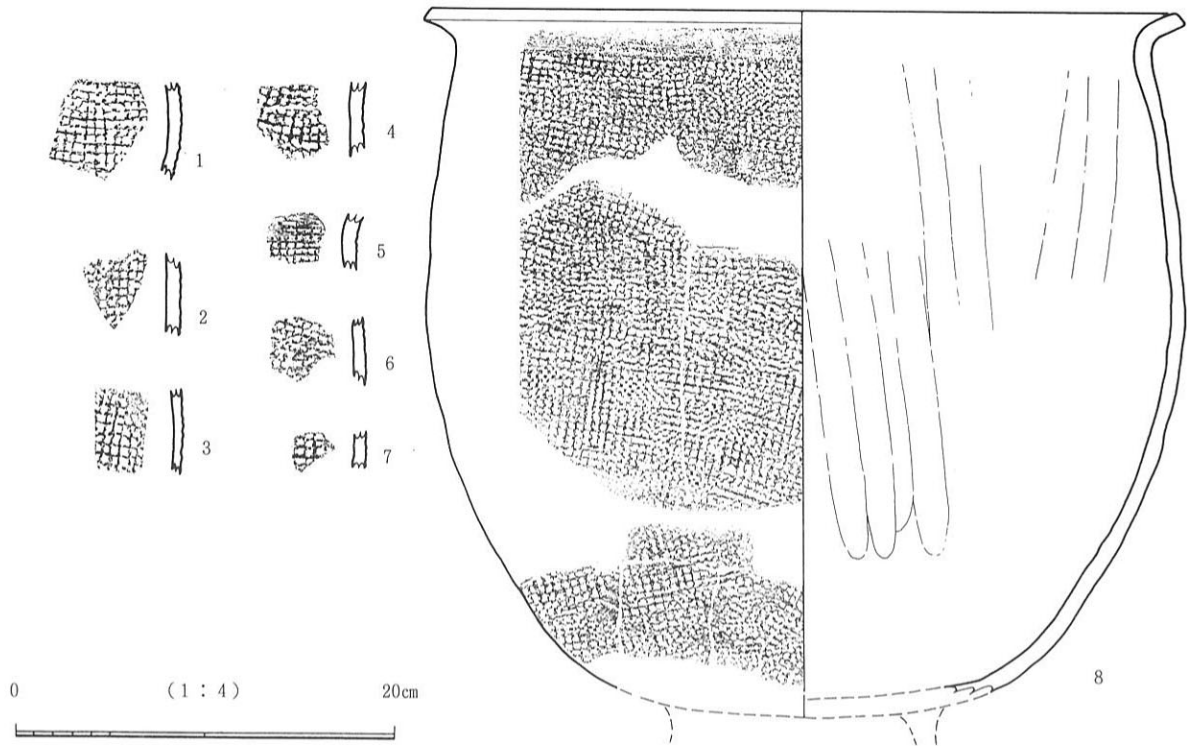
第105图 3 D区河川2下層出土土器



第106図 3 D区河川2下層出土土器

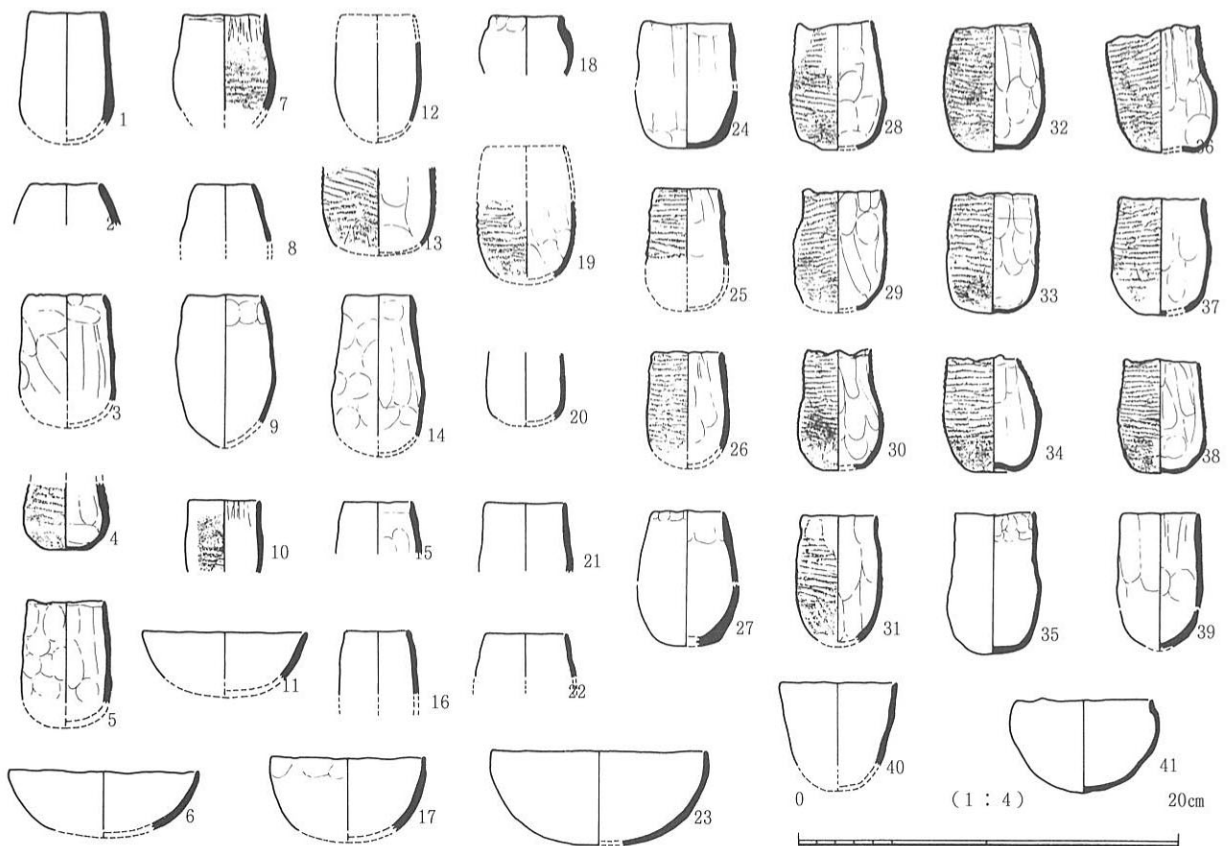


第107图 3 D区河川2下層出土土器



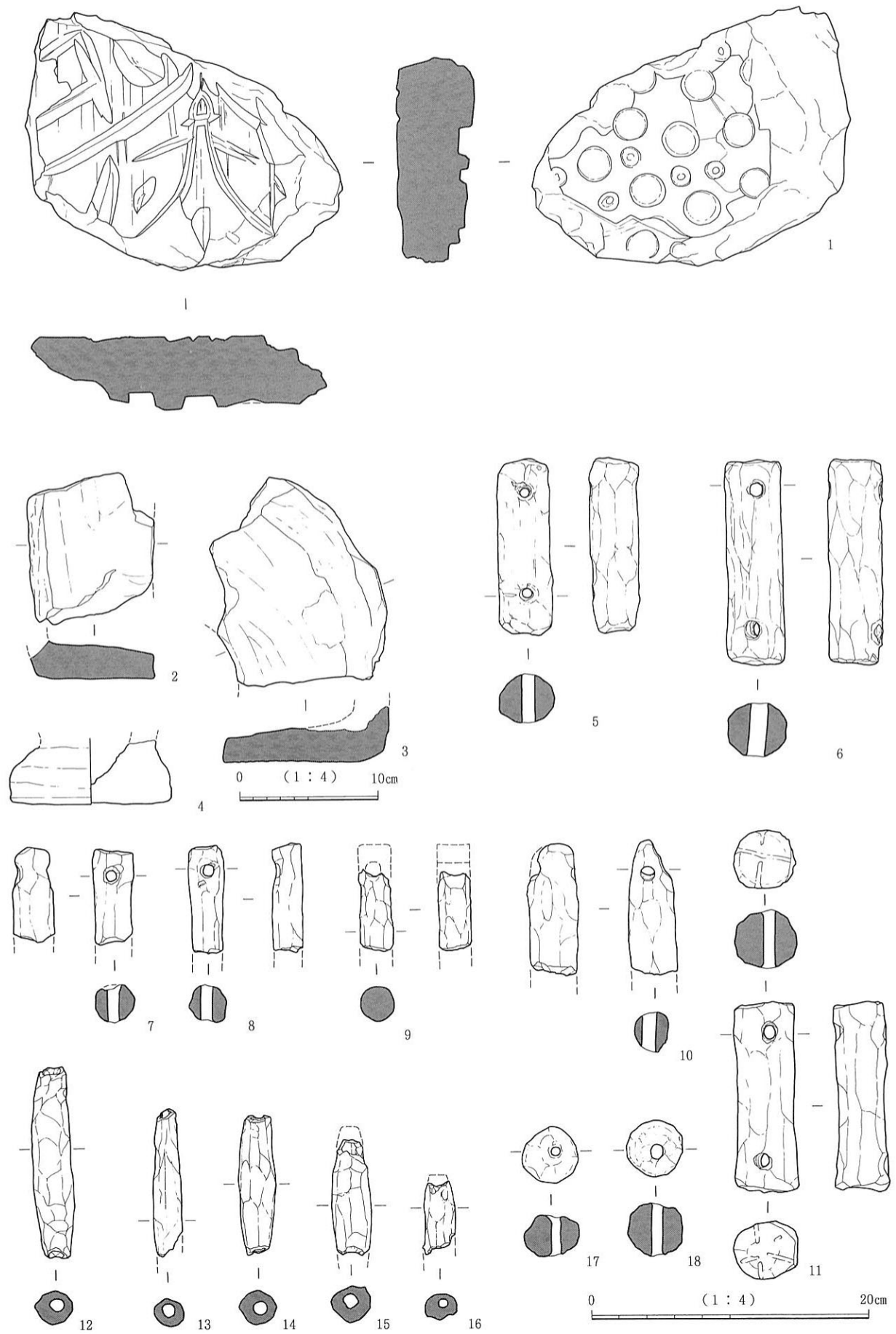
第108図 3 D区出土韓式系軟質土器

(1・2：炭集中部、3：4-1面、4・6：3層、5：穴643、7：土坑5、8：河川2下層)

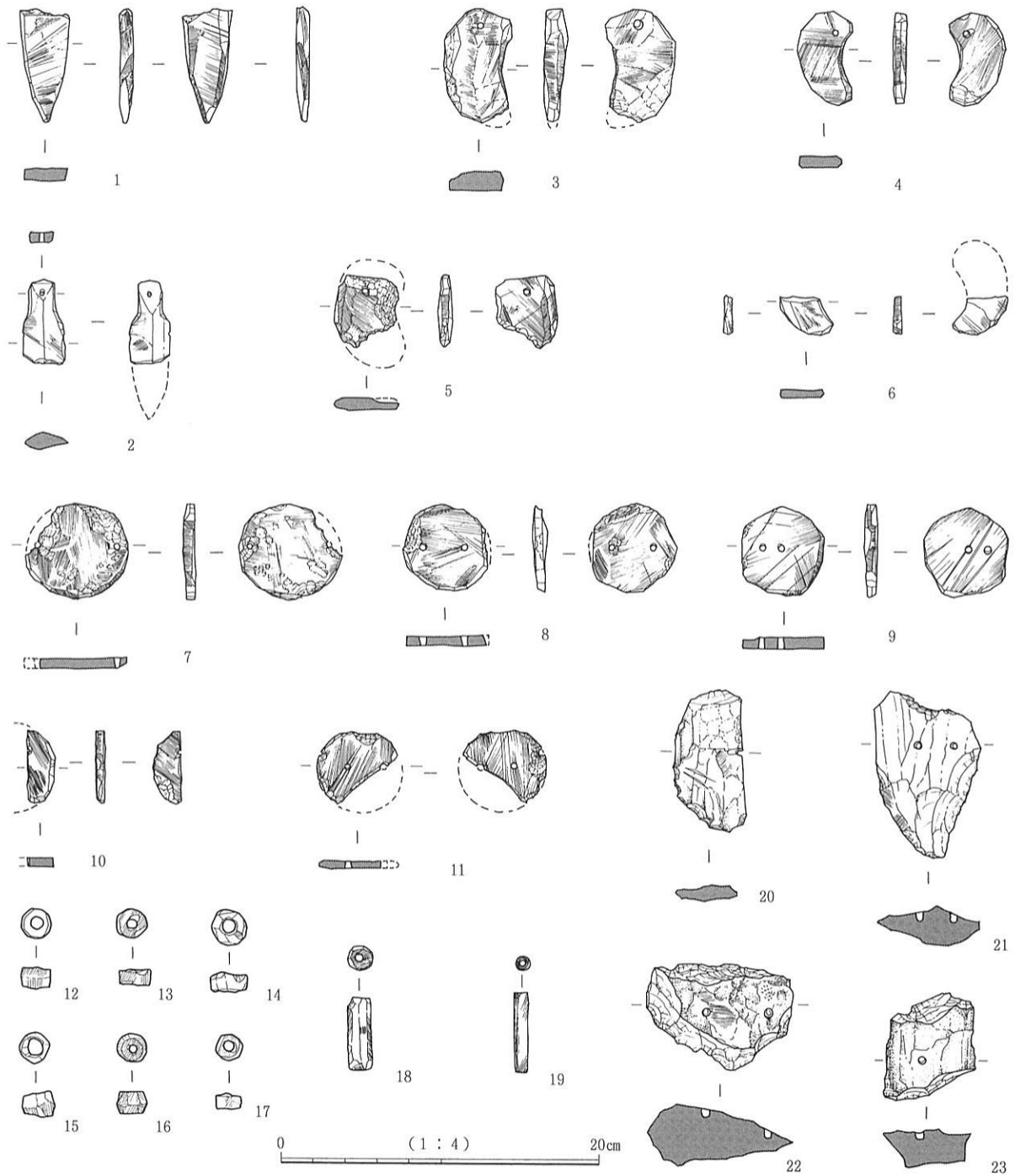


第109図 3 D区出土製塩土器

(1：3層、2・3：3-2~4-1層、4：4-1面、5~7：4-2層、8：4-2面、9：穴686(建物10)、
10：穴494(建物13)、11：穴291、12：穴963、13：穴299、14：穴897、15：穴746、16：穴784、17：穴748、18：穴625、
19：土坑51、20・21：溝30、22：河川2上層、23：河川2下層、24~41：穴362)



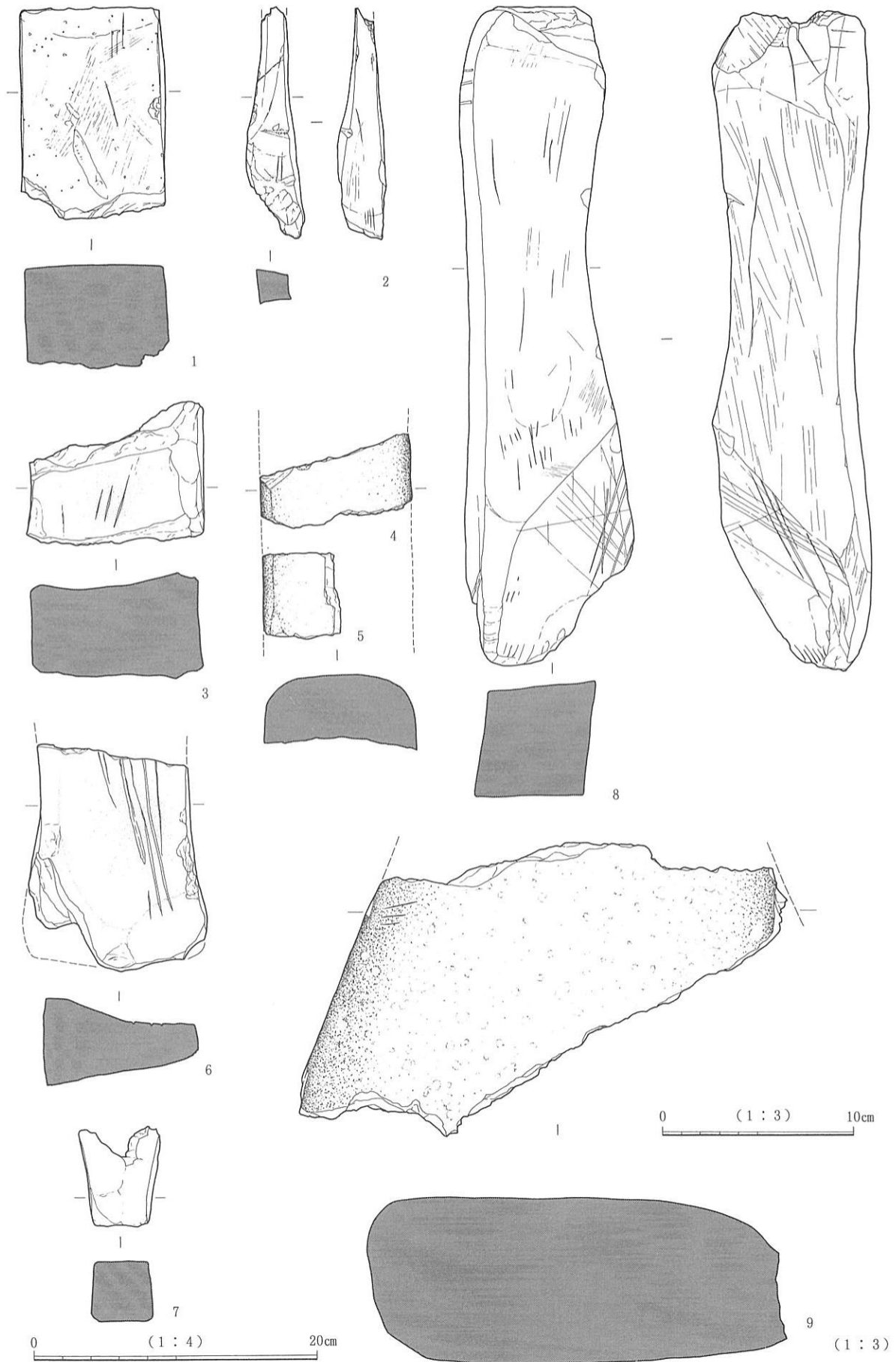
第110図 3D区出土土製品 (2・3・4のみ1:4、他1:2)



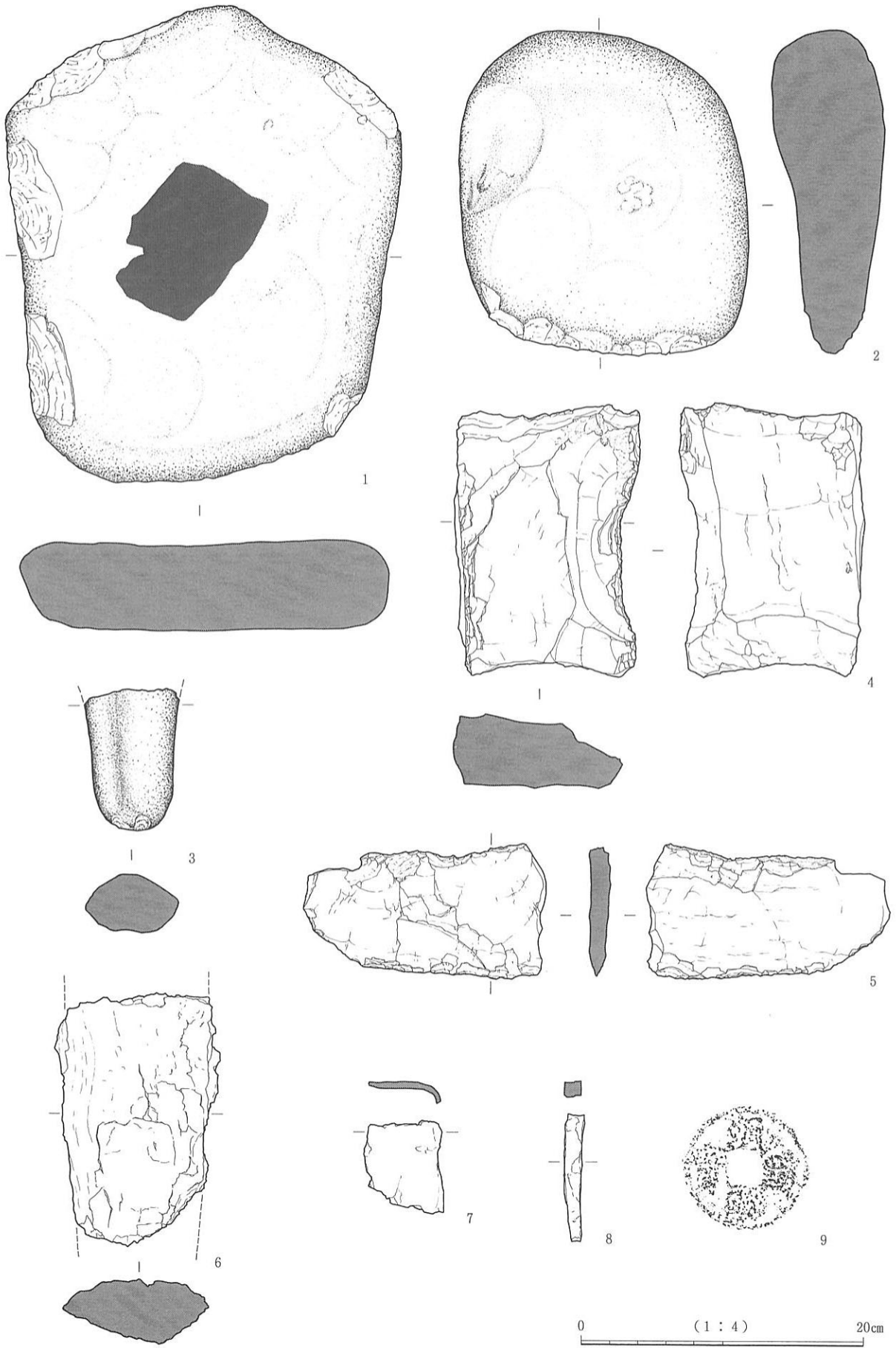
第111図 3 D区出土滑石製品及び同未製品 (12~17は 1 : 1、他 1 : 2)

(1・21・22 : 3-2層、2 : 溝48、3 : 穴320、4 : 穴167、5 : 穴680、6 : 穴215、7 : 4-1面、8・10・11・18 : 3層、9 : 土坑64、12 : 河川2下層、13・15~17・19・20 : 河川2中層、14・23 : 4-2面)

116頁 第110図 (1~3 : 河川2中層、4 : 炭集中部、5・9 : 3-2~4-1層、6 : 土坑64、7・10~12・15 : 3層、8 : 穴474、13・16 : 4-1面、14 : 3面、17 : 1面、18 : 穴49)

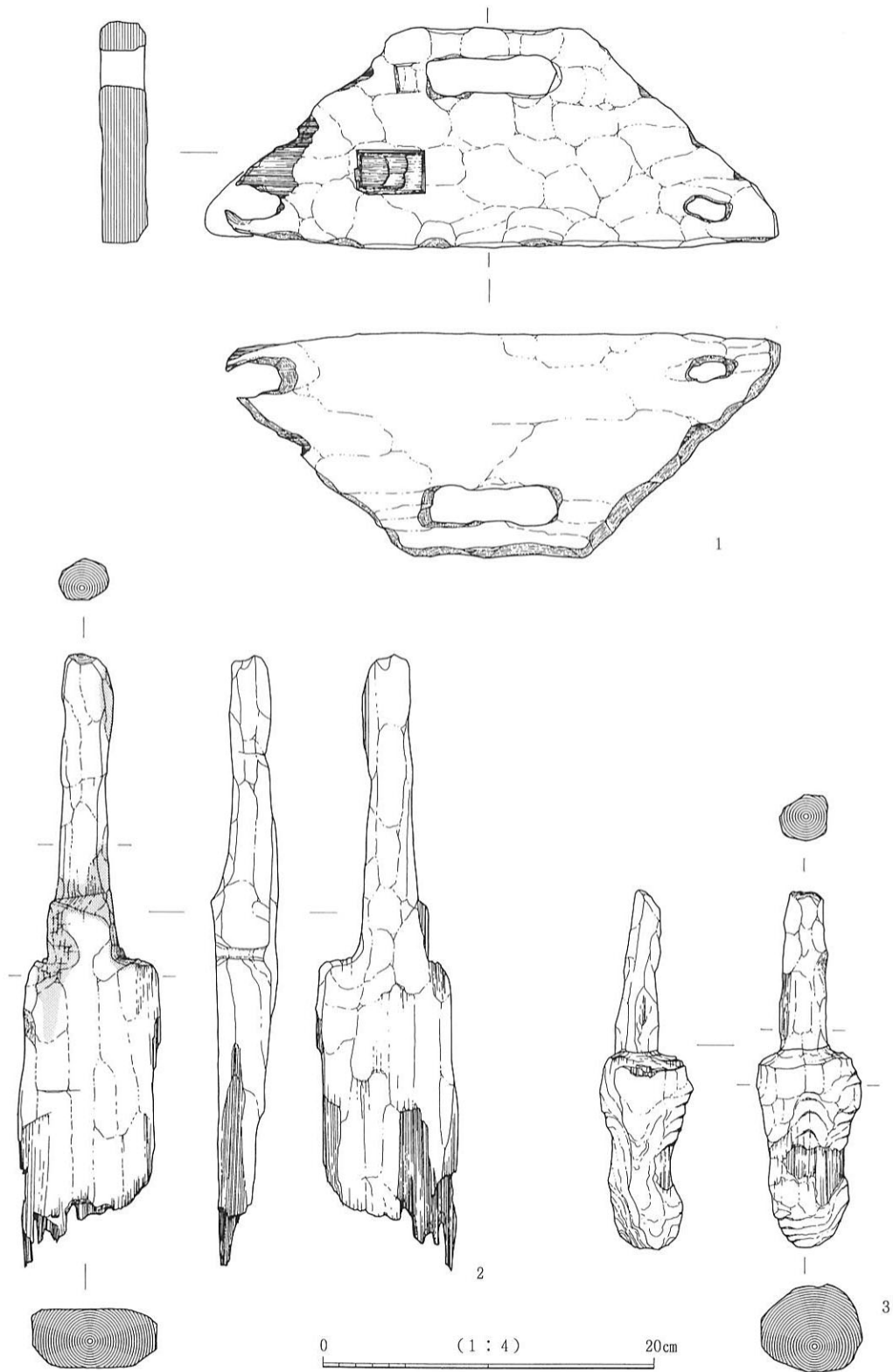


第112図 3D区出土石製品 (9のみ1:3、他1:2)
 (1・4・5・7:3層、2:穴288、3・9:河川2中層、6・8:4-2層)



第113図 3 D区出土石製品・鉄製品・銭 (石製品・鉄製品 1 : 2、銭 1 : 1)

(1 : 穴786、2・5 : 河川2下層、3・4・8 : 3層、6 : 河川2中層、7 : 4 - 1面、9 : 1面)



第114図 3D区出土木製品
 (1: 5層、2・3: 河川2下層)

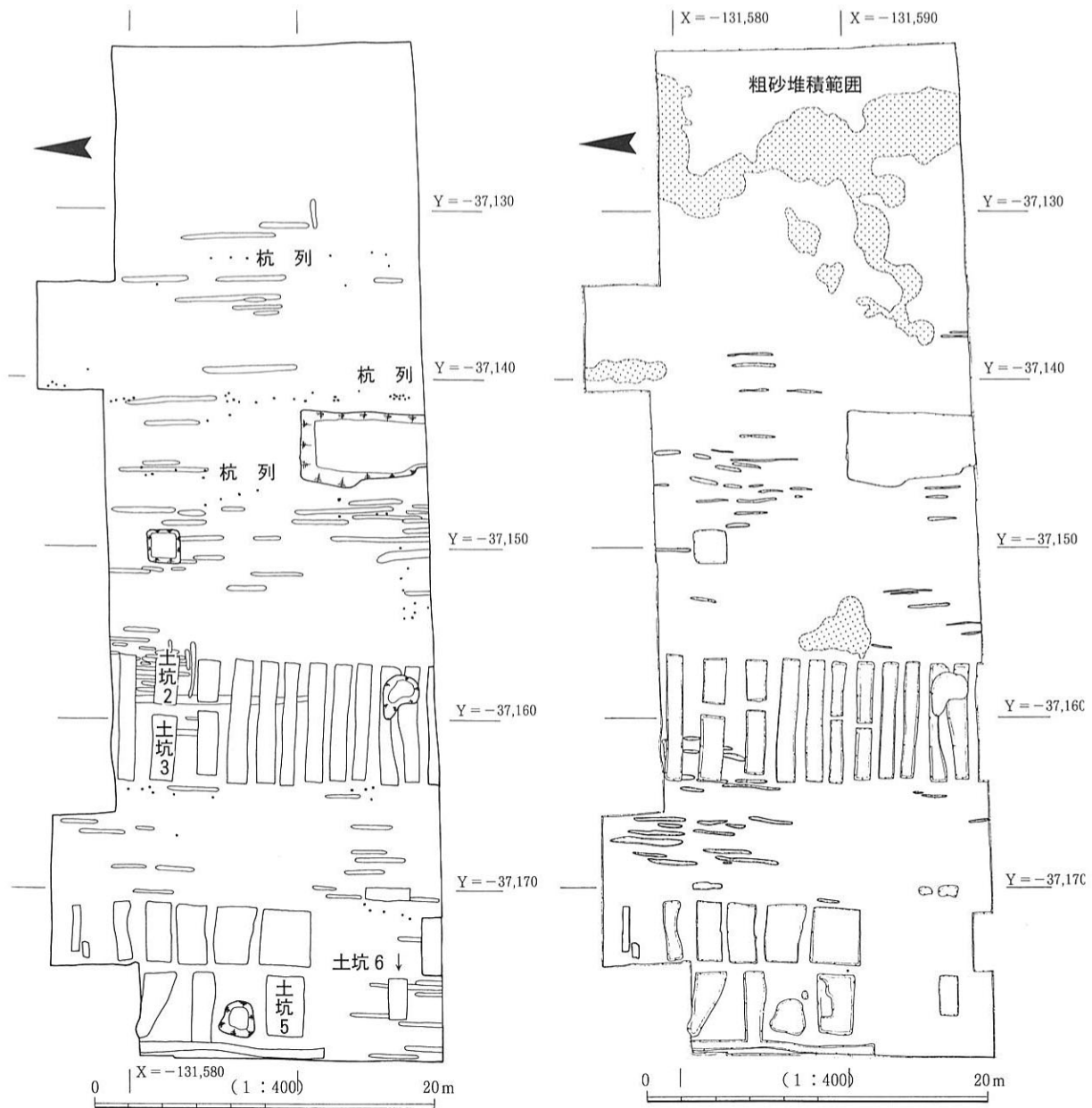
第5項 3E区

3E区は調査対象区域の南端に設置したトレンチである。前年度に検出した隣接トレンチの調査状況から水田跡が全域に広がると予測されていた。断面観察では7層の遺物包含層を確認したため、人力掘削は東端から相当回に分けて行ったが、明確な遺構を検出できたのは、第1・2・6面のみである。

【1面】近世～近代の水田跡である(第115図・図版20-1・2)。他トレンチと同様、近代に掘り込まれた土坑が並列する下面から南北方向にわたる鋤溝を検出した。

杭列 調査区東半部を南北方向に横断する三条の杭列痕を検出した。昭和初期の航空写真では同方向に坪境を示す小畦畔がはしっており、これらの杭列も同質のものと思われる。

長方形土坑も坪区画ごとに掘削されたためか、明瞭に有無の差が生じている。長1m×幅0.5m×深0.2mの小形のものから長6m×幅1m×深1.2mの縦長のものまで面積・深さは多様であるが、杭列と



第115図 1面検出遺構

第116図 2面検出遺構

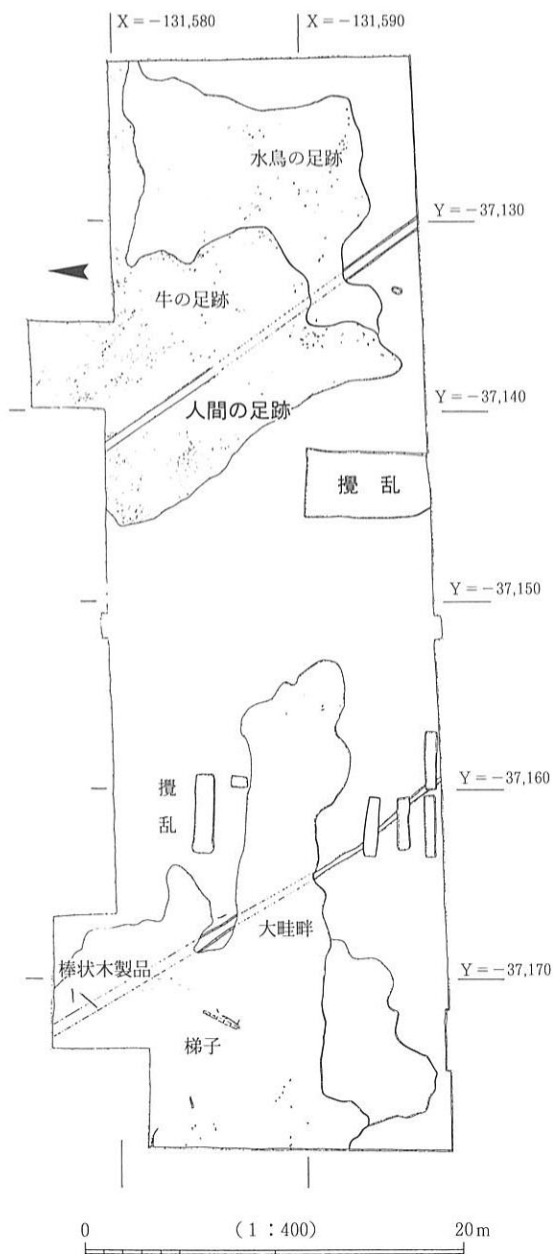
同様に坪境を意識して、南北方向に整列して設けられている。

〈遺物〉土師器・瓦器・磁器が出土した（第118図1・2・4）。みな小片のみの発見で、摩滅が著しい。

【2面】中世～近世の水田跡である（第116図・図版20-3・4）

2層を除去すると第1面同様に南北方向を主軸とする鋤溝があらわれたが、上面に比べてその北頭端はやや西に振っている。東半から中央部にかけて粗砂の広がりがあり、大規模な洪水の形跡をとどめている。各所に獣骨とその脂肪分の浸出による土壌の変質が認められたが、西端部に歯部分が残存する馬の下顎骨が出土した（図版20-5）。

〈遺物〉11～16Cの土師器・瓦器・陶器・磁器が出土した（第118図-3・5～25）。瓦器は椀形が多く、口縁内部に沈線をめぐらせた12～14Cの楠葉型が主流を占める（118-5～7・9～12）。地理的關係上、楠葉型瓦器椀の流入は容易であったと思われるが、口縁を大きく開く13Cの和泉型の瓦器椀も1点出土した（118-3・8）。



第117図 6面検出水田跡

土師器は皿形が多く（118-14～17）、器壁が段状を呈する山城産のものもある（118-15）。陶器・磁器も小片ではあるが出土し（118-18～25）、丁寧に作られた12C頃の青磁の皿もみられる（118-23）。また、丹波産の厚手の陶器すり鉢も出土した。

【3層】1・2層に比べてしまりのよいシルト質堆積層で安定した耕作土壌であったと思われるが、この層を除去した段階では明確な遺構は確認できなかった。

〈遺物〉土器の混入は多く、その下限は13Cに求められる。土師器・黒色土器・瓦器・白磁が出土した（第118図-26～50）。個体数では土師器皿が遺物の半数を占める。（118-42）は口縁部に煤の付着あり、灯明皿として利用されたものとみられる。（118-46・47）の2点は黒色土器で、ともに内黒タイプである。

【4層】青灰色の還元土壌でシルトと粘土の混合層である。シルトの含有がより多い上位層を4-1層、粘土質の下位層を4-2層とした。耕作土であったと思われるが、除去面から明確な遺構の検出はなかった。

〈遺物〉古墳時代後期～12Cの須恵器・土師器・黒色土器・瓦器が出土した（第118図53～67）。

（118-53）の須恵器杯は厚手で回転ロクロの指ナデ痕が強く残り安定感がない。全体的に粗製なイメージである。底面外部に焼成以前に施された一文字の線刻がある。瓦器椀はやはり楠葉型のものが多く、内外面ともにミガキが細かく、丁寧に為されている

(118-54~59)。土師器は皿と坏があるが(118-61~67)、(118-64)は特殊な形状で10C前期のものとみられる。

【5層】洪水砂層直上の粘質土層で、上位の褐色粘土部分を5-1層とし、下位の粗砂混入粘土層を5-2層とした。上面同様、明確な遺構の検出はみられなかった。

〈遺物〉4層に比べて個体数は微量である(第118図-51・52)。5-2層除去面(6層洪水砂との間)では土器片が比較的まとまって出土し、5-2層内に浮入するものもあったが、他調査区との相対的な検討から大半を6層包含遺物として類別した。

(118-51)は須恵器の坏蓋、(118-52)は土師器の坏身である。前者は6C末期の所産とみられる。

【6面】古墳時代後期の水田跡である(第117図・図版21-1)。

厚く堆積した6層(洪水砂)を除去すると、北西から南東に走る大畦畔と無数の足跡が出土した。足跡は人間のもの(図版21-2)のほかに偶蹄類(牛?)と水鳥(鴨類?図版21-3)のものが確認できる。

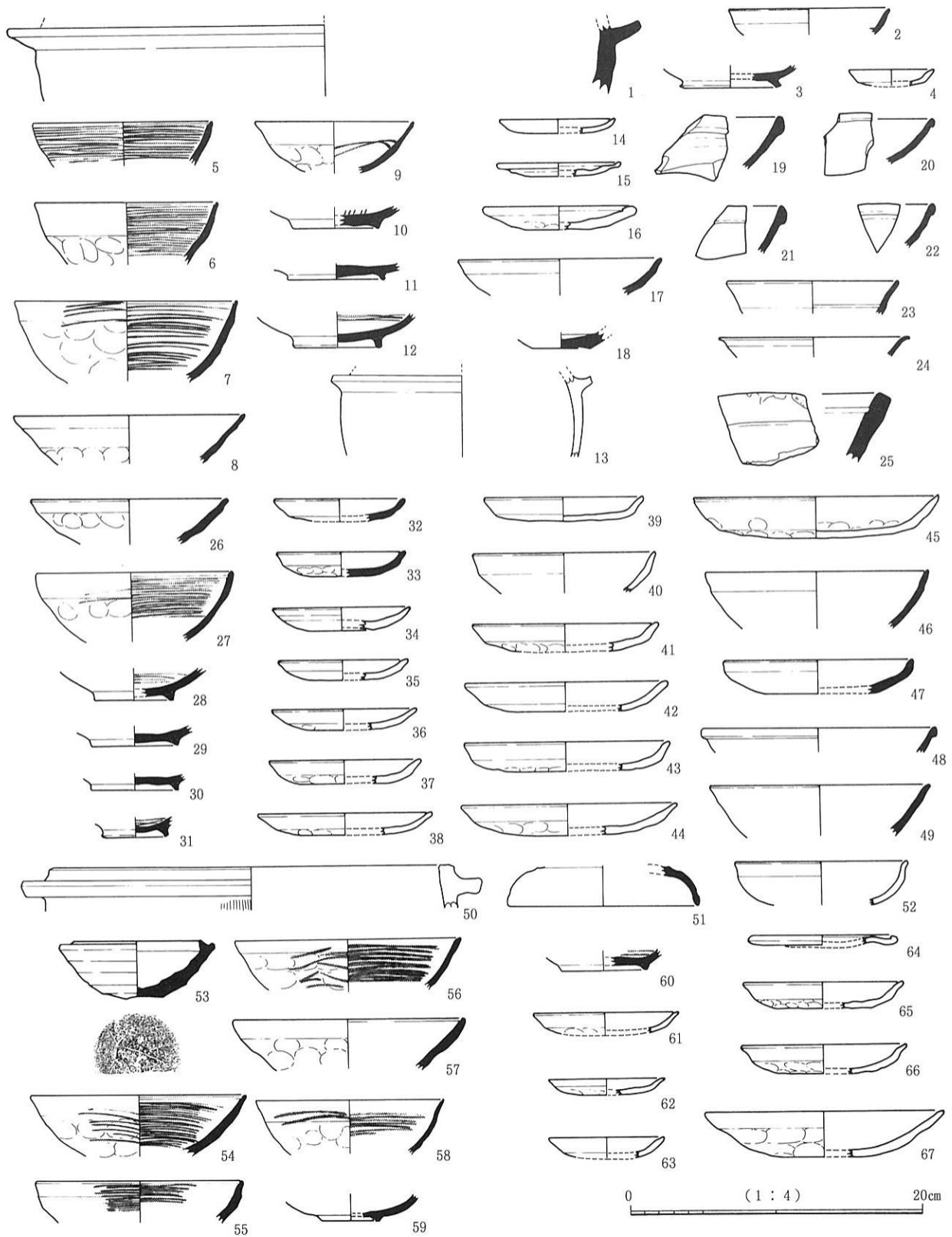
人間の足跡は数種が密集して重なっており、農作業が煩忙の極みにあったことを想像させる。また、稲株等の痕跡はみられなかった。

〈遺物〉古墳時代前期~後期の土器と木製品が出土した(第119図・第120図・第121図)。

遺物の残存状態は良好である。土器の器種は、須恵器坏蓋・坏身・土師器高坏・壺・甕等に及ぶが、布留I~III期の小型丸底壺の点数がもっとも多い(119-5~9)。外面全体を縦方向のハケで整えた後に斜め方向に再びハケをはしらせたものが多く、丁寧に指ナデが加えられている。(119-11)の土師器甕は胎土中に径2mm未満の灰白色粒砂を混和剤として使用している。(119-1・2)の須恵器はともに胎土密、焼成良好で6C前半期の所産とみられる。(119-2)の底部には一部自然釉が付着している。

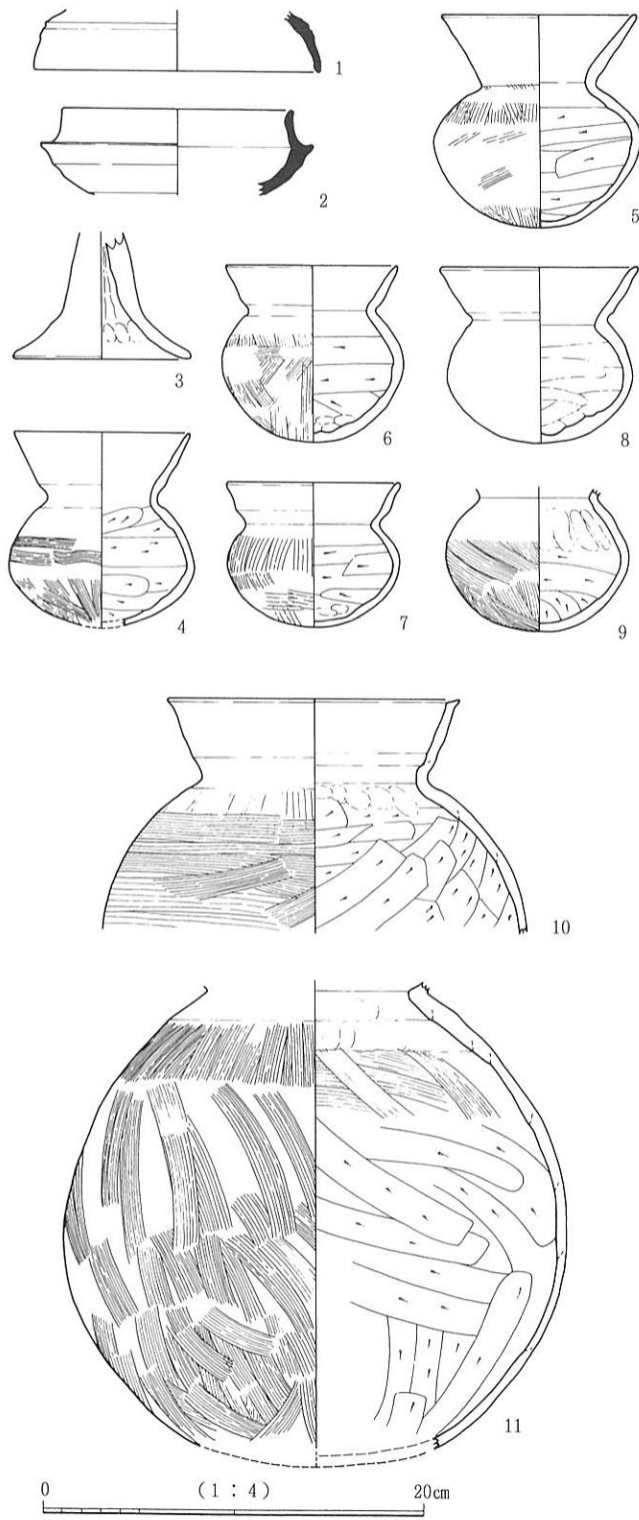
また、水田検出面直上から、数点の木製品が出土した。(120図-1・2・第121図-1~6)。

(120-2)は高床倉庫に立てかける彫り込み形の「梯子」である。(120-1)は建物の屋上に設置する「棟当」と呼ばれる建築材であろうと推測している。一面は平坦で横方向に切り込みがあり、ほぞ孔が確認できる。反対面は屋根の椼にあたる棟木を差し込んで固定できるように凹凸が設けられている。このことから棟木は断面四角形に製材されていたことがわかる。凹み箇所が左右で違っているのは、実測図左辺に差し込む棟木の方が太い材であったためであろうか。棟当自体の出土が稀であるため、完全復元は難しい。類例の出土報告を待ちたい。(121-2)は小型のナスビ形木製品と目されるが、やや幅狭である。(121-3)は組み合わせ式の田下駄の歯で、本来台形板状の部材である。上辺に等間隔で縦孔を持つが、これは木釘を打ち込んで上接の足板を固定させるためのものである。(121-5)は従来アカカキの一部とされているものである。底面には擦れた痕跡があり、水汲具としての用途は否定はできないが、必ずしも船舶内において使用されたものとも断言できない。穀種を掬うために利用した農耕具の可能性もある。(121-1・4・6)は用途不明品である。(121-1)は薄い板状で二点の孔を持つ。片孔には金具状の圧痕が残る。(121-4)は断面長方形の角棒状製品で、最大長は93cmを測ったが、図化はできなかった。先端はやや湾曲して丸みを帯びる。(121-6)は薄い板状で残存状態がきわめて悪く、2点二対計4点の孔を確認したが、本来は2点四対計8点が穿たれていたものと思われる。類似品は多く、大阪府をはじめ全国でも報告されているが、用途は不明である。(黒須)

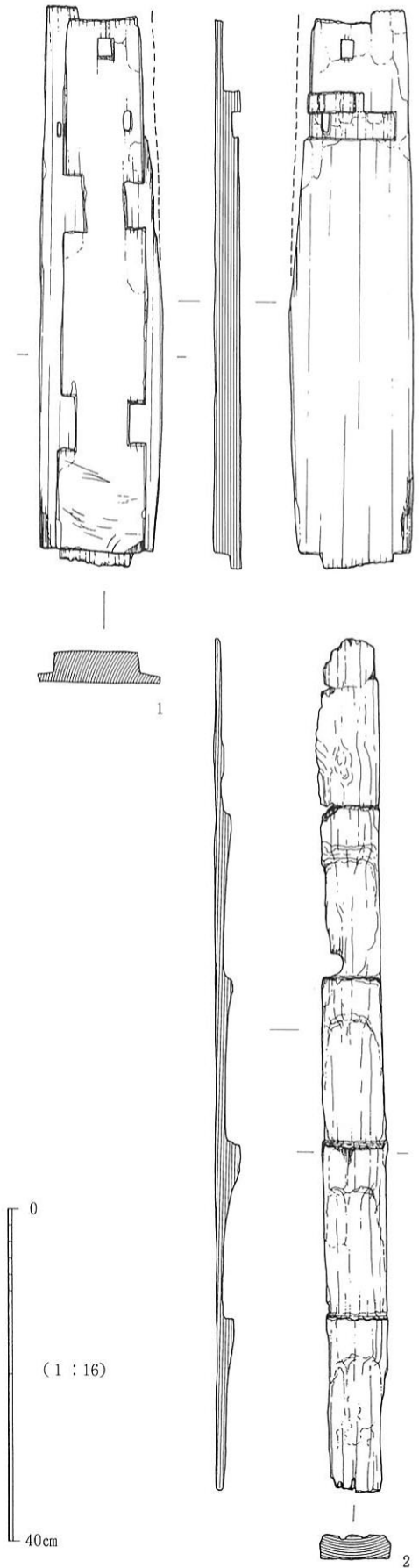


第118图 3E区出土土器

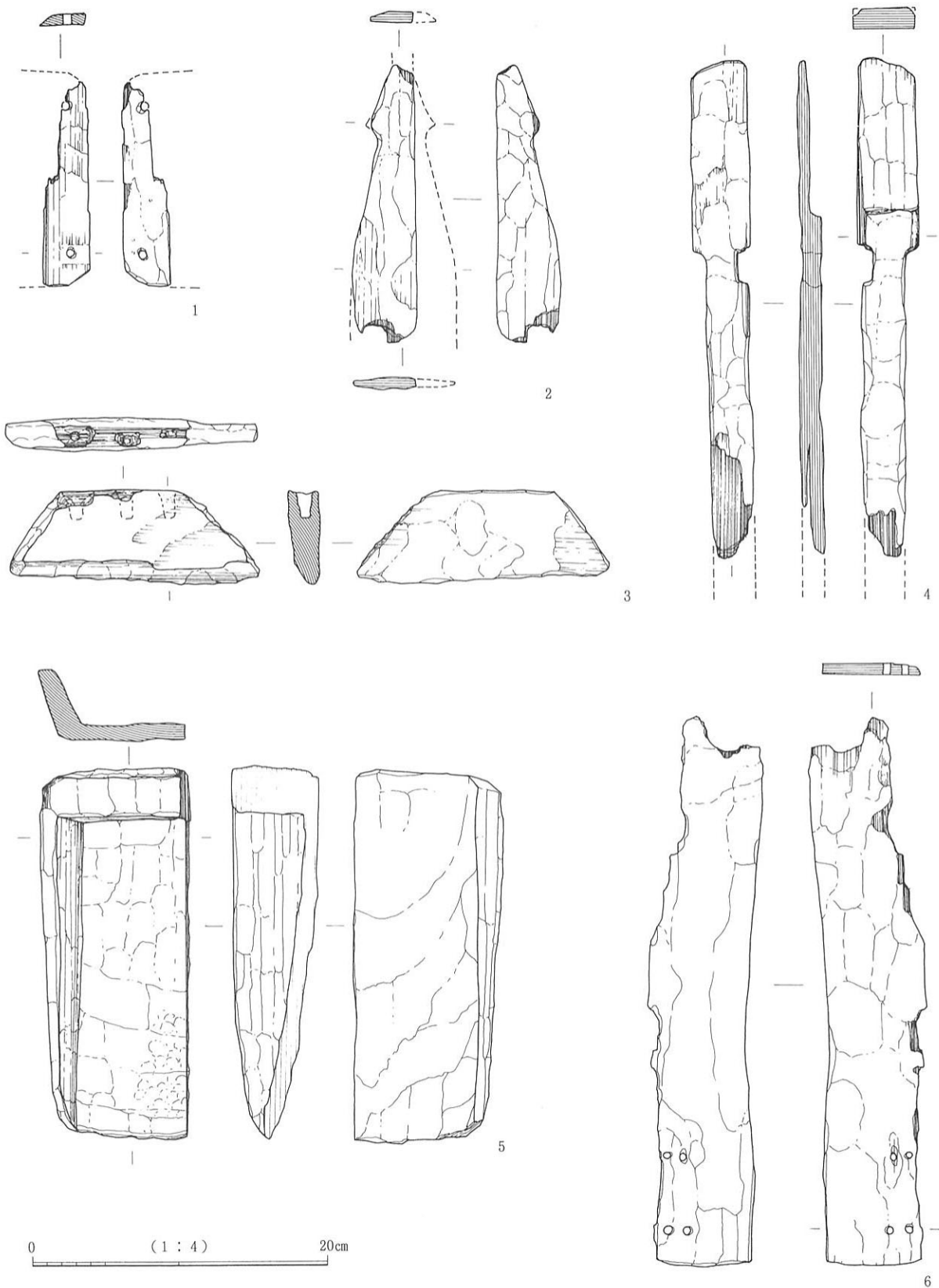
(1~4: 1層、5~25: 2層・2面、26~50: 3層、51・52: 5層、53~67: 4層)



第119図 3 E区 6層出土土器



第120図 3 E区 6面出土木製品



第121図 3 E区6層・6面出土木製品
(1~3・5:6層、4・6:6面)

第6項 3F区

【1面】長方形土坑と鋤溝、土坑1基（土坑1）を検出した（第122図、図版22-1・4）。

長方形土坑は3B区のように全面には広がらず、調査区の西半部北寄りでは4基を検出しただけである。幅は1～1.5m、長さは2.2mのものから6mのものまでがある。深さは約0.7m前後と他の調査区に比べてやや浅い。これまでの調査で検出した長方形土坑は、基本的に東西か南北に向きを揃えていたが、当調査区には北で西に振れる土坑もある。土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10～20cm程度の浅い溝であるが、北端部にはやや幅の広い溝が2条ある。溝の向きはすべて東西方向である。

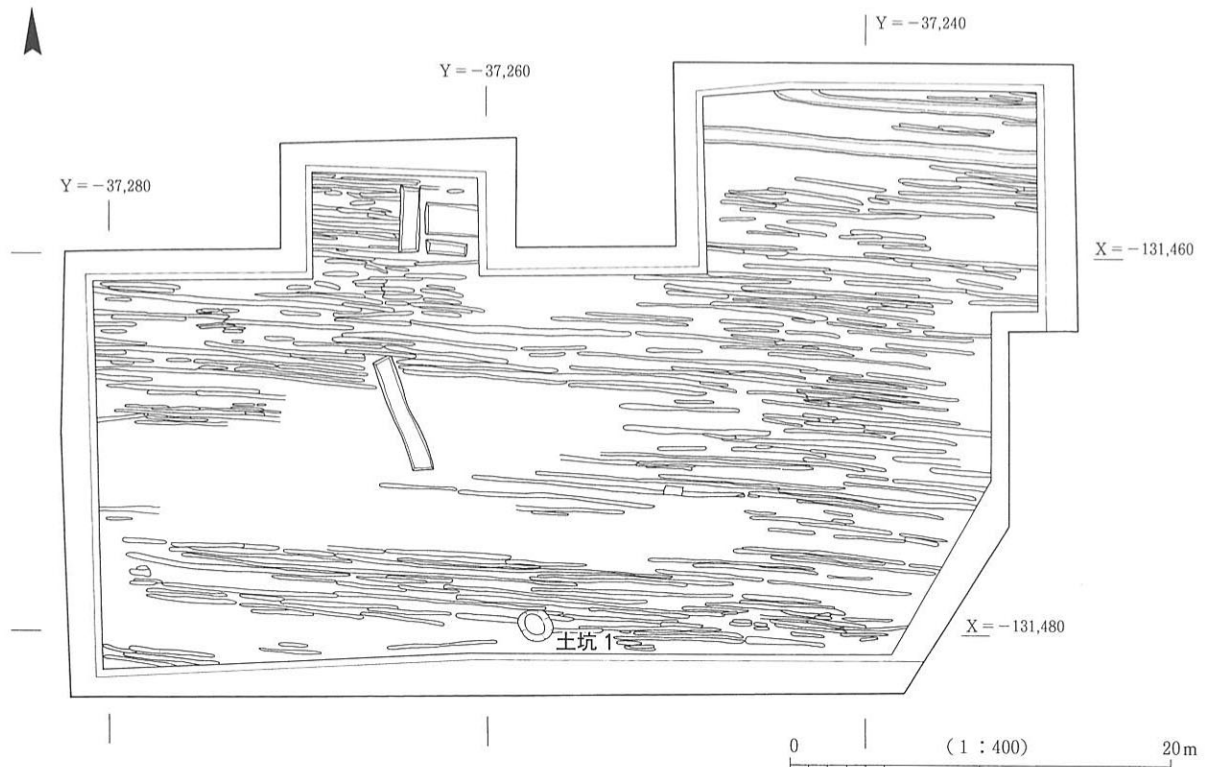
土坑1は調査区南端の中央部で検出した（図版22-4）。平面形は直径約1.8mの円形で、深さ約65cmを測る。湧水層まで達していないことから、井戸である可能性は低い。土坑内は拳大から人頭大の礫で埋められていた。

〈遺物〉1層からは中世から近世までの土器が出土した（第129図-1～6）。土師皿、白磁・青磁碗、陶器皿のほか、特異なものとして瓦質の佛花瓶、古瀬戸の折縁深皿などがある。

瓦質の佛花瓶（129-3）は外面に花紋のスタンプを押す。佛花瓶は15C～16Cに、古瀬戸の折縁深皿（129-6）は14C中葉に位置付けられる。陶器皿（129-4）は内面と底面に重ね焼きの痕跡が、釉薬が剥げた状態で明瞭に残る。

【2面】落ち込みと鋤溝を検出した（図版22-2）。

落ち込みは調査区の東半部で検出した。国土座標 $Y = -37,245$ のラインを西の肩にして東方に向けて落ち込む。落ち込み内は2層に堆積する。上から灰黄褐色砂質土（1層）、にぶい褐色砂質土（2層）である。落ち込み2層掘削後の面で牛馬の足跡を多数検出した。



第122図 1面検出遺構

鋤溝は調査区の全面で検出した。1面と同じく東西方向の細溝である。

〈遺物〉2層からは中世前半期を中心とした遺物が出土した(第129図-7)。

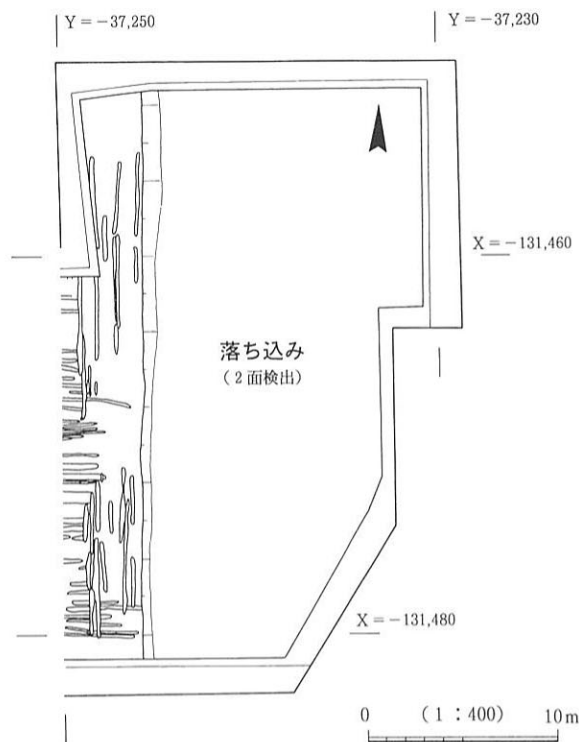
(129-7)は12C末~13C初頭にあたる東播系捏鉢である。図示した以外にも土師皿、瓦器碗等がある。

【3面】鋤溝を検出した(第123図、図版22-2)。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10~20cm程度の浅い溝である。溝の向きには南北と東西方向の2者があり、前者は国土座標 $Y=-37,250$ のラインより東側にのみ存在する。西側はすべて東西方向の溝である。

その他顕著な遺構は検出できなかった。

〈遺物〉3層からは12Cから14Cにかけての遺物が出土した(第129図-8~26)。土師皿、瓦器碗、東播系捏鉢、瓦質羽釜・足釜、白磁・青磁碗などのほか、瓦、鉄製品、銭がある。土器類はすべて12Cから14Cの間におさまるものである。



第123図 3面検出遺構(落ち込みは2面検出)

(129-8)は龍泉窯系I類の青磁碗で、(129-9)は白磁IV類の碗である。白磁碗は内面見込みに段がない。(129-14)は13C末~14C初頭におさまる土師皿である。内面にハケ目が残る。(129-13)は軒丸瓦である。2次調査2B区の上宮遺構から出土した軒丸瓦と同範である。平安時代末の瓦である。鉄製品は2点あり、1点は直径7mmの管(129-10)で、1点は釘(129-11)である。銭(129-27)は「朝鮮通寶」である。初鋳は1423年であり、この銭のみ15C代に入る。

【4面】溝9条(溝1~9)と、鋤溝を検出した(第124図、図版22-5)。

溝は9条のうち8条(溝1~8)を調査区東半部で検出した。検出位置は、2面で検出した東方への落ち込みとちょうど重なる国土座標 $Y=-37,246$ のラインの東側である。すべて東西方向の溝で、北の溝1からそれぞれ3.5m、3.0m、4.5m、4.2m、4.0m、3.3m、4.6mの間隔をあけて、溝8までが平行して並ぶ。8条とも、溝の幅は35~45cmで、深さは10~15cmである。この東西溝の周辺には鋤溝がない。同様の溝は調査区の東側に接する1次調査B区4面でも検出している。

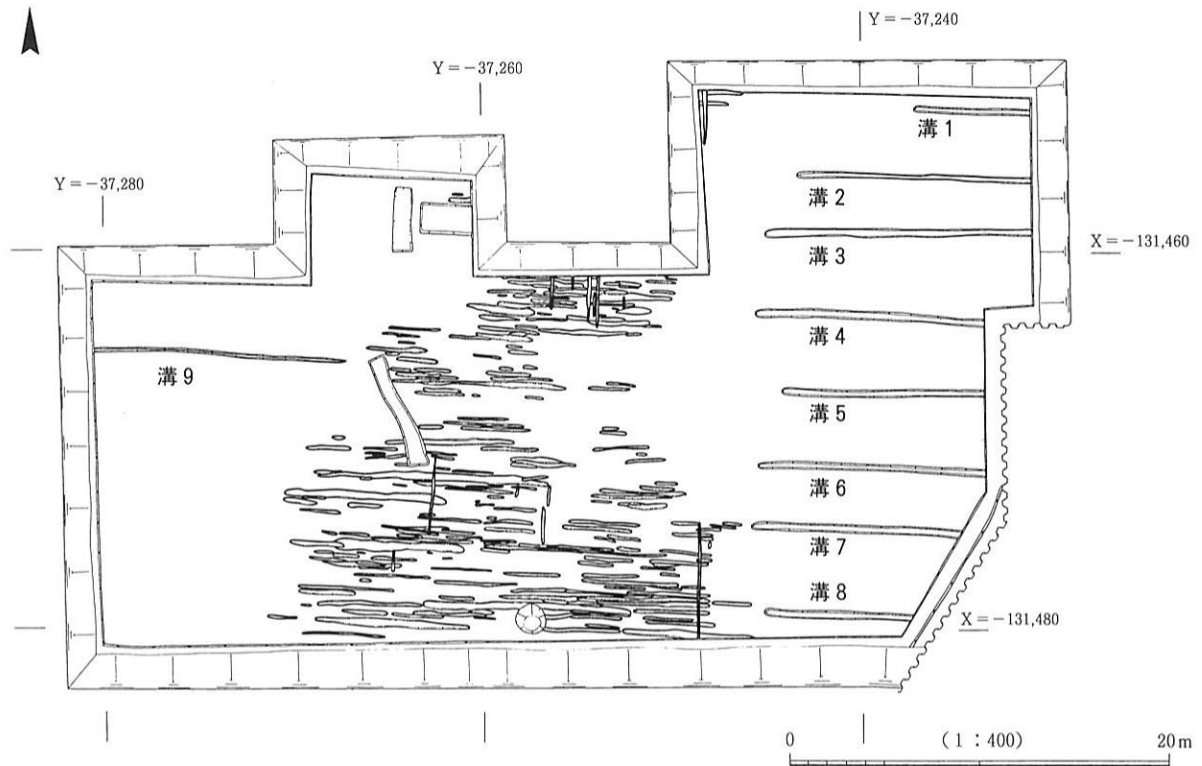
鋤溝は国土座標 $Y=-37,246$ と $Y=-37,271$ のラインとに挟まれた、東西25mの範囲内でのみ検出した。溝の向きは基本的に東西溝であるが、数条、東西溝を切る状態で南北溝を検出した。

国土座標 $Y=-37,271$ のラインより西側には鋤溝はなく、溝9のみを検出した。幅約20cm、深さ約5cmの東西溝である。

〈遺物〉4層からは11C後半から13C前半を中心とする遺物が出土した(第129図-28~50)。土師皿、瓦器碗・小皿、黒色土器碗、白磁皿・碗、東播系捏鉢のほか、土師質羽釜、瓦質足釜などがある。

(129-28~31)は白磁である。(129-28)は皿で、(129-29)は高台を高く削り出すV類の碗である。土師皿には11C後半に位置する「ての字状口縁」皿(129-37・39)が含まれる。(129-42)は10C後半に位置する黒色土器碗である。高台がハの字状に開く。A類である。

土器以外には鉄釘(129-50)が出土した。



第124図 4面検出遺構

4面検出の鋤溝からは、12C前半から13C初頭におさまる土師皿、瓦器椀が出土した（第129図-51～54）。

（129-54）は楠葉型の瓦器椀で内面にミガキを密に施す。12C前半にあたる。

なお図示していないが、溝3からは11C後半に位置する「ての字状口縁」の土師皿小片が出土している。

【5面】砂層の上面にあたるため、特に顕著な遺構は検出できなかった。

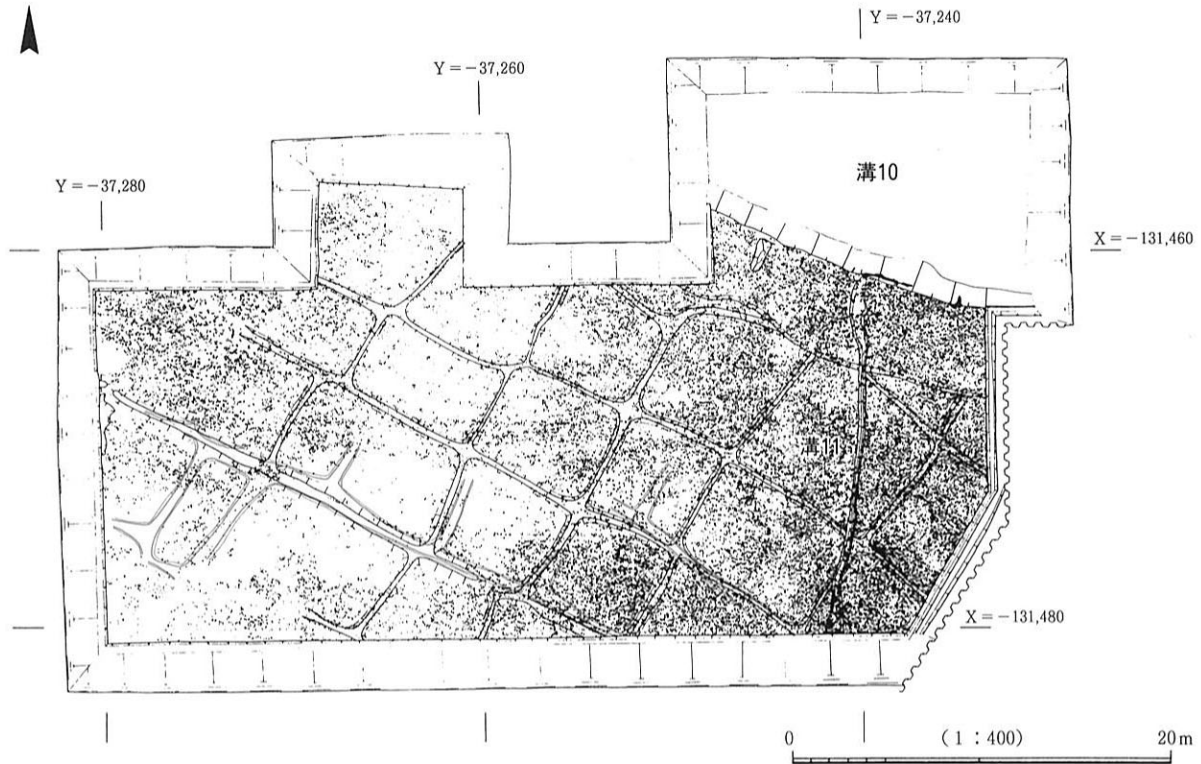
〈遺物〉5層および5面からは、古墳時代の土師器、須恵器が多く出土しているが、11Cから12C後半の時期の黒色土器、土師皿、瓦器椀が確実に含まれている（第130図-1～11）。

（130-1）は「ての字状口縁」の土師皿であるが、径が小さく11C末に位置付けられる。（130-5）は6C中葉に位置する須恵器甕、（130-6）は6C末～7C初頭に位置する須恵器横瓶である。両者の頸部にヘラ記号がある。黒色土器は2点ある（130-3・4）。両者とも11C代のB類で、内面のミガキを密に施す。

このほか土錘（130-8）が1点出土した。

【6面】水田跡を検出した（第125図赤、図版23-1～3）。

水田跡は3C区6面で検出した水田面に対応する。南半の一部でのみ検出した。大畦畔と小畦畔とによって区画された水田跡である。大畦畔は南壁から西北方向に向かって直線的に伸びる1条を検出した。幅0.5～1mで、わずかな盛り上がりがある。ほかの畦畔よりもやや規模が大きかったため、検出が容易であった。小畦畔は大畦畔の北側に約6m隔てて平行するものと、それらの畦畔からほぼ直角に分岐するものがある。大畦畔に比べて検出が難しく、途中から完全に検出できなくなったものが多い。幅は50～60cmで、わずかに盛り上がる。水田1区画の大きさは、推定で約25～30㎡である。3C区6面検出の水田畦畔と同じく、つづく7面で検出した水田畦畔と重なる部分が多い。



第125図 6・7面検出水田跡（赤は6面検出水田跡）

水田面にはヒト・牛馬の足跡や耕作時の鋤の痕跡が明瞭に残っていた。足跡には面的な広がりをもつものと、带状に長く伸びるものがある。

なお、つづく7層は青灰色砂質土層とその下の砂層とを同時に掘削した。これは砂層が薄く、分層が困難であったためである。

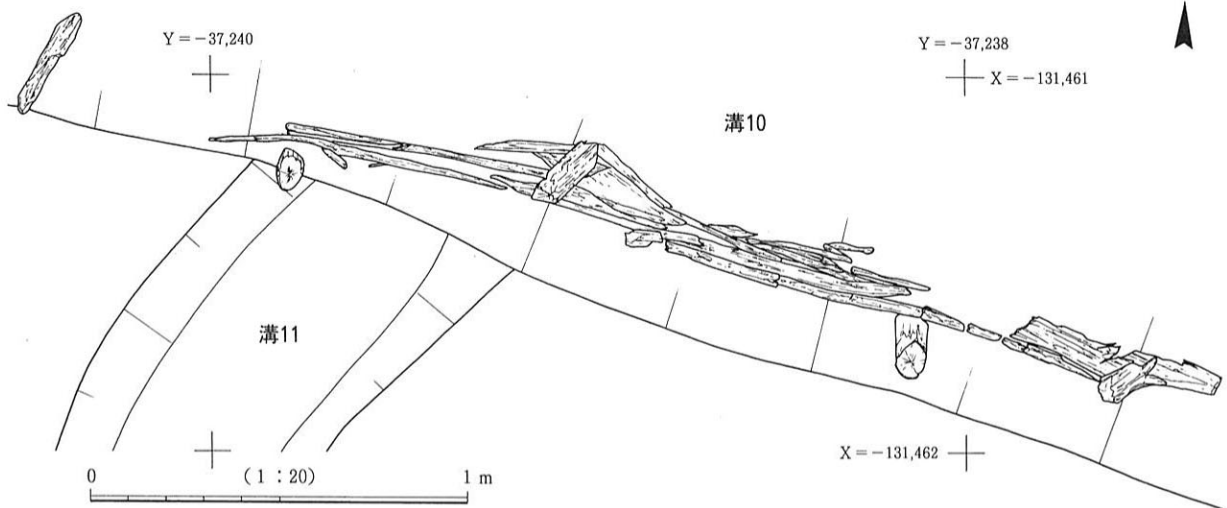
〈遺物〉6層および6面からは、6C後半を中心とした土師器、須恵器が出土した（第130図-12~17）。

(130-16)は6C後半の須恵器甕である。土器内に円形の穿孔部が入り込み、鈴のような状態になっている。(130-17)は古墳時代中~後期の土師器羽釜である。鏝部がきれいに剥がれ落ちる。接合部にもハケ目がおよぶ。

【7面】水田跡と溝2条（溝10・11）を検出した（第125図、図版23-4・5）。

水田跡は調査区の全面で検出した。大畦畔と小畦畔とによって区画された水田跡である。大畦畔は南壁から西北方向に向かって伸びる1条を検出した。幅は1~1.3mで、高い部分で20cm程度の盛り上がりがある。この検出位置は、6面で検出した西北方向に伸びる畦畔と完全に重なる。大畦畔には途切れる部分が2箇所ある。大畦畔の南と北の水田とを結ぶ水口であったと思われる。小畦畔は、この大畦畔と平行する東南から西北方向に伸びるものと、それらとほぼ直角に交わるものがある。前者の畦畔はそれぞれ5.5m前後の間隔をあけて、ほぼ等間隔に並ぶ。後者の畦畔がそれら平行して並ぶ畦畔間をつなぐことにより、水田1つ1つを区画する。両者は基本的には碁盤目状に広がるが、西方では後者の畦畔が直線的につながらずにズレる箇所がある。小畦畔は幅40~70cmで、わずかに盛り上がりを残す。水田の形はきれいな方形や長方形で、水田1区画の大きさは25~55㎡である。

以上の成果から水田の区画方法が復原できる。①水田を作る場所に大畦畔を通し、大区画水田を設定する。大畦畔の向きは当調査区内においては東南から西北方向とする。なお2次調査2B区では、東南から西北方向に伸びる大畦畔が、22~23mの間隔をあけて平行していることを確認している。②大畦畔



第126図 溝10南肩部検出護岸

と平行する小畦畔をほぼ等間隔に配し、長い水田区画を設定する。③平行する畦畔間に、それらとほぼ直角に交わるように小畦畔をつなぎ、任意の広さに水田を区画する。である。この区画方法は3A・3C区でも採用されている。

水田跡の上面を砂が覆っていたため、ヒト・牛馬の足跡が明瞭に残っていた。

溝10は調査区東北部で検出した(図版23-4)。西で北にやや振れる東西溝である。1次調査B区で検出した河川2、2次調査B区で検出した溝14のつづきである。調査中の湧水がすべて西から東へ流れていたことから、溝として機能していた当時も同様の流れであったと推測できる。埋土は微～粗砂で、交互に幾層にも堆積する。水量が豊富であったことがうかがえる。溝の北肩は検出できなかったが、東壁の断面観察によって、ちょうど調査区の東北角に北肩の一部がかかっていることが判明した。これによって溝の幅は約17mであったことが確認できる。深さは約30cmである。ただし溝の南肩は2段になっており、1段目は溝底よりも約20cm高い(図版24-1)。幅は約4.5mあり、護岸のための木杭が溝に沿って約2mの間隔をあけて2列に打ち込まれている。木杭は垂直、あるいは溝に向かってやや斜めに打ち込まれているが、統一性はなく、意識的に斜めに打ち込んだという状況ではなかった。また1段目と本流との境からも木杭を数本検出しており、杭と杭とに横木を渡して堰状に組んである個所も一部に認められた(第126図、図版24-3)。なお、1段目に堆積している砂は本流よりも細かい微砂であった。

溝を完掘した状態では、溝底と7面検出の水田面との高低差は約30cmであるが、堆積している砂の厚みは、東壁で測ると実際には約1mもあり、砂が盛り上がっていたことがわかる。この状況は1次調査B区で検出した河川2でも同じであった。おそらく古墳時代後期に溝作遺跡を襲った洪水の際に、溝10に大量の砂が流れ込んだためと思われる。

溝11は溝10にほぼ直角につながる南北の細溝である。水田畦畔を切った状態で検出した。幅30～90cm、深さ約5cmで、溝内は微～粗砂である。人為的に掘削した痕跡はなく、底面および壁面は凹凸が著しい。溝10から水が流れ出た痕跡であるように思われる。

なお、つづく8層は2層を同時に掘削した。この2層には若干の土色の変化が認められたが、基本的には同一時期の水田内における堆積の違いであることが、調査区の周囲にめぐらした排水溝の壁面観察によって確認されたため、次の水田面まで一気に下げることとした。

<遺物>7層および7面からは古墳時代前期から6C後半におよぶ土師器、須恵器が出土した(第130

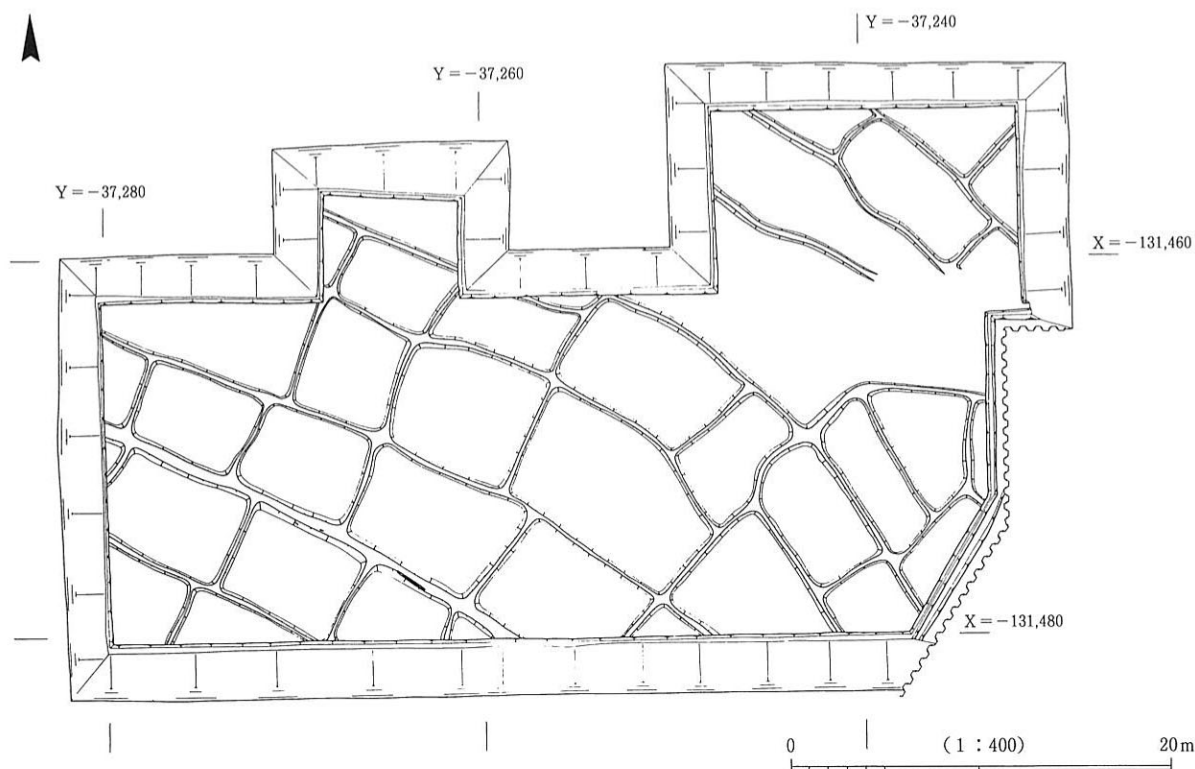
図-18~23)。

(130-21・22) はともに布留式期の土師器甕である。(130-21) は在地の土師器とは異なり、胎土に砂粒を多く含む。口縁形態は近江の甕に似る。(130-23) は古墳時代中~後期の甕把手部である。内外面にハケ目を施す。須恵器はすべて6 C代のものである。

溝10からは古墳時代の土師器・須恵器が多量に出土した(第130図-30~34、第131~133図)。土師器には壺、甕、鉢、高坏、羽釜、甑、竈が、須恵器には蓋坏、高坏、甗、甕、横瓶、提瓶、摺鉢などがある。土師器類のほとんどは古墳時代中期から後期のものである。時期を細かく特定することは難しいが、いっしょに出土した須恵器の大半が6 C後半に位置することから、上記土師器類もほとんどが同時期のものであると思われる。

土師器の鉢には大小2種がある。(130-30~34) が小型で、(131-19・20) が大型である。小型鉢のうち(130-30~32) は口縁が外反するもので、(130-33・34) は椀形を呈する。(130-30) は内面に朱が残る。(130-34) は底部外面に木葉痕が残る。(131-20) は外面全体に吹きこぼれた痕が炭化して真黒く残る。(131-3) は古墳時代中期の高坏である。脚部内面上部に残る棒状工具の小孔が坏部まで貫通している。(131-21~23) は移動式の竈である。羽釜、甑がともに出土していることが注目される。須恵器蓋坏にはヘラ記号を刻むものが多い。1本線から4本線のものまで様々である(132-3・6・9・14・16)。ヘラ記号は須恵器甕の頸部にも刻むものがある(133-3)。(133-7) は須恵器摺鉢で、口縁部を短く外反させ、端部をわずかにつまみ上げる。須恵器高坏にはスカシを2方(132-27)と3方(132-26)にあけるものがある。

このほか5 C後半~6 Cの製塩土器が2点出土した。丸底のコップ形を呈し、器壁はきわめて薄い。(130-36) は外面上部にタタキを施す。(130-37) は内外面ともナデ調整である。土器以外には砥石



第127図 8面検出水田跡

(130-35) が1点出土した。

【8面】水田跡を検出した(第127図、図版24-5)。

水田跡は調査区の全面で検出した。大畦畔と小畦畔とによって区画された水田跡である。大畦畔は7面で検出した大畦畔から南に1.2~1.4mほど平行にズレた位置に1条を検出した。つまり、水田を区画するにあたって基本となる(大)畦畔は、作り直しのため多少のズレはあるものの、8面から6面までほぼ同位置に、同じ方向で検出したことになる。これにより、8面の段階で設定された基本的な水田区画が、上層の水田区画にも影響していたことが判明する。幅0.9~1.1mで、約5cm程度の盛り上がりをもつ。小畦畔は基本的に7面検出の小畦畔と同じく、大畦畔と平行するものと、それらとほぼ直角に交わるものがあり、それらによって水田1つ1つが区画される。基本的な水田区画方法は7面と同じである。ただし、この原則は東方では崩れ、大畦畔の向きとは関係ない方向に延びる小畦畔がある。このため水田の形は西方では方形や長方形であるが、東方では不整形なものとなる。小畦畔の幅は約50cmで、盛り上がりはほとんど残っておらず、土色の変化で認識した。水田1区画の大きさは30~45㎡であるが、東方の不整形な水田では約20㎡のものもある。

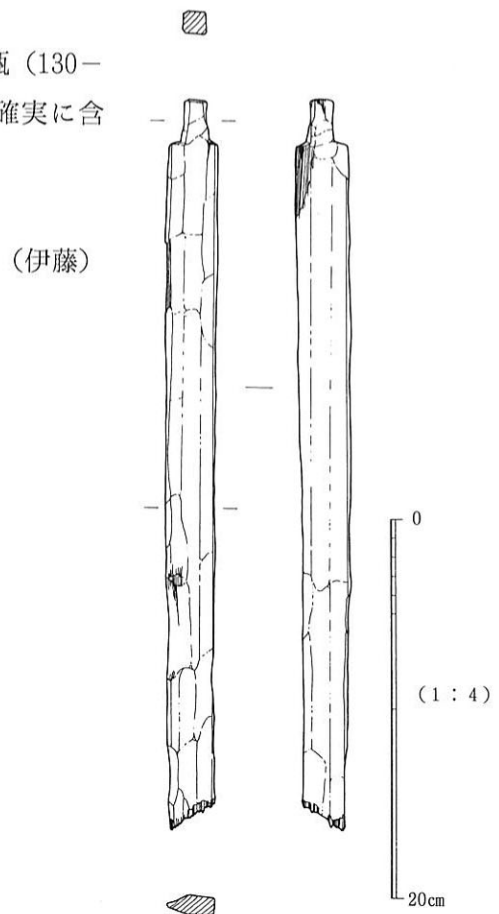
この8面検出の水田畦畔は、7面検出の溝10の下層部にも及んでおり、この水田が営まれた段階には確実に溝10はなかったことが確認された。

足跡等は検出できなかった。

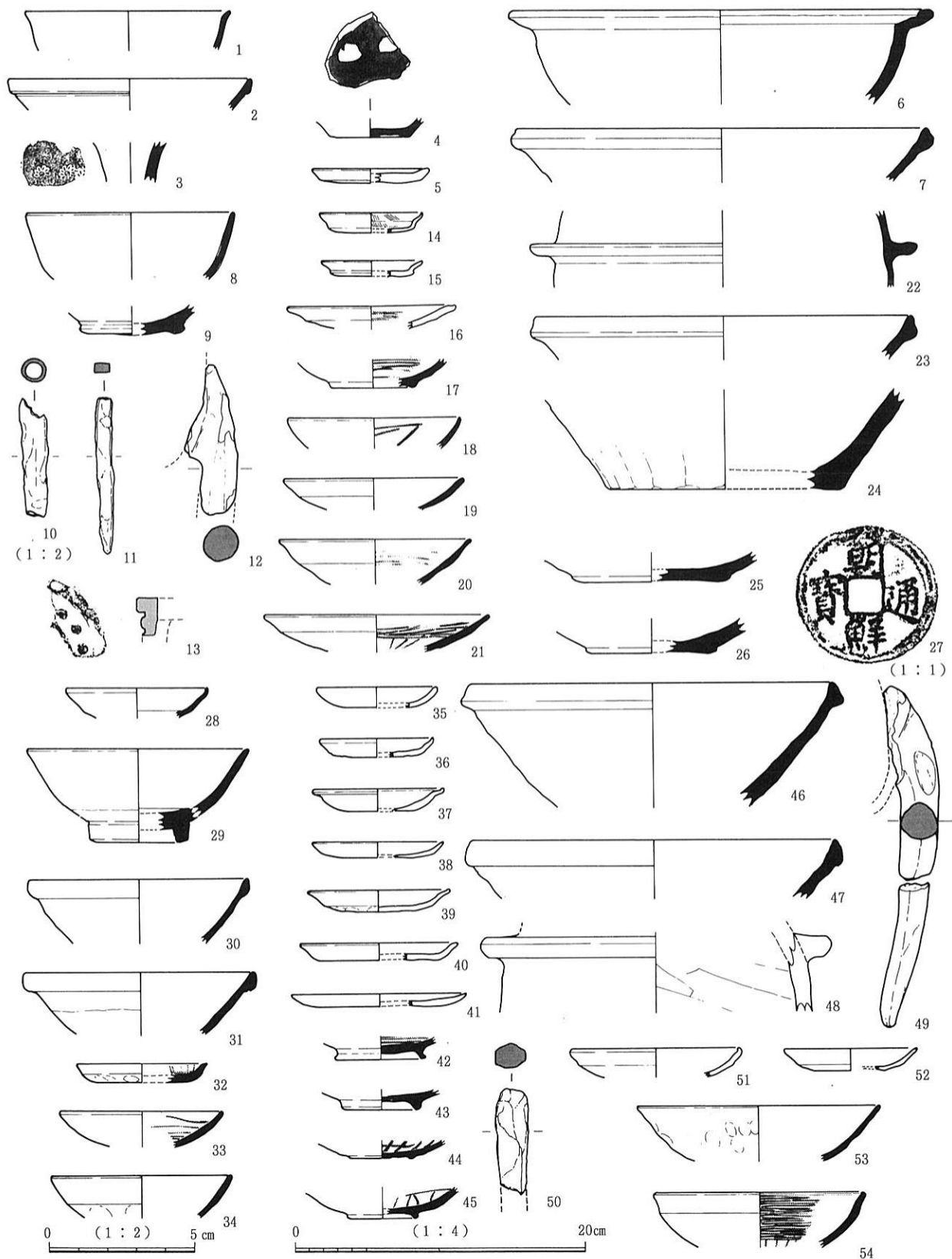
<遺物> 8層からは古墳時代前期から後期までの土師器・須恵器が出土した(第130図-24~29、第128図)。

土師器には庄内式期の甕(130-26)から古墳時代後期の甕(130-27)までがあり、須恵器には6C前半の坏身(130-24)が確実に含まれる。(130-25)は肩のはった小型丸底壺である。

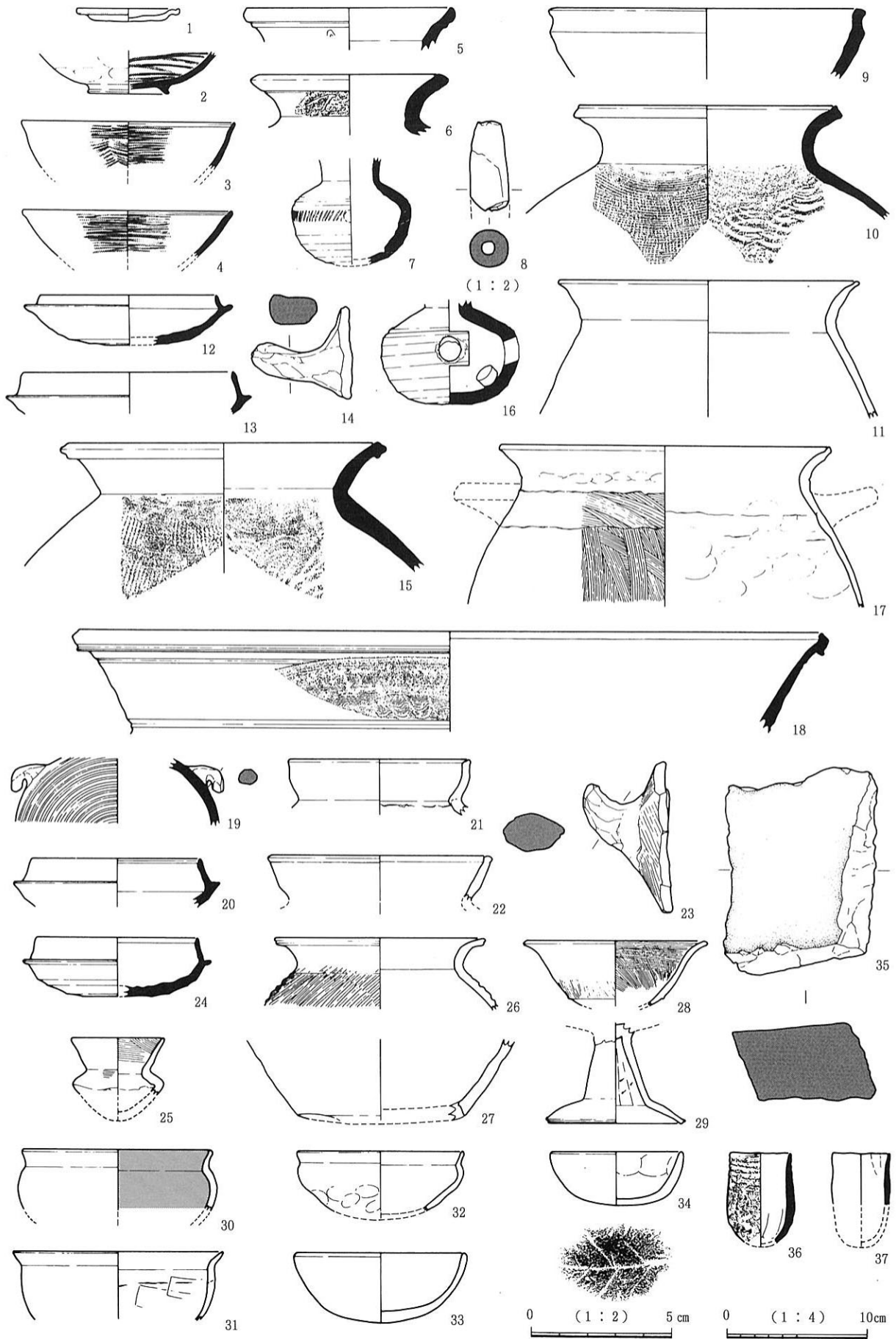
このほか木製品として大脚横木(128-1)が出土した。



第128図 3F区8層出土木製品



第129図 3 F区出土遺物（鉄製品1：2、銭1：1、土器・瓦1：4）
 (1～6：1層、7：2層、8～27：3層・3面、28～50：4層・4面、51～54：4面鋤溝)

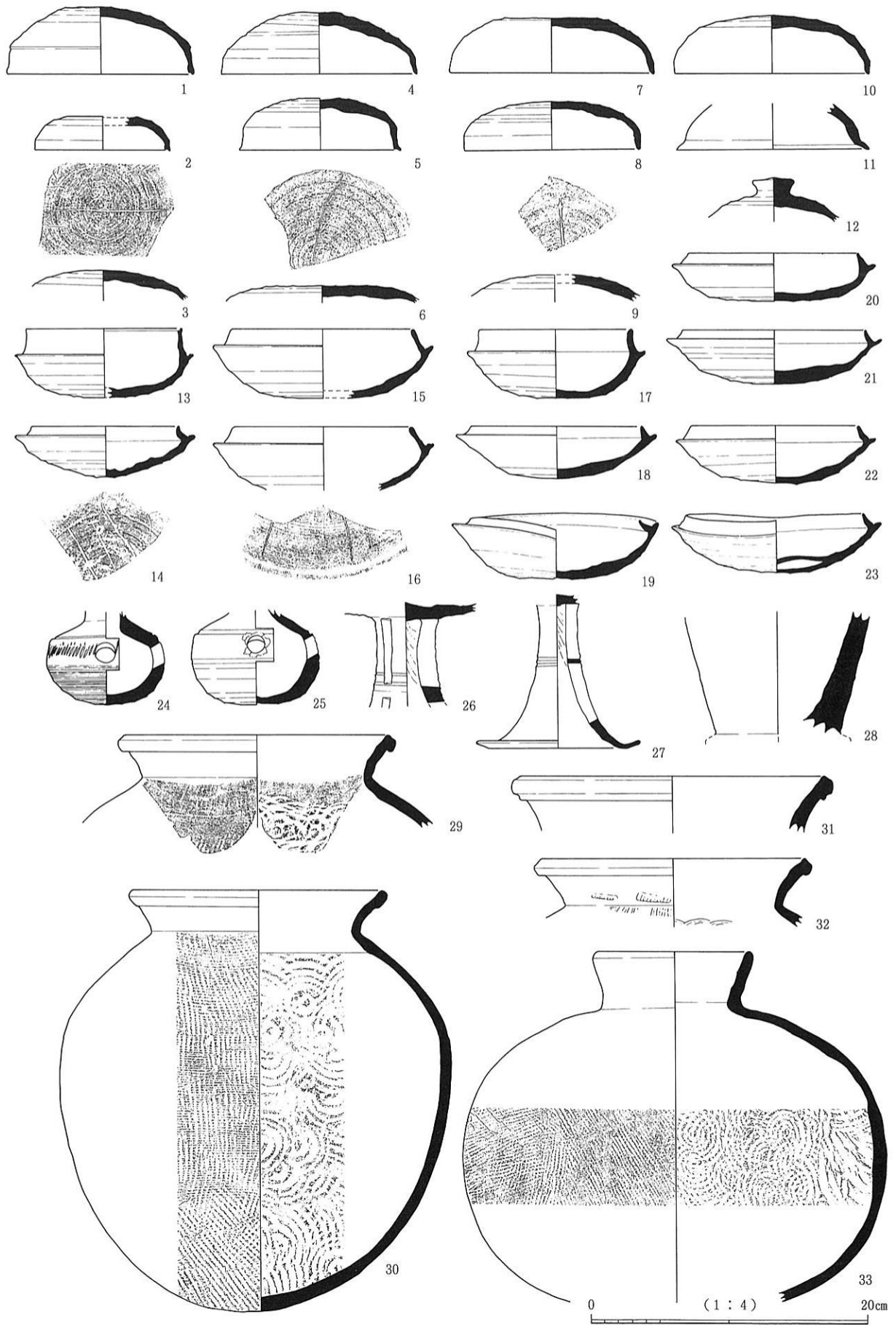


第130図 3 F区出土遺物 (土製品・石製品 1 : 2、土器 1 : 4)

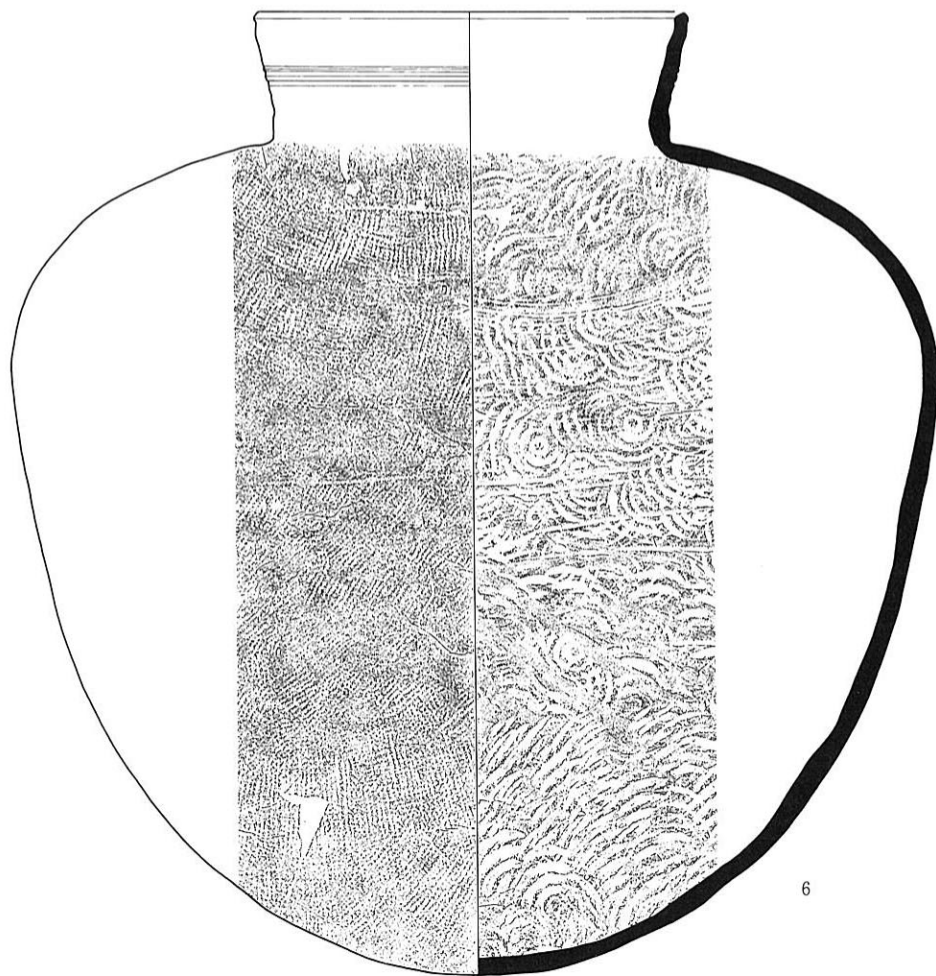
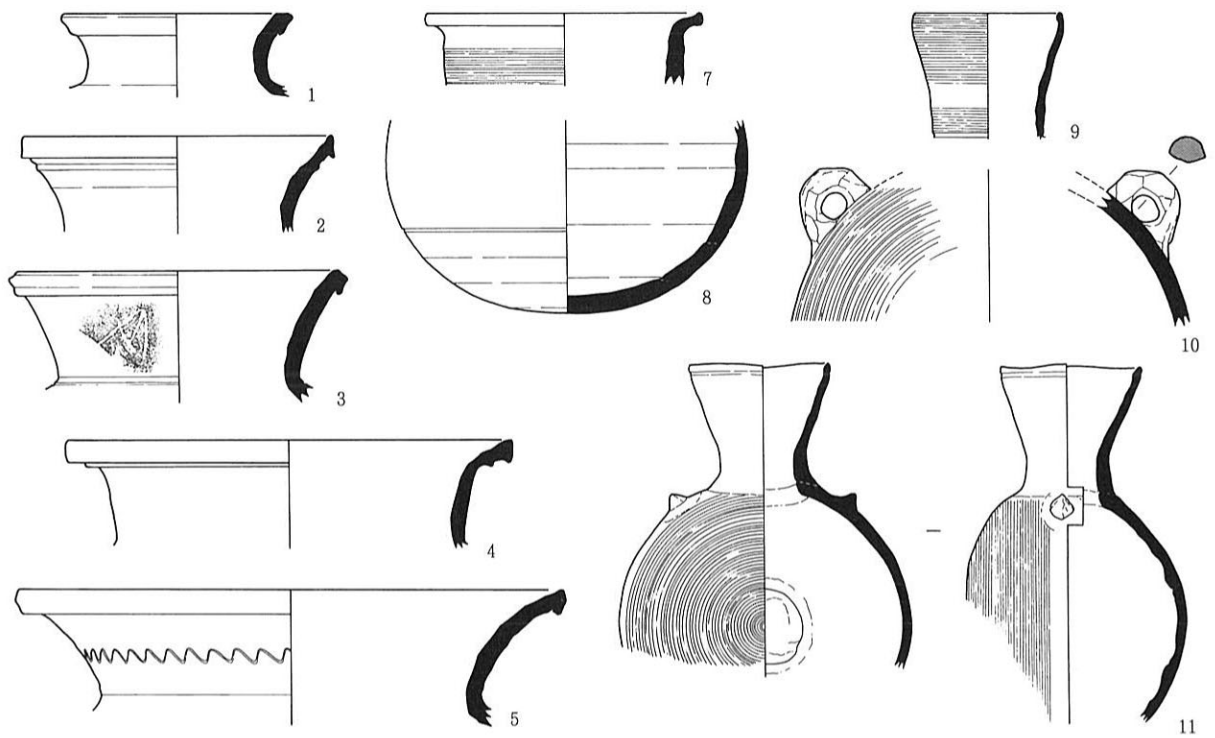
(1~11: 5層・5面、12~17: 6層・6面、18~23: 7層・7面、24~29: 8層、30~37: 溝10)



第131图 3 F区沟10出土遗物



第132図 3 F区溝10出土土器



0 (1 : 4) 20cm

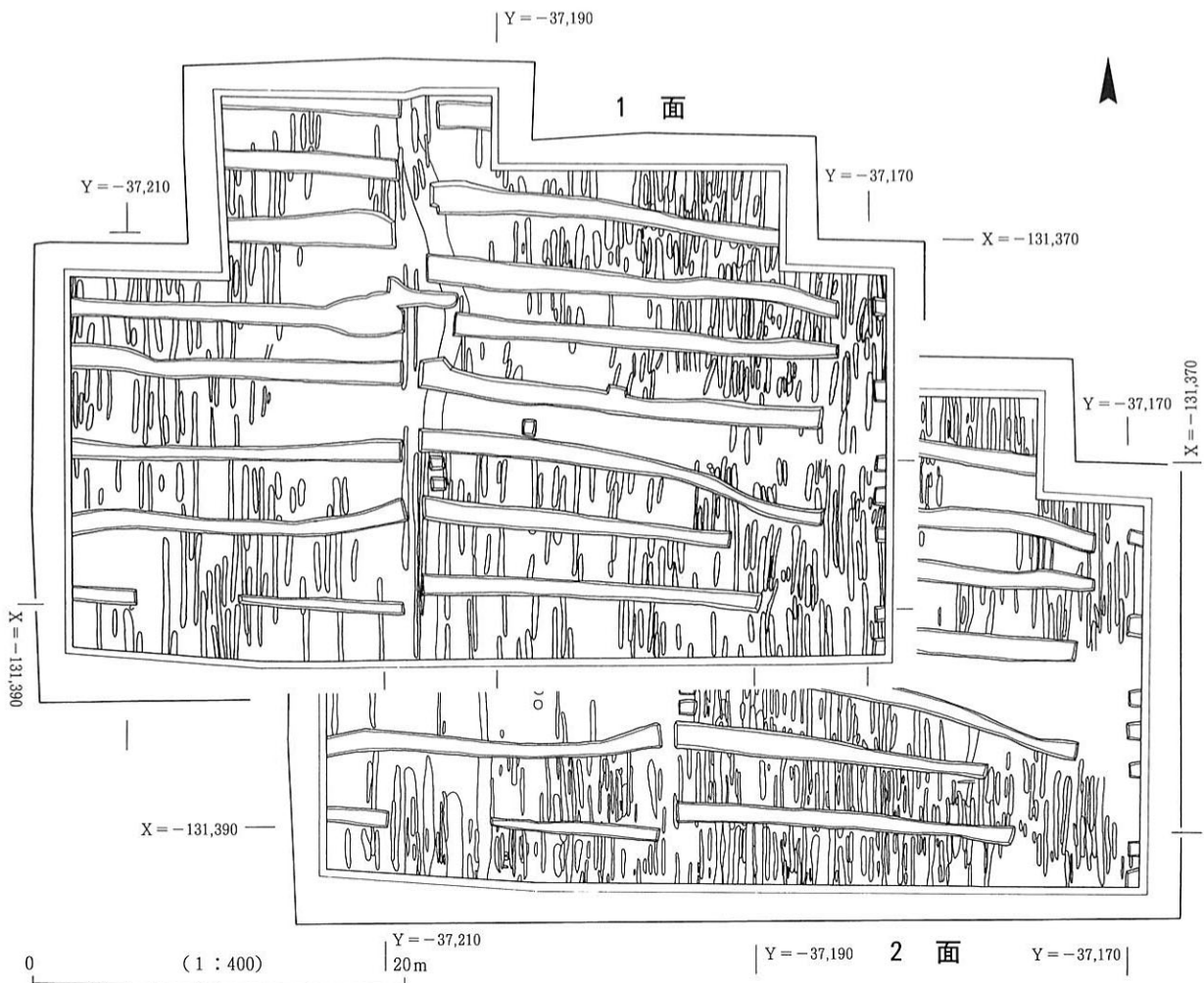
第133图 3 F区沟10出土土器

第7項 3G区

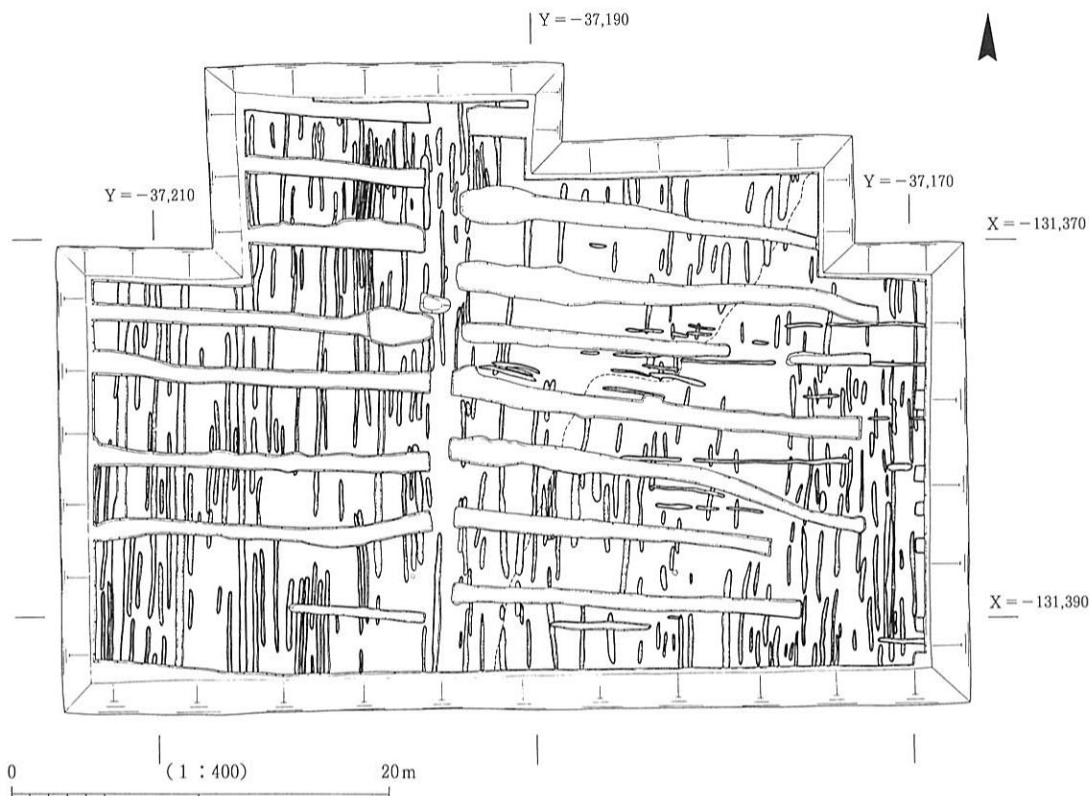
【1面】長方形土坑と鋤溝を検出した（第134図）。

長方形土坑は調査区の全面で検出した。浪商学園が造成される直前の水田耕土直下から掘り込まれた遺構である。長方形土坑はこれまでの調査によって、1次調査区で検出した坪境の溝（河川1）より西側では主に南北方向、東側では東西方向に並ぶことがわかっている。河川1よりも東側にあたる当調査区で検出した長方形土坑も、これまでの成果と同じく、やはり東西方向に並んでいることが確かめられた。これは上層の水田区画と密接に関係するものであることが昭和初期の航空写真によって判明している。幅は約1～1.2m、長さは約22mで、深さは深いもので約1.6mある。これまでの調査では、土坑の長さは1坪（1町）の10分の1にあたる11m前後が一般的であったが、当調査区検出の長方形土坑はそのちょうど倍の長さとなっている。調査区内は国土座標 $Y = -37,171$ と $Y = -37,195$ を境として、東西3列に区画され、この区画内に東西に長い土坑が、南北にほぼ等間隔に整然と並ぶ。土坑内は粗砂や小礫で埋め戻されている。

鋤溝は調査区の全面で検出した。幅10～20cmの浅い溝である。1次調査区で検出した坪境の溝（河川1）より西側の3A・3B・3C・3F調査区では、鋤溝の向きは基本的に東西方向であったが、河川1の東側にあたる当調査区検出の鋤溝はすべて南北方向である。



第134図 1・2面検出遺構



第135図 3面検出遺構

〈遺物〉1層からは中世を中心に近世までの土器が出土した（第139図-1・2）。図示した以外にも土師皿・瓦器碗のほか陶磁器類がある。

（139-2）は白磁の八角坏である。15C代に位置する。

長方形土坑からは13C～14Cにあたる古瀬戸の四耳壺（139-46）が出土した。

【2・3面】鋤溝を検出した（第134・135図）。

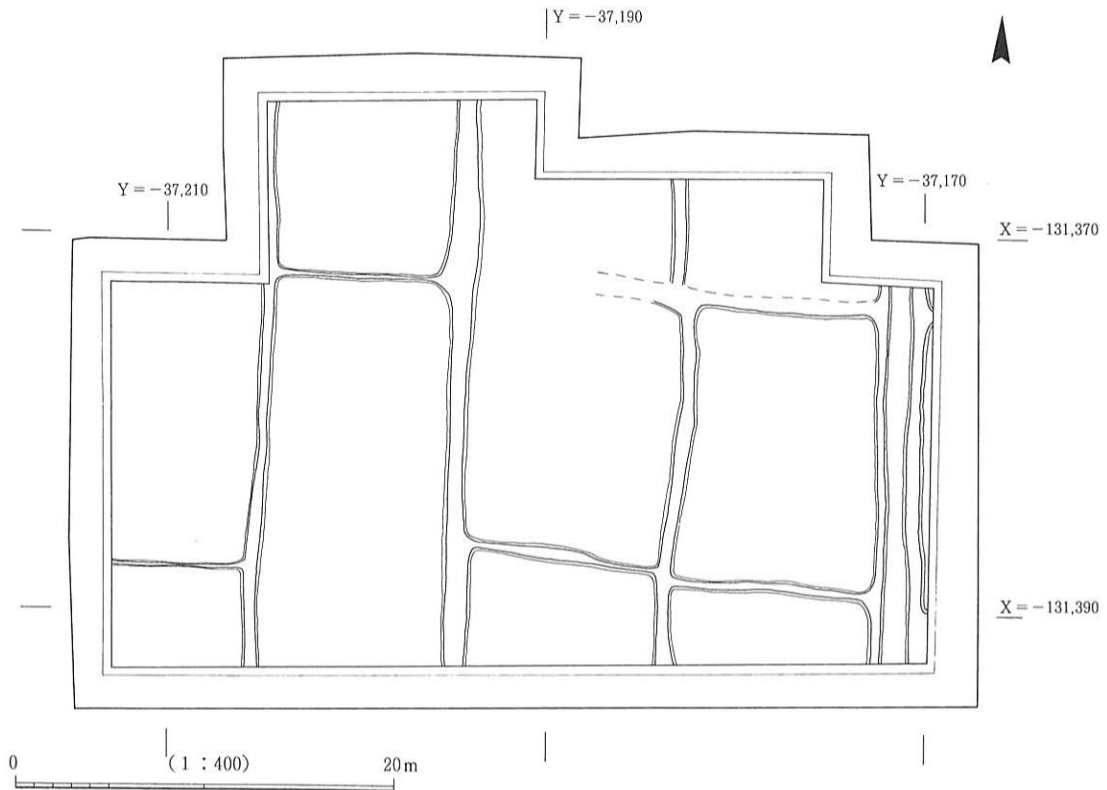
鋤溝は調査区の全面で検出した。3面ではじめて東西方向の鋤溝を数条検出したが、両面とも基本的には1面と同じ南北方向の細溝である。両面とも、鋤溝以外特に顕著な遺構は検出できなかった。

〈遺物〉2層からは中世の土器を中心に、近世までの土器が出土した（139-3～9）。図示した土師皿、瓦器小皿、東播系捏鉢、備前焼の播鉢、白磁碗のほか、瓦器碗、陶磁器類などがある。

（139-5）は唐津焼の皿である。内面には重ねて焼いたときの砂目が残っており、17C前半に位置付けられる。土器以外の遺物としては、扁平な砥石が出土している（140-3）

3層からは9Cから15Cにわたる遺物が出土した（139-10～25）。土師皿、瓦器碗、瓦質羽釜、東播系の捏鉢・甕、白磁碗・皿、青磁碗のほか灰釉陶器碗、須恵器壺、瓦などがある。

（139-21）は白磁皿である。外面下端から底部にかけて施釉されない。（139-22）は龍泉窯系の青磁碗である。小片であるが内面には蓮華紋を刻む。（139-23）は白磁IV類の碗である。出土したほかの白磁は釉色がやや黄色味を帯びているのに対し、この白磁碗の釉色はやや灰色を帯びた白色である。（139-24）は9Cの灰釉陶器の碗である。口縁は細く、外反する。内面にのみ釉を施す。（139-13）は13C前半～中葉の甕である。頸部から口縁部にかけての形態、外面のタタキ痕等東播系の須恵器甕と酷似するが、焼成は須恵質ではなく瓦質である。当初から瓦質に焼いたものか、単に焼成不良の須恵器であったのかは判断しかねる。（139-12）は3層の下限を示す瓦質羽釜である。14C～15Cに位置する。



第136図 4面検出遺構

(139-14) は軒丸瓦である。2次調査2B区の上宮遺構から出土した軒丸瓦と同範である。平安時代末の瓦である。なお、3面からはわずかながら獣骨片が出土している。

【4面】褐色に変色した畦畔状の帯を検出した(第136図)。

畦畔状の帯は調査区のほぼ全面にわたって検出した。南北方向の変色帯数条と、それらをつなぐ東西方向の変色帯である。水田畦畔かとも思われたが、この下の5面で検出した水田畦畔とほぼ重なることから、単に下層の水田畦畔の影響で4面が変色したものであることが判明した。

<遺物> 4層からは主に12Cから13Cを中心とした土器が出土した(139-26・27)。土師皿、白磁碗のほか瓦器碗などがある。

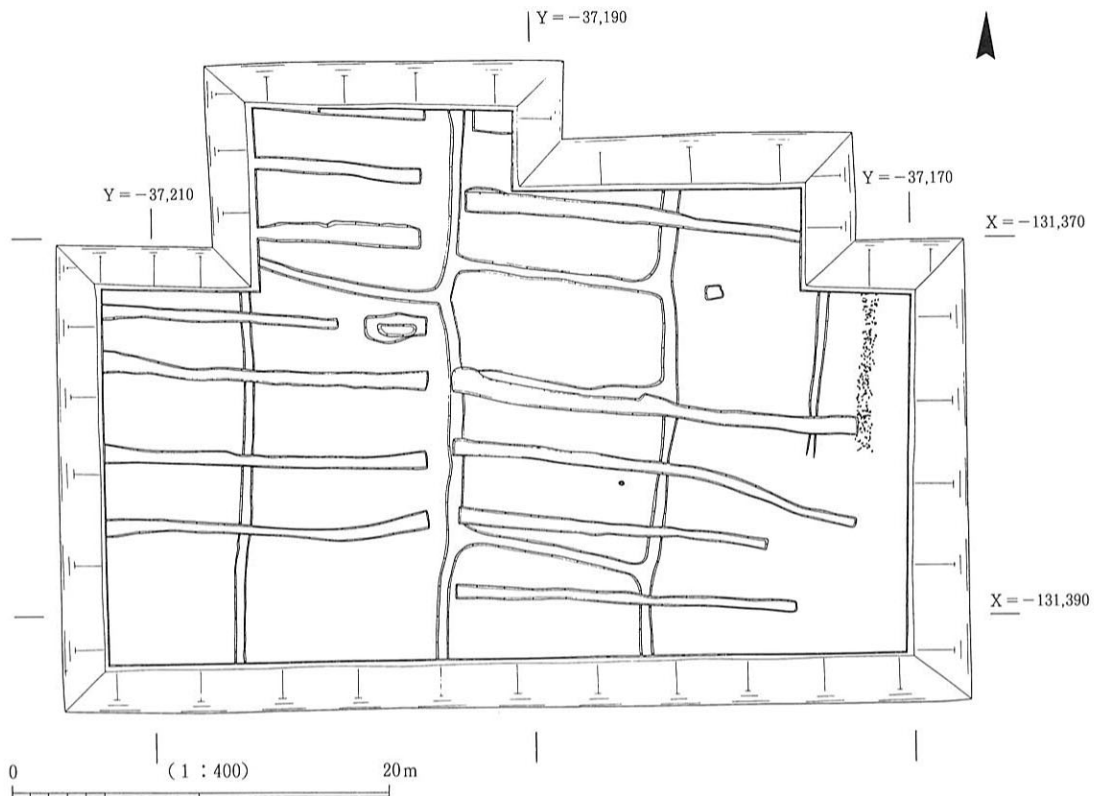
(139-27) は白磁IV類の碗であるが、見込みには段がない。

【5面】水田跡を検出した(第137図)。

水田跡は調査区の全面で検出した。3B区6面、3C区7面、3E区6面、3F区7面に対応する水田面である。1・2次調査も含め、これまでの調査で検出した水田跡は、北で西に大きく振れる水田区画であったが、この面で検出した水田跡は、ほぼ国土座標にのる向きの水田区画である。南北に通る畦畔と、それらとほぼ直角に交わる東西の畦畔とによって区画された水田跡である。畦畔の幅は約50~80cmで、水田1区画の広さは、確認できる箇所約75㎡である。

なおG区以外の水田面には、上面に洪水砂が堆積していたために足跡が明瞭に残っていたが、当調査区には洪水砂が及んでいないため、足跡はほとんど検出できなかった。調査区の東端から、帯状に南北に延びる足跡をわずかに検出したにとどまった。

<遺物> 5層からは遺物量は少ないが、古墳時代の土師器・須恵器のほか、中世前半の土師皿等が出土した(第139図-28)。図示した(139-28)は庄内式期の高坏脚部であるが、つづく6層から6C後半



第137図 5面検出水田跡

の須恵器が出土していること、また確実に土師皿が出土していることから、5層の下限は中世前半期であったことが判明する。

【6面】水田跡を検出した（第138図）。

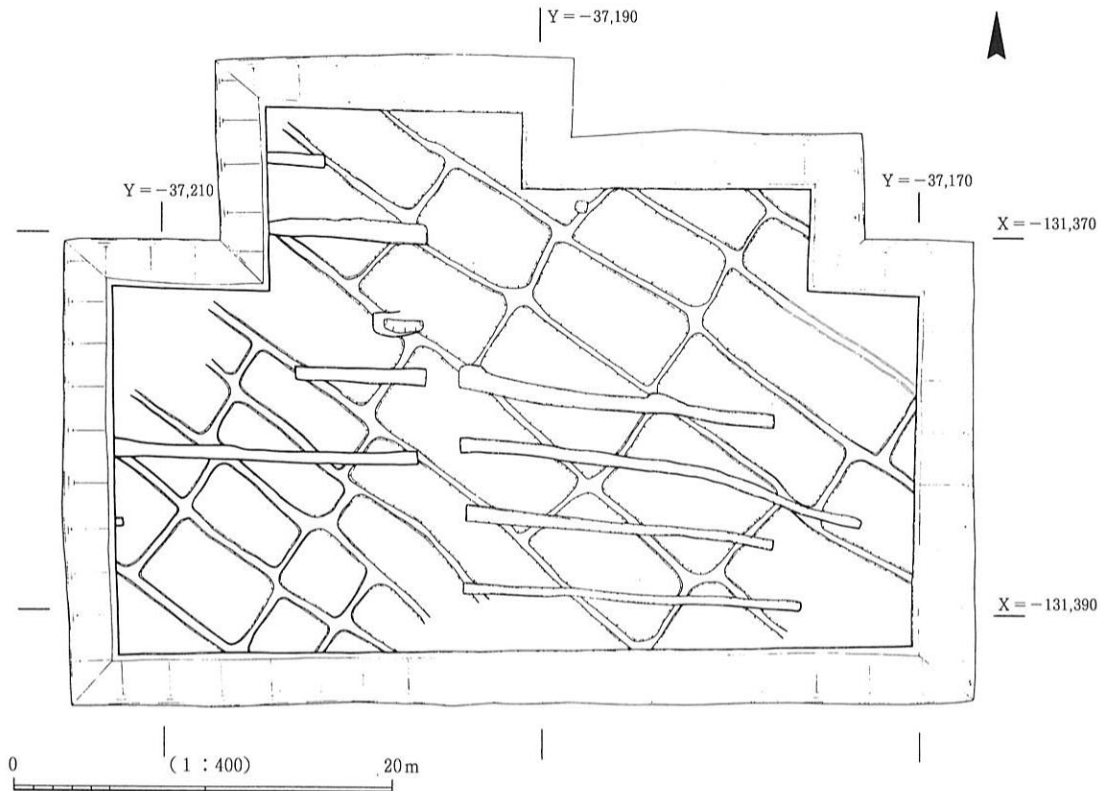
水田跡は調査区の全面で検出した。5面検出の水田畦畔とは違い、東南から西北方向に直線的に延びる畦畔と、それらとほぼ直角に交わる畦畔とによって区画された水田跡である。すべて小畦畔である。後者の畦畔は直線的につながらないことから、水田を区画するにあたって、まず東南から西北方向の直線的に通る畦畔が先に設定され、次にそれらの畦畔どうしをつなぐ畦畔を設け、任意の大きさに水田を区画したことが窺える。この設定方法は3F区7面で報告したものと同一であり、（その3）のすべての調査区でみられる方法である。畦畔の幅は40～50cmで、盛り上がりはほとんどない。水田の形は東南から西北に長い長方形で、1区画の広さは15～45㎡と大小さまざまである。

なお、調査区東北隅では水田畦畔の一部を途中から検出できなかったが、次の7面の精査によって、そのつづきを検出することができた。

<遺物> 6層・6面からは古墳時代前期から6C後半におよぶ土師器、須恵器が出土した（第139図-29～36）。土師器は古墳時代前期から中期のものが中心であるが、須恵器は確実に6C後半の蓋環（139-29・30）が含まれる。

（139-32）は椀形の鉢である。底部外面はケズリである。（139-33）の鉢は体部から口縁部にかけてほぼ直線的で、体部外面は縦方向のミガキ、内面はケズリが施される。（139-34）は布留式期の鉢としたが、全体像がつかめず詳細は不明。（139-36）の高杯は、内外面にハケ目の上から幅3～4mmの太いミガキが粗く施される。

【7面】水田畦畔を検出した。（第138図赤）



第138図 6・7面検出水田跡 (赤は7面検出)

水田畦畔は調査区東北部で2条を検出した。1条は6面で検出した水田畦畔と完全に重なり、もう1条は一部検出できなかった水田畦畔のつづきにちょうど重なる。これにより6面検出の水田畦畔のつづきであることが判明した。水田耕土層を掘り下げたことにより、6面で検出しきれなかった畦畔が検出できたのである。

その他顕著な遺構は検出できなかった。

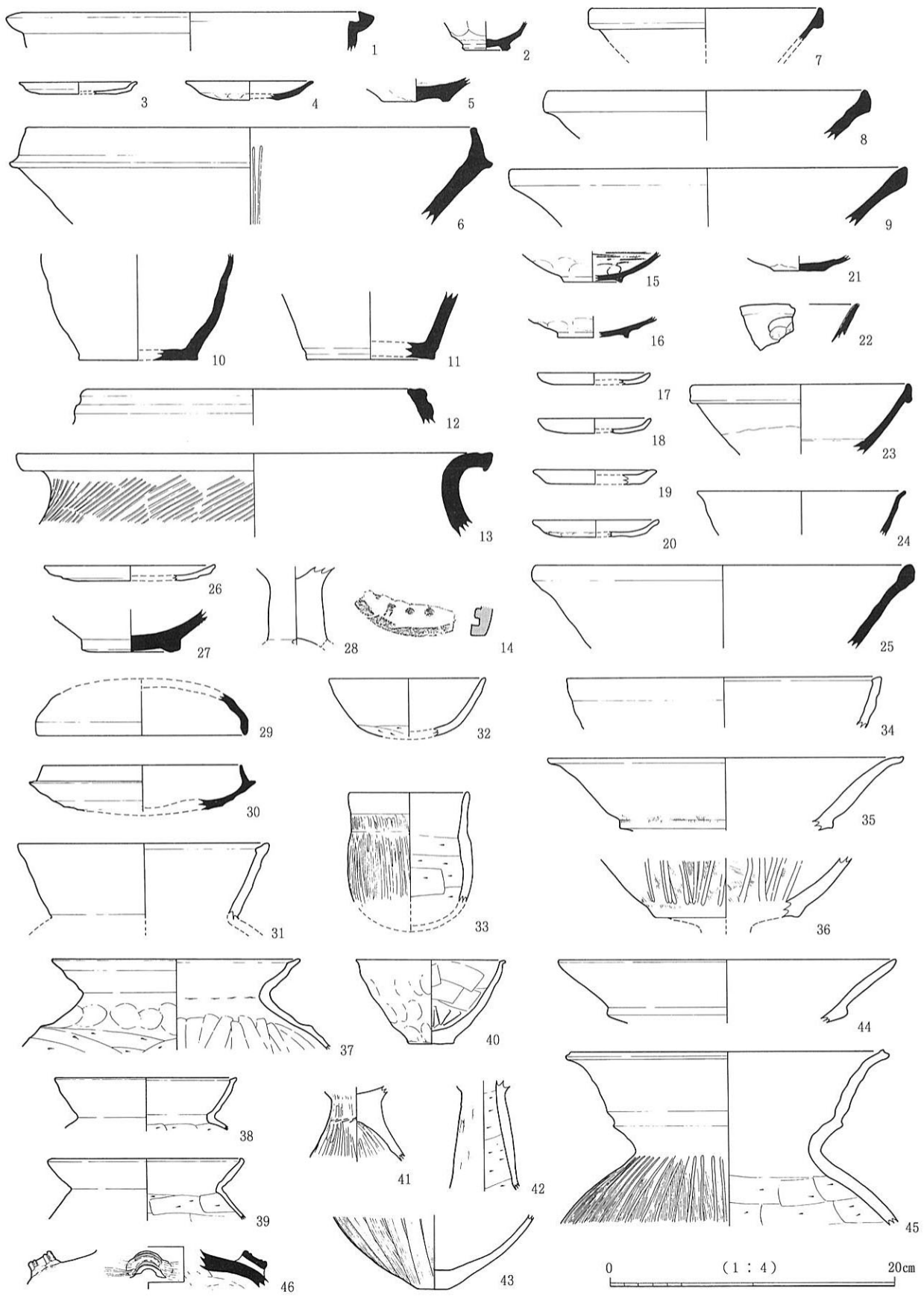
7面の調査終了後、下層確認のための深掘り坑を設定して土層観察を行った。その結果、7面から70cm下層に粗砂が16cm堆積していることが判明し、その粗砂除去後の面から砂で埋まった足跡状の凹凸を確認した。

〈遺物〉7層からは庄内式期から布留式期にかけての土師器が出土した(第139図-37~45)。

(139-37)の甕は外面にはケズリが施され、内面は縦方向の粗いナデである。肩部には指押さえ痕が明瞭に残る非常に粗雑なつくりの甕である。口縁部は内湾気味に外方に広がり、端部で強く外反する。布留式期特有の内側に把厚する口縁端部を、つぶして外反させたような形態である。

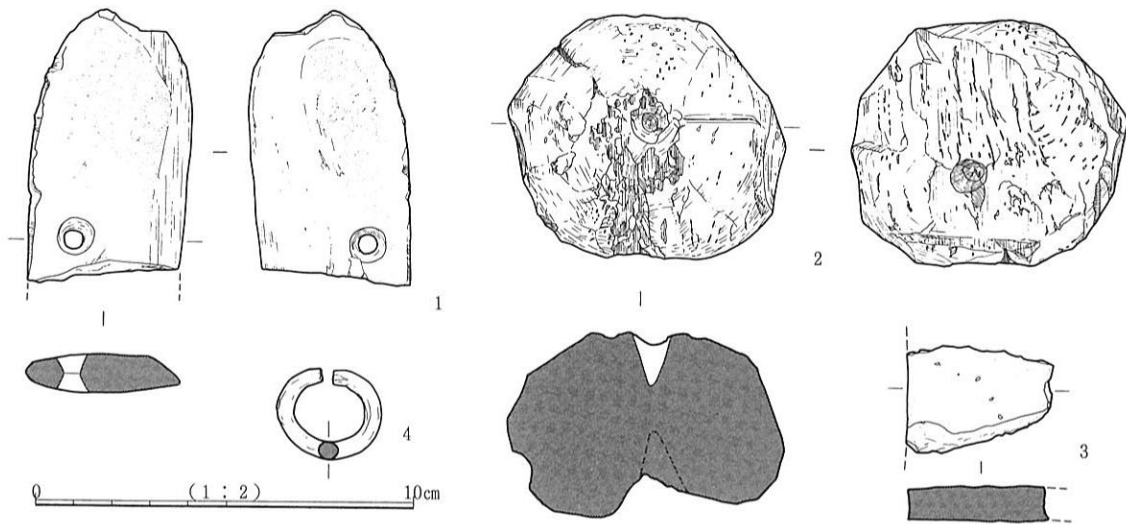
土器以外の遺物としては、木製品2点のほか、銅製の耳環、浮きなどが出土した。木製品の1点は大脚の杵材(141-1)で、もう1点は杓子状の製品(141-2)である。後者は先端部を欠くため、全体像は不明であるが、鍬である可能性が高い。ただし全体に薄く、柄をとりつける部分が若干長い。耳環(140-4)は断面形が直径4.5~5.0mmのやや楕円形、長さ6.6cmの棒状の銅を円形に曲げたものである。両端は完全につけず、3mmの隙間をあけ、耳に装着する部分とする。出土した瞬間は錆が認められず、赤銅色に輝いていた。塗金の痕跡はない。遺構に埋納されたという状況ではなく、単に水田耕作中に落としてしまったという出土状況であった。浮き(140-2)は軽石製で、上面と下面に円錐形の穴をあける。両者は貫通しない。なお、深掘り坑内のオリブ黒色粘質土層から弥生時代中期の石庖丁(140-1)が1点出土している。

(伊藤)

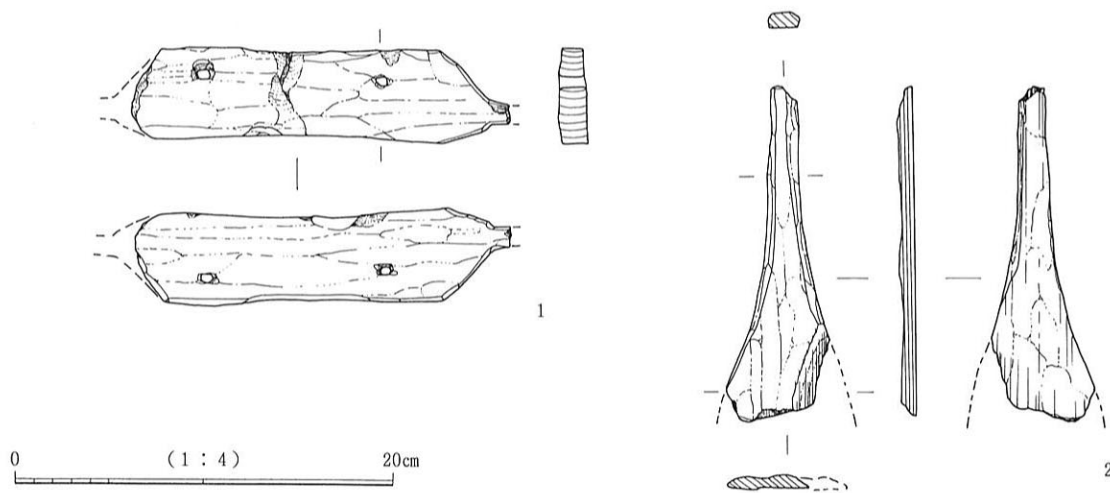


第139图 3 G区出土遗物

(1·2: 1層、3~9: 2層、10~25: 3層、26·27: 4層、28: 5層、29~36: 6層·6面、37~45: 7層、46: 長方形土坑)



第140図 3G区出土石製品・銅製品
(1:9層、2・4:7層、3:2層)



第141図 3G区7層出土木製品

第4章 (その4) の調査成果

第1節 調査に至る経緯

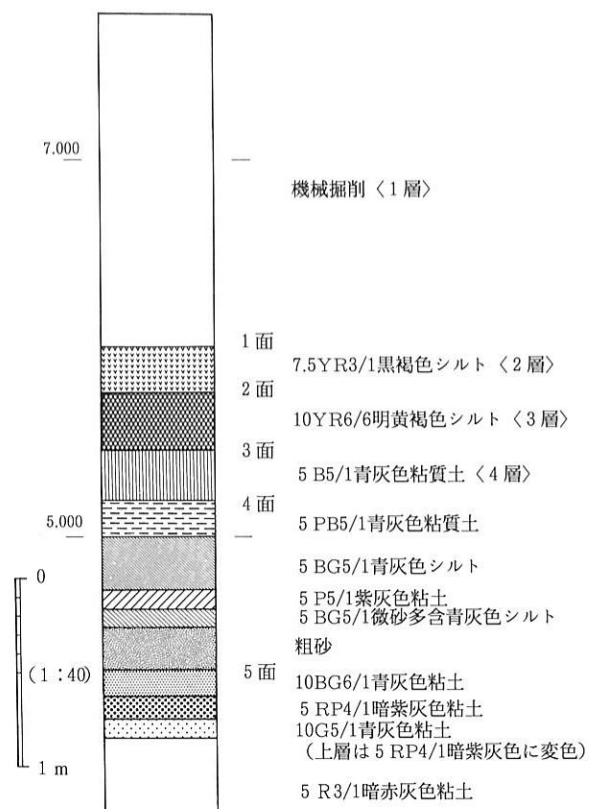
本調査は都市整備基盤公団（旧 住宅・都市整備公団）による防火水槽設置に伴う緊急の事前調査である。調査位置は1次調査A区と2次調査2A区に挟まれており、狭いながらも、これまでの調査によって古墳時代の集落跡が検出され、多くの遺物が出土することが予想された。したがって、大阪府教育委員会の指導のもと、当センターが急遽発掘調査することとなった。調査期間は平成11年6月21日から同年7月13日まで。調査面積は92㎡である。

第2節 調査成果

第1項 基本層序（第142図）

各遺構面は西北隅部がもっとも高く、東端部に向かって緩やかに低くなっている。土層観察はもっとも平均的な調査区の中央部でおこなった。

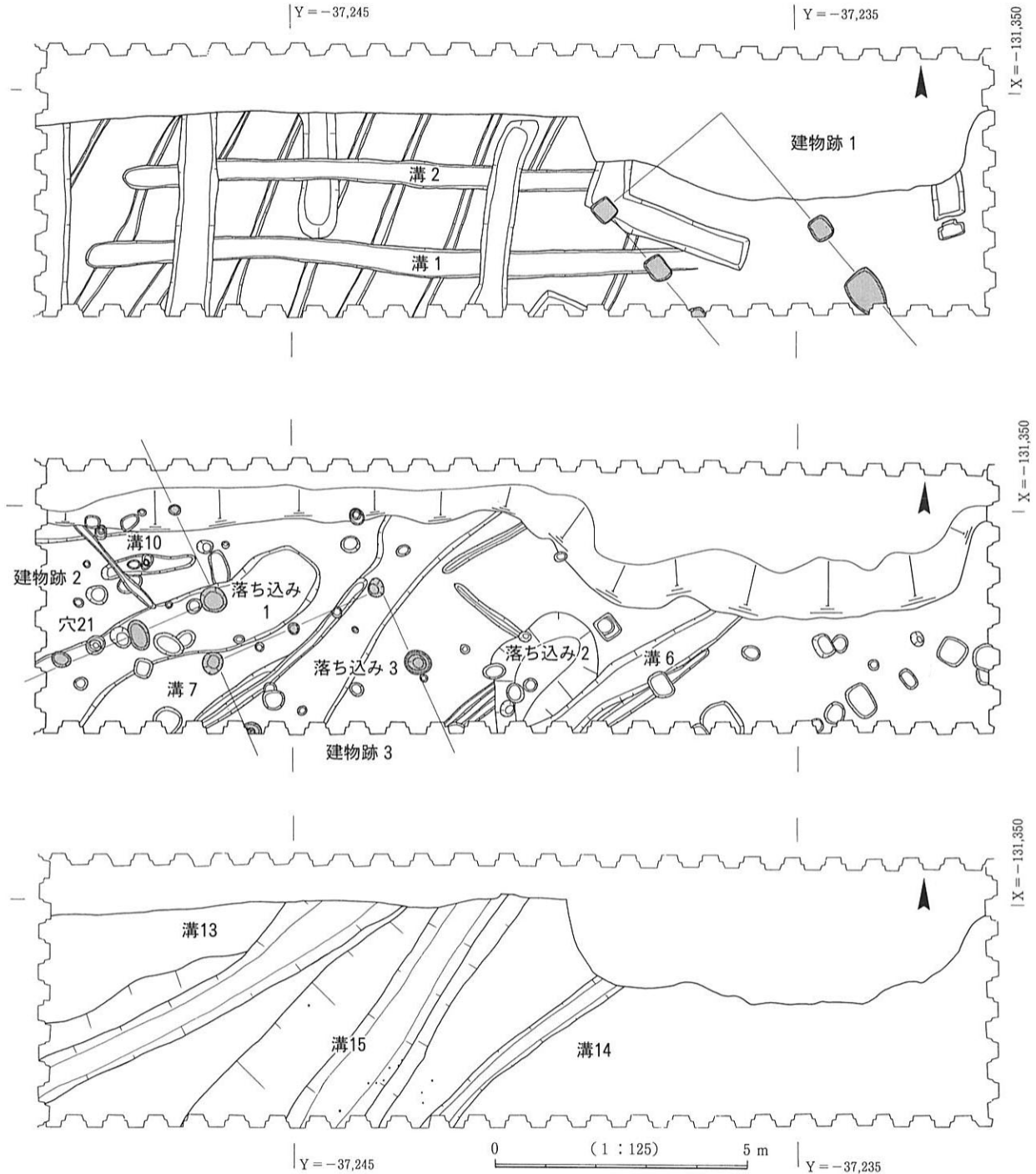
1層は、中世から近・現代にかけての堆積である。現地盤から-1.75mにおよぶ。この1層には、これまでの調査によって5～6層の堆積があったことが確認されている。各面で東西南北方向の鋤溝を検出しているが、その他顕著な遺構を確認していないため、今回は機械掘削で除去した。したがって、今回の調査でいう1面（1層除去後の遺構検出面を1面と呼ぶ。以下4面まで同じ）は、調査区北側の1次調査の6面、2次調査の5面に対応することになる。2層は古墳時代前期から後期の遺物包含層である。約25cm堆積する。黒褐色を呈し、多量の遺物を包含する。3層は明黄褐色シルト、4層は青灰色粘質土層で、それぞれ30cm、26cm堆積する。両者は古墳時代前期の遺物を中心に包含するが、2層に比べて遺物量は極端に少ない。5層は青灰色粘質土で、20cm堆積するが、遺物は皆無であった。なお5層掘削後、下層確認のため幅1.2m、長さ12mの深掘り坑を設定して土層観察をおこなった。4面から68cm下層に粗砂が20cm堆積しており、粗砂除去後の面（5面）でヒトの足跡を検出した。



第142図 基本層序柱状図

第2項 遺構と遺物

【1面】掘立柱建物跡1棟（建物跡1）と溝（溝1・2ほか）、長方形の土坑を検出した（第143図、図版27-1）。



第143図 各面検出遺構

建物跡1は調査区の東半部で検出した(第144図、図版27-2)。東と西の柱筋のみの検出であったが、両者合わせて3間分を確認した。北側の柱筋は攪乱のため検出できなかったが、西の柱筋がさらに北へと延びないことから、当建物跡の北端が調査区内に位置していたことは明らかである。東と西の柱筋間が3.0mであることから、この間に妻柱を1本据える梁間2間の建物跡であったことが推測できる。南の妻柱筋も調査区外のため検出できなかったが、1次調査区の同一面で検出した建物跡がすぐ南に接していることから、おそらく桁行は3間であったと思われる。つまり桁行3間、梁間2間の南北棟で、柱間寸法は桁行・梁間とも1.5m等間であったことが復原できる。北で西に32度振れる。

溝は斜行溝と東西溝があり、調査区の西側2/3に広がる。斜行溝は9条を検出した。幅20~30cm、

深さ5～10cmで、北で東に約20度振れる。それぞれは約1.2m間隔に平行して掘られている。東西溝（溝1・2）はこの斜行溝を切って2条を検出した。幅約50cm、深さ約10cmで、それぞれは心々距離で約1.5m隔てて平行する。

長方形土坑は、これまでの調査によって、浪商学園が建設される直前の水田耕土の直下から掘り込まれた遺構であることが確認されている。土坑の底部が若干残っていただけであり、1面に伴う遺構でない。

<遺物> 1面からは古墳時代前期から後期にわたる土師器、須恵器が出土した（第149図-1・2）。須恵器は図示したもの以外に小片が6点ある。土師器もすべて小片である。

（149-1）は6C前半、（149-2）は6C後半の須恵器坏身である。

1面で検出した溝1からも6C後半の須恵器坏身（150-1）が、溝2からは布留式期の土師器高坏（150-2）が出土した。

【2面】掘立柱建物跡2棟（建物跡2・3）、溝1条（溝6）、落ち込み3基（落ち込み1・2・3）のほか、建物としてはまとまらない穴（穴21ほか）や細溝を多数検出した（第143図、図版27-4）。

建物跡2は調査区の西北隅で検出した（第144図、図版27-3）。当調査区内では東と南の柱筋のみの検出であったが、北側の2次調査では北側の柱筋を検出しており、南北2間であったことが判明する。東西は2間分を検出しているが、さらに西に延びる可能性がある。おそらく東西3間、南北2間の東西棟であったと思われる。柱間寸法は東西1.7m、南北1.9m等間である。北で西に24度振れる。

建物跡3は建物跡2の南側で検出した（第144図、図版27-5）。東西2間、南北は2間分を検出したが、さらに南に延びる可能性がある。おそらく東西2間、南北3間の南北棟であったと思われる。柱間寸法は東西1.8m、南北1.6m等間で、建物跡2と同じく北で西に24度振れる。建物跡2と同時期の建物であろう。

溝6は調査区の中央やや東寄りで検出した。幅約70cm、深さ約10cmの浅い溝である。粗砂を多く含む。

落ち込みは調査区西半で3箇所検出した。西から落ち込み1、3、2である。検出位置はつづく3面で検出した溝3条（西から溝13・15・14）とそれぞれ重なっており、溝が埋まり切った後にできた窪地であったことが判明した。落ち込み内の埋土も2層とまったく同質である。溝、あるいは土坑状の落ち込みで、多量の遺物を包含する。

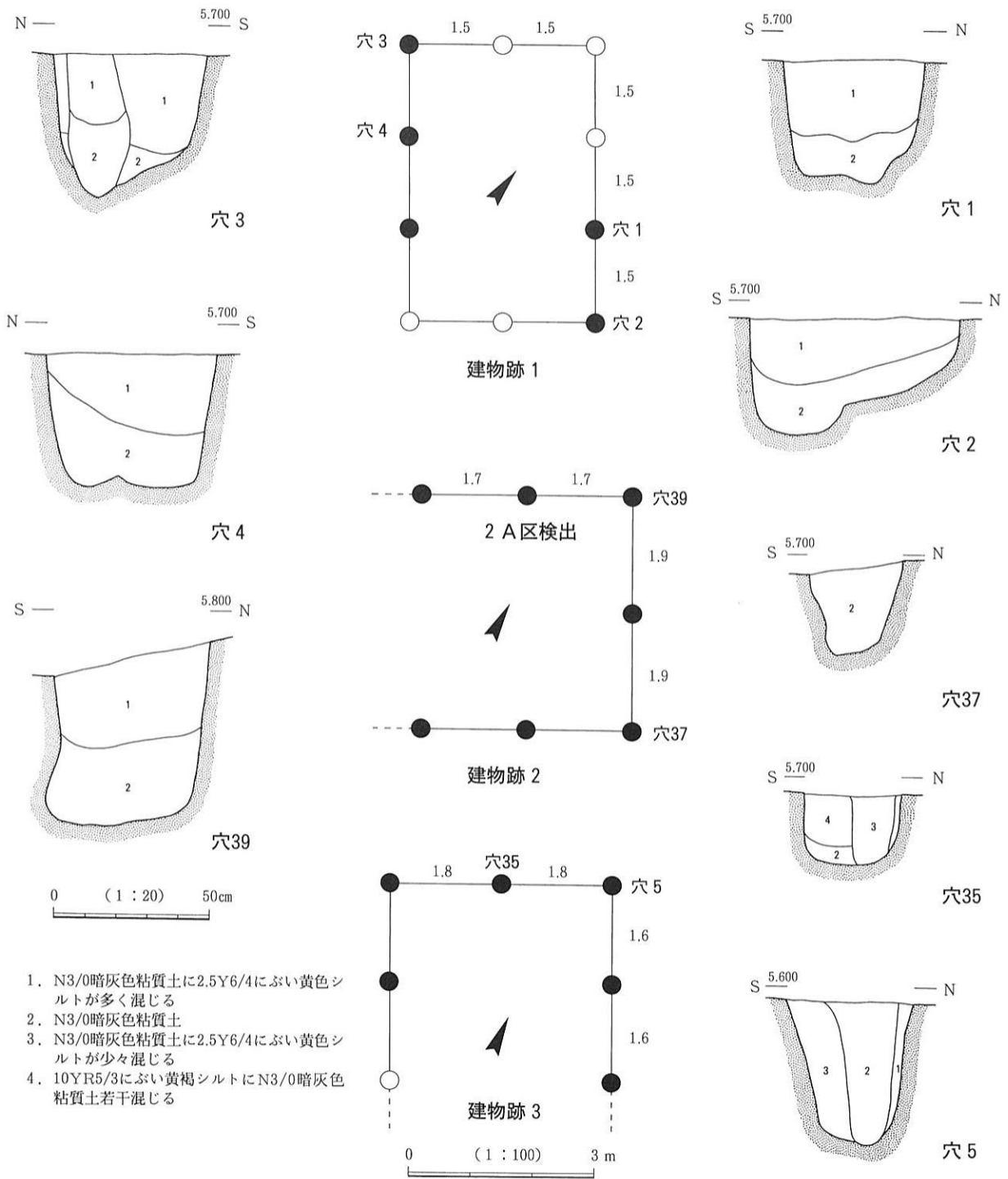
穴21は調査区の西端で検出した。平面形は直径42cmの円形で、深さ44cmを測る。底面に木端を敷く。柱の基礎としたものであろうか（図版27-6）。

<遺物> 2層からは古墳時代前期の土師器が多量に出土した（第149図-3～28）。中心は庄内式期である。甕、壺、鉢、高坏、小型器台などがある。

甕（149-12）は外面のタタキ目を縦方向の指ナデによって部分的にナデ消す。やや特異な形態の高坏（149-24）は、内外面の全面に朱が施されている。（149-21・22）は手づくねの鉢である。（149-9）の二重口縁壺は、口縁部内面が光沢をもつ漆黒色を呈す。いずれも庄内式期に属す。（149-14・15・17）の鉢は口縁端部を上方につまみ上げており、庄内式期の特徴を示している。（149-28）は高坏の脚部である。外面に粗く横位のミガキを施す。（149-26・27）は布留式期の高坏である。

なお（149-3）に記載した6C後半の須恵器坏身は、一覧表作成時になって、1面出土の須恵器坏身（149-2）と同一個体であることが判明した。

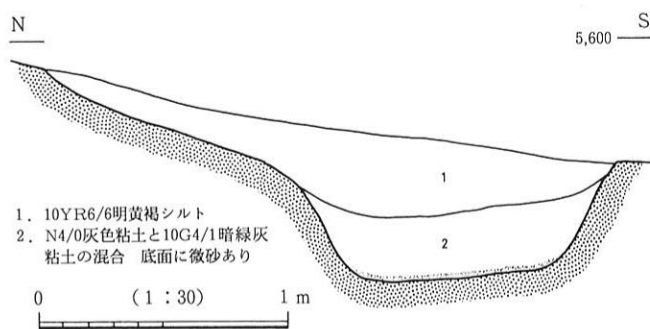
落ち込み1・2・3からも古墳時代前期の土師器が多量に出土した（第150図-11～23、第151図-1



第144図 建物跡模式図及び柱穴断面図

～26)。庄内式期の土師器が中心であるが、わずかに布留式期の土師器も含む。甕、壺、鉢、高坏、小型器台などがある。須恵器は1点も含まない。

甕（150-15）は口縁端部に面をもち、わずかに上方へつまみ上げる。外面は摩滅が著しいがハケ目調整が施されていたことが確認できる。肩部に横ハケが施された痕跡はなく、庄内～布留式期への過渡期に位置するものと思われる。甕（150-20）は外面下半を板ナデによって完全にナデ消し、上半もわずかにタタキ目が確認できる程度にまでナデ消す。（151-21）の甕も同じく外面



第145図 溝13断面図

甕(150-4)は外面をナデ調整によって平滑に仕上げる。口縁端部にはシャープな面をもつ。(150-8)は有段の高坏、(150-9)は椀型の高坏である。弥生中期後半の壺(150-7)を1点含む。

2層および、溝6からは砥石(147-1・2)が出土した。

【3面】溝3条(溝13・14・15)を検出した(第143図、図版28-1)。

溝は3条とも西南から東北に向かって斜行する。

溝13は3条のうちのもっとも西の溝である(第145図、図版28-4)。幅約2m、深さ45cmを測る。西肩部は緩やかに落ちはじめ、途中から急激に落ち込んで幅約70cmのU字状の溝となる。このU字状の溝が本来の姿であったと思われる。溝の底面に微砂が薄く堆積する。

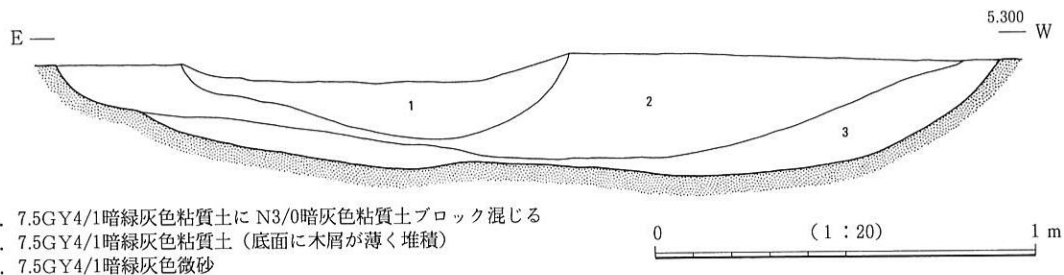
溝14はもっとも東の溝である。幅50cm、深さ約10cmと3条の溝の中ではもっとも規模が小さい。埋土は粗砂である。

溝15は中央の溝である(第146図、図版28-5)。遺構検出が難しく、写真撮影の寸前になってようやく確認できた。遺構検出当初は、幅約1m、深さ約20cmの溝として掘削し、写真撮影および平面実測を行ったが、実際には幅約2.5m、深さ約35cmの溝であることが、つづく4面の調査で判明した。溝内には3層が堆積する。上から暗灰色粘質土ブロック混じりの暗緑灰色粘質土、暗緑灰色粘質土、暗緑灰色微砂である。2層目と3層目の間に木屑が堆積する。3面で検出したのはこのうちの最上層の1層であった。溝の肩部から細い木杭を検出した。おそらく護岸のために打たれた杭と思われる。

〈遺物〉3層から出土した土器は2層に比べて極端に少なく、わずかに99点であった。庄内式期の土師器(第149図-30・31)が中心で、須恵器は含まない。弥生時代中期後半の土器がわずかに混じる。

(149-30)の甕は外面のタタキ目を縦方向の板ナデによってきれいにナデ消し、口縁端部は上方につまみ上げる。口縁部内面はハケ目。(149-31)は口縁端部にキザミを施す広口壺である。いずれも庄内式期に属す。

なお、3面検出の溝13からは庄内式期の甕片が数点出土している。



第146図 溝15断面図

【4面】3面で検出が困難であった溝15の下層部を検出した。4層掘削時に、溝15を横断する長めの土層観察用の畔を残して掘り下げたことにより、この4面検出の溝が、実際には3面から切り込まれていたことが断面観察によって確認できた。

その他顕著な遺構は検出できなかった。

〈遺物〉4層から出土した土器は3層出土の土器よりもさらに少なく、わずかに16点であった。須恵器は含まない。ほとんどが小片のため図化できなかった。庄内式期の土師器が中心で、弥生時代中期後半の土器(第149図-29)がわずかに混じる。

【5面】下層確認のために設定した深掘り坑の下層(5面)から足跡を検出した(図版28-2・6・7)。

足跡は深掘り坑の下層に堆積する粗砂を除去した面で検出した。明らかにヒトの足跡である。足のサイズは約22cmである。水田跡に残されたものと考えられるが、水田畦畔は検出できなかった。

同様の砂層の堆積は、3G区の深掘り坑でも確認され、また、足跡状の凹凸も検出されている。

〈遺物〉5面を覆う砂層からは、弥生時代中期の壺の小片が1点出土した。5層から砂層までの間からは弥生時代中期から後期にかけての土器片が3点、古墳時代前期と思われる土師器片が1点出土した。すべて小片のため、図化できなかった。3次調査3B区では弥生時代中期後半の包含層が確認されていることから、おそらく同時期の包含層であったと思われる。

第3節 小結

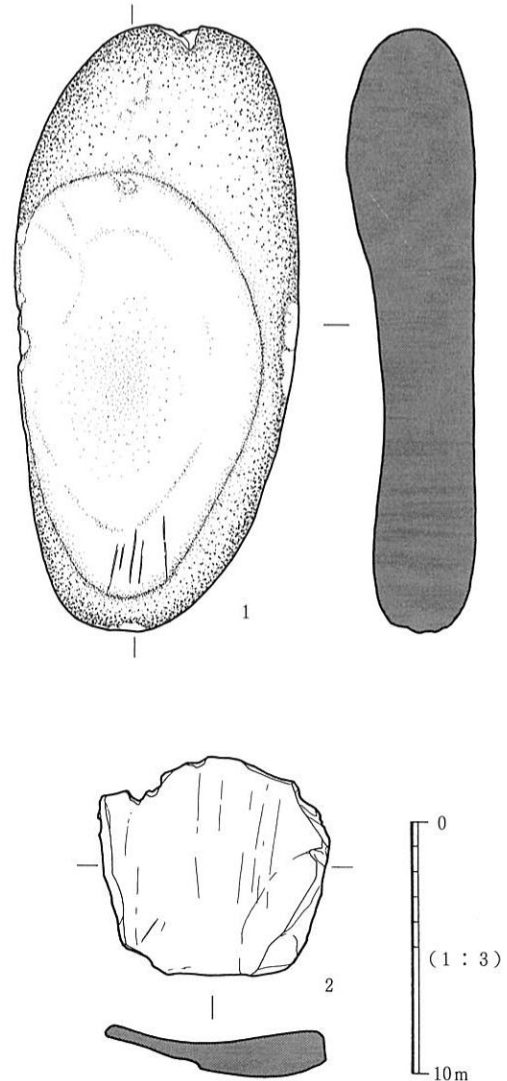
●1面から3面の各面で遺構を検出した。1面と2面では建物跡を検出した。3面では溝3条のみを検出した。

●小面積の調査ではあったが、出土した遺物は55×35×15cmのコンテナ約15杯分におよんだ。そのうち須恵器はわずかに16点であり、残りは弥生土器を若干含む古墳時代前期を中心とする土師器であった。須恵器は主に1面および2層の上層から出土している。もっとも新しいもので6世紀後半の須恵器がある。1面検出の溝からも6世紀後半の須恵器小片が出土していることから、1面検出の遺構には6世紀後半の時期があたえられよう。

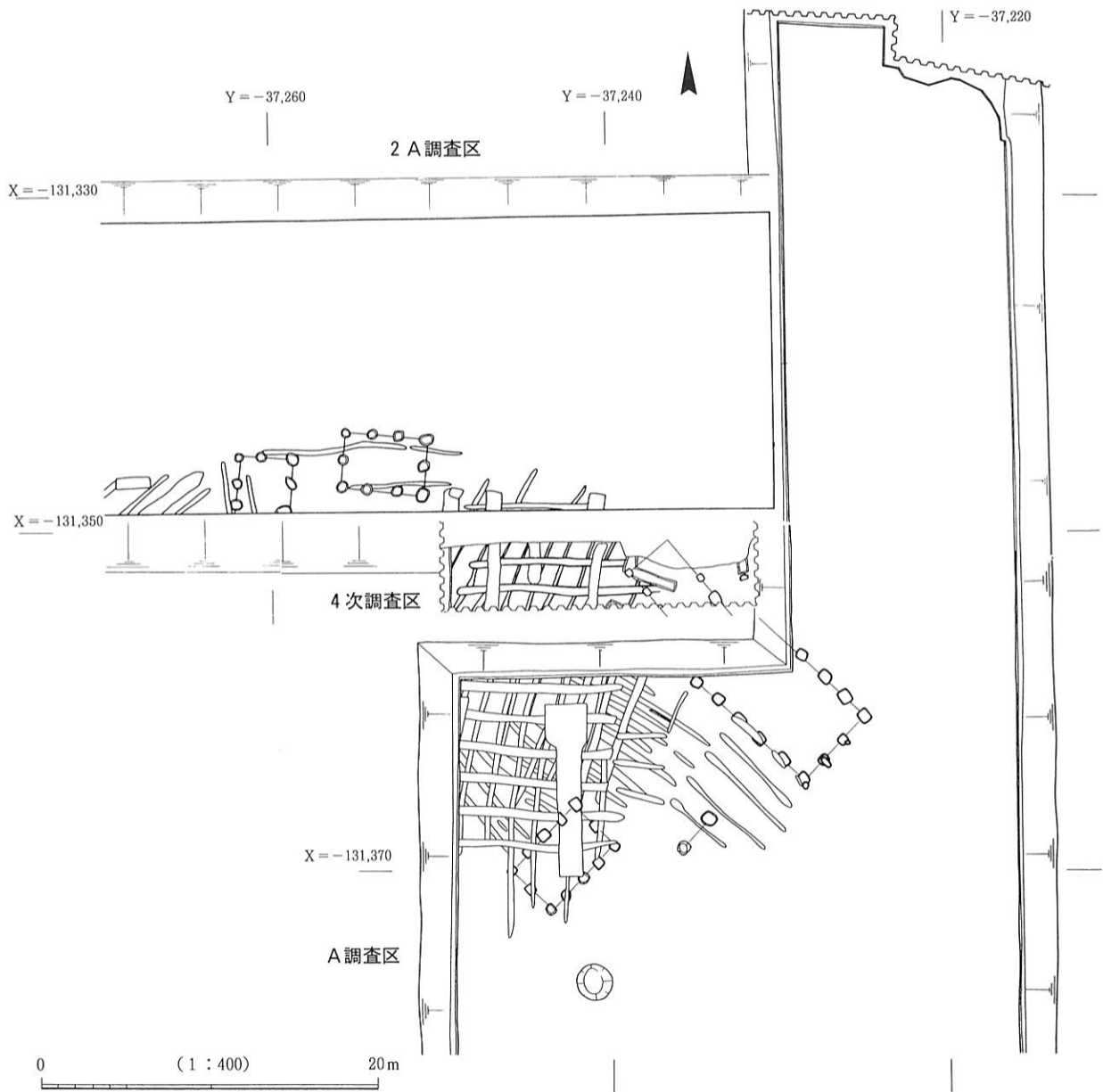
●2層上層のわずかな須恵器を除けば、2層・3層出土の土器、および2面・3面検出の遺構出土の土器は、ほとんどが古墳時代前期の土師器である。

●5面検出の足跡は水田跡に残されたものと推定される。これまでの調査では弥生時代の水田跡は確認されていないが、出土遺物からは弥生時代中期の遺構である可能性が高い。また、同様の遺構が3G区の深掘り坑でも確認されていることから、面的な広がりをもっていたことが判明する。

(伊藤)

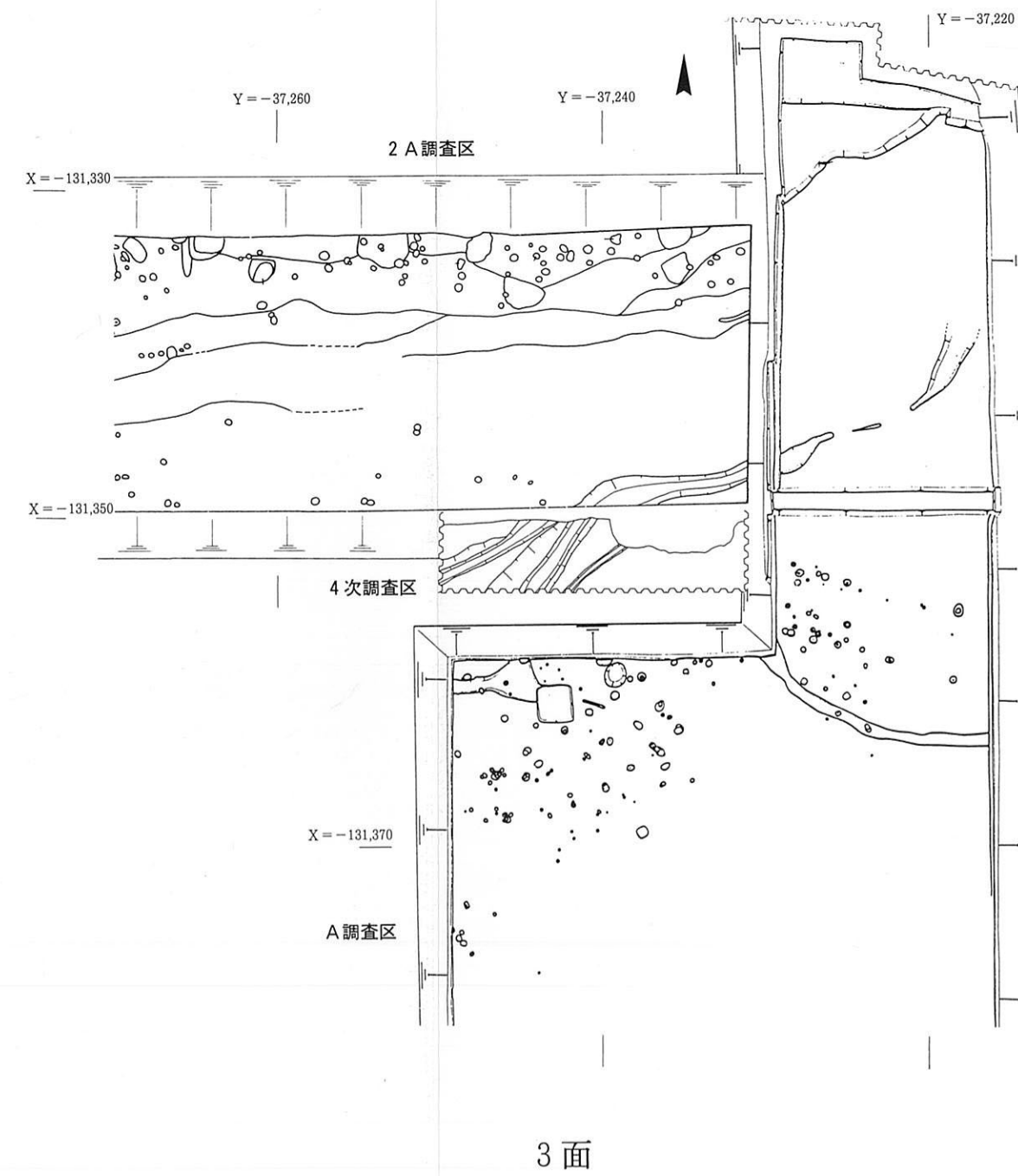
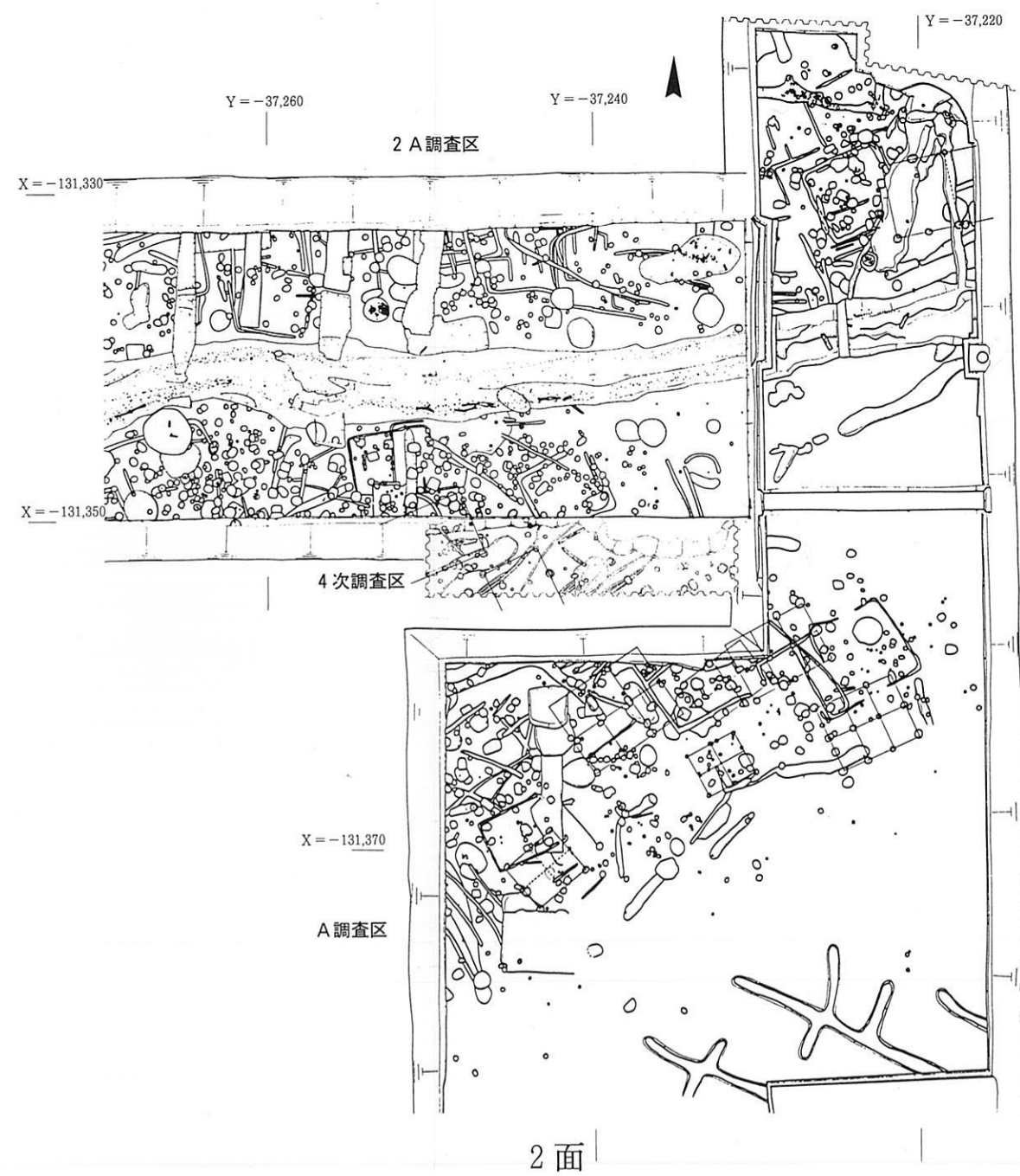


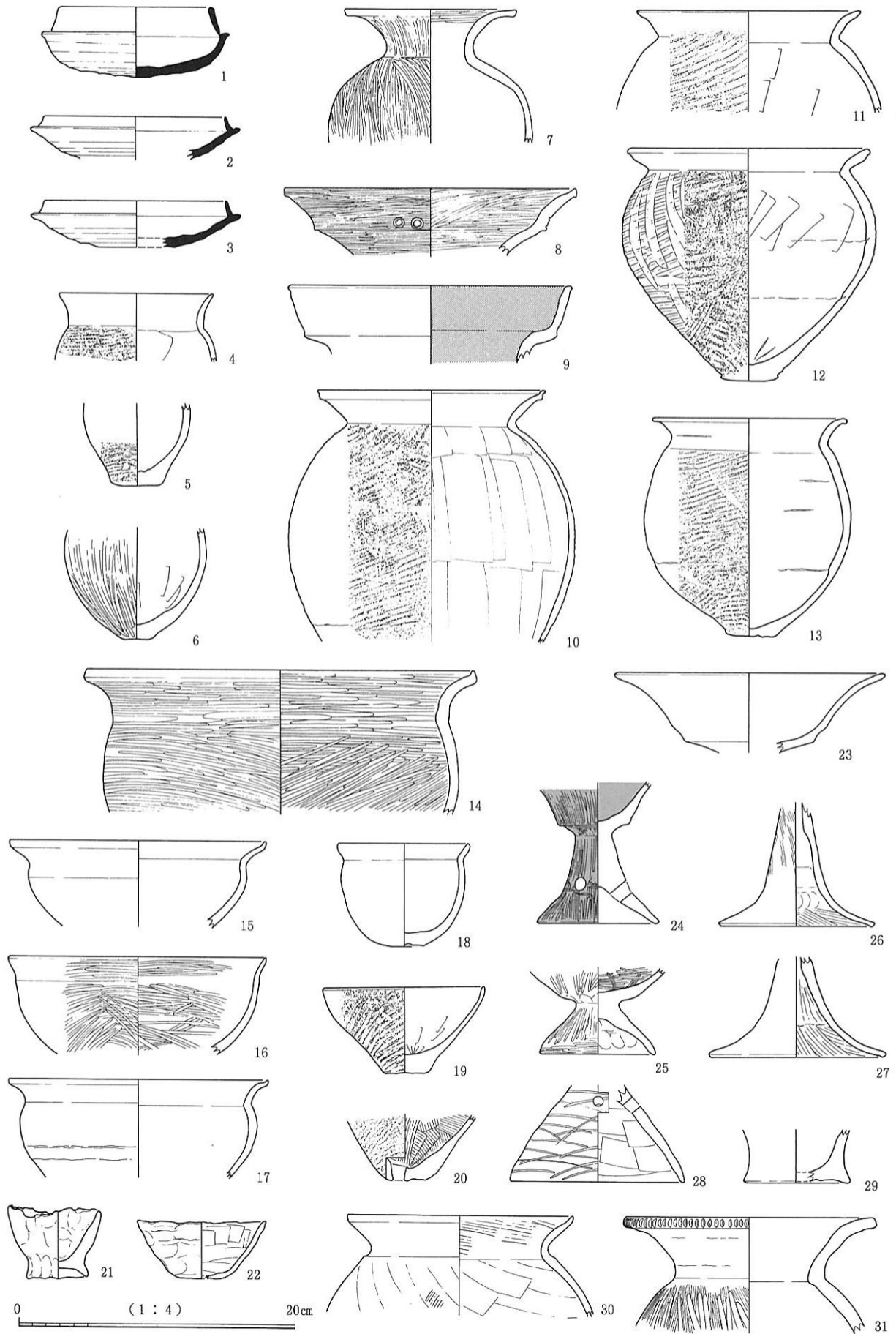
第147図 4次調査区出土石製品
(1:溝6、2:2層)



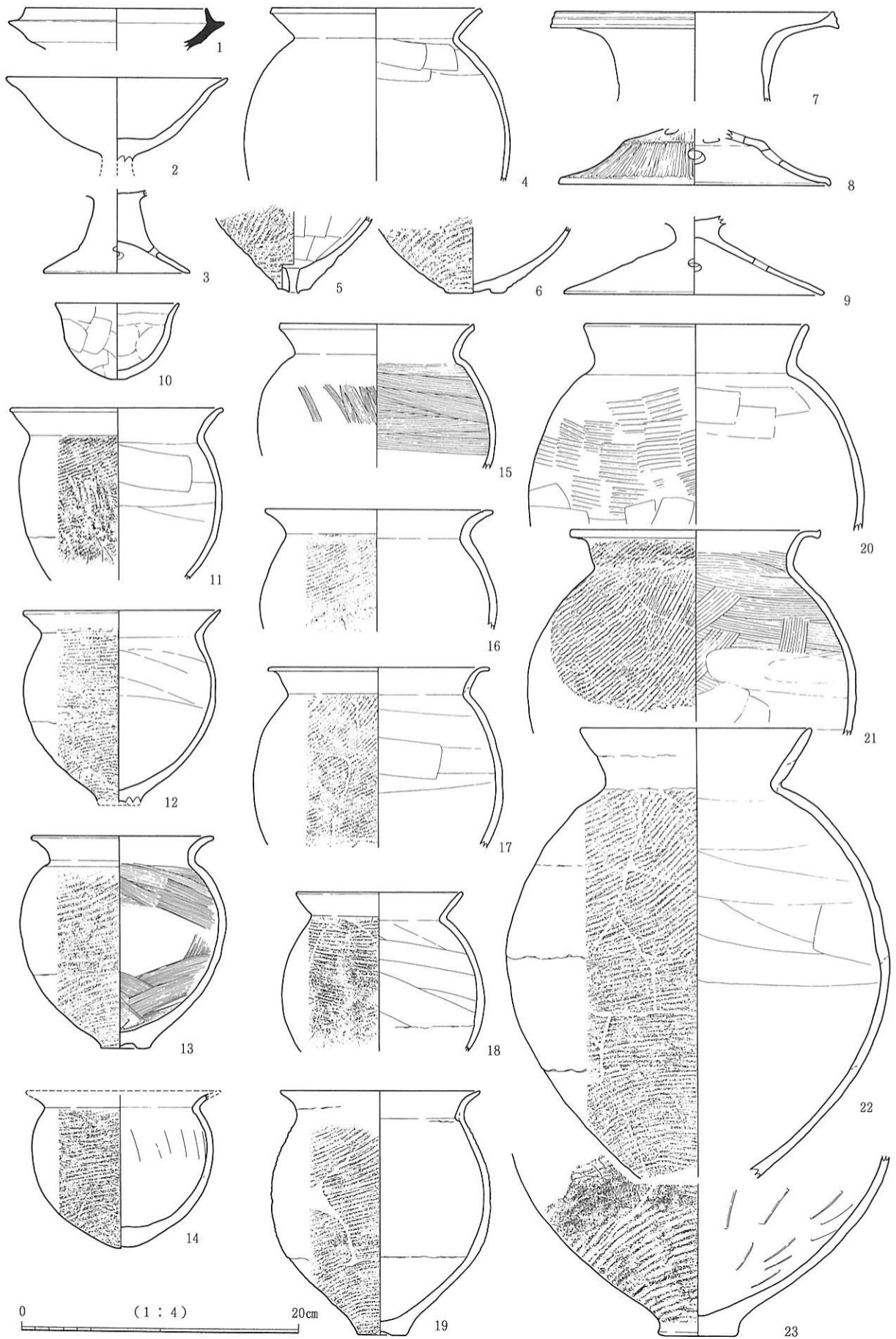
1 面

第148図 4次調査区周辺遺構変遷図

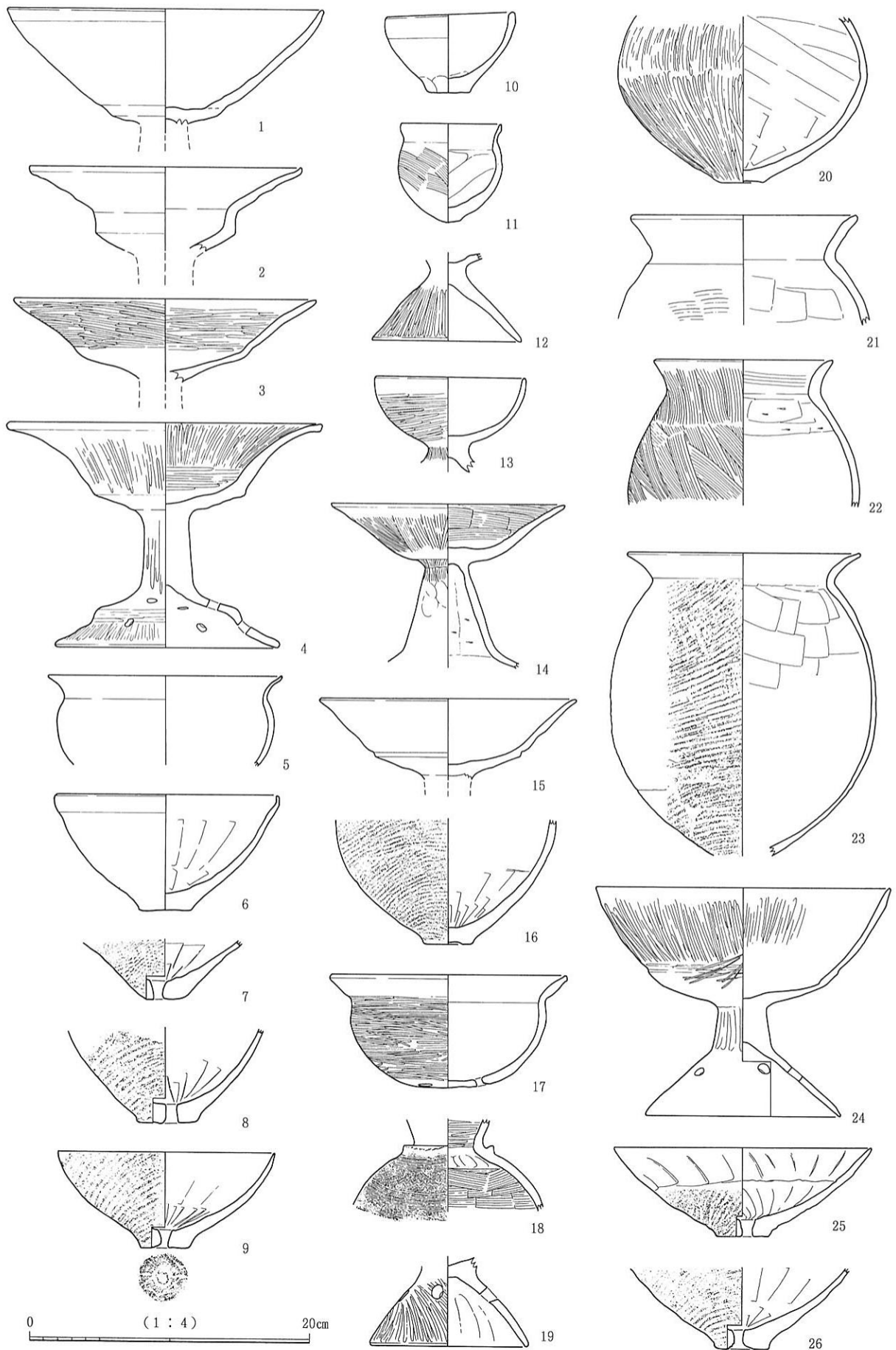




第149図 4次調査区出土土器 (1・2:1面、3~28:2層、29:4層、30・31:3層)



第150図 4次調査区出土土器 (1:溝1、2:溝2、3~9:溝7、10:溝10、11~23:落ち込み1)



第151図 4次調査区落ち込み出土土器 (1~13:落ち込み1、14~16:落ち込み2、17~26:落ち込み3)

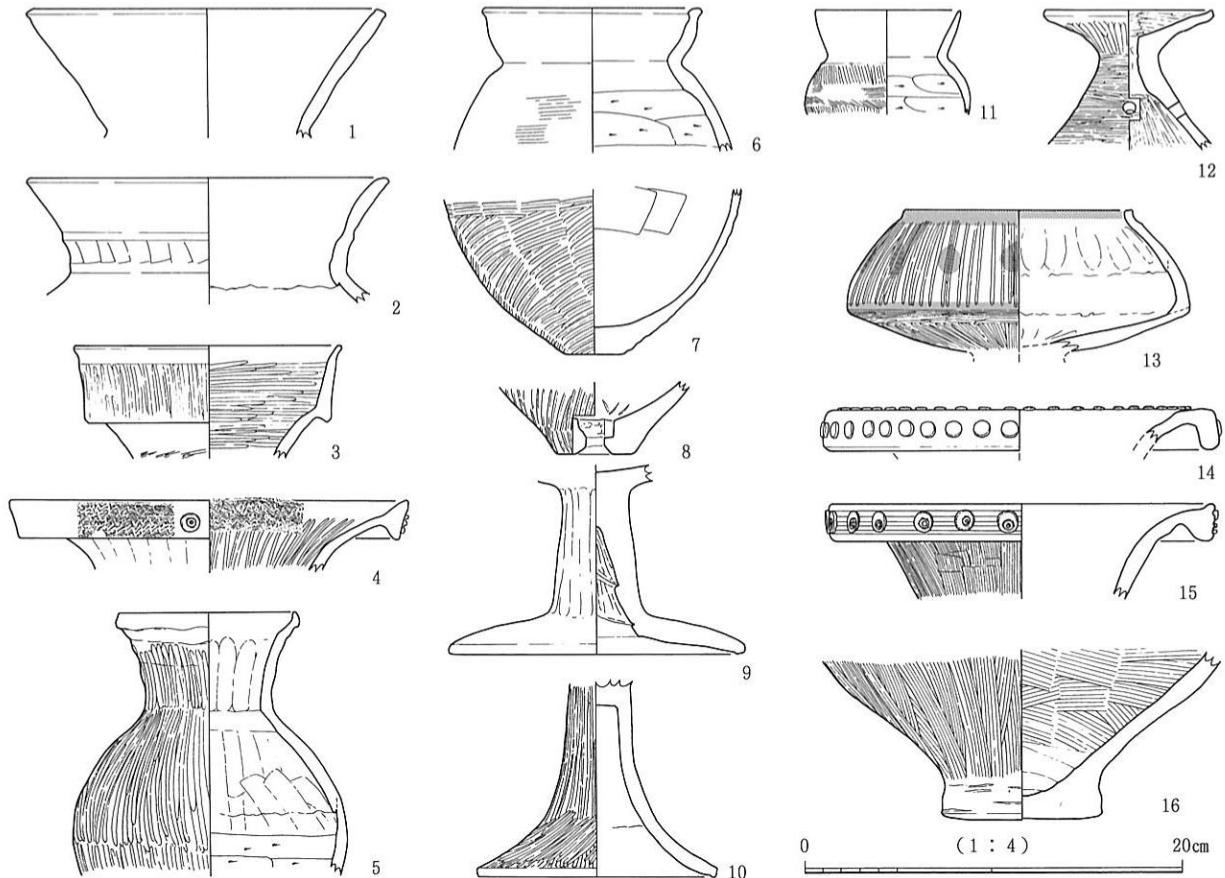
第5章 学園町北端部における 汚水管理設工事に伴う立会調査

平成10年（1998）年12月から平成11年（1999）1月にかけて、調査地（学園町）の北端部に汚水管理設工事が実施された。調査区は非常に狭く、且つ深かったため、発掘調査は行えず立会調査となった。大阪府教育委員会の指導のもと、ちょうど3次調査継続中であつた当センターが立ち会うこととなった。調査は主に遺物の取り上げ作業に重点がおかれた。

調査の結果、2次調査の2A区・3次調査の3B区、および4次調査区で確認された古墳時代の遺物包含層が、立会調査でも確認できた。柱穴・土坑等の遺構も若干確認できたが、正確な記録はできなかった。砂が堆積する溝状の遺構から多量の遺物が出土した。この溝状の遺構は、遺構の堆積状況・出土遺物から、2次調査2A区で検出した溝120のつづきであると思われる。採取できた遺物は弥生時代中期の弥生土器や須恵器出現以降の土師器も若干混じるが、古墳時代前期の土師器が中心である。なお須恵器は1点も含まれていなかった。特異なものとして、弥生時代中期末から後期初頭に位置する台付無頸壺（152-13）がある。生駒西麓の胎土で、外面に朱で紋様が描かれている。

これらの遺物実測図のみ以下に記載する。

（伊藤）



第152図 立会調査出土土器

第6章 まとめ

4次にわたって行われた発掘調査、および整理作業の結果、以下のことが判明した。なお（その1）・（その2）の成果については前冊、および本書第1章第2節にゆずり、本書では（その3）・（その4）の成果を中心に記す。

中・近世

（その3・4）の調査では中世の集落域は検出できなかった。中世以降、当調査地のほぼ全域は水田、あるいは畑といった生産域となっている。各坪の境には碁盤目状に溝をめぐらし、さらにその坪内を細かく10等分して耕作を営んでいる。浪商学園が造成される直前の遺構である長方形土坑の長さが、1坪（1町）の10分の1の長さにあたる約11mを基本としていることから、学園町周辺では各坪内が長地型に10等分されていたことが判明する。なお、1次調査区で検出した坪境の溝（河川1）を境に、東と西とでは長方形土坑、鋤溝の向きに違いがみられる。すなわち河川1の東側では、基本的に長方形土坑の向きは東西方向、鋤溝は南北方向で、河川1の西側では、長方形土坑の向きは南北方向、鋤溝は東西方向となる。これらは条里制による耕地区画に規制されたものであり、この区画が中世前半期から浪商学園が造成される直前までつづいていたことが判明した。

集落域は1次調査C区西端で一部を検出しているが、その南に接する3D区には及んでいない。おそらく1次調査C区西端から西および北側あたりが集落域であったと思われる。

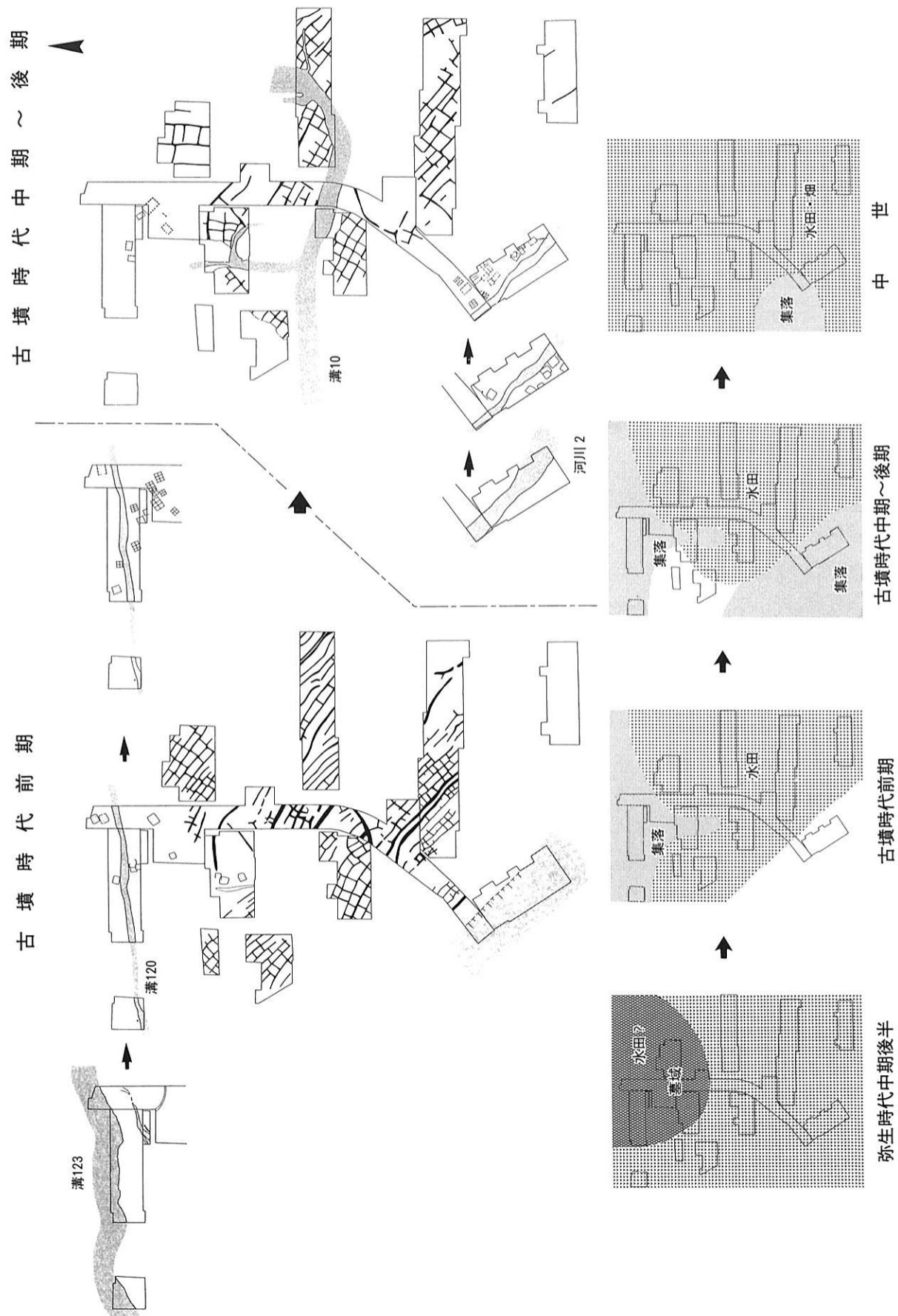
古代

中世の遺構の下は、直ちに古墳時代の遺構面となる。明確な古代の遺構は検出できなかった。また、遺物もわずかであった。この所見は（その1・2）の調査でも同じである。

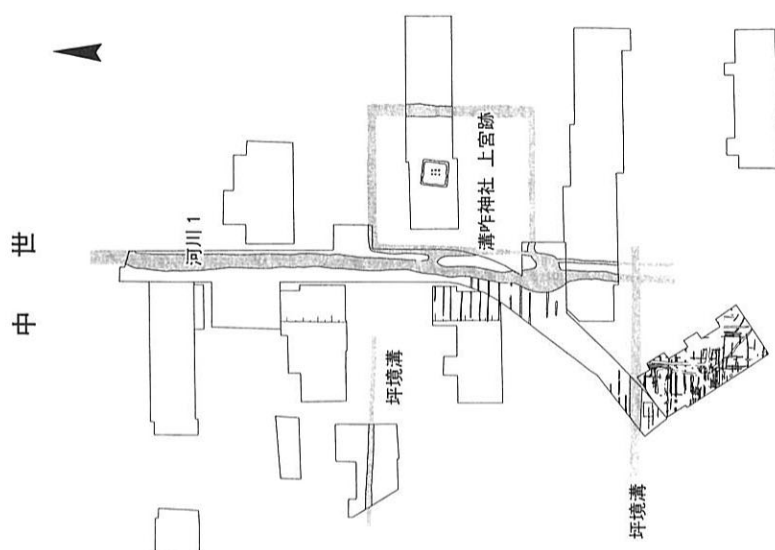
古墳時代

溝作遺跡が古墳時代前期から後期を中心とした大集落であったことは、これまでの調査によって既に明らかとなっており、前冊の第7章総括においてこの時代の景観復原が為されている。基本的に大きく変わるものではないため、本書ではそれ以降に新たに判明した点などについて簡単に触れておく。

●古墳時代前期から中・後期にかけて、集落の中心が移動していたことが判明した。大まかにいえば、前期には1次調査A区・2A区・3B区・4次調査区を中心とする北方集落、中期から後期にかけては1次調査C区西端・3D区を中心とする南方集落という移動である（第153図）。前期には調査地の北端部を流れる溝123（1次調査A区・2A区検出）が埋没した後に、北方にのみ集落が築かれる。1次調査A区・2A区では竪穴住居跡と掘立柱建物跡とを同一面で検出しており、両者が切り合っている場合に関しては、竪穴住居から掘立柱建物への建替えが行われたことが指摘されている。ただしすべてがそうであったとは考え難く、たとえば住居と倉庫という関係で両者が共存していた可能性も考慮しておかねばならない。3B区の調査でも同一集落面で竪穴住居跡を3基検出しているが、集落の東と西側に水田が迫っており、3B区は北方から舌状に張り出した集落の末端部に当たっていることが判明した。これにより3B区の南側が集落南限に当たっていることがほぼ明らかとなった。3B区では集落域と西側の水田域との境に溝13を設け、両者の境とするが、東側の水田域との境には明確な施設は設けておらず、緩やかな傾斜の途中から水田域へと移行している。この時期、南方には集落はない。河川2の前身ともいえる大きな溝が3D区あたりを流れていたものと思われる。その溝は徐々に幅を狭め、須恵器生産が



第153図 古墳時代遺構変遷図



始まる頃には、3 D区の中央を縦断する溝（河川2）となる。その後が南方集落の盛期となる。5 Cの終わり頃に、まず河川2を挟んで両側に竪穴住居を主体とする集落が形成され、その後順次掘立柱建物を主体とする集落へと移行していく。ただしこれも、ある時期を境に竪穴住居と掘立柱建物とが完全に建て替わったわけではなく、両者が共存していた時期があったことも考慮しておかねばならない。なお両者とも河川2の流れに主軸が規制されて建てられている。竪穴住居には作り付けの竈が設けられているものもあるが、移動式の竈も比較的多く出土している。特異な遺物として韓式系軟質土器や製塩土器が多く出土していることも特徴的である。この南方集落からは滑石製品、同未製品、および滑石の原石が出土しており、南方の集落内で滑石の加工が行われていたことも明らかとなった。この時期、集落の中心は南に移動しているが、北方の集落が完全に廃棄されたわけではない。わずかな建物は北方集落にも残っている。1次調査A区・2 A区・4次調査区では掘立柱建物を5棟検出しており、出土した須恵器から6 C後半の遺構であることが判明している。前期の掘立柱建物の柱掘方は小さな円形で、比較的浅かったのに対して、6 C後半の掘立柱建物の柱掘方は隅丸の方形、あるいは長方形を呈し、深い。また建物の規模も3間×5間や4間×2間のように大型化するなど、建物自体は前期に比べてむしろ立派なものとなる。この後期の集落域は3 B区でも検出しているが、前期の集落と同じく舌状に延びる末端部に位置しているため、建物跡等の遺構は存在せず、集落を区切る溝だけが流れている。最も重要な溝は、集落を北と南に分断する溝1である。溝1は舌状に延びる集落の先端を東西に横断するため、1次調査A区、2 A区から南に延びていた集落は、ここで一旦途切れることとなり、溝の南にはまた別の集落が広がるという景観となる。溝1周辺には遺構がまったく存在していないことから、2 A区で検出した溝120のような集落内の溝というより、北方の集落の南を画する溝（＝南の集落の北を画する溝）であったと考えられる。なお溝1の南に広がる集落は、3 B区の南の3 F区では検出していないことから、小規模な狭い集落であったと推定される。また集落域と西方の水田域との境に設けられた溝2は、前期の溝13を整備したものであり、後期になって溝の両肩に杭を打ち、より明確な水田域との境界となっている。その西方の水田には、3 B区の西北隅から3 A区、3 C区西北部にかけて、水田畦畔が検出できない箇所がある。水田域の中ではもっとも高い部分であり、水田としては使われていなかった可能性がある。

●これら調査地の北方と西南隅に位置する集落は、面積でいえば調査地である学園町の約1/3足らずであり、残りの約2/3はすべて水田域が占めている。現在の学園町の地盤は、西北部がもっとも高く、東南方向へ向かってわずかに降っているが、古墳時代の水田面も同様の傾斜を示していたことが、各調査区の断面観察によって判明した。等高線は南西から東北方向に向かって引くことになるが、水田に設けられた大畦畔は、この等高線にほぼ直交するように設定されている。

なお、検出した水田畦畔から、以下の手順によって水田が区画されたことが復原できる（第154図）。

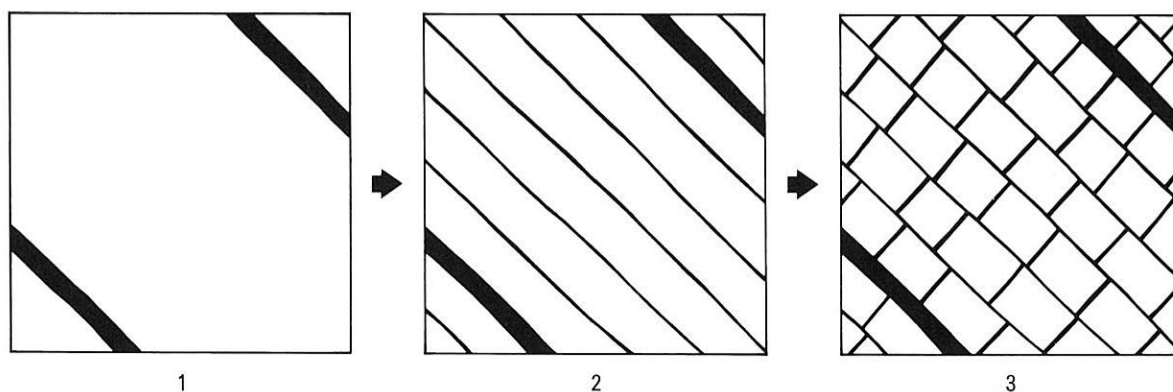
①水田を作る場所に大畦畔を通し、大区画水田を設定する。大畦畔の向きは前述したとおり等高線に直交するように東南から西北方向とする。なお1次調査B区では、東南から西北方向に延びる大畦畔が、22~23mの間隔をあけて平行していることを確認している。

②大畦畔と大畦畔の間に、それらと平行する小畦畔をほぼ等間隔に配し、長い水田区画を設定する。

③平行する畦畔間に、それらとほぼ直角に交わるように小畦畔をつなぎ、任意の広さに水田を区画する。である。

●3F区で検出した溝10出土の土器と、3D区検出の古墳時代中期から後期の集落出土の土器は、時代的にちょうど重なるものである。製塩土器が出土するのも、3D区の集落以外では溝10だけである。これは溝10の延長上に集落が広がっていたことを示唆するものである。溝10は3C区では検出していないことから、3F区の北側をほぼまっすぐ西に延びて安威川に達していたと思われ、集落も3D区から3F区の西側、現在の幼稚園が建っているあたりまで広がっていたものと推定される。古墳時代の終わりに当地域を襲った洪水は、おそらく当遺跡の西側に接する安威川が氾濫したために起こったものと考えられるが、安威川から水を引く溝10にも当然大量の土砂が流れ込むこととなった。溝10周辺に広がる集落は洪水に飲み込まれ、大量の土器を流出する結果となった。水田も砂で覆われたため耕作不能となり、溝咋の集落は廃絶することとなった。

●本書では出土した土器に対する観察が十分に行えなかったが、（その1・2）と同様、遠隔地から運ばれた土器、特に庄内式期に東部瀬戸内地方から搬入された二重口縁壺が多いことが注意された。また同時に、石英絹雲母片岩、紅簾石絹雲母片岩などの、俗にいう結晶片岩が多く出土したことが注目された。今回の調査では結晶片岩が出土したのは3D区を中心とする古墳時代中期から後期の集落からであるが、これまでの調査では北方の前期の集落からも出土している。結晶片岩は和歌山県紀ノ川、徳島県吉野川流域にみられる石であり、上記土器とともに搬入された可能性が指摘できる。なお、同じ茨木市内には、当遺跡で出土したのと同じ結晶片岩を小口積みにして竪穴式石室を構築する將軍山古墳、紫



第154図 水田区画方法復原図

金山古墳が所在していることが広く知られている。両古墳とも茨木川水系に位置しており、安威川水系の当遺跡と直接結びつくとはいい難いが、少なからず遺跡の北方に点在する古墳群と何らかの関係があったことは指摘できるであろう。古墳時代をとおして茨木市内にはるばる結晶片岩が運ばれていること、またその結晶片岩が古墳の石材として利用されていることなど注目すべき点が多い。

弥生時代

●（その3）の調査において、はじめて弥生時代の遺構が面的に検出された。3B区8面で検出した弥生時代中期後半の墓域である。これにより溝咋の地に弥生時代中期後半から人々が生活していたことが確実となった。これまでの調査でも、2A・2C区で弥生時代中期末から後期初頭の土器棺が検出されているが、それらは墓域の中で検出されたものではなく、古墳時代の遺構面から単独で検出されたものであった。したがって十分な遺構の解釈が行えていなかった。3B区8面の調査では、蛇行する数条の溝に挟まれた場所から木棺墓1基を検出した。遺構の検出状況からは周溝墓であるとはいいい難いが、出土した弥生時代中期後半の土器は供献されたものであった可能性が高い。

●3G区と4次調査でおこなった下層確認調査で、標高4m前後の地点に粗砂が厚く堆積していることを確認した。またこの粗砂を除去した面でヒトの足跡を検出した。古墳時代後期の水田跡も、厚く堆積する洪水砂を除去した面で検出しており、洪水砂によってパックされていたために水田面に残る足跡も明瞭であった。1次調査A区深掘り坑で採取された土壌からは、プラントオパールが多数検出されている（前冊第5章第4節）こと、また3G区深掘り坑から石庖丁が出土していることなどからも、下層で検出した足跡は水田面に残されたものである可能性が非常に高い。また、粗砂はおそらく洪水によるものと思われる。遺物は両調査区とも数点出土しただけであるが、確実に弥生時代中期まで遡る遺物であることから、この水田跡は弥生時代中期の遺構と考えられ、洪水も古墳時代末以前に弥生時代中期にも一度この地を襲っていたことが明らかとなった。これにより当遺跡内には墓域以外に弥生時代の生産域も広がっていたことが判明した。

以上のように、溝咋遺跡は弥生時代中期後半から中世・近世に至る複合遺跡であり、北摂地域にとって歴史上非常に重要な位置を占めていたことが明らかとなった。なかでも古墳時代の遺構は居住域と生産域とにまたがる大規模なものであり、出土した遺物量ともに他の時代を圧倒している。遺物には遠隔地からもたらされたものが多く含まれており、安威川の水運を生かした交易が盛んであったことを物語っている。北方に点在する古墳との関係を示す遺物も出土しており、それらの古墳との関係からも注目される重要な遺跡といえる。また出土した膨大な量の土器は、古墳時代前期から後期までを網羅しており、北摂地域における古墳時代の土器の変遷を明らかにする重要な資料である。

本書では重要な遺構・遺物であるにもかかわらず、両者ともに十分な検討が行えず、資料の報告のみにとどまってしまった。今後、遺跡のもつ性格・意義あるいは重要性などについての踏み込んだ見解が示されることを期待したい。本書および前冊が大阪北摂地域の歴史解明に少しでも役立つならば幸いである。

なお、これまで溝咋遺跡として遺跡分布図にマークされた範囲は、五十鈴町から学園南町、学園町にかけての範囲であり、今回の調査地である学園町はその北端部に当たっていた。しかし、古墳時代前期の北方集落は学園町よりもさらに北へ範囲を広げることが確実であり、遺跡の範囲を修正するとともに、今後北方の開発には注意しなければならない。

（伊藤）

第4表 土器一覧表

3 A区

(伊藤)

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
8-1	29-1	瓦器・椀	12C末~13C初	3 A区-1層	初期須恵器 伊賀焼	A-7
-2	29-2	瓦器・椀	12C			A-6
-3	29-3	瓦器・椀	12C			A-5
-4	29-4	須恵器・高坏蓋	5 C前半			A-16
-5	29-6	陶器・急須	近世			A-33
-6	29-5	瓦質土器・鍋	13C~14C			A-8
-7	29-7	瓦質土器・盤	12C~13C			A-1
-8	29-8	須恵器・捏鉢	13C前半	3 A区-2層	東播系 東播系	A-2
-9	29-9	須恵器・捏鉢	12C末~13C初			A-3
-10	29-10	瓦器・椀	14C	3 A区-3層		A-11
-11	29-11	瓦器・椀	12C			A-13
-12	29-12	土師器・皿	13C後半			A-14
-13	29-13	土師器・皿	14C			A-12
-14	30-1	土師器・皿	13C	3 A区-4層		A-18
-15	30-2	土師器・皿	13C			A-17
-16	30-3	瓦器・椀	12C前半			A-20
-17	30-4	瓦器・椀	12C前半			A-19
-18	30-5	瓦器・小皿	12C~13C			A-21
-19	30-6	瓦質土器・鍋	13C~14C	3 A区-5層	IV類	A-23
-20	30-7	白磁・碗	12C			A-22
-21	30-8	須恵器・坏	8 C			A-24
-22	30-9	土師器・壺	古墳前期(庄内)	3 A区-8層	内面に放射状暗紋	A-28
-23	30-10	土師器・坏	6 C末~7 C初			A-26
-24	30-11	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)~中期初	3 A区-9層		A-27
-25	30-12	土師器・壺	古墳前期(庄内)			A-30
-26	30-13	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			A-32
-27	30-14	土師器・二重口緑壺	古墳前期(布留)			A-29
-28	30-15	土師器・二重口緑壺	古墳前期(布留)			A-31

3 B区

(伊藤)

24-1	31-1	須恵器・捏鉢	11C末~12C前半	3 B区-1層	東播系	B-32	
-2	31-2	須恵器・捏鉢	12C末~13C初	3 B区-2層	東播系	B-37	
-3	31-7	須恵器・捏鉢	12C~13C		東播系	B-40	
-4	31-3	古瀬戸・茶入れ	16C前半		鉄釉	B-36	
-5	31-8	灰釉陶器・碗	10C			B-34	
-6	31-5	土師器・皿	13C後半			B-35	
-7	31-6	瓦質土器・鉢	13C後半			B-38	
-8	31-4	瓦質土器・羽釜	14C~15C			B-33	
-9	31-9	須恵器・捏鉢	13C	3 B区東方落ち込み3層	東播系	B-42	
-10	31-10	瓦質土器・鍋	14C末~15C前半	3 B区東方落ち込み1層		B-41	
-11	31-14	土師器・皿	13C	3 B区東方落ち込み3層		B-44	
-12	31-12	土師器・皿	13C		B-45		
-13	31-13	土師器・皿	11C	3 B区東方落ち込み2層		B-299	
-14	31-11	瓦器・椀	14C前半	3 B区東方落ち込み3層		B-43	
-15	31-15	瓦器・椀	13C末~14C初			B-46	
-17	31-21	須恵器・捏鉢	13C		東播系	B-59	
-18	31-22	土師器・皿	11C後半	3 B区-3層		B-51	
-19	31-18	瓦器・椀	13C後半			B-50	
-20	31-17	瓦器・椀	13C前半		楠葉型	B-55	
-21	31-20	瓦器・椀	13C末			B-49	
-22	31-19	瓦器・椀	13C前半			B-57	
-23	31-16	瓦器・椀	13C前半			B-52	
-24	32-1	瓦器・椀	12C前半		3 B区-4層		B-71
-25	32-2	瓦器・椀	12C前半			楠葉型	B-72
-26	32-5	瓦器・椀	13C前半			B-67	
-27	32-11	瓦器・椀	12C前半	楠葉型		B-300	
-28	32-7	瓦器・椀	12C			B-63	
-29	32-4	黒色土器・椀	10C	A類		B-73	
-30	32-9	瓦器・椀	12C前半			B-62	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
24-31	32-6	瓦器・小皿	12C	3 B区-4層		B-64	
-32	32-8	瓦器・小皿	11C後半		ての字状口縁	B-68	
-33	32-13	土師器・皿	13C後半			B-69	
-34	32-14	土師器・皿	11C後半			B-65	
-35	32-12	土師器・皿	11C後半			B-66	
-36	32-10	土師器・皿	11C末~12C初			B-301	
-37	32-15	土師器・皿	13C			B-61	
-38	32-3	須恵器・捏鉢	11C末~12C前半		東播系	B-60	
-41	32-16	須恵器・摺鉢	7C~8C			B-74	
-42	33-2	黒色土器・椀	11C		B類	B-75	
-43	32-17	須恵器・提瓶	6C末~7C前半	3 B区-5層		B-78	
-44	32-18	須恵器・壺	8C			B-80	
-45	33-1	須恵器・短頸壺	8C			B-77	
-46	33-4	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		東部瀬戸内系	B-102	
-47	34-2	土師器・高坏	古墳後期			B-86	
-48	34-1	土師器・高坏	古墳中期			B-104	
-49	34-3	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-87	
-50	33-11	須恵器・坏身	6C後半			B-100	
-51	33-5	土師器・甕	古墳前期(布留)~中期初			B-97	
-52	34-4	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)~中期初		3 B区-6層		B-103
-53	34-5	土師器・鉢	古墳前期(庄内)	手づくね		B-303	
-54	33-10	土師器・壺	古墳前期(庄内)			B-92	
-55	33-8	土師器・壺	古墳前期(庄内)			B-90	
-56	33-9	土師器・壺	古墳前期(庄内)			B-88	
-57	33-3	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-94	
-58	33-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)	タタキ左上がり		B-93	
-59	33-6	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-89	
25-1	38-2	須恵器・坏蓋	6C後半	3 B区-7層(1)			B-162
-2	34-6	須恵器・臈	6C後半				B-159
-3	34-9	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-119	
-4	34-8	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-122	
-5	34-11	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-123	
-6	34-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-129	
-7	36-1	土師器・甕	古墳前期(庄内)		3 B区-7面	B-172	
-8	36-3	土師器・甕	古墳前期(庄内)		3 B区-7層(1)	B-143	
-9	36-4	土師器・甕	古墳前期(庄内)		3 B区-7面	B-173	
-10	34-12	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-139	
-11	34-10	土師器・甕	古墳前期(庄内)		B-142		
-12	36-2	土師器・甕	古墳前期(庄内)		B-141		
-13	36-5	土師器・甕	古墳前期(庄内)		B-140		
-14	36-6	土師器・甕	古墳前期(庄内)		B-144		
-15	37-11	土師器・甕	古墳前期(庄内)		タタキ左上がり、2枚の木葉痕	B-148	
-16	36-8	土師器・広口壺	古墳前期(庄内)	3 B区-7層(1)	B-112		
-17	36-11	土師器・広口壺	古墳前期(庄内)		B-164		
-18	36-9	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		B-25		
-19	36-12	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		B-130		
-20	36-10	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		B-166		
-21	36-7	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		B-165		
-22	37-5	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		凸帯はりつけ	B-126	
-23	37-4	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)	3 B区-7面	B-175		
-24	38-1	土師器・直口壺	古墳前期(布留)	3 B区-7層(1)		B-134	
-25	37-6	土師器・小型丸底壺	古墳前期(庄内)			B-135	
-26	35-1	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)			B-120	
-27	37-12	土師器・壺	古墳前期(庄内)		手づくね	B-163	
-28	35-2	土師器・鉢?	古墳前期(庄内)		外面にタタキ	B-154	
-29	35-4	土師器・壺	古墳前期(庄内)		外面にタタキ	B-149	
-30	35-5	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-145	
-31	35-3	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-146	
-32	39-5	土師器・台付鉢	古墳前期(庄内)			B-152	
-33	37-9	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-131	
-34	35-8	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)		B-138		
-35	35-7	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)	3 B区-7面	B-137		
-36	35-10	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)	3 B区-7層(1)	B-176		

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
25-37	35-6	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)	3 B区-7層(1)		B-133	
-38	37-7	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			B-127	
-39	35-9	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			B-132	
-40	37-1	土師器・鉢	古墳前期(庄内~布留)			B-124	
-41	37-2	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-111	
-42	37-3	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)	3 B区-7面		B-177	
-43	39-6	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)	3 B区-7層(1)		B-107	
-44	39-7	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-109	
-45	39-1	土師器・器台	古墳前期(庄内)		脚柱部:ハケ→縦位ミガキ	B-106	
-46	37-8	土師器・高坏	古墳前期(庄内)		3 B区-7面		B-169
-47	39-3	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-105	
-48	39-4	土師器・高坏	古墳前期(庄内~布留)	3 B区-7層(1)		B-108	
-49	39-2	土師器・高坏	古墳前期(布留)			B-160	
26-1	38-3	弥生・壺	弥生中期後半				B-151
-2	38-6	弥生・壺	弥生中期後半				B-167
-3	38-4	弥生・壺	弥生中期後半				B-28
-4	38-7	弥生・壺	弥生中期後半		2本線の斜格子紋	B-168	
-5	37-10	弥生・甕	弥生中期後半	3 B区-7面		B-12	
-6	38-5	弥生・高坏	弥生中期後半	3 B区-7層(1)		B-170	
-7	38-8	弥生・高坏	弥生中期後半			B-24	
-8	39-12	須恵器・坏身	6 C後半	3 B区-7層(2)		B-157	
-9	39-11	須恵器・高坏	6 C後半			B-156	
-10	39-13	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-150	
-11	39-14	弥生・壺	弥生中期			B-147	
-12	39-9	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-116	
-13	39-10	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-117	
-14	39-8	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			東部瀬戸内系	B-298
27-1	40-7	弥生・高坏	弥生中期後半		3 B区-8層上面		B-1
-2	40-8	弥生・甕	弥生中期後半	3 B区-8層		B-304	
-3	39-20	弥生・高坏	弥生中期後半			B-5	
-4	39-16	弥生・壺	弥生後期前半			B-11	
-5	39-15	弥生・壺	弥生中期末			胎土:生駒西麓	B-6
-6	40-1	弥生・壺	弥生中期初頭			B-29	
-7	40-4	弥生・壺	弥生中期後半			B-10	
-8	40-2	弥生・甕	弥生中期後半			B-3	
-9	39-21	弥生・高坏	弥生中期後半			B-13	
-10	40-5	弥生・器台	弥生中期後半			B-20	
-11	40-3	弥生・壺	弥生中期後半			B-9	
-12	40-6	弥生・甕	弥生中期後半			B-2	
28-1	39-19	弥生・壺	弥生中期後半		3 B区-土坑1		B-16
-2	39-17	弥生・壺	弥生中期後半			B-27	
-3	41-1	弥生・壺	弥生中期後半			B-7	
-4	41-3	弥生・壺	弥生中期後半			B-23	
-5	41-2	弥生・壺	弥生中期後半			B-8	
-6	39-18	弥生・壺	弥生中期後半			28-7の口縁部	B-19
-7	41-4	弥生・壺	弥生中期後半			28-6の体部	B-4
29-1	42-4	須恵器・捏鉢	12C末~13C初	3 B区-土坑1		B-48	
-2	42-1	瓦器・椀	14C			B-47	
-3	42-9	須恵器・坏身	6 C後半	3 B区-溝1		B-185	
-4	42-14	須恵器・甕	6 C後半			B-186	
-5	42-12	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			B-183	
-6	42-10	土師器・甕	古墳前期(庄内)			外:タタキ→ハケ,内:粗いハケ	B-182
-7	42-16	弥生・高坏	弥生中期後半			B-179	
-8	42-17	土師器・壺	古墳前期(庄内)			B-181	
-9	42-15	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-178	
-10	43-19	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			B-184	
-11	42-11	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-180	
-12	42-13	土師器・甕把手	古墳中期~後期			B-187	
-13	43-2	土師器・甕	古墳前期(布留)~中期初		3 B区-溝1下層		B-236
-14	43-1	土師器・甕	古墳前期(庄内)				B-228
-15	43-3	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-232	
-16	43-6	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			B-239	
-17	43-11	土師器・壺	古墳前期(庄内)			B-241	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
29-18	43-18	土師器・壺	古墳前期(庄内~布留)	3 B区-溝1下層		B-243	
-19	43-10	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-227	
-20	43-9	土師器・高坏?	古墳前期(庄内)			B-229	
-21	43-5	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-235	
-22	43-4	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-234	
-23	43-7	弥生・壺	弥生中期後半			B-240	
-24	43-8	弥生・壺	弥生中期後半			B-242	
-25	43-16	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-238	
-26	43-13	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-230	
-27	43-12	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-224	
-28	43-17	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			B-225	
-29	43-15	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-233	
-30	43-14	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-231	
-31	42-5	弥生・高坏	弥生中期後半		3 B区-落ち込み1		B-15
-32	42-3	弥生・壺	弥生中期後半				B-17
-33	42-2	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)				B-85
-34	42-7	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)				B-84
-35	42-6	土師器・壺	古墳前期(庄内)				B-82
-36	42-8	土師器・甕	古墳前期(庄内)				B-83
-37	44-12	土師器・甕	古墳前期(庄内)				B-221
-38	44-1	土師器・甕	古墳前期(庄内)				B-205
-39	44-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)			河内の庄内甕	B-216
-40	44-5	土師器・甕	古墳前期(庄内)				B-204
-41	44-11	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-211	
-42	44-16	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-208	
-43	44-13	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-196	
-44	44-20	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-194	
-45	43-20	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-200	
-46	44-17	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			B-195	
-47	44-18	土師器・高坏	古墳前期(庄内)		外面:ハケ→縦位ミガキ	B-193	
-48	44-2	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)	3 B区-溝2	東部瀬戸内系	B-220	
-49	44-4	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			B-218	
-50	44-3	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			B-219	
-51	44-19	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-198	
-52	43-21	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-199	
-53	44-8	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-197	
-54	44-6	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-215	
-55	44-10	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			B-207	
-56	44-14	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			B-214	
-57	44-15	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)		底部に木葉痕	B-206	
-58	44-9	弥生・鉢	弥生後期	耳状把手	B-223		
30-1	44-21	土師器・鉢	古墳前期(庄内)		B-222		
-2	44-22	土師器・鉢	古墳前期(庄内~布留)		B-217		
-3	44-23	土師器・鉢	古墳前期(庄内)		B-212		
-4	44-24	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)	3 B区-竪穴1周溝		B-248	
-5	45-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)	3 B区-穴22		B-249	
-6	45-11	土師器・甕	古墳前期(庄内)	3 B区-穴9		B-245	
-7	45-5	弥生・甕	弥生中期後半	3 B区-穴57		B-244	
-8	45-4	土師器・高坏	古墳前期(布留)	3 B区-穴32		B-246	
-9	45-10	土師器・高坏	古墳前期(布留)	3 B区-穴47		B-247	
-10	45-1	土師器・小型壺	古墳前期(布留)	3 B区-穴11		B-188	
-11	45-8	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-190	
-12	45-3	土師器・甕	古墳前期(布留)			B-191	
-13	45-6	土師器・甕	古墳前期(布留)			B-192	
-14	45-2	土師器・甕	古墳前期(布留)			B-202	
-15	45-9	土師器・二重口縁壺	古墳前期(布留)			B-189	
-16	47-1	弥生・壺	弥生中期後半	3 B区-溝10		B-26	
-17	46-9	弥生・高坏	弥生中期後半	3 B区-溝12		B-250	
-18	46-11	弥生・高坏	弥生中期後半	3 B区-溝19		B-253	
-19	45-17	土師器・直口壺	古墳前期(布留)	3 B区-溝13		B-275	
-20	45-13	土師器・直口壺	古墳前期(布留)			B-274	
-21	45-15	土師器・直口壺	古墳前期(布留)			B-273	
-22	46-1	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-278	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
30-23	46-2	土師器・甕	古墳前期(庄内)	3 B区-溝13		B-287
-24	46-3	土師器・甕	古墳前期(庄内)		外面タタキ後ナデ	B-288
-25	46-15	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-263
-26	46-16	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-266
-27	46-13	土師器・甕	古墳前期(庄内)			B-267
-28	46-7	土師器・鼓型器台	古墳前期(庄内~布留)		山陰系	B-18
-29	46-5	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-262
-30	46-6	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			B-292
-31	46-14	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			B-261
-32	46-12	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)		丸底、外面:ナデ	B-269
-33	45-12	土師器・二重口緑壺	古墳前期(庄内)			B-296
-34	45-16	土師器・二重口緑壺	古墳前期(庄内)			B-295
-35	45-14	土師器・二重口緑壺	古墳前期(庄内)		口縁部外面にヘラ描き鋸歯紋	B-297
-36	46-8	土師器・二重口緑壺	古墳前期(庄内)		東部瀬戸内系	B-161
-37	45-18	土師器・二重口緑壺	古墳前期(庄内)			B-260
-38	46-4	土師器・鉢	古墳前期(布留)			B-277
-39	47-2	弥生・甕	弥生中期後半			B-30
-40	46-10	弥生・壺	弥生中期後半			B-255

3 C区

(伊藤)

38-1	48-1	土師器・皿	11C末	3 C区-1層		C-1
-2	48-2	土師器・皿	13C末			C-7
-3	48-3	土師器・皿	11C末			C-2
-4	48-4	土師器・皿	13C後半			C-4
-5	48-5	黒色土器・椀	11C		B類	C-6
-6	48-6	青花・皿	15C~16C	内面見込み玉取獅子	C-5	
-8	48-9	土師器・皿	13C末~14C		C-21	
-9	48-8	土師器・皿	13C後半		C-24	
-10	48-7	土師器・皿	13C後半		C-20	
-11	48-13	土師器・皿	11C後半		C-16	
-12	48-18	土師器・皿	11C後半		C-12	
-13	48-12	土師器・皿	11C後半		C-25	
-14	48-15	土師器・皿	11C後半		C-11	
-15	48-14	土師器・皿	13C~14C		C-19	
-16	48-11	白磁・碗	12C	V類	C-23	
-17	48-23	瓦器・椀	13C末		C-9	
-18	48-21	瓦器・椀	13C末		C-10	
-19	48-16	瓦器・椀	12C前半	楠葉型	C-13	
-20	48-17	瓦器・椀	11C末~12C前半	楠葉型	C-14	
-21	48-20	瓦器・椀	12C~14C		C-22	
-22	48-19	瓦器・椀	12C前半		C-18	
-23	48-10	青白磁・合子身	中世前半		C-17	
-24	48-22	陶器・甕	中世前半	常滑系	C-8	
-25	49-1	土師器・皿	13C		C-27	
-26	49-3	土師器・皿	13C		C-28	
-27	49-2	土師器・皿	12C~13C		C-37	
-28	49-7	土師器・皿	11C~12C		C-36	
-29	49-4	土師器・坏	13C~14C		C-29	
-30	49-12	瓦器・椀	12C中葉	楠葉型	C-31	
-31	49-10	瓦器・椀	12C中葉	楠葉型	C-32	
-32	49-9	瓦器・椀	14C初	焼成:須恵質	C-34	
-33	49-8	瓦器・椀	12C中葉	楠葉型	C-30	
-34	49-11	瓦器・椀	12C		C-33	
-35	49-5	白磁・皿	12C	VII類	C-35	
-37	49-20	土師器・皿	11C末	3 C区-4面	C-46	
-38	49-14	土師器・皿	11C末		C-48	
-39	50-8	土師器・皿	11C後半	3 C区-4面鋤溝	C-50	
-40	49-16	土師器・皿	11C後半	3 C区-4面	C-47	
-41	49-19	土師器・皿	11C末~12C前半	3 C区-4層	C-42	
-42	49-15	土師器・皿	11C後半	3 C区-4面	C-45	
-43	49-13	土師器・皿	11C	3 C区-4面鋤溝	C-49	
-44	49-23	瓦器・椀	12C前半		C-40	
-45	49-22	黒色土器・椀	10C末~11C初	3 C区-4層	B類	
					C-41	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
38-46	49-18	黒色土器・椀	10C末	3 C区-4面	A類	C-44	
-47	49-21	瓦器・椀	12C前半		楠葉型	C-43	
-48	49-24	瓦器・小皿	12C	3 C区-4層		C-38	
-49	49-17	瓦器・椀	12C前半			C-39	
-51	50-1	須惠器・坏蓋	7C後半	3 C区-5層		C-58	
-52	50-2	須惠器・壺	9 C後半~10C前半			C-57	
-53	50-3	須惠器・壺	9 C後半~10C前半			C-55	
-54	50-5	須惠器・壺	6 C後半			C-56	
-55	50-6	須惠器・坏	8 C末			C-54	
-56	50-4	土師質土器・羽釜	10C後半~11C初			C-51	
-57	50-7	土師質土器・羽釜	10C後半~11C初			C-52	
-58	51-1	須惠器・甕	6 C後半		3 C区-6層		C-59
-59	51-2	土師器・高坏	古墳中期	3 C区-7面		C-60	
-60	51-4	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)~中期初	3 C区-8層		C-62	
-61	51-5	土師質・竈?	古墳中期~後期			C-61	
-62	51-9	土師器・甕	古墳前期(庄内)	3 C区-10層		C-65	
-63	51-6	土師器・甕	古墳前期(布留)			C-66	
-64	51-3	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			C-63	
-65	51-8	土師器・高坏	古墳前期(布留)			C-64	
-66	51-7	弥生・高坏	弥生中期後半			C-67	
-67	50-11	須惠器・坏蓋	6 C前半		3 C区-溝1		C-69
-68	50-9	瓦器・椀	12C中葉			楠葉型	C-68
-69	50-10	土師質土器・羽釜	10C後半~11C初				C-70

3 D区

(合田)

75-1	52-8	瓦器・椀	中世	3 D区-1層		D-15	
-2	52-6	瓦器・椀	中世	3 D区-1面		D-21	
-3	52-7	瓦器・椀	13~14C	3 D区-1層		D-12	
-4	52-10	須惠器・捏鉢	14C			D-14	
-5	52-3	土師器・皿	12~13C	3 D区-1面		D-24	
-6	52-4	土師器・皿	12~13C	3 D区-1層		D-20	
-7	52-1	土師器・皿	12~13C			D-19	
-8	52-2	土師器・皿	12~13C			D-11	
-9	52-9	青磁・碗	14C			D-17	
-10	52-5	天目茶碗	中世末~近世			D-18	
-11	52-18	瓦器・椀	13~14C		3 D区-2面		D-43
-12	52-16	瓦器・椀	13~14C		3 D区-2層		D-33
-13	52-19	瓦器・椀	13~14C				D-29
-14	52-17	瓦器・椀	13~14C			D-30	
-15	52-20	瓦器・椀	13~14C			D-38	
-16	52-11	土師器・皿	中世以降			D-28	
-17	52-12	土師器・皿	中世以降			D-40	
-18	52-13	青磁・碗	13~14C			Ⅲ類?	D-31
-19	52-14	白磁・碗	11~12C			Ⅱ類	D-39
-20	52-15	白磁・碗	12C	3 D区-2面	V類	D-41	
-21	52-23	陶器・擂鉢	15C?	3 D区-2層		D-36	
-22	52-24	須惠器・捏鉢	14C			D-35	
-23	52-22	須惠器・坏蓋	7 C			D-34	
-24	52-21	須惠器・捏鉢	13~14C			D-37	
-25	53-4	瓦器・椀	13~14C	3 D区-3層		D-61	
-26	53-8	瓦器・椀	13~14C			D-60	
-27	53-18	瓦器・椀	13~14C			D-62	
-28	53-20	瓦器・椀	13~14C			D-63	
-29	53-2	瓦器・椀	13~14C			D-70	
-30	53-6	瓦器・椀	13~14C			D-67	
-31	53-1	瓦器・椀	13~14C			D-71	
-32	53-7	瓦器・椀	13~14C			D-100	
-33	53-5	瓦器・椀	13C			D-69	
-34	53-3	瓦器・皿	13C			D-59	
-35	53-11	土師器・皿	12~13C			D-58	
-36	53-14	土師器・皿	12~13C			D-55	
-37	53-16	土師器・皿	12~13C			D-49	
-38	53-10	土師器・皿	12~13C			D-50	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
75-39	53-17	土師器・皿	11C	3D区-3層	IV類	D-64	
-40	53-13	土師器・皿	12~13C			D-51	
-41	53-15	土師器・皿	12~13C			D-53	
-42	53-12	土師器・皿	12~13C			D-52	
-43	53-9	土師器・皿	12~13C			D-56	
-44	53-19	土師器・釜	13C			D-73	
-45	54-1	黒色土器・椀	9~11C			D-68	
-46	54-2	黒色土器・椀	10C			D-66	
-47	54-11	白磁・碗	11~12C			D-101	
-48	54-22	白磁・碗	10~11C?			D-102	
-49	54-10	須恵器・壺蓋	8C			D-80	
-50	54-9	須恵器・坏身	8C			D-91	
-51	54-4	須恵器・坏蓋	7C初			D-75	
-52	54-3	須恵器・坏蓋	7C初			D-79	
-53	54-5	須恵器・坏身	7C初			D-78	
-54	54-17	須恵器・高坏蓋	5C後葉~6C初			D-117	
-55	54-16	須恵器・高坏蓋	5C後葉~6C初			D-116	
-56	54-21	須恵器・高坏蓋	5C後葉~6C初			D-118	
-57	56-11	須恵器・坏蓋	6C前半			D-112	
-58	56-12	須恵器・坏蓋	6C後半			3D区-3面	D-126
-59	56-9	須恵器・坏蓋	6C前半			D-97	
-60	56-6	須恵器・坏蓋	6C前半			D-96	
-61	56-7	須恵器・坏蓋	6C前半			D-99	
-62	56-5	須恵器・坏蓋	6C前半			D-95	
-63	54-6	須恵器・坏蓋	6C			ヘラ記号	D-86
-64	54-15	須恵器・坏蓋	6C			ヘラ記号	D-88
-65	56-13	須恵器・坏身	5C後葉~6C初			D-113	
-66	56-14	須恵器・坏身	5C後葉~6C初			ヘラ記号(+)	D-111
-67	56-10	須恵器・坏身	5C後葉~6C初	D-94			
-68	56-8	須恵器・坏身	5C後葉~6C初	D-98			
-69	54-14	須恵器・坏身	5C後葉~6C初	D-110			
-70	54-13	須恵器・坏身	5C後葉	内面当て具痕	D-122		
76-1	55-11	須恵器・甕	6C	3D区-3層	D-119		
-2	55-4	須恵器・甕	6C		D-85		
-3	55-7	須恵器・甕	6C		D-93		
-4	55-8	須恵器・甕	6C		D-120		
-5	55-6	須恵器・甕	6C		D-109		
-6	55-5	須恵器・甕	6C		D-108		
-7	55-1	須恵器・甕	5C後半~6C初		D-92		
-8	55-9	須恵器・甕	5C後半~6C		D-123		
-9	54-8	須恵器・甕	5C後半~6C		D-129		
-10	54-7	須恵器・提瓶	6C前半		D-77		
-11	54-24	須恵器・壺	6C前半		D-82		
-12	54-19	須恵器・壺	6C前半		D-81		
-13	54-23	須恵器・脚台	6C		D-89		
-14	56-16	須恵器・壺	6C		D-83		
-15	54-18	須恵器・高坏	5C後葉~6C初		D-104		
-16	54-20	須恵器・高坏	5C後葉~6C初		D-105		
-17	56-18	須恵器・高坏	6C後半		D-84		
-18	54-25	須恵器・高坏	6C後半		D-125		
-19	56-17	須恵器・高坏	6C後半		D-124		
-20	55-3	須恵器・鉢	6C末~7C初		3D区-3面	D-127	
-21	55-10	須恵器・鉢	6C末~7C初	D-128			
-22	55-12	須恵器・器台	6C後半	D-131			
-23	56-2	須恵器・甕	5C後半~6C前半	3D区-3層	D-107		
-24	56-3	須恵器・甕	5C後半~6C前半		D-106		
-25	56-4	須恵器・把手	5C		D-76		
-26	54-12	土師器・把手	5C		D-47		
-27	55-2	土師器・壺	古墳後期		D-72		
-28	56-15	土師器・壺	古墳後期		D-46		
-29	56-1	円筒埴輪	古墳後期		D-115		
-30	57-1	土師器・竈	古墳中期~後期		D-9		
77-1	58-1	須恵器・高坏蓋	5C後半~6C初		3D区-3-2層	D-132	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
77-2	58-4	須恵器・坏蓋	5 C後半～6 C初	3 D区-3-2層	初期須恵器	D-1110	
-3	58-3	須恵器・提瓶	6 C前半			D-136	
-4	58-6	須恵器・高坏	5 C前半			D-133	
-5	58-7	須恵器・甗	5 C後半～6 C前半			D-137	
-6	58-9	須恵器・甗	5 C後半～6 C前半			D-135	
-7	58-2	須恵器・壺	5 C後半～6 C前半			D-134	
-8	58-8	土師器・羽釜	古墳中期～後期			D-139	
-9	58-5	須恵器	古墳中期～後期			D-138	
-10	59-9	須恵器・坏蓋	6 C末～7 C初			D-155	
-11	59-10	須恵器・坏蓋	6 C末			D-143	
-12	58-10	須恵器・坏蓋	6 C前半	D-150			
-13	58-12	須恵器・坏蓋	6 C前半	D-145			
-14	59-8	須恵器・坏蓋	6 C後半	D-142			
-15	58-14	須恵器・坏蓋	6 C	D-144			
-16	58-15	須恵器・坏身	6 C後半	D-146			
-17	58-11	須恵器・坏身	6 C後半	D-154			
-18	58-17	須恵器・坏身	6 C後半	D-158			
-19	58-13	須恵器・坏身	6 C後半	へら記号	D-140		
-20	59-6	須恵器	古墳中期～後期	3 D区-3-2層～ 4-1層	D-157		
-21	58-21	須恵器・甗	6 C後半	D-156			
-22	58-16	須恵器・甗	6 C	D-149			
-23	59-1	須恵器・横瓶	6 C	D-152			
-24	58-19	須恵器・高坏	5 C後半	D-147			
-25	58-20	須恵器・高坏	6 C前半	D-153			
-26	58-18	須恵器・壺	5 C後半～6 C	D-148			
-27	59-2	須恵器・甗	5 C後半～6 C	D-151			
-28	59-3	韓式系軟質土器・鉢	古墳中期～後期	D-160			
-29	59-4	土師器・坏	古墳後期	D-159			
-30	59-7	土師器・把手	古墳中期～後期	D-161			
-31	59-5	土師器・竈	古墳中期～後期	D-162			
-32	59-13	須恵器・坏蓋	6 C後半	D-174			
-33	60-1	須恵器・坏蓋	6 C後半	D-179			
-34	59-12	須恵器・坏蓋	6 C前半	D-169			
-35	60-7	須恵器・坏蓋	6 C	D-173			
-36	60-2	須恵器・坏蓋	6 C末～7 C初	D-181			
-37	59-15	須恵器・壺蓋	6 C末～7 C初	D-190			
-38	59-14	須恵器・高坏蓋	6 C後半	D-167			
-39	59-16	須恵器・坏身	5 C後半	D-168			
-40	60-4	須恵器・高坏	5 C後半	D-166			
-41	60-8	須恵器・高坏	5 C前半	初期須恵器	D-180		
-42	59-11	須恵器・高坏	6 C後半	D-163			
78-1	60-6	須恵器・甗	6 C後半	3 D区-4-1面	D-165		
-2	60-3	須恵器・甗	6 C後半		D-191		
-3	60-9	須恵器・甗	5 C後半～6 C		D-164		
-4	61-3	土師器・甗	古墳後期		D-178		
-5	60-13	土師器・甗	古墳後期		D-183		
-6	61-2	土師器・甗	古墳後期		D-186		
-7	60-14	土師器・甗	古墳後期		D-177		
-8	60-5	須恵器・甗	5 C後半～6 C前半		D-189		
-9	61-1	弥生・甗	弥生後期		D-188		
-10	60-11	土師器・壺	古墳前期		D-172		
-11	60-15	土師器・壺	古墳中期～後期		D-176		
-12	60-10	土師器・壺	古墳中期～後期		D-185		
-13	60-12	土師器・高坏	古墳中期～後期		D-187		
-14	61-4	土師器・高坏	古墳中期～後期		D-171		
-15	60-16	土師器・高坏	古墳中期～後期		D-175		
-16	60-17	土師器・竈	古墳中期～後期		D-184		
-17	61-5	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C		3 D区-4-2層	へら記号	D-198
-18	61-6	須恵器・坏蓋	5 C後半～6 C		へら記号	D-193	
-19	61-7	須恵器・坏蓋	6 C		3 D区-4-2面	D-234	
-20	62-6	須恵器・坏蓋	5 C後半～6 C初		3 D区-4-2層	D-199	
-21	61-9	須恵器・坏蓋	6 C後半		3 D区-4-2面	D-241	
-22	62-2	須恵器・坏蓋	6 C前半		3 D区-4-2層	D-1111	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
78-23	62-5	須恵器・坏身	5 C 後葉～6 C 初	3 D区-4-2層		D-200	
-24	62-4	須恵器・坏身	6 C 前半	3 D区-4-2面		D-230	
-25	62-3	須恵器・坏身	6 C 前半	3 D区-4-2層		D-192	
-26	62-1	須恵器・坏身	6 C 前半	3 D区-4-2面		D-231	
-27	61-8	須恵器・坏身	6 C 後半			D-240	
-28	61-14	須恵器・高坏	5 C 後半	3 D区-4-2層		D-197	
-29	61-16	須恵器・高坏	6 C 前半	3 D区-4-2面		D-237	
-30	61-15	須恵器・高坏	6 C			D-236	
-31	61-17	須恵器・臬	6 C			D-235	
-32	61-13	須恵器・壺	6 C			D-238	
-33	61-11	須恵器・壺	5 C 後半		3 D区-4-2層		D-194
-34	61-12	須恵器・壺	5 C 前半				D-195
-35	61-10	須恵器・壺	5 C 前半			初期須恵器	D-196
79-2	62-7	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-4-2層		D-227	
-3	63-6	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-207	
-4	62-8	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-203	
-5	63-2	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-4-2面		D-228	
-6	63-1	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-4-2層		D-206	
-7	63-3	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-205	
-8	62-14	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-4-2面		D-219	
-9	63-4	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-224	
-10	63-9	土師器・高坏	古墳中期～後期	3 D区-4-2層		D-204	
-12	62-9	土師器・高坏	古墳中期～後期	3 D区-4-2面		D-222	
-11	62-10	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-229	
-13	63-11	土師器・手づくね	古墳前期～後期	3 D区-4-2層		D-215	
-14	63-7	土師器・甕	古墳前期～中期			D-216	
-15	63-10	土師器・甕	古墳前期～中期			D-211	
-16	63-8	土師器・甕	古墳前期～中期	3 D区-4-2面		D-212	
-17	63-5	土師器・甕	古墳前期～中期			D-226	
-18	63-12	土師器・甕	古墳前期～中期	3 D区-4-2層		D-213	
-19	62-11	土師器・甕	古墳後期			D-202	
-20	62-13	土師器・羽釜	古墳中期～後期	3 D区-4-2面		D-223	
-21	62-15	土師器・鉢	古墳前期			D-221	
-22	62-12	土師器・甕	古墳中期～後期			D-220	
80-1	64-3	須恵器・坏蓋	6 C	3 D区-5層	へラ記号(＃)	D-282	
-2	64-18	須恵器・坏蓋	6 C 後半			D-265	
-3	64-4	須恵器・高坏蓋	5 C 後半～6 C			D-296	
-4	64-15	須恵器・坏身	6 C 後半			D-266	
-5	64-16	須恵器・坏身	6 C 後半			D-257	
-6	64-17	須恵器・坏身	6 C 後半			D-260	
-7	64-14	須恵器・坏身	6 C 後半			D-258	
-8	64-1	須恵器・坏身	6 C 前半			D-256	
-9	64-11	須恵器・高坏	6 C			D-249	
-10	64-10	須恵器・高坏	5 C 後半			D-259	
-11	64-13	須恵器・鉢	5 C 後半～6 C			D-248	
-12	64-9	須恵器・臬	6 C 前半			D-264	
-13	64-5	須恵器・壺	5 C 後半～6 C			D-244	
-14	64-8	須恵器・甕	6 C 前半			D-245	
-15	64-2	須恵器・甕	6 C 前半			D-263	
-16	64-12	須恵器・甕	6 C 後半			D-261	
-17	64-6	須恵器・甕	6 C 後半			D-262	
-18	64-7	須恵器・甕	5 C 前半		初期須恵器	D-281	
-19	65-2	土師器・甕	古墳前期～中期			D-274	
-20	66-1	土師器・甕	古墳前期～中期			D-273	
-21	66-3	土師器・甕	古墳前期～中期			D-298	
-22	65-5	土師器・甕	古墳前期～中期			D-255	
-23	66-2	土師器・甕	古墳前期～中期			D-287	
-24	65-9	土師器・甕	古墳前期～中期			D-267	
-25	65-1	土師器・甕	古墳前期～中期			D-288	
-26	65-4	土師器・甕	古墳前期～中期			D-275	
-27	65-7	土師器・甕	古墳前期～中期			D-253	
-28	65-3	土師器・甕	古墳前期～中期			D-272	
-29	65-6	土師器・甕	古墳前期～中期			D-247	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
80-30	67-5	土師器・小型丸底壺	古墳前期～中期	3 D区-5層		D-297	
-31	67-6	土師器・小型丸底壺	古墳前期～中期			D-283	
-32	65-8	土師器・小型丸底壺	古墳前期～中期			D-250	
81-1	66-9	土師器・甕	古墳中期～後期			D-269	
-2	66-7	土師器・羽釜	古墳中期～後期			D-278	
-3	66-5	土師器・羽釜	古墳中期～後期			D-268	
-4	66-4	土師器・鉢	古墳中期～後期			D-295	
-5	66-8	土師器	古墳中期～後期			D-285	
-6	67-11	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-289	
-7	67-10	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-290	
-8	67-4	土師器・高坏	古墳中期			D-251	
-9	67-3	土師器・高坏	古墳中期			D-294	
-10	67-13	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-292	
-11	67-7	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-293	
-12	67-8	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-276	
-13	67-12	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-291	
-14	67-2	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-279	
-15	68-2	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-252	
-16	67-9	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-246	
-17	68-1	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-280	
-18	67-1	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-243		
-19	67-14	土師器・竈	古墳中期～後期		D-270		
-20	66-6	土師器・竈	古墳中期～後期		D-254		
82-1	68-4	須恵器・坏蓋	5 C後葉	3 D区-建物1		D-302	
-2	68-7	須恵器・坏蓋	5 C後葉			D-299	
-3	68-17	須恵器・坏身	6 C後半			D-304	
-4	70-1	土師器・壺	古墳中期～後期			D-303	
-5	70-5	土師器・甕	5 C後半～6 C			D-301	
-6	69-1	須恵器・壺	6 C前半			D-300	
-7	68-13	須恵器・坏身	6 C前半		3 D区-建物2		D-305
-8	68-12	須恵器・坏蓋	6 C後半		3 D区-建物3		D-310
-9	70-8	須恵器・甕	6 C			D-308	
-10	69-14	土師器・高坏	古墳中期		3 D区-建物2		D-306
-11	69-6	土師器・高坏	古墳中期		3 D区-建物3		D-307
-12	70-3	土師器・甕	古墳中期		3 D区-建物4		D-314
-13	68-15	須恵器・高坏	5 C後半		3 D区-建物3		D-309
-14	69-7	土師器・甕	古墳前期～中期		3 D区-建物4		D-311
-15	70-10	土師器・高坏	古墳前期～中期				D-312
-16	69-15	土師器・高坏	古墳前期～中期				D-313
-17	69-10	土師器・壺	古墳後期				D-316
-18	70-2	土師器・甕	古墳時代中期～後期		3 D区-建物5		D-315
-19	69-3	須恵器・器台	5 C後半		3 D区-建物6		D-321
-20	70-4	土師器					D-320
-21	68-3	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初	3 D区-建物7		D-319	
-22	68-14	須恵器・坏身	5 C後葉～6 C初			D-322	
-23	69-16	土師器・鉢	古墳後期後半	3 D区-建物8		D-327	
-24	69-13	土師器・甕	古墳前期～中期			D-325	
-25	69-17	土師器・甕	古墳前期～中期			D-324	
-26	70-9	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-329	
-27	69-8	土師器・高坏か鉢	古墳中期～後期			D-326	
-28	69-18	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-323	
-29	69-12	土師器・高坏	古墳前期～後期			D-328	
-30	69-5	須恵器・甕	5 C前半		3 D区-建物9	初期須恵器	D-330
-31	69-2	須恵器・高坏	5 C後葉～6 C初	3 D区-建物10		D-331	
-32	68-9	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初	3 D区-建物11		D-318	
-33	68-11	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初	3 D区-建物12		D-334	
-34	69-9	土師器・高坏	古墳中期～後期	3 D区-建物10		D-332	
-35	68-16	須恵器・甕	6 C前半	3 D区-建物11		D-317	
-36	68-10	須恵器・壺	6 C	3 D区-建物12		D-333	
-37	68-6	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C			D-335	
-38	70-11	土師器・手づくね	古墳前期～後期	3 D区-建物13 (穴813)		D-339	
-39	69-11	土師器・甕	古墳前期～中期	3 D区-建物13		D-338	
-40	70-6	土師器・羽釜	古墳中期～後期			D-337	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
82-41	70-7	土師器・甌	古墳後期	3 D区-建物13		D-340
-42	68-5	須恵器・坏蓋	5 C後葉~6 C初	3 D区-建物14		D-341
-43	68-18	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初		D-342	
-44	69-4	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初		D-343	
-45	68-8	須恵器・坏蓋	6 C前半	3 D区-建物15		D-345
-46	70-12	須恵器・高坏	6 C前半		D-344	
83-1	72-17	須恵器・坏身	5 C後半	3 D区-堅穴1		D-346
-2	72-12	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-堅穴1竈		D-347
-3	71-6	須恵器・坏身	5 C後半	3 D区-堅穴2床土		D-348
-4	72-13	土師器・高坏	古墳中期		D-349	
-5	71-19	土師器・高坏	古墳中期		D-355	
-6	72-1	土師器・高坏	古墳中期		D-351	
-7	71-1	須恵器・壺	5 C前半		初期須恵器	D-385
-8	72-2	土師器・甕	古墳中期		D-350	
-9	71-17	土師器・高坏	古墳中期		D-352	
-10	71-12	土師器・壺	古墳中期		D-356	
-11	72-7	土師器・高坏	古墳中期		D-353	
-12	72-10	土師器・高坏	古墳中期		D-354	
-13	72-15	須恵器・坏身	5 C後半		3 D区-堅穴3床土	D-359
-14	72-18	須恵器・広口無頸壺	5 C後半		3 D区-堅穴3埋土	D-358
-15	72-9	土師器・高坏	古墳中期		3 D区-堅穴3床土	D-360
-16	71-3	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-堅穴4床土	D-367	
-17	71-5	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初		D-366	
-18	71-9	須恵器・甕	5 C後葉~6 C初	3 D区-堅穴4	D-364	
-19	71-18	土師器・高坏	古墳中期~後期		D-363	
-20	71-15	土師器・高坏	古墳中期~後期	3 D区-堅穴4床土	D-365	
-21	71-7	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-堅穴9床土	D-373	
-22	72-14	須恵器・坏蓋	5 C後葉~6 C初		D-374	
-23	71-2	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-堅穴9(土坑)	D-372	
-24	72-16	須恵器・坏蓋	6 C前半	3 D区-堅穴9(土坑・床土)	へラ記号	D-376
-25	72-11	土師器・高坏	古墳中期~後期	3 D区-堅穴9	D-375	
-26	72-8	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-柵2	D-384	
-27	71-13	土師器・壺	古墳中期		D-383	
-28	71-16	土師器・小型丸底壺	古墳中期	3 D区-柵1	D-382	
-29	71-8	須恵器・坏身	6 C後半		D-381	
-30	71-4	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-堅穴8	D-369	
-31	72-6	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-堅穴6床土	D-368	
-32	71-14	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-堅穴7	D-371	
-33	72-3	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-堅穴7床土	D-370	
-34	72-4	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-堅穴10床土	D-380	
-35	72-5	土師器・甕	古墳中期		D-379	
-36	71-10	土師器・甕	古墳中期		D-378	
-37	71-11	土師器・甕	古墳前期~中期		D-377	
84-1	75-1	瓦器・椀	13C		3 D区-穴8	D-386
-2	75-3	土師器・皿	13C	3 D区-穴15	D-387	
-3	75-2	土師器・皿	11C	3 D区-穴28	D-388	
-4	74-3	須恵器・高坏	5 C後半	3 D区-穴103	D-391	
-5	73-4	須恵器・高坏蓋	5 C後半~6 C	3 D区-穴298	D-399	
-6	73-7	須恵器・高坏蓋	5 C後半~6 C	3 D区-穴299	D-457	
-7	73-8	須恵器・高坏蓋	6 C	3 D区-穴445・446	D-411	
-8	73-10	須恵器・長頸壺蓋	6 C後半	3 D区-穴249	D-394	
-9	73-9	須恵器・坏蓋	5 C後半	3 D区-穴507	D-412	
-10	73-1	須恵器・坏蓋	5 C後半	3 D区-穴738	D-430	
-11	74-1	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-穴944	D-446	
-12	74-4	須恵器・壺	6 C後半	3 D区-穴571	D-419	
-13	75-15	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴52	D-389	
-14	75-7	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-穴158	D-392	
-15	73-11	須恵器・坏蓋	6 C	3 D区-穴830	へラ記号(×)	D-436
-16	73-6	須恵器・坏蓋	6 C後半	3 D区-穴944	D-445	
-17	73-3	須恵器・坏蓋	6 C後半	3 D区-穴854	D-438	
-18	73-2	須恵器・坏蓋	6 C前半	3 D区-穴803	D-435	
-19	73-5	須恵器・坏蓋	6 C後半	3 D区-穴761	D-433	
-20	74-2	須恵器・壺	5 C後半	3 D区-穴880	D-440	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
84-21	74-6	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-穴863		D-439
-22	75-4	土師器・鉢	古墳中期	3 D区-穴296		D-398
-23	75-11	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴168		D-393
-24	73-13	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-穴608		D-424
-25	74-11	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-穴583		D-421
-26	74-13	須恵器・坏身	5 C後葉~6 C初	3 D区-穴478		D-408
-27	73-15	須恵器・坏身	6 C前半	3 D区-穴599		D-423
-28	73-16	須恵器・坏身	6 C後半	3 D区-穴536		D-417
-29	74-5	須恵器・把手	5 C後半	3 D区-穴952		D-450
-30	76-12	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴292		D-397
-31	73-12	須恵器・坏身	5 C後半	3 D区-穴941		D-443
-32	73-14	須恵器・把手付碗	5 C中頃	3 D区-穴514		D-413
-33	74-12	須恵器・脚台	6 C	3 D区-穴984		D-454
-34	74-10	須恵器・臚	6 C前半	3 D区-穴489		D-409
-35	75-5	土師器・坏蓋	5 C後半	3 D区-穴970		D-452
-36	75-10	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴657		D-426
-37	76-5	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴959		D-451
-38	74-9	須恵器・壺	6 C	3 D区-穴524		D-414
-39	76-4	土師器・高坏	古墳前期~後期	3 D区-穴939		D-444
-40	76-11	土師器・高坏	古墳前期~中期	3 D区-穴881		D-441
-41	75-14	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴684		D-427
-42	74-7	須恵器・壺	6 C	3 D区-穴946		D-447
-43	74-8	須恵器・台付壺	6 C後半	3 D区-穴846		D-437
-44	76-13	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴732		D-429
-45	76-16	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴575		D-420
-46	75-13	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴309		D-400
-47	76-18	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴986		D-455
-48	76-15	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴704		D-428
-49	76-14	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴539		D-418
-50	76-17	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴339		D-402
-51	76-19	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-穴290		D-396
85-1	75-8	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-穴926		D-442
-2	75-12	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴587		D-422
-3	75-17	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴470		D-407
-4	75-18	土師器・甕	古墳中期	3 D区-穴313		D-401
-5	76-1	土師器・甕	古墳中期	3 D区-穴990		D-456
-6	76-9	土師器・壺	古墳中期	3 D区-穴495		D-410
-7	75-6	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴759		D-432
-8	75-19	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴947		D-449
-9	75-20	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴391		D-404
-10	75-16	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-穴946		D-448
-11	76-8	土師器・壺	古墳前期	3 D区-穴983		D-453
-12	75-9	土師器・小型丸底壺	古墳前期~中期	3 D区-穴86		D-390
-13	76-2	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-穴636		D-425
-14	76-7	土師器・甕	古墳後期	3 D区-穴290		D-395
-15	76-10	土師器・鉢	古墳後期	3 D区-穴339		D-403
-16	76-3	土師器・鉢	古墳後期	3 D区-穴532		D-415
-17	76-6	土師器・壺	古墳前期~後期	3 D区-穴764		D-434
-18	75-21	土師器・甗	古墳中期~後期	3 D区-穴752		D-431
-19	111-2	韓式系軟質土器・鉢	古墳中期~後期	3 D区-穴410		D-405
86-1	77-2	白磁・碗	11~14 C	3 D区-土坑17		D-499
-2	77-11	須恵器・坏蓋	5 C後半~6 C初	3 D区-土坑66		D-554
-3	77-19	須恵器・坏蓋	5 C後半~6 C初	3 D区-土坑60		D-535
-4	77-6	須恵器・坏蓋	5 C後半~6 C初			D-533
-5	77-12	須恵器・坏身	5 C後半~6 C初	3 D区-土坑51		D-522
-6	77-10	須恵器・坏身	5 C後半~6 C初			D-523
-7	77-5	須恵器・高坏	5 C後半~6 C初	3 D区-土坑53		D-525
-8	77-1	白磁・碗	11~14 C	3 D区-土坑23		D-502
-9	77-15	須恵器・坏身	5 C後半	3 D区-土坑66		D-553
-10	77-18	須恵器・高坏	5 C後半			D-552
-11	77-17	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初	3 D区-土坑60		D-536
-12	77-13	須恵器・短頸壺	5 C後半			D-534
-13	77-14	須恵器・提瓶	6 C前半	3 D区-土坑64		D-542

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.
86-14	77-7	須恵器・鉢	6 C	3 D区-土坑43		D-505
-15	77-16	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-土坑56		D-528
-16	77-8	須恵器・壺	5 C後半~6 C前半	3 D区-土坑51		D-521
-17	77-9	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-土坑65		D-544
-18	77-4	須恵器・壺	5 C後半~6 C前半	3 D区-土坑59		D-531
-19	77-3	韓式系軟質土器	古墳中期	3 D区-土坑66		D-545
-20	78-14	土師器・甕	古墳前期~中期	3 D区-土坑53		D-524
-21	78-11	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-土坑59		D-530
-22	78-16	土師器・甕	古墳中期	3 D区-土坑62		D-538
-23	80-1	土師器・甕	古墳前期~中期			D-557
-24	78-13	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-土坑65		D-543
-25	78-1	土師器・鉢	古墳中期~後期	3 D区-土坑55		D-527
-26	78-15	土師器・把手	古墳中期~後期	3 D区-土坑57		D-529
-27	78-10	土師器・甕	古墳中期	3 D区-土坑51		D-520
-28	79-6	土師器・竈	古墳中期~後期	3 D区-土坑59		D-532
-29	79-3	土師器・甕	古墳中期	3 D区-土坑66		D-551
-30	80-3	土師器・鍋(把手付)	古墳中期~後期			D-546
87-1	79-7	土師器・高坏	古墳中期			D-547
-2	79-8	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑62		D-539
-3	79-1	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑61		D-537
-4	79-9	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑66		D-548
-5	79-10	土師器・高坏	古墳中期			D-549
-6	79-2	土師器・高坏	古墳中期		D-550	
-7	78-3	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑51		D-513
-8	78-5	土師器・高坏	古墳中期			D-511
-9	78-6	土師器・高坏	古墳中期			D-515
-10	78-8	土師器・高坏	古墳中期			D-512
-11	79-5	土師器・高坏	古墳中期		3 D区-土坑64	
-12	80-2	土師器・壺	古墳中期	3 D区-土坑51		D-508
-13	79-12	土師器・高坏	古墳中期		D-517	
-14	79-13	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑62		D-540
-15	79-11	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑53		D-526
-16	78-7	土師器・高坏	古墳中期	3 D区-土坑51		D-514
-17	78-4	土師器・鉢	古墳中期			D-510
-18	78-12	土師器・壺	古墳中期			D-507
-19	78-9	土師器・甕	古墳中期			D-519
-20	78-2	土師器・甕	古墳中期			D-509
-21	79-4	土師器・甕	古墳中期			D-518
88-1	80-9	瓦器・椀	13C後半		3 D区-溝1	
-2	80-8	瓦器・椀	13C後半	3 D区-溝23		D-464
-3	81-11	須恵器・高坏蓋	5 C後半~6 C	3 D区-溝43		D-468
-4	81-4	須恵器・高坏蓋	5 C後半~6 C	3 D区-溝25		D-465
-5	80-11	須恵器・坏身	6 C前半	3 D区-溝42		D-467
-6	81-6	須恵器・坏身	6 C後半	3 D区-溝76		D-478
-7	81-19	須恵器・坏身	6 C後半	3 D区-溝45		D-469
-8	81-18	土師器・竈	古墳中期~後期	3 D区-溝3		D-459
-9	80-10	須恵器・坏蓋	7 C初	3 D区-溝76		D-477
-10	81-1	須恵器・坏蓋	6 C末~7 C初			D-476
-11	81-10	須恵器・甕	5 C後半			D-475
-12	81-15	須恵器・高坏	6 C後半	3 D区-溝56		D-472
-13	81-7	須恵器・高坏?	6 C前半	3 D区-溝71		D-474
-14	80-7	須恵器・高坏	5 C後半	3 D区-溝38		D-466
-15	81-23	土師器・竈	古墳中期~後期	3 D区-溝68		D-558
-16	81-22	土師器・甕	古墳中期~後期	3 D区-溝50		D-559
-17	81-21	土師器・鍋(把手)	古墳中期~後期	3 D区-溝122		D-485
-18	80-12	須恵器・坏蓋	5 C後葉~6 C初	3 D区-溝123		D-486
-19	80-5	須恵器・高坏	5 C後半	3 D区-溝116		D-480
-20	81-5	須恵器・坏蓋	5 C後半	3 D区-溝127		D-489
-21	81-16	土師器・甕	古墳中期	3 D区-溝124		D-487
-22	81-8	須恵器・甕	6 C	3 D区-溝50		D-471
-23	80-13	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-溝60		D-473
-24	81-3	須恵器・壺	6 C	3 D区-溝50		D-470
-25	81-20	土師器・壺	古墳後期	3 D区-溝20		D-461

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.	
88-26	81-9	須恵器・脚台	6 C後半	3 D区-溝20		D-463	
-27	81-17	須恵器・甗	5 C後半~6 C	3 D区-溝99		D-490	
-28	80-6	土師器・甗	古墳前期~中期	3 D区-溝20		D-462	
-29	81-2	須恵器・壺	6 C前半	3 D区-溝118		D-484	
-30	80-4	土師器・甗	古墳前期~中期	3 D区-溝116		D-483	
-31	81-14	土師器・鉢	古墳中期~後期			D-481	
-32	81-12	土師器・鉢	古墳中期			D-482	
-33	81-13	土師器・鉢	古墳中期~後期		3 D区-溝127		D-488
89-1	82-15	須恵器・坏蓋	6 C前半	3 D区-炭集中部		D-619	
-2	82-17	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-579	
-3	82-14	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-585	
-4	82-11	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-565	
-5	83-15	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-603	
-6	82-10	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-627	
-7	82-12	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-595	
-8	82-16	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-596	
-9	82-13	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-586	
-10	83-8	須恵器・坏蓋	6 C			ヘラ記号(ハ)	D-605
-11	84-6	須恵器・坏蓋	6 C			ヘラ記号(リ)	D-597
-12	82-1	須恵器・坏身	6 C前半				D-628
-13	82-7	須恵器・坏身	6 C前半				D-574
-14	84-13	須恵器・坏身	6 C前半				D-572
-15	82-8	須恵器・坏身	6 C前半				D-620
-16	82-5	須恵器・坏身	6 C前半				D-562
-17	82-4	須恵器・坏身	6 C前半				D-566
-18	82-3	須恵器・坏身	6 C前半				D-563
-19	82-9	須恵器・坏身	6 C前半				D-564
-20	82-6	須恵器・坏身	6 C前半			底部外面ヘラ記号(-)	D-610
-21	82-2	須恵器・坏身	6 C前半				D-575
-22	83-9	須恵器	5 C後半				D-577
-23	83-14	須恵器	5 C後半				D-617
-24	84-15	須恵器・甗	5 C後半				D-591
-25	83-7	須恵器・甗	6 C前半				D-578
-26	83-5	須恵器・甗	5 C後半~6 C				D-584
-27	83-2	須恵器・甗	5 C後半~6 C				D-583
-28	83-6	須恵器・甗	6 C前半				D-598
-29	84-16	須恵器・甗	6 C前半				D-590
-30	84-10	須恵器・壺	5 C後半				D-602
-31	84-14	須恵器・短頸壺	6 C				D-571
-32	83-3	須恵器・甗	5 C後半				D-567
-33	83-4	須恵器・甗	6 C前半				D-561
-34	83-17	須恵器・壺	5 C後半~6 C前半				D-608
-35	84-11	須恵器・高坏	6 C前半				D-626
-36	84-9	須恵器・高坏	6 C前半				D-576
-37	84-12	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初				D-607
-38	84-17	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初				D-599
-39	83-10	須恵器・高坏	6 C後半				D-580
-40	83-16	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初				D-612
-41	83-11	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初				D-606
-42	83-13	須恵器・高坏	5 C後葉~6 C初				D-569
90-1	83-1	須恵器・把手付捏鉢	6 C後半			D-593	
-2	83-12	須恵器・把手	5 C後半~6 C			D-615	
-3	84-5	須恵器・鉢	6 C			D-625	
-4	84-7	須恵器・脚台	6 C			D-609	
-5	84-18	須恵器・提瓶	6 C前半			D-614	
-6	84-8	須恵器・脚台	6 C			D-600	
-7	84-19	須恵器・甗	5 C後半~6 C			D-592	
-8	84-2	須恵器・甗	5 C後半~6 C			D-568	
-9	84-1	須恵器・甗	5 C後半~6 C			D-573	
-10	84-3	須恵器・甗	5 C後半~6 C			D-616	
-11	84-4	須恵器・甗	5 C後半~6 C			D-594	
-12	84-28	土師器・甗	古墳中期			D-587	
-13	84-23	土師器・甗	古墳中期			D-588	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.	
90-14	84-26	土師器・羽釜	古墳中期～後期	3 D区-炭集中部		D-560	
-15	84-29	土師器・羽釜	古墳中期～後期			D-613	
-16	84-21	土師器・甕	古墳後期			D-582	
-17	84-20	土師器・甕	古墳後期			D-589	
-18	85-4	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-621	
-19	85-3	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-618	
-20	85-2	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-570	
-21	85-1	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-601	
-22	84-22	土師器・把手	古墳中期～後期			D-611	
-23	84-30	土師器・把手	古墳中期～後期			D-623	
-24	84-27	土師器・把手	古墳中期～後期			D-581	
-26	84-25	土師器・竈	古墳中期～後期			D-624	
91-1	86-1	須恵器・坏蓋	7 C初		3 D区-河川2 上層		D-659
-2	85-5	須恵器・坏蓋	6 C後半				D-660
-3	85-8	須恵器・坏身	6 C後半			D-661	
-4	85-6	須恵器・坏身	6 C後半			D-635	
-5	86-4	須恵器・甕	5 C後葉～6 C初			D-653	
-6	86-2	須恵器・甕	6 C			D-632	
-7	85-9	須恵器・甕	6 C			D-655	
-8	85-21	須恵器・壺	6 C			D-654	
-9	86-8	須恵器・甕	5 C後半～6 C初			D-633	
-10	86-3	須恵器・高坏	6 C前半			D-634	
-11	85-7	須恵器・甕	6 C			D-656	
-12	85-22	須恵器・甕	6 C			D-657	
-13	85-19	須恵器・甕	5 C後半			D-658	
-14	86-7	須恵器・器台	5 C後半			D-663	
-15	85-20	須恵器・器台	6 C後半			D-662	
-16	85-18	土師器・鉢	古墳前期			D-641	
-17	86-6	土師器・壺	古墳前期～中期			D-636	
-18	85-16	土師器・甕	古墳後期			D-652	
-19	85-11	土師器・高坏	古墳中期			D-643	
-20	85-17	土師器・高坏	古墳中期			D-642	
-21	85-10	土師器・高坏	古墳中期			D-645	
-22	85-12	土師器・高坏	古墳中期			D-644	
-23	86-5	土師器・甕	古墳中期			D-640	
-24	85-14	土師器・甕	古墳中期			D-638	
-25	85-15	土師器・甕	古墳中期			D-639	
-26	85-13	土師器・甕	古墳後期			D-637	
92-1	86-9	土師器・竈	古墳中期～後期		D-649		
-2	86-10	土師器・竈	古墳中期～後期		D-650		
-3	86-12	土師器・竈	古墳中期～後期		D-648		
-4	86-11	土師器・竈	古墳中期～後期		D-647		
-5	86-13	土師器・竈	古墳中期～後期		D-646		
-6	87-19	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C	3 D区-河川2 中層		D-843	
-7	87-18	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C			D-840	
-8	87-16	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C			D-838	
-9	87-17	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C			D-839	
-10	87-13	須恵器・坏	6 C末?			D-862	
-11	87-15	須恵器・坏蓋	6 C		ヘラ記号 ()	D-845	
-12	87-1	須恵器・高坏蓋	6 C前半			D-841	
-13	87-3	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-880	
-14	87-12	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-848	
-15	87-6	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-872	
-16	87-9	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-873	
-17	87-7	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-879	
-18	87-5	須恵器・坏蓋	6 C後半		内面当て具痕	D-855	
-19	87-11	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-868	
-20	87-10	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-882	
-21	87-4	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-870	
-22	87-2	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-871	
-23	87-8	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-869	
-24	87-14	須恵器・坏蓋	6 C後半			D-859	
-25	88-13	須恵器・坏身	5 C前葉～6 C初			D-866	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.
92-26	88-16	須恵器・坏身	6 C前半	3 D区-河川2 中層		D-856
-27	88-19	須恵器・坏身	6 C前半			D-853
-28	88-4	須恵器・坏身	6 C前半			D-854
-29	88-1	須恵器・坏身	6 C前半			D-883
-30	88-14	須恵器・坏身	6 C前半			D-867
-31	88-20	須恵器・坏身	6 C前半			D-858
-32	88-5	須恵器・坏身	6 C前半			D-851
-33	88-12	須恵器・坏身	6 C前半			D-865
-34	88-2	須恵器・坏身	6 C後半			D-849
-35	88-7	須恵器・坏身	6 C後半			D-881
-36	88-18	須恵器・坏身	6 C後半			D-863
-37	88-3	須恵器・坏身	6 C後半			D-875
-38	88-11	須恵器・坏身	6 C後半			D-874
-39	88-15	須恵器・坏身	6 C後半			D-877
-40	88-8	須恵器・坏身	6 C後半			D-857
93-1	88-6	須恵器・坏身	6 C後半			D-864
-2	88-9	須恵器・坏身	6 C後半			D-878
-3	88-10	須恵器・坏身	6 C後半			D-860
-4	88-17	須恵器・坏身	6 C後半			D-876
-5	89-19	須恵器・高坏	5 C後半~6 C前半			D-812
-6	89-20	須恵器・高坏	5 C後半~6 C前半			D-803
-7	89-9	須恵器・高坏	6 C中頃			D-801
-8	89-10	須恵器・高坏	6 C中頃			D-802
-9	89-3	須恵器・高坏	6 C中頃			D-800
-10	89-28	須恵器・把手付高坏	5 C後半			D-799
-11	89-12	須恵器・把手付高坏	5 C後半			D-809
-12	89-11	須恵器・高坏	5 C後半			D-805
-13	89-22	須恵器・高坏	5 C後半			D-806
-14	89-25	須恵器・高坏	6 C			D-804
-15	89-2	須恵器・高坏	6 C中頃			D-816
-16	89-5	須恵器・高坏	6 C後半			D-813
-17	89-4	須恵器・高坏	6 C中頃			D-810
-18	89-17	須恵器・高坏	6 C後半			D-814
-19	89-1	須恵器・高坏	6 C中頃			D-815
-20	89-30	須恵器・高坏	6 C前半			D-817
-21	89-18	須恵器・高坏	6 C中頃			D-821
-22	89-23	須恵器・高坏	5 C後半			D-807
-23	89-15	須恵器・高坏	5 C後半			D-818
-24	89-6	須恵器・高坏	5 C後半			D-822
-25	89-7	須恵器・高坏	5 C後半?			D-819
-26	89-8	須恵器・高坏	5 C後半		D-808	
-27	89-13	須恵器・高坏	5 C後半		D-823	
-28	89-16	須恵器・高坏	5 C後半		D-824	
-29	89-27	須恵器・器台	5 C後半		D-830	
-30	89-29	須恵器・器台?	6 C後半		D-852	
-31	89-26	須恵器・器台	6 C後半		D-826	
-32	89-24	須恵器・器台	6 C後半		D-825	
-33	89-14	須恵器・器台	6 C後半		D-827	
-34	89-31	須恵器・器台	6 C後半		D-829	
-35	89-21	須恵器・横瓶	6 C		D-798	
-36	90-16	須恵器・横瓶	6 C		D-788	
-37	90-17	須恵器・横瓶	6 C		D-789	
94-1	90-19	須恵器・壺	6 C		D-763	
-2	90-15	須恵器・壺	6 C		D-762	
-3	90-18	須恵器・壺	6 C		D-767	
-4	90-20	須恵器・壺	6 C		D-765	
-5	90-22	須恵器・壺	6 C		D-766	
-6	90-10	須恵器・壺	6 C		D-797	
-7	91-15	須恵器・壺	6 C		D-761	
-8	90-9	須恵器・長頸壺	6 C		D-755	
-9	90-8	須恵器・短頸壺	6 C中頃		D-757	
-10	90-21	須恵器・短頸壺	6 C中頃		D-756	
-11	90-1	須恵器・短頸壺	6 C中頃		D-764	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
94-12	90-12	須恵器・短頸壺	6 C中頃	3 D区-河川2中層		D-768
-13	90-14	須恵器・小型壺	6 C			D-759
-14	90-5	須恵器・甕	6 C中頃			D-836
-15	90-6	須恵器・甕	6 C中頃			D-794
-16	90-11	須恵器・甕	6 C中頃			D-796
-17	90-7	須恵器・甕	6 C中頃			D-795
-18	90-3	須恵器・甕	6 C中頃			D-792
-19	90-2	須恵器・甕	6 C中頃			D-793
-20	91-16	須恵器・甕	6 C中頃			D-780
-21	91-18	須恵器・甕	6 C前半			D-778
-22	91-19	須恵器・甕	6 C前半			D-782
-23	91-4	須恵器・甕	6 C前半			D-773
-24	91-11	須恵器・甕	6 C前半			D-777
-25	91-8	須恵器・甕	6 C中頃			D-781
-26	91-17	須恵器・甕	6 C中頃			D-770
-27	92-4	須恵器・甕	6 C中頃			D-772
-28	91-13	須恵器・甕	5 C後半~6 C前半			D-784
95-1	91-3	須恵器・甕	6 C前半			D-834
-2	92-2	須恵器・甕	6 C後半			D-771
-3	92-1	須恵器・甕	6 C後半			D-787
-4	92-5	須恵器・甕	6 C後半			D-758
-5	92-3	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器 D-776
-6	91-12	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器 D-779
-7	92-6	須恵器・甕	6 C前半			D-791
-8	91-9	須恵器・甕	6 C中頃			D-775
-9	91-6	須恵器・甕	6 C前半			D-774
-10	91-5	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器 D-783
-11	91-1	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器 D-785
-12	91-2	須恵器・甕	5 C後半			D-769
96-1	92-14	須恵器・提瓶	6 C中頃			D-790
-2	90-4	須恵器・提瓶	6 C中頃			D-760
-3	90-13	須恵器・把手	5 C後半~6 C			D-835
-4	91-10	須恵器・甕	5 C後半~6 C			内面に当て具痕 D-833
-5	91-7	須恵器・甕	5 C後半~6 C			D-831
-6	91-14	須恵器・甕	5 C後半~6 C			D-832
-7	91-20	須恵器・甕	5 C後半~6 C			D-786
-8	92-11	土師器・甕	古墳中期~後期			D-744
-9	92-13	土師器・甕	古墳中期~後期			D-743
-10	92-12	土師器・甕	古墳中期~後期			D-700
-11	92-7	土師器・羽釜	古墳中期~後期			D-751
-12	92-10	土師器・羽釜	古墳中期~後期			D-753
-13	92-8	土師器・羽釜	古墳中期~後期			D-752
-14	92-9	土師器・羽釜	古墳中期~後期			D-754
97-1	93-3	土師器・甕	古墳中期			D-698
-2	93-1	土師器・甕	古墳中期			D-672
-3	93-4	土師器・甕	古墳中期			D-678
-4	94-4	土師器・甕	古墳中期			D-675
-5	94-8	土師器・甕	古墳中期			D-697
-6	94-3	土師器・甕	古墳中期			D-674
-7	94-2	土師器・甕	古墳中期			D-686
-8	94-5	土師器・甕	古墳後期			D-682
-9	94-9	土師器・甕	古墳後期		D-694	
-10	94-6	土師器・甕	古墳後期		D-699	
-11	93-2	土師器・甕	古墳後期		D-685	
-12	93-8	土師器・甕	古墳中期		D-671	
-13	94-1	土師器・甕	古墳後期		D-696	
-14	93-5	土師器・甕	古墳中期		D-684	
-15	93-7	土師器・甕	古墳中期		D-670	
-16	94-7	土師器・甕	古墳中期		D-673	
-17	93-6	土師器・甕	古墳中期~後期		D-687	
98-1	96-8	土師器・高坏	古墳中期~後期		D-718	
-2	96-9	土師器・高坏	古墳中期~後期		D-715	
-3	95-2	土師器・高坏	古墳中期~後期		D-717	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.
98-4	96-1	土師器・高坏	古墳中期～後期	3 D区-河川2中層		D-702
-5	95-1	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-711
-6	96-7	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-706
-7	96-10	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-716
-8	96-4	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-703
-9	96-3	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-704
-10	96-6	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-705
-11	96-2	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-707
-12	95-3	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-709
-13	95-4	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-710
-14	95-6	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-712
-15	95-5	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-719
-16	94-12	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-723
-17	94-11	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-721
-18	94-13	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-720
-19	94-14	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-714
-20	94-16	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-713
-21	94-15	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-722
-22	94-10	土師器・高坏	古墳中期～後期			口縁部との剥離痕明瞭 D-708
-23	95-9	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-736
-24	95-8	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-732
-25	95-14	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-731
-26	96-5	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-740
-27	95-19	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-729
-28	95-18	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-726
-29	95-21	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-724
-30	95-7	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-730
-31	95-16	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-739
-32	95-17	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-733
-33	95-11	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-727
-34	95-13	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-728
-35	95-15	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-735
-36	95-10	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-738
-37	95-12	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-741
-38	95-20	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-737
-39	95-22	土師器・高坏	古墳中期～後期			D-734
99-1	97-2	土師器・壺	古墳中期			D-688
-2	96-11	土師器・壺	古墳中期			D-669
-3	97-8	土師器・壺	古墳中期			D-689
-4	96-12	土師器・壺	古墳中期		D-10	
-5	96-13	土師器・鉢	古墳中期		D-693	
-6	97-1	土師器・鉢	古墳中期～後期		D-692	
-7	97-9	土師器・壺	古墳前期		D-668	
-8	97-3	土師器・竈	古墳中期～後期		D-750	
-9	97-11	土師器・竈	古墳中期～後期		D-748	
-10	97-12	土師器・竈	古墳中期～後期		D-747	
-11	97-15	土師器・竈	古墳中期～後期		D-746	
-12	97-13	土師器・竈	古墳中期～後期		D-745	
-13	97-10	土師器・竈	古墳中期～後期		D-742	
-14	97-14	土師器・竈	古墳中期～後期		D-749	
-15	97-4	弥生・甕	弥生後期		D-679	
-16	97-6	弥生・鉢	弥生後期		D-664	
-17	96-14	弥生・鉢	弥生後期		D-665	
-18	97-7	弥生・壺	弥生後期		D-667	
-19	97-5	弥生・壺	弥生後期		D-666	
100-1	98-6	須恵器・坏蓋	6 C前半	3 D区-河川2下層		D-926
-2	98-2	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-921
-3	98-3	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-919
-4	98-1	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-924
-5	98-4	須恵器・坏蓋	6 C中頃			D-922
-6	98-7	須恵器・坏蓋	6 C前半			D-923
-7	98-19	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初			D-1106
-8	98-8	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初			D-925

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
100-9	98-5	須恵器・坏蓋	5 C後葉～6 C初	3 D区-河川2下層		D-920	
-10	98-17	須恵器・高坏蓋	5 C後半～6 C			D-930	
-11	98-21	須恵器・坏蓋	6 C		ヘラ記号	D-927	
-12	98-20	須恵器・坏蓋	6 C		ヘラ記号	D-928	
-13	98-18	須恵器・坏蓋	6 C		ヘラ記号	D-929	
-14	98-13	須恵器・坏身	6 C前半			D-933	
-15	98-16	須恵器・坏身	6 C前半			D-935	
-16	98-14	須恵器・坏身	6 C前半			D-932	
-17	98-12	須恵器・坏身	6 C前半			D-931	
-18	98-9	須恵器・坏身	6 C前半			D-937	
-19	98-15	須恵器・坏身	6 C前半			D-938	
-20	98-11	須恵器・坏身	6 C前半			D-934	
-21	98-10	須恵器・坏身	6 C後半			D-936	
-22	99-5	須恵器・高坏	6 C後半			D-902	
-23	99-12	須恵器・高坏	6 C後半			D-901	
-24	99-11	須恵器・高坏	6 C後半			D-1105	
-25	99-8	須恵器・高坏	6 C後半			D-911	
-26	99-2	須恵器・高坏	5 C後半			D-904	
-27	99-6	須恵器・高坏	5 C後半			D-903	
-28	99-9	須恵器・高坏	6 C後半			D-910	
-29	99-10	須恵器・高坏	6 C後半			D-912	
-30	99-7	須恵器・高坏	5 C後葉～6 C前半			D-913	
-31	99-3	須恵器・高坏	5 C後半			D-905	
-32	99-13	須恵器・高坏	5 C後半			D-909	
-33	99-4	須恵器・高坏	5 C後半			D-908	
-34	99-15	須恵器・高坏	5 C後半			D-906	
-35	99-14	須恵器・高坏	5 C後半			D-907	
-36	100-15	須恵器・壺	5 C後半			D-884	
-37	98-22	須恵器・壺	5 C後半～6 C前半			D-887	
-38	99-16	須恵器・壺	6 C			D-886	
-39	99-17	須恵器・壺	6 C			D-889	
-40	99-1	須恵器・脚台	6 C			D-885	
101-1	100-3	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器	D-893
-2	100-14	須恵器・甕	5 C前半			初期須恵器	D-895
-3	100-12	須恵器・甕	6 C前半				D-892
-4	100-4	須恵器・甕	6 C前半				D-890
-5	100-5	須恵器・甕	6 C前半				D-894
-6	100-1	須恵器・甕	6 C前半				D-891
-7	100-10	須恵器・器台	5 C後半～6 C				D-914
-8	100-8	須恵器・器台	5 C後半～6 C				D-917
-9	100-9	須恵器・器台	5 C後半～6 C			D-916	
-10	100-13	須恵器・器台	6 C後半			D-915	
-11	100-2	須恵器・甌	5 C後半～6 C			D-918	
-12	100-11	須恵器・提瓶	6 C前半			D-897	
-13	100-17	須恵器・甌	6 C後半			D-899	
-14	100-6	須恵器・甌	6 C後半			D-898	
-15	100-16	須恵器・甌	6 C後半			D-900	
-16	100-7	須恵器・把手付鉢	5 C後半～6 C			D-896	
102-1	101-20	土師器・甕	古墳前期～中期			D-986	
-2	101-10	土師器・甕	古墳前期～中期			D-1001	
-3	101-3	土師器・甕	古墳前期～中期		外面漆黒色	D-981	
-4	101-12	土師器・甕	古墳前期～中期			D-1008	
-5	101-2	土師器・甕	古墳前期～中期		外面漆黒色	D-977	
-6	101-4	土師器・甕	古墳前期～中期			D-975	
-7	101-17	土師器・甕	古墳前期～中期			D-998	
-8	101-5	土師器・甕	古墳前期～中期		外面漆黒色	D-980	
-9	101-1	土師器・甕	古墳前期～中期			D-1003	
-10	101-13	土師器・甕	古墳前期～中期			D-983	
-11	101-21	土師器・甕	古墳中期			D-979	
-12	101-6	土師器・甕	古墳中期			D-1002	
-13	101-8	土師器・甕	古墳中期			D-976	
-14	101-19	土師器・甕	古墳中期			D-982	
-15	101-11	土師器・甕	古墳中期			D-989	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
102-16	101-14	土師器・甕	古墳中期	3 D区-河川2下層		D-988
-17	101-15	土師器・甕	古墳中期～後期			D-973
-18	102-3	土師器・甕	古墳中期～後期			D-1107
-19	101-9	土師器・甕	古墳中期～後期			D-1006
-20	101-18	土師器・壺	古墳前期(布留)			D-984
-21	102-4	土師器・甕	古墳前期(布留)			D-942
-22	101-16	土師器・甕	古墳前期(布留)			D-992
103-1	102-6	土師器・甕	古墳前期(布留)			D-971
-2	102-1	土師器・甕	古墳前期(布留)			D-999
-3	102-5	土師器・甕	古墳前期～中期			D-966
-4	102-2	土師器・甕	古墳前期(布留)			D-991
-5	101-7	土師器・壺	古墳前期			D-985
-6	102-8	土師器・壺	古墳前期(布留)		口縁部内面漆黒色	D-943
-7	104-7	土師器・壺	古墳前期(庄内)			D-997
-8	104-5	土師器・壺	古墳前期		内面に炭化米付着	D-968
-9	102-9	土師器・壺	古墳前期			D-987
-10	102-7	土師器・壺	古墳前期			D-996
-11	104-4	土師器・壺	古墳前期		内面に炭化米付着	D-8
-12	104-6	土師器・壺	古墳前期		内面に炭化米付着	D-967
-13	104-2	土師器・壺	古墳前期			D-972
-14	104-3	土師器・壺	古墳前期			D-970
-15	104-1	土師器・壺	古墳前期			D-969
104-1	103-3	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-950
-2	102-11	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-958
-3	103-15	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-952
-4	105-8	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-961
-5	103-8	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-948
-6	103-12	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-964
-7	103-16	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-953
-8	102-10	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-962
-9	103-4	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-960
-10	105-9	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-957
-11	105-6	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-956
-12	105-7	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-959
-13	103-11	土師器・手づくね	古墳前期(布留)			D-944
-14	103-10	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-946
-15	103-9	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-947
-16	103-13	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-955
-17	103-14	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-954
-18	103-1	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-949
-19	103-6	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-965
-20	103-7	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-994
-21	103-2	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-951
-22	102-12	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-995
-23	103-5	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)			D-945
-24	105-2	土師器・直口壺	古墳前期(布留)		D-993	
-25	105-10	土師器・鉢	古墳前期(布留)		D-1013	
-26	105-12	土師器・鉢	古墳前期～中期		D-1014	
-27	104-11	土師器・鉢	古墳前期～中期		D-1012	
-28	104-10	土師器・鉢	古墳前期～中期		D-1011	
-29	105-11	土師器・鉢	古墳前期～中期		D-1015	
-30	105-13	土師器・鉢	古墳前期(庄内)		D-1016	
-31	104-8	土師器・鉢	古墳中期～後期		D-1108	
-32	105-1	土師器・鉢	古墳前期(布留)		D-990	
-33	105-5	土師器・鉢	古墳前期(布留)		D-1000	
-34	104-9	土師器・台付鉢	古墳前期		D-1009	
-35	104-13	土師器・台付鉢	古墳前期		D-1010	
-36	104-12	土師器・鉢	古墳前期		D-1017	
-37	105-3	土師器・鉢	古墳前期(布留)		D-978	
-38	105-4	土師器・鉢	古墳前期(布留)		D-1026	
105-1	105-22	土師器・高坏	古墳前期		D-1050	
-2	105-21	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1044	
-3	105-18	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1043	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.
105-4	107-3	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-河川2下層		D-1052
-5	107-5	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1051
-6	107-4	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1040
-7	106-6	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1037
-8	106-7	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1028
-9	106-3	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1039
-10	106-2	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1027
-11	105-20	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1048
-12	107-2	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1049
-13	107-6	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1042
-14	107-1	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1045
-15	105-16	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1041
-16	106-12	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1038
-17	105-15	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1047
-18	106-13	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1064
-19	106-8	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1029
-20	106-1	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1032
-21	105-23	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1063
-22	105-17	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1065
-23	107-7	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1060
-24	107-9	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1046
-25	107-8	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1066
-26	106-14	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1067
-27	106-15	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1062
-28	105-14	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1061
-29	105-19	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1059
-30	106-11	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1058
-31	106-9	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1109
106-1	106-5	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1035
-2	108-5	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1078
-3	108-6	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1082
-4	108-7	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1093
-5	108-8	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1075
-6	108-9	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1081
-7	108-10	土師器・高坏	古墳前期～中期			D-1091
-8	108-11	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1083	
-9	108-12	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1092	
-10	108-13	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1073	
-11	106-4	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1034	
-12	108-14	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1072	
-13	109-1	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1094	
-14	109-2	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1085	
-15	109-3	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1090	
-16	109-4	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1069	
-17	109-5	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1079	
-18	109-6	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1084	
-19	109-7	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1070	
-20	109-8	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1080	
-21	106-10	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1036	
-22	109-9	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1074	
-23	109-10	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1089	
-24	109-11	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1086	
-25	109-12	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1098	
-26	109-13	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1077	
-27	109-14	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1095	
-28	109-15	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1088	
-29	109-16	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1071	
-30	109-17	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1076	
-31	109-21	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1099	
-32	109-18	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1103	
-33	109-19	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1102	
-34	109-20	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1096	
-35	109-22	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1087	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
106-36	110-1	土師器・高坏	古墳前期～中期	3 D区-河川2下層		D-1068
-37	110-2	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1104	
-38	110-3	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1100	
-39	110-4	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1101	
-40	110-5	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1097	
107-1	108-3	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1055	
-2	110-16	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1054	
-3	107-11	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1031	
-4	107-10	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1030	
-5	108-4	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1053	
-6	108-1	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1057	
-7	108-2	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1056	
-8	110-9	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1018	
-9	107-12	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-7	
-10	107-13	土師器・高坏	古墳前期～中期		D-1033	
-11	110-13	土師器・把手	古墳中期		D-1020	
-12	110-14	土師器・把手	古墳中期～後期		D-1022	
-13	110-17	土師器・把手	古墳中期～後期		D-1021	
-14	110-10	土師器・甌	古墳中期～後期		D-1023	
-15	110-18	土師器・有孔鉢	弥生後期～古墳前期(庄内)		D-1024	
-16	110-15	土師器・有孔鉢	弥生後期～古墳前期(庄内)		D-1025	
-17	110-8	弥生・壺	弥生後期	D-941		
-18	110-11	弥生・壺	弥生後期	D-939		
-19	110-6	土師器・臙	古墳中期～後期	D-1019		
-20	110-7	弥生・壺	弥生中期～後期	D-1007		
-21	110-12	弥生・壺	弥生後期	D-940		
108-1	110-19	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-炭集中部	D-1117	
-2	110-21	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	D-1118		
-3	110-20	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-4-1面	D-1116	
-4	110-22	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-3層	D-1114	
-5	110-25	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-穴643	D-1112	
-6	110-23	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-3層	D-1115	
-7	110-24	韓式系軟質土器	古墳中期～後期	3 D区-土坑5	D-1113	
-8	111-1	韓式系軟質土器・鉢	古墳中期～後期	3 D区-河川2下層	D-1119	

3 E区

(黒須)

118-1	120-4	瓦質・羽釜	14C後半	3 E区-1層		E-2
-2	120-2	磁器・皿	15C		E-4	
-3	120-3	瓦器・皿	11C中		和泉型	E-17
-4	120-1	土師器・皿	12C		E-1	
-5	120-12	瓦器・椀	12C末	3 E区-2層	楠葉型	E-10
-6	120-13	瓦器・椀	13C		楠葉型	E-9
-7	120-14	瓦器・椀	13C前半		楠葉型	E-18
-8	120-16	瓦器・椀	13C前半		和泉型	E-8
-9	120-15	瓦器・椀	14C前半		楠葉型	E-26
-10	120-20	瓦器・椀	12C前半		楠葉型	E-21
-11	120-22	瓦器・椀	11C後半		楠葉型	E-25
-12	120-21	瓦器・椀	11C末		楠葉型	E-16
-13	121-3	土師器・鍋	13C		E-20	
-14	120-17	土師器・皿	13C後半		E-12	
-15	120-18	土師器・皿	11C後半		E-11	
-16	121-1	土師器・皿	11C後半		E-7	
-17	121-2	土師器・椀	12C前半		E-23	
-18	120-11	陶器	13C末	E-14		
-19	120-10	磁器・碗	11C後半	E-28		
-20	120-9	白磁・碗	11C後半	E-24		
-21	120-8	磁器	11C後半	E-19		
-22	120-7	白磁・碗	11C後半	E-15		
-23	120-6	磁器・碗	12C	E-22		
-24	120-5	白磁・碗	13C後半	E-31		
-25	120-19	陶器・播鉢	16C前半	3 E区-2面	丹波焼	E-30
-26	121-7	瓦器・椀(生焼け)	13C末		3 E区-3層	和泉型
-27	122-3	瓦器・椀	13C初頭	楠葉型		E-36

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.
118-28	122-8	瓦器・椀	12C	3 E区-3層	楠葉型	E-51
-29	122-7	瓦器・椀	13C		E-38	
-30	122-9	瓦器・椀	12C		E-47	
-31	122-6	瓦器・椀	12C		楠葉型	E-39
-32	122-2	瓦器・皿	13C		E-42	
-33	122-5	瓦器・皿	13C中		E-54	
-34	121-14	土師器・皿	12C中		E-37	
-35	121-17	土師器・皿	12C		E-41	
-36	121-11	土師器・皿	12C初頭		E-55	
-37	121-8	土師器・皿	13C中		E-46	
-38	121-15	土師器・皿	12C前半		E-52	
-39	121-12	土師器・皿	12C後半		E-45	
-40	121-6	土師器・皿	11C中		E-40	
-41	121-10	土師器・皿	11C中		E-35	
-42	121-16	土師器・皿	11C後半		E-56	
-43	121-9	土師器・皿	13C中		E-34	
-44	121-13	土師器・皿	11C末		E-48	
-45	121-19	土師器・皿	12C前半		E-53	
-46	122-4	黒色土器・椀	11C初頭		E-43	
-47	122-1	黒色土器・皿	13C中		E-44	
-48	121-4	白磁・碗	12C		E-50	
-49	121-5	白磁・碗	12C		E-57	
-50	121-18	瓦質・羽釜	13C		E-33	
-51	123-5	須恵器・坏蓋	6C末		3 E区-5層	E-74
-52	123-6	土師器・坏身	古墳時代後期		E-75	
-53	122-19	須恵器・坏身	7C前半		焼成不良、ヘラ記号(-)	E-58
-54	123-1	瓦器・椀	11C中		楠葉型	E-66
-55	123-4	瓦器・椀	11C中		楠葉型	E-73
-56	123-2	瓦器・椀	12C後半		楠葉型	E-63
-57	122-11	瓦器・椀	12C後半		和泉型	E-62
-58	123-3	瓦器・椀	12C末		楠葉型	E-70
-59	122-13	瓦器・椀	12C	楠葉型	E-64	
-60	122-15	黒色土器	12C前半	B類	E-69	
-61	122-16	土師器・皿	12C初頭	E-71		
-62	122-12	土師器・皿	12C	E-60		
-63	122-18	土師器・皿	12C後半	E-65		
-64	122-17	土師器・皿	10C後半	E-61		
-65	122-14	土師器・皿	10C前半	燈明皿	E-59	
-66	122-10	土師器・皿	12C	E-67		
-67	122-20	土師器・椀	12C前半	E-72		
119-1	123-7	須恵器・坏蓋	6C前半	3 E区-6層	E-82	
-2	123-8	須恵器・坏身	6C前半	E-83		
-3	123-17	土師器・高坏	古墳前期(布留)	E-84		
-4	123-14	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-87		
-5	123-9	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-77		
-6	123-13	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-80		
-7	123-15	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-78		
-8	123-12	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-85		
-9	123-16	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)	E-81		
-10	123-11	土師器・甕	古墳前期~中期	E-79		
-11	123-10	土師器・甕	古墳中期(布留)	E-86		

3 F区

(伊藤)

129-1	124-1	青磁・碗	9C後半~10C中	3 F区-1層	越州窯Ⅱ類	F-6
-2	124-2	白磁・碗	12C		Ⅳ類	F-10
-3	124-7	瓦質土器・佛花瓶	15C~16C		外面:花紋のスタンプ	F-9
-4	124-5	陶器・皿	近世			F-8
-5	124-6	土師器・皿	13C末~14C初			F-154
-6	124-4	古瀬戸・折縁深皿	14C中葉			F-7
-7	124-3	須恵器・捏鉢	12C末~13C初	3 F区-2層	東播系	F-11
-8	124-8	青磁・碗	12C末~13C前半	3 F区-3層	龍泉窯Ⅰ類	F-64
-9	124-12	白磁・碗	12C		Ⅳ類、見込みの段なし	F-75
-12	124-18	瓦質土器・足釜	12C~13C			F-70

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
129-14	124-9	土師器・皿	13C末~14C初	3 F区-3層	内面：ハケ目	F-62	
-15	124-13	土師器・皿	13C末~14C初			F-61	
-16	124-10	土師器・皿	11C末~12C初			F-68	
-17	124-14	瓦器・椀	12C前半			F-72	
-18	124-16	瓦器・椀	13C後半			F-71	
-19	124-11	瓦器・椀	13C末~14C初			F-74	
-20	124-15	瓦器・椀	13C中葉			F-12	
-21	124-17	瓦器・椀	13C前半?	3 F区-3面		F-13	
-22	124-19	瓦質土器・羽釜	14C	3 F区-3層	東播系	F-63	
-23	125-3	須恵器・捏鉢	12C末~13C初			F-66	
-24	125-4	須恵器・甕	中世			備前系	F-65
-25	125-1	須恵器・捏鉢	12C~13C			東播系	F-73
-26	125-2	須恵器・捏鉢	12C~13C			東播系	F-69
-28	126-4	白磁・皿	12C			Ⅶ類	F-122
-29	126-5	白磁・碗	12C			Ⅴ類	F-102
-30	126-3	白磁・碗	12C	Ⅳ類	F-103		
-31	126-6	白磁・碗	12C	Ⅳ類	F-101		
-32	125-15	瓦器・小皿	12C~13C	3 F区-4層		F-88	
-33	125-12	瓦器・椀	13C末		F-90		
-34	125-14	瓦器・椀	12C末		F-99		
-35	125-5	土師器・皿	13C前半		F-96		
-36	125-7	土師器・皿	13C前半		F-94		
-37	125-6	土師器・皿	11C後半		F-97		
-38	125-8	土師器・皿	13C		F-98		
-39	125-9	土師器・皿	11C後半		F-95		
-40	125-10	土師器・皿	11C末~12C前半		F-91		
-41	125-11	土師器・皿	12C		F-93		
-42	125-18	黒色土器・椀	10C後半		A類	F-92	
-43	125-16	瓦器・椀	12C前半		F-100		
-44	125-17	瓦器・椀	13C前半		F-89		
-45	125-13	瓦器・椀	12C前半		3 F区-4面	F-14	
-46	126-1	須恵器・捏鉢	12C末~13C初		3 F区-4層	東播系	F-106
-47	126-2	須恵器・捏鉢	12C末~13C初	東播系		F-105	
-48	125-19	土師質土器・羽釜	11C	F-104			
-49	125-20	瓦質土器・足釜	12C~13C	F-107			
-51	126-10	土師器・皿	12C前半	3 F区-4面(鋤溝)		F-109	
-52	126-9	土師器・皿	12C~13C		F-110		
-53	126-8	瓦器・椀	12C末~13C初		F-111		
-54	126-7	瓦器・椀	12C前半		楠葉型	F-108	
130-1	126-12	土師器・皿	11C末	3 F区-5層		F-115	
-2	126-17	瓦器・椀	11C末		F-114		
-3	126-13	黒色土器・椀	11C		B類	F-112	
-4	126-15	黒色土器・椀	11C		B類	F-113	
-5	126-11	須恵器・甕	6C中葉	3 F区-5面	へラ記号(?)	F-120	
-6	133-7	須恵器・横瓶	6C末~7C初		へラ記号(>)	F-119	
-7	133-4	須恵器・甕	6C後半		F-121		
-9	126-16	須恵器・鉢	9C後半	3 F区-5層		F-117	
-10	133-1	須恵器・甕	6C末~7C初		F-118		
-11	126-14	土師器・甕	古墳後期		F-116		
-12	133-8	須恵器・坏身	6C後半	3 F区-6層		F-18	
-13	133-9	須恵器・坏身	6C中葉		F-17		
-14	133-10	土師器・甕把手	古墳中期~後期		F-16		
-15	133-2	須恵器・甕	6C後半	3 F区-6面		F-15	
-16	133-3	須恵器・甕	6C後半	3 F区-6層	土器内に穿孔部入る	F-19	
-17	133-11	土師器・羽釜	古墳中期~後期	3 F区-6面		F-152	
-18	127-4	須恵器・甕	6C後半	3 F区-7層		F-21	
-19	127-3	須恵器・提瓶	6C前半		F-22		
-20	127-5	須恵器・坏身	6C前半	3 F区-7面		F-20	
-21	127-6	土師器・甕	古墳前期(布留)		近江系	F-123	
-22	127-2	土師器・甕	古墳前期(布留)			F-23	
-23	127-1	土師器・甕把手	古墳中期~後期	3 F区-7層	内・外面ハケ目	F-24	
-24	127-7	須恵器・坏身	6C前半	3 F区-8層		F-86	
-25	133-5	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)~中期中			F-83	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.
130-26	127-9	土師器・甕	古墳前期(庄内)	3 F区-8層		F-82
-27	127-8	土師器・甕	古墳後期			F-81
-28	127-10	土師器・高坏	古墳前期(布留)			F-84
-29	133-6	土師器・高坏	古墳前期(布留)			F-85
-30	129-1	土師器・鉢	古墳中期		内面に朱	F-143
-31	129-3	土師器・鉢	古墳中期			F-138
-32	129-2	土師器・鉢	古墳中期			F-137
-33	129-5	土師器・鉢	古墳中期			F-135
-34	128-12	土師器・鉢	古墳中期		底部に木葉痕	F-136
131-1	129-10	土師器・高坏	古墳前期(布留)~中期			F-1
-2	128-8	土師器・高坏	古墳前期(布留)~中期		F-131	
-3	128-4	土師器・高坏	古墳中期	脚部から坏部へ孔貫通	F-134	
-4	128-9	土師器・高坏	古墳中期		F-133	
-5	128-10	土師器・高坏	古墳中期	手づくね	F-130	
-6	128-6	土師器・高坏	古墳中期	手づくね	F-129	
-7	128-7	土師器・広口壺	古墳前期(布留)~中期中		F-2	
-8	128-5	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)~中期中		F-145	
-9	129-6	土師器・甕	古墳前期(布留)~中期中		F-148	
-10	129-7	土師器・甕	古墳前期(布留)~中期中		F-146	
-11	129-4	土師器・甕	古墳中期		F-144	
-12	128-11	弥生・壺	弥生中期		F-139	
-13	128-13	土師器・甕	古墳中期~後期		F-147	
-14	128-2	土師器・甕	古墳中期~後期		F-149	
-15	129-8	土師器・羽釜	古墳中期~後期		F-141	
-16	128-1	土師器・羽釜	古墳中期~後期		F-142	
-17	128-17	土師器・甕	古墳中期~後期		F-140	
-18	129-9	土師器・甕把手	古墳中期~後期		F-124	
-19	128-15	土師器・鉢	古墳中期		F-150	
-20	128-3	土師器・鉢	古墳中期	外面に炭化物付着	F-151	
-21	128-14	土師質・竈	古墳中期~後期		F-126	
-22	128-16	土師質・竈	古墳中期~後期		F-127	
-23	128-18	土師質・竈	古墳中期~後期		F-128	
132-1	130-4	須恵器・坏蓋	6 C前半		F-49	
-2	130-9	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-50	
-3	132-11	須恵器・坏蓋	6 C	へラ記号(-)	F-53	
-4	130-5	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-39	
-5	130-3	須恵器・坏蓋	6 C中葉		F-38	
-6	132-12	須恵器・坏蓋	6 C	へラ記号(-)	F-54	
-7	130-2	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-48	
-8	130-6	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-47	
-9	132-13	須恵器・坏蓋	6 C	へラ記号(-)	F-55	
-10	130-1	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-36	
-11	130-7	須恵器・坏蓋	6 C後半		F-37	
-12	130-8	須恵器・高坏蓋	6 C後半		F-46	
-13	130-19	須恵器・坏身	6 C前半		F-34	
-14	130-17	須恵器・坏身	6 C後半	へラ記号(IIII)	F-52	
-15	130-15	須恵器・坏身	6 C中葉		F-35	
-16	130-18	須恵器・坏身	6 C中葉	へラ記号(II)	F-51	
-17	130-20	須恵器・坏身	6 C中葉		F-29	
-18	130-10	須恵器・坏身	6 C後半		F-28	
-19	130-14	須恵器・坏身	6 C後半		F-31	
-20	130-16	須恵器・坏身	6 C後半		F-155	
-21	130-13	須恵器・坏身	6 C後半		F-33	
-22	130-11	須恵器・坏身	6 C後半		F-30	
-23	130-12	須恵器・坏身	6 C後半		F-32	
-24	131-7	須恵器・甕	6 C後半		F-26	
-25	131-6	須恵器・甕	6 C後半		F-27	
-26	131-4	須恵器・高坏	6 C後半	スカシ3方	F-42	
-27	131-3	須恵器・高坏	6 C後半	スカシ2方	F-43	
-28	131-8	須恵器・擂鉢	6 C		F-44	
-29	132-9	須恵器・甕	6 C後半		F-60	
-30	131-9	須恵器・甕	6 C後半		F-3	
-31	132-5	須恵器・甕	6 C後半		F-58	

挿図No.	図版No.	器 種	時 期	出土遺構・層位	備 考	実測No.	
132-32	132-2	須恵器・甕	6 C後半			F-56	
-33	131-11	須恵器・横瓶	6 C後半			F-4	
133-1	132-1	須恵器・横瓶	6 C後半			F-77	
-2	132-10	須恵器・甕	5 C末~6 C初			F-78	
-3	132-3	須恵器・甕	6 C後半			ヘラ記号	F-76
-4	132-4	須恵器・甕	5 C末~6 C初			F-79	
-5	132-7	須恵器・甕	6 C後半			F-80	
-6	131-10	須恵器・甕	6 C後半			F-153	
-7	132-6	須恵器・摺鉢	6 C後半			F-41	
-8	131-1	須恵器・壺	6 C後半			F-25	
-9	131-5	須恵器・提瓶	6 C後半			F-57	
-10	132-8	須恵器・提瓶	6 C前半			F-59	
-11	131-2	須恵器・提瓶	6 C後半			F-40	

3 G区

(伊藤)

139-1	134-1	瓦質土器・鍋	14C~15C	3 G区-1層		G-3	
-2	134-2	白磁・八角坏	15C			G-2	
-3	134-5	土師器・皿	13C			G-6	
-4	134-4	瓦器・小皿	12C~13C	3 G区-2層		G-7	
-5	134-6	唐津・皿	17C前半			砂目	G-9
-6	134-10	備前・摺鉢	15C			G-5	
-7	134-7	白磁・碗	12C			IV類	G-8
-8	134-8	須恵器・捏鉢	12C末~13C初			東播系	G-4
-9	134-9	須恵器・捏鉢	12C末~13C初			東播系	G-10
-10	135-1	須恵器・壺	9 C後半~10C			G-26	
-11	135-3	須恵器・壺	9 C後半~10C			G-24	
-12	135-4	瓦質土器・羽釜	14C~15C			G-11	
-13	135-6	須恵器?・甕	13C前~中			東播系、焼成は瓦質 楠葉型	G-23
-15	135-11	瓦器・碗	12C前半	G-15			
-16	135-7	瓦器・碗	12C	G-25			
-17	135-5	土師器・皿	13C	G-12			
-18	135-10	土師器・皿	13C	G-19			
-19	135-8	土師器・皿	13C	G-16			
-20	135-9	土師器・皿	11C末	G-14			
-21	134-12	白磁・皿	11C後半~12C前半	V類	G-20		
-22	134-13	青磁・碗	12C後半	龍泉窯系蓮華劃花紋	G-13		
-23	134-11	白磁・碗	12C	IV類	G-22		
-24	134-14	灰釉陶器・碗	9 C	内面のみ施釉	G-21		
-25	135-2	須恵器・捏鉢	12C末~13C初	東播系	G-17		
-26	135-13	土師器・皿	12C~13C	3 G区-4層		G-28	
-27	135-12	白磁・碗	12C			IV類、見込みの段なし	G-29
-28	135-14	土師器・高坏	古墳前期(庄内)	3 G区-5層		G-30	
-29	136-1	須恵器・坏蓋	6 C後半	3 G区-6層		G-33	
-30	136-2	須恵器・坏身	6 C後半			G-34	
-31	136-3	土師器・直口壺	古墳前期(布留)	3 G区-6面		G-40	
-32	136-5	土師器・鉢	古墳中期	3 G区-6層		G-36	
-33	136-4	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内~布留)	3 G区-6層		G-37	
-34	136-6	土師器・鉢?	古墳前期(布留)?			G-39	
-35	136-7	土師器・高坏	古墳前期(布留)~中期初頭			G-35	
-36	136-8	土師器・高坏	古墳中期~後期			G-38	
-37	137-2	土師器・甕	古墳前期(布留)			外面ケズリ	G-42
-38	136-9	土師器・甕	古墳前期(布留)			G-43	
-39	136-10	土師器・甕	古墳前期(布留)			G-50	
-40	137-4	土師器・鉢	古墳前期(庄内)	G-46			
-41	137-5	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)	3 G区-7層		G-49	
-42	137-3	土師器・高坏	古墳前期(布留)			G-47	
-43	136-11	土師器・壺	古墳前期(庄内)			G-48	
-44	136-12	土師器・二重口緑壺?	古墳前期(布留)			G-45	
-45	137-1	土師器・二重口緑壺	古墳前期(布留)~中期			G-51	
-46	134-3	古瀬戸・四耳壺	13C~14C			3 G区-長方形土坑	G-1

4次調査

(伊藤)

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.	
149-1	141-3	須恵器・坏身	6C前半	4次-1面		4次-18	
-2	140-3	須恵器・坏身	6C後半				4次-1
-3	140-1	須恵器・坏身	6C後半	4次-2層	149-2と同一個体	4次-12	
-4	140-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)		外面ナデ調整	4次-17	
-5	140-4	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)			4次-22	
-6	141-2	土師器・壺	古墳前期(庄内)			4次-13	
-7	141-8	土師器・広口壺	古墳前期(庄内)			4次-25	
-8	140-12	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)			4次-5	
-9	140-11	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)		口縁部内面漆黒色	4次-6	
-10	140-18	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-43	
-11	140-13	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-15	
-12	140-19	土師器・甕	古墳前期(庄内)		タタキを一部ナデ消す	4次-28	
-13	140-20	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-27	
-14	140-15	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-19	
-15	140-9	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-16	
-16	140-10	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-7	
-17	140-8	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-88	
-18	141-5	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)			4次-26	
-19	141-1	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-14	
-20	141-4	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			4次-4	
-21	141-11	土師器・鉢	古墳前期(庄内)		手づくね	4次-11	
-22	140-2	土師器・鉢	古墳前期(庄内)		手づくね	4次-20	
-23	140-16	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-8	
-24	141-6	土師器・高坏	古墳前期(庄内)		内・外面に朱	4次-9	
-25	141-10	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)			4次-10	
-26	141-7	土師器・高坏	古墳前期(布留)			4次-2	
-27	141-9	土師器・高坏	古墳前期(布留)			4次-3	
-28	140-5	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-24	
-29	140-6	弥生土器・甕	弥生中期後半		4次-4層		4次-31
-30	140-17	土師器・甕	古墳前期(庄内)		4次-3層	外面タタキ後ナデ	4次-30
-31	140-14	土師器・広口壺	古墳前期(庄内)				4次-29
150-1	141-16	須恵器・坏身	6C後半	4次-溝1		4次-32	
-2	141-12	土師器・高坏	古墳前期(布留)	4次-溝2		4次-33	
-3	141-13	土師器・高坏	古墳前期(庄内)	4次-溝7	外面ナデ	4次-39	
-4	141-19	土師器・甕	古墳前期(庄内)				4次-36
-5	141-15	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			4次-38	
-6	141-21	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-37	
-7	141-22	弥生土器・壺	弥生中期後半			4次-35	
-8	141-18	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-34	
-9	141-14	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-41	
-10	141-17	土師器・鉢	古墳前期(庄内)	4次-溝10		4次-42	
-11	142-10	土師器・甕	古墳前期(庄内)	4次-落ち込み1		4次-69	
-12	142-5	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-59	
-13	142-2	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-48	
-14	142-3	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-68	
-15	142-9	土師器・甕	古墳前期(庄内~布留)		内外面ハケ目	4次-71	
-16	142-8	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-63	
-17	142-11	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-44	
-18	142-4	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-64	
-19	142-6	土師器・甕	古墳前期(庄内)			4次-65	
-20	141-20	土師器・甕	古墳前期(庄内)		外面タタキ後ナデ	4次-57	
-21	142-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)		4次-72		
-22	142-1	土師器・甕	古墳前期(庄内)		4次-47		
-23	142-12	土師器・甕	古墳前期(庄内)		4次-61		
151-1	143-3	土師器・高坏	古墳前期(庄内)	4次-落ち込み1		4次-55	
-2	144-9	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-54	
-3	144-7	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-46	
-4	143-2	土師器・高坏	古墳前期(庄内)			4次-45	
-5	144-2	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-62	
-6	143-12	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			4次-49	
-7	144-6	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			4次-53	
-8	143-16	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)			4次-60	

挿図No.	図版No.	器種	時期	出土遺構・層位	備考	実測No.		
151-9	143-17	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)	4次-落ち込み2	底部に木葉痕	4次-51		
-10	143-11	土師器・鉢	古墳前期(庄内)				4次-50	
-11	143-10	土師器・小型鉢	古墳前期(庄内)				4次-56	
-12	143-6	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)				4次-52	
-13	144-5	土師器・高坏	古墳前期(庄内)				4次-58	
-14	143-5	土師器・高坏	古墳前期(布留)				4次-75	
-15	144-8	土師器・高坏	古墳前期(庄内)				4次-73	
-16	143-9	土師器・甕	古墳前期(庄内)			底面に木葉痕	4次-74	
-17	144-1	土師器・鉢	古墳前期(庄内)			底部横に小円孔	4次-82	
-18	144-4	土師器・壺	古墳前期(庄内)		4次-落ち込み3		4次-84	
-19	143-4	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)					4次-83
-20	143-13	土師器・壺	古墳前期(庄内)					4次-85
-21	144-3	土師器・甕	古墳前期(庄内)				外面タタキ後ナデ	4次-78
-22	143-8	土師器・甕	古墳中期~後期					4次-76
-23	143-7	土師器・甕	古墳前期(庄内)					4次-86
-24	143-1	土師器・高坏	古墳前期(庄内)					4次-87
-25	143-15	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)					4次-77
-26	143-14	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)				4次-81	

立会調査

(伊藤)

152-1	145-11	土師器・直口壺	古墳前期(布留)	立会調査		立-13	
-2	145-12	土師器・二重口縁壺	古墳中期				立-8
-3	145-1	土師器・二重口縁壺	古墳前期(庄内)				立-12
-4	145-2	土師器・広口壺	古墳前期(庄内)				立-11
-5	145-8	土師器・直口壺	古墳前期(庄内)				立-7
-6	145-4	土師器・甕	古墳前期(布留)				立-5
-7	145-9	土師器・甕	古墳前期(庄内)				立-10
-8	145-6	土師器・有孔鉢	古墳前期(庄内)				立-3
-9	145-13	土師器・高坏	古墳後期				立-2
-10	145-14	土師器・高坏	古墳前期(庄内)				立-1
-11	145-5	土師器・小型丸底壺	古墳前期(布留)				立-14
-12	145-15	土師器・小型器台	古墳前期(庄内)				立-6
-13	145-16	弥生・台付無頸壺	弥生中期末~後期初			生駒西麓、外面に朱紋	立-16
-14	145-3	弥生土器・壺	弥生中期末			胎土:生駒西麓	立-9
-15	145-7	弥生土器・壺	弥生後期前半			胎土:生駒西麓	立-15
-16	145-10	弥生土器・甕	弥生中期末~後期初				立-4

第5表 製塩土器一覽表

地区	層位・遺構	形態	時代	器高×口径 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	登録No.	備考	
3 F	溝10	B		(3.6) × 4.0	130-37	129-13	F-塩2	F-128		
		A		(6.5) × 4.3	130-36	129-12	F-塩1	F-154		
3 D	3層	B	古墳中期後葉 後期	小破片				D-194		
		B		小破片						
		B		小破片						
		B		(6.0) × 3.9	109-1	112-25	D-塩8		D-199	
	3面	B		小破片					D-483	
		B		小破片					D-615	
	3-2層	B		小破片					D-614	
		B		小破片					D-656	
		A		小破片					D-629	
		B		小破片					D-624	
	3-2層 4-1層	C		小破片					D-648	
		B		小破片					D-621	
		B		小破片					D-764	
		B		(2.2) × 3.5	109-2	112-18	D-塩11	D-648		
	4-1面	B		小破片					D-780	
		A		(3.5) × (4.5)	109-4	113-3	D-塩12	D-780		
		C		小破片					D-931	
		C		小破片					D-1077	
	4-2層	B		(5.5) × 4.1	109-5	112-27	D-塩13	D-931		
		B		小破片					D-1077	
		B		小破片					D-1077	
		B		(5.1) × 4.4	109-7	112-28	D-塩14	D-1077	内面に当具痕	
		C		(3.1) × 9.9	109-6	113-5	D-塩15	D-1077		
		B		小破片					D-1077	
	4-2面	B		小破片					D-1296	
		A		(3.1) × 3.0	109-8	112-16	D-塩4	D-1296		
		A		小破片					D-1300	
		A		小破片					D-1300	
	穴686(建物10)	B		8.1 × 3.9	109-9	112-6	D-塩21	D-1545	底部	
		不明		小破片					D-1545	
	穴494(建物13)	A		小破片					D-1660	
		A		小破片					D-1660	
	穴21	B		小破片					D-356	体部 体部 体部
		B		小破片						
		B		小破片						
		B		小破片						
不明		小破片								
不明		小破片								
不明		小破片								
穴25	B	小破片					D-360			
	B	小破片					D-360			
穴75	B	小破片					D-679			
穴85	B	小破片					D-682			
穴122	B	小破片					D-701			
	B	小破片								
	B	小破片								
穴151	B	小破片					D-715			
穴200	A	小破片					D-891			
穴201	不明	小破片					D-870	体部 体部		
	不明	小破片								
穴291	C	(2.5) × 8.7	109-11	112-17	D-塩3	D-953				
	B	小破片								
穴299	A	(4.1) × (6.1)	109-13	113-2	D-塩18	D-1571				
穴300	不明	小破片					D-1560	体部		

地区	層位・遺構	形態	時代	器高×口径 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	登録No.	備考
3 D	穴305	B	古墳中期後葉 後期	小破片				D-1000	
		B		小破片					
	穴308	B		小破片				D-1496	
	穴327	A		小破片				D-996	
	穴335	A		小破片				D-974	
	穴362	A		6.5×4.2	109-29	112-8	D-塩22	D-1399	
		A		6.1×3.9	109-38	112-1	D-塩23		
		A		6.2×3.7	109-34	112-3	D-塩24		
		A		6.7×3.9	109-32	112-4	D-塩25		
		A		6.4×4.2	109-33	112-7	D-塩26		
		A		6.8×4.8	109-36	112-2	D-塩27		
		A		6.4×3.4	109-30	112-12	D-塩28		
		B		7.4×4.1	109-35	112-9	D-塩29		
		C		5.0×7.1	109-41	112-11	D-塩30		
		A		6.8×(5.0)	109-28	112-5	D-塩31		
		B		(7.2)×3.7	109-27	112-10	D-塩32		
		A		(6.0)×(5.2)	109-37	112-13	D-塩33		
		A		(6.7)×3.9	109-31	113-9	D-塩34		
		A		(5.3)×3.6	109-26	113-11	D-塩35		
		B		(4.4)×6.0	109-40	113-12	D-塩36		
		B		(7.2)×4.0	109-39	113-10	D-塩37		
	A	(4.0)×3.4		109-25	113-7	D-塩38			
	B	(6.7)×4.6		109-24	113-8	D-塩39			
	穴386	B		小破片				D-1528	
	穴599	B		小破片				D-1387	
	穴625	B		(3.2)×3.1	109-18	112-24	D-塩16	D-1413	
		B		小破片					
	穴704	A		小破片				D-1610	
	穴746	B		(2.8)×3.1	109-15	112-14	D-塩19	D-1639	
	穴748	C		(3.9)×8.1	109-17	113-4	D-塩17	D-1466	
	穴784	B		(3.4)×3.4	109-16	112-22	D-塩7	D-1470	
	穴897	B		(7.5)×3.5	109-14	112-29	D-塩20	D-1747	
	穴963	B		(4.2)×(4.5)	109-12	112-20	D-塩2	D-1820	
	土坑51	A		(4.0)×(5.2)	109-19	113-1	D-塩6	D-1986	
	溝19	B		小破片				D-302	
	溝24	B		小破片				D-307	
		B		小破片					
		不明		小破片					
	溝28	不明		小破片				D-311	体部 体部
	溝30	B		(3.4)×(4.1)	109-20	112-21	D-塩9	D-324	
		B		(3.6)×4.1	109-21	112-23	D-塩40		
	溝45	B		小破片				D-338	
溝48	B	小破片				D-431			
溝104	B	小破片				D-476			
溝116	A	小破片				D-1472			
	B	小破片							
	B	小破片							
	B	小破片							
	B	小破片							
	B	小破片							
	C	小破片							
河川2上層	B	(2.3)×4.2	109-22	112-15	D-塩5	D-1739			
	不明	小破片							
	不明	小破片					D-1254	体部	
	B	小破片					D-1255	体部	
河川2下層	C	5×11.3	109-23	113-6	D-塩1	D-2058			
	C	小破片							
	A	小破片							
	B	小破片				D-2058			
	B	小破片							
	B	小破片							
	B	小破片							

地区	層位・遺構	形態	時代	器高×口径 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	登録No.	備考
3 D	河川2下層	B	古墳中期後葉	小破片				D-2058	
		不明		小破片				D-2058	底部
		A	後期	小破片				D-2061	
		A		小破片				D-2000	

形態
A :



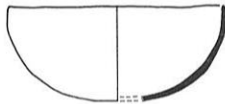
器壁は薄く、丸底でコップ形を呈する。外面にタタキ目を残す。

B :



器壁は薄く、丸底でコップ形を呈する。外面はナデ調整で仕上げる。

C :



器壁は薄く、丸底で碗形を呈する。外面はナデ調整で仕上げる。

第6表 木製品一覧表

地区	品目	時代	樹種	層位・遺構	長×幅×厚 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	備考
3 B	木棺底板	弥生中期後半	高野槇	7面	193.0×53.0×8.0	20	5-4		
3 C	大脚横枠	古墳前期	檜	10層	17.2×3.2×2.0	37-1	138-1	C-木1	
3 D	砧	古墳中期～後期	不明	河川2下層	長21.7×径6.0	114-3	138-5	D-木2	
	榿	古墳中期～後期	高野槇		37.2×8.0×3.5	114-2	138-8	D-木3	
	大脚横枠	古墳中期～後期	杉	5層	33.2×13.2×2.7	114-1	139-1	D-木1	
3 E	板状不明	古墳前期～後期	杉	6層	13.8×3.1×0.7	121-1	138-7	E-木1	
	平鍬	古墳前期～後期	檜		18.8×4.2×0.7	121-2	138-6	E-木2	
	大脚の歯	古墳前期～後期	杉		17.0×6.0×2.2	121-3	138-3	E-木3	
	棒状不明	古墳前期～後期	アカガシ亜属	6面	93.0×3.5×1.6	121-4	138-10	E-木5	図・写真の一部
	アカカキ	古墳前期～後期	杉	6層	25.1×9.8×3.0	121-5	139-2	E-木4	
	板状不明	古墳前期～後期	アカガシ亜属	6面	36.8×6.0×0.6	121-6	138-11	E-木6	
	棟当	古墳前期～後期	檜		133.3×29.5×6.0	120-1	139-3	E-木7	
	梯子	古墳前期～後期	杉		205.0×15.5×6.5	120-2	139-4	E-木8	
3 F	大脚横棧	古墳前期	檜	8層	38.5×2.5×1.4	128-1	138-9	F-木1	
3 G	大脚横枠	古墳前期	檜	7層	19.9×4.8×1.8	141-1	138-2	G-木1	
	鍬?	弥生中期後半	不明		17.6×4.3×0.8	141-2	138-4	G-木2	

樹種の鑑定は当センター山口誠治による

第7表 石・石製品一覧表

地区	品目	時代	石材	層位・遺構	長×幅×厚 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	備考
3 B	叩き石	古墳時代?中世?	凝灰質砂岩	4層	5.8×5.6×1.7	23-3	47-8	B-石2	混入カ
	砥石	古墳時代前期	凝灰岩泥岩	落ち込み1	4.7×1.7×0.9	23-4	47-6	B-石5	
	石杵		砂岩	溝1下層	6.9×6.0×5.2	23-5	47-5	B-石3	
	不明石製品		脈石英	溝1	5.0×2.6×1.7	23-6	47-9	B-石4	
	不明石製品		チャート	溝1下層	1.8×1.4×0.8	23-7	47-7	B-石7	
	砥石		凝灰岩	溝1下層	4.7×3.7×3.8	23-8	47-4	B-石6	
	台石		玢岩	溝1下層	16.0×8.4×10.4	23-9	47-3	B-石1	
3 D	剣形模造品	古墳中期～後期	滑石	3-2層	(3.6)×1.6×0.4	111-1	116-1	D-石11	
	剣形模造品		滑石	溝48	(2.6)×1.3×0.5	111-2	116-2	D-石25	
	勾玉形模造品		滑石	穴320	3.6×1.9×0.7	111-3	116-3	D-石22	
	勾玉形模造品		滑石	穴165	2.9×1.4×0.4	111-4	116-4	D-石19	
	勾玉形模造品		滑石	穴680	(2.3)×1.9×0.4	111-5	116-5	D-石23	
	勾玉形模造品		滑石	穴215	(1.2)×1.2×0.3	111-6	116-6	D-石20	
	有孔円板		滑石	4-1面	3.0×3.3×0.3	111-7	116-7	D-石14	
	有孔円板		滑石	3層	2.8×2.6×0.3	111-8	116-8	D-石3	
	有孔円板		滑石	土坑64	2.8×2.6×0.4	111-9	116-9	D-石26	
	有孔円板		滑石	3層	(2.3)×(0.9)×0.3	111-10	116-10	D-石1	
	有孔円板		滑石	3層	(2.2)×(2.6)×0.2	111-11	116-11	D-石7	
	白玉		滑石	河川2下層	0.3×径0.5	111-12	116-14	D-石37	
	白玉		滑石	河川2中層	0.3×径0.5	111-13	116-15	D-石27	
	白玉		滑石	4-2面	0.3×径0.5	111-14	116-16	D-石18	
	白玉		滑石	河川2中層	0.4×径0.5	111-15	116-17	D-石30	
	白玉		滑石	河川2中層	0.3×径0.4	111-16	116-18	D-石31	
	白玉		滑石	河川2中層	0.2×径0.4	111-17	116-19	D-石33	
	管玉		滑石	3層	2.3×径0.8	111-18	116-12	D-石5	
	管玉		滑石	河川2中層	2.5×径0.4	111-19	116-13	D-石32	
	有孔円板未製品カ		滑石	河川2中層	4.4×2.1×0.5	111-20	117-1	D-石29	
	有孔円板未製品カ		滑石	3-2層	5.2×3.2×1.2	111-21	117-3	D-石13	
	有孔円板未製品カ		滑石	3-2層	3.3×4.6×2.0	111-22	117-2	D-石12	
	有孔円板未製品カ		滑石	4-2面	3.4×2.8×1.2	111-23	117-4	D-石16	
	砥石		凝灰岩	3層	7.5×5.1×3.9	112-1	118-6	D-石6	
	砥石		泥岩	穴288	8.2×1.9×1.7	112-2	118-12	D-石21	
	砥石		粗流砂岩	河川2中層	5.0×6.0×3.7	112-3	118-11	D-石28	
	砥石		粗流砂岩	3層	3.3×5.3×2.7	112-4	118-9	D-石9	
	砥石		粗流砂岩	3層	3.1×(2.7)×2.6	112-5	118-8	D-石10	
	砥石		細粒凝灰質砂岩	4-2層	8.1×6.2×3.1	112-6	118-7	D-石17	
	砥石		細粒凝灰質砂岩	3層	3.5×2.8×2.1	112-7	118-10	D-石38	
	砥石		凝灰質泥岩	4-2層	23.1×5.5×6.0	112-8	118-5	D-石15	
	台石		玢岩	河川2中層	15.4×25.9×8.8	112-9	118-1	D-石34	
	凹み石		砂岩	穴786	17.1×14.0×3.1	113-1	118-2	D-石24	上面に黒色顔料
	叩き石		砂岩	河川2下層	11.7×10.3×3.9	113-2	118-3	D-石35	
	叩き石	砂岩	3層	5.1×3.4×2.0	113-3	118-4	D-石2		
	剥片	サヌカイト(金山)	3層	9.8×6.6×3.0	113-4	117-6	D-石4	二次加工あり	
	剥片	サヌカイト(金山)	河川2下層	8.6×4.9×1.5	113-5	117-5	D-石36	二次加工あり	
	搬入礫	石英絹雲母片岩	4-2面	15.8×10.9×4.7	-	119-1	D-石39		
	搬入礫	石英絹雲母片岩	4-2面	15.3×8.2×3.1	-	119-2	D-石40		
	搬入礫	蛇紋岩帯の石	河川2下層	6.8×8.5×3.2	-	119-3	D-石49	滑石の素材	
搬入礫	石英絹雲母片岩	3-2層~4-1層	4.4×6.8×2.8	-	119-4	D-石43			
搬入礫	紅廉石絹雲母片岩	3層	10.0×4.4×1.6	-	119-5	D-石41			
搬入礫	石英絹雲母片岩	3-2層~4-1層	6.1×4.0×1.0	-	119-6	D-石44			
搬入礫	紅廉石絹雲母片岩	河川2下層	5.2×2.2×0.9	-	119-7	D-石48			
搬入礫	石英絹雲母片岩	4-2層	1.6×3.8×1.2	-	119-8	D-石46			
搬入礫	絹雲母片岩	河川2下層	5.3×4.0×1.0	-	119-9	D-石47			
搬入礫	砂岩?砂岩凝灰岩?	3面	7.2×4.3×3.1	-	119-10	D-石42			
搬入礫	結晶片岩	3-2層	9.9×4.2×2.3	-	119-11	D-石45			
3 F	砥石	古墳中期～後期	砂岩	溝10	7.5×5.5×2.8	130-35	129-11	F-石1	
3 G	砥石	古墳時代?中世?	凝灰岩安山岩	2層	2.8×3.8×0.9	140-3	137-8	G-石1	混入カ
	浮き	古墳前期	軽石	7層	6.5×7.3×5.0	140-2	137-6	G-石3	
4次	石包丁	弥生時代中期	細粒角閃岩	9層	7.3×4.2×1.0	140-1	137-7	G-石2	
	砥石	古墳前期	砂岩	溝6	23.9×11.3×5.0	147-1	144-10	4次-石1	
砥石	泥岩		2層	8.7×9.2×1.7	147-2	144-11	4次-石2		

石材の鑑定は京都教育大学井本伸廣先生による

第8表 土製品・瓦一覧表

地区	品目	時代	層位・遺構	長さ×幅×厚さ (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	備考
3 B	土錘	古墳中期 後期	6層	(4.6) × 1.8	23-1	38-11	B-土1	
	土玉		7層(1)	2.6 × (2.5)	23-2	38-12	B-土2	
	不明		河川2中層	-	79-1	63-13	D-土20	
不明	炭集中部		-	90-25	84-24	D-土21		
不明	河川2中層		9.5 × 11.5 × 2.8	110-1	115-1	D-土19		
不明	河川2中層		-	110-2	114-1	D-土17		
不明	河川2中層		-	110-3	114-2	D-土18		
不明	炭集中部		高4.6 × 径11.7	110-4	114-3	D-土16		
土錘	3-2~4-1層		6.4 × 径2.0	110-5	115-8	D-土10		
土錘	土坑64		7.5 × 径2.1	110-6	115-10	D-土15		
土錘	3層		(3.5) × 径1.5	110-7	115-3	D-土4		
土錘	穴474		(4.0) × 径1.3	110-8	115-7	D-土14		
土錘	3-2~4-1層		(3.0) × 径1.2	110-9	115-2	D-土11		
土錘	3層		(4.8) × 径1.8	110-10	115-6	D-土8		
土錘	3層		7.0 × 径2.2	110-11	115-9	D-土6		
土錘	3層		7.0 × 径1.4	110-12	115-11	D-土7		
土錘	4-1面		(5.4) × 径1.0	110-13	115-12	D-土13		
土錘	3面		5.1 × 径1.4	110-14	115-13	D-土9		
土錘	3層		(4.2) × 径1.4	110-15	115-14	D-土5		
土錘	4-1面		(2.4) × 径1.2	110-16	115-15	D-土12		
土玉	1面	1.6 × 径2.1	110-17	115-4	D-土1			
土玉	穴49	2.0 × 径2.1	110-18	115-5	D-土2			
3 F	土錘		5層	(3.3) × 径1.4	130-8	133-16	F-土1	

瓦

地区	品目	時代	層位・遺構	挿図 No.	図版 No.	実測 No.	備考
3 C	平瓦	平安時代末	3層	38-36	49-6	C-26	
3 F	軒丸瓦	平安時代末	3層	129-13	124-20	F-67	上宮遺構出土の瓦と同範
3 G	軒丸瓦	平安時代末	3層	139-14	134-15	G-18	上宮遺構出土の瓦と同範

第9表 金属製品・銭一覧表

地区	品目	時代	材質	層位・遺構	長×幅×厚 (cm)	挿図No.	図版No.	実測No.	備考
3 B	馬鍬	中世	鉄	4面	長19.8	24-39	38-9	B-金1	
	馬鍬	中世	鉄		長21.1	24-40	38-10	B-金2	
3 C	鉄釘	中世	鉄	1面	4.8 × 0.7 × 0.6	38-7	51-10	C-金2	
	鉄釘	中世	鉄	4層	3.9 × 0.7 × 0.7	38-50	51-11	C-金1	
3 D	鉄釘	中世	鉄	3層	4.6 × 0.6 × 0.5	113-8	119-12	D-金1	
	不明	古墳後期	鉄	4-1面	3.4 × 2.8 × 0.2	113-7	119-13	D-金2	
3 F	鉄斧	古墳中期~後期	鉄	河川2中層	(9.0) × 5.7 × 2.3	113-6	119-14	D-金3	
	鉄管	中世	鉄	3層	(4.1) × 径0.7	129-10	133-13	F-金2	
	鉄釘	中世	鉄		(5.4) × 0.5 × 0.3	129-11	133-14	F-金1	
	鉄釘	中世	鉄	4層	(3.7) × 1.1 × 0.9	129-50	133-15	F-金3	
3 G	耳環	古墳時代前期	銅	7層	2.4 × 2.8 × 0.5	140-4	137-9	G-金1	

銭

地区	銭貨名	初鑄年	層位・遺構	直径 (cm)	挿図 No.	図版 No.	実測 No.
3 B	元豊通寶	1078年	東方落ち込み1層	-	24-16	38-13	B-銭1
3 D	朝鮮通寶	1423年	1面	2.3	113-9	119-15	D-銭1
3 F	朝鮮通寶	1423年	3層	2.45	129-27	133-12	F-銭1